

平成 24 年度 外部評価

自己評価書

サレジオ工業高等専門学校

I 対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

- (1) 対象校名 サレジオ工業高等専門学校
 (2) 所在地 東京都町田市小山ヶ丘 4-6-8
 (3) 学科等構成

準学士課程：デザイン学科、電気工学科
 機械電子工学科、情報工学科

専攻科課程：生産システム工学専攻

- (4) 学生数及び教員数 (単位：人)
 (平成 24 年 5 月 1 日現在)

① 学生数 総計 796 名

準学士課程

学 年	1	2	3	4	5	計
デザイン工学科	48	37	40	35	32	192
電気工学科	43	36	36	32	39	186
機械電子工学科*1	56	37	22	41	30	186
情報工学科	55	48	26	36	40	205
計	202	158	124	144	141	769

専攻科課程

学 年	1	2	計
生産システム工学専攻	14	13	27
計	14	13	27

② 教職員数 総計 74 名(高専専任)

	教授	授 准 教	講師	助教	小 計	勤 非 常
一般教育科	2	7	11	1	21	20
デザイン学科	2	2	3	0	7	8
電気工学科	2	3	1	1	7	2
機械電子工学科	4	2	1	2	9	2
情報工学科	3	3	1	1	8	4
本科小計	13	17	17	5	52	36
専攻科	2	0	0	0	2	0
専門(准)教授小計	13	10			23	
計	15	17	17	5	54	37
職員	高専職員		法人職員		非常勤職員	
	20		2		12	

2 特徴

(1) 沿革

本校は、ローマカトリック教会において青少年教育を目的として事業を始めた聖人ヨハネ・ボスコ（伊 1815-1889）によって創設されたサレジオ修道会が、全世界に展開している 1700 余校の 1 つとして、昭和 10 年同会チマッティ神父らによって東京育英工芸学校として設立された。以来幾多の変遷を経て、昭和 38 年に育英高等専門学校を開設し、印刷工学科、電気工学科、工業意匠工学科を設置した。昭和 42 年工業意匠工学科を工業デザイン学科と改称、昭和 50 年校名を育英工業高等専門学校と改称、印刷工学科をグラフィック工学科に、英語名を Ikuai Technical College から Salesian Polytechnic と改称した。平成 2 年電子工学科、情報工学科を新設し 5 学科各 1 学級体制とした。平成 7 年から 1, 2 年次の混成学級編成を開始した。平成 9 年グラフィック工学科を

ビジュアル情報工学科、工業デザイン学科をデザイン工学科に名称変更、平成 13 年専攻科生産システム工学専攻を開設した。平成 17 年校地を東京杉並から町田に移転、校名をサレジオ工業高等専門学校と改称した。平成 20 年電子工学科を機械電子工学科に、平成 21 年デザイン工学科をデザイン学科に名称変更した。

(2) 建学の精神

創立者ヨハネ・ボスコの精神に基づき、健全な青少年を育成するために、彼らが善き社会人となることを目標とする。それは技術を通して人類社会に貢献できる人間を育てることであり、社会の華やかな舞台だけではなく、聖書の言葉である「地の塩・世の光」に象徴される見えないところで大地を支える岩塩のように、あるいは周りを照らす灯台の光のように、社会を支え、人々を幸せにする技術者になることを勧める。全世界に姉妹校をもつ本校は平成 17 年サレジオ大学連合 IUS の工学部門に連なり、人類社会という世界に開かれた視野を持つ実践的技術者を育成する。また創立者の精神である、常に学生の目線で接する「アシステンツァ」という寄り添う教育を実践する

(3) 教育理念 (校是)

本校は、理念 (校是) を聖書から引用した。「神は愛なり」はヨハネ 4 章 7 節から神の人類に対する無限の愛を、「真理は道なり」はヨハネ 3 章 21 節から真理こそ神に至る道と述べられている。また日本人技術者の先達である丹羽保次郎 (1893-1975) が技術はそれに携わる人間によるという意味で「技術は人なり」と言われ、これはマタイ 22 章 39 節にも隣人をも自分のように愛することというキリスト教の教えに通じる。ゆえに我らは人類に幸福をもたらす技術を目指す。昭和 50 年に校是を定め、現在これを基に教育目的、教育目標、学科目的と目標を展開して養成すべき人材像を定めた。

(4) 特色ある教育

本校の理念から「神は愛なり」の実践として世界に開かれた視野をもつ人間を育てたいと考え、低学年の異文化交流、語学研修、高学年の海外研修旅行、欧州視察、海外ボランティア活動などを通じて学生に国際交流の機会を多く提供している。

「技術は人なり」の実践として特に倫理教育に力を入れ、1 年次に教える「倫理」、現代社会に必須の「情報倫理」、3 年次の「倫理」、5 年次の「技術者倫理」と 4 科目 6 単位を配している。また低学年の指導に配慮して混成学級編成やそれを担当するブレック制度など様々な局面で「モノづくり」の前提として「ヒトづくり」を心がけている。正規授業及び課外授業の中でより高度な問題解決型課題にチャレンジすることでチームによる開発作業や研究発表を経て机上の理屈だけではない実践的、専門的技術者を養成している。

「真理は道なり」の実践の一つとして新入生教育において「表現」という科目を設定し、内外の図書館やインターネット環境を活用しつつ、高度な専門教育を受ける前に勉強の基本能力である、「調べる」、「読む」、「書く」、「話す」のスキル向上を目指し、技術を支える基礎学力の向上に努めている。

Ⅱ 目的

本校では、高等専門学校の目的「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」を達成するために以下のような使命を掲げる。

1 教育理念（校是）

本校は、教育理念を校是として次のように展開している。

「神は愛なり」：カトリック・ミッションによるキリスト教の精神に基づく教育

「技術は人なり」：教養と専門を基盤とする総合的人格陶冶に基づく技術者教育

「真理は道なり」：理論と実践を両輪に創造性と探究心あふれる人間教育

2 教育目的（養成する人材像）

本校では以下の基本精神による人材養成を目指すために、学校の教育目的を下記のように定めた。

基本精神 キリスト教精神に基づく人間観を持った善き職業人を養成する

1. 専門性…深く専門の学芸を教授し高度の工業専門教育を行う
2. 国際性…国際社会で活躍できる有為な人材を養成する
3. 人間性…社会性豊かな、創造性に富んだ、チャレンジ精神溢れる個性に伸ばす

3 各課程の教育目標

3-1 準学士課程の教育目標

準学士課程にあつては実践的技術者となるために以下のような力を身につけることを目標とする。

- A 基礎力：専門分野を学ぶために必要な基礎的学力や技能
- B 実践力：提示された課題を正確に必要なかつ十分に実現する力
- C コミュニケーション力：物事を論理的に考え、それらを文章や言葉で表現する力
- D 人間性：健全な人格を育成し、社会性をもつ人柄となる力
- E 国際性：海外の人々と交流するために必要とする基本的な力

3-2 専攻科課程の教育目標

専攻科課程にあつては準学士課程で身に着けた実践的技術者としての基礎の上に、より深い専門基礎力と特別研究を通じての研究開発の体験を基に研究開発能力を有する技術者となるために以下の目標を達成する。

- A 基礎力：特別研究の遂行過程において常に基礎に還り、新知識を創り出す訓練を行う
- B 専門力：準学士課程の専門課程と接続して、より高度な専門領域について研究室を中心として特別実験や特別研究の実践を通して知識のみならず、学ぶ力を養うことで創造的研究開発能力を得る
- C コミュニケーション力：学会の場を通じ、論文作成、研究発表(情報発信)、質疑応答を通し、真の意味でのコミュニケーション力を養う
- D 人間性：学問を通して人間性を養う
- E 国際性：研究発表を通じ、エンジニアとしての国際性を身につける

4 各学科及び専攻科の目的と学習教育目標

4-1 教育目的、目標の展開

建学の精神及び基本精神の展開を基にそれぞれの課程の目指すべき技術者像を明らかにし、これらに基づいて準学士課程の各学科、専攻科課程の専攻にあつて学科、専攻固有の目的、学習教育目標を定めた。以下に各学科、専攻科の目的を示し、学習教育目標については基準1、基準2に示す。なお、本校は第1学年及び第2学年を混成クラス編成とし、プレテックという教育組織により運営し固有の教育目的を確立しているので学科相当として以下に加える。(平成23年度以降は、プレテック組織を残したままで、第2学年は学科別クラス編

成とした。これは早期から専門への動機付けを期待するためである。)

4-2 各学科及び専攻科の目的

(1) プレテックの目的

教育組織としてのプレテックは平成7年に1-2年次の混成学級編成とともに設立された組織であり、専門学科間の交流、新入学生の入学時教育、後期中等教育としての高専低学年教育の充実等を目指している。

(2) 一般教育の目的

専門教育の基礎と幅広い教養を身につけ、自己を確立し、広い視野に立って社会に貢献できる人間性豊かな技術者の育成を目指す。

(3) デザイン学科の目的

5年間の早期教育によって幅広いデザイン能力を磨き、高度な専門性、国際性、人間性をもつ善きデザイナーを養成する。プロダクト、グラフィック、インテリア各分野において、確かなデザイン技術と豊かな創造性を発揮し社会に貢献できる人材の育成をする。

(4) 電気工学科の目的

『第2種電気主任技術者』の認定学科として、電気工学の基礎知識及び技能を修得し、それらを実践的な課題に利用できる技術者を養成する。その実現のために専門基礎科目のほかに、コンテスト型教育(電動ビークルコンテスト、ミニソーラーカーコンテスト、学科ロボコン)や卒業研究を通して、アイデアを実現させる実践力と想像力を育み、社会適応能力と国際的な視野を持った、心豊かな実践型エンジニアの育成を目的とする。

(5) 機械電子工学科の目的

本学科は、専門家としての実践力、国際性、人間性を意識した技術者養成教育を実践する学科である。

専門家としての実践力とは、機械・電子複合技術を中心とした基礎・専門力とロジカルコミュニケーション力、および創造力であり、これらを育成する。具体的にはエンベデッドシステム開発者、3D CADオペレータ、システムデザイナー等の養成を目指している。

(6) 情報工学科の目的

情報工学科の養成する技術者像は、実戦能力を備えた情報技術エンジニアやネットワークエンジニアである。教育課程では「情報工学の基礎」、「コンピュータハードウェア」、「ソフトウェア」、「情報ネットワーク」分野を中心に構成され、それらの知識・技術を基礎に多くの分野で活躍できる技術者を育てる。また情報工学科では、高専プロコン全国大会、イマジンカップなどのプロジェクト活動を積極的に支援し、国際交流も熱心に行うなど国際化社会の中で実力を発揮できる実践的技術者を育てる。

(7) 専攻科生産システム工学専攻の目的

本校では、高等専門学校本科の5年間にわたる準学士課程の教育を基礎として、2年間の修業年限の専攻科(生産システム工学専攻)を設置している。電気工学・電子工学・情報工学を基礎として、さらに高度な科学・技術を習得し、「研究開発能力を有する創造的な技術者」の育成を目指している。

基準 1

高等専門学校¹の目的

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①：高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点到係る状況)

本校は、昭和 10 年カトリック・サレジオ修道会によって東京育英工芸学校として設立された。工業立国を目指した日本の社会的、時代的要請に応え昭和 38 年に高等専門学校を開設、都内唯一の私立高専として躍進的第一歩を踏み出した。昭和 50 年に創立者聖ヨハネ・ボスコの意向に沿うよう校是(資料 1-1-①-1)を決めた。これはサレジオ修道会がヨハネ・ボスコの教育活動を端的に示す姿勢である、アシステンツァ「常に教えられる者の人格を認め、ともに歩む姿勢」(資料 1-1-①-2)の考え方を具体化したものである。

本高専の使命は、学則第 1 条(資料 1-1-①-3)にあるように、学校教育法第 115 条の高専の目的として「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」に沿っており、これから教育目的(養成する人材像)、教育目標が定められた。これらを学則に基づいて規程化するために平成 20 年 4 月に教育方針に関する制定規程を設けた。これを資料 1-1-①-4 に示す。

資料 1-1-①-1

- 校是 1 「神は愛なり Loving Kindness」より
カトリック・ミッションによるキリスト教の精神に基づく教育
- 校是 2 「技術は人なり Human Technology」より
教養と専門を基盤とする総合的人格陶冶に基づく技術者教育
- 校是 3 「真理は道なり Living Truth」より
理論と実践を両輪に創造性と探究心あふれる人間教育

Info2012 p.13

資料 1-1-①-2



ドン・ボスコの教育におけるアシステンツァ

そこで、ドン・ボスコが言っているアシステンツァとは何を指し何を意味しているかを説明したいと思います。

ドン・ボスコの求めるアシステンツァとは

(1) 「共にいる」教育である

教育が成り立つためには、教育する者と教育される者が必要です。青少年は教育者の言動から様々なことに倣い、習得していくものです。ドン・ボスコはしばしば自分の教育法を書き表すように求められましたが、なかなかその要求に応じませんでした。教育は哲学ではなくて実践、生き方であり、表現しにくいものだから、というのがその理由です。

ドン・ボスコの教育は、何といても生きることによってなされます。つまり、先生が生徒と共に生きること、親が子どもと共にいることから始まります。教師が生徒と共にいて、生徒の生活に何らかの関与をする生き方です。生徒と「共にいる」という第一の意味から「共に生活する」ということ、「共に学ぶ」ということに発展して、ここに一つの人間関係が生まれ、互いの存在を認め合って、共同作業が生まれ、新しい創造へと向かうエネルギーが生まれる。このメカニズムこそ、アシステンツァの第一の特徴です。

ドン・ボスコの教育においては、あらゆる場所が教室です。先生と生徒が共にいるところが教室だったわけで、特に大事で大切にされたのは、生徒が自分自身をいかに発揮できる場所です。放課後の自由時間や、学校行事の準備、当日、後片づけのときです。野外活動で

23

アシステンツァ資料 ドンボスコ社発行書籍

A 学則

資料1-1-①-3

第1章 本校の目的

第1条 本校は学校教育法により、深く専門の学芸を教授し、高度の工業専門教育を施し、カトリック・サレジオ修道会の教育理念に基づいて国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養い、個性の確立伸長に努めることを目的とする。

出典：info2012 p.25

平成 20 年 4 月 1 日制定

サレジオ工業高等専門学校教育方針制定に関する規則

- (目的)
- 第1条 本則は高等専門学校設置基準第3条の2に基づいて学校の教育方針制定について定め、その取り扱いについて規定するものである。
- (定義)
- 第2条 本則では以下の各号の項目に定める事項を規定する。
- (1) 教育理念(校是)
 - (2) 教育目的
 - (3) 教育目標(準学士課程)
 - (4) 教育目標(専攻科課程)
 - (5) 学科等目的
 - (6) 学科等学習教育目標
- (教育理念)
- 第3条 本校の教育理念すなわち校是を以下の各号に定める。
- (1) 神は愛なり
 - (2) 技術は人なり
 - (3) 真理は道なり
- 2 前項の教育理念すなわち校是とその制定された背景、その解説は別にこれを定める。
 - 3 校是の英訳は以下の各号に定める
 - (1) Loving Kindness
 - (2) Human Technology
 - (3) Living Truth
- (教育目的)
- 第4条 学則第1条および本則第3条にもとづき学校としての教育目的を以下の各号に定める
- (1) 基本精神
 - (2) 専門性
 - (3) 国際性
 - (4) 人間性
- 2 前項の教育目的の解説は別にこれを定める。
- (準学士課程の教育目標)
- 第5条 準学士課程にあっては、教育目的を実現するために、本校は以下の各号に掲げる素養を持つ技術者を育成することを教育目標とする。
- (1) 基礎力
 - (2) 実践力
 - (3) コミュニケーション力
 - (4) 人間性
 - (5) 国際性
- 2 前項の教育目的の解説は別にこれを定める。
- (専攻科課程の教育目標)
- 第6条 専攻科課程にあっては、教育目的を実現するために、本校は以下の各号に掲げる素養を持つ技術者を育成することを教育目標とする。
- (1) 基礎力
 - (2) 専門力
 - (3) コミュニケーション力
 - (4) 人間性
 - (5) 国際性
- 2 前項の教育目的の解説は別にこれを定める。
- (学科ごとの学習教育目標)
- 第7条 前条まで教育理念、学校目的、学校目標の展開にもとづき以下の各号に定める学科等ごとに目的を定めるものとする。
- (1) 一般教育
 - (2) プレテック
 - (3) デザイン工学科
 - (4) 電気工学科
 - (5) 機械電子工学科(19年度以前の入学生は電子工学科)
 - (6) 情報工学科
 - (7) 専攻科

教育目的は、養成する人材像を「キリスト教精神に基づく人間観を持った善き職業人を養成する」とし、下記3つに展開した。

1. 専門性・・・深く専門の学芸を教授し高度の工業専門教育を行う
2. 国際性・・・国際社会で活躍できる有為な人材を養成する
3. 人間性・・・社会性豊かな、創造性に富んだ、チャレンジ精神溢れる個性に伸ばす

教育目標については、準学士課程と専攻課程で各々目標を立てた。

準学士課程にあつては実践的技術者となるために以下のような力を身につけることを目標とする。

- A 基礎力：専門分野を学ぶために必要な基礎的学力や技能
- B 実践力：提示された課題を正確に必要なかつ十分に実現する力
- C コミュニケーション力：物事を論理的に考え、それらを文章や言葉で表現する力
- D 人間性：健全な人格を育成し、社会性をもつ人柄となる力
- E 国際性：海外の人々と交流するために必要とする基本的な力

専攻科課程にあつては準学士課程で身に着けた実践的技術者としての基礎の上に、より深い専門基礎力と特別研究を通じての研究開発の体験を基に研究開発能力を有する技術者となるために以下の目標を達成する。

- A 基礎力：特別研究の遂行過程において常に基礎に還り、新知識を創り出す訓練を行う
- B 専門力：準学士課程の専門課程と接続して、より高度な専門領域について研究室を中心として特別実験や特別研究の実践を通して知識のみならず、学ぶ力を養うことで創造的研究開発能力を得る
- C コミュニケーション力：学会の場を通じ、論文作成、研究発表(情報発信)、質疑応答を通じ、真の意味でのコミュニケーション力を養う
- D 人間性：学問を通して人間性を養う
- E 国際性：研究発表を通じ、エンジニアとしての国際性を身につける

各学科の学習教育目標は以下の通りである。

(1) プレテックの目標

教育組織としてのプレテックは平成7年に1-2年次の混成学級編成とともに設立された組織であり、専門学科間の交流、新入学生の入学時教育、後期中等教育としての高専低学年教育の充実等を目指している。

(2) 一般教育の目標

専門教育の基礎と幅広い教養を身につけ、自己を確立し、広い視野に立って社会に貢献できる人間性豊かな技術者の育成を目指す。

(3) デザイン学科の目標

5年間の早期教育によって幅広いデザイン能力を磨き、高度な専門性、国際性、人間性をもつ善きデザイナーを養成する。プロダクト、グラフィック、インテリア各分野において、確かなデザイン技術と豊かな創造性を発揮し社会に貢献できる人材の育成をする。

(4) 電気工学科の目標

『第2種電気主任技術者』の認定学科として、電気工学の基礎知識及び技能を修得し、それらを実践的な課題に利用できる技術者を養成する。その実現のために専門基礎科目のほかに、コンテスト型教育（電動ビークルコンテスト、ミニソーラーカーコンテスト、学科ロボコン）や卒業研究を通して、アイデアを実現させる実践力と想像力を育み、社会適応能力と国際的な視野を持った、心豊かな実践型エンジニアの育成を目的とする。

（5）機械電子工学科の目標

本学科は、専門家としての実践力、国際性、人間性を意識した技術者養成教育を実践する学科である。

専門家としての実践力とは、機械・電子複合技術を中心とした基礎・専門力とロジカルコミュニケーション力、および創造力であり、これらを育成する。具体的にはエンベデッドシステム開発者、3D CADオペレータ、システムデザイナー等の養成を目指している。

（6）情報工学科の目標

情報工学科の養成する技術者像は、実戦能力を備えた情報技術エンジニアやネットワークエンジニアである。教育課程では「情報工学の基礎」、「コンピュータハードウェア」、「ソフトウェア」、「情報ネットワーク」分野を中心に構成され、それらの知識・技術を基礎に多くの分野で活躍できる技術者を育てる。また情報工学科では、高専プロコン全国大会、イマジンカップなどのプロジェクト活動を積極的に支援し、国際交流も熱心に行うなど国際化社会の中で実力を発揮できる実践的技術者を育てる。

（7）専攻科生産システム工学専攻の目標

本校では、高等専門学校本科の5年間にわたる準学士課程の教育を基礎として、2年間の修業年限の専攻科（生産システム工学専攻）を設置している。電気工学・電子工学・情報工学を基礎として、さらに高度な科学・技術を習得し、「研究開発能力を有する創造的な技術者」の育成を目指している。

以上の校是と教育理念、教育目的および教育目標については、毎年学生に配布する“info20xx”に記載し（xxは西暦）、学生・保護者に周知している。

また、学校要覧、学校案内、学校ホームページにも明示して、広く社会に公開している。

（分析結果とその根拠理由）

上記記載の通り、高等専門学校としての使命が明確であり、教育研究活動を行う上で本校の教育理念（校是）、教育目的、教育目標について明確に定められている。

これらの目的と目標は、学校教育法第115条に規定された高等専門学校一般に求められる目的に適合するものである。

また、学科および専攻科ごとの目的と目標も明確に定められている。

以上のことから、観点の趣旨を満たしていると判断する。

観点 1-2-①：目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

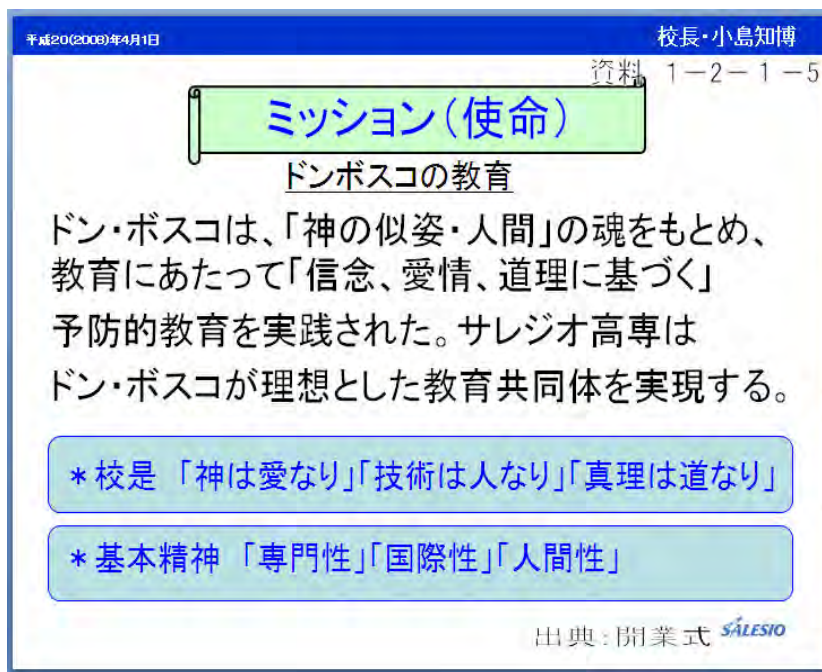
（観点に係る状況）

本校の教育理念（校是）、教育目的、教育目標については観点 1-1-①に記述した。

これらの教育方針については info、学校要覧、学校案内に記載して、学生・保護者・教職員に周知するとともに、入学前の中学生・保護者にも学校説明会などで伝えている。またホームページにも載せて、広く世の中に公開している。

学生には全員、年度当初に info が配布され、在校生、新入学生に対し説明の機会がある。また、ホームページにも掲載してあるので、例え学生が info を保護者に渡さなくても、自宅から閲覧できる。教職員に対しては、info を毎年配布するとともに、4 月最初の開業式において、校長より講話が行われている（資料 1-2-①-1）。また、新任教職員には「新任研修会」でも説明している。

資料 1-2-①-1



（出典 新年度教職員開業式のパワーポイント資料抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

教育目的・目標については、様々な媒体と方法を使って周知されている。

教育目的に対する学生・教職員の周知度については、平成 20 年度におけるアンケート結果から教職員は 5 段階の 4 レベル（理解している）で全体の 70%、学生は 3 レベル（知っている）で総数の 70% について周知されていると判断された。引き続き効果を調べるため、同じ設問内容で年度内に調査を実施する予定である。

以上のことから、観点の趣旨を満たしていると判断する。

観点 1-2-②：目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

観点 1-1-①で記述したように、在学生と教職員に対して配布される info、学外対象の学校要覧、中学生対象の学校案内、およびホームページにおいて、本校の教育方針である理念、目的、目標（養成する技術者像）が記載されている。

また近隣中学校訪問、中学校対象教員説明会、本校を受験する中学生とその保護者を対象とした学校説明会やオープンキャンパス等においても、学校案内を配布して説明している。

以下に各資料の配布状況を示す。

info2012

在校生 800 部、教職員 120 部、一般配布 80 部 計 1000 部発行

学校要覧 2012

教職員 100 部、関係機関 20 部、来校者 100 部 計 220 部発行、随時増刷

学校案内 2012

中学校配布 3000 部、中学生配布 2000 部、企業配布 3000 部、在校生配布 1000 部

卒業生配布 7000 部、その他一般配布 4000 部でおよそ 20000 部発行。

ホームページ閲覧数 <http://www.salesio-sp.ac.jp> 平成 23 年度 1 年間で約 20 万件

(分析結果とその根拠理由)

info、学校要覧、学校案内、ホームページなど紙メディア、デジタルメディアを通して学校の理念、目的、目標を広く社会に公表している。

よって観点の趣旨を満たしていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

私学として建学の精神を有し、数あるキリスト教カトリックミッション校の中でも理系、技術系というユニークな存在である本校は、人間教育の根源をキリスト教精神において教育を展開している。

本校は、東京の私学としては平均的位置づけであり、国立高専のように中学のエリートを入学させているわけではない。多様な学生がおり、中学時代にコンプレックスをもった学生も多く入学している。このような学生たちを受け入れ指導するのが、プレテック教育指導制度（1、2年次）である。担任以外に複数の支援教員制度をとり、多数の教員で学生を見守り、時には相談に乗り、学科の垣根を越えた友達づくりの支援もしている。中学校時代は不登校だった学生が生き生きと登校してきており、中には学年トップの成績を取る学生まで出ている。

このプレテックに見られるように、アシステンツァすなわち「寄り添う教育」とは、物理的な意味だけではなく精神的にも学生のそばにいて、彼らが求めているものを見い出すこと、読み取ることである。全ての教職員が実践している、これらの建学の精神に基づいた教育を優れた点としたい。

【改善を要する点】

国立高専に比べると、本校の学生間の学力・能力の個人差は大きい。一人一人について、学力・能力に見合った教育・指導をすることが要求されているが、現状では十分とは言い難い。教職員の個人プレーに過度に頼ることなく、組織的に対応できる仕組みづくりが必要である。

また、高専生の主な就職先である製造業については、日本を取り巻く情勢が大きく変わってきている。QCD（品質・原価・納期）のマネジメント能力に加え、発想力が従来以上に要求されている。これに応えられる技術者を養成しなくてはならない。

教育目的は大きくは変わらないが、教育目標は常に高専を取り巻く社会的要請に留意し、PDCAサイクルを回して改善していく必要である。

教育目的に対する学生・教職員の周知度については、平成20年度にアンケート調査を行ったが、それ以降実施していない。年1回は実施する必要がある。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校は、学校の教育理念を定めており、それに沿って教育目的と目標を定めている。さらに、設置学科ごとの教育目標は、学校の教育目標をふまえて具体的に学科の目標を定めている。また、高等専門学校として養成する人材像を明確に定めている。このことは、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。また、高等専門学校設置基準第3条により教育研究活動等の内容を広く社会に提供することになっているが、これらの内容の情報は、学校要覧をはじめ、学生便覧（info20xx）、学校案内、ホームページなど多くの刊行物に掲載し広く社会に公表している。

私学としての特徴を十分に生かし、産業界と高専全体の動向を注視しつつ本校の進むべ

き道を見い出して行きたい。

基準 2

教育組織（実施体制）

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①：学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到に係る状況）

本校の準学士課程にあつては学則第7条（info p.25）により、以下の4学科を設置している。

学科	学級数	入学定員
デザイン学科(平成21年度4月以降の入学生)	1	45人
デザイン工学科(平成21年3月以前の入学生)*		
電気工学科	1	45人
機械電子工学科	1	45人
情報工学科	1	45人

*：デザイン工学科は、在校生のいなくなる平成25年3月末をもって廃科となる。

これらの学科構成は本校の前身である工業高等学校に設置されていた電気科、印刷科、木材工芸科がその母体となっている。昭和38年高等専門学校を開設した際に電気科は電気工学科へ、印刷科は印刷工学科へ、木材工芸科は工業意匠学科へ転換し、その後時代の要請に応じて改称、改組等により電気工学科から電子工学科、情報工学科が派生し、工業意匠学科は工業デザイン学科を経てデザイン工学科に改称しデザイン分野の拡大を図った。印刷工学科は後にグラフィック工学科、ビジュアル情報工学科と改称したが平成19年度に廃科した。定員を充足することが困難になったことがその理由である。

平成元年頃から、エレクトロニクスやコンピュータに関わる技術が急速に拡大し、様々な分野への展開が始まった。この時代背景を受け、それまで高専創設時から電気工学科にあつては4、5年次に電力課程と電子通信課程の二つが置かれていたが、学修内容の増大、深化に伴いコース設定のみでは対応が困難となり、電子工学、情報工学の2学科新設に踏み切った。さらに電子工学科については、平成20年に機械電子工学科へ名称変更した。理由は、電子工学科の時からメカトロニクスを意識した科目構成で授業を行ってきたが、それを外部にも明確にするためである。

デザイン工学科にあつては、それまで工業製品を中心としたプロダクトデザインが主体であったが、これもデザイン対象の多様化が進み間口を広げることになり、プロダクトコース、インテリアコース、グラフィックコースの3コース制をとった。このため工学という名称と必ずしも一致しない分野も含むことになったので、平成21年にデザイン学科と名称変更した。これらの歴史については、info2012(pp.4-6)の2.2 学校法人育英学院の歴史に詳細に示されている(資料2-1-①-1)。

資料2-1-①-1

学校法人育英学院の歴史

工業・工業学校時代

工業高校時代

1933 (S8)	学校設立準備、学校設立代表者ヴィンセンシオ・チマッチ
1934 (S9)	サレジオ会(カトリック修道会)により、帝都育英工芸学校（東京杉並）を創立 印刷科を設置許可
1935 (S10)	学校開設
1938 (S13)	木材工芸科を新設
1940 (S15)	財団法人組織とし、帝都育英学院と称する
1942 (S17)	甲種工業学校に昇格、帝都育英工業学校と改称
1947 (S22)	学制改革により帝都育英学院中学校を併設
1948 (S23)	学制改革により帝都育英工業高等学校と改称
1949 (S24)	電気科を新設
1951 (S26)	学校法人帝都育英学院と改称
1959 (S34)	目黒サレジオ幼稚園を育英学院に移管
1960 (S35)	校名を育英工業高等学校・育英中学校と改称
1962 (S37)	育英高等専門学校設立許可
1963 (S38)	法人名を学校法人育英学院と改称、育英高等専門学校を開設、印刷工学科、電気工学科、工業 意匠学科を設置 サレジオ小学校・中学校（小平）を育英学院に併合
1965 (S40)	育英工業高等学校を廃校する
1967 (S42)	校名を育英工業高等専門学校と改称、工業意匠学科を工業デザイン学科と改称 足立サレジオ幼稚園を設置
1975 (S50)	印刷工学科をグラフィック工学科と改称、 育英テクニカルカレッジをサレジアンポリテクニクと改称
1976 (S51)	体育館落成、本館ロビー落成
1977 (S52)	学生食堂(フロイデハウス)落成、クラブハウス落成
1978 (S53)	グラフィック工学科印刷研究館落成
1980 (S55)	外活動センター(カーサ・ボンテビアンカ)落成
1981 (S56)	学校倉庫完成
1985 (S60)	基礎教育館(プレテック)、ライブラリ落成 創立50周年記念式典挙行
1987 (S62)	電気工学科収容定員増、グラフィック工学科定員減
1988 (S63)	情報教育センター設置、男女共学の実施
1989 (H1)	電子工学科・情報工学科設置認可
1990 (H2)	電子工学科・情報工学科新設、5学科編成 育英中学校廃止認可
1993 (H5)	女子第1期生卒業
1994 (H6)	研究生第1期生入学 グラフィック工学科、1年混成学級編成
1995 (H7)	1・2年混成学級編成、研究生第2期生入学 工業デザイン学科

5 学科編成期

- 1997 (H9) グラフィック工学科をビジュアル情報工学科に改称
工業デザイン学科をデザイン工学科に改称
- 1998 (H10) i サレジオ文化技術交流センター(SITEC)落成(
- 1999 (H11) サレジオレジデンス落成
- 2001 (H13) 専攻(生産システム工学専攻)開設
- 2003(H15) 専攻科 1 期生学士を取得して修了
- 2005 (H17) 2月町田新校舎完成、移転作業開始
3月育英高専杉並校舎を閉鎖,SITEC センターは育英サイテックとして杉並支部に委託
3月ビジュアル情報工学科最終在校生卒業
- 2005 (H17) 4月サレジオ高専として町田多摩境に移転開校
デザイン工学、電気工学、電子工学、情報工学の4学科編成
総合メディア(新図書館・情報館)、応用技術、技術交流の3センター開設
5月学生寮の開設 男子:サイテック多摩境、女子:調布友愛の家
5月新キャンパス落成式挙行
5月 IUS- Eng. (サレジオ大学機構工学連合) 東京大会開催、本校は同東京校となる
8月4年生の研修旅行が海外(韓国)で実施
- 2006 (H18) 4月多摩美大、創価大、東京工科大と本校専攻科間で単位互換協定
7月教育研究基盤支援事業として募金活動を開始(3年間)
11月ヘンドリックス元育英高専校長、瑞宝中級章受章
- 2007 (H19) 2月ヘンドリックス先生叙勲のお祝い会(アルカディア市ヶ谷)開催
5月本校が町田市指定避難地域に指定
7月校地東側隣接地を将来事業用地として購入
9月 IUS フィリピン・マンダレイオン工科大と交流開始
11月第20回 NHK ロボコンでロボコン大賞を受賞
- 2008 (H20) 4月電子工学科を名称変更し、機械電子工学科と改称
4月校地東隣接地の一部を町田市学童クラブとして貸与
10月高等専門学校機関別認証評価の調査団を迎え審査を受ける
- 2009 (H21) 3月独立行政法人大学評価・学位授与機構による機関別認証評価の認定を受ける
4月デザイン工学科をデザイン学科と改称
- 2010 (H22) 11月育英学院創立75周年記念式典・祝賀会を開催、記念誌を刊行
- 2011 (H23) 2月創立者ドンボスコの聖遺物が来校、崇敬の式典を開催
3月東日本大震災で卒業式は学校で、謝恩会は中止、大きな被害はなかった
10月当年44期卒業生に同窓会主催で ComingHomeDay44 を開催
- 2012 (H22) 10月高専機構主催「高専創設50周年記念式典・祝賀会」開催

育英高専からサレジオ高専(改称) 4 学科体制

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は学則第1条 (info2012 p. 25) において定められ、学校教育法第115条第1項による「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」と、経営母体であるカトリック・サレジオ修道会の教育理念に基づいて国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養い、個性の確立伸長に努めることの二つを目的とする。

本校の学科構成は、観点に係る状況でも述べたように、その時代の要請に応じて変遷してきた。これは、社会に必要とされる人材を輩出するという、本校の目的に沿ったものである。

以上のことから、観定の趣旨を満たしていると判断する。

観点2-1-②：専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観定に係る状況)

平成12年度に専攻科(生産システム工学専攻)を併設し平成13年度より入学生を受け入れた。学則第39条に課程の専攻と定員を定めている。

資料2-1-②-1

第39条 専攻科の専攻及び入学定員は次の通りとする。

専攻	学級	入学定員
生産システム専攻	1	14

(出典 info2012 学則 p. 30)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準の改正に伴い、専攻科の開設が認められ全国の国立高専を皮切りに順次専攻科の設置が進められ、本校でも平成11年より開設の準備に入った。本校では電気工学科を母体とする電気系3学科、すなわち準学士課程の電気、電子(現機械電子)、情報の3工学科を基盤に生産システム工学専攻を設置した。

工学分野の拡大、深化、細分化は技術教育の高度化を要求し、現在では大学工学部卒業生の大学院修士課程進学率は50%を超えている。高専創設時の中堅技術者養成という時代の要求は変遷し、現在は製造技術の海外移転、自動化などが進み、高専に対してもより高度な内容、教育を要請されるようになった。そこで単に大学学部教育相当の内容拡充というより、高専の大学院的性格を有した実践的研究教育を施す専攻科の設置を目指すこととなった。本校にあっても、大学と研究機関より専攻科教授として3名招聘し、本科の有資格教員の兼担によって開設の運びとなった。その後、修了生は学位認定の審査に合格することで大学評価・学位授与機構より学士(工学)を授与されている。

専攻科が掲げる目的、目標を資料2-1-②-2に示す。

これらは学校教育法119条「高等専門学校には、専攻科を置くことができる。高等専門学校の専攻科は、高等専門学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とし、その修業年限は、一年以上とする」と定められる規程を満たしている。

資料2-1-②-2

3.1.3.2 専攻科課程の教育目標とその背景

専攻科課程にあつては準学士課程で身に着けた実践的技術者としての基礎の上に、より深い専門基礎力と特別研究を通じての研究開発の体験を基に研究開発能力を有する技術者となるために、以下の目標を達成する

- A. **基礎力**：特別研究の遂行過程において常に基礎に還り、新知識を創り出す訓練を行う
- B. **専門力**：準学士課程の専門課程と接続して、より高度な専門領域について研究室を中心として特別実験や特別研究の実践を通して知識のみならず、学び力を養うことで創造的研究開発能力を得る
- C. **コミュニケーション力**：学会の場を通じ、論文作成、研究発表（情報発信）、質疑応答を通じ、真の意味でのコミュニケーション力を養う
- D. **人間性**：学問を通して人間性を養う
- E. **国際性**：研究発表を通じ、エンジニアとしての国際性を身につける

(出典 info2012 p.16)

観点2-1-③：全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校にはキャリアセンター、総合メディアセンター、応用技術センター、地域交流センター及び国際交流センターの5つのセンターがあり、いずれも全学的位置づけとしての組織である。

キャリアセンターは、就職や進学で紹介や調整だけではなく、全学年のキャリア教育も担う。総合メディアセンターは、図書館と情報教育センターを統合したものである。応用技術センターは夢工房を併設し、各種のプロジェクト教育・活動を推進している。地域交流センターは産学連携、学校間連携、地域連携の3つの分野を担当する。国際交流センターは、本校学生の国際的活動、短期外国人学生の日本での活動を支援するための企画立案および実施する。

(1) キャリアセンター

キャリアセンターは、それまでの5年生の就職や進学の支援をする進路指導室の機能に加えて、全学年を対象としたキャリア教育の中心となるように、平成20年度に改称され機能も強化された。

就職・進学では、企業採用情報や大学・大学院への編入・進学情報を一元的に管理して5年次における書類作成やカウンセリングなどの直接的な支援を行うとともに、4年次に対してはインターンシップやキャリアデーおよびSPI模擬試験等を行っている。また全学年を対象に、資格・検定の取得支援や、夏季休暇中の補講（サマースクーリング）の運営を行っている。

キャリア教育は全学科の全教員が関わるものであるが、キャリアセンターではキャリア教育に必

要な各種資料とその説明書を作成してプレテックや学科に提供したり、キャリアセンター主催の講座や外部講師の講演会等を多数開催している。

キャリアセンターが取り組む主な学生支援は以下の通りである。

① 創造性を育む教育の取組

サマー・スクーリングとして、学生の能力開発・向上を目的として、キャリアセンターが運用主体となって、夏季休暇中に23の講座群の補講を行っている。(例：英検、数検、漢検、DD3種、電検、情報、アマチュア無線など：資料2-1-③-1)

② 豊かな人間性を育む取組

キャリア形成支援として、1・2年生に対してはキャリア面談を実施している。これは、①過去の自分を振り返り自分とはどんな人間なのかを考えさせる「自分史を振り返る」、②30才になったときの自分を思い描かせる「30歳の私」、③その結果として今自分がすべきことは何かを考えさせ計画・実行させる「高専生活チャレンジ」、の3点について事前に学生にシートに記入させ、それを見ながら担任並びに支援教員(校長、副校長、学科長など)が、学生と1対1で15分～30分ほど面談するものである。

3年生に対しては、キャリア形成支援講座を4回開催している。各々、「進路について考える」、「職業レディネステスト(VRT)実施」、「VRT結果による自己理解」、「自分について考える」がテーマである。

4年生前期に「職業について考える」をテーマとする講座を2回開催し、それを以って講座の全日程を終了する。4年生希望者は夏季休暇期間中にインターンシップに参加するが、連続した学習と体験を通してキャリアについて考えるよう日程を設定している。講座は昨年度に開講したが、その決定が年度途中であったため、開催時期は進路を具体的に決める直前の4年生後期となり本年度と同一内容を3回の講座でカバーした。より早い時期から1回の時間を短くして開催したほうが良いのではと考えていたが、受講した学生からも同様の意見が多くあり、昨年度から運営時期、回数を変更した。

以上のキャリア教育に係わる資料を資料2-1-③-2, 3, 4に示す。

③ 学生のニーズや社会からの要請を取り入れるための取組

キャリアオリエンテーションとして、4月の第一土曜日午後に、本校における就職・進学活動に伴う手続きと心構えを説明する。家庭の協力も必要なので、保護者にも参加を呼びかけている。24年度からは、日程を前倒しして、4年次の2月下旬に行うこととした。

また本校では毎年6月にキャリアデーと名付けて、4年生を対象に、各学科の卒業生を招待し、就職してからの体験談を話す行事を設けている。今年度で27回目となった。4年生は1年後に進路決定を控えており、将来社会人となるための心構えや就職先・進学先の選択等について考える良い機会となっている。また24年度からは、4年生を対象に、保護者によるキャリアデーを始めた。卒業生のキャリアデーではどうしても技術者・デザイナーとしての話題が中心となるので、より広い視野で社会人としてあるべき姿を保護者の体験談から学んでほしいと期待している。(資料2-1-③-5)

さらに、企業の採用試験で広く使われているSPI試験の練習として、3・4年生を対象にSPI模擬試験を行っている。同時に行う性格・適正検査と合わせて、その結果を学生と担任に通知し、5年次の就職活動に活かしている。

④ インターンシップ (5-2-③、5-6-③)

学生の職業観や勤労観の養成および実社会への適応能力が高い学生の育成を目指して、毎年

夏季休暇期間中にインターンシップを実施している。インターンシップの対象学年は就職・進学活動を翌年に控えた本科4年生および専攻科1年である。

本科生は選択科目とし、履修単位は特別学習単位で実習期間に応じて1～2単位を付与している。専攻科生も選択科目であるが、可能な限り修得することを薦めており、履修単位は実習期間に応じて1～2単位を付与している。成績評価は合否の2段階で、学生が書く実習報告書と発表会での態度と内容、および実習企業からの実習証明書の内容で総合判定している。

資料2-1-③-2 3020 キャリア教育プログラムの構成

目標	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生
	高専生活の過ごし方、学びの目標を考える	自己理解を深め、将来の夢を描く	社会・職業について学び、役割を考える	自分を活かす進路を具体的に選択する	本科生活を総括し、巣立ちの準備を行う
正教育	全ての授業で、実践力、コミュニケーション力を養成するよう授業の進め方を工夫する。(一方的な知識伝授型でなく、学生が自ら調べ、グループで討議し、発表する形式を取り入れる)				
正教育外	点検・改善	クラブ活動、プロジェクト活動、ボランティア活動、野尻湖サマーキャンプ、企業見学、海外研修、補修教育、進学補講			
キャリア支援		キャリアデー、キャリアオリエンテーション、インターンシップ、資格・検定取得支援、SPI受検・準備、進路活動支援(SPI受検、校長模擬面接、カウンセリング)			
	新規	キャリア面談：キャリアシートを使った全教員による学生との面談 キャリア形成支援講座：進路選択やその実現に向けた計画を考える 就職活動支援講座：就職活動のポイントを学び、心がけ、準備する			

資料2-1-③-3 平成24年度キャリア教育支援プログラ

目標	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生
時期	高専生活の過ごし方・学びの目標を考える	自己理解を深め、将来の夢を描く	社会・職業について学び、役割を考える	自分を活かす進路を具体的に選択する	本科生活を総括し、巣立ちの準備を行う
4月	■オリエンテーション(4/5)	■進路講演会(4/23)		■大学編入学推薦基準説明会(4/28)	■キャリアオリエンテーション ■校長模擬面接/個人面接対策
5月	■進路講演会(5/14) ■講演「キャリアデザイン」(5/21)	■前年度目標の評価 ■今年度目標の設定	■前年度目標の評価 ■今年度目標の設定	■今年度目標の設定 ■キャリアデー(5/26) OB/OG ■CD支援講座#5 「職業について考える#1」	
6月	■今年度目標の設定			■CD支援講座#6 「職業について考える#2」	
7月				■インターンシップ社行会(7/28) ■講座「ビジネスマナーの基本」	
8月	■野尻湖サマーキャンプ			■進学説明会(8/3) ■インターンシップ(8/4-9/26)	
9月	■サマースクーリング 「基礎力向上」 「資格・検定対策」	■サマースクーリング 「基礎力向上」 「資格・検定対策」	■サマースクーリング 「資格・検定対策」 「進学補講」 ■SPI受検(9/29)	■サマースクーリング(9/10-14) 「資格・検定対策」 「進学補講」 ■SPI受検(9/29)	■サマースクーリング 「資格・検定対策」 「進学補講」
10月	■今年度目標の自己点検(前期)	■今年度目標の自己点検(前期)	■今年度目標の自己点検(前期) ■CD(キャリア形成)支援講座#1 「進路について考える」	■今年度目標の自己点検(前期) ■キャリアデー(10/20) 父母有志	
11月			■CD支援講座#2 「職業体験(VRT)実施」 ■講演「インターンシップ体験報告」	■進路希望調査票提出	
12月	■専門学科との交流		■CD成支援講座#3 「VRT結果による自己理解」	■就活支援講座#1, #2 「就活とは。求人票の見方」 「応募書類の書き方」	
1月			■CD支援講座#4 「自分について考える」	■就活支援講座#3, #4, #5 「応募書類の書き方#2, #3」 「面接の受け方とマナー」	
2月	■通年プログラム(企業見学)	■通年プログラム(企業見学)	■通年プログラム(企業見学)	■通年プログラム(企業見学) ■XX技術科学大学編入説明会(2/9)	
3月	■海外研修プログラム	■海外研修プログラム	■「私の夢」 「My Goal」 ■海外研修プログラム	■就活セミナー ■海外研修プログラム	

資料2-1-③-4 支援講座のテーマと内容

【キャリア形成支援講座・テーマと内容】	
1. 進路について考える	* 進路選択とキャリアデザイン * 働くとは * 進路を考える
2. 自分について考える	* 職業レディネス・テストの結果分析 * 自分を知る * キャリアデザイン
3. 職業について考える	* 会社とは／業種と職種 * いろいろな働き方 * 社会（会社）が求める人材 * 能力を備える
【就職活動支援講座・テーマと内容】	
1. 求人票の見方	* 就職活動のプロセス * 求人票の見方
2. 応募書類の書き方	* 基礎編（履歴書事例検討など） * 自己PR編（自己PR事例検討など） * 志望動機編（志望動機事例検討など）
3. 面接の受け方とマナー	* 面接の目的 * 面接の流れとマナー

資料2-1-③-5

平成24年10月9日

4年生保護者・学生 各位

サレジオ工業高等専門学校校長 小島 知博

保護者によるキャリアデー実施のお知らせ

日頃より本校の教育にご理解・ご協力くださりありがとうございます。

サレジオ工業高等専門学校ではキャリア教育の一環として、「キャリアデー」と称する本校OB・OGと在校生との交流会を毎年企画しております。「キャリアデー」が好評を博しているため、新たに保護者の方を講師に迎えた「保護者によるキャリアデー」を企画いたしました。進路決定を間近に控えた4年生を対象として、社会人となるための心構えや就職先・進学先の選択等について、講師となる保護者の方々から貴重なご助言を頂きます。

保護者講師の方々は、幅広い業種から豊富な経歴をお持ちの方々においでいただき、種々のテーマにつき、経験に基づき具体的なお話しをいただきます。

なお、この学校行事への参加につきましては、4学年学生のみとさせていただきます。

日 時 : 平成24年10月20日〔土〕 時刻 : 10:00～12:00

注 意 : 進路に関わらず全員出席すること

正装で出席し、時間厳守・静聴を守ること

貴重な時間を割いて諸君のためにご来校くださる保護者講師の方々と有益な時間を分

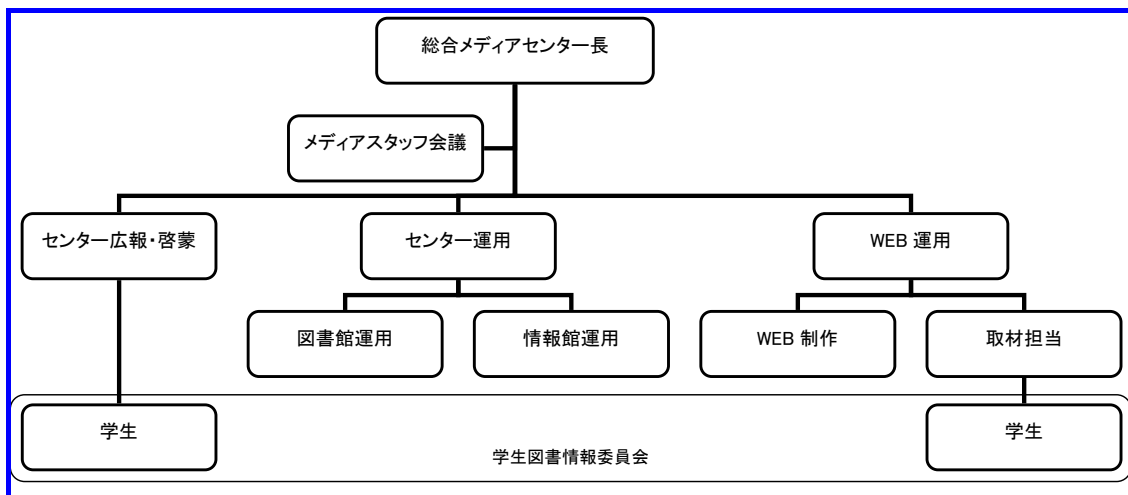
(2) 総合メディアセンター

総合メディアセンターは、従来図書館と情報教育センターが独立して併設されていたものを、図書館業務の電子化と電子図書館化を目指し、情報教育と統合して紙メディアからデジタルメディア環境まで提供することを目的として設立され、同時にスタッフ（職員）の効率的配置も可能にした。

総合メディアセンターは、本校の教育目的である「人間性の向上」を受け、「利用者の創造力を伸ばすサービスの提供」を目的に、以下の目標を掲げ活動を行っている。

1. 図書館の管理、運営、情報提供、学生利用環境について担当し、図書情報に関する研究を通じて教職員への教育研究サービス、また学生利用の促進を通して情操教育、人格形成に寄与する。
2. 情報館の管理、運営、情報提供、学生利用環境について担当し、情報教育環境の整備、学内の情報環境の整備、支援サービスに努める。
3. 学内行事の記録・管理、学科からの情報提供、募集に関する情報、その他の有益な情報などを収集・管理し、これらの情報をホームページ等に反映させて学内外へ情報を発信する。

センターの組織構成は、以下のようになっている。



総合メディアセンターが取り組む主な学生支援は以下の通りである。

① 創造性を育む教育の取組

センター利用者の創造性向上を図るため、新図書館システム導入・運用を行った。また、コンテンツ・マネージメント・システムの運用方法の検討を行った。

さらに、総合メディアセンターの活動を学内外に広く伝えるため、総合メディアセンター広報誌を発行している（資料2-1-③-6）。内容は単に教育・研究分野のみならず、センターの目的である「利用者の創造力向上」に沿うものであれば広く取り扱い、発信している。

② 豊かな人間性を育む取組

学生取材班の報告として、季節ごとに学内に咲く草花を取り上げ、コラム記事として配信している。また図書館蔵書には、専門書以外の一般図書を充実させ、教養を育てている。

学生組織である図書情報委員会からも、定期刊行物「STELLA」が発行され、学生達の自主性を育てている。（資料2-1-③-7）

③ 学生のニーズおよび社会からの要請を取り入れるための取組

図書館およびメディアセンターの利用方法を小冊子化して配布している（資料2-1-③-8, 9）

またリクエスト図書 **BOX** を設置して、図書館で新しく購入を希望する図書のリクエストを受け付け、その専用コーナーを設けた。昨年度の実績は、リクエスト総数 154 冊（学生：117 冊，教職員：37 冊）、購入数 144 冊（学生：109 冊，教職員：35 冊）、棄却数 10 冊（学生：8 冊，教職員：2 冊）であった。棄却理由は絶版等により入手不可のためである。

資料2-1-③-6

SALESIO ISSN 2196-6473 (PRINT)
ISSN 2196-6414 (ONLINE)

サレジオ工業高等専門学校
総合メディアセンター報
Reports of the Media Center

第2号

特集「システムリブレースがもたらすもの」

Nov. 2011
Media Center, Salesian Polytechnic

資料2-1-③-7

総合メディアセンター広報誌

STELLA 第8号

文学大賞作品紹介

図書情報委員会
2011. 年春

資料2-1-③-8

図書館利用のしおり 2012年度版

サレジオ工業高等専門学校図書館

サレジオ高等の図書館によるこそ！図書館ではみなさんの楽しい学校生活を
応援できるようさまざまな本をそろえています。ぜひ借りに来てください。
このしおりでは、図書館利用のためのルールや便利な検索方法などを
ご紹介します。

利用案内

- 開館時間** ・ 月～金 午前9時～午後7時
土 午前10時～午後3時
- 休館日** ・ 日曜日、祝日、学校閉鎖期間、年末年始等
※臨時の休館日、開館時間の変更については、館内掲示、ホームページ等でお知らせします。
- 貸出方法** ・ ①カウンターに借りたい本を持ってきてください。
②学籍番号(S～)をおしえてください。
- 貸出冊数** ・ 本・雑誌あわせて10冊まで貸出できます。
- 貸出期間** ・ 本は2週間・雑誌は1週間貸出できます。
※雑誌の原番号は貸出できません。
●赤いシールの本は原則1巻のみの貸出です。
- 返却** ・ 本をカウンターまでお返しください。
※図書館の開館時には入り口左側の「返却BOX」に入れてください。
- 予約** ・ 利用したい本が貸出中の場合は予約ができます。
カウンターの図書館員に申し出るか、
図書館ホームページのMy Libraryから操作してください。
※My Libraryについて詳しくは図書館員にきいてください。
- リクエスト** ・ 図書館においてほしい本をリクエストできます。
カウンターにあるリクエスト用紙に記入し、
「希望図書リクエストBOX」に入れてください。
または、図書館員へ気軽にお伝えください。
※本が入るまで3～4週間かかります。

資料2-1-③-9

サレジオ工業高等専門学校
総合メディアセンター
学校の図書館と情報館についてだよ！

図書館

情報館

(3) 応用技術センター

このセンターは本校の特色の一つである PBL 教育の場としてプロジェクト教育を実践・推進する部署である。実践の場として「夢工房」を併設している。

プロジェクト教育として、平成 19 年度から自由選択科目「プロジェクト実習」を開設している。そのシラバスを資料 2-1-③-10 に示す。夢工房の利用願書を資料 2-1-③-11 に示す。

さらに興味のある学生には、高専ロボコン、高専プロコン、高専デザコンなどのプロジェクト活動への参加を促し、基礎力の涵養、実践力、コミュニケーション力、問題解決能力の育成を行っている。

平成 23 年度に実施したプロジェクトは以下の通りである。

- (a) 高専ロボコン
- (b) 高専プロコン
- (c) 高専デザコン
- (d) ソーラーカー
- (e) ソーラープレーン
- (f) ソーラーバイスクル
- (g) 川崎ロボット
- (h) エコラン
- (i) 中庭鉄道
- (j) ロボット基礎応用

以上のプロジェクト活動の中で、応用技術センターが取り組む主な学生支援は以下の通りである。

- ・ 各プロジェクトの目標、スケジュールの設定を行い年間通じて実施する
- ・ プロジェクトメンバー及びプロジェクト間での協力のもとに中間発表、育英祭展示、報告会を実施しコミュニケーション能力を育成する。プロジェクト活動報告会の資料を資料 2-1-③-12 に示す。
- ・ 外部組織の競技会やイベントへの参加により社会の情勢に触れる

資料2-1-③-10

開講年度	2012年度			
授業科目	対象学科	対象学年	開講期間	単位数
プロジェクト実習	電気工学科	1年	通年	1
英語名称	履修形態	単位数	授業形態の時間内訳 (hour)	実習
Project Laboratory	自由選択	4.5		18
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
渡邊 聡	電気工学科・准教授	219	授業終了後	watanabe
齊藤 純	電気工学科・講師	215	授業終了後	saitoj
島津 豊	デザイン学科・非常勤講師			
織田 豊一	デザイン学科・非常勤講師			
学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
EE-1, EE-2, EE-3, EE-4, EE-5	-			
授業概要	技術的な課題の成果を上げることを目的として学年・学科を超えてプロジェクトを立案し実行する。自ら問題を提起し解決していくことを体験する。ものづくりの創意工夫や技能と技術の修得、また積極的に社会と係わり合い、社会性、協調性や国際性を育成する			
到達目標	<input type="checkbox"/> プロジェクトの企画・基本方針・目標と個人の学習目標を設定することができる。 <input type="checkbox"/> 年間の活動の報告（口頭発表・レポート）ができる。			
授業方法	学年を超えて各種のテーマについてプロジェクトを立案し目的を達成するための計画にもとづき実行する。必要に応じて勉強会を行い、その成果について中間発表を含め報告会を実施する。さらに個人レポートにまとめ提出する。			
教科書				
補助教材				
評価方法	<p>学生自身が換算できるように算出方法や採点項目を明記すること</p> <p>普段点（出席・中間発表・成果発表・報告会）30%、活動報告書レポート70%で評価する。 出席数が規定を超えた場合は、レポート未提出の場合は無評価となる。 電気工学科は卒業単位、他学科は特別認定単位となる。</p>			
関連科目	電気回路、電気機器学、機械工学、電気回路、通信工学、電気応用			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
1	1.5	ガイダンス □通常授業とプロジェクト実習の違いを理解できる
1	1.5	プロジェクトの立案・計画 □企画書、基本方針、目標設定、個人目標を立案できる
2	3	講習会 □講習会の目的を理解し実習ができる
2	3	報告会 □活動の成果をまとめ、報告することができる
4	6	実習 □目的に向かって活動ができる
1	1.5	中間報告会 □プロジェクトとしての活動報告や問題提起ができる
2	3	育英祭展示 □活動内容をわかりやすく説明することができる
2	3	プロジェクト活動報告会 □他のプロジェクトと協力で報告会を運営し活動報告ができる
(参考) 23年度のプロジェクト HONDAエコマイレージチャレンジ ソーラーカー かわさきロボット競技会 ソーラープレーン ソーラーバイシクル 中庭鐵道 ロボット基礎活用 NHK高専ロボコン 高専デザインコンペティション 高専プログラミングコンテスト		

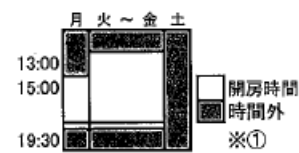
資料 2 - 1 - ③ - 1 1

夢工房利用願書

学校長 小島知博殿
 応用技術センター長 渡邊 聡殿
 工房長 秦 和也殿

下記の通り夢工房を使用したいので許可して下さるようお願い致します
記

許可番号



日時 月 日() : ~ : 19:00終了/19:30施錠

利用者名・研究室
プロジェクト名

担当教員名 印

使用予定機械と作業予定

作業担当責任教員名

担当教員と相談して許可願に記入

担当教員
↓
工房長
許可番号発行
一内線(3280)

※緊急時に必要な連絡先です。
必ず連絡の取れるように記入の事。

工房管理者確認
※②

印

作業者名簿 ◎:当日のリーダー

クラス	番号	名前	クラス	番号	名前
1	◎		8		
2			9		

第7回サレジオ高専プロジェクト活動報告会

— チャレンジ！アクション！感動！心豊かなクリエイティブエンジニアをめざして —

平成24年1月21日（土）
大講義室（119）



セッション1

かわさきロボット
ロボット基礎応用
中庭鐵道
ソーラーカー

セッション2

エコノパワー
ソーラーバイク
高専NHKロボコン

セッション3

ソーラープレーン
高専デザインコンペティション
高専プログラミングコンテスト

(4) 地域交流センター

地域交流センターは、学外の諸機関との技術、文化交流を目的として学内各部署と学外機関の連絡、調整に当たる。開かれた高専教育の実践の場として産学連携、学校間連携、地域連携という3つの分野を担当し、教育目的の一つである学外に向けての教育、研究、情報の交流を図ることがセンターの目標である。

- (1) 産学公連携
- (2) 学校間連携
- (3) 地域連携

産学連携においては新キャンパスの立地を生かし、TAMA-TLO、八王子サイバーシルクロード、相模原 SIC、多摩南西フォーラム等に加盟し、今後の連携を期待されている。学校間連携については八王子 24 大学、近隣大学と本校専攻科間における単位互換協定の締結などの実績をあげている。地域連携は本校の立地要件が八王子市、相模原市に隣接する町田市であることから、地域からのニーズやオファーが多く寄せられており、地域交流センターの各部署およびボランティア委員会の活動に参加し、成果を上げている。

地域交流センターでは、八王子学園都市大学いちょう塾、さがまちコンソーシアム市民大学等において、各種の公開講座を実施している。講座内容を下記に記す。

[八王子都市大学いちょう塾] 資料2-1-③-13

- ・はじめての狂言ー狂言を楽しむー
- ・English in the News ～時事問題から英語を理解する～
- ・はじめての陶芸 ～基礎から学ぶ「やきもの」～
～ろくろで作る「やきもの」～
- ・基礎からの木工 ～無垢の木を使用して木材工芸に挑戦～
～小型電動工具と治具を使った箱物製作～

[さがまちコンソーシアム市民大学] 資料2-1-③-14

- ・Active English in the News ～

[学内スクーリング] 資料2-1-③-15, 16

近隣の小中学生を対象に講座（スクーリング）を開講、本校の教育成果を展示・体験講座を通して公開してきた。

開講のご案内

八王子学園都市大学

2012年7月15日

TEL: 042-646-5621 FAX: 042-646-5622
http://www.shuei.ac.jp/~univ/center/

いちよう塾

大学入試準備講座

学びの秋、知る楽しさ発見!

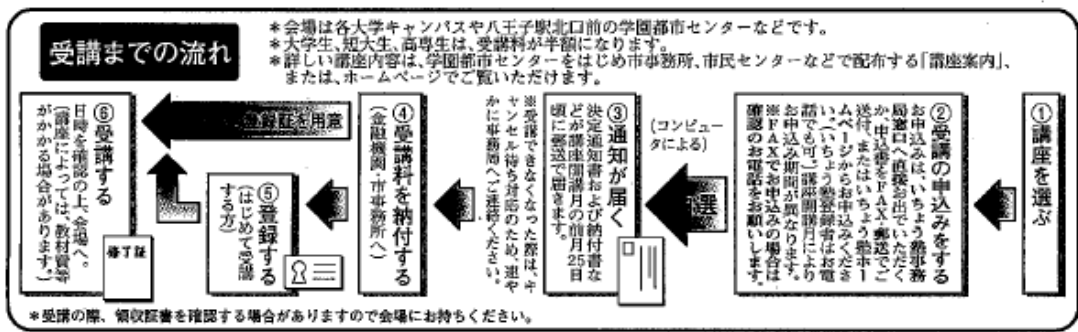
大学で学ぶ 駅前で学ぶ 175講座

後期(9~3月)開講講座の受講生募集!!

講師は主に八王子地域の23大学等の教員が担当する社会人向け講座です。地域の文化や自然などを学ぶ「八王子学」をはじめ、芸術・科学・政治・健康・教育など多彩な分野にわたり、毎回熱心な講義が行なわれています。平日の講座はもちろん、ライフスタイルに合わせて夜間・土曜日の講座や託児付きの講座もあります。回数は1回講座から、30回講座まであります。この秋、新たな自分を発見する「学び」をいちよう塾が応援します。



平成23年度講座「放送メディアからみた電報」(学園都市センターにて)



資料2-1-③-13 続き

芸術・デザイン・資格・教養・趣味

申込期間／開講月の前々月の15日～前月の15日(定員に満たない場合は、申込期間終了後でも受付いたします。)

番号	講座名	回数	期間	曜日	時間	受講料	定員	会場	提供機関	講師	
11-15	東アジアを考える	1	11/24	土	13:00~17:40	2,000円	10名	八王子セミナーハウス	公益財団法人 八王子セミナーハウス	三谷 博也	
11-19	基礎からの木工(11月開講・午前コース) ～無垢の木を使用して木材工芸に挑戦～	教	6	11/17~1/5	土	9:30~12:30	11,000円	6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	秦 和也
11-20	基礎からの木工(11月開講・午後コース) ～小型電動工具と治具を使った箱物製作～	教	6	11/17~1/5	土	14:00~17:00	11,000円	6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	秦 和也
1-1	フォトショップでデジタル写真を美しく【初級編】 ～パソコンでフォトレタッチを始めよう～	7	1/12~3/23	土	10:30~12:00	4,500円	20名	デジタルハリウッド大学	デジタルハリウッド大学	川元 卓央	
1-2	絵・絵画実技入門～デッサン・水彩画・細密画～ ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	教	10	1/16~3/20 ※3/20休	水	9:20~10:50 11:00~12:30	7,500円	各コース15名	工学院大学	工学院大学	大竹 教人
1-3	絵・デッサン実技入門～基礎 ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	教	10	1/16~3/20 ※3/20休	水	13:20~14:50 15:00~16:30	7,500円	各コース15名	工学院大学	工学院大学	大竹 教人
1-4	絵・絵画実技基礎～中級クラス～ ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	教	10	1/17~3/21	木	9:20~10:50 11:00~12:20	7,500円	各コース15名	工学院大学	工学院大学	大竹 教人
1-5	絵画実技基礎 補習クラス ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	教	10	1/17~3/28	木	13:20~14:50 15:00~16:30	7,500円	各コース15名	工学院大学	工学院大学	大竹 教人
2-1	狂言体験入門講座 ～狂言鑑を楽しむ(そのI)～	3	2/2~2/16	土	15:20~16:50	2,000円	20名	学園都市センター	サレジオ工業高等専門学校	野島 伸仁	
2-2	基礎からの木工(2月開講・午前コース) ～無垢の木を使用して木材工芸に挑戦～	教	6	2/9~3/16	土	9:30~12:30	11,000円	6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	秦 和也
2-3	陶芸(2月開講コース)「ろくろ」で作る「やきもの」 ～自然エネルギーを活用した災害に強い環境エネルギー社会～	教	6	2/9~3/16	土	13:00~16:00 16:30~19:30	11,000円	各コース6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	小西 均也
2-4	基礎からの木工(2月開講・午後コース) ～小型電動工具と治具を使った箱物製作～	教	6	2/9~3/16	土	14:00~17:00	11,000円	6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	秦 和也

公開講座 無料

申込み・登録などは不要です。日時・会場をお確かめの上、直接会場へお越しください。(先着順)

開講日	時間	講座名	分野	提供機関	講師	会場	定員
9月	8日(日)	13:30~15:00	TPP交渉の展望と課題	経済	杏林大学 久野 新 総合政策学部 講師	学園都市センター イベントホール	216名
		15:20~16:50	現代医療の光と影 ～健康が義務となる社会～	教養	ヤマザキ学園大学 関 正勝 動物看護学部 動物看護学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
			スマートグリッド・スマートコミュニティのめざすもの ～自然エネルギーを活用した災害に強い環境エネルギー社会～	科学	明星大学 伊庭 健二 理工学部 総合理工学科 教授・学長補佐	明星大学キャンパス 26号館 101教室	120名
	10日(月)	10:20~11:50	幸福の経済学 ～「よき生」と経済的豊かさの関係について～	経済	創価大学 高木 功 経済学部 経済学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
	15日(日)	10:20~11:50	乳がんの、いろいろ ～わかりやすい「検診・診断・治療」～	健康	東海大学八王子病院 鈴木 育宏 乳腺・内分泌外科 准教授		
		13:30~15:00	オーダーメイド医療へのアプローチ ～患者さん一人ひとりに適した薬の投与法を考える～	健康	東京薬科大学 古田 隆 薬学部 教授	学園都市センター イベントホール	216名
10月	18日(火)	15:20~16:50	乳がんの診断と治療 ～乳がんをよく知ることがあなたの命を守ります～	健康	東京医科大学 八王子医療センター 林 光弘 乳腺科 科長 准教授		
		17:50~19:20	天草版平家物語～キリシタン資料の世界～	言語	杏林大学 玉村 祐郎 外国語学部 大学院 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
	29日(日)	13:30~15:00	国際政治の歴史と展望	政治	杏林大学 藤村 直孝 総合政策学部 講師	学園都市センター イベントホール	216名
		15:20~16:50	八王子の生きもの栄枯盛衰 ～生物多様性とは何か～	自然	八王子市総合政策部 市史編さん室 須田 孫七 東京大学 総合研究博物館 研究員		
	6日(日)	15:20~16:50	血管内カテーテル手術の最新治療 ～体に優しく動脈硬化やがんを治して寿命を延ばしましょう～	健康	東海大学八王子病院 長谷部 光典 放射線科 教授	学園都市センター イベントホール	216名
	13日(日)	10:20~11:50	動物の家畜化の歴史 ～犬は最初に人と生活をともにした動物～	教養	ヤマザキ学園大学 鎌田 壽彦 動物看護学部 動物看護学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
13:30~15:00		「古事記」誕生1300年 ～神話・伝説・歴史書の中のヒロインたち～	文学	創価大学 西田 祐元 文学部 人間学科 教授			
11月	14:00~16:00	レクチャー・コンサート：オルガンと声で巡るパッサへの旅	芸術	東京純心女子大学 保多 由子 現代文化学部 芸術文化学科 特任教授 米沢(鈴木) 篤子 現代文化学部 こども文化学科 准教授	東京純心女子大学 キャンパス 真直記念講堂	800名	
	15日(月)	10:20~11:50	イヌの特性 ～現代、犬種事情～	文化	ヤマザキ学園大学 福山 貴昭 動物看護学部 動物看護学科 非常勤講師	学園都市センター 第1セミナー室	56名
	19日(金)	18:30~20:00	不思議な科学のはなし ～最先端科学が拓く、時間と空間と光の速さの不思議な世界～	科学	創価大学 石井 良夫 工学部 情報システム工学科 准教授		
		13:30~15:00	薬を知り正しく用いれば健康危うからず！ ～OTC医薬品の上手な利用法とセルフメディケーション～	健康	東京薬科大学 渡辺 隆三 薬学部 教授	学園都市センター イベントホール	216名
	20日(日)	15:20~16:50	癌の本性を学ぼう ～腫瘍は体中のいろいろな種類の正常細胞から出てくる～	健康	東京薬科大学 濱田 洋文 生命科学部 教授		
		15:20~16:50	派遣という働き方 ～派遣で働く人、派遣を受け入れる人のための法律知識～	法律	中央大学 角田 邦雄 名誉教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
26日(金)	10:00~11:30	「彫刻もあるまちづくり」考 パートIII ～景色の句読点を見つけて(味わって)みよう～	芸術	八王子市 市民活動推進部 大 浩 彫刻家	八王子市役所本庁舎 7階 702会議室	30名	
12月	3日(日)	10:20~11:50	「子どもの歌：その変遷と未来への展望」	教育	創価大学 足立 広美 教育学部 児童教育学科 准教授	学園都市センター 第5セミナー室	42名
		13:30~15:00	生命科学が創る環境にやさしいエネルギー ～エネルギー問題について一緒に考えませんか～	環境	東京薬科大学 渡邊 一哉 生命科学部 教授	学園都市センター イベントホール	216名
	27日(日)	14:00~16:00	裁判員制度による模擬裁判	法律	日本文化大学 橋本 慎治 法学部 法学科 教授	日本文化大学キャンパス 模擬法廷	70名
		15:20~16:50	「向日葵」はなぜ「ひまわり」と読むのか ～熟字訓について～	言語	放送大学 虎尾 禎秀 清泉女子大学 文学部 教授	学園都市センター イベントホール	216名
	3日(日)	10:20~11:50	水資源と法 ～地下水の保全と利用をめぐる～	法律	創価大学 宮崎 淳 法学部 法律学科 教授		
		13:10~16:00	税を考える ～相続税と贈与税	法律	「租税教育推進宣言」の街「八王子」協議会 八王子税務署 八王子都税事務所 八王子市役所 東京税理士会八王子支部	学園都市センター 第1セミナー室	56名
10日(日)	10:20~11:50	頭が痛いそれってどうする？ ～怖い頭痛ってなに？～	健康	東海大学八王子病院 大龍 辻尚 神経内科 准教授	学園都市センター イベントホール	216名	
	10:20~11:50	退職者のための地域デビュー ～地域活動はじめてのステップ～	ボランティア	八王子市民活動協議会 瀬沼 彰彰 桜美林大学 名誉教授	学園都市センター 第5セミナー室	42名	
	13:30~15:00	前立腺がんに対する放射線治療 ～密封小線源療法と放射線外照射療法について～	健康	東海大学八王子病院 菅原 真友 放射線治療科 准教授			
	15:20~16:50	古事記1300年をを活かし、神話のふるさと出發へ ～神話から歴史へ、歴史から神話へ、～	歴史	八王子市総合政策部 市史編さん室 関 和彦 八王子市市史編さん 原始古代部会長	学園都市センター イベントホール	216名	
24日(日)	10:20~11:50	グローバル経済から見た環境地理 ～世界地図の見方・楽しみ方～	経済	法政大学 近藤 兼夫 比較経済研究所 専任研究員			
12月	15日(日)	13:30~15:00	学習理論とツングレーニング ～イヌのしつけの考え方～	科学	ヤマザキ学園大学 堀井 隆行 動物看護学部 動物看護学科 助教	学園都市センター イベントホール	216名
1月	12日(日)	10:20~11:50	幸せの国・フータンを旅して学んだこと ～考え方を改めて、日常生活をイキイキ楽しく～	教養	帝京大学 河野 正光 経済学部 観光経営学科 教授	南大沢文化会館 多目的室	80名
		13:30~15:00	街づくり講座「南大沢を暮らしやすい美しい街に」 ～手始めに欧米の事例を検証しましょう～	文化	帝京大学 今井 昭正 国際部門 アドバイザー		
2月	8日(金)	18:30~20:00	長寿企業に学ぶ「社会と共生する企業経営」 ～社会と共生する長期的視点の経営の強さを考える～	経営	創価大学 岡島 弘行 経営学部 経営学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名

資料2-1-③-14

市民大学

主催 市民大学開催校・相模原市教育委員会・座間市教育委員会
運営 公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム

相	模	原
座		間

平成**24**年度 ■ 後期 ■

大学・専門学校・
公共施設で
教授や講師の
講義に学ぶ。

参加・開催校一覧

- 相模女子大学コース
- 麻布大学コース
- 職業能力開発総合大学校コース
- 和泉短期大学コース
- 女子美術大学コース
- 北里大学コース
- 総合電子専門学校コース
- 桜美林大学コース
- 青山学院大学コース
- 多摩美術大学コース
- 東京家政学院大学コース
- 東京女学館大学コース
- 法政大学コース
- 総合研究大学院大学コース
- サレジオ工業高等専門学校コース
- 玉川大学コース
- 和光大学コース
- 相模原市総合学習センターコース
- 座間市生涯学習課コース



相模原・座間に在住/在勤/在学の
15才以上の方なら、
どなたでも受講できます。

※市民大学は、学校教育法上の大学ではありません。

資料2-1-③-14 続き

総合研究大学院大学コース

所在地：相模原市中央区由野台3-1-1

★会場：宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所

※JR横浜線 湯野温泉駅 南口下車 徒歩20分

または湘36,37系統 青葉循環湯野温泉駅南口行バス「市立博物館前」下車 徒歩3分

※小田急線 相模大野駅 相02系統 相模原駅南口行バス「宇宙科学研究所本館」下車 徒歩5分

宇宙科学の最前線

相模原市にある JAXA 宇宙科学研究所は、日本の宇宙科学の研究と、大学院教育の拠点となっています。ここでは理学と工学の広い分野をカバーする研究者がタッグを組んで研究開発を行い、小惑星探査機「はやぶさ」に代表される世界的な成果を挙げてきました。講義では、ふだんあまり触ることのないこれらの宇宙科学の最先端について、天文観測、太陽系探査、宇宙工学、そして宇宙での無重力実験をテーマとして取り上げ、その中心にいる一流の研究者たちがやさしく解説します。

なお、内容は平成23年度に実施した同名の講義とほぼ同じです。

【受講料】 1,000円

【受講料以外の費用】 なし

【時間・場所・定員】

- 10:00~12:00
- 2階大会議場
- 定員80名

【その他】

- 科学に強い関心と知識がある方にも、科学に苦手意識がある方にも、興味を持って聴講いただける講義を目指します。画像や動画を多用し、数式は使いません。
- 事前の準備や当日持参いただくものは特にありません。
- 入場時には門衛所で受付をお済ませください。
- 講義終了後にはキャンパス内の展示室やロケットの実機展示などを自由に見学いただくことができます。(講義の受講とは関係なく、見学は自由になれます。)
- 展示室には宇宙関係の一般書を集めた文庫があり、その場で調べ物をしていただくことができます。

【講師】 ①教授 佐藤 毅彦
②准教授 西山 和孝
③教授 松原 英雄
④准教授 黒谷 明美

【開講日と内容】 (全4回)

- ①10月 6日(土)
地球の兄弟星を調べる惑星探査
- ②10月13日(土)
小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦
- ③10月20日(土)
赤外線でさぐる宇宙のはて
- ④10月27日(土)
宇宙生物学への招待

サレジオ工業高等専門学校コース

所在地：町田市小山ヶ丘4-6-8

※京王相模原線 多摩境駅下車 徒歩10分

※JR横浜線・京王相模原線 橋本駅北口6番バス乗り場より【橋76】神奈中多摩車庫行バス「響きの丘」下車すぐ

Active English in the News

Extend your English skills! Increase your vocabulary! Gain more confidence in your English ability! Teacher and students join in a series of guided discussions that will be based on recent news stories. Class materials will be provided but students will need to bring notepaper, a pen, and maybe a dictionary.

【受講料】 1,500円

【受講料以外の費用】 なし

【時間・場所・定員】

- 18:30~20:00
- 229教室
- 定員15名

【その他】

- 先生と学生が英文ニュースについて互いに意見を示し、討論します。タイムリーな記事を取り上げるため、予定のタイトル通りにならないこともあります。
- 中級レベル (TOEIC SCORE 450~500位) の方を対象とします。
- PC、辞書、ノートの持ち込みは可能です。
- 文法の要点は受講者が希望する程度にピックアップして解説します。

【講師】 講師 Paul McCann

【開講日と内容】 (全7回)

- ①10月 1日(月) Science - Emotions
- ②10月16日(月) International Aid or Not?
- ③11月 5日(月) Health- How to Stay Young
- ④11月19日(月) Money
- ⑤12月 3日(月) World Politics
- ⑥12月17日(月) Heading into winter
- ⑦ 1月21日(月) What is next for Japan?

資料2-1-③-16

「第2回夏休み子どもいちよう塾」

「大学コンソーシアム八王子」の加盟校が、連携して小学校の教育課程の全領域をカバーしている特色を活かし、八王子地域の小学生4～6年生及びその保護者を対象に「夏休み子どもいちよう塾」を開講します。ぜひご参加ください。

講座内容や申込方法等、詳細は大学コンソーシアム八王子のホームページをご覧ください。お電話でお問合せください。

日 時 7月29日(日) 午前の部 10時30分から12時00分まで
午後の部 2時00分から 3時30分まで

※「にじみ絵を描いてみよう!」 「ARTSAT:衛星芸術プロジェクト 講演会・パネル展」は午前・午後通しで実施します。

会 場 学園都市センター

参加資格 市内小学4～6年生(保護者同伴)

募集人数 各10名

応募締切 7月10日(火) 必着

参加費 500円(ARTSAT:衛星芸術プロジェクト 講演会・パネル展は無料)

お問合せ 大学コンソーシアム八王子事務局 TEL:042-646-6740 FAX:646-2663

<http://www.conso-hachioji.or.jp/>

〒192-0083 八王子市旭町9-1 八王子東急スクエアビル11F

八王子市学園都市センター内

	科目	提供大学名	講座名
1	英語	東京純心女子大学	身体活動を使って英語で遊ぼう
2	国語	明星大学	朗読を楽しもう!
3	算数	東京工業高等専門学校	数の不思議
4	社会	創価大学	八王子の偉人に学ぶ
5	社会	日本文化大学	君も裁判員に挑戦しよう!
6	理科	工学院大学	オリジナルムードライトを作ろう!
7	理科	東京薬科大学	体の発達・成長をあやつるホルモン
8	理科	拓殖大学	ミニロボットを作ろう!
9	理科	サレジオ工業高等専門学校	紙ヒコーキを飛ばそう
10	図画工作	多摩美術大学	にじみ絵を描いてみよう!
11	家庭科	東京家政学院大学	好きなファッションイメージの髪飾り作り
12	その他	多摩美術大学	ARTSAT:衛星芸術プロジェクト 講演会・パネル展

(5) 国際交流センター

本校の教育目的である「国際性」を受け、国際交流センターは、本校学生の国際的活動、短期外国人学生の日本での活動を支援し、企画・実施するとともに、留学生の教育活動として日常生活がより快適に行われるよう、次のような活動を目的としている。

- 1.国際学術交流協定締結に関する手続き
- 2.海外姉妹校・教育機関・諸機関からの公式訪問に関係する学内調整（資料2-1-③-17）
- 3.海外来訪学生に対する日本文化紹介、文化体験などの企画・実施
- 4.本校へ入学を希望している外国人学生に対する入試情報の提供
- 5.留学生への在留資格・査証および奨学金などの情報提供、日本語講座の開講
- 6.交換留学を希望する学生への情報提供及び手続き

国際交流センターが取り組む学生支援活動として、豊かな人間性を育む以下の取組を行っている。

- ・海外ボランティア活動 [2年次以上学生対象]として、サレジオ姉妹校をベースとした活動をアジア最貧国である東ティモールで奉仕活動を行っている。（資料2-1-③-18）
- ・オーストラリア・ホームステイ [1,2年次学生対象]として、サレジオ姉妹校をベースとした相互ホームステイを行っている。
- ・ヨーロッパでの研修を通し、世界のサレジオ会と繋がっていることを学んでいる。（資料2-1-③-19）

また、学生のニーズや社会からの要請を取り入れるための取組として、海外研修後には報告会[全学年学生・父母対象]を開いている。さらに、在外公館や在日公館との連携として、在東ティモール大使館および在東京東ティモール大使館との友好的な関係形成を図っている。

(分析結果とその根拠理由)

以上のような分析結果と多くの実例から、観点の趣旨を十分満たしていると考えられる。なお、各センターにおける詳細な活動状況については基準7、基準8に譲る。

資料2-1-③-17

Don Bosco Technical College 2012 受入日程表

		DBTC日程		担当教職員	担当学生	学校	
3	土	0930	SP教員学校出発(バス0900からOK)		西野 村田 伊藤	寮生 5EE横山 4CS藤巻	育英祭 ①
		1300	バス成田着				
		1315	成田着(Delta172)				
		1400	バス内昼食(サンドイッチ&ジュース)				
		1730	オリエンテーション(校長・チャプレン紹介) 231 [タオルセット・ボールペン・おやつ等]				
		1830	夕食(Mr.Maxフードコート) バス2100必着(返却)				
		宿泊	2 Staff (村田車) 東横イン	10 Boys 多摩境寮			
4	日	0845	(朝食→Boys:学食) 学校着 Staff(村田車)&Boys(5EE横山):事務会議室(105)		校長 中田 西野 村田 マルクス 椎名 和田 伊藤	寮生 5EE横山 4CS藤巻	育英祭 ②
		0910	ウェルカムセレモニー(校庭) スピーチ:小島校長・藤巻				
		1000	ミサ(チャペル) :中田・マルクス				
			育英祭見学・参加(対応担当:フィリピン渡航学生10名) 1200プラバンコンサート・1400折り紙体験5AD石田さん Staff 各種ミーティング&村田先生アテンド				
		1800	夕食(Staff食卓会[校長主催]・Boys:学食夕食)				
		宿泊	2 Staff (村田車) 東横イン	10 Boys 多摩境寮			
		5	月	0920			
1100	御殿場(駒門風穴→時の栖(昼食))						
1200	昼食						
1300	御殿場(秩父宮記念公園→青少年の家)						
1800	夕食(国立中央青少年交流の家:15名)						
宿泊	2 Staff 国立中央青少年交流の家(御殿場)			10 Boys			
6	火			0800	朝食(国立中央青少年交流の家:15名)		西野 椎名 伊藤
		0930	御殿場(→箱根ハイキング観光、私案①、②、③別紙参照)				
		1200	昼食				
		1300	箱根ハイキング観光→帰路				
		1800	夕食(Staff:椎名、Boys: Mr.Max伊藤)				
		宿泊	2 Staff (椎名車) 東横イン	10 Boys 多摩境寮			

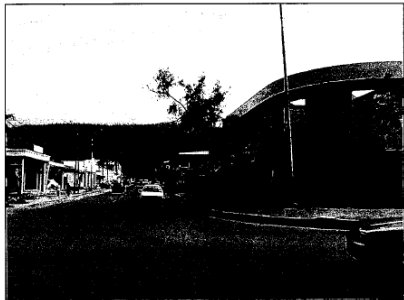
11

資料2-1-③-18

サレジオ工業高等専門学校
海外ボランティア活動


東ティモール

2012





資料2-1-③-19

**イタリア語語学旅行
ヨーロッパ文化体験ツアー**



目的

- ◆ 西欧文化の源泉に触れながら、美術・建築・語学への造詣を深める
- ◆ 全世界に1500校近くあるサレジオの姉妹校を訪問し、交流を深める
- ◆ 創立者ドン・ボスコの故郷トリノを訪れ、サレジオの源泉を知る



観点2-2-①：教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

(観点に係る状況)

校長のもとに最高諮問機関として学校運営会議(AMC 以下同)が組織され、学校内における統括的的案件について審議し合意を得て校長の諮問に応える。

また学校長のもとに2人の部門長が統括する教育部門と事務部門を置き、それぞれ教育部門担当副校長と事務長がこれらを所管する。この他に、校長直轄の部門もある。これらの全体像を資料2-2-①-1、2に示す。

教育部門は、副校長のもとに4名の副校長補佐(教務主事、学生主事、専攻科長、教育支援担当)および7名の学科長等(一般教育科長、デザイン学科長、電気工学科長、機械電子工学科長、情報工学科長、プレテック主事、寮務主事)を配し、月1回開催される教育運営会議(EMC 以下同)において学科横断的な共通案件を審議・決定し、その中で重要なものはAMCの審議を経て校長の裁可を受ける手順で運営されている。教務主事は、各学科から選出された教務担当者で構成された教務部会を統括して、授業時間割、学年暦、試験実施・成績評価等の運用責任者である。学生主事は、各学科から選出された学生担当者で構成された学生部会を統括して、主に学生の操行に係わる案件の運用責任者である。教育支援担当補佐は、総合メディアセンター、応用技術センター、地域交流センター、国際交流センターの4センターを統括する。キャリアセンターについては、副校長が運営責任者となる。専攻科長と他の学科長は、各科を掌握し、その運営責任者となる。プレテック主事は、低学年(1・2年)に特化して、学科横断的な共通の課題に取り組む。寮務主事は、寮の運営責任者である。

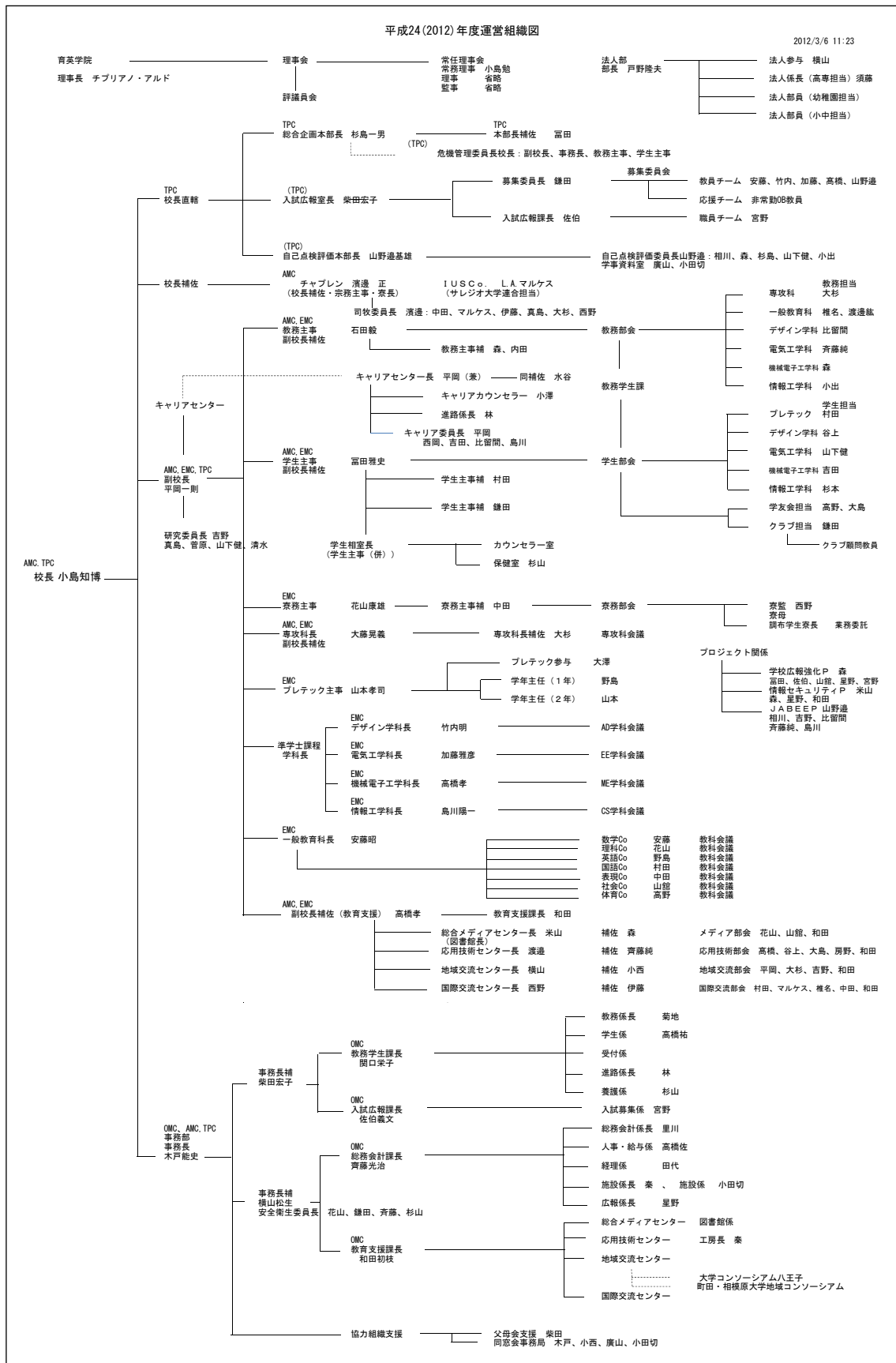
事務部門は、事務長のもとに2名の事務長補を配し、教務学生課、入試広報課、総務会計課、教育支援課の4課からなる。教務学生課は教務部・学生部と連携して教務、学生支援等の業務に従事する。入試広報課は、入試広報室長のもと教員組織である学生募集委員会と連携して、学生募集、入試等の業務に従事する。総務会計課は庶務、施設、経理、人事給与、広報等の業務に従事し、学校全般の円滑な運用に努める。教育支援課は、教育支援副校長補佐のもとで、主に4センター(総合メディア、応用技術、地域交流、国際交流)の円滑な運用を支援する。

資料2-2-①-3~6に、いくつかの会議の議事録例を示す。いずれの会議も定例化している。

(分析結果とその根拠理由)

以上の資料に示される通り、教育課程や、教育運営を行う組織体及び規程等が整備されていることが分析できる。また後段の教務案件、調整案件に対しても対応する会議体での議事録が示され、有効に機能していることが判断できる。

資料2-2-①-1 サレジオ高専組織図



資料2-2-①-2 サレジオ高専会議体

名称	略称	主催者	議事進行	構成メンバー	書記	
学校運営会議	常任理事会		理事長	校長	常務理事、副校長、校長補佐、事務長、法人部長、法人係長	法人担当
	総合企画会議	TPC	校長	総合企画 本部長	副校長、事務長、本部長補佐、広報係長	本部長補
	学校運営会議	AMC	校長	事務長	副校長、事務長、校長補佐、副校長補佐	事務部
部門会議	教育運営会議	EMC	副校長	学生主事	教務・学生・寮務主事、専攻科長、学科長、一般教育科長、プレ主事	教務 主事補
	事務管理職 会議	OMC	事務長	事務長補	事務長補、教務学生課長、総務会計課長、入試広報課長、教育支援課長	事務部
部会	教務部会	教務	教務主事	教務主事	教務主事補、教務部担当	主事補
	学生部会	学生	学生主事	学生主事	学生主事補、学生部担当	主事補
	司牧委員会	宗務	宗務主事	宗務主事	司牧委員	司牧委員
	寮務部会	寮務	寮務主事	寮務主事 補	寮長、寮監、寮母	
	事務部会	事務	事務長	事務長	事務職員（専任）	事務部
	担任会議	担任	学生主事 教務主事	学生主事 補	プレ主事、学年主任、各担任	
連絡会	教職員連絡会	ウイーク リー	校長	総合企画 本部長	教職員全員	事務部

資料2-2-①-3 AMC 会議議事録

日時	平成24年7月25日(水)15:30~17:00	場所	校長室(201)
出席者	小島校長、濱邊宗務主事、平岡副校長、木戸事務長、富田学生主事、石田教務主事、 高橋副校長補佐、横山(書記)		
資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昇任審査手順改定案 2. 人物評価一覧表 3. 2013年度の学校暦作成に向けて 4. 私費留学生への支援体制について 5. 父母相談会質問・相談 6. 2AD野尻湖キャンプについて 7. 研修旅行実施計画 		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野尻湖-学校連絡体制の確定・・・学生主事 <ul style="list-style-type: none"> ・2011年度野尻湖緊急時連絡表 ・事故、病気時の時間外は副校長公用携帯へ連絡 2. 野尻湖実施計画・・・学生主事 <ul style="list-style-type: none"> ・別途資料あり。 3. 研修旅行実施計画と協力依頼・・・学生主事 <ul style="list-style-type: none"> ・別紙資料あり。 ・石田先生が補佐として同行する。 4. 2AD野尻湖キャンプの許可・・・学生主事 <ul style="list-style-type: none"> ・2ADの学生より8月末頃使用許可が出ている。 ・高野先生、椎名先生が引率 ・交通手段はバス(椎名先生が同行)、高野先生は緊急事態に備え自家用車にて ・計画がしっかりしているようなので許可 ・教員は出張扱いとする。但し費用の発生しない出張とする。 ・別途学生個人で保険加入を条件とする。 ・施設使用料は徴収しない。(現役学生の為) ・今後の利用申請は6月末を締め切りとする。 ・今後の利用申請に備え検討する必要がある。 5. 私費留学生への支援体制について(国際交流室)・・・副校長 <ul style="list-style-type: none"> ・前回提出書類を一部改定した。(留学生への日本語の事前教育) 6. 昇任(教員)審査手順の改定・・・副校長 <ul style="list-style-type: none"> ・別紙資料あり。新たに人物評価表を作成。 ・一部修正をする。 7. 父母懇談会報告まとめ・・・教務主事 <ul style="list-style-type: none"> ・別紙資料あり。 ・6月30日の父母懇談会時の質問、相談事項一覧報告 8. 2013年度学年暦・・・教務主事 (以下省略) 		

資料2-2-①-4 EMC会議議事録

EMC会議 会議録

日時 2012年7月7日(土) 10:00-11:10 @231会議室
出席 平岡副校長、富田学生主事、大藤AC科長、竹内AD科長、加藤EE科長、高橋ME科長、島川CS科長、安藤GE科長、西野寮務主事補(代理)、石田教務主事(記録)

配布物

1. 議事案
2. 入試作問委員会の設立について
3. 保護者によるキャリアデー講師の募集

議事進行

1. 平岡副校長から
 - A. 副校長として
 - 来年度の専攻科レビューにおけるAD科の扱い
 今後、体制が整ったタイミングで申請するものとする
 来年度の申請ではAD科を外す(AMCでの承認済)
 - H24年度個人目標へのコメント
 貢献度の考え方を説明した(難易度に代わる指標:貢献度A~C)
 貢献度A: リーダーとして活躍 and 高い目標レベル
 貢献度B: リーダーとして活躍 or 高い目標レベル
 貢献度C: 個人レベルでの活動
 部署長に見直しを依頼中
 - 入試作問委員会
 校長からの要望を受けて、教員側の窓口を一本化
 副校長 + GE科長 + 英数国の教科コーディネータで組織
 AD> 学科の特殊性を勘案して入試のあり方をEMC側から提言できてもいいのでは?
 例えば、面接試験の中で実技的な問答を取り入れるとか...
 要望についてはEMC意見としてまとめて入試広報室に提案する
 - 特待生面接
 EE, CSから報告なし → 早急な提出を再依頼
 - 今後の人事関係日程
 業績一覧が提出済 → 学科間の点数差が目立つ → あくまでも目安として活用
 (総平均47, ME > EE > CS, GE, AD)
 人物評価の評価ルーブリックスを作成中 → 7月末を目処に任用
 AD> 評価基準を開示することで学校が求める人物像が明確になるので積極的に実施を
 9月頃を目処に管理職を含めた人事案を提示予定
 教務> クラス担任も9月には決めて欲しい
 - B. キャリアセンター長として
 - 就活支援
 電気系ですべて50%を越えたが、他校に比べると決まり方がまだ遅い
 企業研究、面接練習、履歴書指導を各学科で徹底して指導して欲しい
 - 企業からの本校教育に対する要望
 形式不問で随時情報を寄せて欲しい(口頭、メールも可)

資料2-2-①-5 教務部会議事録

教務部会議事録

2012年6月18日

文責：森 幸男

1. 日時・場所
2012年6月18日(土) 9:00~9:45 231室
2. 出席者(敬称略)
石田, 大杉, 椎名, 渡辺紘, 比留間, 斉藤, 小出, 内田, 菊地, 森(記録)
3. 報告事項
 - 授業時間割、最新版は5/2付
 - 学年暦、最新版は6/11付
→ 9/26(水)FDが追加された
 - 認定試験報告、4,5月期と無事完了
→ 運用上の問題は挙がらなかった
※認定補講の内容の記録が必要との指摘があった → 自己点検本部の範疇であることを確認した
4. 審議事項
 - 体育実技に参加できない学生の代替評価法について
 - 体育科の評価方法で、教務部会としても了解した
 - シラバス記載方法とは異なる評価であるので書面を残す
→ 同様案件は今後ともこのように対応する
 - 他にも身体的理由で通常評価できない学生をリストアップする → 依頼事項へ
 - 専攻科と本科の教務規則一本化
 - H23に統一化を行った。H24は内容を整理し統一化する予定
 - 以下の2点に関して、学科等で意見を集約することになった
 - ◇ 欠課時数1/5の廃止
 - ◇ 欠課時数から欠課コマ数への変更
 - 定期試験時の1年教室の扱いについて
 - 運用上についての意見を、学科等で意見を集約することになった
→ 特に、教壇の扱いについての意見を集める
ベターな案が無い場合は、中間試験の方法で期末も実施する
 - 試験の途中退出の規則の見直しの要望があった…以下のような問題点が挙がった
 - ◇ 終了5分前には退出させたくない(答案回収に支障がある)
 - ◇ 1-2年では、退出不可であるので試験中寝る学生がいる
→ 意見を集約する
 - 教務主事より定期試験に関する改善案が提案された
 - 急ぎではないが、意見を集約することとなった
 - 試験実施期間について
 - 中間試験の実施方法について
 - 転科に関するマニュアルの見直しが校長より要望された
 - 学科等で意見を集約することとなった

資料2-2-①-6 キャリア委員会議事録

第19回 キャリア委員会 会議録

日時：2012年9月18日（火）11：00～11：55

場所：副校長室（202）

出席：平岡・小澤・柴田・林

進行：平岡

記録：林 欠席：原島

議案：各業務の進捗状況・確認

●キャリア教育

小澤先生

- ・（別紙参照）履歴書仕上げ担当教員は副校長・学科長で選出。Ex) 対象者は事前にジョブ・カード講習を受講してはどうか。
- ・年内に学生へ案内する。

平岡キャリアセンター長

- ・現本科4年・専攻科1年対象のキャリア・オリエンテーションを2/19（火）に実施する。

●就職・進学

林

- ・先週から就職・進学共に進展なし。

●キャリアデー

平岡キャリアセンター長

- ・9/22（土）保護者会で説明する。

水谷キャリアセンター長補佐

- ・保護者講師プロフィール（サンプル）を作成し、事前に保護者講師からプロフィールを集め、学生向け資料とする。
- ・学生へ事前に保護者講師への質問を集め、質問集として保護者講師へ提供する。

柴田事務長補佐

- ・保護者講師16名揃う。

観点2-2-②：一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

本校においては、教育を円滑に進めるための各種会議体や委員会が設けられており、それらは全て一般教育科と専門学科の教員からなる合同体である。

また、定期試験後における成績会議においても、常に一般科教員と専門学科教員が同席し、審議している。

カリキュラムについては、一般教育科と専門学科との間で整合をとるため協議が行われ、カリキュラムの改定が行われたことがある。例えば、専門学科側からは「専門の基礎（たとえば電磁気学、電気回路等）の科目に必要な数学の基礎概念（たとえば三角関数定理や微積分の基礎等）が未習得あるいは未達成であるからなんとかして欲しい」という要望があり、一方一般教育側からは「近年のゆとり教育の影響で中学の学習内容が以前に比べて進行が遅く、高校課程に移行した内容もある。さらに入学する学生のほとんどが公立校出身で、その上、成績中位の生徒が大多数という前提で、専門側の要望に応えるのは困難」という状況認識が示された。これらの議論により、新カリキュラムの編成を行い平成17年度入学生より導入され、21年度に5年次まで完結した。

それ以降、カリキュラムの見直しについては、各学科において若干の改定はあるが、学校全体としての検討を踏まえた見直しは行われていない。来年度は、プロジェクトを立ち上げ、一般科目を含めて全科目を対象とした見直しを行う予定である。

(分析結果とその根拠理由)

会議体や委員会等、日常業務の中では一般教育教員と専門学科教員の意思疎通は十分に図られていると判断できる。カリキュラムについては、前回見直しから7年たっており、日本の製造業を取り巻く環境も大きく変化している中で、早急に直すべき時期であると認識しており、来年度から検討に着手する。

観点2-2-③：教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動支援のための組織と、その報告・連絡・相談（協議）のための会議体を設置している。

教育活動を支援する組織として、教務部、学生部、プレテック、総合メディアセンター、キャリアセンターがある。

教務部は教務主事が掌握し、2名の主事補および各科から選出された教務担当教員と協力して、各種データの収集、整理、配布、公表等により全教員の教育活動を支える。教務部がある教務センターには、事務部問の教務・学生部教務係長を配置し、教務業務をサポ

ートしている。また学事資料室では、担当職員が試験資料・答案の管理、各種資料の作成・保管を行っている。

学生部は学生主事が掌握し、2名の主事補および各科から選出された学生担当教員と協力して、主に学生の操行面について、クラス担任および部活動顧問を支援している。事務部門では、教務学生課が学生主事をサポートしている。

プレテックセンターではプレテック主事が掌握し、プレテック担当の学生主事補と協力して、1・2年学生の心身両面の健全な発達を目的として学級担任の支援を行っている。プレテックセンターには、事務部門のプレテック参加が常駐して、プレテック主事をサポートしている。

総合メディアセンターはセンター長が掌握し、センター長補佐および事務部門の学生支援課長の協力を得て、教育情報を共有するために電子メディア全般（メール、ホームページ、教職員が共有するファイルサーバ等）、および図書館の維持管理を通して、教員を強力に支援している。これらの多くは、パスワード使用により自宅からも閲覧・発信可能となっている。

キャリアセンターではセンター長が掌握し、センター長補佐、キャリアカウンセラー（非常勤）、各科から選出されたキャリア委員および事務部門の進路係長の協力を得て、5年生の就職・進学の実務支援業務ならびに全学年に渡るキャリア教育を通して、教員支援を行っている。

以上のように様々な組織が、いずれも事務部門と協力して、教員支援を行っている。

各組織からの報告・連絡のための会議体として、隔週開かれる全教職員対象のWeeklyがある。その他にも全員あるいは関係者に発信されるメールにより周知徹底され、教員支援に役立っている。

（分析結果とその根拠理由）

以上のように、様々な教育組織が事務部門と協力して教員支援を行っており、これらの物的、人的支援体制を確立することで教育活動が円滑に行われていると判断する。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

観点2-1-① 本校の基本精神はキリスト教精神に基づく人間観を持った善き職業人を養成することであり、その時代の要請に応じて変遷してきた4つの専門学科と専攻科および一般教育学科で構成されており、学校教育法第115条「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を満たしている。特にデザイン学科は、全国高専の中では唯一のデザイン専門の学科であり、産業界に欠かせない貴重なデザイナーを輩出している。

観点2-1-② 専攻科については、電気工学、機械電子工学、情報工学を総合した生産システム工学専攻を設け、学生の多様な専攻と研究分野の希望に答えている。修了後の進路先は、大学院進学と企業への就職に分かれるが、いずれも専攻科で学んだことを生か

せる進路先である。これより、本専攻科の教育内容が適切であると判断できる。進路先の詳しくは、基準6において卒業生の進路に関する資料で述べる。

観点2-1-③ キャリアセンターは、情報を一元管理して学科横断的に就職や進学 of 直接支援を行うと同時に、低学年から将来の進路をまじめに深く考えるように全学年のキャリア教育も担っている。総合メディアセンターは全国の高専に先駆けて、図書館と情報教育センター（情報館）の融合を図り、紙媒体からデジタルメディアまで知的総合メディア空間の確立を図りつつある。応用技術センターは本校のプロジェクト教育（PBL）のメッカとして、国内各大会に実績を挙げ、学生の専門力と人間力の両方を高めるのに成功している。地域交流センターは組織として国内、産学、地域の各方面に多様なアクションを展開し、八王子市、町田市、相模原市の3市から大きな期待を寄せられている。国際交流センターは、本校学生の国際的活動、短期外国人学生の日本での活動を支援するために企画・実施している。これらのセンター業務は、教員と事務職員の協働作業でなされており、幅広い立場での学生支援を実現している。

観点2-2-① 教育活動を有効に展開するための組織体制は整備されており、円滑な運用のための会議体も定期的に会合を開いている。会議体の多くは、学校全体の全体最適を見いだすため、全学科および事務部門からメンバーが選出されている。

観点2-2-② 本校においては、教育を円滑に進めるための各種会議体や委員会が設けられており、それらは全て一般教育科と専門学科の教員からなる合同体である。また、定期試験後における成績会議においても、常に一般科教員と専門学科教員が同席し、審議している。低学年を支援するプレテック組織では、一般教員と専門学科教員の混成チームで学生指導に当たっている。

観点2-2-③ 教育活動を支援する組織として、教務部、学生部、プレテック、総合メディアセンター、キャリアセンターがある。いずれも事務部門と協力して教員支援を行っている。各組織からの報告・連絡のため、隔週開かれる全教職員対象のWeeklyがある。

【改善を要する点】

観点2-1-① 年度によって変動はあるが、入学定員に達していない学科がある。これは東京にある私立高専として学生募集環境が厳しいことが背景にあるが、一層の努力をしなければならない。

観点2-1-② 高等教育機関の証として、JABEE 認証の取得が急務である。2014 年度の取得を目指して準備を進めている。

観点2-1-③ 総合メディアセンター図書館の蔵書が十分更新されていないこと、蔵書数が国立高専に比べて不足なことが上げられるが、電子化の時代に蔵書数だけでない利用価値の高い図書館を目指して、今後さらなる図書館の電子化とともに改善を図る。

観点2-2-① 国立高専に比べ事務職員の人数は少なく、教員の教育・研究以外の負担は大きいと言わざるを得ない。会議体の統合や審議内容の精査を通して、効率化を一層進めなければいけない。

観点2-2-② 一般教育と専門教育の整合を図ったカリキュラムの見直しについて、前回の見直しから7年たっているので、ここで改めて見直しが必要である。来年度の重点施策に予定している。

観点2-2-③ 今後さらに電子会議、BBSなどのグループウェアの導入など教員支援の電子環境を財政の範囲内で充実させたい。

(3) 基準2の自己評価の概要

観点2-1については、本校が私学の建学の精神を生かし、その沿革からも引用できるように電気系とデザイン系の学科を保有し、時代のニーズに適合するよう変革してきた経緯から学科の構成、教育・研究を支援する組織、体制が整備され、機能していると判断する。

観点2-2については、町田移転を契機とした組織体制の変革と整備により、従来の個人の力に異存する体制から組織力を重視する体制に変革してきた。管理職である所属長、部署長のもと学科、教科の教員が一致して改善努力をすすめる基本的職制が確立し、教育部門にあっても、支援部門にあっても常に改革、改善の姿勢でPDCAサイクルを進める条件が整ってきた。これらによって教育を支援する環境が整備されていると考える。

基準 3

教員及び教育支援者

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①：教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

教育目標に掲げる技術者の資質（基礎力、実践力、コミュニケーション力、人間性、国際性）養成に向けて、一般教育科はその基礎となる能力を育成している。

現状において一般教育科には、専任教員21名、非常勤教員24名（資料3-1-①-1、3-1-①-2）を配しており、専門分野ならびに担当教科は、（資料3-1-①-3、3-1-①-4）に示される通りである。それぞれの専門分野に基づいて授業を担当し、教育目的、教育目標を達成するよう教育運営をしている。特に「英語」の授業は、2人で担当しており、「表現」の授業は、さらに多い4人で担当し、教員と学生間のコミュニケーションが取りやすい体制で行っている。したがって教員は、十分かつ適切に配置されていると考えている。

なお高等専門学校設置基準第6条の第2項には第16条に規定する一般教科を担当する専任、教員数は、4学級に編成する場合、18人を下回ってはいけないとある。本校は助教以上が21人であり、設置条件を満たしている。

資料3-1-①-1

一般科目教員の分野と人員数

平成24年5月1日現在

職名	表現	国語	英語 語学	数学	物理 化学	人文 社会	保健 体育	合計
教授				1	1	1		3
准教授	1	1	2	1		2	1	8
講師	4	1	4	1	3	1	1	15
助教				1				1
合計	5	2	6	4	4	4	2	27
非常勤			6	3	2	4	4	19
合計	5	2	12	7	6	8	6	46

資料3-1-①-2

教員現員表

平成24年5月1日現在
(単位：人)

職種	一般	デザイン	電気	機械電子	情報	専攻
教授	安藤 昭	小西 均	加藤 雅彦	大杉 功	杉本 文司	塩田 一路
	小島 知博	杉島 一男	水谷 浩	高橋 孝	山野邊 基雄	大藤 晃義
				平岡 一則	吉村 晋	
				森 幸男		
15	2	2	2	4	3	2
准教授	石田 毅	竹内 明	房野 俊夫	富田 雅史	小出 由起夫	
	鎌田 俊司	比留間 真	山下 健一郎	吉野 純一	島川 陽一	
	マクシ ムイ		渡邊 聡			
	村田 昌巳					
	山館 順					
	山本 孝司					
	米山 秋文					
16	7	2	3	2	2	
講師	相川 智洋	菅原 由佳	齊藤 純	吉田 将司	内田 健	
	伊藤 光雅	谷上 欣也			大島 真樹	
	椎名 正明	西野 隆司				
	高野 修					
	中田 正一郎					
	西岡 広志					
	野島 伸仁					
	花山 康雄					
	濱邊 正					
	真島 顕子					
	松尾 貴哲					
18	11	3	1	1	2	
助教	渡邊 紘		山下 幸三	稲毛 達朗	清水 哲也	
				米盛 弘信		
5	1		1	2	1	
非常勤講師	小川 竜	イ・ソンヒ	鳥羽 敏二	齋藤 努	石川 純夫	齊藤 成一
	満田 深雪	石黒 猛	吉澤 伸幸	福島 正忠	伊原 充博	堤 一郎
	Anat Parnass	井上 謙			宇都木 修一	
	井山 裕文	氏家 和彦			志岐 紀夫	
	生地 裕	織田 豊一				
	大戸 温子	佐久間 善典				
	柿島 新太郎	島津 豊				
	岸 洋一	三河 一郎				
	坂本 太一					
	佐藤 豊					
	Suzanne Mooney					
	中根 弘之					
	番場 直之					
	畑江 孔士朗					
	番場 直之					
	ポール マッカ					
	宮澤 純夫					
	柳澤 秀一					
	大和 正博					
	山本 和義					
	武井 俊裕					
39	21	8	2	2	4	2
93	42	15	9	11	12	4

資料3-1-①-3

一般教育文系教員の専門分野と担当授業科目

平成24年度

職名	氏名	学位/その他	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	小島 知博	修士(神学)	神学	倫理	
准教授	石田 毅	修士(アメリカ研究)	外国語教育	英語, 選択英語Ⅱ, 韓国語	
准教授	鎌田 俊司	修士(教育学)	スポーツ方法学	保健体育, 体育実技	
准教授	Marques Luis	学士	外国語教育	英語, 選択英語Ⅵ, イタリア語Ⅰ, イタリア語Ⅱ	
准教授	村田 昌巳	Ph.D.	日本語学 日本語教育学	国語	(株)ロイヤルホテル勤務1年
准教授	山館 順	修士(文学)	歴史学	現代社会, 歴史, 選・経済学	
准教授	米山 秋文	学士	情報システム学 経営工学	情報倫理, 表現	(株)NJK(日本電気出向)勤務3年、(株)日本ヴァンププラント勤務6年
講師	相川 智洋	修士(教育学)	国語教育	国語	
講師	椎名 正明	修士(文学)	英語学	英語, 選択英語Ⅲ	
講師	高野 修	学士	スポーツ社会学	保健体育, 体育実技	
講師	野島 伸仁	学士	英語学	英語, 選択英語Ⅳ	
講師	濱邊 正	学士	神学	倫理, 表現	
講師	真島 颯子	博士(文学)	英語学/英語史	英語, 英語演習	
講師	松尾 貴哲	修士(文学)	英語学	英語, 英語演習, 選択英語Ⅴ	(株)神奈川新聞社勤務2年
(兼任)講師	伊藤 光雅	博士(理学)	構造地質学 物理教育	表現	丸善(株)勤務3年、(株)れんせい図書館支部勤務3年
(兼任)講師	中田 正一郎	学士	教育工学	表現	
非常勤講師	Anat Parnass	修士	映像芸術	英語	
非常勤講師	井上 温子	修士(人文科学)	中国文学	中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ	
非常勤講師	井山 裕文	修士(歴史民俗資料学)	歴史民俗資料学	現代社会	(株)アドバンス・コンピュータテクノロジクス勤務2年
非常勤講師	生地 裕	法学修士	法学(憲法) 政治学	選・経済学	
非常勤講師	栢島 新太郎	修士(スポーツ科学)	スポーツ科学	保健体育, 体育実技	
非常勤講師	岸 洋一	学士	英語/英文学	英語, 英語演習, 選択英語Ⅲ	
非常勤講師	坂本 太一	修士	体育科学	保健体育, 体育実技	
非常勤講師	Suzanne Mooney	MA	Arts and Virtual Realities	英語	
非常勤講師	武井 俊裕	学士	体育学(武道)	保健体育, 体育実技	
非常勤講師	中根 弘之	修士(文学)	心理学	選・心理学	
非常勤講師	畑江 孔士朗	修士	体育史	保健体育, 体育実技	
非常勤講師	Paul McCann		外国語教育	英語, 選択英語Ⅰ	
非常勤講師	柳澤 秀一	修士(国際関係論)	ロシア現代史 国際政治学	歴史	
非常勤講師	大和 正博	修士(法学)	民法	選・法学	
非常勤講師	番場 直之	修士(経営)	ソフトウェア工学 経営学	英語演習	住友海上システム(株)勤務5年、IBMビジネスコンサルティングサービス(株)勤務5年、2007年(株)パワーファクトリー設立

資料3-1-①-4

一般教育系教員の専門分野と担当授業科目

平成24年度

職名	氏名	学位/その他	専門分野	担当授業科目	実務経歴の状況
教授	安藤 昭	学士	教育工学	基礎数学Ⅰ,基礎数学Ⅱ	
准教授	山本 孝司	学士	教育工学	基礎数学Ⅰ,代数幾何学	
講師	伊藤 光雅	博士(理学)	構造地質学 物理教育	基礎物理Ⅰ,基礎物理Ⅱ,物理	丸善(株)勤務3年,(株)れん せい函館支部勤務3年
講師	中田 正一郎	学士	教育工学	基礎物理Ⅰ,基礎物理Ⅱ	
講師	西岡 広志	学士	教育工学	微分積分学,解析学Ⅰ	
講師	花山 康雄	学士	教育工学	化学	
助教	渡邊 紘	博士(理学)	非線形解析学	基礎数学Ⅱ,微分積分学 解析学Ⅰ	
(兼任) 教授	山野邊 基雄	博士(理学)	素粒子論 場の理論	物理	
非常勤 講師	小川 竜	博士(理学)	微分相幾何学	確率統計学	
非常勤 講師	佐藤 豊	修士(工学)	教育工学 金融工学	確率統計学	国際証券(株)(現三菱UFJ 証券)勤務2年
非常勤 講師	満田 深雪	博士(学術)	理科教育 経営工学	化学,選・有機化学,	
非常勤 講師	宮澤 純夫	学士	教育工学	代数幾何学,解析学Ⅰ	
非常勤 講師	山本 和義	修士(理学)	素粒子論	物理	

(分析結果とその根拠理由)

教育目的、教育目標を達成するよう高専の設置基準を満たしつつ、一般教科担当者が個人の資質と専門分野に応じてすべての教科にわたってバランスよく割り当てられ、適切に配置されている。1, 2 学年の「英語」の授業は、オールラウンドコミュニケーションに力をいれており、1時間の授業を2人の教員で行っている。コミュニケーションスキルの向上を目指した「表現」の授業においても多くの教員が配置されていることは評価できると考えている。

しかしながら、現在は教員の世代交代の状況下にあるため、一般教育科の教授、准教授の層が薄い状態である。教員業績の積み増しを支援して昇任を促し、また外部採用による充足も必要である。

観点3-1-② 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

学校の教育目標を達成するために必要な教員数、また専任で不足する分については非常勤教員を配置している。その人数は(資料3-1-①-2)に示したとおりである。

各学科は、学校の教育目的に沿った学科の目的を策定し、その目的を達成するために学習目標を設定している。各学科ではその目標実現に相応しい教員を配置している。デザイン工学科、電気工学科、機械電子工学科、情報工学科共に専任教員で不足している分野を外部の専門家あるいは若手研究者を非常勤教員として招いて活気ある授業を行っている。各教員の専門分野と担当科目等については、資料3-1-②-2～5に示す。

なお、高等専門学校設置基準第6条の第3項の規定により、4学科を設置する本校の場合には専門科目を担当する専任教員(助手を除く)の数は29人を下回ってはならないことになる。本校の同教員数は助教以上33人であり、設置基準を満たしている。

さらに、高等専門学校設置基準の第8条には、「専門科目を担当する専任の教授、准教授の人数は、一般科目と専門科目を担当する専任教員数の合計数の二分の一を下ってはならない」とある。設置基準第6条に従えば本校が必要とする全教員数は47名(一般18名、専門29名)なので24名以上の専門科目担当の准教授と教授が必要となるが、本校の准教授と教授の現員は23名であり1名満たない。昇任および新任採用を含め早急に補充する予定である。

資料3-1-②-1

	教授	准教授	講師	助教	小計	非常勤
一般教育科	2	7	11	1	21	20
デザイン学科	2	2	3	0	7	8
電気工学科	2	3	1	1	7	2
機械電子工学科	4	2	1	2	9	2
情報工学科	3	3	1	1	8	4
本科小計	13	17	17	5	52	36
専攻科	2	0	0	0	2	0
専門(准)教授小計	13	10			23	
計	15	17	17	5	54	37

資料3-1-②-2

デザイン学科・デザイン工学科・専門科目教員の専門分野と担当授業科目

平成24年度

職名	氏名	学位/その他	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授(特任)	小西 均	准学士	工業デザイン	平面基礎デザイン演習Ⅲ,デザイン実習Ⅰ,制作演習,応用デザイン実習Ⅰ,卒業研究	
教授(特任)	杉島 一男	准学士	工業デザイン	造形論,デザイン心理,デザイン実習Ⅲ(P),応用デザイン実習Ⅱ,マーケティング,卒業研究	日産自動車(株)勤続27年
准教授	竹内 明	准学士	工業デザイン	平面基礎デザイン演習Ⅰ,表現法,工業技術概論,デザイン実習Ⅱ(P),工業デザイン概論,卒業研究	日産自動車(株)勤続30年
准教授	比留間 真	修士(工学) 芸術学士	建築意匠・建築史 工業デザイン	立体基礎デザイン演習Ⅱ,デザイン史,デザイン実習Ⅱ(I),デザイン方法論(I),卒業研究	マツダ(株)勤続4年
講師	菅原 由佳	修士 (美術教育学)	美術教育	平面基礎デザイン演習Ⅳ,立体基礎デザイン演習Ⅲ,情報処理,デザイン実習Ⅰ,造形論,デザイン心理,応用デザイン実習Ⅱ,卒業研究	
講師	谷上 欣也	修士(工学)	工業デザイン	立体基礎デザイン演習Ⅱ,立体基礎デザイン演習Ⅲ,製図,デザイン方法論(P),デザイン心理,プレゼンテーション,卒業研究	REI(株)勤続1年
講師	西野 隆司	修士 (環境マネジメント)	環境学 地域研究	立体基礎デザイン演習Ⅲ,制作演習,コンピュータグラフィックスⅠ,プレゼンテーション,環境論,卒業研究	
(兼担)准教授	山本 孝司	学士	教育工学	自然科学概論	
(兼担)講師	伊藤 光雅	博士(理学)	構造地質学 物理教育	自然科学概論	丸善(株)勤続3年、(株)れんせい図書館支部勤続3年
(兼担)講師	中田 正一郎	学士	教育工学	自然科学概論	
(兼担)講師	花山 康雄	学士	教育工学	自然科学概論	
非常勤講師	イ ソンヒ	修士(芸術学)	グラフィックデザイン	色彩学,色彩構成	(株)FOURINGデザイン室勤続3年
非常勤講師	石黒 猛	修士 (Master of Design)	工業デザイン (Industrial Design)	制作演習,応用デザイン実習Ⅰ(P)	米国IDEO社勤続5年、2002年石黒猛事務所設立
非常勤講師	井上 謙	工学士	印刷工学	デザイン概論,DTP概論,コンピュータグラフィックスⅢ(G),経営論	
非常勤講師	井山 裕文	修士 (歴史民俗資料学)	歴史民俗資料学	技術者倫理	(株)アドバンス・コンピュータ・テクニクス勤続2年
非常勤講師	氏家 和彦	芸術学士	グラフィックデザイン 工業デザイン	応用デザイン実習Ⅰ(G),デザイン実習Ⅲ(G)	マツダ(株)勤続10年、1995年(有)エピオン設立
非常勤講師	織田 豊一	准学士	インテリアデザイン	コンピュータグラフィックスⅡ(P&I),デザイン実習Ⅲ(I)	(株)岡村製作所勤続13年
非常勤講師	佐久間 善典	学士	グラフィックデザイン 絵画/アート	平面基礎デザイン演習Ⅱ,立体基礎デザイン演習Ⅰ,デザイン実習Ⅱ(G),デザイン方法論(G)	大日本アート(株)勤続6年 東京書籍印刷(株)勤続9年
非常勤講師	島津 豊	学士	工業デザイン	立体基礎デザイン演習Ⅰ,デザイン実習Ⅰ,デザインマネージメント	マツダ(株)勤続33年
非常勤講師	三河 一郎	准学士	コンピュータ グラフィックス	表現法 コンピュータグラフィックスⅡ(G)	(株)タイトー勤続2年、八 欧産業(株)勤続1年後 1988年グラフィックデザインプロ ダクション・スクウェア設立

資料3-1-②-3

電気工学科・専門科目教員の専門分野と担当授業科目

平成24年度

職名	氏名	学位/その他	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	加藤 雅彦	博士(工学)	材料工学 (構造・機能材料)	電気工学実験,応用物理,材料基礎工学A,材料基礎工学B,卒業研究	
教授	水谷 浩	博士(工学)	マイクロ波、ミリ波	工学基礎,電気回路,電気工学実験,計測工学,電子計算機,計測工学,システム工学	
准教授	房野 俊夫	博士(工学)	エネルギー変換	電気法規,発変電工学,電力系統工学,電機設計,電気工学実験	気象庁勤務8年
准教授	山下 健一郎	博士(工学)	電気機器 制御/電力	電気磁気学,電気回路,電気工学実験,卒業研究	
准教授	渡邊 聡	修士(工学)	パワーエレクトリク	プロジェクト実習,ソーラーカー工学,電気機器,電気工学実験,パワーエレクトロニクス,卒業研究	
講師	齊藤 純	修士(工学)	情報/電気電子 計測	CAD,工学基礎,プロジェクト実習,電気工学実験,情報処理,電子回路,メカトロニクス,卒業研究	(株)オートボックスエフン勤務1年
助教	山下 幸三	博士(理学)	大気電力学	工学基礎,電気回路,電気磁気学,電気工学実験,電子工学,高電圧工学,通信工学概論,卒業研究	
(兼担) 教授(特任)	塩田 一路	博士(工学)	複合材料	電気電子材料	
非常勤 講師	井山 裕文	修士 (歴史民俗資料学)	歴史民俗資料学	技術者倫理	(株)アドバンス・コンピュータ・テクノロジーズ勤務2年
非常勤 講師	齋藤 努	准学士 技術士	電気電子 総合技術管理部 門	技術者倫理	日本無線(株)勤務28年
非常勤 講師	佐藤 豊	修士(工学)	教育工学 金融工学	応用数学A	国際証券(株)(現三菱UFJ証券)勤務2年
非常勤 講師	鳥羽 敏二	学士	自動制御	CAD,機械工学,電気工学実験,機械要素設計A,機械要素設計B,自動制御,電気工学実験	
非常勤 講師	吉澤 伸幸	博士(工学)	応用磁気工学	電気応用,電気工学実験	(株)共和電業勤務5年
非常勤 講師	織田 豊一	准学士	インテリアデザイン	プロジェクト実習	(株)岡村製作所勤務・・・年
非常勤 講師	佐久間 善典	学士	グラフィックデザイン 絵画/アート	プロジェクト実習	大日本アート(株)勤務6年 東京書籍印刷(株)勤務9年

資料3-1-②-4

機械電子工学科・専門科目教員の専門分野と担当授業科目

平成24年度

職名	氏名	学位/その他	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	大杉 功	博士(工学)	材料工学 (熱電半導体)	工業材料,半導体デバイス,機械電子工学実験,物理学,卒業研究	(株)共和電業勤務5年
教授	高橋 孝	学士	制御工学	工学基礎,電気回路Ⅰ,卒業研究	(株)高橋プレス勤務5年
教授 (特任)	平岡 一則	博士(工学)	信頼性工学	創造演習,機械電子工学実験	NTT勤務25年、NTTエレクトロニクス(株)勤務2年
教授	森 幸男	修士(工学)	信号処理工学 教育工学	創造演習,電気回路Ⅱ,機械電子工学実験,信号と符号,信号処理,創造設計学,卒業研究	
准教授	富田 雅史	修士(工学)	パワーエレクトロニクス	工学基礎,電子計算機,創造演習,計算機援用設計,計算機プログラミング,創造設計学,卒業研究	(株)東芝勤務3年
准教授	吉野 純一	博士(工学)	通信工学 安全システム	通信工学,機械電子工学実験,アンテナ工学,計測工学,電気通信法規,卒業研究	日本無線(株)勤務4年
講師	吉田 将司	博士(工学)	情報通信 衛星測位	工学基礎,機械電子工学実験,創造演習,アナログ電子回路,制御工学,卒業研究	
助教	稲毛 達朗	博士(工学)	熱流体工学 計測工学	製図,創造演習,機械加工,計算機援用設計,機械電子工学実験,機構学,機械デザイン	
助教	米盛 弘信	博士(工学)	パワーエレクトロニクス	機械電子工学実験,電気磁気Ⅰ,創造演習,デジタル電子回路,卒業研究	
(兼任) 教授(特任)	大藤 晃義	博士(工学)	バイオメカニクス	機械加工,材料力学	
(兼任) 講師	西岡 広志	学士	教育工学	線形代数	
(兼任) 准教授	米山 秋文	学士	情報システム学 経営工学	アルゴリズム理論	(株)NJK(日本電気出向)勤務3年、(株)日本サンプリング勤務6年
非常勤 講師	福島 正忠	博士(工学)	音響工学	音響工学	日立製作所勤務25年
非常勤 講師	井山 裕文	修士 (歴史民俗資料学)	歴史民俗資料学	技術者倫理	(株)アドバンス・コンピュータ・テクノロジーズ勤務2年
非常勤 講師	佐藤 豊	修士(工学)	教育工学 金融工学	解析学Ⅱ	国際証券(株)(現三菱UFJ証券)勤務2年
非常勤 講師	山本 和義	修士(理学)	素粒子論	電気磁気Ⅱ	
非常勤 講師	齋藤 努	准学士 技術士	電気電子 総合技術管理部門	機械電子工学実験,技術者倫理	日本無線(株)勤務28年

情報工学科・専門科目教員の専門分野と担当授業科目

平成24年度

職名	氏名	学位/その他	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授	杉本 文司	修士(芸術学)	映像芸術学	情報工学概論,文書作成概論Ⅰ,文書作成概論Ⅱ,映像メディア概論,DTP・組版,卒業研究	
教授	山野邊 基雄	博士(理学)	素粒子論場の理論	情報工学概論,文書作成概論Ⅰ,文書作成概論Ⅱ,線形代数Ⅰ,線形代数Ⅱ,技術文書作成,卒業研究	
教授(持任)	吉村 晋	博士(工学)	人工知能	アルゴリズム論Ⅰ,アルゴリズム論Ⅱ,プログラミング応用Ⅲ,プログラミング応用Ⅳ,情報工学実験Ⅶ,卒業研究	(株)東芝 勤続21年
准教授	内田 健	修士(工学)	計算機システム	情報工学実験Ⅰ,情報工学実験Ⅱ,論理回路Ⅱ,デジタル回路設計,計算機概論Ⅰ,計算機概論Ⅱ,計算機アーキテクチャⅠ,計算機アーキテクチャⅡ,プレゼンテーション,情報工学実験Ⅴ,情報工学実験Ⅵ,卒業研究	
准教授	小出 由起夫	修士(理工学)	ソフトウェア	電気回路Ⅱ,プログラミング基礎Ⅰ,プログラミング基礎Ⅱ,プログラミング基礎Ⅲ,プレゼンテーション,情報工学実験Ⅴ,情報工学実験Ⅵ,Webプログラミング,ソフトウェア工学Ⅰ,ソフトウェア工学Ⅱ,生産管理,卒業研究	ソフトウェア開発(株) 勤続3年、日本エルエスアイ(株)勤続2年
准教授	島川 陽一	博士(工学)	OR/GIS 交通工学	地理情報システム概論,情報数学概論,情報工学実験Ⅲ,情報工学実験Ⅳ,数値計算Ⅰ,数値計算Ⅱ,オペレーションズ・リサーチⅠ,オペレーションズ・リサーチⅡ,離散数学Ⅰ,離散数学Ⅱ,数理工学概論,卒業研究	川鉄システム開発(株) 勤続5年
講師	大島 真樹	修士(工学)	人工知能	電気回路Ⅰ,電気回路Ⅲ,電気回路Ⅳ,情報工学実験Ⅰ,情報工学実験Ⅱ,データベース概論,データベースシステム,OS概論Ⅰ,OS概論Ⅱ,人工知能Ⅰ,人工知能Ⅱ,情報工学実験Ⅶ,卒業研究	
助教	清水 哲也	博士(工学)	量子暗号	論理回路Ⅰ,情報工学実験Ⅰ,情報工学実験Ⅱ,情報通信システムⅠ,情報通信システムⅡ,プログラミング応用Ⅰ,プログラミング応用Ⅱ,情報ネットワーク,情報工学実験Ⅴ,情報工学実験Ⅵ,プログラミング応用Ⅲ,プログラミング応用Ⅳ,卒業研究	
(兼担) 准教授	山館 順	修士(文学)	歴史学	技術者倫理	
非常勤講師	石川 純夫	修士(理学)	素粒子論場の理論	情報工学概論,情報工学実験Ⅲ,情報工学実験Ⅳ	
非常勤講師	伊原 充博	学士	プログラミング開発方法論	プログラミング応用Ⅰ,プログラミング応用Ⅱ	
非常勤講師	宇都木 修一	修士(工学)	知能情報学	プログラミング基礎Ⅰ,プログラミング基礎Ⅱ,プログラミング基礎Ⅲ,情報工学実験Ⅶ	横河電機(株)勤続2年
非常勤講師	小川 竜	博士(理学)	微分位相幾何学	線形代数	
非常勤講師	佐藤 豊	修士(工学)	教育工学 金融工学	解析学Ⅱ,統計解析学Ⅰ 統計解析学Ⅱ	国際証券(株)(現三菱UFJ証券)勤続2年
非常勤講師	志岐 紀夫	博士(工学)	経営工学	情報社会論,経営工学概論,ビジネス情報システム	三菱電機(株)勤続22年、1999年～2006年三菱電機関連会社取締役
非常勤講師	齋藤 努	准学士 技術士	電気電子総合技術管理部門	技術者倫理	日本無線(株)勤続28年

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育理念に添って善き職業人を育成するために、専門分野と担当科目一覧に示されているように常勤教員と非常勤教員が適切に配置されている。しかしながら、現在、教員の世代交代の状況下にあるため専門学科の教授、准教授陣の層が薄い状態であり、今後更なる教員の充足が必要である。

観点3-1-③：専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専攻科の教育目的、教育目標を達成するために相応しい専門分野と担当教科を有する教員(資料3-1-③-1)を配置している。

専攻科「生産システム工学専攻」は、電気工学科、電子工学科(現機械電子工学科)、そして情報工学科の教育を基盤として設立されたものである。上記の3学科で修得した基礎学力をベースにして、その上に各学科の専門性を組み合わせ、準学士課程より高い目標を設定し、産業技術の高度化・複合化・融合化に対応できる能力を育成するための教育を実践している。

専攻科を担当する教員には、その担当科目に相応しい研究業績を求められる。全教員が専攻科の教科を担当できるよう、今後とも教育・研究の実践とその具体的な成果を課し、高等教育機関の教員に相応しい業績を求めていく。

(分析結果とその根拠理由)

現在、教員配置が適切にされていると考えているが、専攻科担当教員として相応しい業績を積上げる必要がある。本科・専攻科の発展のために、卒業研究のレベルの向上、個人研究計画の具体化、教育研究の業績評価のより一層の推進が必要である。

資料3-1-③-1

専攻科・専門科目教員の専門分野と担当授業科目

平成24年度

職名	氏名	学位/その他	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況
教授(特任)	塩田 一路	博士(工学)	複合材料	生産システム特論,特別研究,環境特論,特別研究,材料科学,機能材料	
教授(特任)	大藤 晃義	博士(工学)	バイオメカニクス	生産システム特論,特別研究,機械工学概論,バイオメカニクス,特別研究	
教授	大杉 功	博士(工学)	材料工学 (熱電半導体)	生産システム特論,論文講読Ⅱ,専攻演習Ⅱ,特別研究,インターンシップ,熱統計力学,半導体工学	(株)共和電業勤続5年
教授	加藤 雅彦	博士(工学)	材料工学 (構造・機能材料)	生産システム特論,専攻実験,特別研究,構造材料	
教授(特任)	平岡 一則	博士(工学)	信頼性工学	インターンシップ,特別研究	NTT勤続25年、NTTエロ外ロニクス(株)勤続2年
教授	水谷 浩	博士(工学)	マイクロ波、ミリ波	生産システム特論,特別研究,インターンシップ,生産管理工学	
教授	森 幸男	修士(工学)	信号処理工学 教育工学	信号処理論	
教授	山野邊 基雄	博士(理学)	素粒子論 場の理論	生産システム特論,特別研究,特別研究,量子力学,数理論理学	
教授(特任)	吉村 晋	博士(工学)	人工知能	生産システム特論,特別研究,特別研究,コンピュータアーキテクチャ,知識情報工学特論	(株)東芝勤続21年
准教授	鳥川 陽一	博士(工学)	OR/GIS 交通工学	生産システム特論,専攻実験,特別研究,情報数学,特別研究,数理計画,数理計画	川鉄システム開発(株)勤続5年
准教授	房野 俊夫	博士(工学)	エネルギー変換	専攻実験	気象庁勤続8年
准教授	山下 健一郎	博士(工学)	電気機器 制御/電力	生産システム特論,エネルギー変換工学,電力システム,特別研究	
准教授	吉野 純一	博士(工学)	通信工学 安全システム	生産システム特論,論文講読Ⅰ,特別研究,電気電子回路特論,特別研究,通信工学特論,トピック理論	日本無線(株)勤続4年
講師	野島 伸仁	学士	英語学	伝統文化特論	
講師	真島 顕子	博士(文学)	英語学/英語史	英語Ⅰ,英語Ⅱ,伝統文化特論	
講師	吉田 将司	博士(工学)	情報通信 衛星測位	生産システム特論,専攻演習Ⅰ,特別研究,特別研究,応用通信特論	
助教	清水 哲也	博士(工学)	量子暗号	生産システム特論,特別研究,符号理論,特別研究	
助教	米盛 弘信	博士(工学)	パワーエレクトロニクス	生産システム特論,特別研究	
助教	渡邊 紘	博士(理学)	非線形解析学	数学特論	
非常勤講師	小川 竜	博士(理学)	微分位相幾何学	確率統計学	
非常勤講師	斉藤 成一	博士(工学)	電気電子工学 (環境電磁工学)	生産システム特論,専攻実験,特別研究,環境電磁工学,信頼・安全性工学,特別研究	三菱電機(株)勤続37年
非常勤講師	堤 一郎	博士(工学)	技術史	技術史	
非常勤講師	吉澤 伸幸	博士(工学)	応用磁気工学	計測制御特論,応用磁気工学	(株)共和電業勤続5年

観点3-1-④：学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

各学科教員間の意思疎通をとることが活発化の基本と考えている。基準2でも述べたように、学内の様々な組織体や会議体は、基本的には一般教育科を含めた全学科の教員から構成されている。担任構成も、一般教育と専門学科の混じった構成となっている。(資料3-1-④-1)

教育の活性化を図る取り組みとして、専任教員は全員、日本工学教育協会の個人会員となっており、教育研究に力を注いでいる。

また国立高専と比べ、多くの専任教員は教育研究業務のみならず学校運営業務にも従事している。それらの業務の重さを斟酌して、各教員の専門性、能力を活かした上で全ての業務が均衡するように担当授業の免減(担当授業時間の減少を認める)制度を設けている。この制度は特定の個人に業務が集中しないように配慮する1つの緩和策である。

学術研究の活性化を支援する取り組みとして、学内研究費の配分(課題研究費)を傾斜配分とし、科研費申請に準じた書式の申請書を審査して、重点配分している。

また最終学歴が学士卒の教員の中で希望者については、修士課程への社会人課程入学を推奨しており、来年度入学予定者を含め4名が入学・修了した。また博士課程にも現在、2名が在学している(内1名は職員)。

新任教員の採用に当たっては、学科年齢構成に加え、企業経験の有無も考慮した採用活動をしている。一時期、若い教員を主として採用していた時期があったため、観点3-1-②で述べたように教授・准教授の数で設置基準を満たさない状況に陥っているが、早急に是正する。また、教員経験だけでは不十分な管理・運営能力を補うため、企業経験者も積極的に採用している(各専門学科2名ほど)が、今後も多少増やす必要がある。

資料3-1-④-1 担任構成

(GE:一般教育、AD:デザイン、EE:電気、ME:機械電子、CS:情報)

プレ 主事	山本孝司 (GE)	1年 主任	野島伸仁 (GE)	2年 主任	山本孝司 (GE)		
1A	花山康雄 (GE)	1B	山舘順 (GE)	1C	伊藤光雅 (GE)	1D	米山秋文 (GE)
2AD	高野修 (GE)	2EE	山下幸三 (EE)	2ME	米盛弘信 (ME)	2CS	渡邊紘 (GE)
3AD	比留間真 (AD)	3EE	房野俊夫 (EE)	3ME	吉野純一 (ME)	3CS	大島真樹 (CS)
4AD	西野隆司 (AD)	4EE	山下健一郎 (EE)	4ME	相川智洋 (GE)	4CS	清水哲也 (CS)
5AD	菅原由佳 (AD)	5EE	西岡広志 (GE)	5ME	吉田将司 (ME)	5CS	杉本文司 (CS)

資料3-1-④-2 授業免減制度

1 平成23年度の管理職の標準授業配当時間（単位時間/週）

職名区分	職名	標準 配当数
理事級職(1)	校長	4
理事級職(2)	副校長, チャプレン	8
主事級職	教務主事(副校長補佐), 学生主事(副校長補佐), 専攻科長(副校長補佐), 総合企画本部長, 自己点検評価本部長	12
科長級職	寮務主事 学科長, 一般教科長 プレテック主事	14

2 平成23年度の授業時間免減職の免減時間（単位時間/週）

職名区分	職名	免減数
センター長級職	キャリアセンター長, 総合メディアセンター長, 応用技術センター長, 地域交流センター長, プレテック学年主任	3
室長級職	総合企画本部長補佐, キャリアセンター長補佐, 国際交流室長, 学生相談室長, 教務主事補, 学生主事補, 専攻科長補佐(教務担当), 学科長補佐, 入試募集委員長	2
担当級職	本科教務担当 本科学生担当	2
	卒業研究(特別研究も含む)担当, 担任	1

(分析結果とその根拠理由)

教員組織の活動をより活性化するための措置について、本格的に始まったのは町田移転を契機とした8年ほど前からである。少しずつ意識改革が進んでいると考えられるので、今後とも教授・准教授層を中心に人事育成・採用計画を通して組織の活性化を図っていく。

観点 3-2-①：全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動についての学校による評価は、年度末の業績一覧表および個人活動計画報告の2つにまとめられる。

業績一覧表の書式を資料 3-2-①-1 に示す。業績一覧表には以下の各号に関する業績を記載する。

- (1) 教育業績 25% (授業改善、補習指導、公開講座、卒特研指導、資格指導等)
- (2) 指導業績 15% (学生指導、担任業務、クラブ指導、課外指導等)
- (3) 研究業績 30% (著作・論文、研究紀要、研究発表、制作発表、テーマ研究、外部資金等)
- (4) 校務業績 20% (校務部会、校務委員会、校務分掌、試験報告、入試等)
- (5) 貢献業績 10% (公的活動、学会活動、地域活動、国際貢献、生涯教育等)

各号ごとに評価点をつけ、100点満点で数値化する。自己評価点、部署長(科長)評価点および部門長(副校長)評価点の平均をもって総合評価とする。毎年6月に前年度の評価を行う。昇任審査に当たっては、過去5年分の業績をまとめて評価し、審査の参考とする。また科長への登用など、任用に当たっても、本評価結果を参考にしている。ただ現状では、業績一覧の最終評価結果を本人には通知していない。来年度からは本人に通知し、副校長・科長との話し合いを通して、不足する分野の改善につなげていく予定である。

個人活動計画の書式を資料 3-2-①-2 に示す。これは、学校全体で推し進めているサレジオ高専マネジメントシステム(以下SMS)の一環である目標管理制度として、3カ年中期計画に基づき、校長が方針と目標を立てる。これを受けて副校長は方針と目標を立て、それを受けて各部署長・科長が部署目標を立てる。その中で各個人が活動計画(個人目標)を立てて1年間かけて実施する。部署長は副校長と話し合いながら、各個人は部署長と話し合いながら、教育・研究・校務と幅広い分野で目標を立てる。年度央(10月)と年度末(2月)に、その結果について本人と部署長が話し合い、合意の下で5点満点で数値評価される。この結果は翌年度の賞与に反映される。

なおSMSは、町田移転後の初年度である平成17年度に外部講師と契約してマネジメントプロジェクトが設置されて、学校運営ならびに業務改善の実行計画が策定された

事から始まる。平成18年度に組織改定が行われ、教職員の業務に関して管理職制が導入されると共に目標管理制度が発足し運用を始めた。これらの根拠資料については個人情報も含まれるため、詳しくは訪問調査時に提示したいのでここでは省略する。

資料3-2-①-1

業績一覧票(2011年度分)

2012/10/22 16:22

別表1 業績一覧表(原票) 以下の表については平成22年度に一部配点等修正されている

通番	大分類	中分類	評価内容	内容を簡潔に(過去8年)	素点	自己評価	所属長評価	部門長評価	評点	素点	自己評価	所属長評価	部門長評価	評点
1-1	教育	授業改善	自分の授業の改善が進んだか	全科目	8	B	A	A		8	4.8	6.4	6.4	
1-2		補習指導	授業外に補習、個別指導をやったか	理解不	5	B	B	B		5	3	3	3	
1-3		公開講座	スクーリング等講座を担当したか	青空学	4	C	B	B		4	1.6	2.4	2.4	
1-4		卒特研指導	指導成果をあげられたか	大学コ	4	A	A	A		4	3.2	3.2	3.2	
1-5		資格指導	学生の資格取得の指導をやったか		4	D	C	C		4	0	1.6	1.6	
1-6					25	12.6	16.6	16.6	15.3	25.0	12.6	16.6	16.6	15.3
2-1	指導	学生指導	学生の生活指導をやったか	自主的	3	A	A	A		3	2.4	2.4	2.4	
2-2		担任業務	担任業務が適切にできたか	担任マ	6	B	B	A		6	3.6	3.6	4.8	
2-3		クラブ指導	クラブ活動が適切に指導できたか	部員の	3	B	B	A		3	1.8	1.8	2.4	
2-4		課外指導	クラブ以外の学生活動を行ったか		3	D	D	D		3	0	0	0	
2-5					15	7.8	7.8	9.6	6.4	15.0	7.8	7.8	9.6	6.4
3-1	研究	著作・論文	著作刊行、査読付論文を出せたか	国際会	10	A	A	S		10	8	8	10	
3-2		研究紀要	研究紀要に投稿したか		6	D	D	D		6	0	0	0	
3-3		研究発表	学会等発表を行ったか	国内学	5	B	A	A		5	3	4	4	
3-4		制作発表	制作発表を行ったか		3	D	D	D		3	0	0	0	
3-5		テーマ研究	テーマ研究を行ったか	直流送	3	B	A	A		3	1.8	2.4	2.4	
3-6		外部資金	科研費、産学連携資金を取得したか	申請した	3	B	B	B		3	1.8	1.8	1.8	
3-7					30	14.6	16.2	18.2	16.3	30.0	14.6	16.2	18.2	16.3
4-1	管理	校務部会	教務、学生部会にかかわったか	学生部	5	B	A	A		5	3	4	4	
4-2		校務委員会等	委員会等にかかわったか	研究委	4	B	B	A		4	2.4	2.4	3.2	
4-3		他の校務分掌	他の校務分掌にかかわったか	野尻湖	3	C	B	B		3	1.2	1.8	1.8	
4-4		試験報告	試験報告を果したか	通常通	4	B	B	B		4	2.4	2.4	2.4	
4-5		入試	入試(募集・作問)に貢献したか		4	B	B	B		4	2.4	2.4	2.4	
4-6					20	11.4	13.0	13.8	12.7	20.0	11.4	13.0	13.8	12.7
5-1	貢献	公的活動	公的機関の委員になった		2	D	D	D		2	0	0	0	
5-2		学会活動	学会の委員や運営にかかわった		2	D	D	D		2	0	0	0	
5-3		地域活動	地域貢献にかかわった	八王子	2	B	S	S		2	1.2	2	2	
		国際貢献	海外の関係機関との交流		2	D	D	D		2	0	0	0	
5-4		生涯教育	対外的生涯教育講座にかかわった		2	D	D	D		2	0	0	0	
5-5					10	1.2	2.0	2.0	1.7	10.0	1.2	2.0	2.0	1.7
集み 評価 その指針					0	0	総点	54.5		47.6	55.6	60.2	54.5	

1.0 S 極めて成果を上げた 個人は2011年度分を記述する
 0.8 A 成果を上げた 所属長は所属長権に記述する
 0.6 B 従事した 部門長は自己評価と所属長評価を元に評価する
 0.4 C 協力した
 0.0 D 関わらなかった
 集み付け 個人 の入力欄です。それ以外は触らないでください
 教育 全体の25%とする
 指導 全体の15%とする 所属長 の入力欄です。それ以外は触らないでください
 研究 全体の30%とする
 管理 全体の20%とする 部門長 の入力欄です。それ以外は触らないでください
 貢献 全体の10%とする
 それぞれ集み付けを行って総合点を100点としている SABCDは半角大文字です。

部署名： 氏名：		部署承認	
部署目標	個人目標	目標値	活動予定 (完了日)
<p>部署長の目標を記入してください</p>	<p>個人目標の項目数はMax 3点に絞ってください</p>	<p>数値化目標またはアウトプット内容を記入してください</p>	<p>実績報告</p> <p>文章で記入してください ・目標値と照準づけて、達成できた内容について ・次年度への申し送り事項(次年度課題)</p>
			<p>※計画時に部署長と相談して記入してください 部署目標への貢献の度合いをABOで記入してください A：極めて貢献できる B：大いに貢献できる C：貢献できる</p>
			<p>※計画時に部署長と相談して記入してください すべての課題の合計が100%になるように各課題のウェイトを付けてください(※で記入してください)</p>
			<p>※年度末に記入してください(下記の1~5を基に) 5:予定をはるかに超えて達成した 4:予定を超えて達成した 3:予定通り 2:予定に達しなかった 1:着手はしたが結果がない 0:着手しなかった</p>
			<p>別表を参照の上算出してください。</p>
			<p>本人 達成度</p>
			<p>部署長 ウェイト</p>
			<p>本人/部署長 評価実績度</p>
			<p>部署承認 達成度</p>
			<p>目標値の 評定</p>

(分析結果とその根拠理由)

授業そのものの評価については、長年にわたり学生による授業アンケートによる評価を実施してきており、教員自らその結果を基に授業改善する仕組みがある。

学校からの評価としては、教育・研究・校務を取り入れた総合的な業績一覧表による評価と、SMSに基づく個人活動計画の実施状況からの評価を行っており、その結果は数値化され、昇任や管理職への登用などに反映されている。

以上のことから、適切に運用されているものと判断している。ただし業績一覧については、この結果を本人にフィードバックするループが一部欠如しているので、来年度は改善する。

観点3-2-②：教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点到に係る状況)

教員の採用や昇格は高等専門学校設置基準の第11条から第14条の内容を基礎にして本校で定めた任用規定およびその実施細則(資料3-2-②-1、2)に従って実施されている。

教員の採用については、本校の建学の精神、教育理念を理解し、本校の教育を担当するに相応しい能力を有し、学校をより良くしたいという意欲と実践力のある人材を求めている。校長が召集する選考委員会(校長、副校長、教務主事、学生主事、専攻科長、当該学科長、校長が必要と認めた教職員)で提出書類を基に人物識見、教育業績そして研究業績を調査し、模擬授業と面接を通して採用候補者を選定し、理事会に上申し承認を得る。選考委員会で審議される採用候補者は、基本的にはネット等を通じて広く公募する。

昇格については人物識見、教育業績、研究業績、管理業績、貢献業績そして国際貢献等さまざまな角度から議論される。校長によって召集された選考委員会(校長、副校長、事務長、校長が必要と認めた教職員)では、各科長から推薦された教員に対して、過去5年間分をまとめた業績一覧表(資料3-2-①-1で提示済み)と人物評価一覧表(資料3-2-②-3)に基づいて審議した上で委員会として昇格候補者を選定し、理事会に上申し承認を得る。業績一覧表の内容と点数化については観点3-2-①で述べた。人物評価は、ドン・ボスコの教育理念の中心であるアシステンツァに照らし合わせた評価、教員としてあるべき姿に照らし合わせた評価、および経済産業省提唱の社会人基礎力に照らし合わせた評価の3つの視点から総合的に行う。各項目を5段階評価し、校長による加点評価と合わせて100点満点で数値化する。業績評価(100点満点)と人物評価(100点満点)を合わせた総合点を参考にして、理事会に諮る昇任候補者を選定する。

非常勤教員に対しては、その採用手順書(3-2-②-2)を定め運用している。各学科長等が科目担当者として専門分野の相応しい候補者を公募等で募集し、副校長・教

務主事と協議して候補者を選定し、AMCに諮って校長の承認を得て決定している。

(分析結果とその根拠理由)

採用基準と昇格基準およびこれに係わる必要書類や選考方法等の規定は明確に定められている。また、その運用も規定に基づき実施されており、総合的に見て適切なものと判断している。

資料3-2-①-1

(平成19年4月1日施行)

サレジオ工業高等専門学校教員任用規程

(目的)

第1条 この規程は、サレジオ工業高等専門学校（以下「本校」という）教員の任用および昇任に関する事項を定めることを、目的とする。

(適用範囲)

第2条 この規程は、教員のうち期限付雇用教員（非常勤教員）には適用しない。

(任用および昇任の取扱)

第3条 教員の任用および昇任は、人物鑑見、学歴、職歴および教育研究上の業績等に基づいて行う。

- 1 校長は、任用および昇任する者について審査、選考のうえ理事会に上申し、その承認を得た者を教授、准教授、講師、助教、助手にそれぞれ任用するものとする。
- 2 任用および昇任の時期は、原則として毎年4月1日とする。
- 3 特に顕著な業績および成果をあげていると認められるときは、前項の定めにかかわらず臨時に理事会に昇任の上申をすることができる。
- 4 新たに教員として採用した者の任用は、その者の今までの学識経験、業績ならびに学歴等のほか、他の教員との均衡を考慮して定める。

(教授の資格)

第4条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 別表1 高等専門学校設置基準資格要件（以下「基準資格要件」という）に定められた教授の資格を有する者
- (2) 別表2 社団法人日本工学協会教育士資格要件（以下「教育士資格要件」という）に定められた上級教育士の資格を有する者
- (3) 本校の准教授として5年以上の経験を有し、顕著な業績および成果を有する者
- (4) 前各号に掲げる者と同等以上の能力があると理事会が認めた者

(准教授の資格)

第5条 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 基準資格要件に定められた准教授の資格を有する者
- (2) 教育士資格要件に定められた中級教育士の資格を有する者
- (3) 本校の講師として5年以上の経験を有し、業績および成果を有する者
- (4) 前各号に掲げる者と同等以上の能力があると理事会が認めた者

(講師の資格)

第6条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 基準資格要件に定められた講師の資格を有する者
- (2) 教育士資格要件に定められた初級教育士の資格を有する者
- (3) 本校の助教として3年以上の経験を有し、業績および成果を有する者
- (4) 本校の助手、助教としてあわせて5年以上の経験を有し、業績および成果を有する者
- (5) 前各号に掲げる者と同等以上の能力があると理事会が認めた者

資料3-2-①-1 続き

(平成19年4月1日施行)

(助教の資格)

第7条 助教となることのできる者は、基準資格要件に定められた助教の資格を有する者とする。

(助手の資格)

第8条 助手となることのできる者は、基準資格要件に定められた助手の資格を有する者とする。

(業績成果の審査)

第9条 第4条から第6条に定める業績および成果の審査は、次の各号による。

- (1) 人物観見 ドン・ボスコの教育理念、建学の精神に基づき、創意工夫をして日常の教育実践に取組み成果をあげている者
- (2) 教育業績 クラス担任やクラブ・課外活動顧問として常に共感的理解を基本として学生指導に取組み成果をあげている者
- (3) 研究業績 研究意欲が旺盛で、専攻教科分野であるいは専攻教科以外で著書、論文（学会誌、研究紀要等に発表）を有し成果をあげている者
- (4) 役割業績 教育運営組織（部署、委員会等）において、自己の役割を自覚し熱意をもって職務を遂行し、成果をあげている者
- (5) 国際貢献 国際交流の促進にあたり、自己の役割を自覚し熱意をもって職務を遂行し、成果をあげている者
- (6) 貢献業績 学内（前各号に該当しない特別な貢献）、学外（社会貢献等）において、各業績のいずれかにおいて特に顕著な成果をあげている者

(実施細目)

第10条 この規程の運営手続き、その他のこの規程の実施に必要な事項は別に定める。

附 則

1. この規程は、昭和48年4月1日から施行する。
2. 本校における助教授の経験年数については、第4条第3項の規定における准教授の経験年数とみなす。

改正附則

平成15年	4月	1日	改正
平成17年	6月	1日	改正
平成19年	4月	1日	改正

資料3-2-①-1 続き

(平成19年4月1日施行)

(別表1) 高等専門学校設置基準・資格要件

	資格要件
教授	<p>①博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者</p> <p>②学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者</p> <p>③大学（短大を含む。以下同じ）または高等専門学校において教授、准教授または専任の講師の経験の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者</p> <p>④学校、研究所、試験所、調査所等に在席し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在席し、技術に関する業務についての実績を有する者</p> <p>⑤特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者</p> <p>⑥前各号に掲げる者と同等以上の能力があると文部科学大臣が認めた者</p>
准教授	<p>①教授資格要件の各号のいずれかに該当する者</p> <p>②大学または高等専門学校において助教またはこれに準ずる教員としての経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者</p> <p>③修士の学位または学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者</p> <p>④特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者</p> <p>⑤前各号に掲げる者と同等以上の能力があると文部科学大臣が認めた者</p>
講師	<p>①教授または准教授となることのできる者</p> <p>②高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経験のある者で、かつ高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者</p> <p>③前各号に掲げる者と同等以上の能力があると文部科学大臣が認めた者</p>
助教	<p>①教授資格要件の各号または准教授資格要件の各号のいずれかに該当する者</p> <p>②修士の学位または学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者</p> <p>③特定の分野について、知識及び経験を有すると認められる者</p> <p>④前各号に掲げる者と同等以上の能力があると文部科学大臣が認めた者</p>
助手	<p>①学士若しくは短期大学士（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）または準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者</p> <p>②前号に掲げる者と同等以上の能力があると文部科学大臣が認めた者</p>

資料3-2-①-1 続き

(平成19年4月1日施行)

(別表2) 社団法人日本工学協会教育士・資格要件

資 格 要 件	
上級 教育士	高度な専門知識はもとより、教育に関する高潔な情熱と見識を有し、広範で総合的な知見や十分な経験をもとに、適切な指導・教育を實踐し受講生の能力を引き出せる者、または企業にあって複数のグループのリーダーを指導し、全体として適切な人材育成ができる者
中級 教育士	専門知識はもとより、教育に関する高潔な情熱と見識を有し、総合的な知見や十分な経験をもとに、適切な指導・教育を實踐し受講生の能力を引き出せる者、または企業にあって複数の人材に対して、仕事を通じてそれぞれの長所を伸ばす育成を實踐できる者
初級 教育士	専門知識はもとより、教育に関する高潔な情熱と見識を有し、適切な指導・教育を實踐し受講生の能力を引き出せる者、または企業にあってメンター、チューターなどの役割をこなして、後輩の育成指導ができる者

平成24年7月30日版

サレジオ工業高等専門学校教員任用規程実施細則

(目的)

第1条 この細則は、サレジオ工業高等専門学校教員任用規程（以下「任用規程」という）に基づき、教員の任用および昇任に関し、その実施に必要な事項を定めることを目的とする。

(審査)

第2条 校長は、選考委員会に諮り任用および昇任する者について審査、選考のうえ意見を具して、理事会に上申する。

2 選考委員会は、校長、副校長、事務長、その他校長が必要と認めた者で構成する。

(任用)

第3条 新たに教員として採用しようとする者の任用は、任用規程第4条から第8条に定める任用資格、人物識見および採用時に提出された次の書類をもとに審査する。

- (1) 履歴書
- (2) 卒業証明書
- (3) 免許状、資格証明書
- (4) 所属学会、学会・社会における活動
- (5) 小論文「着任後の教育・学生指導・研究に対する抱負について」

(昇任)

第4条 教員の昇任は、任用規程第4条から第6条に定める任用資格、第9条に定める人物識見および業績成果をもとに審査する。

2 人物識見は、別表に定める人物評価一覧表の指標値によって表す。また業績成果は、別表に定める業績一覧表の指標値によって表す。

(昇任申請)

第5条 所属長は、任用規程に定める昇任資格を満たしている者の中で、昇任を推薦しようとする者に対して、直近の5年間または必要に応じて副校長が指定する期間の活動を総括して業績一覧表の作成(自己評価欄のみを記入)を指示する。

- 2 所属長は昇任推薦者について、昇任推薦調書に人物評価一覧表と業績一覧表(所属長評価欄に記入)を添えて副校長に内申する。
- 3 所属長からの推薦者には含まれていないが、校長あるいは副校長より推薦するよう指示のあった者に対しても、前項と同じ書類を作成して、副校長に内申する。

(人物評価一覧表、業績一覧表)

第6条 人物評価一覧表には、以下の各号に関する評価を記載する。自己評価は行わず、所属長、部門長、校長が評価する。

- (1) ドン・ボスコの教育理念に照らし合わせた評価
 - (2) 教員としてあるべき姿に照らし合わせた評価
 - (3) 経済産業省提唱の社会人基礎力に照らし合わせた評価
- 2 業績一覧表には以下の各号に関する業績を記載する。
- (1) 教育業績(授業改善、補習指導、公開講座、卒特研指導、資格指導等)
 - (2) 指導業績(学生指導、担任業務、クラブ指導、課外指導等)
 - (3) 研究業績(著作・論文、研究紀要、研究発表、制作発表、テーマ研究、外部資金等)

- (4) 校務業績（校務部会、校務委員会、校務分掌、試験報告、入試等）
 - (5) 貢献業績（公的活動、学会活動、地域活動、国際貢献、生涯教育等）
- （任用、昇任審議）

第7条 副校長は、所属長より内申のあった昇任推薦者について、選考委員会に諮る。

- 2 選考委員会は、申請書類および昇任許容人数等の制約条件を勘案して審議し、理事会に上申する昇任候補者を選定する。
- 3 選定された昇任候補者については、所属長を通じて以下の書類、資料を追加提出させる。追加書類の審査をもって、最終的に昇任候補者を決定する。
 - (1) 小論文「昇任後の教育・学生指導・研究に対する抱負について」
 - (2) 業績一覧内容記述書
 - (3) 業績一覧内容記述書の裏づけとなる資料(例えば論文別刷り)
- 4 校長は、第3条で選ばれた任用候補者、および前項で選ばれた昇任候補者について、任用あるいは昇任の可否を学校法人理事会に上申する。

（例外規定）

第8条 特段の理由がある場合はこの実施細則の定めによらない場合がある。

資料3-2-②-3

	要素	評価項目	評価レベル	
教育理念	アシ ステ ンツ ア	学生とともにいることで 信頼関係を構築する力	授業時間以外に自ら学生とともにいて、積極的に学生との信頼関係の構築につとめている。	5
			授業時間以外に自ら学生とともにいて、学生との信頼関係の構築につとめている	4
			学生からの要望があるときに学生とともにいて、学生との信頼関係の構築につとめる。	3
			学生からの要望があるときに学生とともにいる。	2
			学生とともにいるのは授業のときだけである。	1
教員としてあるべき姿	①指 導力	学生に対する操行、5S (整理、整頓、清掃、清潔、躰)の指導 例)怒るのではなく叱 める、良い点を具体的に褒 めるなど、学生の身近で 指導する	いつでも自ら働きかけて学生指導を行い、学生からの信頼は厚く頼られることが多い。	5
			自ら働きかけて学生指導を行い、学生から信頼されている。	4
			必要に応じて学生指導を行い、学生から親しまれている	3
			必要に応じて自分のできる範囲内で学生指導を行う。	2
			学生指導は苦手である。	1
	②教 育力	正課授業、キャリア教 育、研究などを通して、 学生の学習意欲を引き 出す力 例)討論型、 対話型等の授業方法を 工夫して、学生が自ら学 習するように仕向ける	様々な教育の場で、いつでも学習意欲を引き出す取り組みを行い、成果を出している。	5
			様々な教育の場で、学習意欲を引き出す取り組みを行っている。	4
			様々な教育の場で、内容を教えている。	3
			教育の場は主に授業である。	2
			教育の場は授業だけである。	1
	③危 機管 理力	トラブルを未然に防ぐ力 例)保護者との連携によ り、学生の悩みを解決す る。 危ない行動、危険な設 備を改善する	危険行動やトラブルに関する想像力豊かで、未然に防ぐ改善策を立案実行できる	5
			危険行動やトラブルの危険性を指摘された場合、その改善策を立案し実行できる	4
			事故やトラブルが生じた場合、自主的に適切に対応できる。	3
			事故やトラブルの内容によっては、適切に対応できない場合がある。	2
			事故やトラブルが生じた場合、すぐに人に頼ってしまう。	1
	④学 校運 営	私立学校教員として、学 校運営に参画・協力す る 例)問題を指摘するなら 解決案を、反対するなら 対案を提出する。大所、 高所から意見を述べる。	どんな課題に対しても、リーダーとして積極的に参画する。	5
			課題によっては、リーダーとして参画する。	4
			指示された事項については積極的に協力する。	3
			指示された事項については協力する。	2
			好き嫌いがあり、嫌いなことはやらない。	1

資料3-2-②-3 続き

社会人基礎力 (アクション) 前に踏み出す力	①主体性	物事に進んで取り組む力 例)指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む	いつでも、積極的に取り組むことができる。	5
			積極的に取り組むことができる。	4
			内容によって、取り組むことができる。	3
			指示があれば、取り組むことができる。	2
			なかなか、取り組むことができない。	1
	②働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 例)「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。	いつでも、目的に向かって周囲の人々を動かしていくことができる。	5
			目的に向かって、周囲の人々と相談しながら、動かしていくことができる。	4
			内容によっては、周囲の人々を動かしていくことができる。	3
			内容によっては、周囲の人々を動かしていくことに自信がない。	2
			内容によっては、周囲の人々を動かしていくのは無理だ。	1
	③実行力	目的を設定し確実に行動する力 例)言われたことをやるだけではなく、自ら目標を設定し失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。	いつでも、自ら目標を設定し、確実にやりとげることができる。	5
			自ら目標を設定し、頑張ってやりとげることができる。	4
			内容によっては、やりとげることができる。	3
			言われたことを、目標を設定して行動することができる。	2
			言われたことを、目標を設定して行動することができない。	1

以下略

サレジオ工業高等専門学校 非常勤講師採用手順書

(目的)

この手順書は、サレジオ工業高等専門学校（以下「本校」という）の非常勤講師採用に関する事項を定めることを目的とする。

(適用範囲)

この手順書は、教員のうち専任教員（含特任）には適用しない。

(採用手順)

- (1) 一般教育科・専門学科・専攻科（以下「学科」という）は、授業計画を立案する中で、必要な非常勤講師の対象者を選考する。非常勤講師の任期は1年間なので、毎年見直す必要がある。
- (2) 採用しようとする非常勤講師の年齢は、採用年度4月1日付で65才未満であることを基本とする。
- (3) 非常勤講師対象者のうち、本校での勤務実績があるものについては授業配当案を作り教務主事に提出する。65才以上の場合は、学科は採用理由書を作成し、AMC会議での承認が得られたならば、授業配当案を作り教務主事に提出する。
- (4) 非常勤講師対象者のうち、本校での勤務実績がないものについては、別途定める選考委員会で審議し、AMC会議での承認が得られたならば、授業配当案を作り教務主事に提出する。
- (5) 審議と承認が必要となる非常勤講師を新たに採用しようとする学科は、授業配当に間に合うよう速やかに手順に沿って処理しなければならない。

観点3-3-①：学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

職員は、法人部と学校事務部に属し、学校事務部には4課の部署があり、それぞれ2課が事務長補2名によって分掌されている。(資料3-3-①-1「職員一覧」)

事務長補(横山)は総務施設課、教育支援課の2課を、事務長補(柴田)は教務学生課、入試広報課の2課を分掌し、課長に助言、指導をする。プレテック参与、学事資料室担当は事務長直属として業務を行っている。

教育支援課には教務係長が教務支援を、学生係が高専体育大会支援、学生身分書類等の発行等を、進路係長が就職支援を行っており、他に受付業務等を担当している。

入試広報課は入試広報室長(事務長補兼務)のもと、教員が構成する募集委員会を支援し、入試、募集、広報、広告等の入試関係業務を取り扱う。

総務会計課には総務会計係長は総務業務を、施設係長は施設管理、工房管理を、広報係長は学校の刊行物、Web広報等を管轄する。そのほか、経理担当は学納金、資金出納を、人事給与係は人事支援、給与業務を行う。

教育支援課は副校長補佐(支援担当)の指揮の下、4つセンターの支援、工房の運用を担当する。

プレテック参与は事務長のもと、プレテックに配属し、プレテック業務を支援する。

学事資料室担当は事務長のもと、自己点検評価本部長の指示により業務を支援する。

そのほか、受付、教務、学生、経理、総務、司書、工房、学寮などに補佐、寮母、司書、管理等の業務に非常勤(パート)職員、派遣職員を置いて業務を補完している。

(分析結果とその根拠理由)

国公立高専と比べておよそ半数程度の要員陣容で高専の事務業務、支援業務を遂行している。教員の教育研究業務を支援する業務領域は拡大の一途であり、職員の能力向上、パート職員の主要戦力化が叫ばれている。十分な体制かといわれるとその通りと確信をもってはいえないが、必要な要員は確保されている。さらに業務拡大のためには職員の能力アップが要求されることはやむを得ない。

観点に対する判断として職員体制は十分であるとはいえないが、必要な要員は確保されているとして、基準に達していると判断する。

資料3-3-①-1 職員一覧

事務職員一覧			
2012（平成24）年5月現在			
【部門】法人			
所 属	職 名	氏 名	主たる分掌
育英学院	理 事 長	チブリアニ・アルド	理事長
	常務理事	小 島 勉	労務・法務
	法人部長	戸 野 隆 夫	法人統括
	法人担当	須 藤 哲 史	法人業務
【部門】サレジオ高専（専任）			
所 属	職 名	氏 名	主たる分掌
統括支援	事務長	木 戸 能 史	事務部掌理
	事務長補	横 山 松 生	総務会計・教育支援
	事務長補	柴 田 宏 子	教務学生・入試広報
	参与	大 澤 晴 雄	プレテック担当
教務学生	教務学生課長	関 口 栄 子	教務学生統括
	進路係長	林 宏 輔	キャリアセンター担当
	教務係長	菊 地 クミ子	教務担当
	教務学生係員	高 橋 祐 子	学生担当
	教務学生係員	杉 山 りつ子	看護師
総務会計	総務会計課長	齊 藤 光 治	総務会計統括
	広報係長	星 野 正 登	総務担当
	総務会計係長	里 川 誠一郎	会計担当
	会計係員	田 代 賀代子	経理担当
	会計係員	高 橋 佐和子	人事担当
	施設係長（兼）	齊 藤 光 治	施設担当
	施設係員	小田切 治	施設担当
入試広報	入試広報課長	佐 伯 義 文	入試広報担当
	入試広報係員	宮 野 祐 矢	入試広報担当
教育支援	教育支援課長	和 田 初 枝	教育支援統括
	工房長	秦 和 也	工房担当
	総合メディアセンター長	米山秋文（教員）	図書館・情報館
	応用技術センター長	渡邊 聡（教員）	応用技術
	地域交流センター長	横山松生（職員）	地域連携交流
	国際交流センター長	西野隆司（教員）	国際交流
	学事資料室	廣 山 信 朗	資料調査担当
	寮監	西野隆司（教員）	学生寮管理
非常勤職員	事務部 6名	図書館 3名	カンセラー 1名
派遣職員	情報館 1名	キャリア 1名	学事飼料室 1名

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 多くの専任教員は、教育研究業務のみならず学校運営業務に従事している。それらの業務の重さを斟酌して、各教員の専門性、能力を活かした上ですべての業務が均衡するように担当授業の免減（担当授業時間の減少を認める）制度を設けている。この制度は特定の個人に業務が集中しないように配慮するひとつの緩和策である。
- ・ 本校では1-2年時にプレテックと称し、混成学級で教育が行われている。プレテックでは一般教育と連携し、担任を通じて英語検定、数学検定、漢字検定などの試験を積極的に受けるよう学生に働きかけることで、1,2年生の基礎力の向上を、またロングホームルームでの講演会やエンカウンターによる人間関係づくりを通じたコミュニケーション力および奉仕活動による社会貢献、メディテーションでの自己啓発、レクリエーションによるクラス連帯感の育成などを通じた人間性の向上を目標として教育を実践している。
- ・ 昇格について研究活動に重きをおいている大学とは異なり、広い意味での様々な教育研究活動、学校運営での役割業務、ならびに人物評価を考慮した上で昇格が検討されており、どの業務に従事していても均等に昇格の機会がある。
- ・ 事務、技術職員が国公立の人員の三分の一程度しか配置されていないが、効率良い円滑かつ適切な事務運営および技術員、技術職員による適切な作業運営が行われている。教員と職員の連携が十分取れており、相応の教育効果が得られている。

【改善を要する点】

- ・ 教員の世代交代を進めている中で若い教員を助教で多く採用した関係で、専門科目を担当する准教授、教授の人数が高専設置基準に対し1名不足している。研究業績の積み増しによる准教授への昇格や准教授以上の新任採用などにより、早急に是正する必要がある。
- ・ 技術職員については国立高専に相当するような組織、要員（員数）、機能は私学の経営状況のなかでは及ぶべくもない。しかしその不足する部分を一般職員の兼務や、教員の支援によって支えている。

(2) 基準3の自己評価の概要

教育目的を達成するために、一般科目担当教員、専門科目担当教員及び専攻科担当教員が教員数の面で設置基準を満たしており、科目内容も適切に配置されている。しかし、職位については、専門科目担当の准教授と教授の人数が設置基準に対して1名不足しているため、人事計画を立てて是正する必要がある。

21世紀に入って、社会は科学技術の高度化、専門化、複雑化が益々進んでいる。このような社会に対応する技術教育、専門教育を行うには、教員の教育活動と研究活動の活性化が重要であり、これまで以上に成果、実績を上げることが今後の課題である。

そのためには教員の教育研究活動を定期的に正確に評価し、改善へのアクション機能を高めるシステムが必要である。

基準 4

学生の受入

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

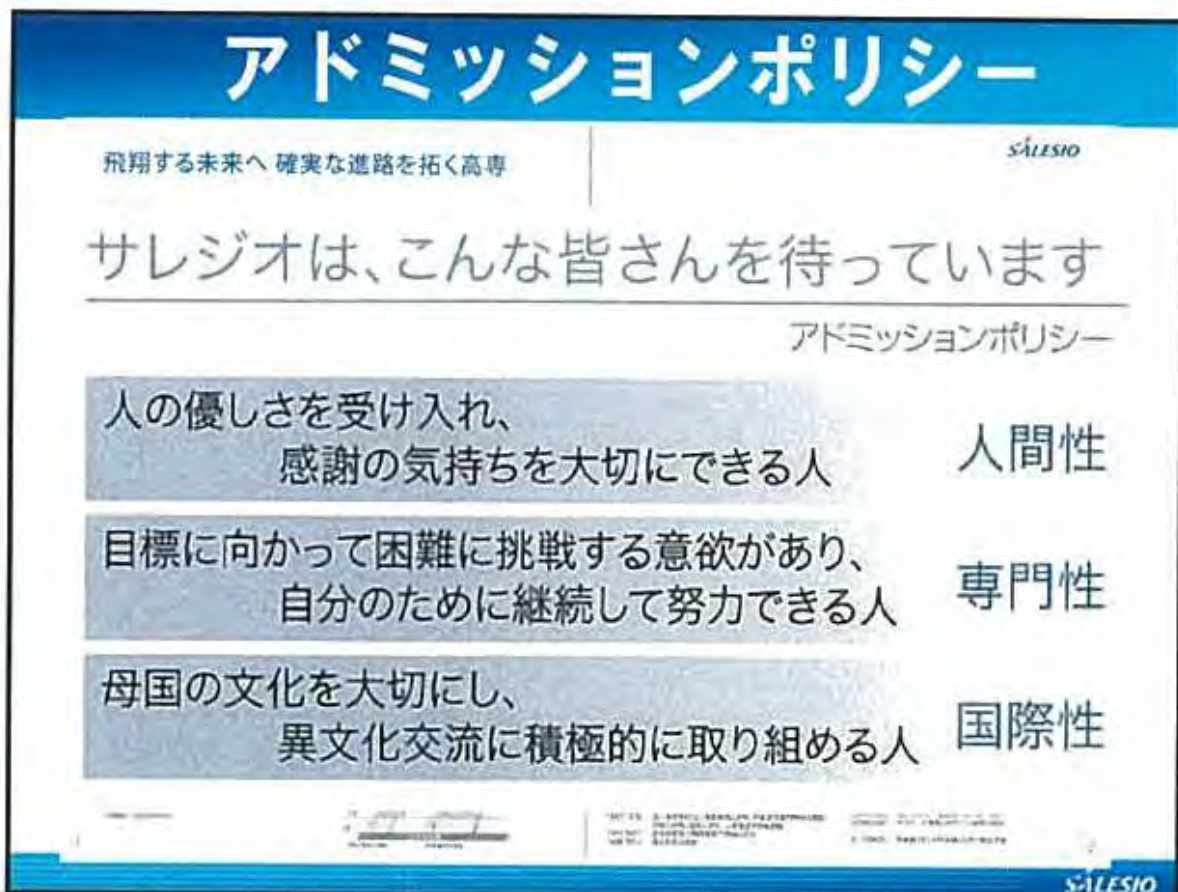
観点 4-1-①: 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育目的に沿って、本校の求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）（資料 4-4-①-1）が明確に定められており、学生便覧（info）（資料 4-1-①-2）及び、募集要項（資料 4-1-①-3）に明記されている。また、本校ホームページに教育目的、アドミッションポリシー等明記され学内外に周知徹底している（資料 4-1-①-4）。

アドミッションポリシー（抜粋）

資料 4-1-①-1



(出典 学校説明会資料)

3.1 理念・目的・目標

<本校の教育方針について>

3.1.1 教育理念

本校はローマカトリック教会において青少年教育を目的として事業を始めた聖人ヨハネ・ボスコ（伊 1815-1889）によって創設されたサレジオ修道会が全世界に展開している学校の 1 つとして 1935 年東京に創立された。1985 年、前身の育英工業学校の創立から数えて 50 周年を迎えたその際、教育理念を明確にしようとする当時のスタッフにより以下の 3 つの校是が定められた。

- 校是 1 「神は愛なり Loving Kindness」より
カトリック・ミッションによるキリスト教の精神に基づく教育
- 校是 2 「技術は人なり Human Technology」より
教養と専門を基盤とする総合的人格陶冶に基づく技術者教育
- 校是 3 「真理は道なり Living Truth」より
理論と実践を両輪に創造性と探究心あふれる人間教育

<校是の解説>

その言葉の出典は校是 1 と校是 3 はともに聖書から引用された言葉である。

校是 1 は「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者はみな、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです」（ヨハネ 4 章 7 節）に基づく。「人類に幸福をもたらす技術」を目指す本校は、神が人間を愛しているので、人間は神の導きによって神から与えられた技術を用いて人類に幸福をもたらすことができるという信念をもつ。

校是 2 はわが国の写真電送の発明者である丹羽保次郎（日 1893-1975）の言葉で技術はそれに関わる人の有様によって生み出されるものが左右されると述べられている。それはキリスト教の最も重要な教えのひとつに「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」（マタイ 22 章 39 節）という言葉があるように、人類のために使われる技術を生み出す技術者は隣人のために誠実に振舞わなければならないという信念のもと「人類に幸福をもたらす技術」の捨得を目指す。

校是 3 は「真理を行うものは光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために」（ヨハネ 3 章 21 節）に基づく。学問を通して真理を探究する者には神は道を示してくれる。真理を求めて歩むこと自体が、知的に、精神的に人間を高めるという信念から「人類に幸福をもたらす技術」を学び、向上する精神を大切にす。

<基本精神>

創立者ヨハネ・ボスコの精神に基づき、彼らが善き社会人になるために、キリスト教精神に基づいた人間教育を目標とする。キリスト教精神とは、忍耐、寛容、ゆるし、謙遜、誠実（I コリ 13 章）を意味する。さらに本校で学び、習得した技術を通して人類社会に貢献できる人間を育て、聖書のことばにある「地の塩」（マタイ 5 章）に象徴される、それぞれが習得した能力や与えられた立場を生かして、社会を支える技術者になることを勧める。キリスト教の世界観と全世界に 2350 余の姉妹校を持つ本校は、その連携を通して、人類社会という世界に開かれた視野を持つ実践的技術者を育成する。さらにヨハネ・ボスコが大切にした、「予防法教育実践」にもとづく、常に教えられる者とともに、彼らの目線でものごとを捉え、ともに歩む姿勢「アシステンツァ」という教育手法を実践する。

3.1.2 教育目的

－ 基本精神 －

キリスト教精神に基づく人間観を持った善き職業人を養成する

1. 専門性…深く専門の学芸を教授し高度の工業専門教育を行う
2. 国際性…国際社会で活躍できる有為な人材を養成する
3. 人間性…社会性豊かな、創造性に富んだ、チャレンジ精神溢れる個性に伸ばす

<基本精神の解説>

創立者ヨハネ・ボスコの精神に基づき、健全な青少年を育成するために、彼らが善き社会人となるために必要な糧を与えることを目標とする。それは技術を通して人類社会に貢献できる人間を育てることであり、社会の華やかな舞台ではなく、聖書の言葉である「地の塩」に象徴される、見えないところで大地を支える岩塩のように、社会を支える技術者になることを勧める。キリスト教の世界観と全世界に 1600 余の姉妹校をもつ本校はその連携を通して、人類社会という世界に開かれた視野を持つ実践的技術者を育成する。さらにヨハネ・ボスコの常に教えられる者とともに、彼らの目線でものを考え、ともに歩む姿勢「アシステンツァ」という教育方針を実践する。

3.1.3 教育目標

教育目的を実現するために、サレジオ工業高等専門学校は以下に掲げる素養を持つ技術者を育成することを教育目標とする

3.1.3.1 準学士課程の教育目標とその背景

平成 19 年度までの info2007 には以下の教育目標が示されていた。

Info2007 より抜粋

以下に掲げる素養を持つ技術者を育成することを目標とする。

- A. 基礎力：専門分野に関する基礎的な知識・技能を身につけた技術者
- B. 実践力：アイデアを具現化することができる開発型技術者
- C. コミュニケーション力：物事を論理的に考え、文章や口頭によって意思疎通ができる技術者
- D. 健全な倫理観に基づき技術によって社会に貢献できる技術者
- E. 国際社会の一員として考え、行動できる技術者

従来の学校教育目標が JABEE 準備委員会によって平成 16 年度に審議、提案された事情から上記の目標達成は主として高専 4-5 年から専攻科 1-2 年の学士課程を想定したものであった。しかし今回、機関別認証評価を受審するにあたって、高専 1-5 年の準学士課程と専攻科 1-2 年については両課程を履修する学生の員数は大きく異なり、必然的に準学士課程で卒業する大半の学生の目標は専攻科に進む 10%以下の学生の達成する目標とは異なるべきであるという観点が示され学校教育目標を改定することとなった。

前節で定めた教育目的、これは従前と変わらないが、に基づく技術者がもつべき素養、すなわち達成目標をそれぞれの課程ごとに定めることとする。技術者の標準的カテゴリーを考えると高専の出身者に対する産業界の期待は大企業から中小企業では多少異なるものの非常に大きな期待を寄せられていることは事実である。準学士課程では 5 年間の「実践型技術者」の完成教育を、専攻課程はそれに加えて 2 年間で開発型技術者な

ような素養を持つべきなのであろうか。平成 20(2008)年度に以下のように改定した。

準学士課程にあっては実践的技術者となるために以下のような力を身につけることを目標とする

- A. **基礎力**：専門分野を学ぶために必要な基礎的学力や技能
- B. **実践力**：提示された課題を正確に必要なかつ十分に実現する力
- C. **コミュニケーション力**：物事を論理的に考え、それらを文章や言葉で表現する力
- D. **人間性**：健全な人格を育成し、社会性をもつ人柄となる力
- E. **国際性**：海外の人々と交流するために必要とする基本的な力

「基礎力」については後期中等教育である高等学校課程に相当する 1-3 年の課程を抱えている以上、ここでは当然一般教育の英語、数学を始め、後に学ぶ専門教育に必須の教科を通して基礎力をつけることである。それは従前の専門分野の基礎力まで及ぶものであって当然である。

「実践力」については上位の技術者から指示された課題について確実に対応して実行できることがまず必要である。次にその過程において自分なりの工夫やアイデアを投入して問題解決ができればなお良い。

「コミュニケーション力」については基礎力をもとに課題や実験報告を作成したり、特に最近の若者に不足しているといわれる自分の意思を相手に伝える、相手の考えを読み取る力が一般、専門の両分野にかかわらず必要である。その力はやがて調査報告、研究発表や学会発表での能力を養成することにつながる。

「人間性」についてはまず技術者以前に多感な青年期を過ごす 16-20 歳の 5 年間に健全な人格をつくること、またこれも最近指摘される青少年の社会性の欠如を十分に配慮する必要がある。特に低学年においてはこれを配慮する必要があり、その後高学年にあつて技術者としての倫理観や技術のもつ社会性に目覚めさせる必要がある。

「国際性」についてはまず身近な周囲において多様な価値観をもった人々との交流ができることが重要である。多様な人々の意味は外国人に限定したものでなく異なる考えをもった人の意味も含む。その上で、学内における外国人教員、留学生、海外研修、その他の国際交流の場面で活かされる。

新しい目標は準学士課程の 5 年間で多くの学生が達成しなければならない目標であり、いわゆるミニマム・リクワイアメント（最小達成目標）として制定した。これらの学校目標をもとに学科、教科の学習教育目標が定められるが、それらの学科、教科目標は学校目標を最低基準としてより高い目標を目指すことになる。また現在の新カリキュラムが平成 16 年度から導入された関係で従前の学校目標を前提に組み立てられていることもある。なお従前の目標と新しい目標は断絶したものではなくここまで説明してきた背景に基づくものであることを理解してほしい。

3.1.3.2 専攻科課程の教育目標とその背景

専攻科課程にあつては準学士課程で身につけた実践的技術者としての基礎の上に、より深い専門基礎力と特別研究を通じての研究開発の体験を基に研究開発能力を有する技術者となるために以下の目標を達成する

- A. **基礎力**：特別研究の遂行過程において常に基礎に還り、新知識を創り出す訓練を行う
- B. **専門力**：準学士課程の専門課程と接続して、より高度な専門領域について研究室を中心として特別実験や特別研究の実践を通して知識のみならず、学び力を養うことで創造的研究開発能力を得る
- C. **コミュニケーション力**：学会の場を通じ、論文作成、研究発表（情報発信）、質疑応答を通じ、真の意味でのコミュニケーション力を養う
- D. **人間性**：学問を通して人間性を養う
- E. **国際性**：国際会議における研究発表を通じ、エンジニアとしての国際性を身につける

これらの目標達成に専攻科では特別研究を中心に本当の意味での研究を行うようにしている。その成果例として、添付資料は専攻科学生が行った研究成果の国際会議（レフェリー付）、学会発表を示している。

- (1) の基礎力は電磁気学、電気回路とその演習をいくらやっても身につくものではなく、研究の過程での議論で常に教員～学生間で基礎に帰ることにより研究が遂行され、基礎力がつくものとする。
- (2) は研究が全て新しいこと（世の中で判っていないこと）がテーマで実験、理論の展開によって遂行される。
- (3) は2年間で5回行われる発表会を通じ培われる。
- (4) の人間性はその涵養が難しいが「人格は学問をすることによって培われる。」（徳島大学小田教授（心理学）談）ことでここでも真の研究が要求される。
- (5) は1項で述べた「研究イコール国際的」であることである。

以上のような内容を実施するにあたっては一人の教員だけによる偏りがないように

- (ア) 主査・副査制の導入
- (イ) フェロー制度

を平成19年度から実施している。なお専攻科の教育理念の背景についてはこのinfo2009の第V章のH専攻科生産システム工学専攻紹介のページにおいて「Tの字型教育理念」として紹介している。

平成22年、23年と学校の政策もあって両年度とも定員14名の入学実績に達した。しかしながら本科と異なって自律した学習姿勢と自己管理能力が要求されることから、キャリア教育の観点からも本校の4年生から専攻科に至るいわゆる「JABEEプログラム」に対応可能な新たな目標設定が必要とされている。

アドミッションポリシー (抜粋)

本科 アドミッションポリシー 「E」を「F」にする人(づくり)を目指している私たちの学校は、このあたりを待っています。
 1. 人の個性を受け入れ、感動の気持ちを大切にできる人(人間性) 2. 自覚に向かって困難に挑戦する意欲があり、自分のために継続して努力できる人(専門性) 3. 母国の文化を大切にし、異文化交流に積極的に取り組める人(国際性)

SALESIO サレジオ高専

<p>募集定員 (男女共学) 各学科：45名 合計：180名(1学年)※特待生人数あり。</p>	<p>学科を選択 デザイン学科・電気工学科・機械電子工学科・情報工学科から、第1志望(入試区分によつては第2志望まで)の学科を選んで、自分にあった入試区分を確認してください。</p>	<p>出願資格 AO:推薦・併願入試を希望する場合は、「成績評定基準」をご確認ください。</p>	<p>単願と併願 (第1志望・第2志望) 併願を希望する場合は「入試区分」、AO・併願・学力選択・併願子女・自己推薦からの選択になります。</p>
<p>選択</p>	<p>学校説明会 開始時間：直接本校へ！(中学生・保護者対象、事前申込み不要。詳細はホームページでご確認ください) 5/12(土) 6/9(日) 7/29(日) 8/25(土) 9/22(曜) 10/13(土) 11/23(曜) 12/8(土) (H25) 1/12(土) 6/19(土) 7/29(日) 9/8(土) 11/10(土)</p>	<p>体験入学 午前9時スタート！事前申込みが必要です。(中学生対象) 6/19(土) 7/29(日) 9/8(土) 11/10(土)</p>	<p>「なんででも相談会」開催 全日程で受験の事前相談、クラブ活動、学科のことなど、本校担当者が(後援員)が相談にのります。</p>
<p>内申基準補正</p>	<p>成績評定基準の読替え ※特待推薦入試は除く。 成績評定(国・数・英)3科目を試験に読替えることができます。 ○デザイン学科・国・数・英・美術・国・英・技術 ○電気系3学科・…・数・英・理科・数・英・技術 (電気・機械電子・情報)</p>	<p>検定取得者への加算 ※特待推薦入試は除く。 以下の資格取得者は、内申の評定に加点いたします。 ○英検合格(準級3級・1級) [準2級+2点] [3級+1点] [3級以上+2点] ※3科目+加算 ○日本誌検定 [4級・準3級・1級] [3級以上+2点] ※3科目+加算 ※加算は3点までとします。</p>	<p>その他の加算 部活・委員会活動・美術・技術展(本校の中学生向けイベント「サレジオカップ」)などの特筆すべき活動がある場合において検討いたします。</p>
<p>入試区分</p>	<p>AO入試 出願のみ 入試：面接(本人・保護者) 成績評定基準あり。 公開推薦の併選推薦基準あり。 ※併願は本校が第1もしくは第2志望であること。</p>	<p>A1-特待推薦入試 出願のみ 入試：面接(本人・保護者) 成績評定基準あり。 ※推薦料免除制度あり。12/12(水)までに事前相談を行ってください。</p>	<p>D-併願子女入試 出願・併願 入試：面接(本人・保護者)・学力選択 現地滞在2年以上、帰国後2年以上以内。 ※特待取得者への併選推薦あり。</p>
<p>入願</p>	<p>事前相談 AO入試・推薦入試・併願入試・自己推薦入試・併願子女入試の出願には、事前相談が必要となります。 出願日前日までに、本校担当者へご相談ください。</p>	<p>C-学力選択入試 出願・併願 入試：面接(本人)・学力選択 本校が第1志望の場合、優遇措置あり。</p>	<p>E-自己推薦入試 出願のみ 入試：面接(本人) 成績評定基準あり。 公開推薦の併選推薦基準あり。 ※併願は本校が第1もしくは第2志望であること。</p>
<p>入試合格発表</p>	<p>学力選択試験 面接試験の時間を指定します。10分前までに、本校の指定場所へ集合してください。 ※AO・特待推薦・併願子女は、本人と保護者の両方にあります。</p>	<p>合格発表 個別に、速達郵便で通知します。電話等でのお問い合わせには一切応じられません。選抜方法については、入試全般の総合判断によって合否判定されます。</p>	<p>AO・推薦入試等で不合格の場合の再受験 再受験を希望する場合は、学力選択入試となります。指定日時に出願書と受験料を提出してください。受験料の再払いはいは必要ありません。</p>
<p>入学手続</p>	<p>入学金の納入 指定期間内に、本校指定口座へお振り込みください。一旦払込された納入金は返還いたしませんので予めご了承ください。</p>	<p>併願者の入学手続期限 併願受験の入学手続期限は、志願書に記載された高校の合格発表日翌日、午後3時までとします。本校では入学証納金などはありません。</p>	<p>登録日と学用品購入 入学手続完了が確認でき次第、必要な書籍をご自宅にお送りいたします。登録日・学用品購入指定日等がありますので、準備してください。</p>

個別相談・個別学校見学にも対応します。見学・受験に関する相談など、ご不明な点はお気軽にTEL.042-775-3040 もしくはホームページ(www.salesio-sp.ac.jp)からお問い合わせください。
 サレジオ高専 入試広報室: TEL.042-775-3040 もしくはホームページ(www.salesio-sp.ac.jp)からお問い合わせください。
 「サレジオ高専」で検索してください!
 E-mail: nyust@salesio-sp.ac.jp

サレジオ高専 検索

SALESIO サレジオ高専
Salesian Polytechnic

ホーム Home 学校案内 Guidance 学科紹介 Departments 入試情報 Examination 交通アクセス Access お問い合わせ Contact

ホーム > 学校案内 > サレジオ高専の教育 > アドミッション・ポリシー

【学校案内】 サレジオ高専の教育 Last Update: 2012-05-17

**サレジオは こんなみなさんを待っています
アドミッション・ポリシー**

学校案内 TOP

サレジオ高専の教育

- サレジオ高専の教育 TOP
- アシステンツァ（寄り添う教育）
- サレジオ高専 校景
- アドミッション・ポリシー

このページの目次

- こんな皆さんを待っています - アドミッション・ポリシー
- 関連リンク

中学生の方へ

- 【一覧】中学生向けイベント

総合案内

- 受験をお考えの方へ

こんな皆さんを待っています - アドミッション・ポリシー

中学生の方へ - 本科 アドミッションポリシー

サレジオ高専では、こんなあなたを待っています。

- 人の優しさを受け入れ、感謝の気持ちを大切にできる人（人間性）
- 目標に向かって困難に挑戦する意欲があり、自分のために継続して努力できる人（専門性）
- 母国の文化を大切にし、異文化交流に積極的に取り組める人（国際性）

詳しくはこちらをご覧ください

- 【入試情報】アドミッション・ポリシー（本科）

PAGE INDEX PAGE TOP

専攻科を志望される方へ - 専攻科 アドミッション・ポリシー

専攻科では、次のような学生の皆さんをお待ちしています。

- 一、開発型技術者になりたい人
- 一、学ぶことの大切さを自覚した人
- 一、失敗体験を生かし、再挑戦したい人

詳しくはこちらをご覧ください

- 【入試情報】専攻科 アドミッション・ポリシー

関連リンク

- 【入試情報】アドミッション・ポリシー（本科）
- 【入試情報】専攻科 アドミッション・ポリシー
- Facebook
- Twitter
- Instagram

(出典 本校ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、アドミッションポリシーを明確に定め、ウェブサイトへの掲載や公開をし、周知徹底している。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の説明会、体験入学、学外で行われる説明会等で毎回アドミッションポリシーの話をし、入試相談会の中で、受験生が実践できているかを確認している。そして、特にAO入試を特別に取り上げた説明会（8/25・10/13）を開催し、周知に努めている（資料 4-2-①-1）。

資料 4-2-①-1 その 1

AO入試説明会資料例

アドミッションポリシー

飛翔する未来へ 確実な道路を拓く 高等 SALESIO

サレジオは、こんな皆さんを待っています

アドミッションポリシー

人の優しさを受け入れ、感謝の気持ちを大切にできる人	人間性
目標に向かって困難に挑戦する意欲があり、自分のために継続して努力できる人	専門性
母国の文化を大切にし、異文化交流に積極的に取り組める人	国際性

SALESIO



入試

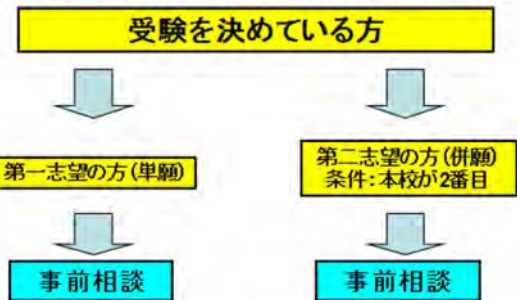
入試区分		出願期間(申込)	選抜試験日	合格発表
AO入試	AO I	H24.12.10~12.13	H24.12.16	H24.12.18
	AO II			
A1特待推薦	特待推薦 I	H25.1.8~1.10	H25.1.13	H25.1.16
	特待推薦 II			
A2推薦	推薦 I	H25.1.8~1.10	H25.1.13	H25.1.16
	推薦 II			
B1併願入試		H25.1.21~1.23	H25.1.26	H25.1.29
B2併願入試				
C学力選抜入試		H25.2.12~2.14	H25.2.17	H25.2.19
D帰国子女入試				
E自己推薦入試	自己推薦 I	H25.2.12~2.14	H25.2.17	H25.2.19
	自己推薦 II			
F特別入試		事務相談により決定		選抜試験日翌日 本校にて発表

※ その他、入試についても事前相談を承っております。

SALESIO

AO入試とは

本校のアドミッションポリシーを実践している中学生のための入試



基準について

平成25年度生入試 基準偏差値			
選抜判定基準	専 願	併 願	
内申書	3教科 9、9教科 28	3教科 10、9教科 29	
公開模試（F合格もぎ・Vもぎ・神原川血脈模試など）の結果 公開模試において3または5教科の平均が以下の条件を満たしている者			
	専 願	併 願	
F合格もぎ	50	52	
Vもぎ	50	52	
神原川血脈模試	48	50	
その他の公開模試については、お問い合わせください			

※ 9教科評定に1が無いこと

SALESIO

事前相談について

相談時期について

1. 1学期の成績以降、出願前日まで
⇒ **成績表コピーをご持参ください**
 2. 公開模試の成績の出た以降、出願前日まで
⇒ **公開模試成績表コピーをご持参ください**
 3. よくわからない場合は、とりあえずお電話ください
⇒ **適切な入学試験をご案内いたします**
- SALESIO

資料 4-2-①-1 その 2

出願資格考え方について

内申点の読み替えについて

成績評定：国・数・英 3科目を読み替えることができる

●デザイン学科・・・国・英・英 または 国・英・**技家**

●電気系学科・・・数・英・理 または 数・英・**技家**

加点の取り扱いについて (但し、特待生入試は除外)

●英検、数検、漢検・・・3級 +1、準2級 +2

日本語検定・・・4級・準3級 +1、3級以上+2

3教科合計に加算 合計3点まで

●その他特筆すべき活動(美術・技術展入賞など)のある場合、ご相談ください。

SALESIO

リメディアル教育

AO入試合格者特典

1. 入学(4月)までに月1~2回の登校日
基礎学力の復習
専門科目の準備
90分授業体験
2. 特待チャレンジ(希望者のみ)

SALESIO

AO入試対策は・・・

面接試験のポイント

1. アドミッションポリシーを実践できている
2. 入学してどんなことをやりたいかを説明できる
3. 自分の言葉できちんと話すことができる

保護者の皆様へ

ご家庭や中学校生活での様子をお聞きます

SALESIO

4つの学科



SALESIO

(出典 入試広報室作成資料)

さらに、願書受付の際、受験生に渡すアンケートの中に、アドミッションポリシーの質問を盛り込み、本人が十分理解した上での受験してきていることを確認している(資料4-2-①-2)。また、面接試験の中での質問事項にも必ずアドミッションポリシー質問項目を盛り込んでいる。

入試面接アンケート

資料 4 - 2 - ① - 2

平成24年度生 サレジオ高専 入試面接アンケート

氏名	生年月日 年 月 日 生		受験番号
出身中学 都 道 府 県 市 区 町 村 立 中 学 校	志望学科		学科
保護者氏名	家族構成		父 母 兄 姉 弟 妹 祖 父 母 其 他
家族に卒業生が	います いません	いるとき ⇒ 誰が	年 頃 学 科 卒 業
兄・姉が在籍	しています していません	いるとき ⇒ 誰が	学 科 年 生
通 学 経 路	徒歩 自転車 電車 バス モノレール	所要時間	時 間 分
中 学 部 活	部 部 活 実 績 大 会 出 場	生徒会役員	
入 学 後 活 動 希 望	剣道 テニス ワンダーフォーゲル 映像研究 柔道 バドミントン プラスバンド 写真 バレーボール 陸上 射撃 電子通信 ハンドボール サッカー 放送 ドンボースアクションクラブ バスケットボール 卓球 天文 情報研究		
サレジオ高専の広報(広告)を見たことのあるものは？ すべてに○を付けてください	駅看板 電車広告 受験雑誌 タウン誌 ホームページ 新聞 中学校(ポスター) 塾(ポスター)		
サレジオ高専を誰から勧められましたか？	中学の先生 塾の先生 両親 兄弟 親戚 知人 友達		
学校説明会参加	回出席	印象	体験入学参加 回出席 印象
学習塾に	通っている 通っていた 通っていない	塾 名	週回数 回
学校志望動機 複数○可	1. キャンパスが新しいから 2. 設置されている学科に興味があったから 3. 体験入学してそれが良かったから 4. 見学してみても良かったから 5. 大学編入・就職状況がいいから 6. 高専だから 7. 先生からすすめられたから 8. 塾からすすめられたから 9. 親や家族、親戚からすすめられたから 10. 身内が卒業または在学していたから 11. ミッションスクールだから 12. スクールカラーに魅力があるから		
学科志望動機			
サレジオ高専では、入学して欲しい生徒さんのイメージを次のように考えています。(これをアドミッションポリシーといいます) 自分に該当するところに、いくつでも ○ を付けてください。			
1. 人の優しさを受け入れる人 2. 感謝の気持ちを大切にできる人 3. 目標を立てられる人 4. 困難なことにチャレンジする意欲のある人 5. 何事にも努力を続けることができる人 6. 自分の国の文化を大切にし、理解しようとする人 7. 異なる国との交流に興味をもち、積極的に取り組める人			
得意科目	趣 味		
不得意科目	購読雑誌など		
学習時間 (一日平均)	時間位	最近読んだ本	
特技・資格	よく見るテレビ		
自分の長所	1日平均TV 視聴時間	時間位	
自分の短所	1日平均の ゲーム遊び	時間位	
最も印象に残った 最近の出来事			

この面接アンケートは事前に本人が記入して入試当日に持参してください。面接前に回収します

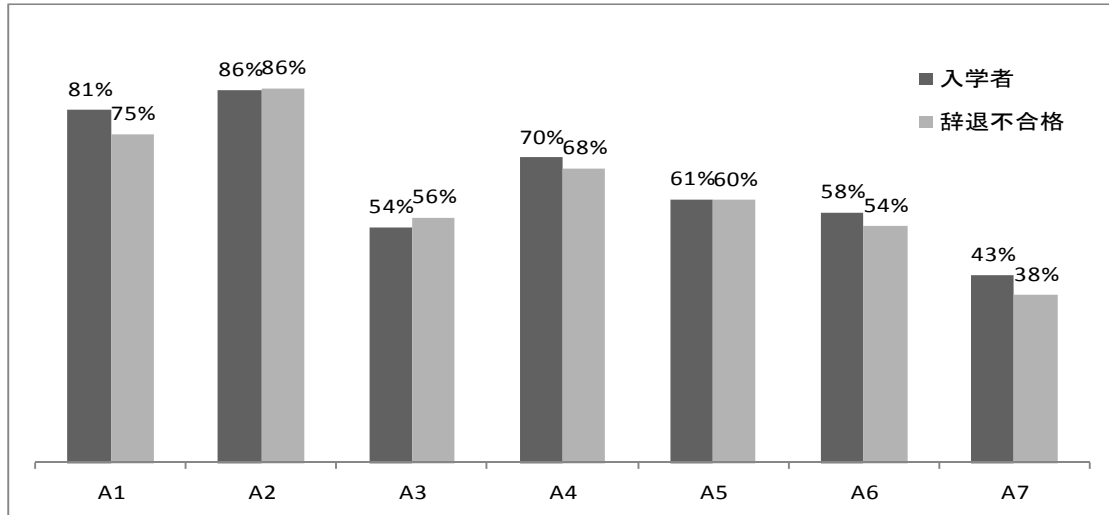
この面接アンケートで知り得た個人情報は個人情報の保護に関する法令及びその他の規範、本校「個人情報の取扱いについて」を遵守し、本校入学者選抜及び付随する業務遂行上で使用する以外には利用しません。

(出典 入試広報室)

アンケートによる受験者のアドミッション・ポリシーの比較

資料 4-1-①-3

アドミッションポリシー 比較



	入学者	辞退不合格	
A1	162	114	人の優しさを受け入れる人
A2	171	130	感謝の気持ちを大切にすること
A3	108	85	目標を立てられる人
A4	140	102	困難なことにチャレンジする意欲のある人
A5	121	91	何事にも努力を続けることができる人
A6	115	82	自分の国の文化を大切に理解しようとする人
A7	86	58	異なる国との交流に興味をもち積極的に取り組める人
総数	200	151	

(出典 入試広報室資料)

AO入学試験実施状況

資料 4-2-①-4 その 1

年度	入試区分	AO	A1・A2	B1・B2	C	E・F他	合計
H21	志願者	4	51	70	107	12	244
	受験者	4	51	65	107	12	239
	合格者	3	51	65	93	8	220
	入学者	3	51	22	75	7	158
	志願倍率	1.33	1.00	1.08	1.15	1.50	1.11
	入学率	0.75	1.00	0.31	0.70	0.58	0.65
H22	志願者	8	52	66	78	3	207
	受験者	8	52	62	78	3	203
	合格者	8	51	62	71	3	195
	入学者	8	51	11	57	3	130
	志願倍率	1.00	1.02	1.06	1.10	1.00	1.06
	入学率	1.00	0.98	0.17	0.73	1.00	0.63
H23	志願者	123	15	86	83	13	320
	受験者	123	15	82	81	13	314
	合格者	123	15	81	63	8	290
	入学者	97	15	12	40	6	170
	志願倍率	1.00	1.00	1.06	1.32	1.63	1.10
	入学率	0.79	1.00	0.14	0.48	0.46	0.53
H24	志願者	182	19	70	75	8	354
	受験者	182	19	67	75	8	351
	合格者	172	19	66	62	5	324
	入学者	127	19	9	42	3	200
	志願倍率	1.06	1.00	1.06	1.21	1.60	1.09
	入学率	0.70	1.00	0.13	0.56	0.38	0.56

AO	H21	H22	H23	H24
志願者	4	8	123	182
受験者	4	8	123	182
合格者	3	8	123	172
入学者	3	8	97	127

資料 4-2-①-4 その 2

年度	学科	デザイン	電気	機械電子	情報	合計
	定員	45	45	45	45	180
H21	志願者	51	54	78	61	244
	受験者	51	53	76	59	239
	合格者	49	47	70	54	220
	入学者	38	38	43	39	158
	志願倍率	1.13	1.20	1.73	1.36	1.36
	定員充足率	0.84	0.84	0.96	0.87	0.88
H22	志願者	49	55	51	52	207
	受験者	49	54	49	51	203
	合格者	49	50	47	49	195
	入学者	39	38	23	30	130
	志願倍率	1.09	1.22	1.13	1.16	1.15
	定員充足率	0.87	0.84	0.51	0.67	0.72
H23	志願者	70	68	83	99	320
	受験者	69	67	80	98	314
	合格者	61	64	74	91	290
	入学者	38	39	40	53	170
	志願倍率	1.56	1.51	1.84	2.20	1.78
	定員充足率	0.84	0.87	0.89	1.18	0.94
H24	志願者	70	76	106	102	354
	受験者	70	74	105	102	351
	合格者	67	68	89	100	324
	入学者	48	42	55	55	200
	志願倍率	1.56	1.69	2.36	2.27	1.97
	定員充足率	1.07	0.93	1.22	1.22	1.11

(出典 入試広報室作成資料)

昨年度の入試問題

入学試験【英語】サンプル問題

◎英語は非公開のため過去問題の掲載はありません。

【入試（英語）出題形式の変更】

平成 23 年度入試から一斉マークシート方式による試験を導入し昨年まで実施。平成 25 年度にはマークシート方式に加えて一部記述解答の試験問題に変更予定。(問題は全 50 問でおよそ 10%を記述解答)

【入試問題の傾向と対策】

サンプル問題は過去問題に代わるものとして本校志願者の便宜を図るために用意しました。この出題例は入試問題と大きな差異はなく出題傾向を知る一助となります。多くは基礎的な知識を問うもので下記の出題形式をとります。

- (1) 空所補充⇒基本の品詞、文法、語彙、文の種類を知っている
- (2) 会話完成⇒簡易な対話形式に慣れている
- (3) 文章補充⇒簡易な英文を読んで内容を把握できる
- (4) 整序作文⇒与えられた語句で作文できる
- (5) その他

十分に準備をして入試に臨んでください。

1 次の 1 から 26 までの () に入れるのに最も適切なものを (a), (b), (c), (d) の中から 1 つ選び、その記号のマーク欄をぬりつぶさない。

1. A: () does your brother do?
B: He is a teacher.
(a) Who
(b) What
(c) Whose
(d) Where

2. A: () students are there in your school?
B: About 450.
(a) How often
(b) How about
(c) How many
(d) How much

2 次の会話 1 から会話 7 について、() に入れるのに最も適切なものを (a), (b), (c), (d) の中から 1 つ選び、その記号のマーク欄をぬりつぶさない。

【会話 1】

A: Hi. My name is Roy. (27)
B: Hi. Roy! My name's Peter.
A: Nice to meet you, Peter.
B: Nice to meet you, too, Roy.
A: (28)
B: I'm from California. I live in L.A.

27
(a) Who are you?
(b) What's your name?
(c) What are you doing?
(d) Where do you live?

28
(a) Where are you going?
(b) Who do you live with?
(c) When did you come here?
(d) Where are you from?

【会話 2】

A: Hi, Sam. (29)
B: Not bad, thanks! How about you?
A: Pretty good, thanks. Do you know (30)?
B: Yes, I do. He is Mr. McCann, the new teacher.

29
(a) How about you?
(b) Where are you?
(c) Who are you?
(d) How are you?

30
(a) who that gentleman is
(b) what that gentleman is
(c) how that gentleman is
(d) where that gentleman is

1. A: () don't we speak English here?
B: That's a good idea.
(a) How
(b) Why
(c) When
(d) Who

2. Takao is my mother's brother. He is my ()
(a) uncle
(b) nephew
(c) aunt
(d) niece

3. It's very hot in this room. Can you () the window for some fresh air?
(a) open
(b) get
(c) make
(d) clean

4. A: Is the school near the station?
B: Yes, it's very () to get there.
(a) easy
(b) difficult
(c) hard
(d) fast

5. A: Excuse me. What time does the show start?
B: () six thirty.
(a) On
(b) In
(c) At
(d) For

6. Ken and Mary are good tennis players. () practice hard every after school.
(a) He
(b) She
(c) You
(d) They

【会話 3】

A: Hello.
B: Hey, Nobu. It's Joe. What are you doing?
A: Oh, hi Joe. (31) What are you doing?
B: I'm studying math.
A: Good for you! How is it going?
B: (32)

31
(a) I did my homework in English.
(b) She does her homework in English.
(c) I'm doing my homework in English.
(d) I will do my homework in English.

32
(a) It's going well.
(b) It's going home.
(c) It's going to school.
(d) I'm not going anywhere.

3 次の 2 つの文章について、() に最も適切なものを (a), (b), (c), (d) の中から 1 つ選び、その記号のマーク欄をぬりつぶさない。

【文章 1】

David is a computer scientist. He comes from Taipei in Taiwan, (41) now he lives in the United States. He works three days (42) week for Golden Gate Computers in the small town of Lake Forest, California. He speaks (43) languages: Chinese, English, and Japanese. He's married and has a daughter. He likes playing tennis and riding his bicycle in his free time.

41
(a) so
(b) then
(c) because
(d) but

42
(a) for
(b) in
(c) a
(d) an

資料 4-2-①-5 その 2

- 43
- (a) one
 - (b) two
 - (c) three
 - (d) four

【文章 2】

Sunnyside, New York 11103
February 14

Dear Minako,

How are you? I'm fine. Here's a letter in English. It's very good practice for you and me!

I have classes in English at Top Community College. I'm in a class with eight students. They're all from different (44): Japan, Brazil, Italy, Taiwan, Mexico, Ireland and Russia. Our teacher's name is Bob. He is very nice and a very good teacher.

I live in an apartment with two American girls, Linda and Suzanne Mooney. They are sisters. Linda is twenty years old and a dancer. Suzanne's eighteen and a student. They are very friendly, but it (45) to understand them. They speak very fast!

New York is very big and very exciting, but very expensive! The subway isn't hard to use and it's cheap. It's (46) now, but Central Park is beautiful in the snow. I'm very happy here.

Write to me soon.

Love,
Chika

- 44
- (a) cities
 - (b) towns
 - (c) countries
 - (d) communities

- 45
- (a) isn't easy
 - (b) is very easy
 - (c) is very fine
 - (d) is very good

- 46
- (a) very hot
 - (b) very warm
 - (c) very cold
 - (d) very nice

47 次の47から50までの日本語の意味を表すように語(句)を並び替えて英文を完成しなさい。
*ただし、文の初めに来る語も小文字になっています。(別紙解答用紙に記入すること)

47. ミキがいつ出かけたかは知りません。
/ Miki / don't / went out / know / when / I / .
48. 放課後テニスしませんか?
/ after / playing / about / tennis / how / school / ?
49. 窓を開けていただけませんか。
/ please / open / you / the / could / window / , / ?
50. 北海道に行ったことがありません。
/ been / have / to / never / I / Hokkaido / before / .

【模範解答】

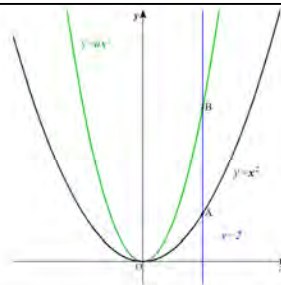
- [1] 1 (b) 2 (c) 3 (b) 4 (a) 5 (a) 6 (a) 7 (c) 8 (d)
- [2] 27 (b) 28 (d) 29 (d) 30 (a) 31 (c) 32 (a)
- [3] 41 (d) 42 (c) 43 (c) 44 (c) 45 (a) 46 (c)
- [4] 47 I don't know when Miki went out.
- 48 How about playing tennis after school?
- 49 Could you open the window, please?
- 50 I have never been to Hokkaido before.

平成 24 年度入学試験問題

数 学

注意 ① 解答はすべて、解答用紙に記入しなさい。
② 分数とルートは小数に直さないで、できるだけ簡単な形で表しなさい。

- ① $-2^2 \times (-2)^2 - 5 \times (-2)^3$ を計算しなさい。
- ② $(-2x^2y)^4 + \frac{4}{3}x^4y^3$ を計算しなさい。
- ③ $\frac{2x-5}{3} - \frac{3x-2}{5}$ を簡単にしなさい。
- ④ $\frac{4}{\sqrt{2}} - \sqrt{18} + 3\sqrt{8}$ を計算しなさい。
- ⑤ $3(a-2b)^2 - (3a-b)(3a+b)$ を計算しなさい。
- ⑥ $\begin{cases} 8x-3y=9 \\ \frac{1}{6}x-\frac{1}{2}y=-2 \end{cases}$ を解きなさい。
- ⑦ $x^2y - xy - 2y$ を因数分解しなさい。
- ⑧ $(a-b+c)d = e$ を c について解きなさい。
- ⑨ A 君は 3000 円の貯金を持っている。その貯金の $\frac{1}{5}$ でゲームを買い、残りの $\frac{1}{3}$ で本を買った。さらに残りの $\frac{1}{4}$ でケーキを買った。残っている金額を求めなさい。
- ⑩ A、B 2 つのサイコロをふって、その目の和が 5 となる確率を求めなさい。
- ⑪ $ax^2 + 3x - (2a+4) = 0$ の解のひとつは -2 である。a の値を求めなさい。
- ⑫ 2 けたの整数 x がある。この数からある 1 けたの整数 y を引き、9 倍したものに x を加えた値が 754 であるという。次の間に答えなさい。
(1) x と y の間の関係を式で表しなさい。
(2) $10 \times (2 \text{ けたの数}) + (1 \text{ けたの数}) = 235$ なら、2 けたの数は 23 で 1 けたの数は 5 である。



- 31 図 1 のように長方形 ABCD と平行四辺形 EFGH がある。
AE = a、EB = b、BF = c、FC = d として以下の間に答えなさい。
① 長方形 ABCD の面積は $(a+b)(c+d)$ と表すことができる。
平行四辺形 EFGH の面積を a、b、c、d を使って表しなさい。
(結果は展開し整理して簡単な形にしなさい。)
(ヒント：長方形の中に合同な三角形がある。)

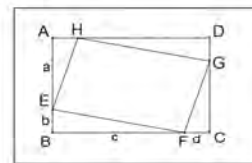


図 1

- ② ①の結果を利用すると、平行四辺形 EFGH の面積は、面積を変えないで、2 つの長方形の面積の和として表されること分かる。その 2 つの長方形を解答欄の図に書き入れ斜線を引きなさい。
(ヒント：2 × 3 は隣り合う 2 辺が 2 と 3 の長方形の面積と見ることができる。)
- ③ 図 2 は、底面が平行四辺形 EFGH で、その底面に垂直な四角柱を、底面に 45° の角度の平面が切斷した様子を表している。四角形 ABCD と四角形 A'B'C'D' は、それぞれ平行四辺形 EFGH と平行四辺形 E'F'G'H' を囲む長方形で、辺 AB と辺 A'B' は、平面どうしが交わってできる交線に平行である。AE = 4、EB = 2、BF = 3、FC = 1 とするとき、長方形 A'B'C'D' の面積を求めなさい。
- ④ 平行四辺形 E'F'G'H' の面積を求めなさい。

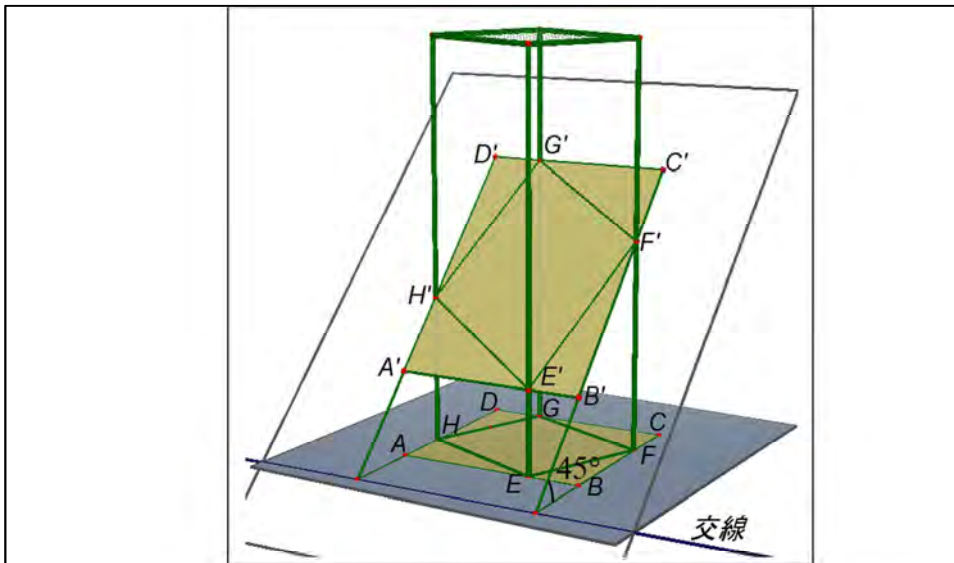
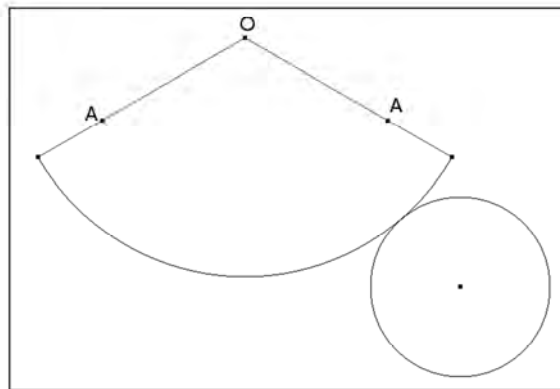
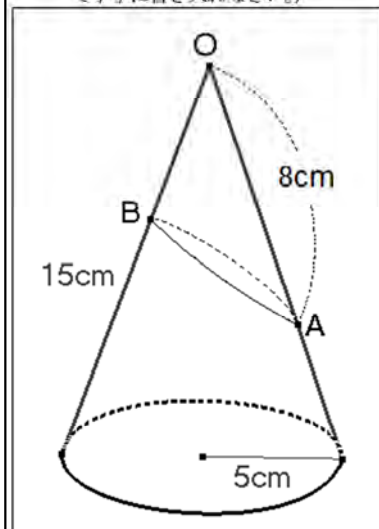


図 2

【4】下図のような底面の半径が 5cm、母線の長さが 15cm の円すいがある。よく知られているように、この円すいの展開図はおうぎ形と円になる。次の問に答えなさい。

- ① 展開図のおうぎ形の中心角を求めなさい。
- ② 図のように、頂点 O から 8cm の距離にある円すいの側面上の点 A からひもを回し、一周して A に戻る。ひもが最も短くなるようにひもを回すとき、そのひもは展開図の上で表すとどのようなか、展開図に書き入れよ。またそのときのひもの長さを求めなさい。(図はフリーハンドで丁寧に書き入れなさい。)
- ③ ②の場合に、A と反対側の点(ひも中央の点)を B とするとき、OB の長さを求めなさい。
- ④ A を通り底面に平行な平面でこの円すいを切ったときの切り口は、展開図ではどのようなか、展開図に書き入れなさい。また切ったときにできる円すいの体積を求めなさい。(図はフリーハンドで丁寧に書き入れなさい。)



資料 4-2-①-5 その 4

平成二十四年度入学試験問題

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十五点)

日本の食料自給率は現在、四パーセント弱である。つまり、六パーセント強の食料を他国から輸入していることになるわけだが、実は食べ物全体の三割程度は食べ残しとして捨てられている。すなわち、有効利用されている食物は七割だけということになる。考えてみればこれはいへんな無駄であろう。たとえ食料の自給量を増やさなくても、全部食べることを徹底しさえすれば食料自給率は事実上の上がることになるのだから。

ともあれ、**1**東京では有機物のゴミが大量に廃棄されると、**▲**東京湾の汚染が進むことになる。いわゆる畜産養化による赤潮の発生を招くからだ。畜産養化とは、簡単に言えば、生態系の中にある栄養素の量が過剰になり過ぎるということである。自然の力では処理・循環の速度が追いつかないぐらいに栄養素が多く含むゴミが大量に出てきて、それらが海洋の汚染につながっていったのだ。

有機物をどう循環・処理するかに関しては、東京では私はカラスが、有効な働きをしてくれていると思う。カラスにはとてもカラスが多い。都民の多くはカラスの多さに気が食わずに、駆除をしつづけている。カラスも人と同じように、カラスは、有機物のゴミの処理という点から見れば、環境にとっても良いことをしている。カラスのおかげで東京湾の畜産養化を防ぎ、カラスは、民間、海辺などで有機物のゴミを漁って、夕方になると郊外の森や林へ集まってそこで糞をする。つまり、海の栄養物を内陸に運んでいる**2**の役割を単たしているのだ。

ところで、栄養素はどのようにして生態系の中で循環、活かされているのだろうか。一口に栄養物といっても様々なものがあるのだが、ここでは生態系の制限要因として重要なリンを例にとりて流れを簡単に説明しておこう。様々な栄養素のうちリンは比較的軽く、気体として存在しない。リンは、だから最終的には沈殿物として海底に沈んでしまふのだが、それがアップ・ウェーリング(海底から水がわきあがって上へ移動すること)により海面近くにあがってくる。リンはリンが多いから、その海域は良い漁場になる。南水洋・南極海、北水洋(北極海)、そして赤道のそばが、世界三大漁場と呼ばれるけれども、たまたまそのうち赤道のそばは、寒流と暖流がぶつかる。赤道の冷たい水が沈んで海底にぶつかると、その反対に海底の水が上に向かい、年中、アップ・ウェーリングがある。**3**リンが多くなる。北水洋の場合、寒くならず海水は凍るわけだけれども、まず先に真水が凍るため、水の中の塩分は少ない。つまり、均一ではない。周囲は塩分が押し出されて濃くなるから、重くなる。それが海中に沈んでいき、海底に到達するとその反対で底の水が上へあがってくる。ちょうど春になると、下にあつたリンをたくさん含む水があがってくることになる。だから、春になれば、植物プランクトン、そして動物プランクトンが大量に発生する。すると、これらを食べる魚も大量に集まる。南水洋と北水洋は非常に寒いところにもかかわらずたくさんの魚がいるのは、そういう理由による。

4、リンはそれぐらい重要な栄養素であった。アップ・ウェーリングのようなメカニズムがないと海の底に沈んだ陸上生態系や中層以上の海洋生態系では利用できる量がどんどん減少してしまう。カラスのような動物はリンを海から陸に上げる役割を果たしている。だから、もし東京からカラスがまったくいなくなるとかあれば、東京湾はまずいことになってしまふのかもしれない。

【ほんとうの環境問題】池田清彦 著(五五)

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十五点)

文化におけるコミュニケーションについては、イギリスの社会人類学者エドモンド・リーチになつて私は大体「このレベルがある」と考えています。人間は動物が飛んでくれば本能的によけるし、寒くなれば衣服を着る、おなかをすければご飯を食べる。そういうごく自然な状態とよめる状態は、どんな文化を通しても変わらないだろうという事です。私たちの世界のどこへ行っても似たような自然状態は、絶対的共通の条件として二つは保たれている。人間として、どんな異なる文化を持つた人々の間でも、ある程度共有されて、ある程度共通している。人間としての共通の属性を持っているからという事だ。それです。

「自然」のレベルで、人間ならばわかりあふべきものがある。誰でもだいたい理解できる形でこうしたコミュニケーションの段階を、「信号のなレベル」とリーチは言っています。

ただ、さうはいつて私は次のようなことを問題としてあります。日本には象のような巨大動物はいませんが、スリランカに行くとき象がたまたまいて、スリランカの人達は象に対しては愛着がある。同時に恐怖も抱いています。象に近づく事は許さないし、近づく事は許さない。象に近づく時は写真を撮るのもスリランカ人が象相を愛して飛んでいく。巨大動物がいない自然環境に育っている人間と、日本のようにない自然環境に育っている人間は、自然環境が違っても、価値観も違ってくるという事です。ですから、同じ自然環境に育つても、必ずしも自然環境には同じ視できないのです。それが、象でも一匹ばかりあると、相手がかげや怒ったりもする。それが文化理解の最初の段階と見ます。

そして異文化理解の二つ目の段階は「社会的」レベルです。社会的な習慣や取決めを知らない文化を異にする相手も異文化理解できないという事です。

交通信号の表示の仕方を知らないという事です。右ハンドルの車は右ハンドルの車です。右ハンドルの車は左ハンドルの車より、左ハンドルの車より、左ハンドルの車の方が歩行者や自転車に対しては、歩行者や自転車の安全を確保して走ります。歩行者や自転車は歩行者や自転車の安全を確保して走ります。歩行者や自転車は歩行者や自転車の安全を確保して走ります。

問一 空欄1・3・4に入る最も適当な語句をそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を一度使ってはならない。(九点)

ア さて イ たとえ ウ つまり エ では オ だから カ あるとい キ また

問二 空欄2に入る最も適当な語句を文中より二文字で抜き出しなさい。(三二点)

問三 傍線部A「東京湾の汚染」の具体例として挙げられているものを文中より五文字で抜き出しなさい。(三二点)

問四 傍線部B「有効な働き」を解答欄に合うように十五文字以上三十五文字以内で文中の言葉を用いて説明しなさい。(四二点)

問五 傍線部Cの指示語「これら」が指し示すものを文中より二文字で抜き出しなさい。(三二点)

問六 この文章のタイトルとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。(三二点)

資料 4-2-①-5 その 5

問五 次のそれぞれについて、本文における筆者の主張に合うものには○、合わないものには×を書きなさい。(六・七点)

ア 「社会」のレベルの問題は、人間が普通に育ってきて得られる常識で消化できる範囲内である。
 イ スリランカと日本では自然観や価値観が違ってから「社会」や「文化」のレベルでのコミュニケーションは不可能である。
 ウ 「自然」のレベルは、生まれ育った環境が関係するため、その価値とか意味を共有している人間にしかわからないものである。

3 傍線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字になおしなさい。(十五点)

①彼は**瀟灑**な性格だ。 ②著名人から**寄贈**された本。 ③法令が**緩和**され、多くの企業が参入した。
 ④優秀な人材を**輩出**する。 ⑤荒地を**開墾**して野菜を育てる。 ⑥彼は**ソクザリ**に立ち上がった。 ⑦動物**ズカズカ**を書店で買った。 ⑧入学式の前に**床屋**でサンパツした。 ⑨あの会社と取引の**ケイヤク**を結んだ。 ⑩懸命な**ソウザ**により逮捕された。

4 下の意味を持つ四字熟語について、漢字に誤りがない場合は○を、誤りがあれば誤字を訂正した上で正しい四字熟語を、それぞれ解答欄に書きなさい。(六・七点)

① 五里夢中 —— 物事に迷って思案にくれること
 ② 完全悪悪 —— 善をすすめ悪をこらしめること
 ③ 針小棒大 —— 大げさに言うこと

5 次のAの文をそれぞれ()の指示に従い、文の意味をできるだけ変えずに書き換えたい。Bの「」にどのような語句をそれぞれ入れればよいか答えよ。(九・七点)

① A 強い風が家々をなぎたおした。(受け身の形にする)
 B 強い風で「」
 ② A 試験に受かるには準備が必要だ。(準備)を述語にする。
 B 「」は準備だ。
 ③ A 私は祖母に写真をもらった。(祖母)を主語にする。
 B 祖母が「」

6 次の意味をもつことわざ・慣用句を後の□よりそれぞれ選び、記号で答えなさい。(五・七点)

① 話し方が上手であること ② うれしくてほほえむ様子 ③ 失敗が偶然よい結果を生むこと
 ④ 見栄えや名誉よりも実益を選ぶこと ⑤ 好意的に世話をすること

ア足を洗う イ手が届く
 ウロがうまい エとじのつまり
 オ口をつくむ カ花も実もある
 キ目を

7 各文の空欄に入る最も適当な語句を後から選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使ってはならない。(五・七点)

① 今日はずいぶんいい。()、気分転換にジョギングでもしたらいい。
 ② 急に停電になり非常に困った。()、ろうそくや懐中電灯を準備しなかったのだ。
 ③ 勝負は水物と言われる。()、相手やその時の様子で変わりやすいということだ。
 ④ 姉は書道の師範である。()、茶道の師範でもある。
 ⑤ 雨がやみましたね。()、おなかはずいぶんすいてますか。

8 次の各文の二重線部の主語に対する述語を選び、記号で答えなさい。(十・七点)

ア なげなら イ また ウ つまり エ だから オ ところで カ または キ しかし

① 母も ア私にやぐが キらしいなことを オわすれていた オらしい。
 ② 兄の ア昨日 イ観た ウ映画は エおもしろかった エそつだ。
 ③ アつらいなあ イむずかしい ウ問題が エみんなにも オ出る カなんて。
 ④ アその雑誌は イ特定の ウ書店のみで エ扱われている オ言われた。
 ⑤ ア私が イ買った ウテレビは エ地デジに オ対応していなかった。
 ⑥ ア砂場で イ今 ウお城をつくられているのが エうちの オ子どもです。
 ⑦ ア私は イずっと ウ眺めていた エ花だんに オ色とりどりに カ映いた キ花を。
 ⑧ ア父は イ元気を ウなくし エ母も オだんだんと カ疲れて キ訴えるように クなった。
 ⑨ ア夏休みには イなんと ウ卒業生が エ会社での オ悩みを カ相談に キ来る。

(出典 入試広報室)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、アドミッションポリシーが適切に採用され、入学者選抜において適切に実施されている。

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

入学者選抜（AO入試判定会議）の中で実施している（訪問調査時に閲覧可能）。

さらに、本校ではAO入試に単願・併願を設け、その結果、受験者数の増加やAO入試の周知徹底となった。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、AO入試導入に伴い、入学前教育と学力試験時に開催する特待チャレンジを企画し実行した。その後、平成23年度より入学前教育クリメディアル（資料 4-2-②-1）や、平成24年度より入学後教育（資料 4-2-②-2）などの対象者のケアをすることとなった。

資料 4-2-②-1

平成 23 年 12 月 13 日

AO 入試合格者 殿
同 保護者 殿

サレジオ工業高等専門学校
教務学生課・教務主事

今後の予定と「入学前教育」について

入学試験合格おめでとうございます。ご入学確定後の予定についてお知らせいたします。本校では「入学前教育」プログラムとして、入学予定者を対象としたスクーリング授業を企画しています。(表中○印)。本校教員と一緒に授業を行うことで、サレジオ高専の授業スタイルに慣れながら、入学後の学習準備を進めることを目的としています。1月～3月の間に数学と英語 2 科目について全 4 回の授業を行います。

入学前ですので、参加は任意であり、不参加の場合も連絡は不要です。準備学習の機会を積極的に活用したいと考える皆さんの参加をお待ちしております。

今後の予定		★印: 必須出校日	○印: 任意参加日
出校	日 時	予 定	
○	1 月 14 日(土) 9:00～12:20	「入学前教育」プログラム① 集合時間：9:00 1 時間目 9:10～10:40 (数学 or 英語) 2 時間目 10:50～12:20 (英語 or 数学) ※筆記具持参、服装自由、昼食・上履き不要、保護者ご同伴不要	
○	1 月 28 日(土) 9:00～12:20	「入学前教育」プログラム② 集合 9:00 授業 9:10～12:20 ※筆記具持参、服装自由、昼食・上履き不要、保護者ご同伴不要	
★	2 月 11 日(土祝) 10:00～14:45 (15:00 終了)	制服・体育着等の採寸日 ご都合に合わせて時間内にお越し下さい。詳細は別途通知します。 ※ 服装自由、昼食・上履き不要 ※ 必要に応じて保護者の方もご同伴下さい	
○	2 月 18 日(土) 9:00～12:20	「入学前教育」プログラム③ 集合 9:00 授業 9:10～12:20 ※筆記具持参、服装自由、昼食・上履き不要、保護者ご同伴不要	
○	3 月 3 日(土) 9:00～12:20	「入学前教育」プログラム④ 集合 9:00 授業 9:10～12:20 ※筆記具持参、服装自由、昼食・上履き不要、保護者ご同伴不要	
★	3 月 10 日(土)	新入生登校日(実力テスト等) ※詳細は別途通知します	

(出典 入試広報室)

《 平成 24 年度「ブレテック土曜講座」 》

講座案内一覧

㈱エデュケーションネットワーク
サレジオ工業高等専門学校 入学後教育プロジェクト委員会

ブレテック土曜講座とは

ブレテック土曜講座では、単に学んだ事項や知識の定着を図るだけではなく、これまでに学んだ基礎を前提に、応用力・発展力を身につけることで大学編入試験でより高いレベルの大学に合格するための実力を養成します。

★本講座は、9月に開講した「サマースクーリング（外部講座）」に引き続き実施するものですが、サマースクーリング（外部講座）を受講されていない方の受講も大歓迎です。

講座の特長

- 専門分野で求められる「英語」・「数学」の基礎をしっかりと固めます。
- 科目は「英語（英文法）」と「数学（Ⅱ・B）」に絞り、各科目の重要単元を集中的に学習します。
- 教材・カリキュラムは、塾・予備校に準じたものを使用し、実力を養成します。

以下の通り、講座を実施いたしますので、大学編入試験合格を目指して明確な目標を持っている皆さんは、ぜひ受講してください。

【講座実施期間】 平成 24 年 10 月 18 日(土) ~ 平成 25 年 2 月 28 日(土) 全 10 回

【対象】 ブレテック（第 1 学年・第 2 学年）

【申し込み】 10 月 6 日(金)までに、受講料を添えて 1F 事務室窓口にて「申込書」を提出してください。

担当：田代

【講座一覧】 ※受講料には、教材費・消費税が含まれています。

時間（各 90 分）	講座名	受講料	回数
9:10~10:40	基礎英文法 (A)	15,750 円	10 回
10:50~12:20	大学編入数学	15,750 円	10 回
	基礎英文法 (B)	15,750 円	10 回

*講座名称は (A)・(B) に分けて開講しますが、講座の内容は基本的に同じです。

*11/17 は時間変更（午後実施）の予定です。詳しい時間が決まりましたら改めてお知らせします。

*納付された受講料は返金できませんのでご了承の上お申込みください。

【教材紹介】

高校新演習 スタンダード / ㈱エデュケーションネットワーク

【教材について】

配布する教材は、上記「スタンダード」より講座カリキュラムに合わせた必要な部分を抜き出し、冊子状にまとめてご提供します。



【講座内容・講師紹介】

H24/9/3

講座名	【数学】 大学編入数学
教材名	高校新演習 スタンダード 数学Ⅱ/数学B
【内容】	ベクトルと微分・積分を徹底的に演習する講座です。これまでに学習した基礎的な内容を確認しながら、応用・発展的な問題まで踏み込んで学習します。テキストに記載された多様な問題パターンに取り組むことにより、確実な理解と応用力の習得が可能になります。また、今回学習するベクトル・微分・積分は、専門分野においても重要な単元ですのでブレテックで確実に習得しておきましょう。

講座名	【英語】 基礎英文法 (A) / 基礎英文法 (B)
教材名	高校新演習 スタンダード 英語 I
【内容】	この講座では英文読解や英作文の土台となる英文法の重要単元の理解と習得を目指します。英語を理解する上で語彙は絶対に必要な要素ですが、語彙だけ理解できても正しい英語の理解はできません。正しい意味理解に欠かせない英文法を、時制・不定詞・分詞・動名詞といった重要単元に絞って説明し、演習を通して着実に身につけていきます。 (注) 講座名称は (A)・(B) に分けて開講しますが、講座の内容は基本的に同じです。

※基礎英文法の受講クラスについて

(A)・(B) どちらのクラスで受講いただくについては学校で決めます。

【日程・カリキュラム】(予定)

回	実施日	大学編入数学	基礎英文法 (A)・(B)
1	10/13 (土)	ベクトルの応用 (1)	文型
2	10/20 (土)	ベクトルの応用 (2)	時制 (1)
3	10/27 (土)	微分 (1)	時制 (2)
4	11/10 (土)	微分 (2)	助動詞
5	*11/17 (土)	微分 (3)	受動態
6	12/8 (土)	積分 (1)	不定詞 (1)
7	12/22 (土)	積分 (2)	不定詞 (2)
8	1/19 (土)	総合演習 (1) —微分・積分	不定詞 (3)
9	2/16 (土)	総合演習 (2) —微分・積分	分詞
10	2/23 (土)	総合演習 (3) —ベクトル	動名詞

※講座の内容及び進度は、学校の各教科教員と相談して決められています。

※カリキュラム内容は 9 月時点での予定のため変更される場合があります。

※11/17 は時間変更（午後実施）の予定です。詳しい時間が決まりましたら改めてお知らせします。

※天候等により休講となった場合には 3/2 (土) に振替授業を行います。ただし、2 回以上休講となった場合も 3/2 (土) 1 回のみ振替となりますので予めご了承ください。

(出典 入学後教育プロジェクト委員会)

観点 4-3-①： 実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

入学者の状況(資料 4-3-①-1)の中で、平成24年度入学者が増加した。電気工学科を除いては、定員を超えることができた。

入学者の状況

資料 4-3-①-1

様式2

入学試験状況

(平成24年4月5日現在)

区 分	学 科 名	No.	サレジオ工業 高等専門学校															番号	55		
			入学定員			志願者数(B)			志願倍率	受験者数			合格者数			入学者数(C)			(Cの内訳)		備 考
			(A)	男	女	計	(B/A)	男	女	計	男	女	計	男	女	計	学力	推薦			
デザイン 学科	603	45	31	39	70	1.6 倍	31	39	70	30	37	67	23	25	48	13	35				
電気工 学科	201	45	80	1	81	1.8 倍	78	1	79	67	1	68	41	1	42	16	26				
機械電子工 学科	204	45	97	2	99	2.2 倍	96	2	98	87	2	89	53	2	55	7	48				
情報工 学科	304	45	96	8	104	2.3 倍	96	8	104	92	8	100	52	3	55	19	36				
学科					0	倍			0			0			0						
計		180	304	50	354	2.0 倍	301	50	351	276	48	324	169	31	200	55	145				

(出典 入試広報室作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

入学定員と実入学者数との関係の適正化は図られている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 試行錯誤しながらも高専の中で、AO入試の導入は、最適だったと考える。斬新な入試が話題になった。

本校のAO入試は、Ⅰ(単願)Ⅱ(併願)とし、かなり珍しい入試形態である。学内外からいろいろな意見はあったが、時代のニーズにこたえ、12月中に合否が決まり、余裕をもって第1志望の受験ができるという大きな安心とリメディアル教育の徹底は、優れた点と考える。本校の特色として示すにふさわしいと考える。本校が専門に特化しているため受け入れやすい要因になったと考える。

(改善を要する点) 学内での募集委員や入試相談員の微妙な駆け引き等ルール化し、少しでも本校志望の受験生を確保し、いろいろなケースの対応策を築きあげたい。

(3) 基準4の自己評価の概要

平成22年度までのAO入試(ミショナリー)は、同法人校からの受験、所属する聖堂区教会主任司祭の推薦するカトリック信者に限った入試形態であった。全国の教会等への郵便発送のみであまり周知もせず、来た者は拒まずの精神で展開。平成23年度より学校方針として、AO入試を一般中学生へ導入することを決定した。入試広報室を中心に展開したが、学内の反応は厳しかった。まず学内で、募集委員、教員への周知徹底が難しかった。なかなか受け入れられず、中学校訪問のマニュアル作りや説明会を開催し、学内の周知徹底に努めた。その中で、AOⅡの併願への反発は激しかった。一方、中学校の反応は、合格後のケアをどうするか?へ集中した。特待チャレンジ、冬休みの宿題、登校日を設けての英語数学の復習などの計画を伝えた。リメディアル教育と称し、展開した。この取組みが功を奏し、翌年の受験者数を上げることができた。

基準 5

教育内容及び方法

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校の教育課程は、新キャンパス移転を機に平成17年度より導入されたカリキュラムに基づき運用されている。その後、一部の学科では、カリキュラムの部分改訂を行い、学年進行でカリキュラムの置き換えが進んでいる。

教育課程の編成は、本校の教育目標を達成すべく、学生が卒業時に身につける学力や資質・能力に照らして段階的に学習できるよう体系的に編成されている。低学年では専門教育の基礎となる数理系の一般科目を多く配置し、進級するに従って専門科目の比率が高くなる、いわゆるくさび形の科目配置(資料5-1-①-1～13)となっている。また高学年では、学生の学力と興味に応じた履修が可能になるように配慮し、選択必修科目や自由選択科目を配置(資料5-1-①-14)している。

一般科目では、一般教育の学習教育目標のうち、「基礎力：専門分野に必要な基礎的知識・論理的思考を身につける」に沿って、1～2年次では全学科共通の科目群を配置して、高学年で専門科目を学ぶための素地となる基礎力がつけられるようになっている。一方で、3年次以降ではデザイン工学科/デザイン学科の理数系一般科目を「確率統計学」のみとする、情報工学科の理数系一般科目「解析学B」を4年次に配置するなど、専門学科の特性やカリキュラムの特徴に合わせた配慮をしている(資料5-1-①-1～2、資料5-1-①-5)。

デザイン系(AD)一般科目(2005-2009年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	国語	7	2	2	2	1	
	表現	2	2				
	倫理	2	1		1		
	情報倫理	2	2				
	現代社会	2	2				
	歴史	2		2			
	基礎数学Ⅰ	4	4				
	基礎数学Ⅱ	3	3				
	代数幾何学	3		3			
	微分積分学	3		3			
	確率統計学	2			2		
	化学	5	2	3			
	基礎物理Ⅰ	2		2			
	基礎物理Ⅱ	2		2			
	保健体育	4	2	2			
	体育実技	6			2	2	2
	英語	16	6	6	4		
	英語演習	2				2	
	選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2
履修単位数計		73	26	25	11	7	4

選択 科目	A群	有機化学	0～2			2		
	B群	イタリア語Ⅰ	0～4				2	2
		イタリア語Ⅱ						2
		中国語Ⅰ					2	2
		中国語Ⅱ						2
		韓国語Ⅰ					2	2
		韓国語Ⅱ						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本語・日本文学					2	2
		人間論					2	2
	C群	法学	2					2
	経済学							2
		開設単位数計		40	0	0	2	14
	履修単位数計		2～8	0	0	0～2	0～2	2～4
	履修単位数合計		75～81	26	25	11～13	7～9	6～8

- 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること
 ○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること
 ※ 選択科目A群およびB群の開講科目は変わることがある。

デザイン系(AD)一般科目(2010年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	国語	7	2	2	2	1	
	表現	2	2				
	倫理	2	1		1		
	情報倫理	2	2				
	現代社会	2	2				
	歴史	2		2			
	基礎数学Ⅰ	4	4				
	基礎数学Ⅱ	3	3				
	代数幾何学	2		2			
	微分積分学	4		4			
	確率統計学	2			2		
	化学	5	2	3			
	基礎物理Ⅰ	2		2			
	基礎物理Ⅱ	2		2			
	保健体育	4	2	2			
	体育実技	6			2	2	2
	英語	16	6	6	4		
	英語演習	2				2	
選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2	
履修単位数計		73	26	25	11	7	4

選択 科目	A群	有機化学	0～2			2		
	B群	イタリア語Ⅰ	0～4				2	2
		イタリア語Ⅱ						2
		中国語Ⅰ					2	2
		中国語Ⅱ						2
		韓国語Ⅰ					2	2
		韓国語Ⅱ						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本語・日本文学					2	2
		人間論					2	2
	C群	法学	2					2
	経済学							2
	開設単位数計		40	0	0	2	14	24
履修単位数計		2～8	0	0	0～2	0～2	2～4	
履修単位数合計		75～81	26	25	11～13	7～9	6～8	

- 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること
 ○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること
 ※ 選択科目A群およびB群の開講科目は変わることがある。

(出典：シラバス 2012, p. 1)

電気系(EE・ME・EC・CS)一般科目(2005-2009年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	国語	7	2	2	2	1	
	表現	2	2				
	倫理	2	1		1		
	情報倫理	2	2				
	現代社会	2	2				
	歴史	2		2			
	基礎数学Ⅰ	4	4				
	基礎数学Ⅱ	3	3				
	代数幾何学	3		3			
	微分積分学	3		3			
	確率統計学	2			2		
	解析学Ⅰ	4			4		
	化学	5	2	3			
	基礎物理Ⅰ	2		2			
	基礎物理Ⅱ	2		2			
	物理	2			2		
	保健体育	4	2	2			
	体育実技	6			2	2	2
	英語	16	6	6	4		
	英語演習	2				2	
選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2	
履修単位数計		79	26	25	17	7	4

選択 科目	A群	有機化学	0～2			2		
	B群	イタリア語Ⅰ	0～4				2	2
		イタリア語Ⅱ						2
		中国語Ⅰ					2	2
		中国語Ⅱ						2
		韓国語Ⅰ					2	2
		韓国語Ⅱ						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
	日本語・日本文学				2	2		
	人間論				2	2		
	C群	法学	2					2
	経済学							2
	開設単位数計		40	0	0	2	14	24
履修単位数計		2～8	0	0	0～2	0～2	2～4	
履修単位数合計		81～87	26	25	17～19	7～9	6～8	

○ 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること

○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

※ 選択科目A群およびB群の開講科目は変わることがある。

(出典：シラバス 2012, p. 2)

電気系(EE・ME)一般科目(2010年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	国語	7	2	2	2	1	
	表現	2	2				
	倫理	2	1		1		
	情報倫理	2	2				
	現代社会	2	2				
	歴史	2		2			
	基礎数学Ⅰ	4	4				
	基礎数学Ⅱ	3	3				
	代数幾何学	2		2			
	微分積分学	4		4			
	確率統計学	2			2		
	解析学Ⅰ	4			4		
	化学	5	2	3			
	基礎物理Ⅰ	2		2			
	基礎物理Ⅱ	2		2			
	物理	2			2		
	保健体育	4	2	2			
	体育実技	6			2	2	2
	英語	16	6	6	4		
	英語演習	2				2	
選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2	
履修単位数計		79	26	25	17	7	4

選択 科目	A群	有機化学	0～2			2			
	B群	イタリア語Ⅰ	0～4				2	2	
		イタリア語Ⅱ						2	
		中国語Ⅰ					2	2	
		中国語Ⅱ						2	
		韓国語Ⅰ					2	2	
		韓国語Ⅱ						2	
		宗教学						2	2
		心理学						2	2
		日本語・日本文学						2	2
		人間論						2	2
	C群	法学	2					2	
	経済学							2	
	開設単位数計		40	0	0	2	14	24	
履修単位数計		2～8	0	0	0～2	0～2	2～4		
履修単位数合計		81～87	26	25	17～19	7～9	6～8		

○ 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること

○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

※ 選択科目A群およびB群の開講科目は変わることがある。

電気系(CS)一般科目(2010年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	国語	7	2	2	2	1	
	表現	2	2				
	倫理	2	1		1		
	情報倫理	2	2				
	現代社会	2	2				
	歴史	2		2			
	基礎数学Ⅰ	4	4				
	基礎数学Ⅱ	3	3				
	代数幾何学	2		2			
	微分積分学	4		4			
	確率統計学	2			2		
	解析学Ⅰ	2			2		
	解析学Ⅱ	2				2	
	化学	5	2	3			
	基礎物理Ⅰ	2		2			
	基礎物理Ⅱ	2		2			
	物理	2			2		
	保健体育	4	2	2			
	体育実技	6			2	2	2
	英語	16	6	6	4		
英語演習	2				2		
選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2	
履修単位数計		79	26	25	15	9	4

選択 科目	A群	有機化学	0～2			2		
	B群	イタリア語Ⅰ	0～4				2	2
		イタリア語Ⅱ						2
		中国語Ⅰ					2	2
		中国語Ⅱ						2
		韓国語Ⅰ					2	2
		韓国語Ⅱ						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本語・日本文学					2	2
		人間論					2	2
	C群	法学	2					2
	経済学							2
	開設単位数計		40	0	0	2	14	24
	履修単位数計		2～8	0	0	0～2	0～2	2～4
履修単位数合計		81～87	26	25	15～17	9～11	6～8	

○ 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること

○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

※ 選択科目A群およびB群の開講科目は変わることがある。

デザイン工学科(AD)科目一覧(2005-2008年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修 科目	平面基礎デザイン演習Ⅰ	2	2					
	平面基礎デザイン演習Ⅱ	2	2					
	平面基礎デザイン演習Ⅲ	2	2					
	平面基礎デザイン演習Ⅳ	2	2					
	立体基礎デザイン演習Ⅰ	2		2				
	立体基礎デザイン演習Ⅱ	2		2				
	立体基礎デザイン演習Ⅲ	3		3				
	デザイン実習Ⅰ	4			4			
	デザイン実習Ⅱ	6				6		
	デザイン実習Ⅲ	4					4	
	応用デザイン実習Ⅰ	4				4		
	応用デザイン実習Ⅱ	4					4	
	制作演習	3			3			
	表現法	2			2			
	色彩学	2			2			
	色彩構成	2			2			
	製図	2			2			
	情報処理	2		2				
	コンピュータグラフィックスⅠ	2			2			
	コンピュータグラフィックスⅡ	2				2		
	コンピュータグラフィックスⅢ	2					2	
	工業技術概論	2			2			
	デザイン史	2			2			
	デザイン概論	2				2		
	デザイン方法論	2				2		
	造形論	2				2		
	デザイン心理	2				2		
	経営論	2					2	
	環境論	2					2	
	マーケティング	2					2	
	デザインマネージメント	2					2	
	プレゼンテーション	2				2		
	自然科学概論	2				2		
技術者倫理	2					2		
卒業研究	8						8	
履修単位数計		90	8	9	21	24	28	

資料 5-1-①-6 続き

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	D群	2 ~ 4				1	1	
			工業デザイン概論				1	1
			DTP概論				1	1
			材料基礎工学A				1	1
			材料基礎工学B				1	1
			機械要素設計A				1	1
			機械要素設計B				1	1
			信号と符号				1	1
			電気電子演習				1	1
			映像メディア概論				1	1
			Webプログラミング				1	1
			生物学概論				1	1
			物理学特論(旧・力学)				1	1
			開設単位計	24	0	0	0	12
履修単位計	2 ~ 4	0	0	0	0 ~ 2	0 ~ 2		
履修単位合計	92 ~ 94	8	9	21	24 ~ 26	28 ~ 30		
一般科目履修単位合計			75 ~ 81	26	25	11 ~ 13	7 ~ 9	6 ~ 8
専門科目履修単位合計			92 ~ 94	8	9	21	24 ~ 26	28 ~ 30
履修単位合計			167 ~ 175	34	34	32 ~ 34	31 ~ 35	34 ~ 38

※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

※ 選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は平成24年度から科目名称変更

(出典：シラバス 2012, p. 143)

デザイン学科(AD)科目一覧(2009年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	平面基礎デザイン演習Ⅰ	2	2				
	平面基礎デザイン演習Ⅱ	2	2				
	平面基礎デザイン演習Ⅲ	2	2				
	平面基礎デザイン演習Ⅳ	2	2				
	立体基礎デザイン演習Ⅰ	2			2		
	立体基礎デザイン演習Ⅱ	2			2		
	立体基礎デザイン演習Ⅲ	3			3		
	デザイン実習Ⅰ	4				4	
	デザイン実習Ⅱ	6					6
	デザイン実習Ⅲ	4					4
	応用デザイン実習Ⅰ	4				4	
	応用デザイン実習Ⅱ	4					4
	制作演習	3				3	
	表現法	2				2	
	色彩学	2				2	
	色彩構成	2				2	
	製図	2				2	
	情報処理	2			2		
	コンピュータグラフィックスⅠ	2				2	
	コンピュータグラフィックスⅡ	2					2
	コンピュータグラフィックスⅢ	2					2
	工業技術概論	2				2	
	デザイン史	2				2	
	デザイン概論	2					2
	デザイン方法論	2					2
	造形論	2					2
	デザイン心理	2					2
	経営論	2					2
	環境論	2					2
	マーケティング	2					2
	デザインマネージメント	2					2
	プレゼンテーション	2					2
	自然科学概論	2					2
技術者倫理	2					2	
卒業研究	8					8	
履修単位計	90		8	9	21	24	28

資料 5-1-①-7 続き

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	D群	2 ~ 4				1	1	
			工業デザイン概論				1	1
			DTP概論				1	1
			材料基礎工学A				1	1
			材料基礎工学B				1	1
			機械要素設計A				1	1
			機械要素設計B				1	1
			信号と符号				1	1
			電気電子演習				1	1
			映像メディア概論				1	1
			Webプログラミング				1	1
			生物学概論				1	1
			物理学特論(旧・力学)				1	1
			開設単位計	24	0	0	0	12
履修単位計	2 ~ 4	0	0	0	0 ~ 2	0 ~ 2		
履修単位合計	92 ~ 94	8	9	21	24 ~ 26	28 ~ 30		
一般科目履修単位合計		75 ~ 81	26	25	11 ~ 13	7 ~ 9	6 ~ 8	
専門科目履修単位合計		92 ~ 94	8	9	21	24 ~ 26	28 ~ 30	
履修単位合計		167 ~ 175	34	34	32 ~ 34	31 ~ 35	34 ~ 38	

※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

※ 選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は平成24年度から科目名称変更

(出典：シラバス 2012, p. 144)

電気工学科(EE)科目一覧(2008-2010年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	電気磁気学	4		2		2	
	電気回路	8	2	2	2	2	
	電子工学	2			2		
	電子回路	2				2	
	情報処理	2			2		
	電子計算機	2				2	
	創造設計	1			1		
	ソーラーカー工学	2			2		
	メカトロニクス	2				2	
	CAD	2	2				
	電気機器	2			2		
	パワーエレクトロニクス	2				2	
	発電工学	2				2	
	電力系統工学	2				2	
	高電圧工学	2					2
	電気応用	2					2
	電機設計	2					2
	電気法規	2		2			
	計測工学	2			1		1
	電気電子材料	2					2
	自動制御	2					2
	システム工学	2					2
	通信工学概論	1					1
	機械工学	1			1		
	工学基礎	3	3				
	電気工学実験	12		3	3	4	2
	応用物理	2				2	
	応用数学A	2				2	
	応用数学B	2					2
	技術者倫理	2					2
	卒業研究	8					8
	履修単位計		84	7	9	16	24

資料5-1-①-8 続き

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	E群	プロジェクト実習	1	1	1	1	1	
	D群	工業デザイン概論				1	1	
		DTP概論				1	1	
		材料基礎工学A				1	1	
		材料基礎工学B				1	1	
		機械要素設計A				1	1	
		機械要素設計B				1	1	
		信号と符号				1	1	
		仮想現実				1	1	
		情報システム				1	1	
		Webプログラミング				1	1	
		生物学概論				1	1	
		物理学特論(旧・力学)				1	1	
		開設単位計	29	1	1	1	13	13
		履修単位計	0 ~ 9	0 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 3	0 ~ 3
履修単位合計	84 ~ 93	7 ~ 8	9 ~ 10	16 ~ 17	24 ~ 27	28 ~ 31		
一般科目履修単位合計	81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8		
専門科目履修単位合計	84 ~ 93	7 ~ 8	9 ~ 10	16 ~ 17	24 ~ 27	28 ~ 31		
履修単位合計	167 ~ 180	33 ~ 34	34 ~ 35	33 ~ 36	31 ~ 36	34 ~ 39		

○専門選択科目D群, 学科選択E群および一般選択科目A・B群の中から卒業までに2単位以上習得すること

※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

※ 選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は平成24年度から科目名称変更

(出典：シラバス 2012, p. 157)

電気工学科(EE)科目一覧(2011年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	電気磁気学	4		2		2	
	電気回路	8	2	2	2	2	
	電子工学	2			2		
	電子回路	2				2	
	情報処理	2			2		
	電子計算機	2				2	
	創造設計	1			1		
	電気エネルギー概論	2			2		
	メカトロニクス	2				2	
	CAD	2	2				
	電気機器	2			2		
	パワーエレクトロニクス	2				2	
	発電工学	2				2	
	電力系統工学	2				2	
	高電圧工学	2					2
	電気応用	2					2
	電機設計	2					2
	電気法規	2		2			
	計測工学	2			1		1
	電気電子材料	2					2
	自動制御	2					2
	システム工学	2					2
	通信工学概論	1					1
	機械工学	1			1		
	工学基礎	3	3				
	電気工学実験	12		3	3	4	2
	応用物理	2				2	
	応用数学A	2				2	
	応用数学B	2					2
	技術者倫理	2					2
	卒業研究	8					8
履修単位数計		84	7	9	16	24	28

資料5-1-①-9 続き

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数						
			1年	2年	3年	4年	5年		
選択科目	E群	プロジェクト実習	1	1	1	1	1		
	D群	工業デザイン概論	0 ~ 9				1	1	
		DTP概論					1	1	
		材料基礎工学A					1	1	
		材料基礎工学B					1	1	
		機械要素設計A					1	1	
		機械要素設計B					1	1	
		信号と符号					1	1	
		仮想現実					1	1	
		情報システム					1	1	
		Webプログラミング					1	1	
		生物学概論					1	1	
		物理学特論(旧・力学)					1	1	
		開設単位計		29	1	1	1	13	13
		履修単位計		0 ~ 9	0 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 3	0 ~ 3
		履修単位合計		84 ~ 93	7 ~ 8	9 ~ 10	16 ~ 17	24 ~ 27	28 ~ 31
一般科目履修単位合計	81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8			
専門科目履修単位合計	84 ~ 93	7 ~ 8	9 ~ 10	16 ~ 17	24 ~ 27	28 ~ 31			
履修単位合計	167 ~ 180	33 ~ 34	34 ~ 35	33 ~ 36	31 ~ 36	34 ~ 39			

○専門選択科目D群, 学科選択E群および一般選択科目A・B群の中から卒業までに2単位以上習得すること

※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

※ 選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は平成24年度から科目名称変更

(出典：シラバス 2012, p. 158)

電気工学科(EE)科目一覧(2012年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修 科目	電気磁気学	4		2			2	
	電気回路	8	2	2	2	2		
	電子工学	2			2			
	電子回路	2				2		
	情報処理	2			2			
	電子計算機	2				2		
	創造設計	1			1			
	電気エネルギー概論	2			2			
	メカトロニクス	2				2		
	CAD	2	2					
	電気機器	2			2			
	パワーエレクトロニクス	2				2		
	発変電工学	2				2		
	電力系統工学	2				2		
	高電圧工学	2					2	
	電気応用	2					2	
	電機設計	2					2	
	電気法規	2		2				
	計測工学	2			1		1	
	電気電子材料	2					2	
	自動制御	2					2	
	システム工学	2					2	
	通信工学概論	1					1	
	機械工学	1			1			
	工学基礎	3	3					
	電気工学実験	14			4	4	4	2
	応用物理	2					2	
	応用数学A	2					2	
	応用数学B	2					2	
	技術者倫理	2					2	
卒業研究	8					8		
	履修単位計	86	7	10	17	24	28	

資料5-1-①-10 続き

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数						
			1年	2年	3年	4年	5年		
選択科目	E群	プロジェクト実習	1						
	D群	工業デザイン概論	0 ~ 5				1	1	
		DTP概論					1	1	
		材料基礎工学A					1	1	
		材料基礎工学B					1	1	
		機械要素設計A					1	1	
		機械要素設計B					1	1	
		信号と符号					1	1	
		電気電子演習					1	1	
		映像メディア概論					1	1	
		Webプログラミング					1	1	
		生物学概論					1	1	
		物理学特論(旧・力学)					1	1	
		開設単位計		25	1	0	0	12	12
		履修単位計		0 ~ 5	0 ~ 1	0 ~ 0	0 ~ 0	0 ~ 2	0 ~ 2
履修単位合計	86 ~ 91	7 ~ 8	10 ~ 10	17 ~ 17	24 ~ 26	28 ~ 30			

一般科目履修単位合計	81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8
専門科目履修単位合計	86 ~ 91	7 ~ 8	10 ~ 10	17 ~ 17	24 ~ 26	28 ~ 30
履修単位合計	167 ~ 178	33 ~ 34	35 ~ 35	34 ~ 36	31 ~ 35	34 ~ 38

※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

※ 選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は平成24年度から科目名称変更

(出典：シラバス 2012, p. 159)

機械電子工学(ME)科目一覧(2008年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修科目	電気回路Ⅰ	2			2		
	電気回路Ⅱ	2				2	
	アナログ電子回路	2				2	
	デジタル電子回路	2					2
	電気磁気Ⅰ	2			2		
	電気磁気Ⅱ	2				2	
	計測工学	2					2
	制御工学	2					2
	電子計算機	2		2			
	アルゴリズム理論	2			2		
	計算機プログラミング	2				2	
	通信工学	2			2		
	アンテナ工学	2				2	
	電気通信法規	1					1
	工業材料	2			2		
	半導体デバイス	2				2	
	製図	1	1				
	機械加工	2			2		
	計算機援用設計	2			2		
	機構学	2				2	
	材料力学	2				2	
	機械デザイン	2					2
	信号処理	2					2
	音響工学	2					2
	工学基礎	3	3				
	機械電子工学実験	12			4	4	4
	創造演習	7		3	2	2	
	創造設計学	2					2
	解析学Ⅱ	2				2	
	線形代数	2				2	
	物理学	2					2
	技術者倫理	2					2
卒業研究	8					8	
履修単位計	86		7	10	18	24	27

資料 5-1-①-11 続き

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	D群	0 ~ 4				1	1	
			工業デザイン概論				1	1
			DTP概論				1	1
			材料基礎工学A				1	1
			材料基礎工学B				1	1
			機械要素設計A				1	1
			機械要素設計B				1	1
			信号と符号				1	1
			電気電子演習				1	1
			映像メディア概論				1	1
			Webプログラミング				1	1
			生物学概論				1	1
			力学				1	1
			開設単位計	24	0	0	0	12
履修単位計	0 ~ 4	0	0	0	0 ~ 2	0 ~ 2		
履修単位合計	86 ~ 90	7	10	18	24 ~ 26	27 ~ 29		
一般科目履修単位合計			81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8
専門科目履修単位合計			86 ~ 90	7	10	18	24 ~ 26	27 ~ 29
履修単位合計			167 ~ 177	33	35	35 ~ 37	31 ~ 35	33 ~ 37

※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

※ 選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は平成24年度から科目名称変更

(出典：シラバス 2012, p. 201)

情報工学科(OS)科目一覧(2005-2009年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報社会論	1	1					
	情報工学概論	2	2					
	電気回路Ⅰ	1	1					
	電気回路Ⅱ	1	1					
	電気回路Ⅲ	1		1				
	電気回路Ⅳ	1		1				
	電子回路	1				1		
	プログラミング基礎Ⅰ	2	2					
	プログラミング基礎Ⅱ	2		2				
	プログラミング基礎Ⅲ	1		1				
	アルゴリズム論Ⅰ	1				1		
	アルゴリズム論Ⅱ	1				1		
	プログラミング応用Ⅰ	1					1	
	プログラミング応用Ⅱ	1					1	
	プログラミング応用Ⅲ	1						1
	プログラミング応用Ⅳ	1						1
	数値計算Ⅰ	1					1	
	数値計算Ⅱ	1					1	
	ソフトウェア工学Ⅰ	1						1
	ソフトウェア工学Ⅱ	1						1
	論理回路Ⅰ	1			1			
	論理回路Ⅱ	1				1		
	デジタル回路設計	1				1		
	計算機概論Ⅰ	1				1		
	計算機概論Ⅱ	1				1		
	計算機アーキテクチャⅠ	1					1	
	計算機アーキテクチャⅡ	1					1	
	OS概論Ⅰ	1						1
	OS概論Ⅱ	1						1
	情報通信システムⅠ	1				1		
	情報通信システムⅡ	1				1		
	情報ネットワーク	1					1	
	ビジネス情報システム	1					1	
	経営工学概論	1				1		
	オペレーションズ・リサーチⅠ	1					1	
	オペレーションズ・リサーチⅡ	1					1	
	生産管理	1						1
	数理工学概論	1						1
	品質管理論	1						1
	マーケティング論	1						1
	地理情報システム概論	1				1		
	データベース概論	1					1	
	データベースシステム	1					1	
人工知能Ⅰ	1						1	

資料5-1-①-12 続き

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修科目	人工知能Ⅱ	1					1
	文書作成概論Ⅰ	1			1		
	文書作成概論Ⅱ	1			1		
	技術文書作成	1				1	
	プレゼンテーション	1				1	
	DTP・組版	1					1
	情報数学概論	1			1		
	離散数学Ⅰ	1				1	
	離散数学Ⅱ	1				1	
	統計解析学Ⅰ	1					1
	統計解析学Ⅱ	1					1
	情報工学実験Ⅰ	2		2			
	情報工学実験Ⅱ	2		2			
	情報工学実験Ⅲ	2			2		
	情報工学実験Ⅳ	2			2		
	情報工学実験Ⅴ	2				2	
	情報工学実験Ⅵ	2				2	
	情報工学実験Ⅶ	2					2
	解析学Ⅱ	2				2	
	線形代数	2				2	
技術者倫理	2					2	
卒業研究	8					8	
履修単位計		86	7	10	18	24	27

選択科目	D群	工業デザイン概論	0 ~ 4				1	1		
		DTP概論					1	1		
		材料基礎工学A					1	1		
		材料基礎工学B					1	1		
		機械要素設計A					1	1		
		機械要素設計B					1	1		
		信号と符号					1	1		
		電気電子演習					1	1		
		映像メディア概論					1	1		
		Webプログラミング					1	1		
		生物学概論					1	1		
		物理学特論(旧・力学)					1	1		
		開設単位計		24	0	0	0	12	12	
		履修単位計		0 ~ 4	0	0	0	0 ~ 2	0 ~ 2	
履修単位合計		86 ~ 90	7	10	18	24 ~ 26	27 ~ 29			

一般科目履修単位合計	81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8
専門科目履修単位合計	86 ~ 90	7	10	18	24 ~ 26	27 ~ 29
履修単位合計	167 ~ 177	33	35	35 ~ 37	31 ~ 35	33 ~ 37

※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

※ 選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は平成24年度から科目名称変更

(出典：シラバス 2012, p. 241)

情報工学科(CS)科目一覧(2010年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報社会論	1	1					
	情報工学概論	2	2					
	電気回路Ⅰ	1	1					
	電気回路Ⅱ	1	1					
	電気回路Ⅲ	1		1				
	電気回路Ⅳ	1		1				
	電子回路	1				1		
	プログラミング基礎Ⅰ	2	2					
	プログラミング基礎Ⅱ	2		2				
	プログラミング基礎Ⅲ	1		1				
	アルゴリズム論Ⅰ	1				1		
	アルゴリズム論Ⅱ	1				1		
	プログラミング応用Ⅰ	1					1	
	プログラミング応用Ⅱ	1					1	
	プログラミング応用Ⅲ	1						1
	プログラミング応用Ⅳ	1						1
	数値計算Ⅰ	1					1	
	数値計算Ⅱ	1					1	
	ソフトウェア工学Ⅰ	1						1
	ソフトウェア工学Ⅱ	1						1
	論理回路Ⅰ	1			1			
	論理回路Ⅱ	1				1		
	デジタル回路設計	1				1		
	計算機概論Ⅰ	1				1		
	計算機概論Ⅱ	1				1		
	計算機アーキテクチャⅠ	1					1	
	計算機アーキテクチャⅡ	1					1	
	OS概論Ⅰ	1						1
	OS概論Ⅱ	1						1
	情報通信システムⅠ	1				1		
	情報通信システムⅡ	1				1		
	情報ネットワーク	1					1	
	ビジネス情報システム	1					1	
	経営工学概論	1				1		
	オペレーションズ・リサーチⅠ	1					1	
	オペレーションズ・リサーチⅡ	1					1	
	生産管理	1						1
	数理工学概論	1						1
	品質管理論	1						1
	マーケティング論	1						1
	地理情報システム概論	1				1		
	データベース概論	1					1	
	データベースシステム	1					1	
	人工知能Ⅰ	1						1
	人工知能Ⅱ	1						1
	文書作成概論Ⅰ	1				1		

資料5-1-①-13 続き

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修科目	文書作成概論Ⅱ	1			1		
	技術文書作成	1				1	
	プレゼンテーション	1				1	
	DTP・組版	1					1
	情報数学概論	1			1		
	離散数学Ⅰ	1				1	
	離散数学Ⅱ	1				1	
	統計解析学Ⅰ	1				1	
	統計解析学Ⅱ	1				1	
	情報工学実験Ⅰ	2		2			
	情報工学実験Ⅱ	2		2			
	情報工学実験Ⅲ	2			2		
	情報工学実験Ⅳ	2			2		
	情報工学実験Ⅴ	2				2	
	情報工学実験Ⅵ	2				2	
	情報工学実験Ⅶ	2					2
	解析学Ⅲ	2				2	
	線形代数Ⅰ	1			1		
	線形代数Ⅱ	1			1		
	技術者倫理	2					2
卒業研究	8					8	
履修単位数計		86	7	10	20	24	25
選択科目	D群	工業デザイン概論				1	1
		DTP概論				1	1
		材料基礎工学A				1	1
		材料基礎工学B				1	1
		機械要素設計A				1	1
		機械要素設計B				1	1
		信号と符号				1	1
		電気電子演習				1	1
		映像メディア概論				1	1
		Webプログラミング				1	1
		生物学概論				1	1
		物理学特論(旧・力学)				1	1
		開設単位数計	24	0	0	0	12
	履修単位数計	0～4	0	0	0	0～2	0～2
履修単位数合計		86～90	7	10	20	24～26	25～27
一般科目履修単位数合計		81～87	26	25	15～17	9～11	6～8
専門科目履修単位数合計		86～90	7	10	20	24～26	25～27
履修単位数合計		167～177	33	35	35～37	33～37	31～35

※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

※ 選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は平成24年度から科目名称変更

(出典：シラバス 2012, p. 242)

選択科目 一覧表

必要修得単位数は、各学科の教育課程表を参照の事

一般科目 選択科目

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	A群 有機化学	0 ~ 2			2			
	B群	イタリア語Ⅰ	0 ~ 4				2	2
		イタリア語Ⅱ						2
		中国語Ⅰ					2	2
		中国語Ⅱ						2
		韓国語Ⅰ					2	2
		韓国語Ⅱ						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本語・日本文学					2	2
		人間論					2	2
	C群	法学	2					2
		経済学						2

専門科目 選択科目

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	E群 プロジェクト実習	0 ~ 9	1	1	1	1	1	
	D群		工業デザイン概論				1	1
			DTP概論				1	1
			材料基礎工学A				1	1
			材料基礎工学B				1	1
			機械要素設計A				1	1
			機械要素設計B				1	1
			信号と符号				1	1
			電気電子演習				1	1
			映像メディア概論				1	1
			Webプログラミング				1	1
			生物学概論				1	1
			物理学特論(旧・力学)				1	1

(出典：シラバス 2012, p. 313)

各学科は、準学士課程の教育目標を受けて、学科の専門性を考慮した「養成する技術者像」（資料 5-1-①-15～18）を設定し、さらにそれを達成するための具体的な学習教育目標（＝学生が卒業時に身につける学力や資質・能力）（資料 5-1-①-19～22）を定めている。一般科目を担う一般教育科では、各学科の基礎となるように独自の学習教育目標（資料 5-1-①-23）を定めている。

資料 5-1-①-15

デザイン工学科の養成する技術者像

5年間の早期教育によって幅広いデザイン能力を磨き、高度な専門性、国際性、人間性をもつ善きデザイナーを養成する。プロダクト、インテリア、グラフィック各分野において、確かなデザイン技術と豊かな創造性を発揮し社会に貢献できる人材を育成する。

(出典：info2012, p.91)

資料 5-1-①-16

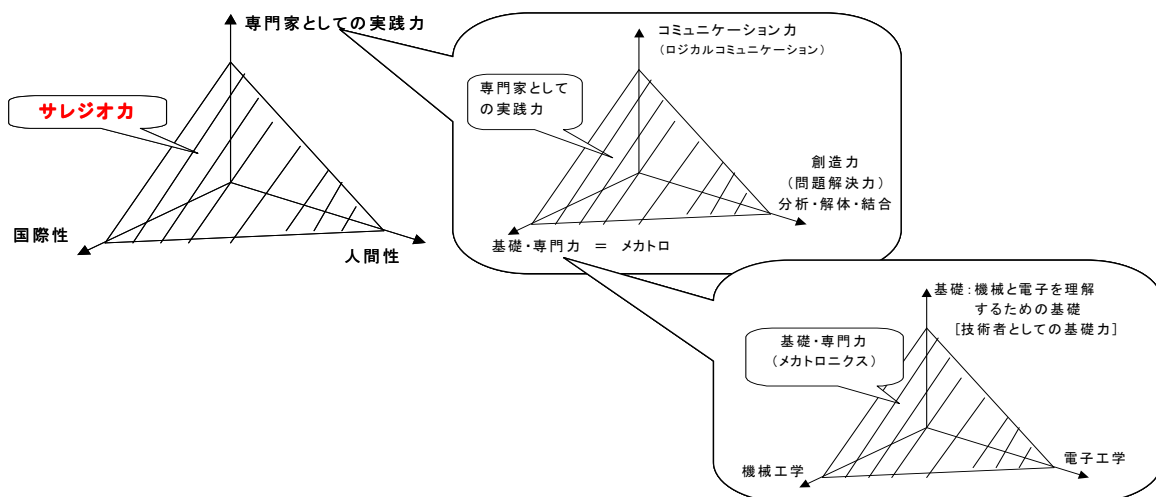
電気工学科の養成する技術者像

『第2種電気主任技術者』の認定学科として、電気工学の基礎知識及び技能と技術を修得し、それらを実践的な課題に応用できる技術者を養成する。その実現のために PBL の概念を導入したプロジェクト型教育への参加を動機づけとしてコンテスト型教育（ソーラーカーコンテスト、創造実習：学科ロボコン）や卒業研究を通してアイデアを実現し創造性を育み、積極的に社会と関わることにより社会適応能力と国際的な視野を持った、心豊かな実践型技術者の育成を目的とする。

(出典：info2012, p.101)

資料 5-1-①-17

機械電子工学科の養成する技術者像



(出典：info2012, p.119)

資料 5-1-①-18

情報工学科の養成する技術者像

情報工学科は、IT 社会を支える基礎的な理論から応用技術までの幅広い教育を通して、さまざまな夢を育てるための技術を習得させ、豊かな発想と実践的能力の育成を目指している。「情報システム」、「情報メディア」、「情報マネジメント」の3分野を学科課程の柱として、国際化社会の中でコミュニケーション能力に優れた実践的ソフトウェア技術者を育てている。

(出典：info2012, p. 137)

資料 5-1-①-19

デザイン工学科の学習教育目標

教育目的	学校教育目標	デザイン工学科学習教育目標
専門性	基礎力	造形表現に必要な知識、技能を身につけることができる。デザイン提案に必要なコンセプト構築力、設計能力を身につけることができる。
	実践性	産学共同研究および卒業研究などにおいて、総合的な視点から問題をとらえ、適切な目標設定に応じた創造的かつリアルティある提案ができる。
人間性	コミュニケーション力	話し言葉、文章、図表などで効果的なコミュニケーションができる。
	人間性	デザインが社会や環境に及ぼす影響について理解し、常に使い手の立場に立ったものづくりをすることができる。
国際性	国際性	生活文化の固有性や多様な価値観を理解した上で、デザイン活動に活かすことができる。

(出典：info2012, p. 91)

電気工学科の学習教育目標

教育目的	学校教育目標	電気工学科教育学習目標		
専門性	基礎力	創造力 (発想力) (実現力)	電気工学の知識 電気工学の技能 電気工学の技術 分析能力	電気工学の基礎知識を学び実験・実習を通して技能と技術を習得し、それらを具体的・実践的な課題に活用でき、問題解決活動に活用できる基礎を修得する。
	実践力		問題発見能力 問題解決能力 研究能力 開発能力 評価能力	コンテスト型教育（学科ロボコン、ミニソーラーカーコンテスト）やプロジェクト型教育（プロジェクト実習）、創造設計、実験、卒業研究を通して、問題の現状把握から原因の分析・調査、研究を行い、アイデアを実現できる実践力を修得する。
人間性	コミュニケーション力	人間力 (適応能力) (行動力)	チャレンジ精神 意思・思考伝達能力 発表する能力 協調する能力 リーダーシップ能力	実験・実習などで実際に起きている現象の性質を観測（計測）し、結果をまとめて報告することができる。また、コンテスト型教育やプロジェクト型教育などの活動を通して、問題を解決した成果を、文章や口頭発表で報告することができる。
	人間性			自分が描いたアイデアを第三者に伝えることが出来ると同時に、第三者の意見を取り入れながら自分の発想を修正・改善できる。また、チームワークの大切さを認識し協調性やリーダーシップを修得する。
国際性	国際性			技術が生活環境に与える影響について理解し、電気工学の目的や社会との関わりと責任を認識する。また、国際化した国内外の社会状況に関心を持ち生活文化や価値観の多様化を理解したうえで、自らの行動に反映することができる。

(出典：info2012, p. 101)

機械電子工学科の学習教育目標

学校教育目標	電子工学科学習教育目標 → 機械電子工学科へ継続	
基礎力	創造力	(3) 基礎力
実践力		(4) 分析・抽出力
		(5) 実践・具現力
		(6) 発展性・継続性・チャレンジ精神
コミュニケーション力	コミュニケーション力	(7) 討論・論理的思考
人間性	人間性	(2) チームワーク
国際性		(1) 倫理観・国際性

分類	キーワード	文言
人間性	倫理観・国際性	国際社会の一員として、技術者の一般的な倫理観を持ち、技術・工学が社会に貢献でき、また社会に及ぼす影響を認識することができる
	チームワーク	理解力や表現力に富み、チームの一員として、与えられた制約の下で計画的に仕事を成し得ることができる
創造力	基礎力	情報通信・産業システム・電子デバイスの分野の理解に必要な基礎的な数学・自然科学の知識と応用能力およびコンピュータを活用できる基礎能力を習得でき、それらの分野の相互関係を理解することができる
	分析・抽出力	学際的・グローバルな視点から、社会環境や生活におけるニーズや解決すべき課題を見出すことができる
	実践・具現力	技術・工学の基礎を習得し、アイデアを具現する開発型技術者としての基礎的知識を持ち、情報を利用し、実践的に活用できる
	発展性・継続性 ・チャレンジ精神	総合的な観点から自主的・継続的に学習でき、技術・工学の考え方を活用してマネジメントや起業のような分野に積極的に参加できる
コミュニケーション力	討論 ・論理的思考	日本語で論理的に考え、記述・発表・討論することができ、英語で基本的な会話ができる

(出典：info2012, pp.119-120)

情報工学科の学習教育目標

教育目的	学校教育目標	情報工学科学習教育目標
専門性	基礎力	(1) (2) (3) (4)
	実践力	(5) (6) (7) (8)
人間性	人間性	(9) (10) (11) (12)
	コミュニケーション力	(9) (10) (11)
国際性	国際性	(11) (12)

学習教育目標

- (1) 情報工学（情報数学、確率、アルゴリズム等）の基礎をしっかりと把握できる。
- (2) 電気回路、論理回路などの電気に関する基本知識を持ち、その上でコンピュータハードウェア、計算機アーキテクチャに関する基礎を身につけている。
- (3) プログラミング言語、コンパイラ、オペレーティングシステムに関する基礎知識を身につけている。
- (4) 情報ネットワーク環境、データベース環境に関する知識を理解できる。
- (5) 計算機ハードウェアを理解し、組み立て調整するとともに、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトウェアの導入調整や、トラブル発生時に問題箇所発見や調整を専門家の支援を基にできる。
- (6) サーバ環境、ネットワーク環境やデータベース環境の構築や調整が専門家の支援を基にできる。
- (7) 複数のプログラミング言語を知っており、専門家の支援のもとでプログラミング支援環境を使ってソフトウェア開発を行うことができる。またプロダクトマインドの気持ちでの経験を持つ。
- (8) 情報分野が支える環境（経営情報など）の社会ニーズについて知識を持ち、応用ソフトウェアを利用してデータ処理を行うことができる。
- (9) 情報技術を使って、社会で必要な技術的な仕事に関する報告書を期日を守って提出する能力と姿勢を身につける。
- (10) プロジェクトなど、多人数で相互に協調してプロダクトを開発する状況で、スケジュールを立て分担して取り組み、相互に連絡を取り、対応できるようなコミュニケーションスキルを身につける。
- (11) 情報に関するシステム利用者と提供者の社会性と倫理規範を理解し、情報技術者として社会に貢献できる。
- (12) 国際的に広がって利用されるインターネット社会の中で情報発信・検索・交換を通じ、情報技術の国際社会に与える影響を十分理解し、国際社会に貢献できる。

(出典：info2012, pp. 137-138)

一般教育の学習教育目標

教育目的	学校教育目標	一般教育学習教育目標
専門性	A 基礎力	① 専門分野に必要な基本的知識・論理的思考力を身につける。
	実践力	
人間性	D 人間性	② 人や環境のために知識・技術を正しく使える力を身につける。
	C コミュニケーション力	③ 国際社会の中であって互いを理解し、自己を正しく表現できる力を身につける。
国際性	E 国際性	

(出典：info2012, p. 81)

各学科では、学科ごとの学習教育目標を達成するために、学習教育目標と教育課程表の授業科目間の対応を明確に定義しつつ、学年ごとの達成目標も設定している。つまり、準学士課程の「教育目標」を受けて各学科の「学習教育目標」が設定され、さらにそれを受けて年次ごとにブレイクダウンする形で学年ごとの「達成目標」が明確な定義されている。こうして教育目的に照らして体系的に編成された教育課程をプログラムしている。

上述の教育目的に照らした教育課程編成の一例として、デザイン学科／デザイン工学科を具体的に取り上げる。デザイン学科／デザイン工学科では、学科の学習教育目標と教育課程に配当された科目群との対応を〈資料5-1-①-24〉に位置付けるとともに、専門科目間の相互関係を〈資料5-1-①-25〉のように整理している。これらを踏まえた上で、〈資料5-1-①-26〉に見る学年毎の達成目標を定義している。学科の学習教育目標（＝学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力）のうち、「基礎力」および「実践力」に沿って、1～2年次に造形表現に必要な技能を修得できるように演習科目を多く配置し（資料5-1-①-27～28）、3年次に知識・理論との融合を図り（資料5-1-①-29）、高学年において産学官共同研究やコンペティションなどの課題を利用し、実践力を養うという構成になっている（資料5-1-①-30～31）。

デザイン工学科の教育課程の体系図と科目関連図

目標別科目構成図（学習教育目標による分類）

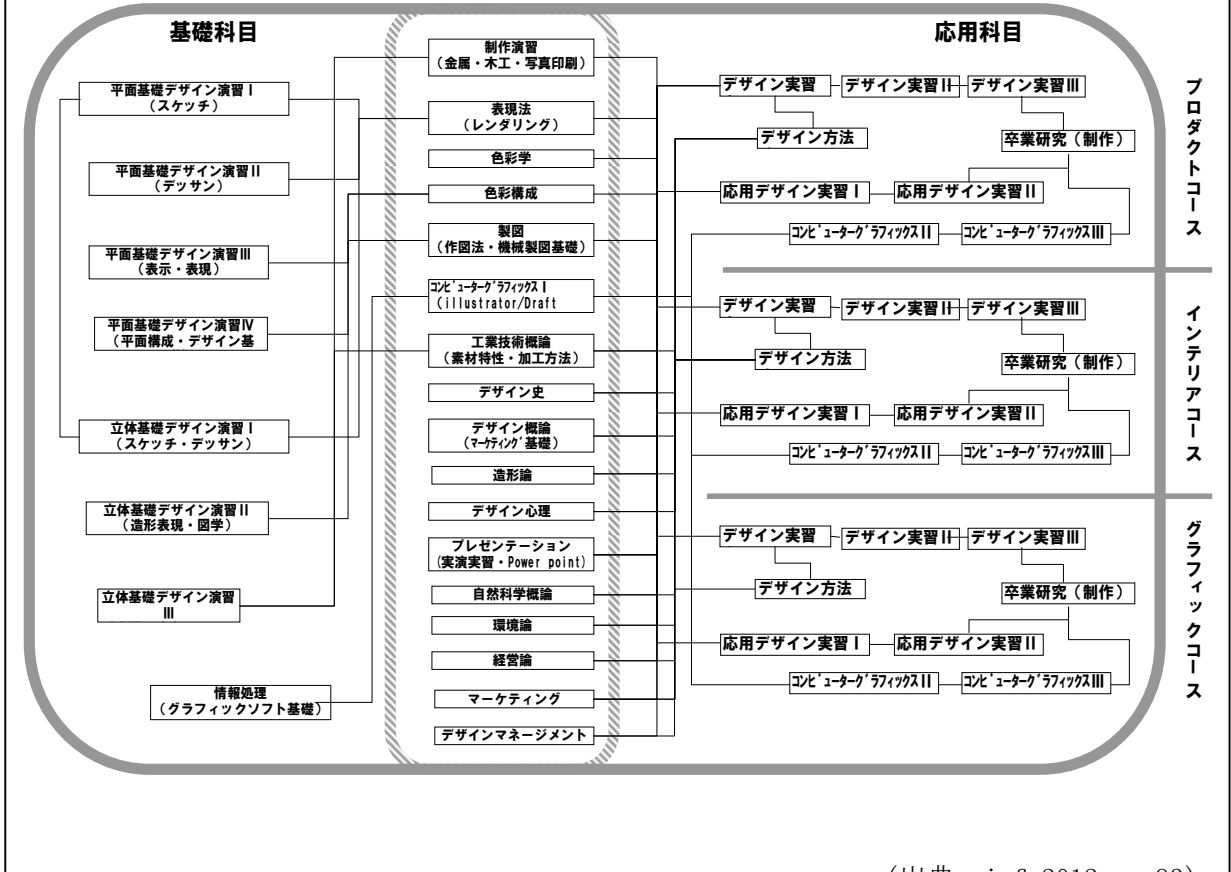
学校の教育目標とデザイン工学科の学習教育目標・カリキュラムの関連図

教育目的	学校教育目標	デザイン工学科学習教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
専門性	基礎力	造形表現に必要な知識、技能を身につけることができる。	平面基礎デザイン演習Ⅰ 平面基礎デザイン演習Ⅱ 平面基礎デザイン演習Ⅲ 平面基礎デザイン演習Ⅳ	立体基礎デザイン演習Ⅰ 立体基礎デザイン演習Ⅱ 立体基礎デザイン演習Ⅲ	制作演習 表現法 色彩学 色彩構成 製図	自然科学概論 造形論	
	専門性	デザイン提案に必要なコンセプト構築力、設計能力を身につけることができる。		情報処理	デザイン実習Ⅰ 工業技術概論	デザイン実習Ⅱ デザイン心理 デザイン方法論	デザイン実習Ⅲ
	実践性	産学共同研究および卒業研究などにおいて、総合的な視点から問題をとらえ、適切な目標設定に応じた創造的かつリアリティーある提案ができる。				デザイン実習Ⅱ 応用デザイン実習Ⅰ	デザイン実習Ⅲ 応用デザイン実習Ⅱ 卒業研究（制作）
人間性	コミュニケーション力	話し言葉、文章、図表などで効果的なコミュニケーションができる。				デザイン実習Ⅱ 応用デザイン実習Ⅰ コンピュータグラフィクスⅡ プレゼンテーション	デザイン実習Ⅲ 応用デザイン実習Ⅱ コンピュータグラフィクスⅢ 卒業研究（制作）
	人間性	デザインが社会や環境に及ぼす影響について理解し、常に使い手の立場に立ったものづくりをすることができる。				デザイン実習Ⅱ 応用デザイン実習Ⅰ デザイン概論	デザイン実習Ⅲ 卒業研究（制作） 応用デザイン実習Ⅱ 環境論 経営論 デザインマネジメント
国際性	国際性	生活文化の固有性や多様な価値観を理解したうえで、デザイン活動に活かすことができる。			デザイン史	デザイン実習Ⅱ デザイン概論	デザイン実習Ⅲ マーケティング 卒業研究（制作）

（出典：info2012, p.92）

学科専門科目関連図（学科の専門領域による分類）

デザイン工学科 専門科目関連図



デザイン工学科の学年毎の達成目標

学年	目指す能力	達成目標		
		Graphic Designer	Interior Designer	Product Designer
5年	各専門分野に携わるデザイナーとしてデザイン・プロセスに沿ったデザイン開発・提案ができる	総合的な視点から問題をとらえ、使い手の立場から適切な目標設定に応じた創造的かつリアリティある提案ができる		
4年	専攻コースのデザインワークにおいてデザイン・プロセスを理解する	専攻コースごとのデザイン提案に必要なコンセプト構築力・設計能力・表現力を身につける		
3年	専攻コースごとのデザインワークに必要な基礎技能を修得する	グラフィック・インテリア・プロダクトの各専攻コースに応じたデザイン提案の考え方・造形表現を理解し、自分が専攻するコースを決定する		
2年	造形表現に必要な知識、技能を習得する	デザイン表現の基礎となる色や形について立体的要素を身につける		
1年		デザイン表現の基礎となる色や形について平面的要素を身につける		

低学年の1・2年生では、演習科目での作品制作をとおして、ものづくりの楽しさを学び感性を磨きながらデザイン表現に必要な基礎技能を身に付けます。

3年生では、グラフィック・インテリア・プロダクトの3コースでデザイン提案に必要な技能を幅広く体験し、自分の適性や興味に応じて専攻するコースを1つに絞り込みます。

4年生では、自分が選択したコースでデザイン提案を行なうために、実習課題をとおしてデザインの考え方から表現の方法までをトータルで学びます。

最終学年である5年生では、専門分野のデザイナーとして社会的な課題への取り組みをとおして、実践的なデザインワークを身につけることを目標とします。

(出典：info2012, p.94)

開講年度	2012年度				
授業科目		対象学科	対象学年	開講期間	単位数
平面基礎デザイン演習 I		デザイン学科	1年	通年	2
英語名称		履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
2-Dimensional Basic Design I		必修 ※	講義	演習	実験 実習
			45		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
竹内 明	デザイン学科・准教授	プロダクト	月/火/水/木	takeuchi	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
AD-1, AD-4					
授業概要	鉛筆によるスケッチワークの基礎訓練。				
到達目標	デザイン学科学習教育目標：造形表現に必要な知識、技術を身につけることができる。				
授業方法	遠近法の解説/理解/観察/表現手法解説/紙面への表現を繰り返す。 観察/表現する対象物を簡単に制作することもある。				
教科書	特になし。 適宜 必要に応じてテキストを配布予定。				
補助教材	B 3 クロッキーブック 鉛筆 消しゴム 定規				
評価方法	<p>学生自身が 検算できる ように算出 方法を根拠 項目を明記 すること</p> <p>年間 4 回（前期中間、前期末、後期中間、後期末）の評価。 定期試験の評点 60%、途中課題/スケッチブック/宿題の評点の 40%として各区間を評価し、成績表評価としての総合評価は、区間評価の単純平均とする。必要に応じて、追加補講などを行う。</p>				
関連科目	平面基礎デザイン演習 II、立体基礎デザイン演習 I				
準備学習に 関する アドバイス	日常的に身の回りの物を観察し、授業外でも、1枚でも多くのスケッチをすることが、技能向上のポイントとなる。				

資料 5-1-①-27 続き

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
1	1.5	授業ガイダンス 授業内容や授業への取り組み方法などガイダンス
1	1.5	線の練習 直線がまっすぐに描ける
1	1.5	正方形の練習 正方形が正確に描ける
1	1.5	円の練習 スムーズに円が描ける
1	1.5	遠近法を理解する 2点透視図法を理解する
1	1.5	立方体の練習 2点透視図法で立方体を描ける
1	1.5	立方体を組み合わせる練習 2点透視図法で2つ以上の立方体を組み合わせて描ける
1	1.5	立方体に円を乗せる 2点透視図法で描いた2つ以上の立方体上に円を描ける
1	1.5	円柱の練習 1点透視図法の円柱を描ける
1	1.5	円柱の練習 2点透視図法で円柱を描ける
1	1.5	立体感表現の練習（線の強弱） 線の強弱で立方体の立体感を表現できる
1	1.5	立体感表現の練習（陰ハッチング） ハッチングで立方体の陰を表現できる
1	1.5	立体感表現の練習（影ハッチング） ハッチングで立方体の陰を表現できる
1	1.5	三角法図法 三角法図法を理解する
1	1.5	変形立体の練習 三角法図法で表現された立体をスケッチできる
1	1.5	変形立体の練習 三角法図法で表現された立体をスケッチできる
1	1.5	回転体を観察して描く練習 回転体を素早く見てスケッチできる
1	1.5	回転体を想像して描く練習 回転体を想像して素早くスケッチできる
1	1.5	ガラス瓶を観察して描く練習 ガラス瓶を見て素早くスケッチできる
1	1.5	ガラス瓶を想像して描く練習 ガラス瓶を想像して素早くスケッチできる
1	1.5	幾何形体を観察して描く練習 幾何形体の製品を素早く見てスケッチできる
1	1.5	幾何形体を作って観察して描く練習 幾何形体の作品を作って素早く見てスケッチできる
1	1.5	幾何形体を想像して描く練習 幾何形体の製品を想像して素早くスケッチできる
1	1.5	有機形態を観察して描く練習 有機形体の製品を素早く見てスケッチできる
1	1.5	有機形態を作って観察して描く練習 有機形体の作品を作って素早く見てスケッチできる
1	1.5	有機形態を想像して描く練習 有機形体の製品を素早く見てスケッチできる
2	3	学習指導期間（年2回） 学習事項の定着確認
2	3	定期試験（年4回） 前期中間、前期期末、後期中間、学年末
合計	30 コマ	45 時間

(出典：シラバス 2012, p. 107)

開講年度	2012年度				
授業科目		対象学科	対象学年	開講期間	単位数
立体基礎デザイン演習 I		デザイン学科	2年	通年	2
英語名称		履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
3-Dimensional Basic Design I		必修	講義	演習	実験
			5	20	20
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
島津 豊	デザイン学科・非常勤講師	422	火:終日、金:午前	shimazu	
佐久間 善典	デザイン学科・非常勤講師	416	火・水曜日放課後	sakuma	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応			JABEEプログラムの学習・教育目標との対応		
AD-1, AD-2					
授業概要	(スケッチ) さまざまな立体の観察と表現を通して、立体物を把握する力とそのデッサン表現力を養う。 (デッサン) さまざまな立体の観察と表現を通して、立体物を把握する力とそのデッサン表現力を養う。				
到達目標	(スケッチ) 立体を理解しながら鉛筆主体にデザインに応用できるスケッチ力を養う。 (デッサン) 口形態や質感を平面に表現する技術を向上させる。口木炭デッサンの表現法を身につける。				
授業方法	学年を2つのグループに分け、スケッチ、デッサンをそれぞれ半期づつの2ローテーションで学ぶ。 (スケッチ) 異なる立体を使い実習を行う。 (デッサン) モチーフを、しっかりと時間をかけて観察し、鉛筆や木炭で平面に表現していく。				
教科書	なし				
補助教材	スケッチ: デザイン製図 (Design Presentation Drawing)				
評価方法	学生自身が 採算できる ように算出 方法や根拠 項目を明記 すること				
	評価は年2回(前期末、後期末)授業内課題を、スケッチ(50%)で、デッサン(50%)の100点法をもとに、算出する。スケッチでは宿題提出を1/4考慮する。				
関連科目					
準備学習に関する アドバイス	授業外でも、1枚でも多くスケッチやデッサンを描くこと。描いた枚数の差が力量の差となっていきます。				

授業計画			
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目	
		(スケッチ)	
1	1.5	ガイダンス	
		どうし	
1	1.5	基礎編-Step1 対象物と位置	授業目的、進め方、評価のしかた、ねらいを理解する。
1	1.5	基礎編-Step2 形が持つ規則性	透視図法の理解とスケッチへの応用が理解できる。
1	1.5	基礎編-Step3 基本の立体	図形の中心、図形の等分割方法が描ける。
1	1.5	基礎編-Step4 位置の確定	基本立体の描き方と見せ方の変化ができる。
1	1.5	応用編-Step1 立体の組み合わせ	影の正確な投影が作図できる。
		単純立体を応用立体に描くことができる。	
		(デッサン)	
1	1.5	ガイダンス	授業目的、進め方、評価のしかた、ねらいを理解する。
1	1.5	形態と質感	形態、質感を鉛筆で表現できる。
4	6	中型モチーフ	形態、質感とともに立体感を鉛筆で表現できる。
		(スケッチ)	
1	1.5	活用編-Step1 製品を描く 1	応用立体からさらに複合立体にできる。
2	3	活用編-Step2 製品を描く 2	学んだことを活用し発想した製品が描ける。
2	3	活用編-Step3 発想を伝える 1	さらに立体構成の異なる製品を発想し描くことができる。
2	3	活用編-Step4 発想を伝える 2	自分のスケッチスタイルを創りあげることができる。
		(デッサン)	
2	3	木炭デッサンの基本	木炭デッサンのための技法をすることができる。
5	7.5	石膏像	木炭を使い、形態、質感、立体感が表現できる。
		学習指導期間(上記項目のいずれか)	ウイークポイントを改善できる。
4	6	補講もしくは見学	自分の技術を客観的に認識できる。
合計			
30	45		
コマ	時間		

開講年度	2012年度				
授業科目		対象学科	対象学年	開講期間	単位数
表現法		デザイン学科	3年	通年	2
英語名称		履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Drawing & Rendering		必修 ※	講義	演習	実験 実習
			45		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
竹内 明	デザイン学科・准教授	プロダクト	月/火/水/木	takeuchi	
三河 一郎	デザイン学科・非常勤講師		月	mikawa	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
AD-1, AD-4					
授業概要	各種画材の基本的な扱い方				
到達目標	デザイン学科学習教育目標：造形表現に必要な知識、技術を身につけることができる。 話し言葉、文章、図表などで効果的なコミュニケーションができる。				
授業方法	様々な画材をつかった作品例やデモンストレーションを参考に、課題作品の制作を体験する。 毎週の課題は次回授業または指定日時までに提出する。				
教科書	デザイン製図				
補助教材	各種画材（詳細別途指示）				
評価方法	<p>学生自身が 検算できる ように算出 方法や根拠 項目を明記 すること</p> <p>評価は年2回（前期末 後期末） 課題の提出状況と内容によって評価する。 <立体表現><材質表現><ていねいさ><美的要素>などにより評価する。 提出遅延はペナルティ減点する。</p>				
関連科目	デザイン実習 I				
準備学習に 関する アドバイス	様々な実物を観察し、数多くの表現（スケッチ）をトライする習慣を身につけること。				

資料5-1-①-29 続き

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
1	1.5	授業ガイダンス 画材 立方体下書き 授業内容や授業への取り組み方などガイダンス
1	1.5	色鉛筆 立方体 円柱下書き 色鉛筆によるハイライト描画手法で立体が表現できる
1	1.5	色鉛筆 円柱 水差し 下書き 色鉛筆によるハイライト描画手法で立体が表現できる
1	1.5	色鉛筆 水差し 色鉛筆によるハイライト描画手法で立体が表現できる
1	1.5	パステル 立方体 円柱 パステルによって立体が表現できる
1	1.5	パステル 立方体 円柱 (木目) パステルによって木目の立体が表現できる
1	1.5	パステル スピードシェイプ 色鉛筆とパステルによってスピードシェイプが描ける
1	1.5	マーカー 艶のある幾何立体 グレイマーカーによって艶のある幾何形体が描ける
1	1.5	マーカー 金属表現 グレイマーカーによって金属が表現できる
1	1.5	CGスケッチ基礎 (Illustrator基礎) Illustratorで形態が表現できる
1	1.5	CGスケッチ基礎 (Photoshop基礎) Photoshopで立体物が表現できる
1	1.5	CGスケッチ基礎 (Photoshop+タブレット) Photoshop+タブレットで立体物が表現できる
1	1.5	鉛筆スケッチ+CG複合表現 鉛筆スケッチ+CG複合表現を駆使して立体物が表現できる
1	1.5	アクリル絵の具 (模写) 既成のアートやデザインを鑑賞・評価し、美的感覚を養う
1	1.5	アクリル絵の具 (模写) 好きな作家の作品の模写をする中から表現手法を学ぶ
1	1.5	アイデアスケッチ サインペンによるクイックスケッチを体験する
1	1.5	アイデアスケッチ サインペンによるクイックスケッチを体験する
1	1.5	柔らかい表現 布のような柔らかい素材表現ができる。
1	1.5	マーカー+パステル+色鉛筆 複合表現 マーカー/パステル/色鉛筆を駆使して表現できる
1	1.5	マーカー+パステル+色鉛筆 複合表現 マーカー/パステル/色鉛筆を駆使して表現できる
1	1.5	マーカー+パステル+色鉛筆 複合表現 マーカー/パステル/色鉛筆を駆使して表現できる
1	1.5	マーカー+パステル+色鉛筆 複合表現 マーカー/パステル/色鉛筆を駆使して表現できる
1	1.5	複合表現 (CG+マーカー+パステル+色鉛筆) マーカー/パステル/色鉛筆+CGを駆使して表現できる
1	1.5	各コース別、表現トレーニング 自分なりの表現を模索するとともに、表現の幅を広げる。
1	1.5	各コース別、表現トレーニング 自分なりの表現を模索するとともに、表現の幅を広げる。
1	1.5	コース別課題 自分なりの表現を模索するとともに、表現の幅を広げる。
1	1.5	コース別課題 自分なりの表現を模索するとともに、表現の幅を広げる。
1	1.5	コース別課題 自分なりの表現を模索するとともに、表現の幅を広げる。
1	1.5	コース別課題 自分なりの表現を模索するとともに、表現の幅を広げる。
1	1.5	コース別課題 自分なりの表現を模索するとともに、表現の幅を広げる。
1	1.5	コース別課題 自分なりの表現を模索するとともに、表現の幅を広げる。
合計	30	45
コマ	時間	

(出典：シラバス 2012, p. 119)

開講年度	2012年度				
授業科目		対象学科	対象学年	開講期間	単位数
応用デザイン実習Ⅰ（プロダクトコース）		デザイン学科	4年	通年	4
英語名称		履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Applied Desing Project I (Product Desing)		必修	講義	演習	実験 実習
					90
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
石黒 猛	デザイン学科・非常勤講師	420	木曜日9:00～16:00	ishiguro	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
AD-2, AD-3, AD-4, AD-5, AD-6		A2, A3, A4, A5, B3, B4, C1, C2, D1, D2, D3			
授業概要	プロダクトデザインに必要な技法の習得、更にデザインを行う上で重要な「発想法」を実技を通して様々な商品開発にトライしていく。デザインプロセス、商品企画を通して、各自が独自で物事を「考える」力を養う。※学外デザインコンペ等への作品出品も考慮する予定。				
到達目標	プロダクトデザインの基礎知識理解と、それぞれの発想・展開方法、基本的な表現力、モデル制作力を習得する。自分自身の興味関心、適正などを考えできるだけ独創的な作品の制作を促す。				
授業方法	実際に販売・掲出されているデザイン物について研究・考察し、その内容を参考に自分たちで新たな表現物を企画・制作・提案していく。 年間4つのプロジェクトによる、作品制作をを予定。				
教科書	なし（授業内でプリントを配布する）				
補助教材	参考資料を、その都度授業内で掲示				
評価方法	<p>半期毎の年二回評価を行う。</p> <p>年間4件のPROJECT作品を制作し、それぞれ個別に評価し半期毎に集計、年度末に総合評価を行う。</p> <p>総合評価配点：最終作品評価40％・プレゼンテーション30％+授業内での小課題30％評価 （授業内で中間チェック時にレポート等の小課題を行い、その内容を総合評価に含めます。）</p> <p>学生自身が 検算できる ように算出 方法や根拠 項目を明記 すること</p>				
関連科目	デザイン実習Ⅱ(G)、デザイン実習Ⅲ(G)、デザイン方法論(G)				
準備学習に関するアドバイス	デザインは総合芸術です。一人ひとり幅広い視点と奥深い自己分析が求められます。日常生活の中にもデザインの問題意識を持ち、特に「人間」に興味を持って、常に日常を観察していただきたく思います。				

授業計画			
コマ数	時間数		授業項目および学習達成項目
0.5	0.75	授業ガイダンス	授業計画、評価方法の説明
1.5	2.25	履歴プレゼンテーション	授業の概要を過去作品に触れながら説明
4	6	PROJECT#1 Observation法	ユーザー観察を用いた発想法
4	6	アイデア展開	自由な発想法を習得する
2	3	簡易試作	アイデアを具現化する
2	3	プレゼンテーション	発表
2	3	PROJECT#2 Rapid Prototyping法	簡易試作の作成法説明
6	9	Rapid Prototypingの実践	試作を繰り返しながデザインを口思考する
2	3	プレゼンテーション	発表
2	3	PROJECT#3 トータル・デザイン・インコネクション	デザインをプロデュースする能力を養う
6	9	計画・試作・製作	実際に具体的な「テーマ」から、計画から生産までトータルにデザインする
2	3	プレゼンテーション	発表
2	3	PROJECT#4 Self Produce	自己分析を通してデザインを思考する
2	3	マテリアル・プレゼンテーション	自己分析をものを通して思考する
2	3	マテリアル分析	マテリアルを大系的に分析してその魅力を抽出する
2	3	簡易試作	簡易モジュール製作
4	6	モデル製作	セミハードモデル製作
4	6	プレゼンテーション	発表
2	3	グローバルデザインについて	世界とデザインの関係を講義
4	6	学習指導期間	半期ごとの作品をまとめ、修正作業を行う
4	6	科目別補講日(取材・見学)	校外見学およびプロジェクトに関するリサーチ、調査を行う (詳細未定) ※校外授業の内容については、変更になる可能性あり
合計	60	90	
コマ	時間		

開講年度	2012年度				
授業科目		対象学科	対象学年	開講期間	単位数
応用デザイン実習Ⅱ		デザイン工学科	5年	通年	4
英語名称		履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Applied Design project II		必修	講義	演習	実験
			10		80
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
杉島 一男	デザイン学科・特任教授	420	火、金	sugisima	
菅原 由佳	デザイン学科・講師	420	火、金	sugahara	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
AD-2, AD-3, AD-4, AD-5		A3, A5, B3, B4, C1, C2, D1, D2, D3			
授業概要	産官学連携等の実践的なデザインワークを行うと同時に実際に社会的な評価も得る。また、グループワークを通じてチームワークの難しさと重要性を体験する。				
到達目標	<input type="checkbox"/> 産官学連携等のプロジェクトにおいて実践的なデザイン展開ができる <input type="checkbox"/> クライアントの要望に対して目的に沿ったデザイン提案ができる <input type="checkbox"/> クライアントに対し実践的なプレゼンテーションができる <input type="checkbox"/> 様々な人材と協力してグループワークができる				
授業方法	グループに分かれ実習を行い、実践的なデザインプロセスにそってデザイン提案を行う。プロセスの各段階で必要な講義を行う。				
教科書	プリント資料を配布する。				
補助教材	なし				
評価方法	<p>学生自身が検算できるように算出方法や根拠項目を明記すること</p> <p>評価は年2回（前期末、学年末）とし、前期総合と後期総合の単純平均で最終評価を出す。評価配分は課題内容（80%）、プレゼンテーション（20%）とする。グループ評価（80%）を基本にグループ内の貢献度に応じて個人評価（20%）を加味する。</p>				
関連科目	応用デザイン実習Ⅰ、デザイン実習Ⅲ、マーケティング				
準備学習に関するアドバイス	世の中にある様々なデザインをウォッチし現状のデザイン動向を常に把握するよう努力しておくこと。				

資料 5-1-①-31 続き

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
2	3	ガイダンス □カリキュラムにおける本授業の目的を理解する
		第一課題「町田市連携プロジェクト」
2	3	町田市との産官学連携ミーティング □町田市の要望内容を把握する
2	3	市場調査 □町田駅周辺の立地状況を把握する
4	6	立体地図モデル作成 □調査に基づいて立体モデルを再現する
6	9	全体構想立案 □提案内容の全体構想案を作成する
2	3	1次プレゼンテーション □町田市が理解できる構想説明ができる
4	6	地図3Dデータ作成 □モデルをベースに地図3Dデータを作成する
4	6	案内地図デザイン作成 □適切な案内ができる地図デザインを行う
4	6	地域プロモーション計画立案 □地域に役立つプロモーション計画案を作成する
2	3	2次プレゼンテーション □町田市が理解できるデザイン説明ができる
2	3	提案内容ブラッシュアップ □指摘内容にそって適切な改良案を立案する
6	9	最終提案リーフ／パンフ作成 □町田市の要望に沿った最終提案を作成する
2	3	最終プレゼンテーション □町田市が理解できる最終提案説明ができる
6	9	最終デザインブラッシュアップ □納品できるレベルに仕上げる
		第二課題「卒研展示会計画」
2	3	企画構想立案 □企画構想案を作成する
2	3	アイデア展開 □構想に沿った具体的なアイデアを創出する
4	6	提案用アウトプット作成 □広報物／展示計画の提案資料を作成する
4	6	見学
合計	60	90
コマ	時間	

(出典：シラバス 2012, p. 149)

(分析結果とその根拠理由)

一般教育科および専門学科には、「学生が卒業時に身につける学力や資質・能力」や「養成する技術者像」などが定義されており、目標達成のために高学年に進むほど専門科目が増すように配当されている。また学年毎に達成目標が設定されており、順を追った学習プログラムとなるように体系的に教育課程が編成されている。さらに授業内容も、学習教育目標を達成できるように、低学年では基礎知識と基礎技能の修得に主眼を置き、高学年ではその応用を目指すなど適切に設定されている。

以上より、教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されている。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

(観点に係る状況)

学生の多様なニーズに応えるため、本校では他の高等教育機関における修得単位の認定(資料5-1-②-1～2)および資格試験による単位認定(資料5-1-②-3～5)を実施している。また社会からの要請に応じる取り組みとして、キャリア教育の一環にインターンシップを位置付け、キャリアセンタースタッフの指導のもとに参加を推奨し、インターンシップによる学修単位の認定を実施している(資料5-1-②-6～9)。

多様化する学生のニーズを勘案して、教育課程内に全学科の学生が履修可能な選択科目を3～5年次に配当している(資料5-1-②-10)。これにより、所属学科以外の学科が提供する授業の一部も履修が可能となっている。選択科目は学科によって扱いが異なるため、学生に対して履修ガイダンスを実施し、履修に際して間違いが起こらないよう配慮している(資料5-1-②-11～12)。また、4～5年次配当の必修英語は、学生が自らのニーズに基づいて講座を選択できる選択必修の形態を採っており、ビジネス英会話から大学編入学のための学術英語までの幅広い講座群から履修が可能となっている(資料5-1-②-13～14)。

多様な学生のニーズを日々の授業に還元する取り組みとして、前期末と後期末の年2回、すべての開講科目について授業アンケート(資料5-1-②-15～16)を実施している。回収されたアンケートは学務資料室で集計した後、科目担当者と部署長に報告される仕組みになっている。

第4章 教育課程・学修単位及び再履修

第12条（授業期間） 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週以上にわたることを原則とする。

第12条の2（授業科目） 授業科目はその内容により、各学科に共通する一般科目及び学科毎の専門科目に分ける。

第13条（教育課程） 教育課程は、授業科目を各学年に配当して編成し、学年毎の授業科目及びその単位数は別に定める。

2 各授業科目の単位数は、30単位時間（1単位時間は、標準50分とする。）の履修を1単位として計算するものとする。

3 前項の規定にかかわらず、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として次の基準により単位数を計算することができる。

一 講義及び演習については15時間から30時間の範囲で定める時間をもって1単位とする

二 実験、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で定める時間をもって1単位とする

三 一の授業科目について講義、演習、実験、実習または実技のうち2つ以上を併用する場合は前二号に規定する基準を考慮して1単位とする

4 前項の規定により計算できる授業科目の単位数の合計数は、60単位を超えないものとする。

5 前三項の規定にかかわらず卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

6 第1項に定める授業科目のほか、特別活動を90単位時間以上履修するものとする

第13条の2（他高専の学修単位） 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 第1項に関し、必要な事項は、別に定める。

（出典：info2012, p.26）

第13条の3（他大学の学修単位） 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

- 2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。
- 3 第1項に関し、必要な事項は別に定める。

第14条（卒業認定） 各学年の課程の修了又は卒業を認定するにあたっては、学生の学業成績のほか、特別活動の状況を併せ評価して行うものとする。

第15条（留年・再履修） 前条の認定の結果、原学年に留められた者は、当該学年に係る授業科目を再履修するものとする。

- 2 5学年に留められた者については、前項の規定にかかわらず、不合格と認定された授業科目を再履修するものとする。ただし卒業研究については合否にかかわらず再履修しなければならない。
- 3 原学年に留められる回数は学年毎に1回を超えない。よって最長在学期間は10年を超えない。

（出典：info2012, p.27）

他の高等教育機関における単位認定に関する規則

第3章 校長が認める特別学修による単位修得

〔単位認定総則〕

第5条 この規定は学則第13条の2および同条の3に基づき、学生が習得した特別学修の単位認定に關し必要な事項を定める。

〔特別学修の定義〕

第6条 本校で認める特別学修とは、以下の各号に示すものをいう。

- (1) 本校以外の高等教育機関で履修した授業科目、ただし高等教育機関で履修した授業科目とは大学院、大学、短期大学、専修学校専門課程等におかれる公開された科目、講座をいう
- (2) 別表(2)に定める資格試験に合格し、合格証を取得した場合
- (3) 別表(3)に定める研修、講習、活動等に参加し、修了を認められた場合

〔学修単位の申請〕

第7条 第6条の各号に掲げる特別学修を履修、合格あるいは修了したことにより単位の認定を受けようとする者は、指定の様式に証明書類(写し可)を添付して校長に申請しなければならない。

- 2 認定する単位数の上限は一人当たり30単位までとする。
- 3 申請に係わる手続きについては別に定める。

〔学修単位の認定〕

第8条 第7条による申請があった場合は、校長は教務部会の議に基づき、本校における授業科目等の履修とみなし、別表(2)、(3)に掲げる単位の修得として認定する。

- 2 前項の認定がなされた場合はこれを告示する。

第9条 第8条により認定された特別学修の単位については以下の各号により扱う。

- (1) 別表(2)の振替認定群に属するものは同表の授業科目を履修したものとし、その授業科目履修に替えられる。ただし振替認定する単位数は10単位を上限とする
- (2) 別表(3)の修得認定群に属するものは同表の科目名称で認定するが、卒業単位には加算されない
- (3) 修得単位のうち相当の事情のある場合、校長の裁可により振替単位とすることができる

〔認定単位の記録〕

第10条 第8条により単位の認定をされた特別学修は指導要録等に記載する場合、授業科目欄には該当する資格の名称、研修等の名称を付記するものとする。

- 2 前項による評価点の記載は「認」とする。

(出典：info2012, p. 39)

準学士課程教務規則第6条が定める単位認定可能な資格等一覧

別表2 振替認定一覧

試験の種類	級種	授業科目	配当学年	単位	備考
実用英語技能検定試験	2級以上	4・5年次「選択英語」	4-5	2	
TOEIC試験	500点以上	4・5年次「選択英語」	4-5	2	

※ 単位振り替え希望者は、4月15日（土曜、休日、祝日の場合は翌通常授業日）までに申請すること

別表3 特別学修単位認定一覧

研修等の種類	授業科目	配当学年	単位	備考
企業実習	企業実習	3~5	1~2	
高等教育機関等公開講座	公開講座	4~5	相当	大学等により表現が異なる
応用技術センター活動	プロジェクト実習	1~5	1	電気工学科以外の学生

※ 卒業に必要な単位には含まれません

(出典：info2012, p.59)

Y:\files\files\final_old\share\教務文書\★願届等様式\2\学生申請\様式\学修単位振替申請.doc

平成 23 年度
学修単位振替申請書

校長	教務主事	学生課	教務事務

最終保管場所: 教務センター

太枠内を埋め、資格取得等証明書(コピー)を添えて、4月1日～4月15日までに提出すること。

申請日	例) 平成 21 年 4 月 5 日	平成 23 年 5 月 19 日
学籍番号	例) S06999	S07414
クラス番号	例) 第 4 学年 情報工学科 99 番	第 番
学生氏名・担任印	例) 島川 雅彦	氏名
研修・資格等名称	例) 実用英語技能検定 2 級	TOEIC-IP 595点取得
取得年月日	例) 平成 20 年 8 月 20 日	平成 23 年 2 月 7 日
現在の履修科目	例) 必修	必修・必修選択・自由選択・()
	例) 英語(2 単位)	科目名 選択英語 VI (2 単位)
	例) 加藤 陽一	科目担当者
約 束	振替認定による空き時間を有効に利用	
	申請者署名	

※ 単位振替が認められた科目は「平均点」「順位」の計算に含まれず、「最終評定」認、それ以外の区間は「評価なし(-)」となる。

下記の通り単位振替を認定する

以下、教務処理欄

評 定	例) 認	『 認 』
認定年月日	学年末成績操行会議日 卒業判定会議日	平成 24 年 3 月 6 日
認定番号	例) 認 19-099	認 23-003

【単位振替申請結果通知】

[申請者(学生)へ]

教務主事承認印が押されている本申請書(写し)の返却により行う。※認定年月日以降に確定

[科目担当者へ]

教務主事承認印が押されている本申請書(写し)の返却により行う。対象学生についての成績操行報告は、期中「☑評価なし(-)入力」、学年末「入力無し」報告すること。

H23学修単位修得認定申請書（企業実習・公開講座）

校長	教務主事

学生課事務	教務課事務
	

下記、インターンシップに関する学修単位認定として、実習証明書(原本)を添えて申請いたします。

インターンシップ:

2011年11月24日 キャリアセンター:

No.	学籍番号	クラス番号	学生氏名	参加先(企業名・学校名)	期間	参加単位時間数	実習証明書取得年月日	修得認定群科目名称※1	認定単位数	評定	認定年月日(成績簿行会議)	認定番号
例)	07901	4CS01	島川 雅彦	小島工業群	8月7日(月)~8月11日(金)	48	2010/8/20	企業実習	1	認	2011/3/10	22-099
1	08208			株式会社 秀光	8/2(火)~8/6(土)、 8/8(月)~8/12(金)	86.4	2011/8/22	企業実習	2	認	2012/3/8	23-004
2	08228			株式会社 秀光	8/2(火)~8/6(土)、 8/8(月)~8/12(金)	86.4	2011/8/22	企業実習	2	認	2012/3/8	23-005
3	08219			株式会社 秀光	8/2(火)~8/6(土)、 8/8(月)~8/12(金)	86.4	2011/8/22	企業実習	2	認	2012/3/8	23-006
4	08225			株式会社 秀光	8/2(火)~8/6(土)、 8/8(月)~8/12(金)	86.4	2011/8/22	企業実習	2	認	2012/3/8	23-007
5	08205			株式会社 秀光	8/16(火)~8/20(土)、 8/22(月)~8/26(金)	75.6	2011/8/31	企業実習	2	認	2012/3/8	23-008
6	08221			株式会社 秀光	8/16(火)~8/20(土)、 8/22(月)~8/26(金)	75.6	2011/8/31	企業実習	2	認	2012/3/8	23-009
7	08227			株式会社メック・デザイン・インターナショナル	8/1(月)~8/5(金)	48	2011/8/29	企業実習	1	認	2012/3/8	23-010
8	08233			株式会社タチエス	8/2(火)~8/3(水)、 8/6(土)~8/10(水) ※土	58.8	2011/8/12	企業実習	1	認	2012/3/8	23-011
9	08216			帝国器材株式会社	8/1(月)~8/5(金)	42	2011/8/22	企業実習	1	認	2012/3/8	23-012
10	08232			帝国器材株式会社	8/1(月)~8/5(金)	42	2011/8/22	企業実習	1	認	2012/3/8	23-013
11	08225			株式会社丹青TDC	8/17(水)~8/19(金)、 8/22(月)~8/26(金)	74.4	2011/10/11	企業実習	2	認	2012/3/8	23-014
12	08217			株式会社三越環境デザイン	8/22(月)~8/26(金)	44.5	2011/9/7	企業実習	1	認	2012/3/8	23-015

(インターンシップ様式-6)

サレジオ工業高等専門学校 インターンシップ実習証明書

下記のとおり、実習したことを証明します。

平成 23 年 9 月 1 日

実習企業名:	蛇の目マシン工業株式会社
実習部署名:	東京工場
実習責任者名:	〃

実習生	デザイン工学科・電気工学科・ <u>機械電子工学科</u> ・情報工学科・専攻科 第 4 学年 氏名: 〃
実習テーマ	弊社の「ものづくり」について
実習日	平成 23 年 8 月 1 日(月) ~ 8 月 12 日(金)
出勤状況	出勤 10 日 欠勤 0 日 総実働時間 78.3 時間 遅刻 0 日 早退 0 日 (必ずご記入をお願いします)

実習状況の 評価等	<p><input type="checkbox"/>実習に臨む姿勢 …………… 優・<u>良</u>・可 実習自体は単調な組立作業が多かったと思いますが、その中でも、弊社の技術や生産体制を学びながら、積極的に実習に取り組んでいたと思います。</p> <p><input type="checkbox"/>実習内容の修得状況 …………… 優・<u>良</u>・可 ・ 弊社の事業概要 ・ 東京工場の概要 ・ 製造工程体験(マシン)</p> <p><input type="checkbox"/>総合所見 今回、弊社で仕事を体験することで、企業の雰囲気を感じとり、就職に対する意識を高めたいという目的を持って実習に参加していただきました。 時間等の制約上、一部の製造現場のみの実習となりましたが、ものづくりや社員との交流を通じ、学ぶものは多々あったようです。この経験を、ぜひ今後の学生生活に役立てていただければと思います。</p>
--------------	--

第23-118号

修 了 証 書

学校名 サレジオ工業高等専門学校
氏 名

あなたは平成23年度長岡技術科学大学オープン
ハウスにおいて下記の研修を修了したことを証し
ます

記

テーマ名：21世紀最後の謎：高温超伝導に迫る

期 間：平成23年8月29日 ～ 平成23年9月2日

平成23年9月2日

長岡技術科学大学長

新 原 皓



H23学修単位修得認定申請書（プロジェクト実習）

校長	教務主事
[Redacted]	

学生課事務	教務
[Redacted]	

下記、プロジェクト実習に関する学修単位認定として、下記資料(原本)を添えて申請いたします。
資料:

平成 24 年 2 月 21 日 プロジェクト実習担当 [Redacted]

No.	学籍番号	クラス番号	混成番号	学生氏名	プロジェクト	修得認定群 科目名称 ※1	認定 単位数	評 定	認定年月日 (成績操作会議)	認定番号
例)	09901	2CS01	2A30	島川 雅彦	ソーラーカー	企業実習	1	認	2011/3/10	22-099
122	11520	1C		[Redacted]	ソーラーカープロジェクト	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-069
48	11521	1C		[Redacted]	NHKロボコン	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-070
49	11522	1C		[Redacted]	NHKロボコン	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-071
17	11524	1C		[Redacted]	ロボット基礎活用	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-072
123	11401	1F		[Redacted]	ソーラーカープロジェクト	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-073
34	11402	1F		[Redacted]	かわさきロボット	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-074
65	11404	1F		[Redacted]	NHKロボコン	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-075
131	11405	1F		[Redacted]	中庭鐵道	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-076
35	11413	1F		[Redacted]	かわさきロボット	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-077

2011H23年度（プロジェクト実習）欠課時数・レポート提出・評価資料

※ 電気工学科の学生が単位修得をした場合に限り「卒業単位」と認める
※ 電気工学科以外の学生が単位修得をした場合は「学修単位」として認める

→学修単位認定

下記、プロジェクト実習に関する学修単位認定として、下記資料(原本)を添えて申請いたします。

平成 24 年 2 月 21 日 プロジェクト実習担当 [Redacted]

報告

No.	学籍番号	クラス番号	混成番号	学生氏名	プロジェクト	修得認定群 科目名称 ※1	認定 単位数	評 定	認定年月日 (成績操作会議)	認定番号	欠課	レポート	点率
例)	09901	2CS01	2A30	島川 雅彦	ソーラーカー	企業実習	1	認	2011/3/10	22-099			
122	11520			[Redacted]	ソーラーカープロジェクト	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-069	0	1	87
48	11521			[Redacted]	NHKロボコン	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-070	0	1	87
49	11522			[Redacted]	NHKロボコン	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-071	0	1	87
17	11524			[Redacted]	ロボット基礎活用	プロジェクト実習	1	認	2012/3/7	23-072	2	1	81
82	11301			[Redacted]	ソーラープレーン	プロジェクト実習					3		55
63	11302			[Redacted]	NHKロボコン	プロジェクト実習					0	1	87
81	11303			[Redacted]	ソーラープレーン	プロジェクト実習					1	1	84
104	11306			[Redacted]	ソーラーバイシクル	プロジェクト実習					1	1	84
102	11307			[Redacted]	ソーラーバイシクル	プロジェクト実習					0	1	87
73	11308			[Redacted]	NHKロボコン	プロジェクト実習					1	1	84

来年度の選択科目 (A群～E群)

2011年度		2012年度		備考
B群	イタリア語 I	B群	イタリア語 I	
	イタリア語 II		イタリア語 II	
	中国語 I		中国語 I	
	中国語 II		中国語 II	
	韓国語 I		韓国語 I	
	韓国語 II		韓国語 II	(開講なし)
	宗教学		宗教学	
	心理学		心理学	
	日本語・日本文学		日本語・日本文学	
	人間論		人間論	
D群	工業デザイン概論	D群	工業デザイン概論	
	DTP概論		DTP概論	
	材料基礎工学A		材料基礎工学A	
	材料基礎工学B		材料基礎工学B	
	機械要素設計A		機械要素設計A	
	機械要素設計B		機械要素設計B	
	信号と符号		信号と符号	
	電気電子演習		電気電子演習	
	映像メディア概論		映像メディア概論	
	Webプログラミング		Webプログラミング	
	生物学概論		生物学概論	(開講せず)
	力学		物理学特論 (旧・力学)	(名称変更)
A群	有機化学	A群	有機化学	3年次
C群	法学	C群	法学	選択必修
	経済学		経済学	
E群	プロジェクト実習	E群	プロジェクト実習	EE卒業単位

自由選択科目の履修について

1. 授業科目の種類

授業科目には教育課程表に定められた**必修科目**と**選択科目**があり、選択科目はさらに**選択必修科目**(課程表の一般選択科目C群)と**自由選択科目**(課程表の一般選択科目A・B群および専門選択科目D群)があります。

2. 修了要件

修了とは在籍する学年を終え、次の学年に進むことができるという意味です。本校における修了要件は、教育課程表に定められた当該学年の**全ての必修科目と選択必修科目**の単位を修得することです。

3. 卒業要件

本校を卒業するためには、準学士課程全学年の教育課程を修了し、**167単位以上**(一般科目75単位以上、専門科目82単位以上)を修得していなければなりません。

各科ごとに必修科目と選択必修科目を合計すると以下のようになります。

表1：各科の必修単位数の合計(2012年度)

学科	一般必修	一般選択必修	専門必修	合計
デザイン工学科 デザイン学科	73単位	2単位 (選択C群)	90単位	165単位
電気工学科	79単位		84単位	165単位
機械電子工学科			86単位	167単位
情報工学科			86単位	167単位

上記の通り、デザイン工学科と電気工学科は必修科目だけでは卒業要件を満たしていません。そこで、これらの学科では次の自由選択科目の単位を卒業までに修得するように要求しています。

表2：デザイン工学科・電気工学科の卒業要件達成条件(2012年度)

学科	卒業要件を満たすための条件
デザイン工学科 デザイン学科	4-5年次に開講される専門系自由選択科目(選択科目D群)の中から、卒業時まで に2単位以上修得する
電気工学科	以下の①～④の自由選択科目の中から、卒業時まで2単位以上を修得する ① 3年次に開講される一般系自由選択科目(選択科目A群) ② 4-5年次に開講される一般系自由選択科目(選択科目B群) ③ 4-5年次に開講される専門系自由選択科目(選択科目D群) ④ 学科指定の自由選択科目(選択科目E群)

4. まとめ

自由選択科目の履修について、注意すべき点は以下の通りです。

- デザイン工学科、電気工学科 … 自由選択を履修しないと卒業できません。
- 機械電子工学科、情報工学科 … 自由選択科目を履修しなくとも問題はありません。
- ※ 新5年生は全員、一般必修選択科目(選択C群)として「法学」か「経済学」のいずれかを履修登録
します。(履修登録しないと、卒業単位が足りなくなるので卒業できなくなります!)
- ※ 自由選択科目の受講には、追加の受講料等はかかりません。ただし、教科書代は実費が必要です。

(出典：教務部資料)

平成24年度の選択科目履修上の注意

○ 開講科目について

- ・ B群とD群の選択科目については、年度ごとに開講科目が変更されることがある。また科目名は変更されなくとも、講義内容が変更されることもある。
 - * 選択科目D群の「生物学概論」は、都合により平成24年度は開講しない。
 - * 平成24年度開講予定の選択科目D群「物理学特論(旧・力学)」は、平成23年度に開講された選択科目D群「力学」と同一内容の科目である。よって、平成23年度に履修して合格した学生は再度履修することはできない。

○ 履修申請上の注意について

- ・ 現在履修中の科目も申請することは可能であるが、年度末において当該科目が合格した場合には履修は取り消される。
- ・ 選択科目B群の「〇〇Ⅰ」を履修中の者が「〇〇Ⅱ」を履修申請した場合、年度末において「〇〇Ⅰ」が合格しなければ「〇〇Ⅱ」の履修は取り消される。
- ・ 履修申請は必ず定められた期間内に行うこと。
- ・ 履修申請票は以下からダウンロードできるので、各自ダウンロードの上、印刷しておくこと。履修申請票に締め切り等の注意事項が記載されているので、事前によく確認すること。

履修申請票の入手法：

サレジオ高専ホームページ(top) > 学内の方へ > 教務部より > 2012年度選択科目について

(出典：教務部資料)

2012年度 新4年 選択英語講義概要

以下に並べられている科目は、4・5年時に受講予定の講義概要である。学生諸君は、以下の概要を熟読の上、英語演習を選択すること。なお2年連続で同じ内容・同じ先生は選べないものとする。「選択必修科目」であるので、卒業要件単位であることに注意すること（単位を落とすと就職活動ができなかったり、卒業延期になる可能性がある）。また、英検2級・TOEIC500点以上でこの単位を互換することができる。

もし、受講者数を超えて希望者が出た場合は、厳正なる抽選を行い、受講者を決定する。ただし、選択英語VIに関しては、授業内容を鑑み、TOEICスコアを参考に受講者数を決定していく。

選択英語Ⅰ：ビジネス英語（ポール・マッカン先生）

講義概要：

Based on Business English to provide students the necessary English language skills which will help students gain a practical command of basic spoken English to communicate effectively on their future work. To consolidate and reinforce the vocabulary, listening and speaking skills students have acquired in the previous years.

評価方法：

Grading will be based on short test class participation (20%), completion of assigned tasks (20%) and final tests on listening comprehension, reading, speaking and writing (60%)

最大受講者数：25名

選択英語Ⅱ：シンガポール研究（石田 毅先生）

講義概要：

シンガポール研修旅行の教育的効果を最大限に引き出すために、事前の社会=文化学習を通して異文化遭遇へのレディネスを高めることを目的とする。また国際コミュニケーションの媒介語としての英語を意識的に利用することを第二の目的とする。平易な英語で書かれたシンガポール文化の解説書を読みながら、感想や意見を英語で発信するアクティビティを交えた授業の形式を採る。

評価方法：

各区間の成績は、定期試験（60%）＋授業内課題（20%）＋小テスト（20%）で算出し、学年末の総合評価は単純平均法を採用する。原則として再試験等の救済措置は行わない。

最大受講者数：45名

選択英語Ⅲ：Paragraph Reading（椎名 正明先生）

講義概要：

大学編入試験及び大学入学後の授業に備えた英文読解力を養う。Paragraph Reading を中心に行い、それに伴い語彙力・文法力をつける。精読というよりは速読・多読に目を向け、英語のinputを多量に行う。また、読む際にはreading skill（読むためのコツ）も教え、英文に慣れるようにする。本気で進学を考えている気持ちのある学生を望む。

評価方法：

定期試験（50%）＋小テスト（30%）＋課題・授業態度等（10%）＋ドリル点（10%）

最大受講者数：45名

選択英語Ⅳ：リーディング（野島 伸仁先生）

講義概要：

英語のリーディング・スキルを身につけることを目指して、多読・速読を念頭に置いた英文読解の訓練を行う。訓練は文法・語法を確認しながら行い、同時に語彙力を向上させるためのアクティビティを伴う。授業ではリーディング作業を最大限に行うために、リーディングに必要な相当数の語彙予習および、語彙定着のための復習課題を毎回求める。また授業時間内で取り扱わない英語教材を各区分毎に課題として読んでもらいその成果も評価に反映する。

評価方法：

定期試験（60%）、授業内演習（小テスト含む）（20%）、課題（20%）で算出する。総合評価は各区分の評定の平均とする。原則として再試験は行わない。

最大受講者数：45名

選択英語Ⅴ：英文法（松尾 貴哲先生）

講義概要：

当講義は、中等教育課程相当で学習済みである英文法を、「実際の使用(in use)」という観点から見直すものである。文法を単元別に再構築し、復習し、一定規則の存在を理解する。それを踏まえ、ライティングの小クイズを毎時限行う。当講義では予習よりも日々の復習に比重が置かれる。毎時の内容を自分なりにノートにまとめ、それを活用してコツコツと復習するといった学習サイクルが習慣付けられていない学生には、当講義は不向きである。

評価方法：

総合評価算定の割合は、各定期試験(60%)＋授業内小クイズ・課題(40%)とする。

最大受講者数：45名

選択英語Ⅵ：英語表現（マルケス先生）

講義概要：

Writing と Speech のクラス。学年末には自分の意見を英語で表現し、発表してそれが伝わるようになることを目標とする。そのため、前期は文構造理解のための演習及び正しい英文を覚え、発音し、書けるようになるトレーニングを行う。そして後期は、前期で学習したことを応用し、目標達成に向けて演習を繰り返す。自分の意見を英語で表現することが求められるので、普段から様々なことに意見を持てるようにしておいてください。

評価方法：

科目担当者がシラバスにて発表する。(参考までに、右は去年のもの：課題・小テスト 60%＋ 定期試験 40%)

最大受講者数：20名

2月18日（土）の科目別補講日（TOEIC-IP 実施日）において、履修届を提出させるので、それまでに決めておくこと。質問等があれば提出日までに直接科目担当者に聞きに行くこと。

2012年度 新5年選択英語講義概要

以下に並べられている科目は、4・5年時に受講予定の講義概要である。学生諸君は、以下の概要を熟読の上、英語演習を選択すること。なお2年連続で同じ内容・同じ先生は選べないものとする。「選択必修科目」であるので、卒業要件単位であることに注意すること（単位を落とすと就職活動ができなかったり、卒業延期になる可能性がある）。また、英検2級・TOEIC500点以上でこの単位を互換することができる。

もし、受講者数を超えて希望者が出た場合は、厳正なる抽選を行い、受講者を決定する。ただし、選択英語Ⅲ・Ⅵに関しては、授業内容を鑑み、TOEICスコアを参考に受講者数を決定していく。

2月14日（火）各選択英語授業内において、履修届を提出させるので、それまでに決めておくこと。質問等があれば提出日までに直接科目担当者に聞きに行くこと。

選択英語Ⅰ：ビジネス英語（ポール・マッカン先生）

講義概要：

Based on Business English to provide students the necessary English language skills which will help students gain a practical command of basic spoken English to communicate effectively on their future work. To consolidate and reinforce the vocabulary, listening and speaking skills students have acquired in the previous years.

評価方法：

Grading will be based on short test class participation (20%), completion of assigned tasks (20%) and final tests on listening comprehension, reading, speaking and writing (60%)

最大受講者数：25名

選択英語Ⅱ：『モリー先生との火曜日(Tuesday with Morrie)』を読む（石田 毅先生）

講義概要：

ニューヨークタイムスのベストセラーに選ばれた作品の抜粋を原文のまま読みます。平易な英語ですが、愛、恐れ、家族、仕事、死など抽象的で深みのあるテーマを ALS に侵された社会学教授が語ります。英語の読解力を鍛えることはもちろんですが、社会へ踏み出す前の 20 歳の目線で「人生の意味」を一緒に考える授業ができればと思います。

評価方法：

各区間の成績は、定期試験（60%）＋授業内課題（20%）＋小テスト（20%）で算出し、学年末の総合評価は単純平均法を採用する。原則として再試験等の救済措置は行わない。

最大受講者数：45名

選択英語Ⅲ：TOEIC 演習（岸 洋一先生）

講義概要：

TOEIC600 点突破相当の英語力をつけることを目標とする。「Target 600」という教材パッケージを使う。全6冊。ワークブック（2冊）は全て完成して提出することを義務とする。力試しの課題も必ず提出する。受講生は前期、後期、学校で行われる TOEIC テスト、また、公開テストのうち少なくとも1回を受験し、スコアシートを提出すること。課題（完成したもの）提出、力試し（完成したもの）提出、TOEIC 受験、そして、定期試験も行うので、かなり厳しい内容になる。確実に力をつけ、将来に役立てたい諸君に勧める。

資料 5-1-②-14 続き

評価方法：

定期テスト（50%）＋小テスト（30%）＋課題（10%）＋基準をクリアした TOEIC スコア（10%）

最大受講者数：45名（万一最大受講者数を超えた場合、TOEIC のスコア順に選抜する）

選択英語Ⅳ：リーディング（野島 伸仁先生）

講義概要：

英語のリーディング・スキルを身につけることを目指して、多読・速読を念頭に置いた英文読解の訓練を行う。訓練は文法・語法を確認しながら行い、同時に語彙力を向上させるためのアクティビティを伴う。授業ではリーディング作業を最大限に行うために、リーディングに必要な相当数の語彙予習および、語彙定着のための復習課題を毎回求める。また授業時間内で取り扱わない英語教材を各区間毎に課題として読んでもらいその成果も評価に反映する。

評価方法：

定期試験（60%）、授業内演習（小テスト含む）（20%）、課題（20%）で算出する。総合評価は各区間の評点の平均とする。原則として再試験は行わない。

最大受講者数：45名

選択英語Ⅴ：英文法（松尾 貴哲先生）

講義概要：

当講義は、中等教育課程相当で学習済みである英文法を、「実際の使用(in use)」という観点から見直すものである。文法を単元別に再構築し、復習し、一定規則の存在を理解する。それを踏まえ、ライティングの小クイズを毎時限行う。当講義では予習よりも日々の復習に比重が置かれる。毎時の内容を自分なりにノートにまとめ、それを活用してコツコツと復習するといった学習サイクルが習慣付けられていない学生には、当講義は不向きである。

評価方法：

総合評価算定の割合は、各定期試験(60%)＋授業内小クイズ・課題(40%)とする。

最大受講者数：45名

選択英語Ⅵ：英語表現（マルケス先生）

講義概要：

Writing と Speech のクラス。学年末には自分の意見を英語で表現し、発表してそれが伝わるようになることを目標とする。そのため、前期は文構造理解のための演習及び正しい英文を覚え、発音し、書けるようになるトレーニングを行う。そして後期は、前期で学習したことを応用し、目標達成に向けて演習を繰り返す。自分の意見を英語で表現することが求められるので、普段から様々なことに意見を持てるようにしておいてください。

評価方法：

科目担当者がシラバスにて発表する。(参考までに、右は去年のもの：課題・小テスト 60%＋定期試験 40%)

最大受講者数：20名

(出典：一般教育科<英語科>資料)



平成24年度アンケート質問票(講義・演習科目用)

(自学自習時間について)

問1 この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をかけましたか？(1つ選択)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1: なし | 2: 1回の授業時間の半分くらい |
| 3: 1回の授業時間と同じくらい | 4: 1回の授業時間の倍以上 |

問2 この授業1回につき、復習(課題・宿題も含む)にどのくらいの時間をかけましたか？(1つ選択)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1: なし | 2: 1回の授業時間の半分くらい |
| 3: 1回の授業時間と同じくらい | 4: 1回の授業時間の倍以上 |

(授業のやり方について)

問3 教員は毎回よく授業の準備をしていましたか？(1つ選択)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1: 全く準備不足であった | 2: 少し準備不足であった |
| 3: よく準備されていた | 4: 大変よく準備されていた |

問4 教員は、その日の授業の目的を説明していましたか？(1つ選択)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1: 全く説明しなかった | 2: 説明することは少なかった |
| 3: 説明することが多かった | 4: いつも説明した |

問5 教員の話し方は聞き取りやすかったですか？(1つ選択)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1: 全く不明瞭であった | 2: どちらかというとも不明瞭であった |
| 3: どちらかというとも明瞭であった | 4: 明瞭であった |

問6 授業の進度について、教員は学生の様子を見て調整していましたか？(1つ選択)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1: 全く調整していなかった | 2: どちらかというとも調整不足 |
| 3: どちらかというとも調整していた | 4: 十分調整していた |

問7 教員は授業をする雰囲気を保つようにしていましたか？(例えば、授業中の私語などの注意)(1つ選択)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1: 全くしていなかった | 2: あまりしていなかった |
| 3: どちらかというとしていた | 4: とてもよくしていた |

問8 教員は授業中、重要な箇所を強調して解説していましたか？(1つ選択)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1: 全く強調していなかった | 2: ときどき強調していた |
| 3: わりと強調していた | 4: 常に強調していた |

問9 教員は時間通りに授業を始め、時間通りに授業を終えましたか？(1つ選択)

- 1: 全く時間通りに行っていなかった 2: あまり時間通りに行っていなかった
3: 大体時間通りに行っていた 4: ほとんど時間通りに行っていた

問10 あなたはこの授業についていけましたか？(1つ選択)

- 1: 全くついていけなかった 2: あまりついていけなかった
3: なんとかついていけた 4: 十分についていけた

問11 あなたはこの授業を受けて、実力がついたと思いますか？(1つ選択)

- 1: まったく実力はつかなかったと思う 2: あまり実力はつかなかったと思う
3: 少し実力がついたと思う 4: 非常に実力がついたと思う

(評価について)

問12 この科目の試験問題は、講義との関連性が妥当でしたか？(1つ選択)

- 1: 全く妥当でなかった 2: 少し妥当でなかった
3: ほぼ妥当であった 4: 十分妥当であった

問13 教員は成績評価方法について、詳しく説明していましたか？(1つ選択)

- 1: 全く説明しなかった 2: どちらかというと詳しく説明しなかった
3: どちらかというと詳しく説明した 4: 十分詳しく説明した

問14 あなたはシラバスに書かれている到達目標は達成できたと思いますか？(1つ選択)

- 1: そもそも達成目標が明確でなかった 2: あまり達成できなかった
3: 何とか達成できた 4: 十分達成できた

<自由記述欄>

問15 あなたがこの授業の理解に役立ったと思うものの番号を選んで、自由記述欄にその番号を記入してください。(複数回答可)

- 1: シラバス 2: 複数教員(コース)制 3: 教科書
4: シラバスに書いてある参考書 5: 配布プリント 6: 小テスト
7: 課題・宿題 8: 板書 9: プロジェクターなどのAV機器

問16 この授業における教員の姿勢・態度、この授業で扱っている内容、授業の難しさ、授業の進め方、教授方法などで工夫してもらいたいこと、教員に知ってもらいたいことがあれば自由に意見を書いてください。

(出典：自己点検評価本部資料)

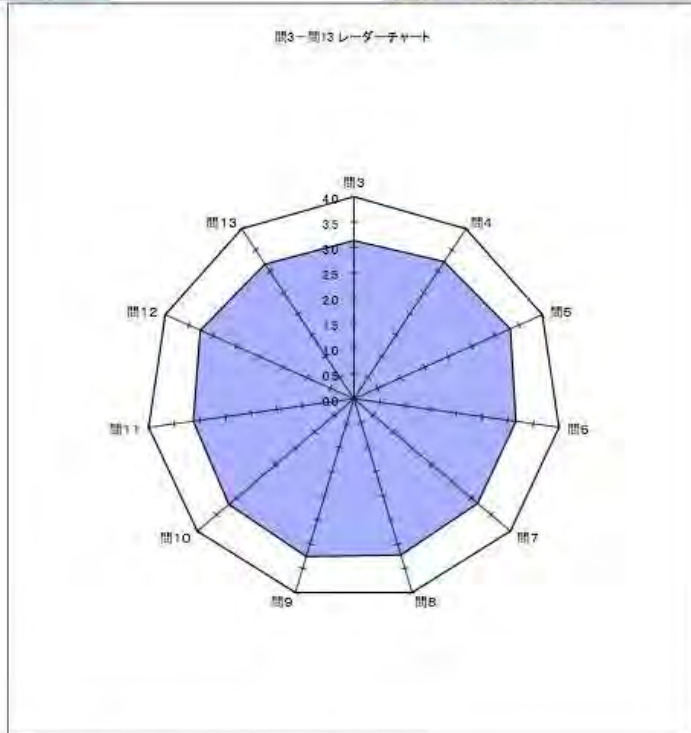
授業アンケートの集計結果サンプル

資料 5-1-②-16

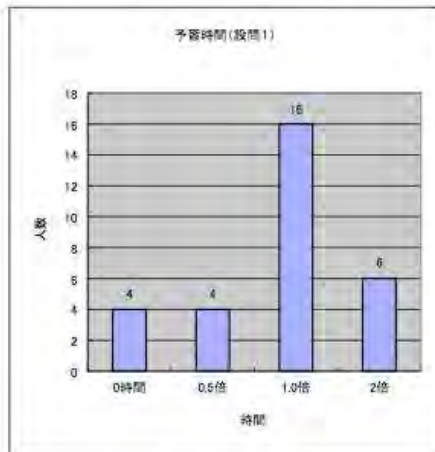
平成23年度前期授業アンケート

クラス	4xx
在籍数	31
科目名	選択英語Ⅱ
担当者	石田

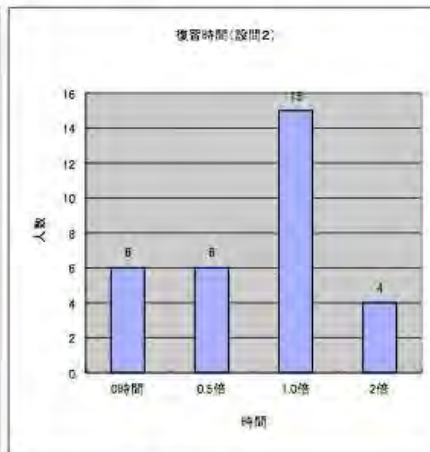
表示オプション	
自己採点値を出力する (y/n)	n
中央値を出力する (y/n)	n
比較データを出力する (y/n)	n



- 問3 教員は毎回よく授業の準備をしていましたか？(1つ選択)
- 問4 教員は、その日の授業の目的を説明していましたか？(1つ選択)
- 問5 教員の話し方は聞き取りやすかったですか？(1つ選択)
- 問6 授業の進度について、教員は学生の様子を見て調整していましたか？(1つ選択)
- 問7 教員は授業をする雰囲気を保つようにしていましたか？(例えば、授業中の私語などの注意)(1つ選択)
- 問8 教員は授業中、重要な箇所を強調して解説していましたか？(1つ選択)
- 問9 教員は時間通りに授業を始め、時間通りに授業を終えましたか？(1つ選択)
- 問10 あなたはこの授業についていけましたか？(1つ選択)
- 問11 この科目の試験問題は、講義との関連性が妥当でしたか？(1つ選択)
- 問12 教員は成績評価方法について、くわしく詳しく説明していましたか？(1つ選択)
- 問13 あなたはシラバスに書かれている到達目標は達成できたと思いますか？(1つ選択)



平均 1.00 倍



平均 0.84 倍

(出典：自己点検評価本部資料)

(分析結果とその根拠理由)

多様化する学生のニーズに合わせて、他の高等教育機関での修得単位認定を認めているが、過密な時間割もあり、利用実績はほとんど無い。一方で、資格試験による単位認定やインターンシップによる学修単位認定では、多くの実績を有している。一部科目の履修免除や学修単位の取得など、その恩恵を受ける学生も存在している。選択科目の開講により、学生は自分のニーズに基づいた科目履修が可能となり、学生の可能性や視野を広げる機会ともなっている。授業アンケートの結果は、科目担当者にとって学生の多様なニーズに気づくきっかけにもなっている。

以上より、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、社会からの要請等に配慮している。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

(観点に係る状況)

2008年度に改訂された準学士課程の教育目標(資料5-2-①-1)に定められた「実践力」という観点に沿って、また実践的技術者を輩出する教育機関としての特徴からも、本校の授業形態は、全体に演習・実験・実習の授業形態の割合が多くなっている(資料5-2-①-2)。このバランス状態を精緻し、さらに適切なバランスへと導き保つために、2012年度よりシラバス作成の際に、科目ごとの授業総時間におけるは授業形態の時間内訳を明記(資料5-2-①-3)する仕組みを導入した。

資料5-2-①-1

準学士課程の教育目標

準学士課程にあっては実践的技術者となるために以下のような力を身につけることを目標とする

- A. **基礎力**：専門分野を学ぶために必要な基礎的学力や技能
- B. **実践力**：提示された課題を正確に必要なかつ十分に実現する力
- C. **コミュニケーション力**：物事を論理的に考え、それらを文章や言葉で表現する力
- D. **人間性**：健全な人格を育成し、社会性をもつ人柄となる力
- E. **国際性**：海外の人々と交流するために必要とする基本的な力

(出典：info2012 p.15)

各科目における学習指導法の工夫の具体例としては、準学士課程の教育目標「E. 国際性：海外の人々と交流するために必要とする基本的な力」を身につけるため、1～2年次の「英語」では、日本人教員と外国人教員2名によるチーム・ティーチングを導入し、外国人との交流の機会を想定したコミュニケーションな英語活動を基軸とした授業(資料5-2-①-4～5)を構成している。チーム・ティーチングの導入は単に外国人教員との機会を与えるだけにとどまらず、英語に対する苦手意識が強い学生層に対して徹底した授業参加を促すことで基礎学力を担保する目的もある。こうした取り組みの効果測定としてTOEIC Bridgeなどの英語でのコミュニケーション能力を測る外部テストを積極的に導入(資料5-2-①-6)して、客観的な学力評価が得られるように配慮がされている。

準学士課程の教育目標「C. コミュニケーション力：物事を論理的に考え、それらを文章や言葉で表現する力」を受けた一般教育科の学習教育目標「国際社会の中にあってお互いを理解し、自己を正しく表現できる力を身につける」に沿って、対人コミュニケーションの基礎となる「傾聴力」や「思考力」を養う科目として「表現」が1年次に配置されている。少人数制でグループワークやディスカッションなどの演習を中心とした授業(資料5-2-①-7～8)を展開している。

資料5-2-①-2

学科毎の学年別授業形態

平成24年度

専門科目の授業形態別単位数

デザイン学科

	講義	割合(%)	演習	割合(%)	実験	割合(%)	実習	割合(%)
1年	0	0.0%	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年	0	0.0%	9	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
3年	6	28.6%	11	52.4%	0	0.0%	4	19.0%
4年	12	46.2%	4	15.4%	0	0.0%	10	38.5%
5年	14	43.8%	2	6.3%	0	0.0%	16	50.0%

※ 4.5年にはそれぞれ選択科目D群の2単位が(講義)が含まれる

電気工学科

	講義	割合(%)	演習	割合(%)	実験	割合(%)	実習	割合(%)
1年	2	25.0%	5	62.5%	0	0.0%	1	12.5%
2年	6	60.0%	0	0.0%	3	30.0%	1	10.0%
3年	10	58.8%	2	11.8%	3	17.6%	2	11.8%
4年	22	75.9%	2	6.9%	4	13.8%	1	3.4%
5年	22	66.7%	0	0.0%	2	6.1%	9	27.3%

※ 4.5年にはそれぞれ選択科目D群の2単位が(講義)が含まれる

機械電子学科

	講義	割合(%)	演習	割合(%)	実験	割合(%)	実習	割合(%)
1年	3	42.9%	4	57.1%	0	0.0%	0	0.0%
2年	4	40.0%	2	20.0%	4	40.0%	0	0.0%
3年	8	44.4%	6	33.3%	4	22.2%	0	0.0%
4年	22	84.6%	0	0.0%	4	15.4%	0	0.0%
5年	17	63.0%	2	7.4%	0	0.0%	8	29.6%

※ 4.5年にはそれぞれ選択科目D群の2単位が(講義)が含まれる

情報工学科

	講義	割合(%)	演習	割合(%)	実験	割合(%)	実習	割合(%)
1年	3	42.9%	2	28.6%	0	0.0%	2	28.6%
2年	3	30.0%	3	30.0%	4	40.0%	0	0.0%
3年	8	40.0%	5	25.0%	4	20.0%	3	15.0%
4年	15	55.6%	4	14.8%	4	14.8%	4	14.8%
5年	12	36.4%	8	24.2%	2	6.1%	11	33.3%

※ 4.5年にはそれぞれ選択科目D群の2単位が(講義)が含まれる

(出典：教務部資料)

シラバス作成の注意

シラバス作成上の留意点

授業科目の名称は「教育課程表」と一致させること！

斜のかかったセルはプルダウンの項目から選択して記入

開講年度	2012年度				
授業科目	対象学科	対象学年	開講期間	単位数	
英語名称	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]			
		講義	演習	実験	実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
授業概要					
到達目標					
授業方法					
教科書					
補助教材					
評価方法 学生自身が 検算できる ように算出 方法や根拠 項目を明記 すること					
関連科目					
準備学習に 関する アドバイス					

90分授業のコマ数ではなく、60分の時間数で換算記入

閉門科目は「必修※」を選択してください

XYZ@salesio-sp.ac.jpのXYZ部分のみを記入

4行目のみ自由入力が可能。担当者が5名以上の場合、4行目に「他○名」と記入

単位認定の際の「合格基準」となる到達度を記入してください。

学生が自分の評価点を計算できるように、できるだけ具体的で詳細に記載してください。

(出典：シラバス作成説明会資料)

開講年度	2012年度								
授業科目	英語	対象学科	全学科	対象学年	1年	開講期間	通年	単位数	6
英語名称	English	履修形態	必修	授業形態の時間内訳 (hour)					
				講義	35	演習	100	実験	
				実習				実習	
担当教員	野島 伸仁	所属学科・職名	一般教育科・講師	研究室	236	オフィスアワー	火曜14:05-17:00	メールアドレス	nojima
	松尾 貴哲	一般教育科・講師		236		水曜16:15-17:00		matsuot	
	アナト パルナス	一般教育科・非常勤講師		230		月曜16:15-16:45		parnass	
	スザンヌ ムーニー	一般教育科・非常勤講師		230		月曜16:15-16:45		suzanne	
半学士課程または専攻科課程の教育目標との対応				JABEEプログラムの学習・教育目標との対応					
GE-3									
授業概要	様々な状況における基礎的な口語表現を習得する。多様なアクティビティを通して、発信力に重きを置いた英語運用能力の基礎を築く。同時にTOEIC Bridgeテストに準拠した副教材を使って、基本的な英文法のまとめや平易な文書読解の演習も行う。								
到達目標	<input type="checkbox"/> 授業で学習した場面に必要な英語表現を聞いて理解できる。 <input type="checkbox"/> 授業で学習した場面に必要な英語表現を口頭で表現できる。 <input type="checkbox"/> 授業で取り扱った文法項目を理解できる。 <input type="checkbox"/> TOEIC Bridgeテスト頻出構文を聞いて理解できる。								
授業方法	中学英語の既習事項を確認しながら4技能習得を目的とした演習中心の授業を行う。授業はすべてTT (ティームティーチング) でクラスコントロールし、必要に応じてペアワーク、グループワークなどを行って理解の促進、フォローをする。								
教科書	PASSPORT 1 Second Edition (OUP)								
補助教材	TOEIC Bridge公式ワークブック (TOEIC運営委員会)、ジーニアス英和辞典第4版 (大修館)								
評価方法	<p>総合評価は各区間の単純平均とする。</p> <p>各区分評価の算出方法は以下の通り： 定期試験 (60%) 学習ログ (15%) パフォーマンステスト (15%) 単語テスト (10%)</p> <p>定期試験について：定期試験は80点満点のReading/Writingのテストと、20点満点のListeningテストの合計100点満点で評価する。</p> <p>小テストについて： リスニング・ライティング・パフォーマンステストを小テストとして行う。</p>								
関連科目	中学英語								
準備学習に関するアドバイス	単語テストの予習と宿題は必ずしましょう。「聞ける」「言える」ところまでを目標としているので、パフォーマンステストは出来るまで練習しましょう。この授業は「実技科目」と考えて取り組みましょう。沈黙して座っているだけでは評価されません。分からないことや不安なことは遠慮せずに質問しましょう。積極的な姿勢で授業参加しましょう。								

資料 5-2-①-4 続き

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
		【Term 1】
1	1.5	授業ガイダンスとIntroduction
20	30	Units 1-5
		<input type="checkbox"/> 本授業の目的及び目標を理解する。 <input type="checkbox"/> 英語で自己紹介をし、理解を得る。 <input type="checkbox"/> 取り扱う場面で必要となる英語表現を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 授業内で取り上げた文法項目を理解する。
		【Term 2】
20	30	Units 6-10
		<input type="checkbox"/> 取り扱う場面で必要となる英語表現を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 必要な情報を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 授業内で取り上げた文法項目を理解する。
		【Term 3】
21	31.5	Units 11-15
		<input type="checkbox"/> 取り扱う場面で必要となる英語表現を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 授業内で取り上げた文法項目を理解する。 <input type="checkbox"/> 時制の概念を理解し表現することができる。
		【Term 4】
16	24	Units 16-20
5	7.5	TOEIC Bridge
		<input type="checkbox"/> 取り扱う場面で必要となる英語表現を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 授業内で取り上げた文法項目を理解する。 <input type="checkbox"/> TOEIC Bridge 頻出文章を聞きとれるようになる。 <input type="checkbox"/> TOEIC Bridge 頻出文章を書けるようになる。
1	1.5	TOEIC Bridge テスト
2	3	定期試験
4	6	定期試験解説とListening試験
合計	90	135
コマ	時間	

(出典：シラバス 2012, p. 14)

開講年度	2012年度				
授業科目		対象学科	対象学年	開講期間	単位数
英語		デザイン学科	2年	通年	6
英語名称		履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
English		必修	講義	演習	実習
			35	100	
担当教員		所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
椎名 正明		一般教育科・講師	236	月曜16:15-16:45	shiina
真島 顕子		一般教育科・講師	211	月曜16:15-16:45	majima-a
マルケス・ルイス		一般教育科・講師	236	月曜16:15-16:45	marques
P.M. マッカシ		一般教育科・非常勤講師	236	月曜16:15-16:45	paul
半学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
GE-3					
授業概要	多様なアクティビティを通して英文の基本的な構造を理解させ、英語の基礎を築く。英語の4技能を関連させながら総合的な英語力の向上を図り、英語圏の文化や生活に触れることの楽しさを学ぶ。				
到達目標	<input type="checkbox"/> 授業で学習した場面に必要な英語表現を聞いて理解できる。 <input type="checkbox"/> 授業で学習した場面に必要な英語表現を口頭で表現できる。 <input type="checkbox"/> 授業で学習した場面に必要な表現を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 授業で取り扱った文法項目を理解できる。 <input type="checkbox"/> TOEIC Bridgeテスト頻出構文を口頭で表現できる。 <input type="checkbox"/> TOEIC Bridgeテスト頻出構文を書くことができる。				
授業方法	1年の英語の既習事項を確認しながら4技能習得を目的とした演習中心の授業を行なう。授業は必要に応じてペアワーク、グループワークを取り入れたり、クラスを二分割して理解の促進とフォローを行なう。				
教科書	Passport 2 (Oxford), TOEIC Bridge公式ワークブック (TOEIC運営委員会)				
補助教材	ジーニアス英和辞典第4版 (大修館)				
評価方法	<p>総合評価は各区間の単純平均とする。</p> <p>各区分評価の算出方法は以下の通り： 定期試験(60%) + 小テスト(20%) + 課題・授業態度(15%) + 単語テスト(5%)</p> <p>学生自身が検算できるように算出方法を根拠項目を明記すること</p> <p>定期試験について： 定期試験は80点満点のReading/Writingのテストと、20点満点のListeningテストの合計100点満点で評価する。</p> <p>小テストについて： リスニング・ライティング・パフォーマンステストを小テストとして行いが、パフォーマンステストのみ再テスト可とする。</p>				
関連科目	1年英語				
準備学習に関するアドバイス	宿題・単語テストのための準備は必ずして来てください。「聞ける」「言える」「書ける」ところまでを目標としているので、必ずパフォーマンステストは合格してください。そうすれば定期試験の点数も上がるはずですが。上記の準備を怠り、授業内でも授業に参加しない学生には厳しい評価がなされます。				

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
【Term 1】		
1	1.5	授業ガイダンスとIntroduction <input type="checkbox"/> 本授業の目的及び目標を理解する。 <input type="checkbox"/> 英語で自己紹介をし、理解を得る。
13	19.5	Units 1-3 <input type="checkbox"/> 取り扱う場面で必要となる英語表現を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 授業内で取り上げた文法項目を理解する。
7	10.5	TOEIC Bridge <input type="checkbox"/> TOEIC Bridge頻出構文を発音でき、書けるようになる。(Part1) <input type="checkbox"/> 品詞の使い分けがあることを理解する。
【Term 2】		
14	21	Units 4-6 <input type="checkbox"/> 取り扱う場面で必要となる英語表現を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 授業内で取り上げた文法項目を理解する。
7	10.5	TOEIC Bridge <input type="checkbox"/> TOEIC Bridge頻出構文を発音でき、書けるようになる。(Part2) <input type="checkbox"/> 品詞の使い分けを理解できる。
【Term 3】		
14	21	Units 7-9 <input type="checkbox"/> 取り扱う場面で必要となる英語表現を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 授業内で取り上げた文法項目を理解する。
7	10.5	TOEIC Bridge <input type="checkbox"/> TOEIC Bridge頻出文章を発音でき、書けるようになる。(Part3) <input type="checkbox"/> 品詞について学習した知識を用い問題に取り組むことができる。
【Term 4】		
14	21	Units 12, 14, 18 <input type="checkbox"/> 取り扱う場面で必要となる英語表現を身に着ける。 <input type="checkbox"/> 授業内で取り上げた文法項目を理解する。
7	10.5	TOEIC Bridge <input type="checkbox"/> TOEIC Bridge頻出文章をTapeSpeedと同じ速さで発音できる。 <input type="checkbox"/> TOEIC Bridge頻出文章を書けるようになる。(Part 3) <input type="checkbox"/> 品詞について学習した知識を用い問題を解くことができる。
2	3	定期試験
4	6	定期試験解説とListening試験
合計		
90	135	
コマ	時間	

過去7年間のTOEIC Bridgeテストのスコア変遷

資料5-2-①-6

全体	西暦		TOEIC Bridge										TOEIC IP		
	入学年度	学生数	入学前*	1年次学力	入学前との差	2年次学力	1年次との差	3年次学力	2年次との差	4年次学力	3年次との差	5年次学力	4年次との差	3年次学力	4年前期
17	2005	157	99	104	5	111	7	12	12	110	11	121	10	281	295
18	2006	153	100	105	5	106	1	6	6	110	4	114	4	286	308
19	2007	153	99	102	3	104	2	5	2	104	2	106	2	280	312
20	2008	149	102	106	4	108	2	6	2	108	2	110	2	272	
21	2009	152	105	109	4	114	5	9	5	114	5	119	5		
22	2010	124	107	112	5	114	2	7	2	114	2	116	2		
23	2011	161	98	106	8										
24	2012	202	102												

(出典：一般教育科<英語科>資料)

開講年度	2012年度				
授業科目	対象学科	対象学年	開講期間	単位数	
表現	全学科	1年	通年	2	
英語名称	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)			
Communication	必修	講義	演習	実験	実習
			45		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
中田 正一郎	一般教育科・講師	221	金曜日以外	nakada	
米山 秋文	一般教育科・講師	238	木曜日以外	yoneyama	
杉本 文司	情報工学科・教授	403	金曜日以外	sugimoto	
濱邊 正ほか1名					
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
GE-3					
授業概要	「コミュニケーション力 (=受けて返す力)」の基礎として聴解力を養うことを主目的とする。 「コミュニケーション力」とは「他者の話を聞き、論理的に考え、相手に分かるように伝える」ことを総合的に行う能力である。				
到達目標	<input type="checkbox"/> 他者の発言を正確に聞きとることができる。 <input type="checkbox"/> 他者の発言を受け、自己の考えを整理することができる。				
授業方法	20名程度のグループごとに、演習中心の授業を実施する。				
教科書	特に設けない。機会に応じてプリントを配布する。				
補助教材	特に設けない。				
評価方法	<p>学生自身が検算できる ように算出 方法を根拠 項目を明記 すること</p> <p>毎授業の学習活動の成果を評価する。 学習活動には毎回到達目標を設定し、それに基づく5段階の評価基準を設ける。 追試などはなし。</p>				
関連科目	全科目				
準備学習に関する アドバイス	本授業は「コミュニケーション力」を育むものです。コミュニケーションは他者との関わりを必要とし、第一に人の話を「きく」ことができなければいけません。 とにかく、1年間「人の声」に耳を傾けてください。				

コマ数		時間数	授業計画	授業項目および学習達成項目
3	4.5	単元1【アイスブレイク】 ガイダンス グループワーク	<input type="checkbox"/> 授業方法・評価方法を理解する <input type="checkbox"/> 担当教員、同じグループのメンバーが誰であるのか言うことができる <input type="checkbox"/> ゲームの中でお互いの緊張感を緩和することができる <input type="checkbox"/> グループワークを通してコミュニケーションを促すことができる	
3	4.5	単元2【「きく」力を育む】	<input type="checkbox"/> 「きく」ことの重要性を理解し、表現できる <input type="checkbox"/> 人の話を的確に聞きとることができる <input type="checkbox"/> 聞いた情報を整理することができる	
7	10.5	単元3【聴解力を育む】	<input type="checkbox"/> 聴解力（聞いて考える力）とは何かを理解する <input type="checkbox"/> 聞いた情報をもとに考えることができる <input type="checkbox"/> 情報に対して多角的に考えることができる	
1	1.5	学習指導期間 学習の定着度・学生の実態調査	授業アンケート	
15	22.5	単元4【伝え合う体験をする】	<input type="checkbox"/> 他者が理解しやすい伝え方を理解し、実践できる <input type="checkbox"/> 他者の発言を受けて考えることができる <input type="checkbox"/> 自己の考えを論理的に伝えることができる <input type="checkbox"/> グループの中でコンセンサスを計ることができる <input type="checkbox"/> ディスカッションを繰り返し行い、体験を深めることができる	
1	1.5	学習指導期間 学習の定着度・学生の実態調査	授業アンケート	
合計		30	45	
コマ		時間		

2012 年度「表現」基本構想

2012/04/06

中田正一郎

「表現」とは

- ・ 従来と同様に、コミュニケーション力育成のための授業である。
- ・ 「コミュニケーション」には様々な形態が考えられるが、ここでは音声言語を利用した「対話」と捉える。
- ・ 今年度は昨年度の授業内容を踏襲し、前期では「きく」ためのスキルの訓練、後期では3つの目的に分けたディスカッションを行う。
- ・ 4教室を使用し、各教室の授業担当者は基本的に1名。
- ・ コーディネーターは教室を回り、授業進度・授業内容の精査に努め、授業マニュアル作成にあたる。
- ・ 卒業時に必要なコミュニケーション力を意識し、それを踏まえた上での授業内容とする。
- ・ 5年間でのコミュニケーション育成を次の4段階に分けて考える。
 - 1: コミュニケーションの基礎としての聴く力をつける。(対論的コミュニケーションの基礎・態度面も含む)
 - 2: 対論的コミュニケーションを育成する
 - 3: 協調的コミュニケーションを育成する
 - 4: 自律的に協調的コミュニケーションを図る力を育成する
- ・ 1年次配当科目の「表現」は上記の1に該当する。

授業内容

- ・ 正確に聞いてもコミュニケーションギャップが生じる→解釈の相違があることを理解する
- ・ 相手の意図を想像しながら聞く練習
- ・ 解釈の相違を前提として、「情報を多角的に捉える」必要性に気付く
- ・ 情報を多角的に捉える練習(情報をカテゴライズする・カテゴライズの組み換えなど)
- ・ 「水平思考」などの思考法をいくつか学ぶ(マップ、マトリックス、フィッシュボーン)
- ・ 主体的に「きく」ことの必要性に気づく・「訊く」活動

授業の進め方

- ・ 授業の前の週に授業案及び授業用プリントの内容を提示する。担当の先生方にはその授業案に従って授業を行ってもらおう。
- ・ 授業ごとにプリントを回収。(評価をつけるため)
- ・ 授業終了後、授業担当者のミーティングを実施(およそ30分程度)。
内容は①評価ポイントの確認、②授業内容の反省、③自習の授業の内容の説明・確認など。
- ・ 1単元ごとに学生たちのグループはローテーションする。
- ・ ローテーションの際に、問題がある学生については次の担当者に引き継ぐこと(出席・授業態度など)。
- ・ 授業までに人文研究室に学生への配布プリントを中田が準備しておく。

昨年度のアンケート結果から

- ・ 昨年度と同様、コミュニケーションのプロセスの中で重要なものの1位に「聞くこと」を挙げている学生が5割強いた。
- ・ ガイダンス時のアンケートでは伸ばしていきたい能力に半数以上の学生が「情報や自分の考えを伝える力」

資料5-2-①-8 続き

を挙げていた。それに対し、学年末アンケートでは「協調性（他者と協力して問題を解決する力）」を挙げる学生が40%となった。後期のディスカッションを通して、ただ相手に伝える難しさだけではなく、人と協調して目的を達成する難しさに直面したと考えられる。ここに意識の変化が見られる。

- ・ 前期末アンケートと学年末アンケートの3を比較すると、「身に着いた能力」では「伝えたい内容を明確に認識できる」が非常に増えている。また、「筋道立てて話ができる」もわずかに増えている。ここから、アウトプットについては多少能力をつけさせることはできたと言える。

授業予定（第1週～7週）**1～3週【単元1：アイスブレイク】**

授業ガイダンス（評価方法や単元ごとに教室を変更することなどを説明）とグループ内の抵抗感を緩和させるアクティビティを行う。グループ内の需要的な雰囲気作りを主眼に置く。他者が自分の意見（ことば）を受け入れてくれるということを体感的に理解する。これが、今後の話し合い活動を円滑にさせる。

第1週：(4/11)サレジオン・ホールでのガイダンス・各教室を回りヒントを聞きとり、論理ゲームに挑む。

第2週：(4/18)構成的エンカウンター実施

第3週：(4/25)構成的エンカウンター実施

4～6週【単元2：「きく」力のトレーニング】

この単元では、他者から発信された情報（発話情報）を正確・的確に「聞き取る」力を育むことを主眼とする。また、「コミュニケーション（対話）」の基本は「きく」活動にあるということを（再）認識させる。

第4週：(5/9)「聴き取りイラスト」を利用して、コミュニケーションギャップを体感させる

「きく」という行為への理解を深める（＝聞く・聴く・訊く）

第5週：(5/16)的確に「聞く」ことを、リスニングCDを使つての聞き取り1

第6週：(5/23)的確に「聞く」ことを、リスニングCDを使つての聞き取り2

第7週 (5/30)単元名【水平思考】

授業フォーカス

- ・ コミュニケーションにおいて、「聞く」「聴く」「訊く」の活動が行われていることを再度理解する。
- ・ 情報を「受けて返す」ことの基礎として、「聴く」（聞いて考える＝聴解）プロセスがあると理解する。
- ・ 情報を「聴く」ためには一面的な理解・考えではなく、多面的な思考が必要と理解する。

後期について

- ・ 話し合いの形態は、基本的には「対論的対話形態」、年末～年明けにかけて「協調的対話形態」に移行。
- ・ 問題解決型の話し合いを最後に実施し、体験させる。
- ・ 後期導入段階での【話し合い】は、ディベートのような対論的な内容で行う。ただし、ディベートのように形式・勝負には一切こだわらない。話し合いの目的は、相手の主張を理解できるようになること。そして、交互に発言させるルールを課し、相手の発話を聴いて考え（聴解）、発言を返すことを反復して学ばせたい。
- ・ 2週で1テーマ。即興のディスカッションを行い、翌週に振り返りをするサイクル。

（出典：表現担当者ミーティング資料）

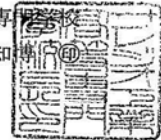
専門科目では、各学科ともに実験や実習の授業の一環として積極的に校外見学を取り入れている。最新の技術や実際の現場を見る機会が多くなるように配慮されている（資料5-2-①-9～12）。

資料5-2-①-9

デザイン工学科 5年次「コンピュータグラフィックスⅢ」の校外見学資料

平成24年7月17日

保護者各位

サレジオ工業高等専門学校
校長 小島 知

見学実施のお知らせ

学校教育の一環として、下記の通り見学会を実施いたしますのでお知らせいたします。

記

実施日	平成24年8月7日（火曜日）		
見学先	株式会社ジャパンスリーブ		
見学内容	CD・DVDパッケージの企画・製作		
見学者	デザイン工学科 5年 グラフィックデザインコース（9名）		
集合時間	12時45分	解散時間	16時00分
集合場所	両国駅東口改札口前	解散場所	現地
引率者（〇代表）	井上 謙		
交通機関	JR 総武線 両国駅		
注意事項等	*正装のこと *1週間以内に、E-mailで見学レポートを提出		

(出典：教務部資料)

電気工学科 3 年次「電気工学実験」の校外見学資料

電気工学科3学年
父 母 各 位

平成24年9月27日

サレジオ工業高等専門学校
校長 小島 知博見学実施のお知らせ

学校教育の一貫として下記の通り、見学会を実施しますのでお知らせします。
尚、交通費が個人負担になります。ご理解頂きますようお願い致します。

記

実 施 日	平成 24 年 10 月 11 日 (木曜日)		
見 学 先	東京臨海 広域防災公園 TEL.03-3529-2180 東京都江東区有明3-8-35		
見 学 内 容	13時15分 現地集合 13時30分 展示見学 15時30分 見学終了・解散		
見 学 者	電気工学科 3 年 (35 名)		
集 合 時 刻	13時15分	解 散 時 刻	15時30分
集 合 場 所	本部棟 入口	解 散 場 所	館内ロビー
引率者(○代表)	○渡邊 聡、水谷 浩		
交 通 機 関	新交通ゆりかもめ「有明駅」下車、徒歩2分 りんかい線「国際展示場駅」下車、徒歩4分		
注 意 事 項 等	◎現地集合、現地解散とする。(交通費個人負担) ◎学生証を持参すること。 ◎現地で報告レポートを提出してもらいますので、 筆記用具を持参すること。 東京臨海広域防災公園(そなエリア東京) http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/tokyorinkai/ 集合場所は、「有明口」から入場→「本部棟」入口前		

(出典：教務部資料)

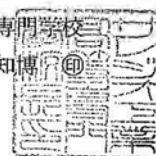
機械電子工学科 4 年次「機械電子工学実験」の校外見学資料

平成 24 年 9 月 27 日

保護者各位

サレジオ工業高等専門学校

校長 小島 知博



見学実施のお知らせ

学校教育の一環として、下記の通り見学会を実施いたしますのでお知らせいたします。

記

実施日	平成 24 年 10 月 4 日 (木曜日)		
見学先	森永乳業株式会社 東京多摩工場 (〒207-0021 東京都東大和市立野 4-515)		
見学内容	以下の内容を学び、授業だけでは得られない知識や経験を積む ・企業の業務概要 ・製品の生産管理技術 ・品質管理(QC)活動 ・その他 エンジニアとしての心構えなど		
見学者	機械電子工学科 4 年 (39 名)		
集合時間	12 : 45	解散時間	16 : 15
集合場所	現地	解散場所	現地
引率者 (〇代表)	〇森 幸男, 大杉 功, 米盛弘信		
緊急連絡先 (携帯電話等)	090-5437-9788 (森 携帯)		
交通機関	公共共通機関 (交通費は学生各自負担)		
注意事項等	・正装のこと ・集合時間厳守のこと		

(出典：教務部資料)

情報工学科 4 年次「情報工学実験 V」の校外見学資料

平成 24 年 10 月 04 日

保護者各位

サレジオ工業高等専門学校
校長 小島 知博

見学実施のお知らせ

学校教育の一環として、下記の通り見学会を実施いたしますのでお知らせいたします。科目別補講日に実施することになりました。ご迷惑をおかけしますが、見学会の趣旨をご理解の上、何卒ご協力をお願いいたします。

記

実施日	平成 24 年 10 月 11 日（木曜日）※科目別補講日		
見学先	セコム株式会社 I S 研究所 (http://www.secom.co.jp/is/index.html)		
見学内容	I T 技術を用いた最新のセキュリティシステム、認証システム、福祉システムの最新の研究成果に触れる。		
見学者	情報工学科 4 年 (35 名)		
集合時間	9:30	解散時間	12:00
集合場所	現地(セコム I S 研究所入り口)	解散場所	現地
引率者(〇代表)	〇小出 由起夫 清水 哲也		
交通機関	JR 中央線吉祥寺駅公園口 バス(吉 01~06 系統) NTT データビル前 下車。 JR 三鷹駅南口 バス(鷹 55.58 系統) 篠原病院入口 下車。		
注意事項等	現地までの往復交通費は自己負担となります。		

(出典：教務部資料)

(分析結果とその根拠理由)

各学科とも講義科目に偏重することなく、演習、実験、実習科目を配している。本校の準学士課程の教育目標である「実践力」という観点に沿って、また授業の目標を達成するために、少人数授業や対話・討論型授業などが行われており、学習指導法の工夫もなされている。しかし、講義、演習、実験、実習のバランスについては、全体的な調査が徹底されておらず、把握を始めたばかりの段階に留まっている。

一方で、どの学科も校外見学を取り入れており、最新の技術や実際の現場を見ることができるようになっている。

以上より、教育の目的に照らして、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。が、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスについては現状把握のための調査途中であり、今後の検討が必要である。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

2012年度よりシラバス様式を変更したため、シラバスの作成にあたっては、従来のシラバス作成マニュアルの配布に加えて、シラバス作成説明会(資料5-2-②-1)も実施して、適切な記載内容となるように注意を促している。説明会では、作成マニュアルに加えて、記入方法を明確にするために教務主事団が作成した実際のシラバスサンプルも合わせて資料として配布した。同資料は後日、非常勤講師も含めた全科目担当者に配布した。

科目担当者が作成したシラバス案は、準備学習や教育内容、達成目標や評価方法などが適切に記載されているかを、学科長などの部署長が確認することになっている(資料5-2-②-2)。

学期初めの教職員連絡会では、初回の授業でシラバスを配布し、口頭で説明を加える旨の指示を教務主事より発信している(資料5-2-②-3)。

シラバス様式変更に伴う説明会資料 (加筆修正版: 12/01/30)

自己点検本部
教務部

1. シラバス様式変更の目的

- 学科教育目標やJABEE基準との対応を記載する項目が必要である
- 単位時間ではなく実時間数での計算が求められている
- シラバスを活用した「準備学習」を促進する仕組み作りが求められている

2. 主な変更点

- 従来の「シラバスシステム」使用を一時的に中止する。
- 様式が確定するまで、MS-Excelでの作成および管理とする。
- 記入項目の一部をプルダウンによる選択入力とする。
- 新たに『授業形態の時間内訳』の項目を追加する。
- 従来の『到達目標』と『評価方法』の欄を広げ、詳細に記述できるようにする。
- 従来の『授業計画』欄を拡大し、授業計画と学習達成項目の関連を記述する。
- 従来の『コマ数』に加えて、実時間での『時間数』も合わせて記述する。

3. 作業日程

1. 1月30日(月)までに下記の場所に「シラバス雛形」を用意します。
(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【依頼】
2. 2月27日(月)までに下記の提出用フォルダにシラバス案を提出してください。
(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】
3. 複数クラスで横並び開講する場合でも、原則、クラスごとに別のファイルを作成してください。
ただし、1年生の混成学級については、例外的に学年で1つのシラバスで結構です。
シラバス案提出の際には、ファイル名を「クラス名_科目名_作成者.xls」としてください。

eg. 1年混成「現代社会」の場合	「1xx_現代社会_山館.xls」
1CS専門「情報工学概論」の場合	「1cs_情報工学概論_山野辺.xls」
4年選択必修「選択英語IV」の場合	「4xx_選択英語IV_野島.xls」
4-5年・選択B群「韓国語I」の場合	「4-5xx_韓国語I_石田.xls」
4. 選択科目D群で前期/後期に同一科目を提供する場合は、1つのシラバスで結構です。ただし、内容が異なる場合には、それぞれ別々のシラバスをご用意ください。
5. 同一科目内で実技と保健、また複数種目がある「体育」は、成績評価などの方法が明確になるよう、1つのシラバスにまとめてください。
6. AD科の科目で同一科目がコース別に提供されている場合には、科目名のあとに(G), (I), (P)の記号をつけて、別科目のシラバスを作成してください。(評価方法が異なるため、実質的な選択必修と判断)
7. 学科長は、3月中に学科担当のシラバスを確認してください。修正が必要な場合には、作成者に問い合わせの上で修正を依頼してください。
8. 時間割確定後に『オフィスアワー』『教育目標との対応』欄を追記してください。

- 9. 4月の授業開始第1週(4/9-4/13)の授業時にシラバスを印刷して学生に配布してください。
- 10. 4月16日(月)までにシラバス案を確定し、最終版を下記の提出用フォルダに保存してください。
(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】

4. シラバス作成上の留意点

開講年度	2012年度		
授業科目	対象学科 対象学年 開講期間 単位数		
英語名称	履修形態 講義 授業形態の時間内訳 (hour) 演習 実習		
担当教員	所属学科・職名 研究室 オフィスアワー メールアドレス		
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応	
授業概要			
到達目標			
授業方法			
教科書			
補助教材			
評価方法	学生自身が検算できるように算出方法や根拠項目を明記すること		
関連科目			
準備学習に関するアドバイス			

授業科目の名称は「教育課程表」と一致させること！

斜のかかったセルはプルダウンの項目から選択して記入

90分授業のコマ数ではなく、60分の時間数で換算記入

関門科目は「必修※」を選択してください

XYZ@salesio-sp.ac.jpのXYZ部分のみを記入

4行目のみ自由入力が可能。担当者が5名以上の場合、4行目に「他〇名」と記入

単位認定の際の「合格基準」となる到達度を記入してください。

学生が自分の評価点を計算できるように、できるだけ具体的で詳細に記載してください。

(出典：教務部資料)

シラバスの部署長チェックに関する資料

教務部 第057号
平成24年3月5日

■ 教務連絡 (★印はWeeklyフォルダ内にPDF資料があります。)

教務主事

【学生関連】

★ 在籍教一覧Ver.11 (H24/03/01現在)

【教員関連】

出張状況 (運営) 教務部 > 一般公開 > 「教務_H23出張等一覧.xls」を参照

【月間予定】

3月05日(月)	Weekly教職員連絡会 卒業・修了調書提出(担任→教務主事) (15:00締切) ※終日から変更!	<総合企画室> <教務部>
3月06日(火)	卒業・修了判定会議 1-2年及落調書提出(担任→教務主事) (終日)	<教務部> <教務部>
3月07日(水)	1-2年成績操行会議 3-4年及落調書提出(担任→教務主事) (終日)	<教務部> <教務部>
3月08日(木)	3-4年成績操行会議 5年成績通知書配布(教務→担任)	<教務部> <教務部>
3月09日(金)	及落判定会議 ★教務056_学年末の学籍異動手続きについて 現4年生の3月期認定試験申込み(15:00-16:30)	<教務部> <教務部・事務部>
3月10日(土)	新入生登校日/クラス分け試験	<プレテック>
3月12日(月)	レビュー会議 1-4年成績通知書配布(教務→担任) 教職員慰労会	<総合企画室> <教務部> <“宴会主事”>
3月15日(木)	5年成績通知書提出(担任→教務) (12:00締切)	<教務部>
3月16日(金)	卒業式予行 1-4年成績通知書提出(担任→教務) (12:00締切) 5年成績通知書配布(教務→担任)	<事務部> <教務部> <教務部>
3月19日(月)	卒業・修了式	<事務部>
3月21日(水)	終業式 1-4年成績通知書配布(教務→担任) 留年・退学確定報告(学科長→教務主事/教務学生課)	<学生部> <教務部> <教務部>

【依頼事項】

全教員>

- シラバス未提出の方は、大至急、ご提出をお願いします。
提出先：(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】
- 現4年生の3月期認定試験の申し出がありましたら、対応をお願いいたします。
実施期間は**3月12日(月)～21日(水)**で、認定報告は**3月21日(水) 17:00締切**です。
※ 実施詳細は、配布済の教務045号ならびに教務050号をご参照ください。

学科長>

- 学科配当科目のシラバス内容をご確認ください。**3月中**にお願いします。
- 卒業判定会議が終了したら、会議録をご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>卒業・修了判定会議2011
- 成績操行会議が終了したら、会議録をご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>学年末成績操行会議2011
- 及落判定会議が終了したら、会議録をご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>及落判定会議2011

学級担任>

- (4年のみ) 3月期認定試験申込み手続きについて、学生への周知をお願いします。
- (5年のみ) 卒業判定調書を**本日15:00まで**に所定のフォルダへのご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>卒業調書2011【提出】
- (1-2年) 及落判定調書を**3月6日(火)まで**に所定のフォルダへのご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>及落判定調書2011【提出】
- (3-4年) 及落判定調書を**3月7日(水)まで**に所定のフォルダへのご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>及落判定調書2011【提出】

以上

(出典：教務部資料)

初回授業でのシラバス配布指示に関する資料

教務部 第001号
平成24年4月9日

■ 教務連絡 (★印はWeeklyフォルダ内にPDF資料があります。)

教務主事

【学生関連】

- ★ 在籍一覧2011_Ver.12 (H24/03/31現在)
- ★ 在籍一覧2012_Ver.01 (H24/04/01現在)

【教員関連】

出張状況 (運営) 教務部 > 一般公開 > 教務_H24出張等一覧.xls を参照

【授業関連】

時間割表 (運営) 教務部 > 一般公開 > ♥時間割2012【正式版】120406.xls を参照

【月間予定】 ★教務_学年暦2012【暫定版】120403

4月09日(月)	Weekly教職員連絡会 授業開始	<総合企画室> <教務部>
4月10日(火)	通学路指導(～4/20まで)	<学生部>
4月11日(水)	新2年柔道着販売(第2回) 3-4年及落調書提出(担任→教務主事)(終日)	<事務部> <教務部>
4月14日(土)	情報処理技術者試験(春季) 教務部会, 学生会, EMC会議	<CS科> <教務部>
4月16日(月)	2012年度シラバス提出期限(17:00厳守) 学生総会 前期履修届提出	<教務部> <学生部/学友会> <専攻科>
4月21日(土)	新1年生親睦遠足	<プレテック>
4月23日(月)	Weekly教職員連絡会 4月期認定報告(12:00締切)	<総合企画室> <教務部>

【依頼事項】

全教員>

- 最初の授業時にシラバスを印刷・配布し、評価方法を含めた内容を丁寧に説明してください。
- シラバス内容に変更が生じた場合には、修正箇所について所属長の確認を得た上で、下記の所定フォルダに上書き保存してください。
提出先：(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】

- 4月期の認定解除のために認定試験を実施する方は、4月20日(金)までに実施し、各学科の教務担当へ結果をご報告ください。(今年度より、教務担当が学科分の報告を取りまとめて報告することになっています。)
- 時間割については、再三再四に亘って全教員宛に確認依頼をしてきました。もし万が一、不都合がありましたら、各科の教務担当まで至急ご指摘ください。

学科長および教務担当>

- 開講科目調査(第2回)の見直しおよび修正を4月14日(土)までをお願いします。
- 授業配当の見直しおよび修正を4月14日(土)までをお願いします。

(出典：教務部資料)

(分析結果とその根拠理由)

教務部および自己点検本部との協働で、シラバス作成のマニュアルとサンプルの配布、作成説明会の実施がされ、教育方法や内容、達成目標や評価方法の明示等、内容が適切に整備されるように指導がなされている。また作成したシラバスを部署長が確認することで、教育課程の編成趣旨から外れないようにするチェック体制を取っている。

一方で、事前に行う準備学習やシラバスを活用した学習支援については、一部教員の個人的な取り組みの域を出ず、組織的に十分な成果を挙げているとは言い難い。今後の検討が必要である。

以上より、教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容はほぼ適切に整備されている。しかし、事前に行う準備学習やシラバスを活用した学習支援などの検討課題は残されている。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

(観点に係る状況)

各学科とも、卒業研究はテーマ設定、計画立案、問題解決、口頭発表という一連のプロセスを通じて高専での学習を総合する高専教育の集大成であり、同時に創造性を育む教育であると位置付けている(資料5-2-③-1)。一方で、各学科とも、卒業研究以外の科目群の中でも、創造性を育む教育を実践している。その特徴的な取り組みの例を以下に挙げる。

デザイン学科/デザイン工学科では、4年次の応用デザイン実習Ⅰ(前出資料5-1-①-30)および5年次の応用デザイン実習Ⅱ(前出資料5-1-①-31)において、コンセプト立案からアイデア展開、最終プレゼンテーションまでを行うことで、デザインプロセスを実践的に身に付けながら創造性を育むことを狙っている。また産学官共同研究や学外デザインコンペティションの課題に取り組むことで、創造性教育の過程に実際的な社会的な評価を取り入れる工夫も図っている。

電気工学科では、1年次の工学基礎(資料5-2-③-2)において、学生自らが自由な発想で設計した電動カートを自分たちで製作して実際に搭乗運転までを行う取り組みを行っている。5～6名程度のグループごとに活動することで、電気に関する基礎知識を習得するだけでなく、豊かな想像力、コミュニケーション力、実現力の育成を狙っている。

機械電子工学科では、1～3年次の創造演習(資料5-2-③-3)と5年次の創造設計学(資料5-2-③-4)において、「問題の発見と解決する力の育成」から「価値を創造する力の育成」をコンセプトにした実習・演習・講義の流れを設計している。創造演習では、発想法を紹介して演習したり、PDCAサイクルを意識した製作実習を行う。創造設計学では、その集大成として価値の創造を行う体系的な技術管理手法であるVE(Value Engineering)の考え方を学び、演習を通じて体感する。

情報工学科では、4年次のプログラミング応用Ⅰ,Ⅱ(資料5-2-③-5)および5年次のプログラミング応用Ⅲ,Ⅳ(資料5-2-③-6)において、前者では全国高専プログラミングコンテストの競技部門に準じた課題、後者では自由部門に準じた課題を設定してグループでの共同開発に取り組む。週報や設計資料の提出などによって、ソフトウェア開発過程を体験的に学習するとともに、スケジュール管理や分担調整などのプロジェクトマネジメントを体験する。

こうした各学科の取り組みは、2012年度のFD研修会(資料5-2-③-7)で、全教員に向けて紹介され、学内での共有化が図られている。

インターンシップについては、前出の資料(資料5-1-②-6～7)に示したとおり、キャリア教育の一環として活用が図られている。

開講年度	2012年度			
授業科目	対象学科	対象学年	開講期間	単位数
卒業研究	デザイン工学科	5年	通年	8
英語名称	履修形態	授業総時の時間内訳 (hour)		
Graduation Project	必修 ※	講義	演習	実習
				180
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
竹内 明	デザイン学科・准教授	プロダクト	月/火/水/木	takeuchi
小西 均	デザイン学科・教授	インテリア	月/火/木/金	konishi
菅原 由佳	デザイン学科・講師	グラフィック	月/火/木/金	sugahara
その他				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応		
AD-3, AD-4, AD-5, AD-6		A2, A3, A4, A5, C1, C2, D1, D2, D3		
授業概要	各コースの基本的な考え方に沿って、各々の学生自身が自主的にテーマ設定し。調査/分析/計画立案/デザイン開発/実証検証した上で、その得られた成果をまとめ報告するものである。 授業時間は週5時限に加え、各自の自学自習時間を前提として、必要単位に見合う研究成果をだすことが前提			
到達目標	デザイン学科学習教育目標： デザインに必要なコンセプト構築力、設計能力を身につけることができる。 デザインが社会や環境に及ぼす影響について理解し、常に使い手の立場に立ったものづくりをすることができる。 生活文化の固有性や多様な価値観を理解したうえで、デザイン活動に活かすことができる。			
授業方法	各自に担当教員を配置し個別指導のもとに進める。節目ごとにレポート提出/プレゼンを行うこと。 卒業研究の授業時間は、指導教員に対してそれまでの進捗を報告し、次の進め方を相談、卒業研究授業以外にもタイムリーに担当教員に進捗連絡すること。 中間審査/モデル審査/最終審査は全協で対応する。			
教科書	デザイン技術、デザイン材料、製図			
補助教材				
評価方法	デザイン学科全教員による合否判定 (以下評価ポイント例) 学生自身が検算できるように算出方法や根拠項目を明記すること 中間審査：①調査密度 ②分析深度 ③コンセプト適格性 ④アイデア展開の幅広さ ⑤検証内容 ⑥最終案方向 モデル審査：①検証計画とモデルの整合性 ②モデル完成度 最終審査：①最終提案完成度 ②客観的な検証 ③検証結果の分析			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	授業時間は、学生が担当教員に対してタイムリーな報告/連絡/相談をするための時間として、有効に活用する			

資料5-2-③-1 続き

授業計画			
コマ数	時間数		授業項目および学習達成項目
1	1.5	ガイダンス	卒研の日程と進め方について解説
3	4.5	基礎調査	コース研究室毎の基本テーマに対する基礎調査をする
4	6	テーマ設定	個人テーマを設定する
4	6	調査分析	テーマ周辺の市場調査を行い、分析結果をまとめる。
4	6	コンセプト立案	調査分析結果に基づいてコンセプトを設定する。
12	18	アイデア展開	コンセプトに基づくアイデア展開をする。
4	6	コンセプト&アイデア提案	プレゼンテーションする
12	18	デザイン展開	さまざまなアプローチから具体的なアイデア展開をおこなう。
4	6	◆ デザイン展開中間報告	プレゼンテーション 7/30中間審査
12	18	デザイン試作	さまざまなアイデアを具体化するための試作を行う。
4	6	0次検証	デザイン試作品を使った検証を行う。
12	18	展示・検証モデル制作	0次検証結果を踏まえて、展示モデルを制作する
4	6	◆ 1次検証	最終提案に結びつけるための1次検証を行う。 青英祭にて
4	6	1次検証結果報告/デザイン方向提案	プレゼンテーション
12	18	最終モデル設計 制作	デザイン決定のためのモデル制作
4	6	◆ デザイン決定	プレゼンテーション 12/26 修了審査
4	6	最終検証	第三者による客観的検証
8	12	分析とモデル修正	最終検証を分析しモデルを修正する
4	6	卒研概要	卒研の概要を文章化し、所定のフォーマットで提出
4	6	プレゼン準備	検証結果などパワーポイントにまとめる
0	0	◆ 最終卒研審査	可否を決定するための最終プレゼン/全教員による審査を行う。
0	0	展示会	学外において作品展示会を開催
合計			
120	180		
コマ	時間		

(出典：シラバス 2012, p. 156)

資料 5-2-③-1 続き

開講年度	2012年度				
授業科目		対象学科	対象学年	開講期間	単位数
卒業研究		電気工学科	5年	通年	8
英語名称		履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Graduation Research		必修	講義	演習	実験
			180		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
加藤 雅彦	電気工学科・教授	312-214	月曜15:30-16:00	kato-m	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
EE-1, EE-2, EE-3, EE-4, EE-5		B-1, B-2, B-3, B-4, C-1, C-2, D-1, D-2, D-3			
授業概要	高専教育の集大成として実施するものであり、それぞれが自主的にテーマを選定し、計画立案し、まとめて研究論文とするものである。ここでは学生個人の自主・創造・実践・分析・解析・まとめ・発表までを総合的に行う。				
到達目標	<input type="checkbox"/> 研究計画を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 問題解決に向かって継続的に研究することができる。 <input type="checkbox"/> 科学的・論理的に文書を書くことができる。 <input type="checkbox"/> わかりやすく発表することができる。				
授業方法	授業開始時は教室に集合し、諸注意及び伝達事項確認後に各研究室に分かれて卒業研究を実施する。各自の卒業研究進行状態の確認のために、年2回中間発表を実施する。学年末に卒業論文としてまとめ、発表を行う。				
教科書					
補助教材					
評価方法	<p>学生自身が検算できるように算出方法や機数項目を明記すること</p> <p>指示された報告書を全て提出していることが評価の前提となる。評価は電気工学科卒研担当教員全員で行い、総合評価は(①論文内容 ②発表 ③理解度 ④研究態度 ⑤創造性)を総合的に判断して、指導教員(60%) + その他の教員の平均(40%)にて評価する。</p>				
関連科目					
準備学習に関するアドバイス	卒業研究は、週1回の授業時間内だけでは到底終わりませんので、毎日研究室に顔を出し、自主的にスケジュールを立てて、研究を実施していくこと。				

資料5-2-③-1 続き

		授業計画	
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目	
		ガイダンス	<input type="checkbox"/> 卒業研究の進め方、年間スケジュール、評価について理解する。
		テーマ・概要・年間計画の提出	<input type="checkbox"/> 年間計画を立てることができる。
		第1回中間発表	<input type="checkbox"/> 研究背景、研究目的、研究計画を中心にパワーポイントで作成し、口頭発表することができる。
		育英祭卒研概要の提出	<input type="checkbox"/> 中間報告の概要を文書で作成することができる。
		育英祭パネル作成・展示・説明	<input type="checkbox"/> 中間報告のパネルを作成し、ポスター発表することができる。
		第2回中間発表	<input type="checkbox"/> 研究計画に沿って得られた結果、今後の計画を中心にパワーポイントで作成し、口頭発表することができる。
		卒業論文・卒研概要の提出	<input type="checkbox"/> 背景、目的、方法、結果、考察、結論の順に科学的・論理的に記述された論文を書くことができる。
		卒研発表	<input type="checkbox"/> パワーポイントでわかりやすく口頭発表し、質疑に対する的確に回答することができる。
合計			
120 コマ	180 時間		

(出典：シラバス 2012, p. 199)

資料5-2-③-1 続き

開講年度	2012年度			
授業科目	対象学科	対象学年	開講期間	単位数
卒業研究	機械電子工学科	5年	通年	8
英語名称	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Graduation Research	必修	講義	演習	実習
				180
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
高橋 孝	機械電子工学科・教授	220	火曜17:00～18:00	takashi
森 幸男	機械電子工学科・教授	303	金曜以外	mori
大杉 功	機械電子工学科・教授	210	火曜以外	ohsugi
富田, 吉田, 吉野, 米盛, 他学科教員2名				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応		
ME-1, ME-2, ME-3, ME-4, ME-5, ME-6, ME-7		基準1. (1)の(a), (b), (c), (d), (f), (g), (h) 分野別要件1, (2)のa, c)		
授業概要	卒業研究は教員の下で少人数で実施する研究生の高い授業科目である。各教員の専門分野に基づいたテーマを選択し、学生自らがこれまでに学んだ専門の知識を利用して問題解決に取り組み、その成果を論文として取りまとめ、口頭発表する。独創性の涵養と専門知識の更なる向上を期待している。			
到達目標	<input type="checkbox"/> テーマに沿って目標を設定することができる <input type="checkbox"/> 研究プランを作成し、遂行することができる <input type="checkbox"/> 得られた成果を評価し、改善策を考えることができる <input type="checkbox"/> 得られた成果を論文としてまとめることができる <input type="checkbox"/> 得られた成果を口頭によって発表することができる			
授業方法	各担当教員の研究室において、学生が主体となって問題解決に取り組む。研究室内での輪講や学外組織との交流会を行うこともある。			
教科書	なし			
補助教材	特になし			
評価方法	<p>学生自身が検算できるように算出方法や機数項目を明記すること</p> <p>研究態度、論文内容、口頭発表内容を複数の教員で審査し総合的に評価する</p>			
関連科目	すべての専門科目			
準備学習に関するアドバイス	単位時間数は8単位科目であるが、時間割内では5時間分しか確保していない。不足の3時間分は学生が自ら積極的に活動し、補うことを期待しているので、がんばってほしい。			

資料 5-2-③-1 続き

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
120	180	<p>各研究室での卒業研究活動</p> <p>電子材料研究室(大杉) 熱電半導体の基礎物性および応用に関する研究を行っている。</p> <p>メカトロニクス研究室(高橋) メカトロニクス関連テーマを中心に研究を行っている。</p> <p>制御システム研究室(富田) 電子機器が関係するシステムについて制御の観点から捉えた研究を行っている。</p> <p>信号処理研究室(森) 音響や画像、生体に関する信号処理の研究を行っている。 また教育工学として創造性教育、e-learning開発等を行っている。</p> <p>情報通信工学研究室(吉田) 位置情報を利用したセンサネットワークに関する研究を行っている。</p> <p>電子通信研究室(吉野) 移動通信に関するシステム及び電波伝搬の基本技術について研究を行っている。また教育工学、感性工学からのアプローチも着手している。</p> <p>産業応用研究室(米盛) パワーエレクトロニクスの応用として、IHクッキングヒータと太陽光発電システムに関する研究を行っている。</p> <p>主要日程 11月3日-11月4日 文化祭 中間発表(ポスター形式) 2月19日 概要提出 2月20日 論文提出 2月21日-2月25日 卒研審査</p>
合計		
120	180	
コマ	時間	

(出典：シラバス 2012, p. 239)

資料 5-2-③-1 続き

開講年度	2012年度								
授業科目	卒業研究	対象学科	情報工学科	対象学年	5年	開講期間	通年	単位数	8
英語名称	Graduation Research & Thesis	履修形態	必修	授業形態の時間内訳 (hour)			実習	180	
				講義	演習	実験			
担当教員	島川 陽一	所属学科・職名	情報工学科・准教授	研究室	404	オフィスアワー	火12:20-13:00	メールアドレス	simakawa
	山野邊 基雄		情報工学科・教授		402				yamanobe
	吉村 晋		情報工学科・教授		401				yosimura
	内田、杉本、大島、清水、小出								
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応				JABEEプログラムの学習・教育目標との対応					
CS-7, CS-8, CS-9, CS-10, CS-11				B-1, B-2, B-3, D-1, D-2, D-3, C-3, C-5					
授業概要	卒業研究は指導教官のもとで個別のテーマを実施することによる専門性の高い実習科目である。各学生のテーマは指導教官の専門分野において設定され、教官の監督のもと学生が自主的に問題解決に取り組む。最終的にはこの成果を論文にまとめ口頭発表する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って目標を設定することができる。 ・研究計画を指導教官の監督のもと作成し、遂行することができる。 ・得られた結果を評価し、問題点を分析することができる。 ・得られた成果を論文としてまとめることができる。 ・得られた成果を口頭で発表することができる。 								
授業方法	各指導教員の研究室もしくは指定された研究室で学生が主体的に問題解決に取り組む。学校内外での研究会に出席して知見を広げることもできる。								
教科書	なし								
補助教材	なし								
評価方法	<p>学生自身が検算できるように算出方法や機数項目を明記すること</p> <p>研究態度、口頭発表の内容、論文の内容から審査して総合的に評価する。</p>								
関連科目	全科目								
準備学習に関するアドバイス	単位時間数は8であるが時間割内では5時間しか割り当てられてない。残りの不足時間は自主的に時間を確保して補ってもらいたい。								

資料 5-2-③-1 続き

		授業計画	
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目	
120	180	各研究室の概要	
		計算システム研究室（内田）	コンピュータ・ネットワーク・オペレーティングシステムから構成される「計算システム」を研究対象としている。
		制御情報研究室（太島）	制御情報に関連する分野の研究を行っている。
		アプリケーション開発研究室（小出）	アプリケーションプログラムの設計・開発を対象とした研究を行っている。
		量子情報マルチメディア研究室（清水）	量子暗号・量子信号検出理論を中心に研究している。そのほかに最近では情報マルチメディアの分野に興味をもって研究している。
		数理モデル研究室（島川）	オペレーションズ・リサーチを中心に地理情報システム、応用統計の分野の研究をしている。適用事例研究を特に重視している。
		映像メディア研究室（杉本）	映像芸術学の視点から映像メディアを研究している。
		物理・情報研究室（山野辺）	指導教員の専門は理論物理学である。力学系のシミュレーションや解析を行っている。
		知能ソフトウェア工学研究室（吉村）	知能ソフトウェア工学（ソフトウェア開発・学習の知的サポートシステム）および人工知能の応用（事例ベース推論・エージェント志向システム）、教育工学分野の研究を行っている。
		卒研の主要スケジュール	第1回中間発表（発表形式）夏休み直前 第2回中間発表（ポスター形式）文化祭 2月19日 概要提出 2月20日 論文提出 2月21日～25日 本審査
合計			
120	180		
コマ	時間		

(出典：シラバス 2012, p. 311)

開講年度	2012年度						
授業科目	電気工学科	対象学年	1年	開講期間	通年	単位数	3
工学基礎	電気工学科	1年	通年	3			
英語名称	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)					
Introduction to Electrical Engineering	必修	講義	12.5	3.5	12	17	
		演習					
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス			
齊藤 純	電気工学科・講師	215	木曜日の放課後	saitoj			
山下 幸三	電気工学科・助教	218	火曜・木曜放課後	k-yamashita			
水谷 浩	電気工学科・教授	217	授業日放課後	mizutani			
藤野 裕之							
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応					
EE-1, EE-2, EE-3, EE-4							
授業概要	電気工学の基礎的な現象を講義と実験を通してその理解を深めると共に、物理量を測定するための方法や技術者としての技能と技術を習得する。また、測定結果を技術的にわかりやすくまとめ、表現する方法を学ぶ。						
到達目標	<input type="checkbox"/> 電気工学の基礎的な現象を理解する。 <input type="checkbox"/> 電圧や電流などの基本的な電気の現象、物理量を測定することができる。 <input type="checkbox"/> レポートの書式に従って測定結果を技術的にわかりやすくまとめ、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 自分たちが製作した成果物について説明、発表をすることができる。						
授業方法	必要な基本的知識を講義で学習し、繰り返し演習を行う。4つのテーマの製作実習や測定実験を行い、これについてレポート提出する。年1回の校外見学、卒業研究発表の聴講を行いレポートにまとめる。						
教科書	授業中に配布する資料						
補助教材	「初めて学ぶ電気電子の基礎」加地正義、角正之共著（オーム社）						
評価方法	<p>レポートおよび指示された提出物を全て提出することが評価の前提となる。</p> <p>1年間を4区間にわけ、総合評価は区間評価の単純平均とする。</p> <p>定期試験(60%)＋課題・報告書(提出期限・内容)(40%)で評価する。授業態度に応じて10%の範囲で減点する。</p> <p>※レポートが一通でも未提出の場合は不合格になるので期日厳守で提出すること。</p> <p>※本科目は学年修了要件科目である。</p>						
学生自身が 検算できる ように算出 方法や機軸 項目を明記 すること							
関連科目	専門教科全般						
準備学習に 関する アドバイス	<p>課題の未提出がある場合は評価が不可になるので必ず期日を守って提出すること。</p> <p>電気工学科1年生の関連科目（最終評価が不合格の場合は留年になる）なので注意すること。</p> <p>回路の基礎を繰り返し講義・演習するので、その内容をしっかり身に付けるようにすること。</p> <p>基本的な電気現象の測定方法、レポートの書き方を身に付けること。</p>						

資料 5-2-③-2 続き

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
0.5	0.75	授業ガイダンス・工具の使用方法 □年間授業計画、評価方法、工具の使用方法を理解できる。
1	1.5	リード線の製作・テスター製作 □作業指示に従って回路製作ができる。
1.5	2.25	「LED点灯回路」の製作・測定実験 □LED点灯回路が作成でき、テスターによる測定ができる。
0.5	0.75	レポート指導 □レポートの書式が理解できる。[レポート提出]
1.5	2.25	直流回路 演習 □直流回路の基本的な計算ができる。
5	7.5	「調光器」の製作 □調光器の製作ができる。
0.5	0.75	レポート指導 □レポートの書式・表現方法が理解できる。[レポート提出]
0.5	0.75	中間試験 □前期中間区間における内容の理解を確認できる。
0.5	0.75	中間試験解説 □前期中間区間での理解不十分だった箇所を確認、理解できる。
1.5	2.25	直流回路 演習 □直流回路の基本的な計算ができる。
6.5	9.75	「直流電源回路」の製作 □直流電源回路の製作ができる。
0.5	0.75	レポート指導 □レポートの書式・表現方法が理解できる。[レポート提出]
0.5	0.75	期末試験 □前期末区間における内容の理解を確認できる。
1	1.5	学習指導期間 □前期末区間での理解不十分だった箇所を確認、理解できる。
0.5	0.75	「電動カートの製作」ガイダンス □電動カート製作について授業計画を理解できる。
1	1.5	直流回路 演習 □直流回路の基本的な計算ができる。
3.5	5.25	グループ話し合い、設計 □グループでの話し合い・設計をすることができる。
1	1.5	発表(1) □自分たちが作るようとしている物を説明することができる。
0.5	0.75	工作機械の使用法説明 □工作機械の使用法が理解でき、正しく使用することができる。
4.5	6.75	「電動カート」の製作 □電動カートを製作することができる。
0.5	0.75	中間試験 □後期中間区間における内容の理解を確認できる。
0.5	0.75	中間試験解説 □後期中間区間での理解不十分だった箇所を確認、理解できる。
1.5	2.25	直流回路 演習 □直流回路の基本的な計算ができる。
5.5	8.25	電動カートの製作 □電動カートを製作することができる。
1	1.5	試験走行 □製作した電動カートの走行消費電力を測定することができる。
0.5	0.75	レポート指導 □レポートの書式・表現方法が理解できる。[レポート提出]
0.5	0.75	期末試験 □学年末区間における内容の理解を確認できる。
1	1.5	学習指導期間 □学年末区間での理解不十分だった箇所を確認、理解できる。
0.5	0.75	発表(2) □製作したカートについてまとめて説明することができる。
1	1.5	卒業研究の聴講 □聴講した内容をまとめることができる。
		校外見学 □電気工学の知識を広げ、見学内容をまとめることができる。
合計	45	67.5
コマ	時間	時間

(出典：シラバス 2012, p. 163)

資料 5-2-③-3 続き

開講年度	2012年度									
授業科目	創造演習	対象学科	機械電子工学科	対象学年	1年	開講期間	通年	単位数	3	
英語名称	Practice for Creative Thinking	履修形態	必修	講義	10	授業形態の時間内訳 (hour)				
				演習		実験	5	実習	52.5	
担当教員	平岡 一則	所属学科・職名	機械電子工学科・特任教授	研究室	202室	オフィスアワー	出勤日はいつでも可	メールアドレス	hiraoka	
	稲毛 達明		機械電子工学科・助教		303室		出勤日はいつでも可		inage	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応					JABEEプログラムの学習・教育目標との対応					
	ME-2, ME-5									
授業概要	発想、設計、ものづくり、テストラン、試合、発表会、報告書作成という流れの中で、随時ディスカッションを行う。PDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを基本に据えた創造活動を通して、自分が発想したことを実現する強い意志と計画力、およびそれを他者に伝えるコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。									
到達目標	<input type="checkbox"/> 与えられた条件の中で発想することができる。 <input type="checkbox"/> 考えたことを設計書などの文書・図面にすることができる。 <input type="checkbox"/> 製作工程表が作成でき、仕事量の見積もり、日程配分およびグループ内で仕事配分が出来る。 <input type="checkbox"/> 自己の考えや仕事を文や図表にまとめ、相手に伝えるコミュニケーション能力が身につく。 <input type="checkbox"/> 専門への興味が出てくる。									
授業方法	主として実習形態で実施する。この授業では、出来上がった作品の優劣よりも、製作プロセスでの発想とコミュニケーション、および報告を大事にする。									
教科書	担当教員作成のプリント教材を使用									
補助教材	なし									
評価方法	<p>前期は競争ロボットで評価する。</p> <p>①ロボットの出来映え(競技大会成績およびパフォーマンス) ②発表会での態度と内容 ③報告書類の質と量 上記3点を均等に評価する。</p> <p>後期はムードランプと相撲ロボットで評価する。評価方法は、前期と同じである。</p> <p>最終評価点は前後期および担当教員の総平均とする。</p> <p>60点以上で合格とするが、作品や報告書を提出しなかった者は不合格になることがある。</p>									
関連科目	工学基礎、表現									
準備学習に関するアドバイス	じっくり考え、人の話を聞き、意見を出し合うことが重要である。また、作業を計画的に進めることも重要である。いい物を考えても、期限までに完成しないと評価は0点である。									

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
6	9	総合ガイダンス、自己紹介、講義 <input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明 <input type="checkbox"/> 高専の特徴説明、機械電子工学科の紹介 <input type="checkbox"/> 自己紹介 <input type="checkbox"/> 発想練習（ブレインストーミング）
9	13.5	競争ロボットの製作 <input type="checkbox"/> 解説、ルール・制約条件説明 <input type="checkbox"/> 発想、設計（Plan） <input type="checkbox"/> 製作・テストラン（Do） <input type="checkbox"/> 問題点の抽出・改善（Check, Action） <input type="checkbox"/> 改良・テストラン（オープン戦）・試合 <input type="checkbox"/> まとめ、発表、報告書提出（Check）
15	22.5	LED「ドラム」(学園祭展示)の製作 <input type="checkbox"/> 解説、ルール・制約条件説明、LEDの使い方実験 <input type="checkbox"/> アクリル板加工の練習（升の作成） <input type="checkbox"/> 発想、設計、紙による試作・評価、工程表（Plan） <input type="checkbox"/> 製作、随時手直し（Do） <input type="checkbox"/> 宵祭展示 <input type="checkbox"/> 発表会、報告書提出（Check）
12	18	相撲ロボットをグループで製作 <input type="checkbox"/> 解説、ルール・制約条件説明、グループ分け発表 <input type="checkbox"/> 個人の発想、グループの発想、役割分担、設計（Plan） <input type="checkbox"/> 工程表作成（早く、正確に、無駄なく）（Plan） <input type="checkbox"/> 製作、テストラン（オープン戦）（Do, Check） <input type="checkbox"/> 試合 <input type="checkbox"/> 発表会、報告書提出（個人、グループ）（Check）
3	4.5	工場見学 メカトロニクス関連の企業や施設を見学し、視野を広げる
合計	45 コマ	67.5 時間

資料 5-2-③-3 続き

開講年度	2012年度				
授業科目	対象学科	対象学年	開講期間	単位数	
創造演習	機械電子工学科	2年	通年	2	
英語名称	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)			
Practice for Creative Thinking	必修	講義	実習	実習	実習
		15	30		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	金曜以外	tomita@	
吉田 将司	機械電子工学科・講師	303	水曜午前	yoshida@	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応			JABEEプログラムの学習・教育目標との対応		
授業概要	ものづくりを通して、グループ作業、問題の評価と解決策を科学的に行い、PDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを基本に据えた創造活動を体験的に理解することで、今後の専門分野に対する取り組み方や、工学的センスを身に付けることを目標とする。				
到達目標	PDCAサイクルを実施できる。PDCAを意識してものづくりを実行できる。数値では表せない問題を定量的に表現する技術の概念を身につける。疑問点に関して解答を生み出すアイデアを発想することができる。他人と意見交換ができる。自分の行った作業・結果を記録することができ、他人にわかりやすく説明することができる。				
授業方法	主として実習形態で実施する。PDCAを意識的に実施し、グループ作業も行う。				
教科書	コクヨの1分間プレゼンテーション、中経出版、下地 寛也 著				
補助教材					
評価方法	<p>前期と後期の2回に分けて評価する。 総合成績はそれらの平均とする。 各区間の評価は下記配分で算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の内容(30%) ・ 授業参加度(振り返りノートで測定)(40%) ・ 定型報告書の内容(30%) <p>学生自身が 検算できる ように算出 方法や概数 項目を明記 すること</p> <p>作品や報告書が提出できなかった者は不合格となる。 必要に応じて提出物の不備について指導を行う。 また、振り返りノートを忘れたり提出できないときは減点される。</p>				
関連科目	工学基礎、表現、電子計算機、電子工学実験				
準備学習に関する アドバイス	1年次の創造演習の延長であるが、意識してPDCAサイクル活動につとめること。グループ作業では役割を確実に果たすこと。自発的な行動を要する授業であるので、メリハリある行動で参加すること。振り返りノートを配布するので指示された項目について、十分に振り返って記載を行うこと。				

資料 5-2-③-3 続き

授業計画			
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目	
1	1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 創造活動は知識と経験の解体結合であることを理解する。
1	1.5	レゴ・マインドストームの復習 レゴロボグランプリによる創造活動	
2	3	課題「規定距離走行競技」	<input type="checkbox"/> 互いの役割を意識してグループ作業を行うことができる。
2	3	課題「スラローム走行」	<input type="checkbox"/> メンバーのアイデアを聞くことができる。
2	3	課題「円を描く」	
2	3	課題「車庫入れ」	
2	3	グランプリ結果報告会	
6	9	課題「迷路脱出」 機能分析 機能系統図の作成 ブレインストーミングの実施 アイデアの発散収束 アイデアの取捨選択 グランプリ	<input type="checkbox"/> 機能を抽出できる <input type="checkbox"/> 機能を整理できる <input type="checkbox"/> 課題を設定できる <input type="checkbox"/> アイデアの発散作業ができる <input type="checkbox"/> アイデアを伝えることができる <input type="checkbox"/> アイデアの洗練を行うことができる <input type="checkbox"/> ブレインストーミングができる
5	7.5	課題「迷路脱出マシンの洗練」 機能の評価 機能向上の検討 ブレインストーミングの実施 アイデアの発散収束 アイデアの取捨選択 展示資料作成 文化祭にてグランプリ	<input type="checkbox"/> 機能系統図をまとめることができる <input type="checkbox"/> 機能評価ができる <input type="checkbox"/> アイデアの評価ができる
6	9	課題「レゴを使った生産管理」 実作業から検討を行う作業 振り返り	<input type="checkbox"/> PDCAサイクルの各フェーズを説明できる <input type="checkbox"/> PDCAサイクルによる改善作業ができる
1	1.5	1年間の振り返り	
合計	30	45	
コマ	時間		

(出典：シラバス 2012, p. 209)

資料5-2-③-3 続き

開講年度	2012年度								
授業科目	創造演習	対象学科	機械電子工学科	対象学年	3年	開講期間	通年	単位数	2
英語名称	Practice for Creative Thinking	履修形態	必修	講義	22.5	授業形態の時間内訳 (hour)	演習	22.5	実習
担当教員	米盛 弘信 森 幸男	所属学科・職名	機械電子工学科・助教 機械電子工学科・教授	研究室	304 303	オフィスアワー	放課後 放課後	メールアドレス	yonemori mori
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応					JABEEプログラムの学習・教育目標との対応				
ME-4、ME-7									
授業概要	【製作】機械電子工学実験とタイアップして自律制御ロボット「落ちない君」の製作を行う。単純に製作するだけでなく、PDCAサイクルを意識して座学-製作-動作確認-動作改善の実習を行う。 【座学】品質管理(QC)やQCに用いられる科学的手法を理解する。								
到達目標	<input type="checkbox"/> PDCAを意識して“ものづくり”ができる。 <input type="checkbox"/> 製作物の各要素について動作を説明できる。 <input type="checkbox"/> 今以上に知識が欲しいと感じることができる。 <input type="checkbox"/> 指示された作業を制約条件を意識して計画通りに行動できる。 <input type="checkbox"/> 過去に学んだ経験や知識を発展させることができる。 <input type="checkbox"/> 問題を分析し、仮説を立てて検討することができる。 <input type="checkbox"/> アイディアを発想し、適切に取捨選択できる。								
授業方法	【製作】製作に必要な知識を教授してから各自で製作を行う。製作後は、各自で動作チェック⇒不良箇所の修正⇒試走⇒動作改善等を行う。【座学】座学を中心として品質管理に関する知識を教授する。前期後期共に振り返りノートを作成し、毎回の授業で理解したこと、作業内容をまとめる。								
補助教材	【製作】自作プリント、【座学】内田治：「品質管理の基本」、日経文庫								
評価方法	<p>学生自身が検算できるように算出方法を機軸項目を明記すること</p> <p>【製作】試験(50%)+振り返りノートの内容(20%)+作品・課題達成度(20%)+試合結果(10%)で評価を行う。 【座学】試験(50%)+振り返りノートの内容(30%)+小テスト他(20%)とする。 【総合評価】学年末評価は前期末評価と後期末評価の単純平均とする。</p>								
関連科目	工学基礎、機械電子工学実験、創造演習、電気回路、電子回路、表現、電子計算機、機械加工								
準備学習に関するアドバイス	製作時間は個人差があるのでスケジュールから遅延しそうなときは授業時間だけでなく放課後等を活用して自主的に作業を行うこと。								

資料 5-2-③-3 続き

コマ数		時間数	授業計画	授業項目および学習達成項目
0.5	0.75		総合ガイダンス	□年間スケジュールを理解できる。
0.5	0.75		落ちない君のブロック図	□落ちない君の製作手順を理解できる。
1	1.5		各基板の設計・動作説明①	□位置センサと色センサ、電源回路を理解できる。
1	1.5		各基板の設計・動作説明②	□駆動回路とギヤ比を理解できる。
1	1.5		ギヤBOX組み立て	□ギヤBOXの組み立てができる。
1	1.5		接続ケーブル製作	□各自で端子の圧着作業ができる。
1	1.5		動作パターン製作	□ワークシートを使用して動作パターンを作成できる。
1	1.5		PICマイコンの説明	□Wレジスタ、ファイルレジスタを理解できる。
1	1.5		基本プログラムの説明	□各自で書き換える箇所を理解できる。
1	1.5		各基板の動作チェックと特性測定①	□位置センサの動作確認ができ、報告書が書ける。
1	1.5		各基板の動作チェックと特性測定②	□色センサの動作確認ができ、報告書が書ける。
1	1.5		各基板の動作チェックと特性測定③	□駆動回路、電源回路の動作確認ができ、報告書が書ける。
1	1.5		ロボットの組み立て	□ギヤBOXと各基板を配線できる。
1	1.5		ロボットの動作チェック	□配線後、試走・回路修理ができる。
0.5	0.75		前期末試験	□前期期間における理解の確認ができる。
0.5	0.75		試験解答	□前期期間における理解不足箇所を把握し、補充できる。
0.5	0.75		ロボットの動作チェック	□試走・回路修理ができる。
1	1.5		試走・改良①	□回路調整、PICのプログラム修正ができる。
1	1.5		試走・改良②	□回路調整、PICのプログラム修正ができる。
1	1.5		試走・改良③	□回路調整、PICのプログラム修正ができる。
1	1.5		予選リーグ大会①（前半戦）	□Aリーグベスト4（競技時間2分）を実施し、成果を発揮できる。
1	1.5		予選リーグ大会②（後半戦）	□Bリーグベスト4（競技時間2分）を実施し、成果を発揮できる。
			本戦・敗者復活戦：育英祭イベント	□本戦+敗者復活3位決定戦を実施し、成果を発揮できる。
			【課題】製作のまとめ	□製作の総合報告書作成を作成し、達成度を確認できる。
1	1.5		QC的問題解決	□品質、品質管理、品質優先の考え方を理解できる。
1	1.5		管理活動、仕事の進め方	□維持活動、改善活動、仕事の進め方を理解できる。
1	1.5		重点指向、標準化	□改善とQCストーリー、重点指向、標準化、検査を理解できる。
1	1.5		工程、データ解析	□工程、事実とデータに基づく判断を理解できる。
1	1.5		QC 7つ道具（1）	□パレート図、特性要因図、ヒストグラムを理解できる。
1	1.5		QC 7つ道具（2）	□グラフ、チェックシート、散布、管理図、層別を理解できる。
1	1.5		製品づくりの心構え（1）	□ほうれんそう、5WH、三現主義、5ゲン主義を理解できる。
1	1.5		製品づくりの心構え（2）	□マナー、5Sを理解できる。
1	1.5		安全衛生活動（1）	□安全衛生を理解できる。
0.5	0.75		学年末試験	□後期期間における理解の確認ができる。
0.2	0.3		試験解答	□後期期間における理解不足箇所を把握し、補充できる。
0.8	1.2		安全衛生活動（2）	□安全衛生活動を実行できる。
合計				
30	45			
コマ	時間			

(出典：シラバス 2012, p. 217)

開講年度	2012年度											
授業科目	創造設計学	対象学科	機械電子工学科	対象学年	5年	開講期間	通年	単位数	2			
英語名称	Creative Design Engineering	履修形態	必修	講義	15	授業形態の時間内訳 (hour)	演習	30	実験		実習	
担当教員	森 幸男 富田 雅史	所属学科・職名	機械電子工学科・教授 機械電子工学科・准教授	研究室	303 303	オフィスアワー	金曜以外 金曜以外	メールアドレス	mori tomita			
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応					JABEEプログラムの学習・教育目標との対応							
ME-2 チームワーク, ME-7 討論・論理的思考					基準1.(1)の(f), (h) 分野別要件1.(2)のb)							
授業概要	1~3年において展開してきた創造演習に対する集大成である。体系的な手順により価値の創造を行うVE(Value Engineering)の考え方を学び、チーム活動の進め方を演習を通して体感する。											
到達目標	<input type="checkbox"/> (基礎力) VEリーダーのもとにVE活動ができる。 g~v, z <input type="checkbox"/> (基礎力) VEの基本・詳細ステップが理解できる。 a~v, z <input type="checkbox"/> (基礎力) マネジメント思考が理解できる。 w~y <input type="checkbox"/> (分析・抽出力) 問題点を明らかにし、仮説を立てて検討できる。 g~v, z <input type="checkbox"/> (発展性) 過去に学んだ経験・知識を発展させ、最後まであきらめずにやり抜ける。 g~v, z <input type="checkbox"/> (討論・論理的思考) アイディアを発散し、適切に取捨選択できる。 g~v, z <input type="checkbox"/> (チームワーク) 制約条件を意識し、メンバーとともに計画通りに行動できる。 g~v, z											
授業方法	座学および演習により教授する。適宜課題を課し提出を求める。											
教科書	はじめてのVE, 土屋裕著, 日本バリュー・エンジニアリング協会 VEリーダー認定試験問題集, 産業能率大学出版部, 日本バリュー・エンジニアリング協会編著											
補助教材	新・VEの基本, 産業能率大学出版, 産能大学VE研究グループ著											
評価方法	<p>試験と課題 (演習成果) により評価する。 区間評価 = 試験素点 (50%) + 課題点 (50%) 総合評価 = 区間評価の単純平均</p> <p>課題点は演習の成果物の内容、演習の参加度を複数の担当教員によって総合的に評価し採点する。 課題が未提出の場合不合格となる。</p> <p>必要に応じて補講や再試験を行なうことがある。</p>											
学生自身が 検算できる ように算出 方法や機軸 項目を明記 すること												
関連科目	創造演習 (1~3年次)											
準備学習に 関する アドバイス	座学と実習を組み合わせた授業であるので、座学で理解しにくい内容は実習で体験的に理解するように心掛けること。おなわち、積極的な活動を望む。また、VEリーダーの受験にも是非チャレンジすべし。											

資料5-2-③-4 続き

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
0.5	0.75	ガイダンス <input type="checkbox"/> a. はじめに、授業の進め方
0.5	0.75	1. VEの基礎 <input type="checkbox"/> a. 企業経営とVE
1	1.5	<input type="checkbox"/> b. VEの定義 VEの基本原則
1	1.5	<input type="checkbox"/> c. VE実施手順
1	1.5	<input type="checkbox"/> d. VEの適用対象と適用段階
1	1.5	<input type="checkbox"/> e. VEと情報
1	1.5	<input type="checkbox"/> f. グループ活動の心構え
1	1.5	まとめ 前期前半で学んだ知識の振り返り
		2. 演習 (ホチキスリムーバーの改善)
1	1.5	I. 機能定義 <input type="checkbox"/> g. リムーバーの情報収集 (それは何か?)
1	1.5	<input type="checkbox"/> h. 機能の定義の練習 (その働きは何か?)
1	1.5	<input type="checkbox"/> i. 機能の定義 (部品ごとの機能を定義する)
1	1.5	<input type="checkbox"/> j. 機能の整理 (機能系統図の作成)
2	3	<input type="checkbox"/> k. 機能系統図の確認、プレゼンテーション (討論)
1	1.5	前期末試験 前期内容の確認
0.5	0.75	学習指導 試験解説と復習
1	1.5	II. 機能評価 <input type="checkbox"/> l. 機能別コスト分析 (そのコストはいくらか?)
0.5	0.75	<input type="checkbox"/> m. 機能の評価 (その価値はどうか?)
0.5	0.75	<input type="checkbox"/> n. 対象分野の選定
1	1.5	III. 代替案作成 <input type="checkbox"/> o. アイデア発想 (他に同じ働きをするものはないか?)
1	1.5	<input type="checkbox"/> p. 概略評価 (そのコストはいくらか?)
2	3	<input type="checkbox"/> q. 具体化 (複数の代替案の作成)
1	1.5	<input type="checkbox"/> r. 機能別代替案の総合化
0.5	0.75	<input type="checkbox"/> s. 詳細評価 (それは必要な機能を確実に果たすか?)
0.5	0.75	<input type="checkbox"/> t. 制約条件を満たすための代替案の熟練 (詳細評価)
1	1.5	<input type="checkbox"/> u. 提案書の作成
1	1.5	<input type="checkbox"/> v. プレゼンテーション
1	1.5	3. マネジメント論 <input type="checkbox"/> w. マネジメント思考 (マネジメントの定義)
1	1.5	<input type="checkbox"/> x. マネジメント思考 (マネジメントの課題)
1	1.5	<input type="checkbox"/> y. マネジメント思考 (リーダー論)
1	1.5	<input type="checkbox"/> z. 補講分 (VEリーダー受験対策)
0.5	0.75	学年末試験 後期内容の確認
1	1.5	学習指導 試験解説と復習
合計		
30	45	
コマ	時間	

(出典：シラバス 2012, p. 236)

開講年度	2012年度				
授業科目	プログラミング応用 I	対象学科	情報工学科	対象学年	4年
				開講期間	半期
				単位数	1
英語名称	Programming Applications I	履修形態	必修	授業総時の時間内訳 (hour)	
				講義	22.5
				演習	
				実験	
				実習	
担当教員	伊原 充博	所属学科・職名	情報工学科・非常勤講師	研究室	305
	清水 哲也		情報工学科・助教		407
				オフィスアワー	木曜日昼休み
				メールアドレス	ihara shimizu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応			JABEEプログラムの学習・教育目標との対応		
CS-3, CS-7, CS-10			B-2, C-3, D-1, D-3		
授業概要	全国高専プログラミングコンテストの競技部門のプログラムを、プロジェクトチームを組んで共同開発する。これらを通してプロジェクト管理の方法、プログラムの共同開発方法、デモンストレーション方法などを体験的に学習する。				
到達目標	<input type="checkbox"/> 競技プログラムに必要なアルゴリズムを体験し、理解する。 <input type="checkbox"/> オブジェクト指向プログラミング、イベント駆動型プログラムを体験し、理解する。 <input type="checkbox"/> プロジェクト管理を理解し、基本的な管理を体験する。 <input type="checkbox"/> プロジェクトチームによるソフトウェア開発を体験し、理解する。 <input type="checkbox"/> デモンストレーション方法を理解し、文書作成や発表ができる。				
授業方法	競技プログラムに必要なアルゴリズム学習し、演習を行う。また高専プロコンでのプロジェクト管理方法を学習し、この手法でプログラムを共同開発する。開発過程では、プロジェクト管理とプログラム開発についてブレインストーミングをしながら、体験的にプログラム開発を行う。演習とプログラム開発では、毎回授業で報告を提出する。またプログラムの文書化とデモンストレーションを実体験する。				
教科書	プリント資料を配布する。				
補助教材	高橋麻奈, やさしいJava, ソフトバンククリエイティブ (株)				
評価方法	<p>中間： 評価を出さない。 ※定期試験を実施しない。</p> <p>期末： 演習 (20%) + プログラム開発 (70%) + デモンストレーション (10%) ※定期試験を実施しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習： 演習状況と報告内容で判断する。 ・プログラム開発： プログラムの開発状況と報告内容で判断する。 ・デモンストレーション： 文書化とデモンストレーションの状況で判断する。 ・自ら積極的にプロジェクト管理やプログラム開発に取り組んだ学生には、加点評価を行う。 				
関連科目	プログラミング基礎 I, II, III, アルゴリズム論 I, II, プログラミング応用 III, IV, ソフトウェア工学 I, II				
準備学習に関するアドバイス	プログラミングの基礎知識があることが望ましい。				

授業計画			
コマ数	時間数		授業項目および学習達成項目
3	0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 学習計画、プログラム開発方法、評価方法を理解する。
	4	アルゴリズム演習	<input type="checkbox"/> Javaによるプログラミング手法を体験する。 <input type="checkbox"/> 開発に必要なアルゴリズムを学習し、演習を行なって習得する。
2	3	プロジェクト管理演習	<input type="checkbox"/> プロジェクト管理手法の学習する。 <input type="checkbox"/> プロジェクト管理の演習を行い知識を整理する。
1	1.5	競技プロジェクトの検討	<input type="checkbox"/> 競技プログラムを理解し、アルゴリズムなどの検討を行う。
2	3	プロジェクト管理の実際	<input type="checkbox"/> プロジェクトチームを編成する。 <input type="checkbox"/> ブレインストーミングによりメンバーの役割を決定する。 <input type="checkbox"/> ガントチャートを作成する。
5	7.5	プログラム開発	<input type="checkbox"/> アルゴリズム、データ構造、プログラム構造の検討する。 <input type="checkbox"/> 各メンバー担当のプログラムを開発する。 <input type="checkbox"/> テスト、デバッグを行い、その手法を理解する。
2	3	デモンストレーション	<input type="checkbox"/> 開発プログラムの概要を文書化する。 <input type="checkbox"/> 開発したプログラムのデモンストレーションを体験する。
合計			
15 コマ	22.5 時間		

資料 5-2-③-5 続き

開講年度	2012年度				
授業科目	対象学科	対象学年	開講期間	単位数	
プログラミング応用Ⅱ	情報工学科	4年	半期	1	
英語名称	履修形態	授業総額の時間内訳 (hour)			
Programming Applications II	必修	講義	演習	実習	
		22.5			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
伊原 充博	情報工学科・非常勤講師	305		ihara	
清水 哲也	情報工学科・助教	407	木曜日昼休み	shimizu	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応			JABEEプログラムの学習・教育目標との対応		
CS-3, CS-7, CS-10			B-2, C-3, D-1, D-3		
授業概要	プログラミング応用Ⅰで行ったプログラム開発を、引き続き行う。テーマは全国高専プログラミングコンテスト競技部門で、プロジェクトチームで共同開発する。これらを通してプロジェクト管理の方法、プログラムの共同開発方法、プレゼンテーション方法などを体験的に学習する。				
到達目標	<input type="checkbox"/> 競技プログラムに必要なアルゴリズムを体験し、理解する。 <input type="checkbox"/> オブジェクト指向プログラミング、イベント駆動型プログラムを体験し、理解する。 <input type="checkbox"/> プロジェクト管理を理解し、基本的な管理を体験する。 <input type="checkbox"/> プロジェクトチームによるソフトウェア開発を体験し、理解する。 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの基本を理解し、文書作成や発表ができる。				
授業方法	競技プログラムに必要なアルゴリズム学習し、演習を行う。また高専プロコンでのプロジェクト管理方法を用いて、プログラムを共同開発する。開発過程では、プロジェクト管理とプログラム開発についてブレインストーミングをしながら、体験的にプログラム開発を行う。演習とプログラム開発では、毎回授業で報告を提出する。また開発プログラムの文書化とプレゼンテーションを実体験する。				
教科書	プリント資料を配布する。				
補助教材	高橋麻奈, やさしいJava, ソフトバンククリエイティブ (株)				
評価方法	<p>中間： 評価を出さない。 ※定期試験を実施しない。</p> <p>期末： 演習 (20%) + プログラム開発 (70%) + プレゼンテーション (10%) ※定期試験を実施しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習： 演習状況と報告内容で判断する。 ・プログラム開発： プログラムの開発状況と報告内容で判断する。 ・プレゼンテーション： 文書化とデモンストレーションの状況で判断する。 ・自ら積極的にプロジェクト管理やプログラム開発に取り組んだ学生には、加点評価を行う。 				
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, アルゴリズム論Ⅰ, Ⅱ, プログラミング応用Ⅲ, Ⅳ, ソフトウェア工学Ⅰ, Ⅱ				
準備学習に関するアドバイス	プログラミングの知識と共同開発経験があることが望ましい。				

授業計画			
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目	
3	0.5	ガイダンス	□学習計画、プログラム開発方法、評価方法を理解する。
	4	アルゴリズム学習	□Javaによるプログラミング手法を体験する。 □必要なアルゴリズムを学習し、演習を行なって習得する。
1	0.5	デバッグとバージョン管理手法	□Javaプログラミング規範、デバッグ、バージョン管理を学習する
	1	プロジェクト管理の実際	□開発計画と役割を確認して、ガントチャートを作成する。
6	9	プログラム開発	□アルゴリズム、データ構造、プログラム構造を再検討する。 □各メンバー担当のプログラムを開発する。 □各メンバーのプログラムを統合し、テストとデバッグを行う。
1	1.5	試合	□開発したプログラムにより、チーム対抗試合を行う。
2	3	文書化	□開発したプログラムについて、その概要を文書化する。
2	3	プレゼンテーション	□文書化した概要もとに、スライドを作成する。 □開発したシステムについてプレゼンテーションする。
合計	15	22.5	
コマ	時間		

(出典：シラバス 2012, pp. 274-275)

開講年度	2012年度				
授業科目	プログラミング応用Ⅲ	対象学科	情報工学科	対象学年	5年
				開講期間	半期
				単位数	1
英語名称	Programming ApplicationsⅢ	履修形態	必修	授業総時間の時間内訳 (hour)	
				講義	22.5
				演習	
				実習	
担当教員	吉村 晋	所属学科・職名	情報工学科・特任教授	研究室	401
	清水 哲也		情報工学科・助教		407
	河村 辰也		情報工学科・非常勤講師		305
				オフィスアワー	水曜日(昼)と放課後
					水曜日(昼)と放課後
					水曜日放課後
				メールアドレス	yosimura
					shimizu
					kawamura
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応			JABEEプログラムの学習・教育目標との対応		
CS-3, CS-7, CS-10			B-2, C-3, D-1, D-3		
授業概要	オブジェクト指向言語としてのJava,あるいはそれと同等の言語について基本的な考え方を配布プリントを中心に学習するとともに,具体的に開発を行ってみる。授業はあくまでオブジェクト指向ソフトウェアの理解であるが,基本的なことの学習の後にチームでプロジェクトを組んでソフトウェア開発を試みる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①オブジェクト指向言語で書かれたプログラムを修正・改良・拡張できる。 ②開発環境を使ってソフトウェア開発ができる。 ③共同で分担して開発作業ができる。 ④開発スケジュールを相談して作り,状況に応じて修正して作業できる。 ⑤開発したものを共同で協力して発表できる。 ⑥作業においてわからないことを協調して調べ,教え合うことができる。 				
授業方法	プログラミング応用Ⅳ授業と一体となって行う。学生が自主的に演習を行うことが中心で体験的に学習を行う。教員はあくまでサポーターとしての役割に徹する。学生の自主性,自律性を尊重し,さまざま疑似体験を実践してみる。				
教科書					
補助教材	[オブジェクト指向がわかる本] 佐藤英人著, オーム社				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭試験 (40%) ・プログラミング応用Ⅲ・Ⅳを通じてのプロジェクト開発試行に関し, <ul style="list-style-type: none"> ・開発内容の妥当性, ・分担の妥当性, ・完成度, ・参加度合い, ・積極性, ・発表内容, ・ドキュメンテーション (仕様書, マニュアル) などの評価 (60%)。 <ul style="list-style-type: none"> ○最終目的が疑似体験を重要視するため積極的に加点的評価を行う <p>学生自身が 検算できる ように算出 方法や根拠 項目を明記 すること</p>				
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, アルゴリズム論Ⅰ, Ⅱ, プログラミング応用Ⅰ, Ⅱ, Ⅳ, ソフトウェア工学				
準備学習に関する アドバイス	ソフトウェア開発では,自発的に調査し学びとる積極性が求められます。たとえばオブジェクト指向言語の知識も,自分で調べて役に立るといような積極性が重要です。学生同士で互いに協力,分担して検討する態度が重要視されます。				

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
1	1.5	授業ガイダンス □学習計画、実習方法、評価方法説明
1	1.5	オブジェクト試行言語と統合開発環境 □Java言語あるいは他の統合開発環境の説明、具体的演習
1	1.5	オブジェクト指向開発アプローチ オブジェクト指向の概要（基本概念）の説明
11	16.5	オブジェクト指向プログラム実習 プログラミング応用Ⅲ、Ⅳの開発試行に伴い、各項目を理解する 学ぶ内容は次の通り。 「Java言語、あるいは他のオブジェクト指向言語などの概要、クラス、メソッド、コンストラクタ、メッセージ、クラス階層とクラス継承、サブクラス、抽象クラス、基本プログラムの実行、例外処理、アプレットとグラフィックスなど」 プログラミング応用Ⅳと連動して行う。
1	1.5	口頭試問 □ 口頭試問に対して、具体的に答えることができる。 □ 簡単な要求に対し、実際に行ってみせることができる。
合計		
15 コマ	22.5 時間	

資料 5-2-③-6 続き

開講年度	2012年度						
授業科目	情報工学科	対象学年	5年	開講期間	半期	単位数	1
プログラミング応用Ⅳ	情報工学科	5年	半期	1			
英語名称	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)					
Programming Applications Ⅳ	必修	講義	演習	実習		22.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス			
吉村 晋	情報工学科・特任教授	401	水曜日(昼)と放課後	yosimura			
清水 哲也	情報工学科・助教	407	水曜日(昼)と放課後	shimizu			
河村 辰也	情報工学科・非常勤講師	305	水曜日放課後	kawamura			
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応					
CS-3, CS-7, CS-10		B-2, C-3, D-1, D-3					
授業概要	プログラミング応用Ⅲと対応して、プロジェクトを組んでソフトウェア開発の試行を行う。開発試行を通じてプロジェクト管理の実習も兼ねる。						
到達目標	①プロジェクト型開発を経験し、方法論を実感できる。 ②PDCAサイクルの概要を実感できる。 ③共同で分担して開発作業ができる。 ④開発スケジュールを相談して作り、状況に応じて修正して作業できる。 ⑤開発したものを共同で協力して発表できる。 ⑥作業においてわからないことを協調して調べ、教え合うことができる。						
授業方法	プロジェクト型の開発試行である。チームを組んで自主的に検討し、PDCA(Plan, Do, Check, Act)サイクルを回して、開発試行を行う。中間プレゼンテーション、最終的な発表を開催するとともに、仕様書、マニュアル、作品のデモンストレーションを行う。						
教科書	資料などで行う。						
補助教材	ソフトウェア開発におけるプロジェクト管理とプレゼンテーション、長尾和彦他制作「高专ITコンソーシアム監修、丸善						
評価方法	開発プロジェクト試行に関して、 ①参加度合(20%)、 ②積極性・開発内容(30%)、 ③プレゼンテーション評価・デモンストレーション評価(40%)、 ④仕様書・マニュアル(10%)を総合的に評価する。 目的が疑似体験を重要視しているため加点の評価になる。						
学生自身が 検算できる ように算出 方法や根拠 項目を明記 すること							
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、アルゴリズム論Ⅰ、Ⅱ、プログラミング応用Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、ソフトウェア工学						
準備学習に 関する アドバイス	ソフトウェア開発では、自発的に調査し学びとる積極性が求められます。たとえばオブジェクト指向言語の知識も、自分で調べて役に立てるといような積極性が重要です。学生同士で互いに協力、分担して検討する態度が重要視されます。						

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
1	1.5	授業ガイダンス □学習計画、実習方法、評価方法説明
7	10.5	チーム編成、テーマ調査、検討 ソフトウェア開発試行 □自主的ソフトウェア開発の試行 ①各チームでプロジェクトを組んでソフトウェア開発試行を行うことができる。 ②作品テーマの検討ができる。 ③仕様検討、目標管理ができる。 ④PDCA サイクルを回しながら開発試行ができる。 ⑤スケジュールフォロー、調整ができる。
1	1.5	中間発表 □プレゼンテーション（発表、進行状況フォロー）ができる。
5	7.5	ソフトウェア開発試行 □ソフトウェア開発試行、スケジュールフォローができる。 仕様書、マニュアルをまとめられる。
1	1.5	最終発表会、書類提出 □プレゼンテーション、及びデモンストレーションができる。
合計	22.5	
15 コマ	22.5 時間	

(出典：シラバス 2012, pp. 294-295)

<スケジュール>

平成23年9月26日(水)

時 間	内 容
10:30	1. オープニング
10:45 ~ 12:15 (10:45 ~ 11:00)	2. 講演 本校における創造性を育む教育・特徴的な教育の事例報告(発表10分+質疑応答5分) ① 「ADオリジナルのサマーセミナー」(仮題) デザイン学科 比留間先生
(11:05 ~ 11:20)	② 「工学基礎「電動カートの製作」」(仮題) 電気工学科 斉藤先生
(11:25 ~ 11:40)	③ 「創造演習」(仮題) 機械電子工学科 富田先生
(11:45 ~ 12:00)	④ 「プログラミング応用(演習)」(仮題) 情報工学科 清水先生
(12:05 ~ 12:20)	⑤ 「英語」(仮題) 一般教育科 椎名先生
休憩 12:20 ~ 13:00	
13:00 ~ 13:30	3. グループ討議 (7グループ) 午前の講演を基にこれからの教育に生かせること
13:30 ~ 14:00	4. 討議内容発表 (各グループ3分程度) 5. クロージング

(出典：自己点検評価本部資料)

(分析結果とその根拠理由)

各学科とも卒業研究以外に創造性を育む教育として、テーマ設定をした後に創意工夫して問題解決を行う授業が設定され、実際に展開されている。また、インターンシップも学修単位認定されるなど、キャリア教育の一環として位置付けられて活用が図られている。

以上より、創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が図られている。

観点5-3-①： 教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育方針の基本精神として、「キリスト教精神に基づいた人間教育を目標とする」ことが記述されており(資料5-3-①-1)、これが本校における豊かな人間性の涵養の基軸となっている。キリスト教精神に基づく人間性の涵養に向けて、特別活動の実施面では、宗務主事(チャプレン)を中心とする司牧委員会という教職員による委員会組織と、学生主事を中心とする学生部会が中心的な働きを担っている(資料5-3-①-2)。

本校では、特別活動に関する規定(資料5-3-①-3)を定め、高等専門学校設置基準に定められている90単位時間以上の特別活動を、第1～第3学年の月曜日2校時目のロングホームルーム(以下、LHR)と様々な学校行事によって実施している。

LHRでは、学級担任の主導による通常の学級活動に加えて、短い講話の後に静かな音楽の流れる中で沈黙を味わう「メディテーション・アワー」、カトリックの伝統に従った宗教行事である「死者のための祈り」、「クリスマス講話」、創立者の遺志を思い出す「ドン・ボスコについての講話」などの諸活動が、1年間を通じて計画され、適切なタイミングで実施されている(資料5-3-①-4)。LHRを運営する学級担任には、「担任マニュアル」(資料5-3-①-5)を配布して円滑な学級運営ができるように配慮している。

また毎週火曜日と金曜日の朝のホームルーム時を利用し、放送設備を使って、教職員が交代で全学生への小講話を行っている(資料5-3-①-6)。目的は創立者の模範にならい、頻繁に学生たちに語りかけることによって、学生たちの意識を動かし高めていくことにある。「モーニング・トーク」と呼ばれるこうした教職員による小講話の原稿を編纂して、2010年度には『夢をかたちに』という本が出版された。

資料5-3-①-1

キリスト教精神に関する記述

<基本精神>

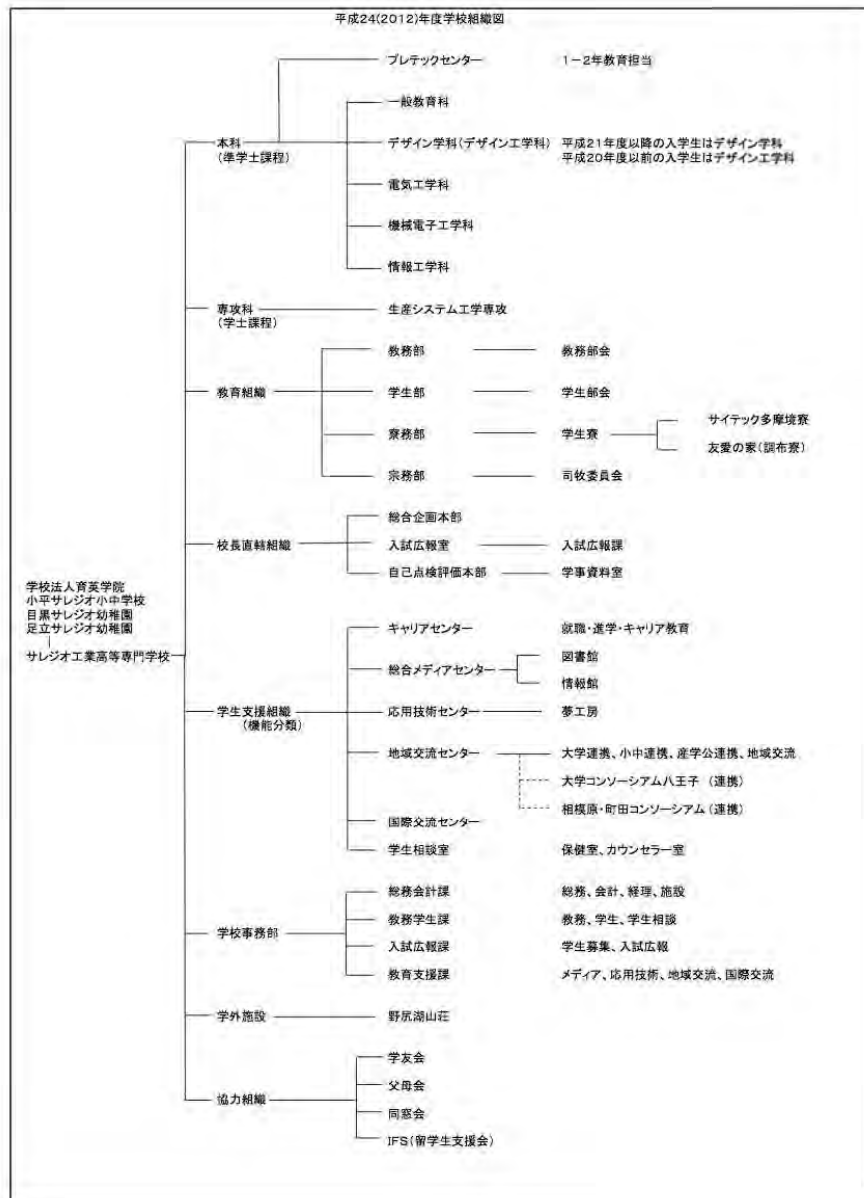
創立者ヨハネ・ボスコの精神に基づき、彼らが善き社会人になるために、キリスト教精神に基づいた人間教育を目標とする。キリスト教精神とは、忍耐、寛容、ゆるし、謙遜、誠実(1コリ13章)を意味する。さらに本校で学び、習得した技術を通して人類社会に貢献できる人間を育て、聖書のことばにある「地の塩」(マタイ5章)に象徴される、それぞれが習得した能力や与えられた立場を生かして、社会を支える技術者になることを勧める。キリスト教の世界観と全世界に1600余の姉妹校を持つ本校は、その連携を通して、人類社会という世界に開かれた視野を持つ実践的技術者を育成する。さらにヨハネ・ボスコが大切にしていた、常に教えられる者とともに、彼らの目線でものごとを考え、ともに歩む姿勢「アシステンツァ」という教育方針を実践する。

(出典：info2012, p.13)

第 3 章 学校を良く知るために

3.5 組織

3.5.1 学校組織図



特別活動に関する規定

規程集（特別活動）

平成 20 年 4 月 1 日制定

特別活動に関する実施規程

（目的）

第1条 本規程は高等専門学校設置基準第17条7項に定める特別活動の実施に関する規程を定める

（主体）

第2条 校長は教育課程の編成にあたって教務主事に特別活動の実施を命ずる。

（編成）

第3条 教務主事は校長の命に従い、第1学年から第3学年にわたって各々年間28単位時間分を時間割に組み込むものとする。

2 特別活動には前項で定められたものの他に以下の各号の活動を含むものとする。

- (1) 始業式および終業式
- (2) 第1学年親睦遠足および第2学年親睦遠足
- (3) 第1学年野尻湖サマーキャンプ
- (4) 第4学年研修旅行
- (5) 校内競技大会
- (6) 育英祭
- (7) マラソン大会

（委嘱）

第4条 教務主事は学生主事に具体的な実施計画の策定を委嘱する

（計画）

第5条 学生主事は第1学年から第2学年の実施計画についてプレテック主任と協議の上、活動プログラムを企画立案する

2 第3学年の実施計画については実施対象の学級が属する学科の学科長に当該実施計画の企画立案を委嘱できる。

（担当）

第6条 特別活動は学級単位で実施され、その運営は学級担任が行う。

2 別に計画のあるときは前項によらず複数の学級、あるいは学年全体で運営することができる。その場合の運営は学生主事が命ずる者が行う。

（報告）

第7条 実施した特別活動については、それを運営した者により所定の様式で報告しなければならない。

（保管）

第8条 学生主事は前条の報告を保管しなければならない。

2 学生主事は必要あるときこれらの報告を校長または校長に指示された者が閲覧できるようにする。

（改訂）

第9条 本規程の改定は学生主事の提議により学校運営会議（AMC）の審議を経て校長が裁可する。

附則

1. 本規程は平成20年4月1日より制定、施行する。

（出典：学内資料（規則・規程集））

平成24年度(2012年度)行事予定表・前期

4月		5月		6月		7月		8月	
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
1日		1日	校内競技大会①	1日		1日		1日	
2日		2日	校内競技大会②	2日		2日		2日	
3日		3日	卒業記念日	3日		3日		3日	
4日		4日	おどりの日	4日	閉校中四回戦	4日		4日	
5日		5日	おどりの日	5日	閉校中四回戦	5日		5日	
6日		6日	卒業式(本校)	6日	閉校中四回戦	6日		6日	
7日		7日	卒業式(本校)	7日	閉校中四回戦	7日		7日	
8日		8日		8日	閉校中四回戦	8日		8日	
9日		9日		9日		9日		9日	
10日		10日		10日		10日		10日	
11日		11日		11日		11日		11日	
12日		12日		12日		12日		12日	
13日		13日		13日		13日		13日	
14日		14日		14日		14日		14日	
15日		15日		15日		15日		15日	
16日		16日		16日		16日		16日	
17日		17日		17日		17日		17日	
18日		18日		18日		18日		18日	
19日		19日		19日		19日		19日	
20日		20日		20日		20日		20日	
21日		21日		21日		21日		21日	
22日		22日		22日		22日		22日	
23日		23日		23日		23日		23日	
24日		24日		24日		24日		24日	
25日		25日		25日		25日		25日	
26日		26日		26日		26日		26日	
27日		27日		27日		27日		27日	
28日		28日		28日		28日		28日	
29日		29日		29日		29日		29日	
30日		30日		30日		30日		30日	
31日		31日		31日		31日		31日	

2年生の卒業チャレンスを返却して今年度の卒業チャレンスを配布し、来年度の月曜まで(2012年度の)返却と今年度の新たな目標を書き添えるように指示

キャリアブックを返却し、時期内に返却させ、キャリアブックに入れさせて回収する。

キャリアブック1年目返却
2年目返却
3年目返却
4年目返却
5年目返却
6年目返却
7年目返却
8年目返却
9年目返却
10年目返却
11年目返却
12年目返却
13年目返却
14年目返却
15年目返却
16年目返却
17年目返却
18年目返却
19年目返却
20年目返却
21年目返却
22年目返却
23年目返却
24年目返却
25年目返却
26年目返却
27年目返却
28年目返却
29年目返却
30年目返却
31年目返却

2年第一回キャリア説明終了

1年野次説明
2年野次説明

キャリアブック返却

キャリアブック返却

キャリアブック返却

平成24年度(2012年度)行事予定表・後期

日	9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	本	休	本	休	本	休	本	休	本	休	本	休	本	休
1	水	木	1	土	1	木	1	土	1	金	1	金	1	金
2	木	金	2	日	2	金	2	日	2	土	2	土	2	土
3	金	土	3	月	3	土	3	月	3	日	3	日	3	日
4	土	日	4	火	4	日	4	火	4	月	4	月	4	月
5	日	月	5	水	5	月	5	水	5	火	5	火	5	火
6	月	火	6	木	6	火	6	木	6	水	6	水	6	水
7	火	水	7	金	7	水	7	金	7	木	7	木	7	木
8	水	木	8	土	8	木	8	土	8	金	8	金	8	金
9	木	金	9	日	9	金	9	日	9	土	9	土	9	土
10	金	土	10	月	10	土	10	月	10	日	10	日	10	日
11	土	日	11	火	11	日	11	火	11	月	11	月	11	月
12	日	月	12	水	12	月	12	水	12	火	12	火	12	火
13	月	火	13	木	13	火	13	木	13	水	13	水	13	水
14	火	水	14	金	14	水	14	金	14	木	14	木	14	木
15	水	木	15	土	15	木	15	土	15	金	15	金	15	金
16	木	金	16	日	16	金	16	日	16	土	16	土	16	土
17	金	土	17	月	17	土	17	月	17	日	17	日	17	日
18	土	日	18	火	18	日	18	火	18	月	18	月	18	月
19	日	月	19	水	19	月	19	水	19	火	19	火	19	火
20	月	火	20	木	20	火	20	木	20	水	20	水	20	水
21	火	水	21	金	21	水	21	金	21	木	21	木	21	木
22	水	木	22	土	22	木	22	土	22	金	22	金	22	金
23	木	金	23	日	23	金	23	日	23	土	23	土	23	土
24	金	土	24	月	24	土	24	月	24	日	24	日	24	日
25	土	日	25	火	25	日	25	火	25	月	25	月	25	月
26	日	月	26	水	26	月	26	水	26	火	26	火	26	火
27	月	火	27	木	27	火	27	木	27	水	27	水	27	水
28	火	水	28	金	28	水	28	金	28	木	28	木	28	木
29	水	木	29	土	29	木	29	土	29	金	29	金	29	金
30	木	金	30	日	30	金	30	日	30	土	30	土	30	土
31	金	土	31	月	31	土	31	月	31	日	31	日	31	日

(出典：プレテック作成の学内資料)

資料 5-3-①-5

担任マニュアル (抜粋)

担任マニュアル

改訂版


サレジオ工業高等専門学校

資料 5-3-①-5 続き

担任マニュアル・目次

I. 学級担任の心得.....	1
II. 基本的業務.....	1
1. 火曜日～金曜日の基本業務.....	1
2. 月曜日の基本業務.....	1
3. 土曜日の基本業務.....	2
4. 裁量日の前後に関する基本業務.....	2
5. 欠席・遅刻・早退に関する基本業務.....	2
6. 届の取り扱い.....	2
7. 出席簿について.....	2
8. 教室の管理に関する基本業務.....	7
9. クラス運営に関する基本業務.....	7
10. その他.....	8
III. クラス運営.....	8
1. 生活指導.....	8
2. 学習指導.....	8
3. 進路指導.....	9
4. ロングホームルーム 各月のテーマ.....	9
IV. 行事.....	10
1. 校内大会.....	10
2. 育英祭.....	10
3. マラソン大会.....	11
4. 入学式.....	11
5. 始業式.....	12
6. オリエンテーション.....	12
7. 終業式.....	13
8. 卒業式.....	13
9. 遠足.....	14
10. 研修旅行.....	14
11. 野尻湖キャンプ.....	15
12. キャリア・オリエンテーション.....	16
13. 定期試験.....	16
14. 停学となる学校行事.....	17
V. その他.....	17
1. 学年ごとのポイント.....	17
2. 保護者会.....	19
3. 緊急時の対応.....	21
4. 退学・転学・休学.....	22
5. 留年生・不登校.....	22
6. 家庭訪問・お見舞い・葬儀などに関する対応.....	23

(出典：学生部資料)

教職員各位

平成24年4月9日

校長 小島知博

チャプレン 濱邊 正

モーニングトーク分担表のお知らせ

ご復活のおよこびを申し上げます。

さて、学生の宗教的情操教育の一環として行われているモーニングトークですが、今年も引き続きよろしくお願いたします。今年度の分担表をつくらせていただきました。今年は前半を一般教科の先生方、そして後半を専門教科の先生方をお願いしたいと思います。

4月9日（金）より実施いたします。分担はこちらで決めさせていただきましたが、担当の交代は各自で行っていただき、その結果は濱邊（内線 3220）にお知らせください。

4	13	金	小島校長	9	28	金	小島校長
	17	火	平岡		2	火	富田
	20	金	木戸		5	金	谷上
	24	火	濱邊		9	火	渡邊(聡)
	27	金	石田		12	金	菅原
5	8	火	中田	10	16	火	比留間
	11	金	安藤		19	金	濱邊
	15	火	椎名		23	火	塩田
	18	金	鎌田		26	金	加藤
	22	火	マルケス		30	火	山下(建)
	25	金	野島		11	9	金
29	火	高野	13	火		齊藤	
6	1	金	相川	16		金	大杉
	12	火	松尾	20		火	高橋
	15	金	真島	4	火	竹内	
	19	火	村田	7	金	房野	
	22	金	山館	11	火	小出	
	26	火	渡邊(紘)	14	金	吉田	
29	金	米山	18	火	稲毛		
7	3	火	伊藤	1	8	火	山下(幸)
	6	金	西岡		11	金	水谷
	10	火	濱邊		15	火	中田
	13	金	山本		18	金	須藤
	17	火	花山		22	火	平岡
	20	金	西野		25	金	木戸
					2	1	金

■モーニングトークは9時03分にはじめてください。厳守をお願いします。

■お話は3～4分で、学生たちの心に残るものをお願いします。（学生への連絡には使わないでください）

（出典：宗務部作成の学内資料）

一般教育科目を担う一般教育科は、通常の高校課程の科目群に加えて、本校の教育目標に照らして特徴的な「倫理」や「表現」を配置し、「C. コミュニケーション力」「D. 人間性」の涵養を狙ったカリキュラムを編成している。また高学年では「宗教学」「人間論」「日本語・日本文学」などの教養科目や、「中国語」「イタリア語」「韓国語」の第2外国語科目を自由選択科目群として提供し、「D. 人間性」「E. 国際性」といった教育目標を支えると同時に、大学生相当の年齢にある学生たちが自らの自主性によって、個人の関心やニーズに応じた履修計画を立て、自らの能力を伸ばせる機会を提供している（資料5-3-①-7、資料5-1-②-8）。

資料5-3-①-7

一般科目の教育課程の体系図と科目系統図

目標別教育構成図（学習教育目標による分類）

学校目標	一般教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
A. 基礎力	① 専門分野に必要な基本的知識・論理的思考力を身につける。	国語 基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 情報倫理 化学	国語 微分積分学 代数幾何学 基礎物理ⅠⅡ 化学	国語 確率統計学 解析学Ⅰ 物理	国語	
B. 実践力						
D. 人間性	② 人や環境のために知識・技術を正しく使える力を身につける。	国語 現代社会 倫理 情報倫理 保健体育	国語 保健体育	国語 倫理 体育実技	国語 体育実技	体育実技
C. コミュニケーション力	③ 国際社会の中にあって互いを理解し、自己を正しく表現できる力を身につける。	国語 表現 英語 倫理 保健体育	国語 英語 保健体育	国語 英語 体育実技	国語 英語演習 体育実技	体育実技
E. 国際性		英語 現代社会	英語 歴史	英語	英語演習 選択英語	法学/経済 選択英語

(出典：一般教育科資料)

課外活動としては、文化系および体育系のクラブ活動（資料5-3-①-8）において人間性の涵養を図るだけでなく、応用技術センターにおけるプロジェクト教育（資料5-3-①-9）を通じて、人間の素養の涵養の機会を提供している。

資料5-3-①-8

クラブ名	顧問教員	副顧問教員	技術指導者 (コーチ)
文化会			
DBA	休部		
吹奏楽部	濱邊正	中田正一郎、渡邊紘	伏木幹育
放送部	米盛弘信		
電子通信部	大杉功		
写真部	谷上欣也		
情報研究部	小出由起夫		
天文部	森幸男		
映像研究部	比留間真		
モダンダンス部	L.マルケス	松尾貴哲	石井かほる
体育会			
陸上部	吉田将司	西岡広志、稲毛達朗	
バスケットボール部	山下健一郎	村田昌巳	
ハンドボール部	花山康雄	野島伸仁	
サッカー部	相川智洋	山野邊基雄、横山松生	
バレーボール部	高野修	西野隆司	
テニス部	椎名正明	杉本文司、水谷浩	
卓球部	渡邊聡	山本孝司	
バトミントン部	清水哲也	真島顕子	
ワンダーフォーゲル部	山館順	伊藤光雅、島川陽一、平岡一則	
柔道部	安藤昭	吉野純一	鳥羽敏二
剣道部	米山秋文	山下幸三	坂本・畑江
同好会他			
アート同好会	菅原由佳		
学友会	高野修	大島真樹	
プロジェクト活動 (学)全国高専ロボコン (学)全国高専プロコン (学)全国高専デザコン	別途発表	斉藤純、島津豊、織田豊一、 藤野裕之	兵藤和人 吉留忠史

(出典：学生部資料)

2012年度プロジェクト企画書

サレジオ工業高等専門学校 応用技術センター

プロジェクト名称 **1-1-1カープロジェクト**

競技部門 基礎研究 社会貢献

差異分析(目標と結果に差が生じた原因を分析)
(具体的な内容と、改善するための分析)

過去の目標	結果・現状	原因と分析
知能検査のレベルを安定させる。	安定した。	これまでのレベルの経験を生かして行った。
昨年度に必要量の調達、	増量調達を成功させた。	増量調達に際しての交渉のたすきと関係の始まる前から。
2年前	PIタケムに圧縮機に短縮させた。	外注費方法の改善。
	新しい生徒数の増加を製作中。	熱源の出力不足。

プロジェクト基本方針
 昨年度までの活動と反省をふまえて今年度に向けての方針
 (過去の製作物の改良か、新作かを明確に決めること)
 -東西の1対1ではなく、性能を最大限引き出す目標を設定し、又、その改良に計画的に予備費を確保して行くこと。
 -来年度以降に備え、後輩も指導する。

社会的な必要性、対外活動の有無
 (やりがいからではなく、社会的な必要性を考える。大会参加を希望する場合は大会名を記入すること)
 再生可能なエネルギーを身近な工場などで有効利用するために実践的プロジェクトに取り組む。
 エネルギーリサイクルシステムの普及を希望(社)。



プロジェクト体制・概要

担当教官 **各藤 純**

チームリーダー **ケス 番号 名前**
 原則4年生以下 **UEE 29 福 戸 侑 寛**
 担当教員と相談

プロジェクトのコンセプト及び達成目標
 (今年度の活動における目標を具体的に決める。)
 例: エコラン2400km/年以上を達成する。等
 今年度の活動の意義性や、意義性(必ずしも生徒等の性能を最大限引き出すこと)を踏まえた上で、具体的な目標を設定し、改善を促す。又、今後プロジェクトの中心として取り組む生徒の増加を例年以上に行おう。

プロジェクトで活動する上での目標と実現手段
 (今年度の活動における目標と実現するための手段を具体的に決める。)

目標	目標を実現するための手段
圧縮機に必要量の安定した調達	電話系を利用する
必要量の改善	圧力の増減、増設を行うこと、改良を図る
後輩への技術的継承	担当者に十分な知識、所を伝授する
1対1対1の技術的継承	1対1対1の知識、所を伝授する
CFRの調整、調整	調整の調整、調整
CFRの調整、調整	調整の調整、調整
技術的継承の確保	調整の調整、調整

参加メンバー

専攻科及び5年生(サポート/サマのみ)
 EEE: 井澤一博、櫻本拓郎、小笠原悠希、木村 達太
 EEE: 井澤一博、櫻本拓郎、小笠原悠希、木村 達太
 ME: 佐藤 俊

4年生(所属学科を明記する)
 EEE: 井澤一博、櫻本拓郎、小笠原悠希、木村 達太
 ME: 佐藤 俊

3年生(所属学科を明記する)
 EEE: 井澤一博、櫻本拓郎、小笠原悠希、木村 達太
 CS: 坂本 拓也

2年生(所属学科を明記する)
 EEE: 井澤一博、櫻本拓郎、小笠原悠希、木村 達太
 ME: 佐藤 俊

1年生(所属学科を明記する)
 EEE: 井澤一博、櫻本拓郎、小笠原悠希、木村 達太
 ME: 佐藤 俊

スケジュール概要 必ず1年間通じて計画・実行する

月	内容
4月	CATの調整、調整
5月	調整機、調整、調整
6月	調整機、調整、調整
7月	調整機、調整、調整
8月	大会
9月	調整機、調整、調整
10月	CATの調整、調整
11月	調整機、調整、調整
12月	調整機、調整、調整
1月	プロジェクト年報告会
2月	調整機、調整、調整
3月	調整機、調整、調整

24年度 プロジェクト企画書

サレジオ工業高等専門学校 応用技術センター

プロジェクト名称 **NHK高専ロボコン**

回競技部門 基礎研究 社会貢献

差異分析(目標と結果に差が生じた原因を分析)
(具体的な内容と、改善するための分析)

過去の目標	結果・現状	原因と分析
昨 年 計画的な ロボットの製作 製作技術の 向上	大会当日予選 敗退 観望者の観戦希望 がなかった。	スケジュール管理の不十分 技術講習会におこな た
2 年 前	大会で優勝する 初戦敗退	設計の不十分

プロジェクト基本方針
昨年度までの活動と反省をふまえて今年度に向けての方針
(過去の製作物の改良か、製作かを明確に決めること)
ロボットの設計・製作のために自分たちのなか、人(メンバー)に自
目を向けて、チームワークを磨き、課題をこなす。
各担当をメンバーとシテ情報やメンバー等の情報、スケジュールの進捗
を強化致す。

社会的な必要性、対外活動の有無
(やりがいからではなく、社会的な必要性を考慮。大会参加を希望する
場合は大会名を記入すること)
・ロボコンを通して、学校外の交流を深めることが出来る。
・将来の技術者の育成
・大会名: サレジオ工業高等専門学校ロボコン



プロジェクト体制・概要

担当教官 **渡邊先生 大島先生**

チームリーダー **ケリス 名前**
原則4年生以下 **4ME19 佐藤 温**
担当教員と相談

プロジェクトのコンセプト及び達成目標
(今年度の活動における目標を具体的に決める。)
例: エントリーで400km/日以上を走行する。等
柔軟に決めた課題を表現できるロボットの製作

プロジェクトで活動する上での目標と実現手段
(今年度の活動における目標と実現するための手段を具体的に決める。)

目標	目標実現するための手段
ロボットを完成させる	スケジュール管理の徹底
上位入賞	過去のロボコン/大会で得る 後輩の育成
情報の共有	技術講習会を行う
新しい技術の獲得	X-イングリッシュの活用
情報の共有・交換	他の高専との交流 週一回、ミーティング(全体で行う)

参加メンバー

専攻科及び5年生(サポーター/サワのみ)
5名以上、異なる専攻科メンバーを入れる。1年生は必ず入れること!

4年生(所属学科を明記する) ME 宇連 匡一、石原 友博、石原 剛輝、石原 颯、山本 和 宮 輝明 CS 川原 亮	3年生(所属学科を明記する) ME 山本 亮太、石原 友博、石原 剛輝、石原 颯 CS 中村 利、本村 優太、松本 拓也	2年生(所属学科を明記する) 白井 優希、川野 禮央、(原) 潤平 ME 山下 直輝、荒巻 昌樹、馬本 雅之、田中 寛之 CS 藤田 大輔、川崎 元樹、馬本 雅之、田中 寛之 CS 藤田 大輔、川崎 元樹、馬本 雅之、田中 寛之	1年生(所属学科を明記する) ME 坂口 望、石原 友博、本村 優太、松本 拓也 CS 中島 直樹
---	--	---	---

スケジュール概要 必ず1年間通じて計画・実行する

4月	消耗品等の発注	10月	大会(地区予選)
5月	予行予選委員会	11月	全国大会(東京)
6月	設計・加工発注	12月	
7月	設計(試作)・製作	1月	ロボコン報告会
8月	製作	2月	
9月	発表・練習	3月	

(出典: 応用技術センター資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、多岐に亘る一般教育科目を提供するとともに、年間を通じて計画されたLHRでの様々な取り組みや多彩な学校行事などの特別活動を人間性の涵養の場として積極的に活用している。またクラブ活動やプロジェクト教育といった課外活動も、人間性の涵養の一助となっている。

以上より、教育課程の編成において、一般教育の充実、特別活動の実施や課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されている。

観点5-4-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定については明確に定められており、新学年開講時に全学生に向けて配布される学生便覧、通称『info』に記載され周知されている(資料5-4-①-1)。また、進級・卒業に関する規定も策定されており、前述の『info』に掲載され周知されている(資料5-4-①-2～3)。更に卒業認定に関しては、卒業認定までの指導手順が定められて『info』に掲載されている。(資料5-4-①-4)。この指導手順は、分かりやすくフローチャート化もされており(資料5-4-①-5)、第5学年のホームルーム教室に掲示もして、学生への周知を図っている。

成績評価については、成績報告のマニュアル(資料5-4-①-6)が策定されており、第1学年と第2学年では年4回(資料5-4-①-7)、第3学年から第5学年では年3回の成績操行会議(資料5-4-①-8)が開催され、規定に基づいて運用されている。追試験および再試験については、教務規程にその定めがあり、『info』に掲載され、学生の周知が図られている(資料5-4-①-9)また、自らの成績通知票をよく確認することを促す啓蒙的な働きかけ(資料5-4-①-10)や、教育改善の意見箱の運用(資料5-4-①-11)を通じて、成績評価に関する規定や手続きへの学生側の関心と意識づけを高め、教員・学生双方から成績評価の透明性を担保する取り組みをしている。さらに、学生および保護者による成績評価に関する意見申し立てについて、成績の調査に関する規程を設けている(資料5-4-①-12)。

進級認定については、学年末の成績操行会議後に行われる及落判定会議(資料5-4-①-13)において、規定に基づいて運用されている。卒業認定についても、学年末の成績操行会議後に行われる卒業判定会議(資料5-4-①-14)において、規定に基づいて運用されている。上述の諸会議の開催に関する規程は、教務部内規に定められている(資料5-4-①-15)。

成績評価・単位認定に関する規程（準学士課程教務規則より抜粋）

第4章 成績評価・進級・卒業認定に関する規定

〔成績評価〕

第11条 成績評価は原則年間4回とし、以下の各号の通り実施する。

- (1) その名称は前期中間評価、前期末評価、後期中間評価、学年末評価とする
- (2) 成績評価の時期は(1)に掲げる評価それぞれについて、前期中間試験終了後、前期授業終了後、後期中間試験終了後、後期授業終了後とする
- (3) 科目によっては(1)に掲げる評価のうち、学年末評価以外を省略することができる
- (4) 成績評価は開講当初から(2)に掲げる時期までの評価とし、シラバスに基づいて100点法により評価する
- (5) 前号の評価の名称を「評価点」という
- (6) 科目によっては(4)の代わりに、合格または不合格および認定とすることがある

第11条の2 複数の教員で担当した科目の成績評価は、当該教員の合議によって決定する。

〔成績操行会議〕

第12条 定期試験終了後、学校長は成績操行会議を開催する。

- 2 成績操行会議の実施に関する規則は別に定める。

〔評価の無効〕

第13条 以下の各号に該当する科目は、当該科目開講期の期末評価における評価点を0点とする。

- (1) 科目の総授業時間数の5分の1に当該科目の単位数を加えた数を超えて欠席した科目
- (2) ただし、半期開講科目については前号の5分の1に当該科目の単位数を加えた数を超えてを3分の1以上と読み替える
- (3) 第1号については病気等やむを得ない理由があり長期欠席願届等の手続きを経て5分の1に当該科目の単位数を加えた数を超えてを3分の1以上と読み替える
- (4) 5年次原級生については、履修している科目について適用する

2 以下の各号に該当する学生は、学年末評価における評価点を0点とする。

- (1) 前項により期末評価が0点となったすべての科目
- (2) 年間授業日数の5分の1を超えて欠席した場合、すべての科目
- (3) 授業料、その他学校納付金に未納がある場合、すべての科目
- (4) 学校備品（貸し出し図書・機器など）未返却のある場合、すべての科目
- (5) ただし(2)号については病気等やむを得ない理由があり長期欠席願届等の手続きを経て5分の1を超えてを3分の1以上と読み替える
- (6) ただし(3)号については真にやむを得ない理由がある場合は、適用外とする。
- (7) 5年次原級生については、履修している科目について適用する

資料 5-4-①-1 続き

〔年間評定〕

第 14 条 学年末の成績評価は、当該学年の総合成績とし、その得点により下記のように換算し評定する。

評価点範囲	評定
100 ～ 80	優
79 ～ 60	良
59 ～ 50	可
49 ～ 0	不可

2 海外から要求された場合の評定は別に定める。

〔保護者への通知〕

第 15 条 保護者への成績の通知は、評価点で通知する。ただし学年末は評定もあわせて通知する。

〔進級・卒業判定〕

第 16 条 進級認定については別に定める。

第 17 条 卒業認定については別に定める。

〔原級留置〕

第 18 条 進級または卒業を認可されない者は、現学年に留まり、その学年の全授業科目を再履修し評価を受けなければならない。但し、5 年次における留年生で履修を免除された科目はこの限りではない。

第 19 条 2 年連続して同一学年での留年はできない。但し、長期休学により再履修できなかった者はこの限りではない。

(出典 : info2012, pp. 39-41)

第4章 学校生活を送るために

[3] 進級に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、進級に関し必要な事項について定めるものとする。

(進級の認定)

第2条 進級認定は、以下の各号に該当する者について、及落判定会議において審議され、学校長が行う。

- (1) 当該年度までに履修した必修科目と選択必修科目のうち、未修得となった科目数(以下「未修得科目数」)の合計が7科目未満の者
- (2) 学校長が別に認める条件に該当しない者

(教務部条件付進級)

第3条 当該年度までの未修得科目数が3科目以下のものは、教務部条件付進級を認めることができる。

ただし、学年修了要件科目が未修得の場合についてはこの限りではない。

2 学年修了要件科目は、以下の各号に定める。

- (1) デザイン工学科 「デザイン実習Ⅰ～Ⅲ」
- (2) 電気工学科 「工学基礎」「電気工学実験」
- (3) 情報工学科 「情報工学概論」「情報工学実験Ⅱ、Ⅳ、Ⅵ」
- (4) 機械電子工学科 「工学基礎」「機械電子工学実験」

3 教務部条件付進級となった者は、学校長に誓約書を提出しなければならない。

(教務部特別条件付進級)

第4条 当該年度までの未修得科目数が3科目を越えたものについては、及落判定会議において当該学生

のおかれた状況を総合的に判断し、学科の意見も得た後、学校長は教務部特別条件付進級を認めることがある。ただし、学年修了要件科目が未修得の場合についてはこの限りではない。

- 2 教務部特別条件付進級の対象となる未修得科目数の上限は、7科目未満とする。
- 3 教務部特別条件付進級となった者は、学校長に誓約書を提出しなければならない。
- 4 教務部特別条件付進級の措置を2年連続でとることはできない。

(未修得科目数の計上)

第5条 第3条および第4条における未修得科目数の計上は以下の各号に従う。

- (1) 通年開講科目はその単位数にかかわらず1科目とする。ただし、1単位科目については2分の1科目とする。
- (2) 半期開講科目はその単位数にかかわらず2分の1科目とする。

(未修得科目の単位修得)

第6条 未修得科目は卒業までに修得しなければならない。

2 未修得科目の単位修得については、別に定める。

第7条 この規定の実施について必要な事項は、別に定める。

(附則)

1. この規定は平成15年4月1日から施行する。
2. この規定は平成18年10月1日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

第4章 学校生活を送るために

3. この規定は平成 20 年 3 月 7 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。
4. この規定は平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
5. 平成 21 年度入学者に対しては、デザイン工学科をデザイン科と読み替えるものとする。
6. この規定は平成 21 年 4 月 1 日からから施行する。
7. この規定は平成 24 年 4 月 1 日からから施行する。

第4章 学校生活を送るために

[4] 卒業に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、卒業に関し必要な事項について定めるものとする。

(卒業の認定)

第2条 卒業の認定は、学則第13条に規定する授業科目のうち、教育課程表において修得が定められた科目の単位（以下「要卒業単位」）を全て修得した者について、卒業判定会議において審議され、学校長が行う。ただし、授業料等を未納の者、および学校の物品を借用し返却しない者は卒業の認定を保留する。

2 要卒業単位のうち未修得単位があるものについては、成績操行会議の議を経て、卒業判定会議において、学校長は卒業延期または留年の措置をとることができる。

(卒業延期)

第3条 卒業延期の手続き等については、別に定める。

附則

1. この規程は平成15年4月1日から施行する。
2. この規程は平成20年3月7日から施行し、平成19年4月1日から適用する。
3. この規程は平成20年4月1日から施行する。

第4章 学校生活を送るために

[9] 卒業認定までの指導手順に関する規程

第1条 試験に関する規程第2条に基づき卒業試験の手順を以下の各号に定める

- (1) 卒業試験後一定の期間において、学年末成績（卒業研究を除く）を開示される
- (2) 同成績において不可の評定単位合計が14単位に達すると卒業延期または留年となる場合がある
- (3) 同成績が14単位未満である場合は教務規則第4条に定める認定試験を受験することができる
- (4) 認定試験は前号の学生を対象に卒業の機会を与えるために実施する。その手続きは別に定める
- (5) 前号の成績結果については実施後数日後に開示する。なお不合格の科目がある場合は卒業延期または留年となる場合がある

第2条 卒業研究審査（以下審査と略す）の手順を以下の各号に定める

- (1) 卒業論文（以下論文と略す）及び研究概要（以下概要と略す）を所定の様式で作成し、定められた期限までに指導教員の属する学科の学科長に提出する。
- (2) 卒業論文が提出期限に遅延したと認められる場合、正規の審査は受けることができず再審査を受けなければならない
- (3) 正規の審査に不合格であったものは再審査を受けなければならない
- (4) 再審査不合格のものは卒業延期または留年となる場合がある

2 卒業試験と卒業研究に合格した学生は卒業判定・受賞者選考会議により卒業判定を行う。卒業判定・受賞者選考会議では特段の事情がない限り卒業が認定される。

第3条 事務手続きについては以下の各号に定める

- (1) 不合格科目の認定試験受験料1科目あたり5,000円とともに認定試験願書を添え、学校事務室で所定の手続きを行う
- (2) 再審査の場合は再審査料10,000円とともに再審査願書を添え、学校事務室で所定の手続きを行う。ただし第1条第1項の(5)の場合はこの限りではない

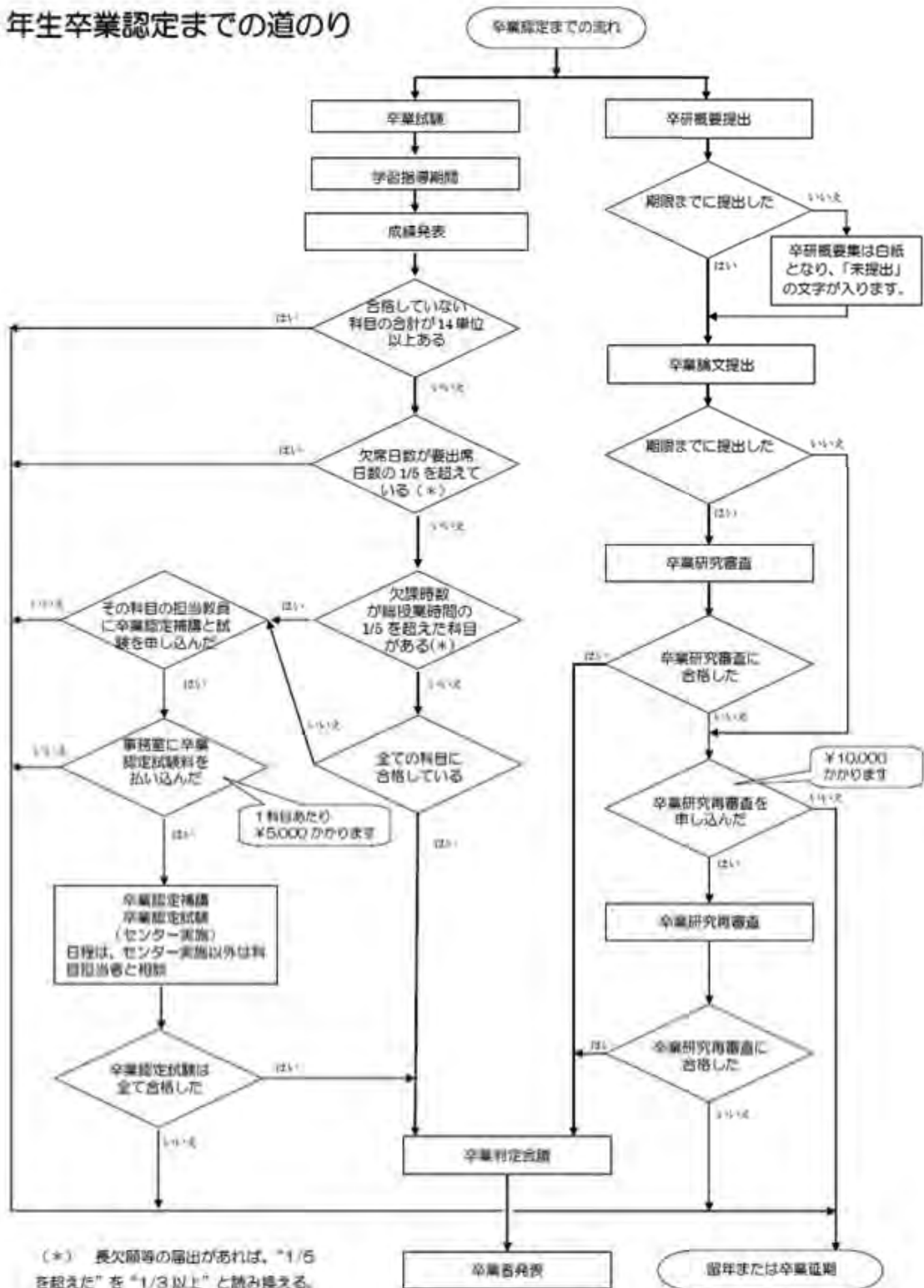
第4条 教育指導上の事項は以下の各号の通りである

- (1) 卒業試験後の出校は学校または所属学科が指定した日、及び指導教員の指示による日等となり、種々の連絡等が随時行われるので指導教員との連絡方法(携帯等)、所在を明らかにすること
- (2) 前号の期間も従前の校則が適用されているので遵守すること

第4条 付則

- (1) 本規程は平成15年4月1日より施行される
- (2) 本規程の改廃は教務部会の議を経て校長の裁可を経て発効する
- (3) 別表(4)に手続き図を示す
- (4) 本規程は平成16年4月1日付けで改定し、即日施行する
- (5) 本規程は平成18年4月1日付けで改定し、即日施行する
- (6) 本規程は平成20年4月1日付けで施行される

5 年生卒業認定までの道のり



(出典 : info2012, p. 57)

成績操行報告(科目)

[関連規則]

学則 第 20 条

準学士課程教務規則 第 11-14 条, 第 20 条

試験に関する規則

教務内規 0101 - 0105, 0501

[関連書類]

- 授業台帳
- 成績等訂正届[教務様式(成績報告-①)]

[手続き]

(前年度手続き)

- 新年度の授業台帳に評価の有無を記載する (教務部より記入依頼があります)
- 担当者が複数の場合は誰が入力するのかを新年度の授業台帳に記載する

[報告方法]

- あらかじめ配布された ID とパスワードにより成績管理システムにログインし, Web 上で報告する
- 評価点を出さない科目は, 学生ごとに「評価なし」欄にチェックするのではなく, 一括で「評価なし」をおこなうこと

[報告集計期間]

前期中間	年度始め	～	前期中間試験最終日
前期末	年度始め	～	後期授業開始前日
後期中間	年度始め	～	後期中間試験最終日
後期末	年度始め	～	後期 (学年末) 成績操行報告締切日

[報告項目]

- 評価点
 - 100 点法で記載
 - 科目開講時より成績操行報告時までの学習状況を総合に判定した総合成績であること
 - 当該年度のシラバスに記載された評価方法に従い評価点を算出すること
 - やむを得ずシラバス記載とおりの評価を実施できない場合は, 事前に専攻科長, 学科長の承認を受け学生に告知すること。係る変更があった場合, 専攻科長, 学科長はすみやかに教務主事に変更事実を報告すること。
 - 定期試験を受験しなかった学生については試験点数 0 点とし, シラバスに記載された他の評価対象項目をもとに評価点を算出すること

資料 5-4-①-6 続き

成績操行報告(科目)

- 定期試験を受験しなかった学生のなかで「教務預かり」の学生については、当該定期試験点数は仮点数の0点とし、その後の教務部からの指示に従うこと
- その他、評価点について教務部より指示があった場合は、その指示に従うこと(不正行為等)
- 休学中の学生については「評価無し」とすること。
- 復学学生の評価点については、別途教務部からの指示があります。

(区間均等評価法の場合)

区間均等評価法を採用している科目では、評価点の算出を以下のようにする

科目開講時より成績操行報告時までの間に

- 不合格区間が1つあるとき・・・45点
- 不合格区間が2つあるとき・・・40点
- 不合格区間が3つあるとき・・・35点
- 不合格区間が4つあるとき・・・30点
- 不合格区間がないとき・・・各区間の平均値とする

学年末(後期末)の評価点もこれに従う

● 欠課時数

- 評価点を出さない科目についても欠課時数の報告をすること
- 教務部から公表される学生の公欠等の資料を確認して算出すること
- 科目開講時より成績操行報告時までの欠課時数の合計で報告すること
- 試験の欠席も欠課となる。(100分試験は欠課時数2とする) ただし、試験時間中に途中入退室があっても解答用紙が提出されていれば出席とする
- 追試験、再試験及び認定試験の欠席はカウントしない
- 公欠・出校停止・忌引等は出席とみなし欠課としない
- 長期欠席および休学は欠課時数にカウントをする
- 復学学生の欠課時数については、別途教務部からの指示があります

[成績の訂正]

評価点の訂正は成績等訂正届により行うこと

[追試験の成績]

追試験を実施した学生がいる場合は、追試験結果を加味した評価点を報告すること。ただし、報告期限に間に合わない場合は、一旦試験点数0点として評価点を期限内に報告し、成績等訂正届により追試験を加味した評価点を成績操行会議までに報告しなすこと

[再試験による成績の修正]

再試験は定期試験の再実施と定義されるので、その実施期間は当該定期試験終了後からその区間の成績操行会議までとする。科目担当者は定期試験の得点と再試験の得点を差し替えて再評価する。この際、差し替え前後の成績記録を必ず保存しておくこと。なお、事情により一部学生のみを対象として再試験を実施する場合は、受講者間に不公平が生じないよう十分に配慮すること。

(出典：教務部資料)

資料 5-4-①-7

教務部 第014号
平成 23年 06月 06日

教職員各位

教務主事

平成23年度 前期中間成績操行会議の開催について (通知)

プレテック成績操行会議を下記の要領で開催いたします。関係各位は準備をよろしくお願いいたします。

記

本科1-2年成績操行会議

開催日時 平成23年 6月 18日 土曜日 9:30～12:45

開催場所 231会議室

	231会議室		231会議室
9:30-9:50	2AD	11:05-11:20	1A
9:50-10:10	2EE	11:20-11:35	1B
10:10-10:30	2ME	11:35-11:50	1C
10:30-10:50	2CS	11:50-12:05	1D
10:50-11:05	15分間休憩	12:05-12:35	1年専門

事前準備 1, 2年生の科目担当者は担当者コメントをプレテック主任宛にご提出ください。
提出締切等の詳細は、プレテック主任発信のメールをご確認ください。

出席者 議事進行 プレテック主任、学年主任、学級担任、学生主事補（プレ担当）、参与
会議参加 学級担任、科目担当、他に指定された教員（各部署からの依頼を受けた者）
会議陪席 校長、副校長、教務主事、学生主事

議事進行 ① 配付資料の確認
② 評価点・欠課時数の訂正
③ 学級担任からのクラス概況
④ 科目担当者のコメント
⑤ 教務部条件未解除者の確認、学生部条件解除の決定
※ 限られた会議時間です。円滑な議事進行のためにも、コメントは簡潔にお願いいたします。

会議記録 会議終了後、書記担当の方は議事録をプレテック主任にご提出ください。
プレテック主任は議事録を確認後、下記フォルダにご提出ください。
Share > 教務文書 > 2011年度成績操行会議 > 2011年度_前期中間

資料 5-4-①-7 続き

本科3-5年成績操行会議

前期中間では全体会議は開催しません。必要に応じて各学科内で情報共有を図ってください。
なお、成績面で目立って問題のある学生（留年・退学が懸念される学生）については、早めに教務主事まで
ご報告ください。

以上

(出典：教務部資料)

教務部 第022号
平成 23年 07月 25日

教職員各位

教務主事

平成23年度 前期末成績操行会議の開催について（通知）

前期末成績操行会議を下記の要領で開催いたします。関係する方には、準備をよろしくお願いいたします。

記

開催日時 平成23年 9月 20日 火曜日（授業予備日） 09:30～16:00

開催場所 231会議室ならびに409講義室（進行スケジュールは表1を参照のこと）

事前準備 1, 2年生の科目担当者は担当者コメントをプレテック主任宛にご提出ください。
提出締切等の詳細は、プレテック主任発信のメールをご確認ください。

出席者 プレテック

議事進行 プレテック主任、学年主任、学級担任、学生主事補（プレ担当）、参与
会議参加 学級担任、科目担当、他に指定された教員（各部署からの依頼を受けた者）
会議陪席 校長、副校長、教務主事、学生主事

テック

議事進行 学科長、教務担当、学級担任、学生担当
会議参加 学級担任、科目担当、他に指定された教員（各部署からの依頼を受けた者）
会議陪席 校長、副校長、教務主事、学生主事

議事進行 ① 配付資料の確認
② 評価無効措置報告（前期科目のみ／教務主事）
③ 評価点・欠課時数の訂正
④ 学級担任からのクラス概況
⑤ 科目担当者のコメント
⑥ 教務部条件未解除者の確認、学生部条件解除の決定
⑦ 面談・警告書などの措置決定
※ 限られた会議時間です。円滑な議事進行のためにも、コメントは簡潔にお願いいたします。

会議記録 会議終了後、書記担当の方は議事録をプレテック主任にご提出ください。
1) プレテック主任は議事録を確認後、下記フォルダにご提出ください。
Share > 教務文書 > 2011年度成績操行会議 > 2011年度_前期末
2) テックの各学科教務担当は議事録を下記フォルダにご提出ください。
Share > 教務文書 > 2011年度成績操行会議 > 2011年度_前期末
3) テックの各学科長ならびにプレテック主任は、面談学生が決定しましたら、教務主事宛に
「面談学生一覧」をメールでご提出ください。書式は教務事務よりお送りします。
★ 締切：9月 21日（水）17:00 時間厳守

表1 前期末成績操行会議のタイムテーブル

時間	231会議室	409講義室
9:30-10:00	3EE / 4EE / 5EE (一般科目+操行)	3AD / 4AD / 5AD (専門科目)
10:00-10:30	3EE / 4EE / 5EE (専門科目)	3AD / 4AD / 5AD (一般科目+操行)
10:30-10:40	休憩(10分)/入替	
10:40-11:00	1A (一般科目+操行)	
11:00-11:20	1B (一般科目+操行)	
11:20-11:40	1C (一般科目+操行)	
11:40-12:00	1D (一般科目+操行)	
昼休み	昼休み(45分)	
12:45-13:15	1年全クラス (専門科目)	
13:20-13:25	休憩(5分)/入替	
13:25-13:45	専攻科	
13:45-13:50	休憩(5分)/入替	
13:50-14:10	2AD (一般科目+専門科目+操行)	
14:10-14:30	2EE (一般科目+専門科目+操行)	
14:30-14:50	2ME (一般科目+専門科目+操行)	
14:50-15:10	2CS (一般科目+専門科目+操行)	
15:10-15:20	休憩(10分)/入替	
15:20-15:50	3ME / 4ME / 5ME (一般科目+操行)	3CS / 4CS / 5CS (専門科目)
15:50-16:20	3ME / 4ME / 5EC (専門科目)	3CS / 4CS / 5CS (一般科目+操行)

※ 専門学科の(一般科目+操行)の時間帯では、一般科目の科目担当者も出席します。
 学生の操行面に関する審議は、関係者全員が揃う当該時間帯でお願いします。

以上

(出典：教務部資料)

第4章 学校生活を送るために

4.2.4.2 教務諸規程

教務諸規程通則 第1条 以下の各規程は教務規則第2条に基づき定めるものである。

[1] 試験に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、試験に関し必要な事項について定めるものとする。

(定期試験)

第2条 定期試験は、年間4回を以下の各号の通り実施する。

- (1) その名称は前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、後期末試験とする。
 - (2) 後期末試験は通年科目にあつては学年末試験と言い替えることができる。
 - (3) 第5学年における後期末試験は卒業試験と言い換える。
 - (4) 実施時期については毎年度、試験期間として学年暦に明示する。
 - (5) 定期試験の実施時間は別にこれを定め、公表する。
 - (6) 科目の事情により、学校長は当該科目の定期試験を試験期間の前後に実施することができる。
- 2 講義科目のうちで、定期試験によって学業成績の評価を下すものは、中間試験と期末試験をともに実施しなければならない。ただし通年開講科目のうち、その単位数が1単位の科目については、中間試験を省略することができる。
 - 3 正当な理由なく定期試験を受験しなかった学生の当該科目の試験評価は0点とする。
 - 4 停学により受験できなかった科目については、試験評価を0点とし追試験の受験は認めないものとする。
 - 5 定期試験において不正行為をした者は、その科目以降に実施される定期試験は受験できない。また、不正行為をした当該学生が受験する試験期間中の全試験科目の試験評価を0点とする。
 - 6 不正行為をした当該学生は学則第34条により懲戒処分をうける。
 - 7 定期試験の時間割は別にこれを定め試験実施の一定期間前に公示する。
 - 8 定期試験は時間割等によって指定された会場で実施されなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りではない。
 - 9 定期試験受験の際の注意規定は別にこれを定める。

(追試験)

第3条 定期試験などを正当な理由で受験できなかった者については、一定の要件を満たした者に対して、追試験を行うことができる。

- 2 追試験の評価は80点満点で評価する。ただし、特段の事情が認められる場合は100点満点で評価することができる。
- 3 一定の要件及び追試験の実施要項等については別に定める。
- 4 やむを得ない事由により追試験を受験できない学生に対しては、教務部会の議を経たのち、次の試験期間における当該科目の試験評価の80%を追試験の評価とすることができる。ただし、特段の事情が

第4章 学校生活を送るために

認められる場合は100%を追試験の評価とすることができる。

- 5 前項の措置は、学年末試験及び前期開講科目の前期末試験期間に生じる追試験に対しては行わない。
この場合、追試験評価は0点とする。

(再試験)

第4条 科目担当者は当該科目開講期間内に必要に応じて、学生を指定して定期試験を再度実施することができる。再試験の実施期間は、当該定期試験終了後からその区間の成績操行会議までとする。

- 2 科目担当者は再試験の得点を先に実施した定期試験の得点と差し替える。なお、本来再試験は全員が対象であるのが原則だが、事情により一部学生のみを実施する場合は、当該科目履修者間に不公平が生じないように十分配慮すること。
- 3 科目担当者は再試験によって修正された差し替え前後の成績記録を必ず保存しておかなければならない。

(認定試験)

第5条 成績が確定した未修得科目の単位認定のために認定試験を実施することができる。

- 2 評価無効の措置を受けた未修得科目の単位認定については、別に定める。
- 3 認定試験の実施要項等については別に定める。

第6条 この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

(附則)

1. この規定は平成15年4月1日から施行する。
2. この規定は平成16年4月1日から施行する。
3. この規定は平成17年4月1日から施行する。
4. この規定は平成18年4月1日から施行する。
5. この規定は平成19年4月1日から施行する。
6. この規定は平成20年4月1日から施行する。
7. この規定は平成21年4月1日から施行する。
8. この規定は平成22年4月1日から施行する。
9. この規定は平成24年4月1日から施行する。

教務部 第018号
平成 23年 06月 27日

学生諸君

教務主事

通知表の内容を確認しよう

今年度の4月から前期中間試験までの評価点、欠課時数、欠席日数の記載された成績通知書を、先の父母懇談会を通じて保護者の方に配布しました。（当日欠席した方には、本日のLHRで配布します。）

成績通知書に記載される内容について、教員は何度も確認しています。ですが、学生諸君も自分の目で、もう一度確認してみてください。すでに案内のあった通り、今年度より単位認定の基準点(=合格点)は60点になっていますので、その点も確認しておきましょう。

その上で、評価点と欠課時数について自分自身の認識と異なり疑問がある場合は、科目担当の先生に問い合わせてみてください。また、欠席日数や遅刻回数について疑問がある場合には、クラス担任に問い合わせてみましょう。その場で成績通知書に記載されている内容に誤りがあると判明した場合、担当教員が教務部宛てに「成績訂正届」を提出して成績データを修正します。

学生諸君と教員の間では、立場や視点の違いから見解が異なることがよくあります。ですが、成績通知書に記載される内容は、成績や出欠の客観的なデータですので、よく話し合えばお互い納得できるはずです。きちんと疑問に思う部分を申し出て、大人の解決を図ってください。

担当教員と十分な話し合いを持った上で、それでも疑問の残った学生は、「成績等調査制度」を利用することができますので、以下の手順に従って手続きをしてください。

- ① 通知表発行日から1週間以内に、「成績等調査願」に必要事項を記入して、教務主事に提出する。
教務主事は学内で調査を行い、調査結果を学生に伝える。
- ② それでも納得いかない場合、調査願の回答日から1週間以内に、「成績等再調査申請書」に必要事項を記入して、学校長に提出する。学校長は学内に調査委員会を設け、その調査結果を学生に伝える。

サレジオ高専は、成績評価の透明性を大切にしていきたいと考えています。これを守るためには、教員と学生の双方が成績評価に対して真摯な姿勢で向かい合うことが大切です。成績評価は、皆さん自身の学業への取り組みの大切なフィードバックです。真剣に取り組んでいる人ならば、その評価も真剣に受け止めるはずです。疑問があれば、大人のスタンスで担当の先生としっかりと話し合いましょう。「成績等調査願」や「成績等再調査申請書」の提出は、あくまでも最後の手段です。

本件に関するお問い合わせは、下記まで電話またはメールにて直接お願いいたします。

教務主事 石田 毅
電 話 042-775-3020 (代表)
メール ishida@salesio-sp.ac.jp

(出典：教務部資料)

教務部 第025号
平成23年9月26日

学生諸君

教務主事

教育改善のための意見箱設置について（通知）

本校では、学校生活の中核をなす教育活動の質向上を目的とした取り組みとして、平成20年度より授業改善のための意見箱が設置されています。学生諸君が納得また安心して授業に取り組める環境を確保するために、改めて意見箱の設置に関するお知らせをいたします。意見箱設置の目的を十分に理解した上で、建設的に活用されることを希望します。

（設置の狙い）

広く教育活動の質的改善を促進するために、受講生の意見を聴取することを目的とする。よって取り扱う投稿は、授業のあり方ならびに教員の言動に関する事案を主とする。

- 【具体例】
- | | |
|--|---------------|
| <input type="checkbox"/> 授業がシラバスに記載された授業目的と合致していない | （授業計画） |
| <input type="checkbox"/> 教員が注意しないのでうさくて授業に集中できない | （授業運営） |
| <input type="checkbox"/> 授業中に質問をしても、対応してもらえない | （授業運営） |
| <input type="checkbox"/> 成績評価の方法がシラバスで説明されているものと違う | （成績評価） |
| <input type="checkbox"/> 授業中に露骨なえこひいきをする教員がいる | （パワーハラスメント） |
| <input type="checkbox"/> 授業中に教員から暴言を浴びせられた | （パワーハラスメント） |
| <input type="checkbox"/> 教員から性的な嫌がらせを受けた | （セクシャルハラスメント） |

（設置場所）

中央教務センター前の廊下に意見箱を設置する。投稿用の書式も合わせて備える。

（手続き方法）

授業改善の提案は以下の手順で行うものとする。

1. 所定の書式（「授業に関する意見書」）に提案事項を記入する。その際、**記名を原則**とし、無記名の提案には対応しない。
2. 所定の書式に記された相談員の中から面談を希望する相手を選択する。
3. 希望した相談員から面談日時の連絡が来るので、面談の日時を調整する。
4. 相談員との面談で聴取した内容をもとに、相談員は「改善提案要望書」を作成する。なお、要望書には提案した学生の氏名は記載されない（匿名性の保持）。
5. 投稿された案件は、学生の承諾のもとにFD(教員研修)活動に利用されることがある。
6. 作成した「改善提案要望書」をもとに、調査の指示が副校長からなされる。またすべての「授業に関する意見書」および「改善提案要望書」は学校長がこれを保管する。
7. 希望する学生は、後日相談員を通じて、改善提案要望がどのように展開されたか報告を受けることができる。

以上

教務様式 (授業改善要望-①)

授業に関する意見書

平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日提出

投稿者の 所属	学科クラス _____年 _____学科 _____番	
	混成クラス _____年 _____組 _____番	
対象となる 授業	授業名	担当者
授業への 意見		
受付日：平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日 受理No. _____		
希望する 面談者 (役職 / 所属)	<input type="checkbox"/> 石田 毅 (教務主事 / 一般教育科)	<input type="checkbox"/> 森 幸男 (教務主事補 / 機械電子工学科)
	<input type="checkbox"/> 内田 健 (教務主事補 / 情報工学科)	<input type="checkbox"/> 関口 栄子 (教務学生課長 / 事務部)
	<input type="checkbox"/> その他 (特に面談を希望する教職員がいる場合は、その人の名前を明記してください。)	

(注意)

- ※ 複数名のグループ投書も受理します。その場合は、代表者の氏名と所属を記入して下さい。
- ※ 記名がない投書には基本的に対応しません。
- ※ 投書した学生の所属や氏名は、意見箱担当事務職員、面談者、学校長以外には公表されません。
- ※ 投稿された内容は、投稿学生の所属や氏名を除き、今後の授業改善活動や教員研修会の資料として利用されることがあります。ご了承ください。

(出典：教務部資料)

第4章 学校生活を送るために

[5] 成績の調査に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学生・保護者からの成績通知書記載事項に関する問合せ（以下、成績等調査という）に関し必要な事項について定めるものとする。

(成績等調査の申請)

第2条 成績等調査を申請しようとする者は、成績通知書発行日から1週間以内に、所定の用紙に必要事項を記入して教務主事に提出しなければならない。

2 成績等調査を申請することができる者は、調査対象となる学生本人、またはその学生の保護者および保証人のみとする。

(科目担当教員の義務)

第3条 成績等調査の対象となる科目の担当者は、所定の様式にて問合せ事項について速やかに回答し、教務主事に提出しなければならない。

(成績等調査の報告)

第4条 教務主事は成績等調査の結果を速やかに申請者に報告しなければならない。

(申請者の救済)

第5条 成績等調査の結果に不服のあるときは、調査項目について1回に限り、申請者は再調査（以下、成績等再調査という）を申請することができる。

2 成績等再調査を申請しようとする者は、成績等調査の回答日から1週間以内に、所定の用紙に必要事項を記入して学校長に提出しなければならない。

3 成績等再調査を申請することができる者は、第2条2項に規定する者とする。

(成績等再調査の実施)

第6条 成績等再調査の申請があった場合、学校長は申請内容を教務部会に諮り、再調査が必要と認められた場合は、ただちに成績調査部会を編成し、速やかに調査に当たらなくてはならない。

2 成績調査部会の部会員は別にこれを定める。

(科目担当教員の義務)

第7条 成績等再調査の対象となる科目の担当者は、所定の様式にて問合せ事項について速やかに回答し、成績調査部会に提出しなければならない。

2 科目担当者は、成績調査部会より求めがあった場合には、成績評価に関する資料を提出しなければならない。

(評価の修正命令)

第8条 学校長は、成績調査部会の報告を受け、教務部会の議を経て、科目担当教員に評価点の修正を命じることがある。

(成績等再調査の報告)

第9条 学校長は成績等再調査の結果を速やかに申請者に報告しなければならない。

(附則)

1. この規程は、平成19年10月1日から施行する。

教務部 第054号
平成 23年 2月 20日

教職員各位

教務主事

及落判定会議の開催について（通知）

及落判定会議を下記の通り開催いたします。

記

- 日時 平成 24年 3月 9日（金） 時間は以下の表を参照のこと

会議時間	クラス
09:30 ~ 10:30	1A, 1B, 1C, 1D
10:40 ~ 11:40	2AD, 2EE, 2ME, 2CS
11:50 ~ 12:20	3EE, 4EE
昼休み	
13:00 ~ 13:30	3ME, 4ME
13:40 ~ 14:10	3AD, 4AD
14:20 ~ 14:50	3CS, 4CS

- 会場 231会議室
- 出席 (本科1-2年)
 学校長、副校長、教務主事、学生主事、プレ主任、学年主任、プレ学生担当、学級担任、
 部署長に依頼された教員
- (本科3-4年)
 学校長、副校長、教務主事、学生主事、学科長、学科長補佐、教務担当、学生担当、
 学級担任、部署長に依頼された教員
- 準備 担任の先生は、成績操行会議で確定した及落判定調書を下記に保存してください。
 調書の受取： (運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > 及落判定調書2011【依頼】
 調書の提出： (運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > 及落判定調書2011【提出】
- 進行 別紙1の進行手順を参照してください。
- 記録 議事録の作成をお願いいたします。及落判定会議終了後、速やかに下記へ提出願います。
 議事録の提出： (運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > 及落判定会議2011

(別紙 1)

平成23年度 及落判定会議の流れ

1. 教務主事によるこの会議の説明

- 目的 及落判定調書の確認と次年度学生の決定
方法 プロジェクターで欠及落判定調書を投影しながら進行します。
基準 不可3科目以下は条件付進級とする
3科目超～7科目未満は留年候補だが、審議により特別条件進級の可能性有り
7科目以上の場合は審議せず、留年候補とする

以下の審議は教務主事の司会によって進める。

1. 学生異動の確認（退学予定者、転学科予定者、退学認定の許可）
2. 留年候補者の提示（成績操行会議議事録による留年候補者に対するコメント）
3. 教務部条件学生の決定（条件付進級、特別条件付進級、留年）
4. 学生部条件学生の決定
5. 表彰者の確認、決定（皆勤賞、精勤賞）
6. 表彰候補者の提示、決定（校長賞、努力賞）
7. 及落判定調書および表彰調書の最終確認

(出典：教務部資料)

教務部 第052号
平成24年2月20日

教職員各位

教務主事

平成23年度 本科5年成績操行会議、卒業・修了判定会議、表彰会議の開催について（通知）

下記の通り、本科5年成績操行会議および卒業判定会議、専攻科1年成績操行会議および修了判定会議、ならびに表彰会議を開催いたします。関係各位は準備をお願いいたします。

記

○日時 平成24年3月6日（火） 時間は以下の表を参照のこと

会議時間	対象学科
09:10～09:50	情報工学科 成績操行会議／卒業判定会議
10:00～10:40	電子工学科 成績操行会議／卒業判定会議
10:50～11:30	電気工学科 成績操行会議／卒業判定会議
11:40～12:20	デザイン工学科 成績操行会議／卒業判定会議
12:30～12:45	専攻科 1年成績操行会議／修了判定会議
13:30～15:00	表彰会議（全学科）

○会場 231会議室

○出席 学校長、副校長、教務主事、学生主事、学科長、教務担当、学生担当、学級担任、科目担当者（成績操行会議／卒業判定会議のみ）
※その他必要と認められる教職員の出席は各部署長が依頼してください。
※専攻科の会議は1年生の成績操行会議を兼ねるので、1年生科目担当者も出席してください。

○準備 当日はプロジェクタを使用して卒業調書作成の作業を平行して行います。
当日の配布資料（成績一覧表等）は、各学科で準備をお願いいたします。ご準備ください。
担任の先生は、下記の場所にある卒業調書を事前に作成しておくようお願いいたします。
調書の受取：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業調書2011【依頼】
調書の提出：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業調書2011【提出】

○進行 <卒業判定会議>

- ① 平成23年度の成績確定、精勤賞・皆勤賞、優秀賞・優等賞・努力賞の受賞者決定
- ② 卒業者の確定、卒業表彰者候補の決定

○記録 各学科で議事録の作成をお願いいたします。

議事録の提出：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業・修了判定会議2011

以上

（出典：教務部資料）

第4章 学生生活を送るために

(成績処理)

内規 0401 成績処理は内規 0101 により報告された結果をもとに教務部において以下の各号の手順により集計処理される

- (1) 報告された結果を基に、教務主事は準学士課程教務規則第 13 条に従い評価無効措置を実施し、担当教員に評価無効措置を実施したことを連絡する
- (2) 教務主事は成績操行会議において前号の措置をした学生を報告する
- (3) 成績一覧表はその期までの総合成績が作成され学科長またはプレテック主事に戻される
- (4) 学年末はこれに加えて教務規則第 14 条の評定一覧が追加される

内規 0402 成績の訂正が発生したときは、担当教員は成績等訂正届を教務部へ提出する

内規 0403 成績通知表は成績操行会議終了後、訂正処理後作成されて担任に渡される。これに必要な事項を追記して校長の押印を経て学生に配布する

(成績操行会議)

内規 0501 準学士課程教務規則第 12 条に基づき成績操行会議は学生の履修状況、学校生活状況を関係教員が把握し、指導上の資料を得るために実施する

内規 0502 学年末においては及落判定会議において当該学生の及落を判定する資料を得るために実施する

内規 0503 第 3 学年以上については、学科会議を成績操行会議にかえることができる

(同構成員)

内規 0504 会議を構成する教員は原則以下の通りである

(1) プレテック

議長・書記 プレテック主事、学年主任、学生担当

参加者 担任、科目担当、他に指定された教職員

陪席者 校長、副校長、教務主事、学生主事

(2) テック

議長・書記 学科長、教務担当、学生担当(学科)

参加者 担任、科目担当、他に指定された教職員

陪席者 校長、副校長、教務主事、学生主事

(3) 陪席者は必ずしも出席を義務付けられない

(成績操行会議の進行)

内規 0505 会議の進行については以下の各号の手順に従う

- (1) 配布資料の確認
- (2) 内規 0401 (2)号
- (3) 評価点・欠課時数の訂正(記載漏れ、誤入力等確認)
- (4) 担任講評
- (5) 科目担当講評
- (6) 学生主事補講評

第4章 学生生活を送るために

(7) 措置の決定(担任面談、学科面談、中央面談、警告書発送等措置)

内規 0506 内規 0505 の(7)はプレテックにおいてはこの限りではない。別途プレテック主事のもとで決定される

内規 0507 会議終了後、措置を含めて指定の様式による措置報告を教務主事に提出する
(学年末成績操行会議)

内規 0508 学年末にあたっては措置の決定は以下の各号に替わる

- (1) 担任講評では及落調書に記載する事項の報告
- (2) 内規による進級可否の判定、留年候補者の選定等
- (3) 条件付候補の認定科目の確認等
- (4) 校長賞の決定
- (5) 努力賞の決定
- (6) 学年皆勤賞・精勤賞の確認
- (7) 学生部条件の確認

内規 0509 会議終了後、担任は指定の様式による及落調書を完成し教務主事に提出する。ただし、報告は担任の代理者が行うこともできる

(同会議の成績判定・修正)

内規 0510 成績審議は学年末総合評価(100点法)一覧によって行う

内規 0511 不合格科目数が3科目を超える学生については意見を聴取した後留年候補とする

内規 0512 別に定める学年修了要件科目(実験実習等)をもつ学生についても、審議の上留年候補とすることがある

内規 0513 学年末における表彰は教育的配慮により以下の通り行う

- (1) 校長賞 当該年度で成績、学生生活にあって最も優れたもの
- (2) 努力賞 当該年度で成績あるいは学生生活にあって努力の著しいもの
- (3) 皆勤賞 当該年度で欠席、遅刻、早退が皆無のもの
- (4) 精勤賞 当該年度で欠席が1日未満のもの、遅刻、早退の1回は欠席1/3に換算する

(及落判定会議・卒業判定会議)

内規 0514 校長は学年末成績操行会議を経て1学年より4学年までは及落判定会議を開催する

内規 0515 内規 0514 は5年生については卒業判定会議と読み替える

内規 0516 同会議は以下の各号に相当する構成員をもって組織する

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 教務主事
- (4) 学生主事
- (5) 学科長
- (6) 教務及び学生担当
- (7) 当該学級担任

第4章 学生生活を送るために

(8) プレテックに関わる学年についてはプレテック主事、学年主任

(9) 必要と認められる教職員

内規 0517 及落判定会議は学年末成績操行会議の結果を受けて報告される及落調書をもとに当該クラスの学生の身分について議論し、校長が裁定を下す。

内規 0518 5年生の場合は内規 0517 の及落調書を卒業調書と読み替える

内規 0519 審議事項は以下の各号について検討する

- (1) 学生異動確認
- (2) 留年候補者提示
- (3) 表彰候補者提示（校長賞、努力賞、皆勤賞、精勤賞）
- (4) 学生身分確定（留年、特別条件付、条件付、学生部条件付、退学）
- (5) 最終及落調書の提出

内規 0520 卒業判定においては内規 5019 を以下の通り読み替える

- (1) 卒業研究審査の経過（合格、再審査）
- (2) 卒業に関する判定（卒業、卒業延期、留年）
- (3) 表彰候補
- (4) 最終卒業調書の提出

(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定および進級・卒業認定について規定が設けられている。『info』への記載や、成績評価への意識づけ啓蒙によって学生への周知も図っている。また成績規程に従った運用は、成績操行会議、及落判定会議、卒業判定会議で適切に行われている。

以上より、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生にも周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

<専攻科課程>

観点5-5-①： 教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

専攻科の教育の目的は、「研究開発能力を有する創造的な技術者の育成」であり、この目的を達成するために、準学士課程の専門性をベースにしてさらに高度な科学・技術を習得することが必要である。専攻科課程ではこれを「Tの字型教育」というキーワードで表している(資料5-5-①-1)。この「Tの字型教育」を軸に、準学士課程と専攻科課程の関係を俯瞰的に表したのが(資料5-5-①-2)である。

基礎となる準学士課程「電気工学科」、「機械電子工学科」及び「情報工学科」と「生産システム工学専攻」の間の科目関連は(資料5-5-①-3～5)に示す通りである。

5.8 専攻科生産システム工学専攻紹介

1. 目的(養成する技術者像)

本校では、高等専門学校本科の5年間にわたる準学士課程の教育を基礎として、2年間の修業年限の専攻科(生産システム工学専攻)を設置している。電気工学・電子工学・情報工学を基礎として、さらに高度な科学・技術を習得し、「研究開発能力を有する創造的な技術者の育成」を目指している。そのためには、まず教員が創造的活動を行っていることが求められる。(別紙資料「専攻科の現状と問題点及び施策」参照)

2. 生産システム工学専攻の学習教育目標

教育目的	学校教育目標	生産システム工学専攻学習教育目標
専門性	基礎力	特別研究の遂行過程において常に基礎に還り、新知識を創り出す訓練を行う
	専門性	準学士課程の専門課程と接続して、より高度な専門領域について研究室を中心として特別実験や特別研究の実践を通して知識のみならず、学ぶ力を養うことで創造的研究開発能力を得る
人間性	コミュニケーション力	学会の場を通じ、論文作成、研究発表(情報発信)、質疑応答を通じ、真の意味でのコミュニケーション力を養う
	人間性	学問を通して人間性を養う<訓蒙窮理図解(きんもうきゅうりずかい) 参照>
国際性	国際性	国際会議における研究発表を通じ、エンジニアとしての国際性を身につける

3. 学習教育目標について(学生への解説)

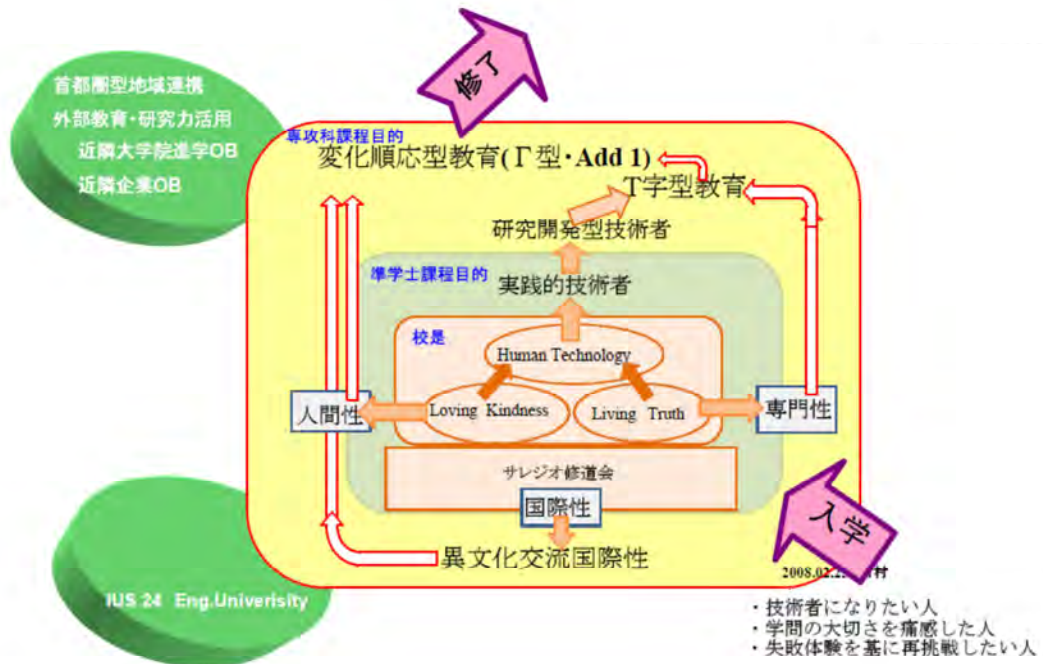
3.1 Tの字型教育

早期専門教育として一つの専門を極めることが高専教育の期待であり、サレジオ修道会の予防教育法の基礎でもある。(かつて、サレジオ修道会<以下サレジオ会>の創立者である聖ヨハネ・ボスコは、孤児達に素朴な専門教育を施すことによって彼らに生活の糧を与え、社会人として独立する術を学ばせたのが本高専における専門教育の源流となっている。) Tの字の縦棒教育である準学士課程の専門基礎教育に立脚して、専攻科課程ではその専門性を極めることを目的としている。併せて、環境問題を技術の観点で提言できる技術者、グローバル化時代到来に伴う世界規模の技術協業において、日本固有文化発信のできる技術者が必要である。本校はサレジオ修道会をハブとする全世界規模の姉妹校 1700 校と連携し、IUS-EG (Salesian Institution of Higher Education - Engineering Group = サレジオ会高等教育機関連合一工学グループ) を構成する 24 校の一角でもあり、とくに専攻科は後者に重きを置いている。Tの字の横棒教育である。Tの字の縦・横が織りなす綴れ織りのごとき教育システムの構築を目的としている。そのために以下の具体的指針を示す。

- ① 準学士課程における専門基礎の充実を通してT字型教育の基本習得
- ② 専攻科課程にあってはTの字の専門性のさらなる深掘
- ③ 技術者、研究者として生涯学ぶことへ向けての自己啓発
- ④ 専門を常に Add+1 (進化論的 Add One 教育) する準備教育
- ⑤ 教員にあっては特別研究指導を通じての教育・研究力の常なる向上
- ⑥ 研究体制での主査(博士)・副査制の確立

(出典 info2011)

資料 5 - 5 - ① - 2

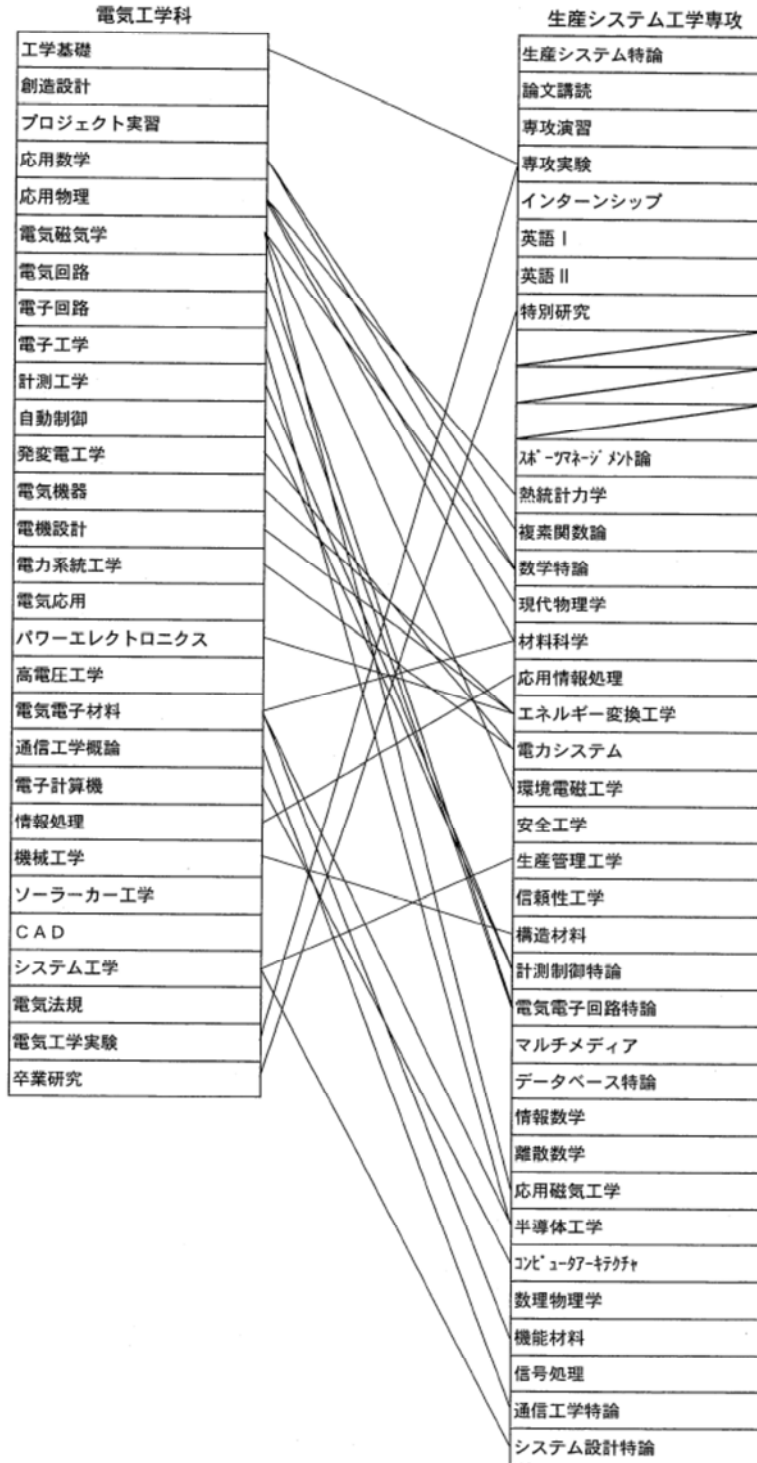


(出典「専攻科履修の手引き」、「専攻科の現状と問題点及び施策」)

電気工学科科目と生産システム工学専攻科目の関連

資料5-5-①-3

専攻科の基礎となる学科等の関連図

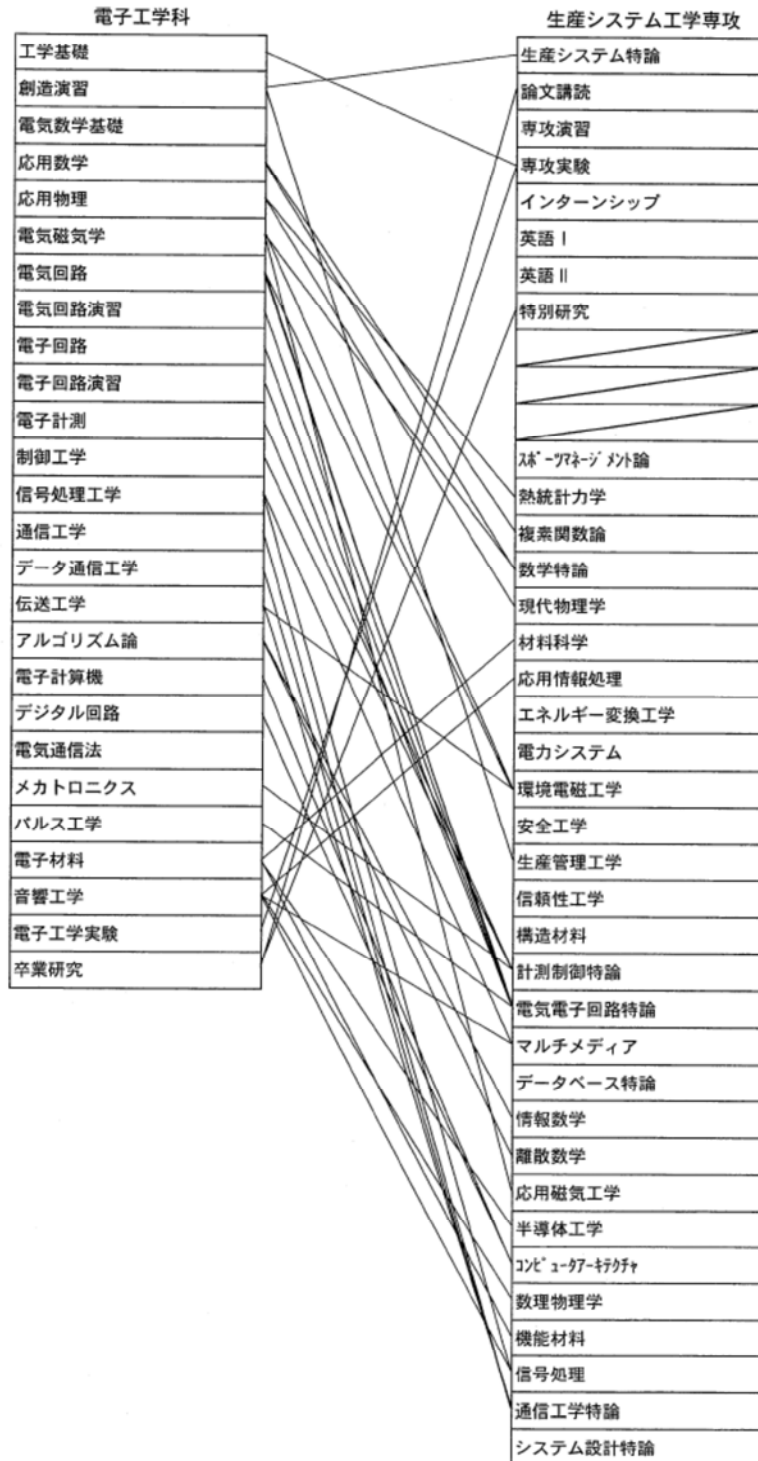


(出典 「平成18年度10月サレジオ工業高等専門学校専攻科教育の実施状況の審査に関する書類」)

機械電子工学科科目と生産システム工学専攻科目の関連

資料5-5-①-4

専攻科の基礎となる学科等の相関図

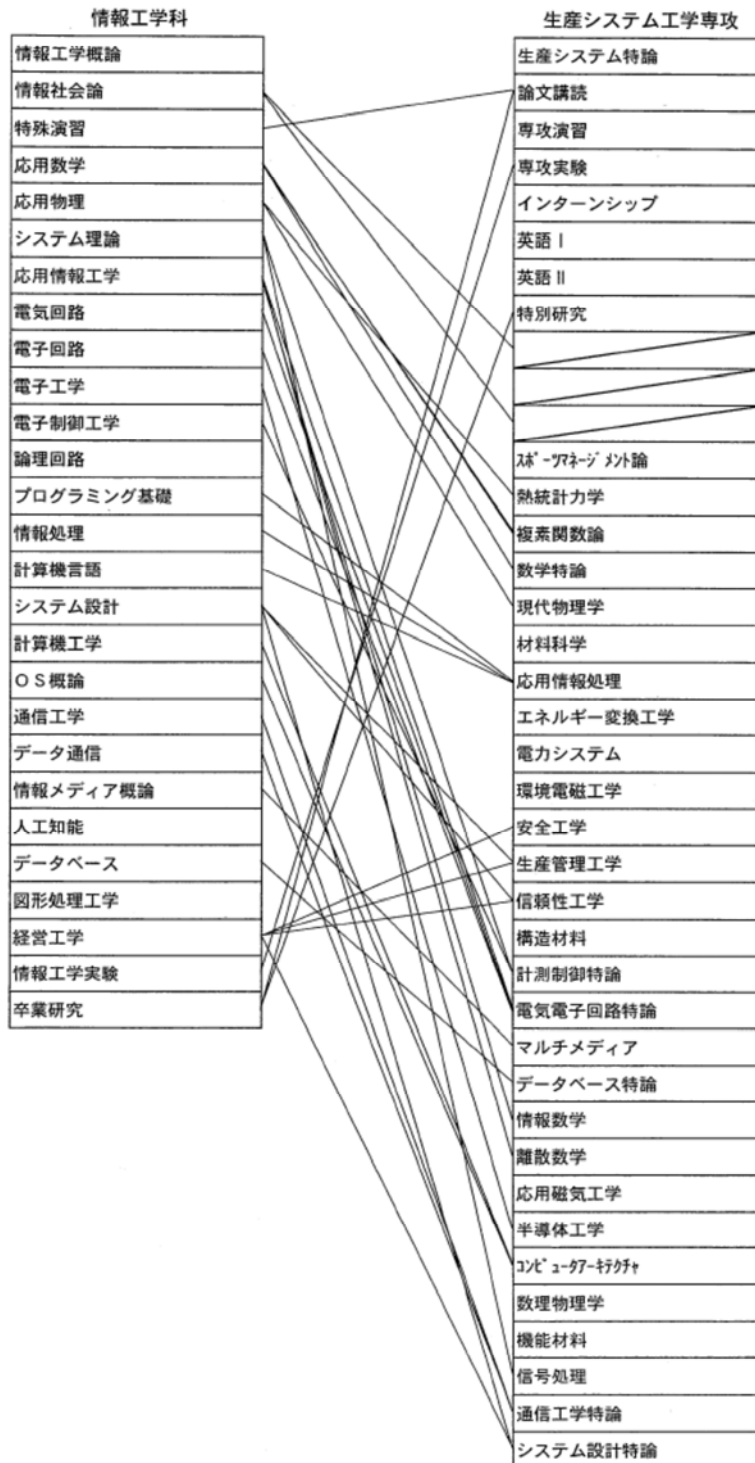


(出典 「平成18年度10月サレジオ工業高等専門学校専攻科教育の実施状況の審査に関する書類」)

情報工学科科目と生産システム工学専攻科目の関連

資料 5-5-①-5

専攻科の基礎となる学科等の相関図



(出典 「平成18年度10月サレジオ工業高等専門学校専攻科教育の実施状況の審査に関する書類」)

(分析結果とその根拠理由)

科目関連図により準学士課程の「電気工学科」、「機械電子工学科（電子工学科）」、「情報工学科」と、「専攻科生産システム工学専攻」との連続性を確認することができる。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程の教育課程表と教育目標別の科目構成図を(資料5-5-②-1, 2)に示す。専攻科の教育の目的に照らして、「Tの字型教育」の土台となるべき基礎力に関する科目と、人間性及び国際性に関する科目を必修として主に1年次に配置し、その他の応用的内容の科目を2年次に配置するように配慮している。

また、選択科目が多い専攻科教育課程の中にあって、専攻科課程修了時に教育の目的を達成することができるように、「基礎力」、「コミュニケーション力」、「人間性」及び「国際性」に対応する科目には必修科目を多く配置するように配慮している。

平成22年度入学学生の専攻科課程教育課程表

資料5-5-②-1その1

専攻科 生産システム工学専攻 教育課程表 H22年度入学生

H22

区分	科目名	担当教員	授業方法	履修期間		単位	必修得単位数
				学年	学期		
必修	生産システム特論	指定した教員	講義	1年	前期	2	24
	論文講読Ⅰ	吉野	演習	1年	前期	1	
	論文講読Ⅱ	大杉	演習	1年	後期	1	
	専攻演習Ⅰ	吉田	演習	1年	前期	1	
	専攻演習Ⅱ	大杉	演習	1年	前期	1	
	専攻実験	加藤・吉田・山澤・米盛	実験	1年	適年	2	
	英語Ⅰ	真島	演習	1年	適年	2	
	英語Ⅱ	真島	演習	2年	適年	2	
	特別研究		総合	1-2年	適年	10	
	伝統文化特論	野島、真島	講義	1年	前期	2	
選択	インターシップ	大藤	実習	1年	適年	2	82
	熱統計力学	大杉	講義	1年	前期	2	
	複素関数論	山野辺	講義	2年	前期	2	
	数学特論	鎌野	講義	1年	前期	2	
	量子力学	山野辺	講義	2年	前期	2	
	材料科学	塩田	講義	2年	前期	2	
	組込技術要素特論		講義	1年	後期	2	
	エネルギー変換工学	山下	講義	1年	後期	2	
	電力システム	山下	講義	1年	前期	2	
	環境電磁工学	斎藤	講義	1年	前期	2	
	機械工学概論	大藤	講義	1年	前期	2	
	バイオメカニクス	大藤	講義	1年	後期	2	
	信頼・安全性工学	斎藤	講義	1年	後期	2	
	生産管理工学	平岡	講義	1年	後期	2	
	構造材料	加藤	講義	1年	前期	2	
	計測制御特論	吉澤	講義	1年	後期	2	
	電気電子回路特論	吉野	講義	1年	後期	2	
	情報数学	市村	講義	1年	前期	2	
	符号理論	市村	講義	1年	後期	2	
	応用磁気工学	吉澤	講義	2年	前期	2	
	半導体工学	大杉	講義	2年	前期	2	
	コンピュータアーキテクチャ	吉村	講義	2年	前期	2	
	数理物理学	山野辺	講義	2年	前期	2	
	機能材料	塩田	講義	2年	前期	2	
	通信工学特論	吉野	講義	2年	前期	2	
	トラヒック理論	吉野	講義	2年	後期	2	
	応用通信特論	吉田	講義	2年	前期	2	
知識情報工学特論	吉村	講義	2年	後期	2		
信号処理論	森	講義	2年	前期	2		
数理計画	島川	講義	2年	前期	2		
環境特論	塩田	講義	1年	後期	2		
単位互換科目					16		

(出典 info2011)

平成22年度入学学生の目標別科目構成図

資料5-5-②-1その2

教育目的	学習教育目標	1年		2年
専門性	基礎力	生産システム特論		
		論文講読Ⅰ		
		論文講読Ⅱ		
		専攻演習Ⅰ		
		専攻演習Ⅱ		
		専攻実験		
		インターンシップ ^o		
		英語Ⅰ	→	英語Ⅱ
		数学特論		複素関数論
		熱統計力学		量子力学
	人間性	コミュニケーション力	特別研究	→
人間性		バイオメカニクス		
		伝統文化特論		
国際性	国際性	特別研究	→	特別研究
		英語Ⅰ	→	英語Ⅱ
		伝統文化特論		

(出典 info2011)

平成23年度入学学生の専攻科課程教育課程表

資料5-5-②-2その1

専攻科 生産システム工学専攻 教育課程表 H23年度入学生

H23

区分	科目名	担当者	授業方法	開講期間		単位	要修得単位数
				学年	期間		
必修	生産システム特論	指定された教員	講義	1年	半期	2	24
	論文講読Ⅰ	吉野	演習	1年	半期	1	
	論文講読Ⅱ	大杉	演習	1年	半期	1	
	専攻演習Ⅰ	吉田	演習	1年	半期	1	
	専攻演習Ⅱ	大杉	演習	1年	半期	1	
	専攻実験	加藤・竹本・山澤・米盛	実験	1年	通年	2	
	英語Ⅰ	真島、松尾	演習	1年	通年	2	
	英語Ⅱ	真島、松尾	演習	2年	通年	2	
	特別研究	指定された教員	総合	1・2年	通年	10	
	伝統文化特論	野島、真島	講義	1年	半期	2	
選択	インターシップ	大藤・平岡・大杉	実習	1年	通年	1~2	62
	熱統計力学	大杉	講義	1年	半期	2	
	複素関数論	山野辺	講義	2年	半期	2	
	数学特論	渡邊	講義	1年	半期	2	
	量子力学	山野辺	講義	2年	半期	2	
	材料科学	塩田	講義	2年	半期	2	
	計算システム論	内田	講義	2年	半期	2	
	エネルギー変換工学	山下	講義	1年	半期	2	
	電力システム	山下	講義	1年	半期	2	
	環境電磁工学	齊藤	講義	1年	半期	2	
	機械工学概論	大藤	講義	1年	半期	2	
	バイオメカニクス	大藤	講義	1年	半期	2	
	信頼・安全性工学	斎藤	講義	1年	半期	2	
	生産管理工学	平岡	講義	1年	半期	2	
	構造材料	加藤	講義	1年	半期	2	
	計測制御特論	吉澤	講義	1年	半期	2	
	電気電子回路特論	吉野	講義	1年	半期	2	
	情報数学	島川	講義	1年	半期	2	
	符号理論	清水	講義	1年	半期	2	
	応用磁気工学	吉澤	講義	2年	半期	2	
	半導体工学	大杉	講義	2年	半期	2	
	コンピュータアーキテクチャ	吉村	講義	2年	半期	2	
	数理物理学	山野辺	講義	2年	半期	2	
	機能材料	塩田	講義	2年	半期	2	
	通信工学特論	吉野	講義	2年	半期	2	
	トラヒック理論	吉野	講義	2年	半期	2	
	応用通信特論	吉田	講義	2年	半期	2	
	知識情報工学特論	吉村	講義	2年	半期	2	
	信号処理論	森	講義	2年	半期	2	
	数理計画	島川	講義	2年	半期	2	
	環境特論	塩田	講義	1年	半期	2	
	技術史	堤	講義	1年	半期	2	

上記の他に単位互換科目による16単位を修得単位に含めることができます。

(出典 info2011)

(分析結果とその根拠理由)

全体的には教育目標を達成するための工夫・配慮が行われていることがわかる。しかし、「Tの字形教育」というキーワードの意味が必ずしも十分に表されているとは言えず、さらなる工夫が求められる。

観点5-5-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

(観点に係る状況)

専攻科では、学生の多様なニーズに配慮して、大学や他の高等専門学校の専攻科等で開設されている授業科目について単位互換制度を実施している(資料5-5-③-1, 2)。

学術の発展の動向を教育課程の編成や授業科目の内容に反映することができるように、専攻科では科目担当教員に対して更なる研究業績の積み増しをお願いしており、このことは平成24年度の専攻科部署目標としている(資料5-5-③-3)。また学生に対しては、学術の発展の動向を自身の肌で感じてもらうため、特別研究の目標水準を学協会において発表できる水準としており、これは専攻科規則第6条3項にも明記している(前出資料5-5-③-1)。その結果を(資料5-5-③-4)に示す。

社会からの要請に対しては、インターンシップによる単位認定を実施しており、その実績は(資料5-5-③-5)に示す通りである。

また、教員が研修等で知り得た情報は、専攻科会議等で報告し、他の教員と共有するようにしている(資料5-5-③-6)。

専攻科規則（抜粋）

資料 5-5-③-1

2 特別研究の評価は、特別研究論文を提出し、特別研究発表会で発表を行った者に対して行う。

3 前項の特別研究論文に関しては、学協会等において発表できる水準を努力目標とする。

第7条 欠席数が総授業回数の1/3を超える授業科目については、原則として評価は行わない。

（単位の認定）

第8条 第6条の規定に基づき、優、良及び可に評価された授業科目について単位を認定する。

（終了の条件）

第9条 専攻科の修了は、学則第44条の規程のほか、次表に掲げる条件を満足しなければならない。

科目	必修科目	選択科目	他大学等における履修科目	合計
専攻				
生産システム工学	24 単位	30 単位以上	第10条	62 単位以上

（他の教育施設で履修した単位認定）

第10条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目の履修により取得した単位は、原則8科目16単位を限度として、本高専専攻科における取得単位として認定を受け修了に必要な単位と換えることができる。

（単位互換）

第10条の2 単位互換に係る規則及び事務手続きについては、別途定める。

（再履修）

第11条 定期試験等で不合格になった授業科目は、再履修することができる。

2 前項で定める再履修は、第3条の規定を準用する。

（専攻科の修了）

第12条 専攻科課程の修了の認定は、学則及びこの規定に基づき、専攻科修了認定会議において審議の上校長が行う。

第13条 専攻科の授業料等は以下の通りとする。

費用	納付額
入学金	入学時 150,000円
授業料	年額 700,000円
実験実習費	年額 140,000円
施設設備費	年額 200,000円
校費	年額 42,000円

2 前項の入学金については本校本科より入学する場合は半額とする。

3 第1項に定める納付額について専攻科奨学生制度による減免は別にこれを定める。

（学生細則）

第14条 専攻科学生に関わる学生規則は別途定める。

付則

1. この規則は、平成15年4月1日から施行する。

（出典 info2011）

単位互換制度 (抜粋)

資料 5 - 5 - ③ - 2

4.2.2 単位互換制度について

本校では、教育の活性化と充実、および学生に対して多様な学習機会を提供することを目的として、大学コンソーシアム八王子単位互換協定に加盟しています。これにより加盟校で開講する一部の授業を受講し、本校にはない他大学の授業や設備、新鮮な雰囲気を楽しむことが出来ます。残念ながら、現在のところ専攻科学生のみでの参加に限られていますが、より高い知識や見聞を身につけることの出来る制度なので活用してください。詳しくは 1F 事務室教務学生課までお問い合わせください。

【出願手続きについて】

1. 出願資格 : 修了必要単位数の確保が十分であること
2. 出願期間 : 前期・通年：2011年4月6日(水)～4月13日(水)
後 期：2011年7月11日(月)～7月15日(金)
3. 受付場所 : 1F 事務室教務学生課 ※要証明写真(4cm×3 cm)
4. 履修許可 : 受け入れ大学での選考後に通知します

【単位互換協定校の2011年度授業期間】

	解説大学・高専	前期授業期間	後期授業期間
1	多摩美術大学	4/11(月) ～ 7/30(土)	9/5(月) ～ 1/23(月)
2	東京工科大学	4/8(金) ～ 7/23(土)	9/19(月) ～ 1/18(水)
3	創価大学	4/6(水) ～ 7/22(金)	9/12(月) ～ 1/16(月)
4	サレジオ工業高等専門学校	4/6(水) ～ 7/29(金)	9/21(水) ～ 2/16(木)
5	ヤマザキ学園大学	4/11(月) ～ 7/29(金)	10/1(土) ～ 2/10(金)
	ヤマザキ動物看護短期大学	4/7(木) ～ 7/29(金)	10/1(土) ～ 2/8(水)
6	東京家政学院大学	4/8(金) ～ 8/4(木)	9/21(水) ～ 2/10(金)
7	東京工業高等専門学校	4/6(水) ～ 8/10(水)	9/26(月) ～ 2/22(水)
8	山野美容芸術短期大学	4/8(金) ～ 8/10(水)	10/3(月) ～ 2/13(月)
9	東京造形大学	4/11(月) ～ 7/23(土)	9/5(月) ～ 1/16(月)
10	東京純心女子大学	4/8(金) ～ 7/28(木)	9/26(月) ～ 1/30(月)
11	杏林大学	4/5(火) ～ 7/25(月)	9/20(火) ～ 1/23(月)
12	明星大学	4/11(月) ～ 7/30(土)	9/12(月) ～ 1/28(土)

- ※ 履修申請後、受け入れを許可された科目は、休むことなく授業に参加してください。
- ※ 科目により専攻科修了必要単位として認められないものもあります。事前に確認してください。
- ※ 専攻科2年次での履修希望は、修了必要単位数の確保が十分に見込まれ、余剰単位として修得する場合のみ行ってください。

(出典 info2011)

専攻科目標記述書

資料5-5-③-3

部門長評備		本人/部門長	本人	部門長評備
達成度	目標値の 評定			
部署名：専攻科 氏名：				
部門目標	部署目標	実績報告	活動予定 (完了日)	目標値
<教育・研究力の向上> ①目に見える形で学生の学力・能力向上 ②外部評価に耐える研究活動と業績積み増し	①専攻科修了者全員の学位取得 ②専攻科レビューに耐える教育研究業績積み増し		3月31日	①専攻科修了者の学位取得率100% ②教員一人当たり1人以上
<経営力の強化> ①教育の信頼性向上による学生数の確保	①専攻科入学定員の確保		3月31日	①入学者14名以上

(出典 2012SMS資料)

専攻科学生の学協会発表の例

資料5-5-③-4

▼ 15:20 ~ 17:00 午後の部3 | Afternoon oral session

座長: 武田 雅敏 (長岡技術科大) | Chair: Masatoshi Takoda (Nagaoka Univ. of Tech.)

T-15-M

15:20-15:40 ハイブリッド型太陽電池に応用するための CZTS ナノ結晶の合成と特性評価 | Synthesis and Characterization of CZTS Nanocrystals for Use in Hybrid Solar Cell
 ○レトウゼ ヨハン、土屋 浩美、森 重雄 (同志社大) | ○Johann Le Touze, Kazumi Tsuchiya, Yasuhide Mori (Doshisha Univ.)

T-16-D

15:40-16:00 Photoelectrochemical and Photocatalytic Properties of Cobalt Phthalocyanine and Fullerene Composite Nanoparticles by Re-precipitation Process
 ○Arunchalam Prabhakaran, Shuai Zhang, Toshiyuki Abe, Tomokazu Iyoda, Keiji Nagai (Tokyo Inst. of Tech.)

T-17-G

16:00-16:20 亜鉛ポルフィリン/フラーレンヘテロ接合太陽電池動作中のドナー・アクセプター界面近傍における内蔵電位と開放電圧の相関性 | Correlation between the Open-Circuit Voltage and Built-In Potentials at the Donor/Acceptor Interface of Zinc-Porphyrin/ C_{60} Hetero-Junction Solar Cells under Photo-Irradiation
 ○滝崎 泰、尾上 康 (東京工大) | ○Sei Ryuzaaki, Jun Onoe (Tokyo Inst. of Tech.)

T-18-D

16:20-16:40 CO Tolerance of Low Platinum Content Electrocatalyst for Polymer Electrolyte Fuel Cell
 Shinya Chaudhan (NIMS)

T-19-M

16:40-17:00 気相輸送法による In-Se の結晶成長 | The Crystal Growth of In-Se by Vapor Transport Method
 ○高野 直樹、桑原 仁、矢ヶ崎 隆義 (工学院大) | ○Naoki Takano, Hitoshi Kohri, Takayoshi Yagasaki (Kogakuin Univ.)

(12月20日(火) | December 20 (Tue))

■ポスター発表 ●横浜情報文化センター 6F #2-3 ▼ 17:00-18:30

■Poster Presentation ●Yokohama Media & Communications Center 6F #2-3 ▼ 17:00-18:30

T-P01-B

17:00-18:30 熱電半導体ビスマス・テルライドの高温におけるテルルの解離・昇華 | Dissociation and Sublimation of Tellurium from the Thermoelectric Semiconductor Bismuth Telluride at High Temperature
 ○徳永 大輔、大杉 功、加藤 雅彦 (サレジオ高専)、米田 匠司 (神奈川大)、藤田 卓宏 (物質・材料研究機構) | ○Daisuke Tokunaga, Isao J. Ohsugi, Masahiko Kato (Salesian Polytechnic), Seiji Yoneda (Kagazawa Univ.), Yukihito Isoda (NIMS)

T-P02

17:00-18:30 光により蓄電できるチタニアとポリアニリン複合電極の電荷移動 | Charge Transfer in Photochargeable Composite Films of TiO_2 and Polyaniline
 ○野見山 輝明、佐部 賢一、堀江 雄二 (鹿児島大) | ○Teruaki Nomiyama, Kenichi Sasabe, Yuji Horie (Kagoshima Univ.)

T-P03

17:00-18:30 エアロゾルデポジション法で形成したナノ結晶化ビスマステルライド系厚膜の熱電特性 | Thermoelectric Properties of Bismuth-Telluride Based Thick Films with Nanostructure by Aerosol Deposition Method
 馬場 剛 (産総研) | So Baba (AIST)

(出典 「第21回日本MRS学術シンポジウム2011 プログラム」)

学生のインターンシップ派遣実績

資料5-5-③-5

通し番	申込日	学年	クラス番号	学籍番号	学科	番号	学生名	フリガナ	延人数	企業番号	会社名	期間	日数	宿泊	実働(hour)	実働(コマ)
2	5/25	1年	6AC06	12606	専攻科				1	588	株式会社エフ・ティ・エスコーポレーション	9/10(月)～9/26(水)	12日間	無	93	111.6
36	7/11	1年	6AC06	12606	専攻科				1	34	株式会社ライトボーイ	8/27(月)～9/7(金)	10日間	無	80	96.0
38	7/17	1年	6AC11	12611	専攻科				1	92	ハナソニックテクノカルサービス株式会社	8/20(月)～9/7(金)のうち	11日間	無	68	81.6
54	7/27	1年	6AC03	12603	専攻科				1	265	シテズンマイクロ株式会社	9/10(月)～9/24(月)	10日間	無	80	96.0

(出典 ○○)

専攻科会議議事録 (抜粋)

資料5-5-③-6

平成23年度専攻科会議

第7回 議事録

日時：平成23年9月26日(月) 12:40～13:20

場所：専攻科会議室(204)

出席者：平岡、加藤、塩田、大藤、竹本、森、山澤、山下(健)、山下(幸)、吉田、吉野、米盛、渡邊

(注) (五十音順)

記録：大杉

1. 学修成果査読者の依頼

学修成果(レポート)を読んでコメントする担当者のリスト(案)を配布した。

担当者が担当できない場合は他の教員に承諾を得て交代し、その結果を取りまとめ役

ohsugi@salesio-sp.ac.jp宛てに連絡することとした。

2. 学位試験について

「専攻科実務者会議(今後は「専攻科科長会議」と改称)において学位審査に関するクレームが話題になり、少なくとも学修成果に使用した学術用語、式、図、表については、必ず説明できるようにする必要がある」ということが報告された。

3. 後期推薦入試について

(1) 現在3名が受験する予定である。

(2) 「後期推薦入試における推薦者は、主査を担当できる教員とする」ということを確認した。

4. 専攻科修了生に求められる資質について

専攻科実務者会議の東京エレクトロンFE社長坂本甚三郎氏(熊本電波卒)の講演において「高専卒は数学△、英会話×である。現行のTOEICはあまり役に立っていない」という内容があったということが報告された。その件につき、英語の授業だけでなく、日頃の専攻科の授業においてもその観点で講義を行ってほしいとの専攻科長からの要望がなされた。

5. 専攻科進路未決定者について

現在の進路未決定者について確認が行われた。(情報はキャリアセンターが収集)

(出典 専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

単位互換制度は存在するが、利用実績がほとんどない。これは学校間の移動時間が必要であることに加えて受講希望科目の開講時間帯が利用者にとって不便であるためと思われ、工夫が求められる。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

(観点に係る状況)

各科目の授業形態について(資料5-6-①-1, 2)に示す。専攻科の教育の目的に照らして、「Tの字型教育」の土台となるべき基礎力に関する科目と、人間性及び国際性に関する科目を中心に必修とし、主に1年次に配置されている。なかでも論文購読Ⅰ、Ⅱおよび英語Ⅰ、Ⅱは“基礎力”育成のために重要であるとの認識から演習科目とし、講義課目の2倍の授業時間を配している。また、“真の国際性育成にとって自国の文化を理解することが不可欠”という観点から「伝統文化特論」を教育目的「国際性」達成のための必修科目とし、複数教員によるオムニバス形式で実施している。そのシラバスを(資料5-6-①-3)に示す。また、教育目的の「人間性」と深く係る科目として「バイオメカニクス」が開設されており、そのシラバスを(資料5-6-①-4)に示す。開講86単位(平成23年度入学は87~88単位)のうち講義課目64単位(平成23年度入学は66単位)(約75%)、その他(実験・実習・演習・総合)科目22単位(平成23年度入学は21~22単位)(約25%)である。また、修了に要する単位数:62単位に占める必修の実験・実習・演習科目の割合は約32%である。

とくに「伝統文化特論」は本専攻科独特の科目であり、本校の専任教員で“大蔵流狂言方能楽師(能楽協会会員)”の存在に負うことが極めて大きい。教育目的の「国際性」の養成にあたっては先ず自国の文化を正しく理解する必要がある、そのために有用な科目として専攻科では必修科目としている。

また「バイオメカニクス」においては、これからの高齢化社会において重要となる福祉工学とリハビリテーション工学の基礎についての講義が展開されている。この科目は受講生に、“人間の尊厳を守る科学技術”について考察する機会を与えているという点で評価される。

平成 22 年度入学学生の専攻科課程教育課程表

資料 5 - 6 - ① - 1

専攻科 生産システム工学専攻 教育課程表 H22年度入学生

H22

区分	科目名	担当教員	授業方法	履修期間		単位	必修得単位数
				学年	学期		
必修	生産システム特論	指定した教員	講義	1年	前期	2	24
	論文講読Ⅰ	吉野	演習	1年	前期	1	
	論文講読Ⅱ	大杉	演習	1年	後期	1	
	専攻演習Ⅰ	吉田	演習	1年	前期	1	
	専攻演習Ⅱ	大杉	演習	1年	前期	1	
	専攻実験	加藤・吉田・山澤・米盛	実験	1年	適年	2	
	英語Ⅰ	真島	演習	1年	適年	2	
	英語Ⅱ	真島	演習	2年	適年	2	
	特別研究		総合	1-2年	適年	10	
	伝統文化特論	野島、真島	講義	1年	前期	2	
選択	インターシップ	大藤	実習	1年	適年	2	82
	熱統計力学	大杉	講義	1年	前期	2	
	複素関数論	山野辺	講義	2年	前期	2	
	数学特論	鎌野	講義	1年	前期	2	
	量子力学	山野辺	講義	2年	前期	2	
	材料科学	塩田	講義	2年	前期	2	
	組込技術要素特論		講義	1年	後期	2	
	エネルギー変換工学	山下	講義	1年	後期	2	
	電力システム	山下	講義	1年	前期	2	
	環境電磁工学	斎藤	講義	1年	前期	2	
	機械工学概論	大藤	講義	1年	前期	2	
	バイオメカニクス	大藤	講義	1年	後期	2	
	信頼・安全性工学	斎藤	講義	1年	後期	2	
	生産管理工学	平岡	講義	1年	後期	2	
	構造材料	加藤	講義	1年	前期	2	
	計測制御特論	吉澤	講義	1年	後期	2	
	電気電子回路特論	吉野	講義	1年	後期	2	
	情報数学	市村	講義	1年	前期	2	
	符号理論	市村	講義	1年	後期	2	
	応用磁気工学	吉澤	講義	2年	前期	2	
	半導体工学	大杉	講義	2年	前期	2	
	コンピュータアーキテクチャ	吉村	講義	2年	前期	2	
	数理物理学	山野辺	講義	2年	前期	2	
	機能材料	塩田	講義	2年	前期	2	
	通信工学特論	吉野	講義	2年	前期	2	
	トラヒック理論	吉野	講義	2年	後期	2	
	応用通信特論	吉田	講義	2年	前期	2	
知識情報工学特論	吉村	講義	2年	後期	2		
信号処理論	森	講義	2年	前期	2		
数理計画	島川	講義	2年	前期	2		
環境特論	塩田	講義	1年	後期	2		
単位互換科目					16		

(出典 info2011)

平成23年度入学学生の専攻科課程教育課程表

資料5-6-①-2

専攻科 生産システム工学専攻 教育課程表 H23年度入学生

H23

区分	科目名	担当者	授業方法	開講期間		単位	要修得単位数
				学年	期間		
必修	生産システム特論	指定された教員	講義	1年	半期	2	24
	論文講読Ⅰ	吉野	演習	1年	半期	1	
	論文講読Ⅱ	大杉	演習	1年	半期	1	
	専攻演習Ⅰ	吉田	演習	1年	半期	1	
	専攻演習Ⅱ	大杉	演習	1年	半期	1	
	専攻実験	加藤・竹本・山澤・米盛	実験	1年	通年	2	
	英語Ⅰ	真島、松尾	演習	1年	通年	2	
	英語Ⅱ	真島、松尾	演習	2年	通年	2	
	特別研究	指定された教員	総合	1・2年	通年	10	
	伝統文化特論	野島、真島	講義	1年	半期	2	
一般科目 選択 専門科目	インターシップ	大藤・平岡・大杉	実習	1年	通年	1~2	62
	熱統計力学	大杉	講義	1年	半期	2	
	複素関数論	山野辺	講義	2年	半期	2	
	数学特論	渡邊	講義	1年	半期	2	
	量子力学	山野辺	講義	2年	半期	2	
	材料科学	塩田	講義	2年	半期	2	
	計算システム論	内田	講義	2年	半期	2	
	エネルギー変換工学	山下	講義	1年	半期	2	
	電力システム	山下	講義	1年	半期	2	
	環境電磁工学	斉藤	講義	1年	半期	2	
	機械工学概論	大藤	講義	1年	半期	2	
	バイオメカニクス	大藤	講義	1年	半期	2	
	信頼・安全性工学	斎藤	講義	1年	半期	2	
	生産管理工学	平岡	講義	1年	半期	2	
	構造材料	加藤	講義	1年	半期	2	
	計測制御特論	吉澤	講義	1年	半期	2	
	電気電子回路特論	吉野	講義	1年	半期	2	
	情報数学	島川	講義	1年	半期	2	
	符号理論	清水	講義	1年	半期	2	
	応用磁気工学	吉澤	講義	2年	半期	2	
	半導体工学	大杉	講義	2年	半期	2	
	コンピュータアーキテクチャ	吉村	講義	2年	半期	2	
	数理物理学	山野辺	講義	2年	半期	2	
	機能材料	塩田	講義	2年	半期	2	
	通信工学特論	吉野	講義	2年	半期	2	
	トラヒック理論	吉野	講義	2年	半期	2	
	応用通信特論	吉田	講義	2年	半期	2	
	知識情報工学特論	吉村	講義	2年	半期	2	
	信号処理論	森	講義	2年	半期	2	
	数理計画	島川	講義	2年	半期	2	
環境特論	塩田	講義	1年	半期	2		
技術史	堤	講義	1年	半期	2		

上記の他に単位互換科目による16単位を修得単位に含めることができます。

(出典 info2011)

伝統文化特論のシラバス

資料5-6-①-3

教科分類	一般科目(科目コード:344140)						
授業科目	<専攻科>伝統文化特論		対象学科	対象学年	開講方式	履修形態	単位数
			専攻科(生産システム工学専攻)	1年	前期	必修	2
	担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	E-mailアドレス		
	野島 伸仁、真島 颯子	一般教育・専任講師	236	いつでも可(研究日本曜日)	nojima@salesio-sp.ac.jp		
教科書	指定教科書はない。						
参考書	「狂言ハンドブック」小林貞監修(三省堂)						
授業概要	「伝統」を共通テーマに、各教員が講義をする。						
授業方法	講義を受け、期末にレポートを提出する。						
授 業 計 画							
時 数	項 目		内 容				
	【狂言の伝統】 能楽(能と狂言) -狂言を中心に-		担当:野島伸仁 能楽を介して日本の文化・伝統をテーマに講義する。				
第1週	能狂言の歴史(1)		能と狂言の先行芸能				
第2週	能狂言の歴史(2)		狂言の仕事と分類				
第3週	狂言の伝承(1)		演目紹介				
第4週	狂言の伝承(2)		演劇としての狂言を構成するもの				
第5週	狂言にみる人間関係		登場人物にみる人間性				
第6週	狂言の技法		狂言の台本と演出、謡・小舞				
	【ことばと伝統】		担当:真島颯子				
第7週	言語		個別言語とは何か考える				
第8週	言語と方言		個別言語と方言の違いを考える				
第9週	言語と文字		文字の果たす役割を考える				
第10週	英語の歴史(1)		英語の歴史を考える				
第11週	英語の歴史(2)						
第12週	英語の歴史(3)						
第13 -15週	レポート指導						
到達目標	1. 日本に伝わる文化・社会的背景を理解する。 2. 英語を中心に、言語についてしっかり考え、自分の意見を持つ。						
評価方法	レポート(70%) + 課題(30%) レポートはトピックから1つ選び、学期末に3,000字程度のものを提出する。						
関連科目							
アドバイス							

(出典 本校ウェブサイト)

バイオメカニクスのシラバス

資料5-6-①-4

教科分類	専門科目(科目コード:361120)						
授業科目	<専攻科>バイオメカニクス		対象学科	対象学年	開講方式	履修形態	単位数
			専攻科(生産システム工学専攻)	1年	後期	選択	2
	担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	E-mailアドレス		
	大藤 晃義	専攻科 教授	209	金 12:30-13:00	daito@salesio-sp.ac.jp		
教科書	使用しない						
参考書	生体機械工学 (財)日本機械学会 丸善(株)						
授業概要	バイオメカニクスを機械工学的立場から講義する。 特に、福祉工学とリハビリテーション工学について、その基礎を解説する。						
授業方法	座学を主体として、毎時間バイオメカに関する新聞記事等をコピーしたものを配布し、授業の参考とする。 本科ではほとんど学習していない分野であるが、これからの高齢者社会の日本において、工学者にとっても重要な問題であることを認識できる授業としたい。						
授 業 計 画							
時 数	項 目	内 容					
1	授業ガイダンス	授業計画と評価方法の説明、バイオメカニクスの概説を行う。					
2、3	福祉工学と高齢者	福祉工学と高齢者の関係について学習する。					
4、5	福祉機器による自立支援と介護支援	福祉機器による自立支援と介護支援との関係について学習する。					
6	生活環境と共用品	生活環境と共用品について学習する。					
7、8	リハビリテーション	リハビリテーションとはどのようなことか学習する。					
9	リハビリテーション工学の目指すもの	リハビリテーション工学の目指すものについて学習する。					
10	障害の克服に向けての心理作用	障害を克服する障害者の心理作用について学習する。					
11	身体運動学とバイオメカニクス	身体運動学とバイオメカニクスとの関係について学習する。					
12	リハビリテーションと設計工学	リハビリテーションと設計工学との関係について学習する。					
13	脳性麻痺患者の車いすの開発	脳性麻痺患者の車いすの開発の一例を学習する。					
14	義肢と装具	義肢(義手、義足)と装具について学習する。					
15	試験	半年のまとめの試験を行う。					
到達目標	講義を通して福祉工学とリハビリテーション工学の概論的理解を得る。						
評価方法	試験で評価する。						
関連科目							
アドバイス	日ごろから、福祉、リハビリテーション、高齢者社会、老化などに興味を持ち、新聞、テレビ、ラジオ等のそのような記事に関心を持っていただきたい。						

(出典 本校ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程においても日本語と英語の読解力の養成が強く求められている実情において、論文講読および英語を必修の演習科目とし、十分な授業時間を確保する配慮がなされている。

観点 5-6-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバスは主に、入学直後のオリエンテーションにおいて使用され、学生の科目選択ならびに学習計画立案に供している。

2012年度よりシラバス様式を変更したため、シラバスの作成にあたっては、従来のシラバス作成マニュアルの配布に加えて、シラバス作成説明会(資料5-6-②-1)も実施して、適切な記載内容となるように注意を促している。説明会では、作成マニュアルに加えて、記入方法を明確にするために教務主事団が作成した実際のシラバスサンプルも合わせて資料として配布した。同資料は後日、非常勤講師も含めた全科目担当者に配布した。

科目担当者が作成したシラバス案は、準備学習や教育内容、達成目標や評価方法などが適切に記載されているかを、学科長などの部署長が確認することになっている(資料5-6-②-2)。

学期初めの教職員連絡会では、初回の授業でシラバスを配布し、口頭で説明を加える旨の指示を教務主事より発信している(資料5-6-②-3)。

資料5-6-②-1 その1

12/01/23_シラバス説明会

シラバス様式変更に伴う説明会資料 (加筆修正版: 12/01/30)自己点検本部
教務部

1. シラバス様式変更の目的

- 学科教育目標やJABEE基準との対応を記載する項目が必要である
- 単位時間ではなく実時間数での計算が求められている
- シラバスを活用した「準備学習」を促進する仕組み作りが求められている

2. 主な変更点

- 従来の「シラバスシステム」使用を一時的に中止する。
- 様式が確定するまで、MS-Excelでの作成および管理とする。
- 記入項目の一部をプルダウンによる選択入力とする。
- 新たに『授業形態の時間内訳』の項目を追加する。
- 従来の『到達目標』と『評価方法』の欄を広げ、詳細に記述できるようにする。
- 従来の『授業計画』欄を拡大し、授業計画と学習達成項目の関連を記述する。
- 従来の『コマ数』に加えて、実時間での『時間数』も合わせて記述する。

3. 作業日程

1. 1月30日(月)までに下記の場所に「シラバス雛形」を用意します。
(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【依頼】
2. 2月27日(月)までに下記の提出用フォルダにシラバス案を提出してください。
(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】
3. 複数クラスで横並び開講する場合でも、原則、クラスごとに別のファイルを作成してください。
ただし、1年生の混成学級については、例外的に学年で1つのシラバスで結構です。
シラバス案提出の際には、ファイル名を「クラス名_科目名_作成者.xls」としてください。

eg. 1年混成「現代社会」の場合	「1xx_現代社会_山館.xls」
1CS専門「情報工学概論」の場合	「1cs_情報工学概論_山野辺.xls」
4年選択必修「選択英語IV」の場合	「4xx_選択英語IV_野島.xls」
4-5年・選択B群「韓国語I」の場合	「4-5xx_韓国語I_石田.xls」
4. 選択科目D群で前期/後期に同一科目を提供する場合は、1つのシラバスで結構です。ただし、内容が異なる場合には、それぞれ別々のシラバスをご用意ください。
5. 同一科目内で実技と保健、また複数種目がある「体育」は、成績評価などの方法が明確になるよう、1つのシラバスにまとめてください。
6. AD科の科目で同一科目がコース別に提供されている場合には、科目名のあとに(G), (I), (P)の記号をつけて、別科目のシラバスを作成してください。(評価方法が異なるため、実質的な選択必修と判断)
7. 学科長は、3月中に学科担当のシラバスを確認してください。修正が必要な場合には、作成者に問い合わせの上で修正を依頼してください。
8. 時間割確定後に『オフィスアワー』『教育目標との対応』欄を追記してください。

資料 5-6-②-1 その 2

12/01/23_シラバス説明会

- 9. 4月の授業開始第1週(4/9-4/13)の授業時にシラバスを印刷して学生に配布してください。
- 10. 4月16日(月)までにシラバス案を確定し、最終版を下記の提出用フォルダに保存してください。
(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】

4. シラバス作成上の留意点

開講年度	2012年度	授業科目	対象学科	対象学年	開講期間	単位数
英語名称	履修形態	講義	授業形態の時間内訳 [hour]	演習	実習	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス		
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応				
授業概要						
到達目標						
授業方法						
教科書						
補助教材						
評価方法 学生自身が 検算できる ように算出 方法や根拠 項目を明記 すること						
関連科目						
準備学習に 関する アドバイス						

授業科目の名称は「教育課程表」と一致させること！

斜のかかったセルはプルダウンの項目から選択して記入

90分授業のコマ数ではなく、60分の時間数で換算記入

関門科目は「必修※」を選択してください

XYZ@salesio-sp.ac.jpのXYZ部分のみを記入

4行目のみ自由入力が可能。担当者が5名以上の場合、4行目に「他〇名」と記入

単位認定の際の「合格基準」となる到達度を記入してください。

学生が自分の評価点を計算できるように、できるだけ具体的で詳細に記載してください。

(出典：教務部資料)

資料5-6-②-2その1

シラバスの部署長チェックに関する資料

教務部 第057号
平成 24年 3月 5日

■ 教務連絡 (★印はWeeklyフォルダ内にPDF資料があります。)

教務主事

【学生関連】

★ 在籍教一覧Ver.11 (H24/03/01現在)

【教員関連】

出張状況 (運営)教務部 > 一般公開 > 「教務_H23出張等一覧.xls」を参照

【月間予定】

3月 05日 (月)	Weekly教職員連絡会 卒業・修了調書提出 (担任→教務主事) (15:00締切) ※終日から変更!	<総合企画室> <教務部>
3月 06日 (火)	卒業・修了判定会議 1-2年及落調書提出 (担任→教務主事) (終日)	<教務部> <教務部>
3月 07日 (水)	1-2年成績操行会議 3-4年及落調書提出 (担任→教務主事) (終日)	<教務部> <教務部>
3月 08日 (木)	3-4年成績操行会議 5年成績通知書配布 (教務→担任)	<教務部> <教務部>
3月 09日 (金)	及落判定会議 ★教務056_学年末の学籍異動手続きについて 現4年生の3月期認定試験申込み (15:00-16:30)	<教務部> <教務部・事務部>
3月 10日 (土)	新入生登校日/クラス分け試験	<プレテック>
3月 12日 (月)	レビュー会議 1-4年成績通知書配布 (教務→担任) 教職員慰労会	<総合企画室> <教務部> <“宴会主事”>
3月 15日 (木)	5年成績通知書提出 (担任→教務) (12:00締切)	<教務部>
3月 16日 (金)	卒業式予行 1-4年成績通知書提出 (担任→教務) (12:00締切) 5年成績通知書配布 (教務→担任)	<事務部> <教務部> <教務部>
3月 19日 (月)	卒業・修了式	<事務部>
3月 21日 (水)	終業式 1-4年成績通知書配布 (教務→担任) 留年・退学確定報告 (学科長→教務主事/教務学生課)	<学生部> <教務部> <教務部>

【依頼事項】

全教員>

- シラバス未提出の方は、大至急、ご提出をお願いします。
提出先：(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】
- 現4年生の3月期認定試験の申し出がありましたら、対応をお願いいたします。
実施期間は**3月12日(月)～21日(水)**で、認定報告は**3月21日(水) 17:00締切**です。
※ 実施詳細は、配布済の教務045号ならびに教務050号をご参照ください。

学科長>

- 学科配当科目のシラバス内容をご確認ください。**3月中**にお願いします。
- ~~卒業判定会議が終了したら、会議録をご提出ください。~~
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>卒業・修了判定会議2011
- 成績操行会議が終了したら、会議録をご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>学年末成績操行会議2011
- 及落判定会議が終了したら、会議録をご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>及落判定会議2011

学級担任>

- (4年のみ) 3月期認定試験申込み手続きについて、学生への周知をお願いします。
- (5年のみ) 卒業判定調書を**本日15:00まで**に所定のフォルダへのご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>卒業調書2011【提出】
- (1-2年) 及落判定調書を**3月6日(火)まで**に所定のフォルダへのご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>及落判定調書2011【提出】
- (3-4年) 及落判定調書を**3月7日(水)まで**に所定のフォルダへのご提出ください。
提出先：(運営)教務部>教務汎用フォルダ>及落判定調書2011【提出】

以上

(出典：教務部資料)

初回授業でのシラバス配布指示に関する資料

教務部 第001号
平成 24年 4月 9日

■ 教務連絡 (★印はWeeklyフォルダ内にPDF資料があります。)

教務主事

【学生関連】

- ★ 在籍一覧2011_Ver.12 (H24/03/31現在)
- ★ 在籍一覧2012_Ver.01 (H24/04/01現在)

【教員関連】

出張状況 (運営) 教務部 > 一般公開 > 教務_H24出張等一覧.xls を参照

【授業関連】

時間割表 (運営) 教務部 > 一般公開 > ♥時間割2012【正式版】120406.xls を参照

【月間予定】 ★教務_学年暦2012【暫定版】120403

4月 09日 (月)	Weekly教職員連絡会 授業開始	<総合企画室> <教務部>
4月 10日 (火)	通学路指導 (～4/20まで)	<学生部>
4月 11日 (水)	新2年柔道着販売(第2回) 3-4年及落調書提出 (担任→教務主事) (終日)	<事務部> <教務部>
4月 14日 (土)	情報処理技術者試験(春季) 教務部会, 学生会, EMC会議	<CS科> <教務部>
4月 16日 (月)	2012年度シラバス提出期限 (17:00厳守) 学生総会 前期履修届提出	<教務部> <学生部/学友会> <専攻科>
4月 21日 (土)	新1年生親睦遠足	<プレテック>
4月 23日 (月)	Weekly教職員連絡会 4月期認定報告 (12:00締切)	<総合企画室> <教務部>

【依頼事項】

全教員>

- 最初の授業時にシラバスを印刷・配布し、評価方法を含めた内容を丁寧に説明してください。
- シラバス内容に変更が生じた場合には、修正箇所について所属長の確認を得た上で、下記の所定フォルダに上書き保存してください。
提出先：(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】

- 4月期の認定解除のために認定試験を実施する方は、4月20日(金)までに実施し、各学科の教務担当へ結果をご報告ください。(今年度より、教務担当が学科分の報告を取りまとめて報告することになっています。)
- 時間割については、再三再四に亘って全教員宛に確認依頼をしてきました。もし万が一、不都合がありましたら、各科の教務担当まで至急ご指摘ください。

学科長および教務担当>

- 開講科目調査(第2回)の見直しおよび修正を4月14日(土)までをお願いします。
- 授業配当の見直しおよび修正を4月14日(土)までをお願いします。

(出典：教務部資料)

(分析結果とその根拠理由)

教務部および自己点検本部との協働で、シラバス作成のマニュアルとサンプルの配布、作成説明会の実施がされ、教育方法や内容、達成目標や評価方法の明示等、内容が適切に整備されるように指導がなされている。また作成したシラバスを部署長が確認することで、教育課程の編成趣旨から外れないようにするチェック体制を取っている。

一方で、事前に行う準備学習やシラバスを活用した学習支援については、一部教員の個人的な取り組みの域を出ず、組織的に十分な成果を挙げているとは言い難い。今後の検討が必要である。

以上より、教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容はほぼ適切に整備されている。しかし、事前に行う準備学習やシラバスを活用した学習支援などの検討課題は残されている。

観点5-6-③： 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程では、特別研究を創造性の育成も含めた総合的な科目と位置づけている。特別研究の実施にあたっては、学生が自らのオリジナリティーを発揮させるよう心掛けている。そのために、年間2回の特別研究発表会および学園祭における研究内容公開を実施し、ディスカッションを通して創造的発想を促すように工夫している。しかしながら、1名の指導教員のみによる研究指導では“指導教員の思想に沿った正解提示型学習”ともなりかねないため、複数指導方式(主査・副査制)を実施し、広い視野から見て学生の創造性を触発するように工夫している(資料5-6-③-1)。

主査・副査制の資料

資料5-6-③-1

H23年度特別研究主査・副査

学籍番号	学生氏名	主査	副査	副査
10601				
10602				
10603				
10604				
10605				
10606				
10607				
10608				
10609				
10610				
10611				
10612				
10613				
10614				
11601				
11602				
11603				
11604				
11605				
11606				
11607				
11608				
11609				
11610				
11611				
11612				
11613				
11614				

(出典 専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

特別研究の実施にあたっては複数の教員（主査・副査）を配置することで、研究指導の質を適切に保つ工夫が行われている。

観点5-7-①： 教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

学校教育目標「人間性」に照らして、豊かな人間性を育むために、「バイオメカニクス」においては、人体の仕組みを中心に、健康、介護、リハビリテーション、幸せについて講義をしている(資料5-7-①-1)。また、学校教育目標「国際性」に照らして、「伝統文化特論」において国内外の文化、特に日本の伝統文化の狂言を上演を示しながら講義している(資料5-7-①-2)。

特別研究指導においては、“主査・副査”の2人制で実施しており(資料5-7-①-3)、新入生の研究室配属においては“仮配属期間”をもうけている。すなわち、入学年度の初めから5月の連休明け頃までは“仮配属期間”とし、5月の連休明け時点において(資料5-7-①-4)に示す「専攻科特別研究配属先確認」を提出することで配属先を決定している。配属先決定後も学生の希望、研究内容の理解度・進捗等々を考慮して、学生と指導教員の合議によって配属先や研究テーマの変更を行っている。また、年間2回の発表会を実施して進捗状況及び達成度の確認を行っている(資料5-7-①-5)。

バイオメカニクスのシラバス

資料5-7-①-1

教科分類	専門科目(科目コード:361120)				
授業科目	<専攻科>バイオメカニクス		対象学科	対象学年	開講方式
			専攻科(生産システム工学専攻)	1年	後期
	担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	E-mailアドレス
	大藤 晃義	専攻科 教授	209	金 12:30-13:00	daito@salesio-sp.ac.jp
教科書	使用しない				
参考書	生体機械工学 (財)日本機械学会 丸善(株)				
授業概要	バイオメカニクスを機械工学的立場から講義する。 特に、福祉工学とリハビリテーション工学について、その基礎を解説する。				
授業方法	座学を主体として、毎時間バイオメカに関する新聞記事等をコピーしたものを配布し、授業の参考とする。 本科ではほとんど学習していない分野であるが、これからの高齢者社会の日本において、工学者にとっても重要な問題であることを認識できる授業としたい。				
授 業 計 画					
時 数	項 目	内 容			
1	授業ガイダンス	授業計画と評価方法の説明、バイオメカニクスの概説を行う。			
2、3	福祉工学と高齢者	福祉工学と高齢者の関係について学習する。			
4、5	福祉機器による自立支援と介護支援	福祉機器による自立支援と介護支援との関係について学習する。			
6	生活環境と共用品	生活環境と共用品について学習する。			
7、8	リハビリテーション	リハビリテーションとはどのようなことか学習する。			
9	リハビリテーション工学の目指すもの	リハビリテーション工学の目指すものについて学習する。			
10	障害の克服に向けての心理作用	障害を克服する障害者の心理作用について学習する。			
11	身体運動学とバイオメカニクス	身体運動学とバイオメカニクスとの関係について学習する。			
12	リハビリテーションと設計工学	リハビリテーションと設計工学との関係について学習する。			
13	脳性麻痺患者の車いすの開発	脳性麻痺患者の車いすの開発の一例を学習する。			
14	義肢と装具	義肢(義手、義足)と装具について学習する。			
15	試験	半年のまとめの試験を行う。			
到達目標	講義を通して福祉工学とリハビリテーション工学の概論的理解を得る。				
評価方法	試験で評価する。				
関連科目					
アドバイス	日ごろから、福祉、リハビリテーション、高齢者社会、老化などに興味を持ち、新聞、テレビ、ラジオ等のそのような記事に関心を持っていただきたい。				

(出典 本校ウェブサイト)

伝統文化特論のシラバス

資料5-7-①-2

教科分類	一般科目(科目コード:344140)						
授業科目	<専攻科>伝統文化特論		対象学科	対象学年	開講方式	履修形態	単位数
			専攻科(生産システム工学専攻)	1年	前期	必修	2
	担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	E-mailアドレス		
	野島 伸仁、真島 颯子	一般教育・専任講師	236	いつでも可(研究日本曜日)	nojima@salesio-sp.ac.jp		
教科書	指定教科書はない。						
参考書	「狂言ハンドブック」小林貞監修(三省堂)						
授業概要	「伝統」を共通テーマに、各教員が講義をする。						
授業方法	講義を受け、期末にレポートを提出する。						
授 業 計 画							
時 数	項 目		内 容				
	【狂言の伝統】 能楽(能と狂言) -狂言を中心に-		担当:野島伸仁 能楽を介して日本の文化・伝統をテーマに講義する。				
第1週	能狂言の歴史(1)		能と狂言の先行芸能				
第2週	能狂言の歴史(2)		狂言の仕事と分類				
第3週	狂言の伝承(1)		演目紹介				
第4週	狂言の伝承(2)		演劇としての狂言を構成するもの				
第5週	狂言にみる人間関係		登場人物にみる人間性				
第6週	狂言の技法		狂言の台本と演出、謡・小舞				
	【ことばと伝統】		担当:真島颯子				
第7週	言語		個別言語とは何か考える				
第8週	言語と方言		個別言語と方言の違いを考える				
第9週	言語と文字		文字の果たす役割を考える				
第10週	英語の歴史(1)		英語の歴史を考える				
第11週	英語の歴史(2)						
第12週	英語の歴史(3)						
第13週 -15週	レポート指導						
到達目標	1. 日本に伝わる文化・社会的背景を理解する。 2. 英語を中心に、言語についてしっかり考え、自分の意見を持つ。						
評価方法	レポート(70%) + 課題(30%) レポートはトピックから1つ選び、学期末に3,000字程度のものを提出する。						
関連科目							
アドバイス							

(出典 本校ウェブサイト)

主査・副査制の資料

資料5-7-①-3

H23年度特別研究主査・副査

学籍番号	学生氏名	主査	副査	副査
10601				
10602				
10603				
10604				
10605				
10606				
10607				
10608				
10609				
10610				
10611				
10612				
10613				
10614				
11601				
11602				
11603				
11604				
11605				
11606				
11607				
11608				
11609				
11610				
11611				
11612				
11613				
11614				

(出典 「専攻科資料」)

専攻科特別研究配属先確認

資料5-7-①-4

特別研究配属先希望申請

学籍番号_____

氏名_____

日付 平成23年__月__日

特別研究の配属先を以下の通り希望いたします。

_____研究室

担当教員確認欄

主査_____印

副査_____印

(出典 「専攻科資料」)

特別研究発表会

資料5-7-①-5

平成23年度 専攻科第1回特別研究発表会

日時 平成22年8月26日(金)
場所 専攻科講義室227

	時間	学生名	主査	副査	副査
2年生	10:00-10:15	青木 裕太	山下(健)	加藤	
	10:15-10:30	太田 温	山下(健)	加藤	
1年生	10:40-10:50	小林 裕明	山下(健)	加藤	
	10:50-11:00	潮湖 肇夫	竹本	大杉	
	11:00-11:10	福島 佑弥	山下(健)	加藤	

○2年生は、学修成果として大学評価学位授与機構へ提出する内容について多くの先生方からコメントをいただき、内容の見直し・検討・修正の参考にする。(発表10分+質疑応答5分)

○1年生は、特別研究の進捗状況の報告をかねて、今後の研究計画等について発表し、多くの先生方からコメントをいただいで参考にする。(発表5分+質疑応答5分)

平成23年度 専攻科第1回特別研究発表会

日時 平成22年9月2日(金)
場所 専攻科講義室227

	時間	学生名	主査	副査	副査
2年生	10:00-10:15	相川 和哉	米盛	齊藤	
	10:15-10:30	葛西 裕生	米盛	齊藤	
	10:30-10:45	佐藤 一法	吉野	内田	
	11:00-11:15	長野 澄	吉田	島川	
	11:15-11:30	吉永 英紀	大藤	森	
1年生	11:30-11:40	藤原 章裕	米盛	齊藤	

平成23年度 専攻科第1回特別研究発表会

日時 平成22年9月7日(水) 9:30-14:50
 場所 専攻科講義室227

	時間	学生名	主査	副査	副査
2年生	10:00-10:15	菊池 翔	島川	山野辺	
	10:15-10:30	河野 浩士	吉野	米盛	
	10:30-10:45	齋藤 康人	吉野	米盛	
	10:45-11:00	野上 諒	吉野	吉田	
	11:15-11:30	橋口 徹	大杉	加藤	
	11:30-11:45	樋口 晃裕	平岡	大杉	
	11:45-12:00	矢嶋 唯	塩田	加藤	
1年生	13:00-13:10	大和田 光太郎	吉野	齊藤	
	13:10-13:20	佐伯 亮介	吉野	齊藤	
	13:20-13:30	佐々木 長閑	吉野	内田	
	13:30-13:40	田野倉 祥	大藤	大杉	
	13:50-14:00	徳永 大輔	大杉	加藤	
	14:00-14:10	野田 秀信	吉野	齊藤	
	14:10-14:20	正木 達也	加藤	塩田	大杉

平成23年度 専攻科第2回特別研究発表会

日時 平成23年2月17日(金) 10:00～
場所 専攻科講義室227

	時間	学生名	主査	副査
	10:00	関係者集合		
1年生	10:10-10:25	佐々木 長閑	吉野	内田
	10:25-10:40	正木 達也	加藤	塩田、大杉
	10:40-10:55	徳永 大輔	大杉	加藤
	11:05-11:20	藤原 章裕	米盛	斉藤
	11:20-11:35	佐伯 亮介	吉野	斉藤
	11:35-11:50	大和田 光太郎	吉野	斉藤
	13:00-13:15	福島 佑弥	山下(健)	加藤
	13:15-13:30	小林 裕明	山下(健)	加藤
	13:30-13:45	田野倉 祥	大藤	大杉
	13:55-14:20	潮湖 肇夫	竹本	大杉
	14:20-14:35	野田 秀信	吉野	斉藤
14:35-14:50	小坂 聡彦	山下(健)	加藤	

○1年生は中間発表(発表5分+質疑応答10分)とします。

平成23年度 専攻科第2回特別研究発表会

日時 平成23年2月18日(土) 9:30～
場所 専攻科講義室227

	時間	学生名	主査	副査
	9:30	関係者集合		
2年生	9:40-10:00	青木 裕太	山下(健)	加藤
	10:00-10:20	太田 温	山下(健)	加藤
	10:20-10:40	菊池 裕生	島川	山野辺
	10:50-11:10	相川 和哉	米盛	斉藤
	11:10-11:30	葛西 裕生	米盛	斉藤
	11:30-11:50	吉永 英紀	大藤	森
	13:00-13:20	長野 澄	吉田	島川
	13:20-13:40	野上 諒	吉野	吉田
	13:40-14:00	齋藤 康人	吉野	米盛
	14:10-14:30	河野 浩士	吉野	米盛
	14:30-14:50	佐藤 一法	吉野	内田
	14:50-15:10	橋口 徹	大杉	加藤
15:20-15:40	樋口 晃裕	平岡	大杉	
15:40-16:00	矢嶋 唯	塩田	加藤	

○2年生は修了発表(発表10分+質疑応答10分)とし、発表会終了後成績会議を行います。

(出典 専攻科作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

学校教育目標の「国際性」をにらんで「伝統文化特論」を必修科目とし、また豊かな人間性を育むために、通常の工学系学科には存在しない「バイオメカニクス」を開設するという工夫が行われている。

特別研究指導においては、複数教員による指導，“仮配属期間”を経てからの配属研究室の決定、年間2回の発表会の実施によって、効果的な教育研究を行うよう十分配慮されている。

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価、単位認定及び修了の認定については、専攻科規則(資料5-8-①-1)の中に記載されている。専攻科規則はinfoに掲載されており、infoは在校生全員に配布されている。また、本校のウェブサイトからも閲覧可能となっている。(資料5-8-①-2)。特に、単位修得状況が芳しくない学生については面談を実施しており、その際に修了の認定について確認するようにして周知を図っている。

また、成績評価については、年間2回の成績会議(前期末、学年末)(資料5-8-①-3)後に学生に「成績通知表」を配布し、不服申し立てにも応じる体制をとっている。

専攻科規則

資料 5-8-①-1 その 1

4.2.1 専攻科規則

(目的)

第 1 条 サレジオ工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 40 条第 2 項および第 47 条の規定に基づき、サレジオ工業高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績評価並びに修了の認定に関して必要な事項を定める。

(単位数)

第 2 条 標準 90 分 15 回を 2 単位とする。

- 2 授業は、講義、演習、実験・実習のいずれか、またはこれらを併用して行うものとする。
- 3 各授業科目の単位数は、授業の教育効果と授業時間外に必要な学習等を考慮し、授業の方法に応じて次の各号の基準により単位数を計算するものとする。
 - 一 講義科目については、90 分 15 回の授業をもって 2 単位とする。
 - 二 演習科目については、90 分 30 回の授業をもって 2 単位とする。
 - 三 実験・実習科目については 135 分 30 回の授業をもって 2 単位とする。

(履修方法)

第 3 条 専攻科に開設する授業科目の履修にあたっては、各学期の所定の期日までに履修届を提出しなければならない。

(指導教員)

第 4 条 専攻科の学生は、専攻の指導教員から特別研究の指導を受けるとともに、履修科目を選択するものとする。

(試験)

第 5 条 専攻科の試験は、定期試験と追試験（以下「定期試験等」という。）とする。

- 2 定期試験は各学期末に実施する。なお、平素の成績によって評価し得る科目については、試験の全部又は一部を行わないことができる。
- 3 試験時間割は、試験開始日の 7 日前までに公表する。
- 4 追試験は、病気その他やむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった者が、追試験受験願を所定の期日までに提出して、許可を得た上で受験することができる。
- 5 試験中に不正行為を行った者は、当該試験期間中の全試験科目を 0 点とする。

(学業成績の評価)

第 6 条 学業成績の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平素の学習状況を総合して次の区分によって行うものとする。ただし、特別研究及びインターシップは評価区分を行わず合否のみを判定する。

評価	100~80	79~70	69~60	59~0
評定	優	良	可	不可

- 2 特別研究の評価は、特別研究論文を提出し、特別研究発表会で発表を行った者に対して行う。
- 3 前項の特別研究論文に関しては、学協会等において発表できる水準を努力目標とする。

第 7 条 欠席数が総授業回数の 1/3 を超える授業科目については、原則として評価は行わない。

資料 5-8-①-1 その 2

(単位の認定)

第 8 条 第 6 条の規定に基づき、優、良及び可に評価された授業科目について単位を認定する。

(終了の条件)

第 9 条 専攻科の修了は、学則第 44 条の規程のほか、次表に掲げる条件を満足しなければならない。

科目	必修科目	選択科目	他大学等における履修科目	合計
専攻				
生産システム工学	24 単位	30 単位以上	第 10 条	62 単位以上

(他の教育施設で履修した単位認定)

第 10 条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目の履修により取得した単位は、原則 8 科目 16 単位を限度として、本高専専攻科における取得単位として認定を受け修了に必要な単位と換えることができる。

(単位互換)

第 10 条の 2 単位互換に係る規則及び事務手続きについては、別途定める。

(再履修)

第 11 条 定期試験等で不合格になった授業科目は、再履修することができる。

2 前項で定める再履修は、第 3 条の規定を準用する。

(専攻科の修了)

第 12 条 専攻科課程の修了の認定は、学則及びこの規定に基づき、専攻科修了認定会議において審議の上校長が行う。

第 13 条 専攻科の授業料等は以下の通りとする。

費用	納付額
入学金	入学時 150,000 円
授業料	年額 700,000 円
実験実習費	年額 140,000 円
施設設備費	年額 200,000 円
校費	年額 42,000 円

2 前項の入学金については本校本科より入学する場合は半額とする。

3 第 1 項に定める納付額について専攻科奨学生制度による減免は別にこれを定める。

(学生細則)

第 14 条 専攻科学生に関わる学生規則は別途定める。

付則

- この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- この規則は平成 22 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 原学年に留められた学生から徴収する授業料等は、留められた学年の当該年度学生と同額とする。

(出典 info2011)

本校ウェブサイトの info 画面

資料 5 - 8 - ① - 2

サレジオ高専 - info 学内の方へ > 卒業生の方へ > サレジオ高専 ホーム

学内の方へ > info > 2011 Last Update: 2011-07-08

info 2011 《目次》

注意

- 各info文書はPDFで作成してあります。PDFの閲覧には Adobe Reader[®] が必要です。
- PDFを聞いた後でこのページに戻る際は、ブラウザの「戻る」ボタンをご利用ください。
- 等の点線で囲まれている項目は、複数の項目から成る1つのPDF文書を参照しています。

<h3>第1章 巻頭言</h3> <ul style="list-style-type: none"> 1.1 巻頭言 <h3>第2章 サレジオ高専とは</h3> <ul style="list-style-type: none"> 2.1 サレジオ会 2.2 育英学院の歴史 2.3 外部評価等 <ul style="list-style-type: none"> 2.3.1 機関別認証 2.3.2 JABEE認定 2.3.3 個人情報保護基本方針 2.3.4 健康増進法への対応 <h3>第3章 学校を良く知るために</h3> <ul style="list-style-type: none"> 3.1 理念・目的・目標 3.2 ロゴマーク 3.3 校歌 3.4 ホームページ 3.5 組織 <ul style="list-style-type: none"> 3.5.1 学校組織図 3.5.2 運営組織図 3.5.3 主任・担任・クラブ顧問等一覧 <h3>第4章 学生生活を送るために</h3> <ul style="list-style-type: none"> 4.1 学則 4.2 規程・規程・内規・資料 <ul style="list-style-type: none"> 4.2.1 専攻科規則 4.2.2 単位互換制度について 4.2.3 研究生規則 4.2.4 本科（準学士課程）教務規則 <ul style="list-style-type: none"> 4.2.4.1 教務規則 4.2.4.2 教務諸規程 <ul style="list-style-type: none"> 試験に関する規程 選択科目に関する規程 進級に関する規程 	<h3>第8章 キャリアを身につけて進路を考えよう</h3> <ul style="list-style-type: none"> 8.1 キャリアセンター 8.2 就職 <ul style="list-style-type: none"> 8.2.1 就職について 8.2.2 就職活動と各種手続きについて 8.2.3 SPI試験について 8.3 進学 <ul style="list-style-type: none"> 8.3.1 進学について 8.3.2 各種手続きについて 8.3.3 進学対策講座 8.4 資格・検定 <ul style="list-style-type: none"> 8.4.1 資格・検定試験案内 8.4.2 資格・検定取得対策講座 8.4.3 卒業することで認定・免除される資格 8.5 キャリアデー（4年生） <h3>第9章 楽しい学校行事</h3> <ul style="list-style-type: none"> 9.1 入学式（1年） 9.2 オリエンテーション 9.3 校内競技大会（全学年） 9.4 野尻湖キャンプ（1年） <ul style="list-style-type: none"> 9.4.2 山の家利用規則 9.5 高専体育大会（体育部） 9.6 研修旅行（4年） 9.7 育英祭（全学年・教職員・父母会・同窓会） 9.8 マラソン大会（全学年） 9.9 クリスマス・イベント（自由参加） 9.10 吹奏楽・モダンダンス定期公演（自由参加） 9.11 デザイン工学科卒業制作展（5年デザイン） 9.12 卒業式（5年） <h3>第10章 友達をつくらう</h3> <ul style="list-style-type: none"> 10.1 入学式後の行事
---	--

(出典 本校校内限定ウェブサイト)

成績会議

資料5-8-①-3その1

平成24年度専攻科成績会議

前期 議事録

日時：平成24年9月25日（火）9:10～9:30

場所：会議室（231）

出席者：

1. 退学者

1年生： 2年生：

2. 成績の確認

履修申請していながら受講しなかった者について評価（“0点”）と結果数の確認を行った。

科目担当者は成績訂正届を提出することとした。

現状では授業担当者が履修者を正確に把握できていないという問題点が指摘された。

→履修者リストが確定した後に校内ネットワークの共通フォルダに格納することとした。

3. 成績不振者についての検討

- (1) 現状の修得単位数で修了が見込まれ、特別研究の進捗状況も良好である。
- (2) 必須科目での未修得もあり、本年度の修了は見込めない。
- (3) : 必須科目で不合格が確定しているものがあり、今後が大変心配される。

以上。

(出典 「専攻科会議議事録」)

資料5-8-①-3その2

教務部 第052号
平成24年2月20日

教職員各位

教務主事

平成23年度 本科5年成績操行会議、卒業・修了判定会議、表彰会議の開催について（通知）

下記の通り、本科5年成績操行会議および卒業判定会議、専攻科1年成績操行会議および修了判定会議、ならびに表彰会議を開催いたします。関係各位は準備をお願いいたします。

記

○ 日時 平成24年3月6日（火） 時間は以下の表を参照のこと

会議時間	対象学科
09:10～09:50	情報工学科 成績操行会議／卒業判定会議
10:00～10:40	電子工学科 成績操行会議／卒業判定会議
10:50～11:30	電気工学科 成績操行会議／卒業判定会議
11:40～12:20	デザイン工学科 成績操行会議／卒業判定会議
12:30～12:45	専攻科 1年成績操行会議／修了判定会議
13:30～15:00	表彰会議（全学科）

○ 会場 231会議室

○ 出席 学校長、副校長、教務主事、学生主事、学科長、教務担当、学生担当、学級担任、科目担当者（成績操行会議／卒業判定会議のみ）
※その他必要と認められる教職員の出席は各部署長が依頼してください。
※専攻科の会議は1年生の成績操行会議を兼ねるので、1年生科目担当者も出席してください。

○ 準備 当日はプロジェクトを使用して卒業調書作成の作業を平行して行います。
当日の配布資料（成績一覧表等）は、各学科で準備をお願いいたします。ご準備ください。
担任の先生は、下記の場所にある卒業調書を事前に作成しておくようお願いいたします。

調書の受取：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業調書2011【依頼】

調書の提出：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業調書2011【提出】

○ 進行 <卒業判定会議>

- ① 平成23年度の成績確定、精勤賞・皆勤賞、優秀賞・優等賞・努力賞の受賞者決定
- ② 卒業者の確定、卒業表彰者候補の決定

○ 記録 各学科で議事録の作成をお願いいたします。

議事録の提出：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業・修了判定会議2011

以上

(出典 教務文書)

(分析結果とその根拠理由)

事前のガイダンス，および年間2回の成績会議実施によって、学生に対する効果的な指導が行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程では、高専教育の特徴とされる実践的技術者の養成という目標を受けて、創造性を育む教育として様々な工夫を凝らした科目群が提供されている。単に自由奔放に課題に取り組ませるだけでなく、創造性を発揮するための手順を示しながら、指導している点は各学科の授業に共通している。

キリスト教ミッションスクールとしての特徴を活かしながら、豊かな人間性の涵養に向けた多彩な取り組みがなされている。宗務部、学生部、プレテック、応用技術センターなどの部署と、学級担任との協力・連携によって、ホームルーム活動から課外のプロジェクト活動まで多彩なプログラムが企画され、実施されている。

所属学科による制限なく履修可能な選択科目群や英語の必修選択科目群は、学生の多様なニーズに対応した学習機会を提供している。直接に卒業必要単位にはならない自由選択科目でも、多くの学生が履修していることから、学生の学習ウォンツに応える制度になっていると言える。

各学科で創造性を育む教育方法の工夫が行われ、正課教育活動の中に取り込まれている。またFD活動を通じて教員間に情報共有がなされている。

専攻科課程では、専攻科学生が大学評価・学位授与機構による学位審査に合格して全員が「学士」の学位を取得できるように、とくに特別研究に関しては「複数教員（主査・副査）による指導」、「仮配属期間を経てからの研究室配属決定」、「年間2回の特別研究発表会実施」による細かな研究指導が実施されている。

(改善を要する点)

準学士課程では、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスについては、現状把握を始めたばかりだ。今後は学科ごとの教育課程表に照らしてバランスが保たれていることを検証する必要がある。

シラバスの作成と記載内容の整備への取り組みはなされているが、作成したシラバスを実際の教育活動で十分に活かし切れているかは、十分とは言えない。シラバスの活用法の可能性についても、検討が必要である

教育課程の編成や授業科目の内容において、社会からの要請に配慮する取り組みが行われているとは言いがたい。科目担当教員が個人的に社会のニーズを汲みとって改善を行うのに任せているだけで、組織的な取り組みにはなっていない。何らかの仕組み作りが必要である。

過密な時間割のせいもあり、他の高等教育機関との単位互換も制度はあっても十分に活用できているとは言えない。インターンシップも、時間割や学校行事の縛りもあり、従来然の活用に留まっている。全体として余裕のある教育課程編成を検討する必要があるかも知れない。

専攻科課程では、専攻科の開設科目は現教員の教育研究業績との整合性を優先して決められているため、必ずしも学生の希望は社会のニーズに応えるものとは言えず、今後さらなる工夫が求められる。

(3) 基準5の自己評価の概要

準学士課程においては、低学年では一般科目が多く、高学年になるにつれて専門科目が多くなる「くさび形」の科目配置となっている。また高学年では選択必修科目や自由選択科目を配置し、学生個人の適性やニーズに合わせた履修に配慮している。また、インターンシップや資格試験などによる単位認定も行っている。

実践的技術者の要請という目標に即して、授業形態は講義に偏ることなく、実習や実験の科目も多く配置されており、教育内容に応じた学習指導法に工夫がなされている。教育課程全体の中での授業形態のバランスについては検討課題である。

シラバスについては、作成方法や記載内容について見直しや改善が行われているが、教育活動への効果的な活用はまだ検討を要する段階である。

創造性を育む教育方法の工夫は、各学科とも多く見受けられ、FD活動を通じて教員間で共有化も図られている。

豊かな人間性の涵養に向けて、各部署と学級担任との連携のもとに、ホームルーム活動や学校行事、また一般科目の授業を通じて、多くの機会が提供されている。

成績評価や進級・卒業認定の規定については、毎年度発行される学生要覧『info』に記載されて、教職員のみならず学生やその保護者にも配布されて周知が図られている。また実際の運用もこれらの規定に従って適切に実施されている。

専攻科課程では、特別研究に関しては様々な工夫と配慮がなされているが、その他の開設科目とくに講義科目については必ずしも学生の希望や社会のニーズに応えるものとは言えず、教員の教育研究の推進によるスキルアップや計画的採用によって理想的な科目構成に近づける必要がある。

基準 6

教育の成果

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①：高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到る状況）

本校では、教育目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力を明確に定め（校是・理念・目的・目標：資料6-1-①-1、学則第1章第1条：資料6-1-①-2）、それに対応させて授業科目を配置している（学則第4章：資料6-1-①-3）。

資料6-1-①-1

1 サレジオ工業高等専門学校の教育理念

本校はローマカトリック教会において青少年教育を目的として事業を始めた聖人ヨハネ・ボスコ（伊1815-1889）によって創設されたサレジオ修道会が全世界に展開している1600余校の学校の1つとして1935年東京に創立された。1985年、前身の育英工業学校の創立から数えて50周年を迎えたその際、教育理念を明確にしようとする当時のスタッフにより以下の3つの校是が定められた。

- 校是1 「神は愛なり Loving Kindness」より
カトリック・ミッションによるキリスト教の精神に基づく教育
- 校是2 「技術は人なり Human Technology」より
教養と専門を基盤とする総合的人格陶冶に基づく技術者教育
- 校是3 「真理は道なり Living Truth」より
理論と実践を両輪に創造性と探究心あふれる人間教育

2 サレジオ工業高等専門学校の教育目的

－ 基本精神 －

キリスト教精神に基づく人間観を持った善き職業人を養成する

1. 専門性…深く専門の学芸を教授し高度の工業専門教育を行う
2. 国際性…国際社会で活躍できる有為な人材を養成する
3. 人間性…社会性豊かな、創造性に富んだ、チャレンジ精神溢れる個性に伸ばす

準学士課程の教育目標

資料6-1-①-1 続き

準学士課程にあっては実践的技術者となるために以下のような力を身につけることを目標とする

- A. **基礎力**：専門分野を学ぶために必要な基礎的学力や技能
- B. **実践力**：提示された課題を正確に必要なかつ十分に実現する力
- C. **コミュニケーション力**：物事を論理的に考え、それらを文章や言葉で表現する力
- D. **人間性**：健全な人格を育成し、社会性をもつ人柄となる力
- E. **国際性**：海外の人々と交流するために必要とする基本的な力

専攻科課程の教育目標

- A. **基礎力**：特別研究の遂行過程において常に基礎に還り、新知識を創り出す訓練を行う
- B. **専門力**：準学士課程の専門課程と接続して、より高度な専門領域について研究室を中心として特別実験や特別研究の実践を通して知識のみならず、学ぶ力を養うことで創造的研究開発能力を得る
- C. **コミュニケーション力**：学会の場を通じ、論文作成、研究発表（情報発信）、質疑応答を通じ、真の意味でのコミュニケーション力を養う
- D. **人間性**：学問を通して人間性を養う
- E. **国際性**：国際会議における研究発表を通じ、エンジニアとしての国際性を身につける

(出典 info2012 理念・目的・目標)

A 学則

資料6-1-①-2

第1章 本校の目的

第1条 本校は学校教育法により、深く専門の学芸を教授し、高度の工業専門教育を施し、カトリック・サレジオ修道会の教育理念に基づいて国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養い、個性の確立伸長に努めることを目的とする。

(出典 info2012 学則第1章第1条)

資料 6-1-①-3

第4章 教育課程・学修単位及び再履修

第12条 1年の授業期間は、定期試験等の期間を含め、35週以上にわたることを原則とする。

第13条 教育課程は、各授業科目を各学年に配当して編成し、学年ごとの授業科目及びその単位数は別に定める。

2 各授業科目の単位数は、30単位時間（1単位時間は、標準50分とする。）の履修を1単位として計算するものとする。

3 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、学習の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これに必要な学習等を考慮して、単位数を定めることができる。

4 第1項に定める授業科目のほか、特別活動を90単位時間以上履修するものとする。

第13条の2 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について履修した単位を、30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 第1項に関し、必要な事項は、別に定める。

第13条の3 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

2 前項により認定することできる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

3 第1項に関し、必要な事項は別に定める。

第14条 各学年の課程の修了又は卒業を認定するにあたっては、学生の学業成績のほか、特別活動の状況を併せ評価して行うものとする。

第15条 前条の認定の結果、原学年に留められた者は、当該学年に係る授業科目を再履修するものとする。

2 5学年に留められた者については、前項の規定にかかわらず、不合格と認定された授業科目を再履修するものとする。ただし卒業研究については合否にかかわらず再履修しなければならない。

(出典 info2012 学則第4章)

準学士課程の卒業要件は、学則第4章第13～14条（資料6-1-①-3）、ならびに準学士課程教務規則のうち「卒業に関する規則」（資料6-1-①-4）に明記されており、その指導手順は「卒業認定までの指導手順に関する規定」（資料6-1-①-5、資料6-1-①-6）で明確に定められている。 学士課程の修了要件はサレジオ工業高等専門学校専攻科規則第9条（資料6-1-①-7）に明記されている。

卒業に関する規程

資料 6-1-①-4

(平成20年4月1日施行)

(趣旨)

第1条 この規程は、卒業に関し必要な事項について定めるものとする。

(卒業の認定)

第2条 卒業の認定は、学則第13条に規定する授業科目のうち、教育課程表において修得が定められた科目の単位（以下、「要卒業単位」という）を全て修得した者について、卒業判定会議において審議され、学校長が行う。ただし、授業料等を未納の者、および学校の物品を借用し返却しない者は卒業の認定を保留する。

2 要卒業単位のうち未修得単位があるものについては、成績操行会議の議を経て、卒業判定会議において、学校長は卒業延期または留年の措置をとることができる。

(卒業延期)

第3条 卒業延期の手続き等については、別に定める。

(出典 info2012 規則・規程)

資料 6-1-①-5

C-4 卒業認定までの指導手順に関する規定

第1条 試験に関する規則第2条に基づき卒業試験の手順を以下の各号に定める

- (1) 卒業試験後一定の期間において、学年末成績（卒業研究を除く）を開示される
- (2) 同成績において不可の評定単位合計が 14 単位に達すると卒業延期または留年となる場合がある
- (3) 同成績が 14 単位未満である場合は準学士課程教務規則第 4 条に定める認定試験を受験することができる
- (4) 認定試験は前号の学生を対象に卒業の機会を与えるために実施する。その手続きは別に定める
- (5) 前号の成績結果については実施後数日後に開示する。なお不合格の科目がある場合は卒業延期または留年となる場合がある

第2条 卒業研究審査（以下審査と略す）の手順を以下の各号に定める

- (1) 卒業論文（以下論文と略す）及び研究概要（以下概要と略す）を所定の様式で作成し、定められた期限までに指導教員の属する学科の科長に提出する。
- (2) 卒業論文が提出期限に遅延したと認められる場合、正規の審査は受けることができず再審査を受けなければならない
- (3) 正規の審査に不合格であったものは再審査を受けなければならない
- (4) 再審査不合格のものは卒業延期または留年となる場合がある

第2条の2 卒業試験と卒業研究に合格した学生は卒業判定・受賞者選考会議により卒業判定を行う。卒業判定・受賞者選考会議では特段の事情がない限り卒業が認定される。

資料6-1-①-5 続き

- (1) 不合格科目の認定試験受験料 1 科目あたり 5000 円とともに認定試験願書を添え、学校事務室で所定の手続きを行う
- (2) 再審査の場合は再審査料 10000 円とともに再審査願書を添え、学校事務室で所定の手続きを行う。ただし第 1 条第 1 項の (5) の場合はこの限りではない

第 4 条 教育指導上の事項は以下の各号の通りである

- (1) 卒業試験後の出校は学校または所属学科が指定した日、及び指導教員の指示による日等となり、種々の連絡等が随時行われるので指導教員との連絡方法(携帯等)、所在を明らかにすること
- (2) 前号の期間も従前の校則が適用されているので遵守すること

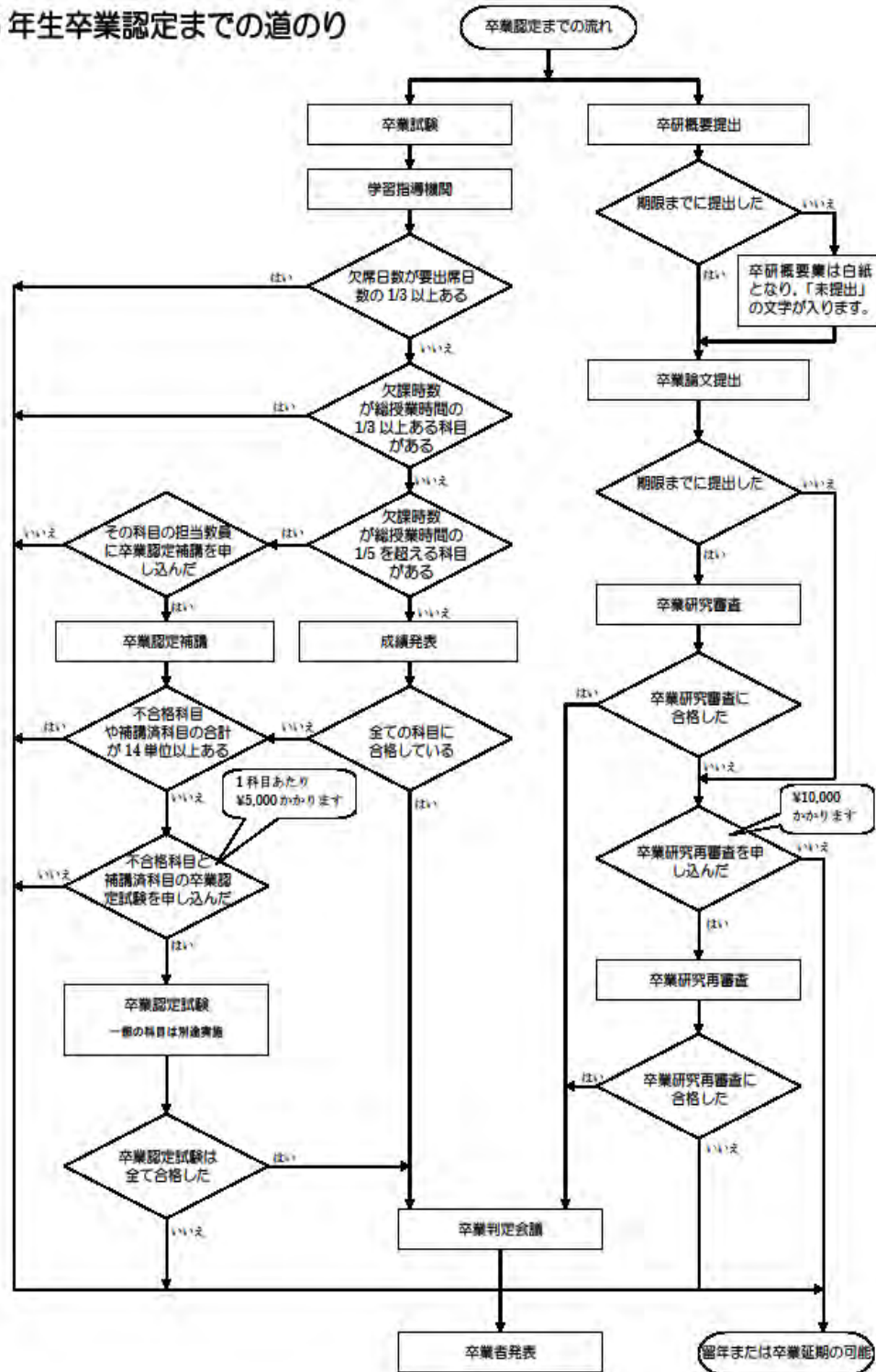
第 4 条 付則

- (1) 本規則は平成 15 年 4 月 1 日より施行される
- (2) 本規則の改廃は教務部会の議を経て校長の裁可を経て発効する
- (3) 別表(4)に手続き図を示す
- (4) 本規則は平成 16 年 4 月 1 日付けで改定し、即日施行する
- (5) 本規則は平成 18 年 4 月 1 日付けで改定し、即日施行する
- (6) 本規則は平成 20 年 4 月 1 日付けで施行される

(出典 info2012 規則・規程)

資料 6-1-①-6

5 年生卒業認定までの道のり



(出典 info2012 卒業に関する規則)

資料6-1-①-7

(修了の条件)

第9条 専攻科の修了は、学則第44条の規程のほか、次表に掲げる条件を満足しなければならない。

科目 専攻	必修科目	選択科目	他大学等における履修科目	合計
生産システム工学	24 単位	30 単位以上	第10条	62 単位以上

(出典 info2012 専攻科修了要件)

授業科目ごとのシラバスには、到達目標が設定され、成績評価基準も明確に示している(資料6-1-①-8)。各授業科目の担当教員は、学生の目標達成度を評価し、達成した学生の単位を認定する。

資料6-1-①-8

開講年度	2012年度				
授業科目		対象学科	対象学年	開講期間	単位数
品質管理論		情報工学科	5年	半期	1
英語名称		履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Quality Control		必修	講義 16.5	演習 6	実験 実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス	
平岡 一則	機械電子工学科・特任教授	202室	出勤日はいつでも可	aoka@salesio-sp.ac	
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習・教育目標との対応			
CS-8		B-1, B-2, B-3			
授業概要	ハードを対象として、品質管理に必要な具体的な方法を学ぶ。基礎知識として、まずQC7つ道具とその裏付けとなる基礎数理を学び、その応用として統計的品質管理の一端に触れる。また数理的な方法によらない品質管理手法として、品質マネジメントシステムを学ぶ。統計的品質管理と品質マネジメントシステムは、ともに企業では必須の内容である。				
到達目標	新聞や雑誌の品質管理に関する専門記事を読み、その背景や基礎的事柄が理解できる能力を身につける事を目標とする。 そのため、品質管理に関する事柄を広く理解しており、その裏付けとなる数学的な計算ができる事を合格基準とする。				
授業方法	プリント資料を用いて講義を行い、学習の直後に小テストを実施して知識の定着化を図る。				
教科書	なし (担当教員作成のプリント教材を使用)				
補助教材	日頃から新聞や雑誌等で、品質管理の記事に注意しておく事が望ましい。				
評価方法	<p>中間試験の評点は、中間試験の点数そのもの(素点)とする。</p> <p>学年末の評点(最終評点)は、以下の式による。 $\text{最終評点} = \text{中間} \cdot \text{期末の素点平均} \times 0.7 \text{ (70点満点)} + \text{小テスト} \cdot \text{レポート点 (30点満点)}$ これで60点以上は合格、60点未満は不合格となる。</p> <p>ただし60点未満でも、①課題・小テストを全て提出済み、②上記式による最終評価点が50点以上、の2つの条件を満たせば再試を受験できる。再試で60点以上取れば、最終評価60点として合格とする。</p> <p>最終評価点が50点未満の場合、あるいは課題・小テストに未提出のものがある場合、卒業認定試験を受験してもらおう。 卒業認定試験が不合格になった場合は、卒業延期あるいは留年となる。</p>				
関連科目	経営工学概論、統計解析学Ⅰ・Ⅱ				
準備学習に関するアドバイス	配付する資料では、要所を空欄にしてあります。そこに入るべき文書や用語、および数値等についてあらかじめ考えておくと、講義を聴いたときの学習効果が上がります。				

(出典 2012年度シラバス記載事例「品質管理論」)

資料 6 - 1 - ① - 8 (続き)

授業計画		
コマ数	時間数	授業項目および学習達成項目
1	1.5	授業ガイダンス、品質管理概論 <input type="checkbox"/> 年間授業計画・評価方法の説明 <input type="checkbox"/> 品質管理の目的と歴史
3	4.5	QC 7 つ道具 生産現場で使われる品質管理手法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> グラフ、パレート図、特性要因図、チェックシート <input type="checkbox"/> ヒストグラム (演習) <input type="checkbox"/> 散布図と相関図 <input type="checkbox"/> 管理図 <input type="checkbox"/> 以上の手法を体系化した品質改善方法
3	4.5	信頼性の基礎数理 単なる数学授業ではなく、実務を支える数学的な本質を学ぶ <input type="checkbox"/> 数値の種類、データの種類 <input type="checkbox"/> 信頼性の尺度 (寿命、故障率) (演習) <input type="checkbox"/> 母集団とサンプリング、推定 <input type="checkbox"/> 確率分布、標準偏差、偏差値 (演習)
4	6	統計的品質管理 基礎数理の応用として学び、統計的方法の限界を理解する。 <input type="checkbox"/> シューハート管理図、工程異常の統計的定義 (演習) <input type="checkbox"/> 検査の種類 (演習) <input type="checkbox"/> 抜き取り検査、OC 曲線、統計的誤り (演習)
1.5	2.25	品質マネジメントシステム 統計的手法とは異なるアプローチによる品質管理手法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> ISO 9001 (QMS)、仕事の仕組み改善で品質向上 <input type="checkbox"/> ISO 14001 (EMS)、企業の社会的責任
0.5	0.75	中間試験
0.5	0.75	試験解説 前半の総まとめ
0.5	0.75	期末試験
1	1.5	試験解説、総まとめ、個別指導 後半の総まとめ、個別指導
合計		
15 コマ	22.5 時間	

卒業（修了）時には、この単位の認定状況を資料として、達成状況の把握・評価に取り組む。実施するに当たっては準学士課程教務内規（内規 0101-0105、内規 1101-1107：資料 6-1-①-9）により運用細目が定められている。また専攻科課程については専攻科規則第 12 条（資料 6-1-①-10）に定められている。

教務関係内規 [平成20年3月7日 教務関係内規第1号]

[総則]

内規 0001 本内規は教務規則に基づき教務に関する運用細目を定める

[成績評価]

内規 0101 教務規則第21条に基づく成績等報告は成績単票または電子画面によって決められた期間内に教務主事に報告する

内規 0102 定期試験実施後に行われるこの報告を成績操行報告という

内規 0103 内規 0102 の報告中に用いられる評価とは100点法で表記されるものをいい、評定とは教務規則第23条で定められたものとする

内規 0104 成績等の学生及び保護者への通知は成績通知書によって行う

内規 0105 成績操行報告の際に報告される内容は以下の各号に示される期間内にわたるものとする

- (1) 前期中間成績操行報告は、4月1日から学年暦に示される前期中間試験最終日までとする
- (2) 前期末成績操行報告は、4月1日から学年暦に示される前期末成績操行報告日までとする
- (3) 後期中間成績操行報告は、4月1日から学年暦に示される後期中間試験最終日までとする
- (4) 後期末成績操行報告は、4月1日から学年暦に示される春季休暇入り前日までとする

[及落判定会議・卒業判定会議]

内規 1101 校長は学年末成績操行会議を経て1学年より4学年までは及落判定会議を開催する

内規 1102 内規 1101 は5年生については卒業判定会議と読み替える

内規 1103 同会議は以下の各号に相当する構成員をもって組織する

- (1)校長 (2)副校長 (3)教務主事 (4)学生主事
- (2)学科主任 (5)教務及び学生担当 (6)当該学級担任 (7)必要と認められる教員

内規 1104 及落判定会議は学年末成績操行会議の結果を受けて報告される及落調書をもとに当該クラスの学生の身分について議論し、校長が裁定を下す。

内規 1105 5年生の場合は内規 1104 の及落調書を卒業調書と読み替える

内規 1106 審議事項は以下の各号について検討する

- (1) 学生異動確認
- (2) 留年候補者提示
- (3) 表彰候補者提示 (校長賞、努力賞、皆勤賞、精勤賞)
- (4) 学生身分確定 (留年、特別条件付、条件付、学生部条件付、退学)
- (5) 最終及落調書の提出

内規 1107 卒業判定においては内規 1106 を以下の通り読み替える

- (1) 卒業研究審査の経過 (合格、再審査)
- (2) 卒業に関する判定 (卒業、卒業延期、留年)
- (3) 表彰候補
- (4) 最終卒業調書の提出

資料6-1-①-10

教務規則 第7章 専攻科

改訂平成24年4月1日

(再履修)

第41条 定期試験等で不合格になった授業科目は、再履修することができる。

2 前項で定める再履修は、第33条の規定を準用する。

(専攻科の修了)

第12条 専攻科課程の修了の認定は、学則及びこの規定に基づき、専攻科修了認定会議において審議の上校長が行う。

2 修了認定については別に定める

(出典 info2012 教務規則)

関係教員への卒業判定会議(資料6-1-①-11)と修了判定会議(資料6-1-①-12)の開催通知、および卒業判定会議議事録(資料6-1-①-13)と修了判定会議議事録(資料6-1-①-14)の例を、各資料に示す。

以上のような仕組みで、達成状況を把握・評価する取り組みを行っている。

資料6-1-①-11

教務部 第052号
平成 24年 2月 20日

教職員各位

教務主事

平成23年度 本科5年成績操行会議、卒業・修了判定会議、表彰会議の開催について（通知）

下記の通り、本科5年成績操行会議および卒業判定会議、専攻科1年成績操行会議および修了判定会議、ならびに表彰会議を開催いたします。関係各位は準備をお願いいたします。

記

○日時 平成 24年 3月 6日（火） 時間は以下の表を参照のこと

会議時間	対象学科
09:10 ～ 09:50	情報工学科 成績操行会議／卒業判定会議
10:00 ～ 10:40	電子工学科 成績操行会議／卒業判定会議
10:50 ～ 11:30	電気工学科 成績操行会議／卒業判定会議
11:40 ～ 12:20	デザイン工学科 成績操行会議／卒業判定会議
12:30 ～ 12:45	専攻科 1年成績操行会議／修了判定会議
13:30 ～ 15:00	表彰会議（全学科）

- 会場 231会議室
- 出席 学校長、副校長、教務主事、学生主事、学科長、教務担当、学生担当、学級担任、科目担当者（成績操行会議／卒業判定会議のみ）
※その他必要と認められる教職員の出席は各部署長が依頼してください。
※専攻科の会議は1年生の成績操行会議を兼ねるので、1年生科目担当者も出席してください。
- 準備 当日はプロジェクトを使用して卒業調書作成の作業を平行して行います。
当日の配布資料（成績一覧表等）は、各学科で準備をお願いいたします。ご準備ください。
担任の先生は、下記の場所にある卒業調書を事前に作成しておくようお願いいたします。
調書の受取：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業調書2011【依頼】
調書の提出：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業調書2011【提出】
- 進行 <卒業判定会議>
- ① 平成23年度の成績確定、精勤賞・皆勤賞、優秀賞・優等賞・努力賞の受賞者決定
 - ② 卒業者の確定、卒業表彰者候補の決定
- 記録 各学科で議事録の作成をお願いいたします。
議事録の提出：（運営）教務部＞教務汎用フォルダ＞卒業・修了判定会議2011

資料6-1-①-12

教務部 第054号
平成 23年 2月 20日

教職員各位

教務主事

及落判定会議の開催について（通知）

及落判定会議を下記の通り開催いたします。

記

○日時 平成 24年 3月 9日（金） 時間は以下の表を参照のこと

会議時間	クラス
09:30 ~ 10:30	1A, 1B, 1C, 1D
10:40 ~ 11:40	2AD, 2EE, 2ME, 2CS
11:50 ~ 12:20	3EE, 4EE
昼休み	
13:00 ~ 13:30	3ME, 4ME
13:40 ~ 14:10	3AD, 4AD
14:20 ~ 14:50	3CS, 4CS

- 会場 231会議室
- 出席 (本科1-2年)
学校長、副校長、教務主事、学生主事、プレ主任、学年主任、プレ学生担当、学級担任、部署長に依頼された教員
(本科3-4年)
学校長、副校長、教務主事、学生主事、学科長、学科長補佐、教務担当、学生担当、学級担任、部署長に依頼された教員
- 準備 担任の先生は、成績操行会議で確定した及落判定調書を下記に保存してください。
調書の受取： (運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > 及落判定調書2011【依頼】
調書の提出： (運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > 及落判定調書2011【提出】
- 進行 別紙1の進行手順を参照してください。
- 記録 議事録の作成をお願いいたします。及落判定会議終了後、速やかに下記へ提出願います。
議事録の提出： (運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > 及落判定会議2011

資料6-1-①-13

5EC 成績操行会議／卒業判定会議

日時 2012年3月6日(火) 10:00-10:40

場所 231会議室

成績操行会議

1. 成績・欠時数の訂正
2. 評価無効措置の通知(文書配布)
3. 卒業予定者の確定
 - a. 在籍者27名全員が卒業予定

卒業判定会議

4. 卒業延期対象学生
 - なし
5. 表彰調書の確認
 - 優秀賞：小川
 - 優等賞：近藤
 - 努力賞：蔵越、佐藤(雅)
 - 卒研優秀賞：大澤、佐伯、濱田
 - 5年間皆勤賞：3名
 - 5年間精勤賞：1名

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学生が卒業(修了)時に身につけるべき学力や資質・能力について、その達成要件(準学士課程の卒業要件及び専攻科課程の修了要件)を、教育目的に沿って定め、その達成状況の把握に努めている。また卒業(修了)時には、その評価を実施している。

このように本校においては、教育目的に沿った形で、課程に応じて、養成する人材像、学生が卒業(修了)時に身につける学力や資質・能力等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われている。

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では、学生が卒業・修了時に身につけるべき学力や設定した達成要件の達成状況について、準学士課程・学士課程ともに関係教員による成績操行会議と卒業判定会議・修了判定会議を開催し、卒業認定調書（資料6-1-②-1）および専攻科成績一覧表（資料6-1-②-2）により、達成要件の達成状況を確認した上で、卒業・修了認定を行っている。

資料6-1-②-1

卒業認定調書

学級名 担任名 議長 書記 最終作成日

学 籍
期前在籍者数 既退学者数 卒業認定者数 卒業延期者数 留級留置者数

クラス番号	学生氏名	日付	クラス番号	学生氏名	日付	クラス番号	学生氏名	日付	クラス番号	学生氏名	日付	クラス番号	学生氏名	日付
順中進学者														

卒業延期

番号	学生氏名	科目1	単位	科目2	単位	科目3	単位	科目4	単位	科目5	単位	科目6	単位	科目7	単位	科目8	単位	科目9	単位	合計単位	
		修得科目																			
		未修得科目																			
		卒業判定予定日	判定結果																		
		修得科目																			
		未修得科目																			

留級留置

番号	学生氏名	科目1	単位	科目2	単位	科目3	単位	科目4	単位	科目5	単位	科目6	単位	科目7	単位	科目8	単位	科目9	単位	合計単位	
		修得科目																			
		未修得科目																			
		留校学籍移動状況																			
		修得科目																			
		未修得科目																			
		留校学籍移動状況																			

卒業延期・留級留置候補 ※ 卒業判定会議後「卒業延期」、「留級留置」のいずれかに分ける

番号	学生氏名	科目1	単位	科目2	単位	科目3	単位	科目4	単位	科目5	単位	科目6	単位	科目7	単位	科目8	単位	科目9	単位	合計単位	
		修得科目																			
		未修得科目																			

表彰調書

優秀賞・優等賞・努力賞

番号	学生氏名	5年間の評定「優」の科目数			3年間の評定「可」科目数	人物評価 (A,B,C)	学習態度 (有・無)	5年間通算出席状況						所見
		一般科目	専門科目	4,5年次				欠席数	遅刻数	早退数	欠課時数	換算値(遅・早)	換算値(欠課)	
21		33	35	26	0	A	無	3	1	0	0	0.2	0.0	
1		31	35	27	0	A	無	0	0	0	0	0.0	0.0	換賞賞2、努力賞2
優秀・優等賞基準 17科目以上 20科目以上 12科目以上 0科目未満 A 無														
15		28	35	26	0	A	無	2	2	0	3	0.7	0.0	
22		27	36	25	1	A	無	0	0	0	0	0.0	0.0	
努力賞基準 5年次での学習態度による評定単点が1未満未満														

卒研優秀賞

番号	学生氏名	学科順位	卒研課題名	備考
21			熱帯気候帯子午線とするアクティブRFIDタグの検討	4高専卒研発表交流会代表
14			マルチチャンネル動的簡易編成の試作・検討(脳波記録部の設計)	

5年間 習熟・精熟賞

番号	学生氏名	欠席数	遅刻数	早退数	欠課時数	換算値 (遅・早)		番号	学生氏名	欠席数	遅刻数	早退数	欠課時数	換算値 (遅・早)
						換算値 (欠課)	換算値 (遅・早)							
1		0	0	0	0	0.0	0.0	3		3	0	0	0.0	0.0
13		0	0	0	0	0.0	0.0	12		1	8	1	0.0	0.0

5年次 習熟・精熟賞

番号	学生氏名	欠席数	遅刻数	早退数	欠課時数	換算値 (遅・早)	
						換算値 (欠課)	換算値 (遅・早)
1		0	0	0	0	0.0	0.0
3		0	0	0	0	0.0	0.0
13		0	0	0	0	0.0	0.0
17		0	0	0	0	0.0	0.0
19		0	0	0	0	0.0	0.0

番号	学生氏名	欠席数	遅刻数	早退数	欠課時数	換算値 (遅・早)	
						換算値 (欠課)	換算値 (遅・早)
25		0	2	0	0	0.0	0.7
		0	0	0	0	0.0	0.0
		0	0	0	0	0.0	0.0
		0	0	0	0	0.0	0.0
		0	0	0	0	0.0	0.0

資料6-1-②-2

専攻科 H23年度入学生 成績一覧表 (学年末)

□ 今期評価部

インターシップ : ◎=2単位 ○=1単位

区分	H23年度入学		担当 教員	履修 単位数	1992次			1993次			1994次			1995次			1996次					
	科目名	学年			期間	評点	評価	欠課	評点	評価	欠課	評点	評価	欠課	評点	評価	欠課	評点	評価	欠課		
			評点	評価																	欠課	評点
必修	生産システム特論	1年	前期	2	0	不可	6	90	優	1	0	不可	5	75	良	0	100	優	1	85	優	3
	論文講読Ⅰ	1年	前期	1	0	不可	11	80	優	0	0	不可	13	80	優	0	90	優	0	80	優	1
	論文講読Ⅱ	1年	後期	1	0	不可	15	85	優	1	0	不可	13	75	良	4	75	良	0	85	優	1
	専攻深習Ⅰ	1年	前期	1	8	不可	12	79	良	0	1	不可	12	65	可	0	92	優	0	70	良	1
	専攻深習Ⅱ	1年	前期	1	0	不可	12	87	可	1	0	不可	11	64	可	1	83	優	0	69	可	0
	専攻実験	1年	通年	2	0	不可	54	68	可	0	0	不可	30	74	良	0	81	優	0	75	良	0
	英語Ⅰ	1年	通年	2	0	不可	15	60	可	1	70	良	2	60	可	3	90	優	0	87	優	1
	英語Ⅱ	2年	通年	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	特別研究	1-2年	通年	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	伝統文化特論	1年	前期	2	0	不可	13	70	良	1	0	不可	11	60	可	0	80	優	0	60	可	0
選択	インターシップ	1年	通年	2	-	-	-	○	合	-	-	-	-	-	-	-	○	合	-	◎	合	-
	熱統計力学	1年	前期	2	0	不可	12	79	良	0	0	不可	11	79	良	0	83	優	0	86	優	1
	複素関数論	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	数学特論	1年	前期	2	0	不可	13	76	良	0	0	不可	11	79	良	0	94	優	0	85	優	1
	量子力学	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	材料科学	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計算システム論	2年		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	エネルギー変換工学	1年	後期	2	0	不可	14	66	可	2	61	可	5	63	可	1	74	良	0	62	可	1
	電力システム	1年	前期	2	0	不可	11	79	良	1	0	不可	13	92	優	0	96	優	0	77	良	3
	環境電磁工学	1年	前期	2	-	-	60	可	0	-	-	71	良	0	81	優	0	62	可	0	0	
	機械工学概論	1年	前期	2	0	不可	11	75	良	0	0	不可	11	68	可	0	82	優	0	75	良	0
	バイオメカニクス	1年	後期	2	-	-	70	良	2	0	不可	16	39	不可	7	85	優	0	90	優	2	
	信頼・安全性工学	1年	前期	2	-	-	75	良	1	-	-	77	良	0	92	優	0	85	優	1	1	
	生産管理工学	1年	後期	2	-	-	60	可	2	0	不可	14	61	可	2	84	優	1	60	可	2	
	構造材料	1年	後期	2	0	不可	13	71	良	2	40	不可	12	78	良	0	85	優	0	70	良	3
	計測制御特論	1年	後期	2	-	-	90	優	3	0	不可	7	80	優	4	100	優	2	0	不可	15	
	電気電子回路特論	1年	後期	2	-	-	73	良	1	10	不可	14	73	良	2	92	優	0	73	良	1	
	情報数学	1年	後期	2	0	不可	12	60	可	4	0	不可	10	0	不可	10	80	優	2	82	優	1
	符号理論	1年	後期	2	-	-	66	可	0	96	優	0	83	優	0	83	優	0	96	優	0	
	応用磁気工学	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	半導体工学	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コンピュータ・キヤッチ	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	数理論理学	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	機能材料	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	通信工学特論	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	トラス理論	2年	後期	2	-	-	61	可	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	応用通信特論	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	知識情報工学特論	2年	後期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	信号処理論	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	数値計画	2年	前期	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
環境特論	1年	後期	2	-	-	75	良	3	0	不可	15	70	良	4	70	良	1	70	良	2		
技術史	1年	後期	2	0	不可	15	80	優	2	60	可	5	88	優	1	94	優	1	100	優	1	

準学士課程では卒業研究を、学士課程では特別研究を、教育の集大成ととらえて、各種学会を始め対外的に積極的に発表を行っている。これらの研究の題目一覧を資料6-1-②-3に示す。これらの中の多くは、外部の学会等においても発表されている。その一例を資料6-1-②-4に示す。下線部が学生である。また本校では、次年度の卒業研究テーマを4年生に紹介する小冊子を作成して、卒研研究室の選択時の情報として供しており、その中にも研究成果を紹介している（資料6-1-②-5）。

また地元八王子市では、八王子産学公連携機構研究成果発表講演会を開催しており、平成23年度は市内14大学・高専から199件の発表があり、そのうち24件に優秀賞を授与している。本校からは準学士課程・学士課程合わせて33件の発表を行い、そのうち6件が優秀賞を得た。大学4年生や大学院生も交えた中での受賞であり、本校の教育・研究が高いレベルにあることを示している。

（分析結果とその根拠理由）

学生が卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力について、卒業（修了）状況および卒業研究・特別研究の発表成果から判断して、学生が卒業（修了）時に身につける学力や資質・能力等について、教育の成果や効果は十分に上がっている。

平成 23(2011) 年度第 45 期卒業生卒業研究テーマ一覧

学科長 (AC,AD,EE,EC,CS)

■デザイン学科

相澤 周	親子で読む地震絵本
阿久津 悠希	図書館に関するグラフィック
有坂 陵	ダイニングチェア
石塚 渉	錯視効果の研究
伊藤 瑞穂	ベビーカー
猪口 世奈	母親のための乳幼児お出かけ用品
岩崎 理美	多摩動物園のワークショップ施設
岩松 慶樹	ブラインド
篠田 有紀	小山地域のフリーペーパー「アレサ」の制作
富永 りえ	同上
大江 茜	長く使えるサポート食器
太田 悠里	子供用キッチンツール
大高 未央	電子書籍による学校案内の制作
大塚 友紀	マンホールを利用した仮設トイレ
大沼 駿	避難入門ツール
川手 健志	国産材を利用した図書館用机
小島 惇	子供乗せ自転車
兒玉 有理	テーブルウェア
佐藤 美乃里	若者が受け入れる日本近代文学
猿渡 悠	鑑通いのためのサポート用品
杉本 諒	お茶運びロボット
鈴木 理恵子	長く使うための変化するベビーバウンサー
角田 真太郎	避難所用段ボールベッド
小俣 英里	デート DV についての発音広告
高橋 祐実	地域に密着した路面電車の停留所
土屋 貴	イージーチェア
富山 晋也	分割式鍵盤ハーモニカ
中濱 頼太郎	学校案内リーフレット
中村 梨絵	木質玩具
白水 新奈	リビングテーブル
橋本 あん	外国人向け日本文化紹介リーフレット
高野 直輝	イラストを用いたゲームブックの制作
松田 康平	母子における新規移動手段の提案
山本 陽太郎	同上
宮崎 知朗	子供用カメラ
山形 昂平	ものづくりを楽しむ玩具
吉本 詩織	公衆衛生の意識向上のための絵本制作

■電気工学科

澤野 啓平	垂直軸型マグナス水力発電装置のブレード制御回路の開発
米田 一己	洋上風力発電装置の出力制御装置の開発
和賀 井大朗	マグナス効果を用いた波力発電装置の出力特性の改善
稲葉 将之	MnSi1.73-FeSi2 熱電素子の接合条件の検討
高橋 拓人	同上
勝俣 龍太	CrSi2-CoSi 熱電素子の接合条件の検討
宮井 絃人	希土類元素添加 FeSi2 の熱電特性
吉澤 裕貴	FeSi2 熱電半導体と銅板の接合条件の検討
椎田 翔太	人間の移動方向検出システムの試作
尾倉 高則	自転車用灯火装置の製作
窪田 大地	太陽電池用太陽光追尾システムの研究
佐藤 光基	同上
中野 良祐	同上
沖山 国雄	スマートハウスにおける電熱併給型太陽光パネルの導入効果検証
成田 昌伸	電力システム教育に対応した系統模型の製作
水越 勇規	同上
西田 達哉	離島向け小型電気自動車の提案と効果検証

山口 洋樹	小規模独立系統における電気自動車導入型系統の提案
吉野 弘敏	数値解析における回転型周波数変換装置の効果検証
清水 宏樹	電動アシスト自転車の製作・制御
師岡 健	同上
高下 朋弥	PID による水位制御の研究
田村 耕	PID 制御による水温制御
遠田 恭介	PID による直流電動機の制御
飛田 陽宏	電動キックボードの製作
廣井 智之	同上
厩村 覚	電気自動車の試作
内山 雄嗣	同上
太田 啓仁	誘導型ペアリングレスモータの特性解析
佐藤 慶和	低次高調波除去型同期式 PWM インバータのバースを省いた際の高調波含有率に及ぼす影響
沢田石 亘	誘導型磁気浮上推進装置分岐機構の実験的研究
本多 龍彦	同上
木賀 輝	災害救助ロボットの設計・製作・制御
進藤 幹也	同上
堀口 隆弘	同上
清水 遥太	自律型四足歩行ロボットの研究
田西 良介	同上
黒葛 拓斗	同上
八木 大幸	Arduino を用いたロボットキットの開発
神吉 泰	東京東部中世銭貨の特性分析
竹村 周次	東京西部および神奈川県中央部中世銭貨の特性分析
明石 晃朗	圧電素子を用いた音力発電機の特徴と音の速さによる発電効果の検証
常盤 康平	ドップラー効果の演示実験装置の製作研究及び教育的効果の調査

■電子工学科

大澤 泰樹	誘導加熱による異型形状アルミニウム合金鋳物の間接加熱装置に関する基礎検討
内田 宗一郎	情緒と生理的振戦との関係の基礎的検討
大高 奈々	同上
小川 裕司	補聴器適合検査のための日本語音素の特徴量抽出
森野 拓弥	ろう付け断面の SEM 観察
熊谷 雄一郎	表面実装基板のはんだ接続部の引張試験基礎検討
川村 優人	鉄シリサイドの $\alpha \rightarrow \beta$ 変態温度におよぼす銅添加の効果
藏越 直人	北海道南部中世古銭に関する特性分析
幸野 美	環境発電の組合せによる二次電池充電に関する検討
慶太郎 慶太郎	沿岸センサネットワーク用ノードの制御部の開発と検討
小林 近藤	運動の定量的評価方法の検討—不規則地形場における生体信号の精緻—
武内 諭石大	同上
佐伯 遥馬	誘導加熱を用いた任意加熱装置のオールメタル化に関する基礎検討
仲也 伸也	ベルチエ加熱の成績係数の評価
佐藤 雅史	EDLC による独立型 PV システムの蓄電部改善に関する基礎検討
鈴木 洋佳留	沿岸センサネットワークにおける省電力通信の検討
瀬谷 純生	マウス使用時における温度差発電の検討
田高 正雄	簡易脳波計のデータロガーの製作
田村 央	熱電変換素子を用いた皮膚装着時における温度差発電の検討
矢澤 秀太	鉛フリーはんだ Sn-Ag-Cu の高温における EM 耐性
野口 拓哉	太陽電池モジュール表面の防汚に関する検討
祐輔 祐輔	高精度モーター制御システムの製作
野村 拓	パラメトリックスピーカを用いたサレジオ高専におけるドン・ボスコの認知度の向上
服部 光起	擬似脳波測定器用増幅回路の製作
濱田 博史	熱電変換素子を用いた環境発電による無線モジュール駆動の検討
原 康之	補聴器のための適応周り込みキャンセラシステムについての一検討
藤山 慧	鎖を誘導加熱したときに発生する高周波騒音の解明
水内 大輔	異なる媒質中における電波伝搬の一検討

資料 6 - 1 - ② - 3 続き

第128号 ● サレジオ高専ニュース ● 平成24年5月1日

テーマ一覧つづき

望月 将大 自動車の燃熱利用に関する検討
飯山 達哉 携帯型騒音イミッションレベル計の試作

■情報工学科

荒井 真毅 遺伝的アルゴリズムを用いた時間割作成問題における解の改善に関する検討
高橋 清碩 マルチエージェント型簡易交通流シミュレータの試み
松島 祐輔 教育実習用 C 言語ミニコンパイラと仮想マシンインタプリタの試作
河野 遼 有限要素法を用いた 1 次元熱伝導方程式の解について
三分一あやの Wii リモコンの加速度データを用いたジャンプ運動解析
宮近 慶太 Wii リモコンの加速度データを用いたジャンプ運動解析
杉本 健人 背景差分法を用いた物体の移動軌跡の抽出に関する研究
砂子間 裕志 背景差分法を用いた重心座標の算出
田中 康太 インクジェットプリンタによる印刷物の発色に関する一考察
森山 紗喜 インクジェットプリンタによる印刷物の発色に関する一考察
緒方 基次 チマッティ資料館デジタルアーカイブの実践
菅野 晶彦 ガラス乾板資料のデジタルアーカイブ
瀧本 晃之 撮影照明光源の色温度変化が及ぼす色再現
中村 勇貴 インクジェットプリンタによる二次混色の色再現
飯泉 力 経済エージェントモデルによる富の分布の巨視的現象の再現
大砂 裕樹 角度を考慮した経路探索のためのネットワークモデル
勝 裕周 多目的最適化における進化アルゴリズムの性能評価
出水 公大 ハフ変換を応用した衛星画像からの車両の抽出
林 航平 ロスのあるネットワークのネットワーク信頼性の評価方法の検討
山崎 琢 ANP を用いた意思決定問題解決システムの開発
磯山 息吹 IC カードによる個人認証機能をもつデジタルサイネージに関する検討
加藤 秀隆 エリート個体を移住する分散遺伝的アルゴリズムの検討
小日向 淳子 XOOBS を用いた研究支援 Web サイトの構築
竹下 映生 エリートプールをもつ分散遺伝的アルゴリズムの検討
寺井 晃一郎 QR コードによる個人認証機能をもつデジタルサイネージの検討

嶋原 秀典 USB-FSIO と VB で制御した鉄道模型 (N ゲージ) 車両の走行特性
宮崎 竜也 USB-FSIO を用いた鉄道模型の自動制御
石井 貴之 Java ベースの web アプリケーションを用いた成績管理システムの一考察
加藤 裕貴 赤外線センサを用いた障害物回避電動三輪車の基礎開発
土屋 悠太 Web カメラと OpenBlockS による道路交通調査システムの提案
檜 翔太 Kinect を用いたインタラクティブホワイトボードの開発 検索向機能の開発
松浦 拓哉 Kinect を用いたインタラクティブホワイトボードの開発 - プレゼンテーションへの活用 -
松田 健 量子信号検出理論における誤り率計算アルゴリズムへの GPU を用いた性能改善の一検討
品川 真彦 地理情報システムへの空間統計データと検索機能の実装
村野 智之 空間解析地理情報システムのプラットフォームの開発

■専攻科

相川 和哉 IH クッキングヒータにおける加熱コイルの形状加熱効率と与える影響
青木 裕太 マグナス効果を用いた波力発電装置の研究
太田 温 ソーラーカー用 I-V 特性スキャン型 MPPT の開発
葛西 裕生 IH クッキングヒータから放射される高周波騒音が与える不快感の検証
菊池 翔 交通需要予測に用いる最短経路探索アルゴリズムの比較検討
河野 浩士 日本伝統芸能狂言を事例とした ICT 活用によるひとり暮らし支援システムに関する研究
齋藤 康人 統計情報に基づく環境発電の組合せ利用に関する研究
佐藤 一法 移住の少ない分散遺伝的アルゴリズムにおけるエリート保存の検討
澄 沿岸観測用センサネットワークの開発と富山湾における実験的検討
長野 謙 熱電変換素子を用いたアクティブ RFID タグ駆動に関する研究
野上 謙 熱電変換素子を用いたアクティブ RFID タグ駆動に関する研究
橋口 徹 熱電半導体 SnTe の加熱による Te の解離・昇華
樋口 晃裕 はんだ接続点におけるエレクトロマイグレーションによる劣化評価
矢嶋 准 鉛フリーはんだの改良に関する基礎的研究
青永 英紀 補聴器フィッティング検査のための語音聴力検査装置の開発

資料 6 - 1 - ② - 4

平岡一則**【論文】**

- 1) 加藤寛樹, 平岡一則, はんだ接続強度の経時劣化の統計分析, サレジオ工業高等専門学校研究紀要, 第 36 号, pp. 19-24, 2011, 査読無
- 2) 樋口晃裕, 平岡一則, はんだ接続点におけるエレクトロマイグレーションによる劣化評価, 電子情報通信学会, 信学技法 R2010-32, pp. 1-4, 2010-11, 査読無

【口頭発表】

- 1) 樋口晃裕, 平岡一則, エレクトロマイグレーションによるはんだ接続点劣化の引張強度による評価, 2010 年電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会, C-10-2, 2010
- 2) 長谷川貴洋, 平岡一則, はんだ接続強度の温度特性, 電子情報通信学会 2011 総合大会, 講演論文集 A-9-1, 2011-03

森幸男**【論文】**

- 1) 森幸男, 相川直幸, 並列構成を用いた低遅延最大平坦帯域通過 FIR デジタルフィルタの一設計法, 電子情報通信学会論文誌(A), Vol. J93-A, No. 4, pp. 260-268, 2010, 査読有
- 2) 森幸男, 若村篤, 語音聴力検査におけるスペクトル表示方法の検討, サレジオ工業高等専門学校研究紀要, 第 36 号, pp. 25-29, 2011, 査読無

【雑誌・記事】

- 1) 森幸男, サレジオ高専の“共育”コミュニケーション, サレジオ工業高等専門学校総合メディアセンター報, 創刊号, pp. 14-17, 2010, 査読無

【口頭発表】

- 1) 森幸男, 相川直幸, 通過域平坦かつ阻止域 L_1 近似の直線位相帯域通過 FIR フィルタ, 第 25 回信号処理シンポジウム講演論文集, B6-3, pp. 332-337, 2010
- 2) 吉永英紀, 森幸男, 大藤晃義, 聴覚検査装置のユーザーインターフェイスの向上と周波数分析機能の追加, 第 2 回大学コンソーシアム八王子学生発表会, 大学コンソーシアム八王子, pp. 198-199, 2010
- 3) 坂東敬広, 米田有輝, 野沢知史, 森幸男, ヒーリング効果の高い $1/f$ ゆらぎ音生成のための基礎的研究, 第 2 回大学コンソーシアム八王子学生発表会, 大学コンソーシアム八王子, 2010
- 4) 米山秋文, 森幸男, 小出由起夫, 和田初枝, サレジオ高専における利用者の創造力向上を目指した学内情報システムの構築, 第 30 回高専情報処理教育研究発表会論文集, pp. 272-275, 2010

吉野純一**【論文】**

- 1) 野上 諒, 齋藤康人, 佐伯亮介, 米盛弘信, 市村 洋, 吉野純一, アクティブ RFID タグの電源における熱電変換素子を用いたバッテリーレス駆動方式の有効性に関する検討, サレジオ工業高等専門学校研究紀要, 第 36 号, pp. 31-35, 2011, 査読無
- 2) 佐藤一法, 吉野純一, 内田健, OpenMP による分散遺伝的アルゴリズムの並列実装の検討, サレジオ工業高等専門学校研究紀要, 第 36 号, pp. 45-49, 2011, 査読無
- 3) 吉野純一, 野島伸仁, ルイス・A・マルケス, 市村洋, 狂言を事例とした所作を伴う芸術分野の臨場感ある国際伝統芸術交流 e-ラーニング開発, サレジオ工業高等専門学校研究紀要, 第 36 号, pp. 37-44, 2011, 査読無

【口頭発表】

- 1) 野田秀信, 佐伯亮介, 大和田光太郎, 齋藤康人, 野上諒, 吉野純一, 環境発電を用いた安否確認方法の一検討(その 2), 電子情報通信学会総合大会, ISS-P-330, p. 183, 2011

資料 6-1-②-4 続き

- 18) 野上諒, 齋藤康人, 吉野純一, アクティブRFID(認証発信器)用熱電変換素子の提案, 第7回日本熱電学会学術講演会, p.12, 2010
- 19) 吉村晉, 河村辰也, 米盛弘信, 内田健, 吉野純一, 市村洋, ソフトウェア作成のためのグループ型創造実習の試み(その2), 第58回年次大会, 日本工学教育協会, 2010
- 20) 吉野純一, 市村洋, 小島勉, 小島知博, サレジオ高専における教育士取得の組織的取組み, 第58回年次大会, 日本工学教育協会, 2010
- 21) 米盛弘信, 吉野純一, 吉村晉, 依田勝, 市村洋, サレジオ高専における理工系魅力向上の取り組み事例～体験から誘発する理工系への興味と対象年齢・学年に合わせたものづくり, 第58回年次大会, 日本工学教育協会, 2010

吉田将司**【論文】**

- 1) 吉田将司, 千葉元, 北條晴正, 富山湾における環境観測用センサネットワークの構築—システム提案とノードブイの試作—, 日本航海学会論文集, No.123, pp.103-110, 2010, 査読有

【口頭発表】

- 1) 吉田将司, 千葉元, 北條晴正, 沿岸環境観測ネットワーク用ブイの中継機能の評価, 電子情報通信学会総合大会講演予稿集, B-20-37, 電子情報通信学会, 2011
- 2) 千葉元, 吉田将司, 小型船舶・ラジオブイによる富山湾の海洋環境調査, 日本建築学会2010年度大会, 10025, 日本建築学会, 2010
- 3) 長野澄, 吉田将司, 富山湾における沿岸センサネットワーク用ノードブイの試作と評価, 第2回大学コンソーシアム八王子学生発表会, 大学コンソーシアム八王子, 2010

米盛弘信**【論文】**

- 1) 北村徳隆, 山川雄大, 矢崎克侑, 米盛弘信, サレジオ高専放送部における学校広報の支援活動, 日本工学教育協会 工学教育, Vol.59, No.2, pp.115-119, 2011, 査読有
- 2) 山川雄大, 北村徳隆, 矢崎克侑, 米盛弘信, サレジオ高専放送部が取材する学生のプロジェクト活動, 日本工学教育協会 工学教育, Vol.59, No.2, pp.120-125, 2011, 査読有
- 3) 野上諒, 齋藤康人, 佐伯亮介, 米盛弘信, 市村洋, 吉野純一, アクティブRFIDタグの電源における熱電変換素子を用いたバッテリーレス駆動方式の有効性に関する検討, サレジオ工業高等専門学校研究紀要, 第36号, pp.31-35, 2011, 査読無
- 4) 藤原章裕, 奥山耕平, 米盛弘信, IHクッキングヒータ対応土鍋の発熱体一成分分析と発熱体位置の影響—, 電気設備学会誌, 30巻12号, pp.61-66, 2010, 査読有
- 5) 米盛弘信, IHクッキングヒータの技術背景と研究動向, 日本AEM学会誌, Vol.18, No.3, pp.179-184, 2010, 査読無

【口頭発表】

- 1) 奥山耕平, 荒井純一, 米盛弘信, 電磁誘導加熱器の加熱コイルと鍋の直径差が漏れ磁束に与える影響, 平成23年電気学会全国大会講演論文集[4], pp.108-109, 電気学会, 2011
- 2) 米盛弘信, 藤原章裕, IHクッキングヒータから発生する高周波騒音の放射特性, 平成23年電気学会全国大会講演論文集[4], pp.133-134, 電気学会, 2011
- 3) 藤原章裕, 米盛弘信, IHクッキングヒータから発生する高周波騒音の発生過程における周波数成分の解明, 平成23年電気学会全国大会講演論文集[4], p.135, 電気学会, 2011
- 4) 矢崎克侑, 藤原章裕, 米盛弘信, EDLCと二次電池を用いた独立型PVシステム用ハイブリッド充電方式の基礎検討, 平成23年電気学会全国大会講演論文集[4], p.236, 電気学会, 2011

資料6-1-②-5

研究室名	電気工学科 エネルギー変換研究室		研究室	213室
担当教員	講師 山下 健一郎	所属：電気工学科		備考：担当教員
		所属：		備考：
研究室紹介	<p>エネルギー多消費社会の現代，再生可能でクリーンなエネルギーの有効利用が望まれています。3E（経済，環境，エネルギー）のトリレンマという言葉があるように，これらを成立させることの出来るエネルギー供給システムが今後必要となります。</p> <p>本研究室では，風力や波力などの再生可能エネルギーを機械エネルギーに変換し，これを電気エネルギーに変換する発電装置を対象とした研究を行っております。</p> <p>毎日夜遅くまで研究を行っており，多くのイベントにも参加しております。</p> <p>詳しくは http://www.salesio-sp.ac.jp/department/lab/yamasita/index.html</p> <p>※Google で「サレジオ 山下研究室」でも検索できます。</p>			
来年度の受入れ予定	最大人数： 4名	他学科からの受入れ： <input checked="" type="checkbox"/> 可 ・ 否 優先学科：電気工学科		
来年度の主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋上風力発電装置の最大電力点追従制御に関する研究 ・ 浮体式マグナス波力発電装置に関する研究 ・ 垂直軸マグナス水力発電装置に関する研究 ・ 可動物体型波力減衰機を用いた浮体式波力発電装置の研究 			
過去の受入れ状況	2011年度	本科卒業研究生： 4名	専攻科特別研究生： 4名	
	2010年度	本科卒業研究生： 7名	専攻科特別研究生： 1名	
	2009年度	本科卒業研究生： 6名	専攻科特別研究生： 0名	
過去の主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可変翼枚数風力発電装置の実用化に関する研究 ・ マグナス波力発電装置の開発に関する研究 ・ 系統に直列接続される小規模風力発電装置の開発（NEPS） ・ 可変翼枚数風力発電装置の制御に関する研究 ・ 偏心分銅を用いた浮体式波力発電装置の開発 ・ 簡易造波発生装置 ・ 太陽熱を利用した EV に関する研究 			
学生の研究活動歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三回大学コンソーシアム八王子学生発表会（優秀賞受賞） ・ 平成 23 年度電気学会産業応用部門大会 ・ 第二回大学コンソーシアム八王子学生発表会 ・ 平成 22 年度電気学会産業応用部門大会 			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八王子環境フェスティバル，ビジネスフェア等様々なイベントに参加いたします。 ・ 見学は随時受け付けております。やる気とともに結果を求めます。 			

観点6-1-③：教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校においては、学生が卒業（修了）時に身につける学力や資質・能力等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みを行い、卒業（修了）状況から判断して教育の成果や効果が上がっている。

この教育の成果や効果は、卒業（修了）後の進路にも表れている。準学士課程、学士課程とも、就職率（内定者数／就職希望者数）は極めて高く、平成23年度実績で準学士課程96.6%、学士課程100%である（資料6-1-③-1）。就職先では製造業やサービス業（機器保守、設計、開発、ソフトなど）など、本校が育成する技術者像にあった就職先が圧倒的に多い（資料6-1-③-2）。

資料6-1-③-1

2011(平成23)年度 進路状況サマリー

	卒業生数 終了生数	就職		進学		求人数		求人 倍率 (*)	
		希望者	内定者	希望者	合格者	学科別	学科不問		
本科	デザイン学科	37	23	20	14	13	41	233	4.32
	電気工学科	45	27	27	16	16	305		13.45
	電子工学科	27	19	19	8	8	261		16.80
	情報工学科	36	20	20	15	15	119		8.86
	合計	145	89	86	53	52	726	233	10.78
専攻科	生産システム工学	14	12	12	2	2	218		18.17
総計		159	101	98	55	54	944	357	12.88

(*) 本科求人倍率=(学科別求人数+学科不問求人数÷4)÷学科就職希望者数
2012年(平成24年)4月1日現在

資料6-1-③-2

2011(平成23)年度 進路先別サマリー

	卒業生・修了生数	業種別就職内定者数												進学先別進学合格者数								
		建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸業	卸売業、小売業	専門・技術サービス業 学術研究、	生活関連サービス業、 娯楽業	サービス業	公務	不動産業	その他	合計	大学院研究科		大学学部		専攻科	海外留学／専修学校	合計	
															国公立	私立	国公立	私立				
本科	デザイン学科	37	1	8	0	0	0	1	5	0	3	1	1	0	20	—	—	1	9	—	3	13
	電気工学科	45	0	14	2	1	0	0	0	0	11	0	0	0	28	—	—	3	5	7	1	16
	電子工学科	27	0	11	0	1	0	0	0	0	7	0	0	0	19	—	—	1	1	4	2	8
	情報工学科	36	0	3	0	15	0	0	0	0	2	0	0	0	20	—	—	4	6	3	2	15
	合計	145	1	36	2	17	0	1	5	0	23	1	1	0	87	—	—	9	21	14	8	52
専攻科	生産システム工学	14	0	6	1	3	1	0	0	0	1	0	0	0	12	1	1	—	—	—	—	2
総計		159	1	42	3	20	1	1	5	0	24	1	1	0	99	1	1	9	21	14	8	54

また進学でも、進学率（合格者数／進学希望者数）は極めて高く、平成23年度実績で準学士課程98.1%、学士課程100%である（資料6-1-③-1）。進学先は工業系、美術系などの、各学科の専門分野に関連したものとなっている（資料6-1-③-3）。

資料6-1-③-3

2011(平成23)年度 進路先一覧

デザイン学科	就職 (20名)	警視庁	1名
		アスタナガーデン	1名
		アブグループジャパン株式会社	1名
		アンリツ興産株式会社	1名
		株式会社ケーツープレインズ	1名
		株式会社ささもと建設	1名
		帝国器材株式会社	1名
		株式会社日照堂	2名
		株式会社ニッテイ	1名
		株式会社日東製作所	1名
		日本フォームサービス株式会社	3名
		株式会社ハートス	1名
		株式会社フォルム	1名
		株式会社フジモデル	1名
		株式会社夢真ホールディングス	2名
		株式会社i-ado	1名
		進学 (13名)	京都工芸繊維大学
	大阪芸術大学		1名
	大東文化大学		1名
	玉川大学		1名
武蔵野美術大学	3名		
横浜美術大学	3名		
電子工学科	就職 (19名)	株式会社エイ.アンド.エス.システム	1名
		株式会社沖電気カスタマドテック	1名
		協和電機化学株式会社	1名
		シーケーエンジニアリング株式会社	1名
		株式会社シーテック	1名
		タイセイクリンケミカル株式会社	1名
		テクノハカルエンジニアリング株式会社	1名
		東芝エレベータ株式会社	1名
		日本自動ドア株式会社	1名
		パナソニックテクニカルサービス株式会社	1名
		株式会社日立ビルシステム	1名
		富士重工業株式会社	1名
		株式会社フォーラムエンジニアリング	1名
		本門佛立宗相模原妙現寺	1名
		三井造船株式会社	1名
		株式会社森精機製作所	1名
		株式会社リコー	1名
	株式会社Dr. Three	1名	
	株式会社IHI	1名	
	進学 (8名)	サレジオ高専・専攻科	4名
長岡技術科学大学		1名	
湘南工科大学		1名	
		西武学園医学技術専門学校	1名
		日本工学院八王子専門学校	1名

資料6-1-③-3 続き

情報工学科	就職 (20名)	株式会社アリス	1名
		キヤノンシステムアンドサポート株式会社	1名
		スバルシステムサービス株式会社	1名
		タマテクノシステム株式会社	2名
		東京リスマチック株式会社	1名
		株式会社ドーシス	1名
		日信電子サービス株式会社	1名
		富士重工業株式会社	1名
		株式会社吉野工業所	1名
		株式会社読売システック	1名
		リコーテクノシステムズ株式会社	1名
		株式会社JTB情報システム	1名
		NECフィールディング株式会社	2名
		NTTファネットシステムズ株式会社	1名
	株式会社NTT-ME	2名	
	株式会社OEC	1名	
	進学 (15名)	サレジオ高専・専攻科	3名
		東京海洋大学	1名
		長岡技術科学大学	3名
		工学院大学	1名
中央大学		1名	
東京電機大学		1名	
東京工科大学		3名	
中央工学校	1名		
読売自動車大学校	1名		

電気工学科	就職 (27名)	出光興産株式会社	1名
		花王株式会社	1名
		キヤノンマーケティングジャパン株式会社	1名
		キュービー株式会社	1名
		共同ネットワーク株式会社	1名
		協和電機化学株式会社	1名
		シーケーエンジニアリング株式会社	1名
		ジーエイチクラフト株式会社	1名
		水ing株式会社(旧 荏原エンジニアリング)	1名
		大和サービス株式会社	1名
		大和製罐株式会社	1名
		テクノハカルエンジニアリング株式会社	1名
		東京ガスSTコムネット株式会社	1名
		株式会社東芝	1名
		東芝エレベータ株式会社	1名
		東洋水産株式会社	1名
		株式会社東洋製作所	1名
		日本ビルコン株式会社	1名
		株式会社日立産機システム	1名
		株式会社フォーラムエンジニアリング	1名
		本田技研工業株式会社	1名
		横河フィールドエンジニアリングサービス株式会社	1名
		株式会社リコー	1名
		FFGSテクノサービス株式会社	1名
		株式会社NTTファシリティーズ	1名
		株式会社NTT-ME	1名
		株式会社TTS	1名
	進学 (15名)	サレジオ高専・専攻科	7名
		長岡技術科学大学	3名
		東京電機大学	2名
		日本大学	2名
		明星大学	1名
専門学校東京アナウンス学院	1名		

資料6-1-③-3 続き

専攻科	就職 (12名)	アルプス電気株式会社	1名
		シーケーエンジニアリング株式会社	1名
		株式会社ソルクシーズ	1名
		株式会社タカインフォテクノ	1名
		長野計器株式会社	1名
		株式会社日立国際電気	1名
		株式会社フォーラムエンジニアリング	1名
		株式会社舞浜リゾートライン	1名
		メタウォーター株式会社	1名
		ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社	2名
		株式会社NTTファシリティーズ	1名
		進学 (2名)	山梨大学大学院
	早稲田大学大学院	1名	

2012年(平成24年)4月1日現在

以上のことから、本校の目的で意図している人材の養成について、教育の成果や効果が十分に上がっている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的で意図している人材の養成について、就職や進学といった卒業・修了後の進路状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が十分に上がっていると判断する。

観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

学生が行う学習達成度評価については、平成20年度までは学校全体で「学校教育目標に対する達成度調査」(資料6-1-④-1)を実施していた。アンケート項目には学校教育目標に対し、習得の可否(2者択一)、習得した学習機会(基礎教科、専門教科、実験実習、課外活動、卒研の中から複数回答可)、入学した学科への満足度などの設問がある。

しかしここ数年は、学校全体での調査を行っておらず、各学科で個別に行っている。例えば機械電子工学科では、各科目の達成度調査を行っている(資料6-1-④-2)。

(分析結果とその根拠理由)

学校教育目標および各学科の教育目標に対する直接的な達成度調査は、ここ数年行っておらず、学科独自の調査に任せてきた。

学科の中には、独自に極めて詳細な調査を行っている学科もあるが、行っていない学科もあり、統一されていない。やはり学校全体で統一した調査が必要と考え、今年度末から実施する。

資料6-1-④-1 平成20年度実施の学校全体達成度調査

進路指導室
2008/3/14

学校教育目標に対する達成度調査

本校の教育改善活動に関して以下の設問にお答えください。

[回答者に関する質問群]

問1 あなたの所属・性別を記入してください
所属学科 性別 問2 あなたの進路先の分野を選択してください
①電気・電子系 ②情報系 ③デザイン系 ④事務営業系 ⑤大学編入 ⑥それ以外

[教育目標に関する質問群]

以下のA～Eは本校の学校教育目標です。「習得について」と「どこで習得できたか」について回答を選択してください。ただし、「どこで習得できたか」については複数回答を認めます。

問3 A 基礎力: 専門分野に関する基礎的な知識・技能を身につけた技術者

習得について		どこで習得できたか(複数回答)				
①習得できた	②習得できない	①基礎教科	②専門教科	③実験自習	④課外活動	⑤卒研

問4 B 実践力: アイデアを具現化することができる開発型技術者

習得について		どこで習得できたか(複数回答)				
①習得できた	②習得できない	①基礎教科	②専門教科	③実験自習	④課外活動	⑤卒研

問5 C コミュニケーション力: 物事を論理的に考え、文章や口頭によって意思疎通ができる技術者

習得について		どこで習得できたか(複数回答)				
①習得できた	②習得できない	①基礎教科	②専門教科	③実験自習	④課外活動	⑤卒研

問6 D 人間性: 健全な倫理観に基づき技術によって社会に貢献できる技術者

習得について		どこで習得できたか(複数回答)				
①習得できた	②習得できない	①基礎教科	②専門教科	③実験自習	④課外活動	⑤卒研

問7 E 国際性: 国際社会の一員として考え、行動できる技術者

習得について		どこで習得できたか(複数回答)				
①習得できた	②習得できない	①基礎教科	②専門教科	③実験自習	④課外活動	⑤卒研

問8 入学した学科に満足していますか?
①満足している ②まあ満足 ③少し不満 ④不満問9 授業、卒研、実験・実習、課外活動、で将来役に立つと思われるものはどれですか?
①授業 ②実験・実習 ③卒研 ④課外活動 ⑤ない

アンケートご協力ありがとうございました

資料6-1-④-2 機械電子工学科「5EC創造設計学」達成度調査

H23達成度評価「5EC創造設計学」:学年末結果

報告2023.3.5(月) <前期:3/27 後期:2/16 アンケート実施>
 担当:森幸男/富田孝史
 教科:5EC創造設計学

4 完璧に達成
 3 本家が達成
 2 やや達成
 1 やや未達成
 0 未達成

氏名	学年末																																				
	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35					
基礎力	2.76	2.90	2.50	2.00	3.00	3.50	1.50	3.50	1.50	3.50	3.50	2.00	2.00	2.50	3.00	3.00	2.50	4.00	2.50	4.00	2.50	4.00	3.00	3.00	3.50	3.50	3.00	3.50	3.50	3.00	3.50	3.50	3.00	3.50	1.50	1.23	
分析・抽出力	2.70	2.00	3.25	2.00	2.00	2.00	2.00	1.00	2.25	2.50	3.75	3.50	3.00	2.00	3.00	3.25	2.25	3.25	3.00	4.00	3.25	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.75	2.00	1.18	
発展性・継続性・チャレンジ精神	2.19	1.33	2.33	1.00	2.00	2.33	0.67	2.33	3.00	2.33	2.67	3.67	2.00	1.67	2.33	2.00	3.67	1.00	2.00	3.67	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.67	2.00	1.09	
討論・論理的思考	2.65	2.00	3.00	2.00	2.00	1.25	1.50	3.50	2.25	3.25	3.00	3.00	2.00	2.75	3.50	3.25	3.25	2.00	3.00	3.25	2.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	1.22
チームワーク	2.55	2.00	3.25	2.00	2.00	2.25	1.50	2.25	1.25	3.00	2.50	3.75	2.00	2.25	2.25	3.00	4.00	1.50	4.00	4.00	1.50	4.00	3.25	1.50	3.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	3.25	1.20	

氏名	学年末																																				
	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35					
基礎力	2.62	2.50	2.50	3.00	2.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	4.00	2.00	2.00	3.00	3.00	3.00	2.00	2.50	3.00	2.00	2.50	3.00	3.00	2.50	3.00	4.00	3.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	1.00	1.04	
分析・抽出力	2.76	2.25	3.00	2.75	2.50	3.00	2.50	2.50	2.50	2.50	4.00	3.00	1.75	3.00	3.00	3.00	3.50	2.00	2.25	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	3.75	4.00	1.50	1.00
発展性・継続性・チャレンジ精神	2.49	1.67	3.23	2.00	1.00	3.00	1.67	1.00	2.33	2.67	3.00	2.33	1.67	3.67	3.00	4.00	1.67	2.00	1.67	2.00	1.67	2.00	1.67	2.00	1.67	2.00	1.67	2.00	1.67	2.00	1.67	2.00	3.67	3.00	4.00	3.00	1.14
討論・論理的思考	2.56	3.00	3.00	2.00	2.00	3.00	2.50	2.75	3.00	4.00	3.50	2.00	3.00	3.25	3.00	3.00	2.50	2.00	2.50	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	1.05
チームワーク	2.66	2.75	3.00	2.00	2.00	3.00	2.50	2.25	3.00	3.75	3.50	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.00	0.50	4.00	4.00	3.50	2.75	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	1.14	

<各要素の説明>

- 基礎力: さらなる知識を欲しと感じた。亦亦された作業をこなすことができた。
- 分析・抽出力: 問題に列して広い視野で把握した。問題点を明らかにした。
- 発展性・継続性・チャレンジ精神: 発想を立てて検討した。発想・発想手法の知識が得られた。過去に学んだ経験・知識を駆使させた。
- 討論・論理的思考: 最終的にチームで決めた。最終まで粘り強くやり続けた。
- チームワーク: アイデアを提案した。自分の考え・発想を他人に伝えた。自分の考えを伝える資料を作成した。
- チームワーク: 制約条件を考慮できた。制約条件を考慮し計画通りに行動できた。自己紹介・他人紹介ができた。
- チームワーク: チーム内でメンバーとして行動した。

前期末 (Previous Term End) 学年末 (Current Term End)

基礎力 チームワーク 討論・論理的思考 発展性・継続性・チャレンジ精神 分析・抽出力

結果: 前期末に比べて、チームワーク、発展性・継続性・チャレンジ精神に向上が見られた。
 創造設計学の狙いを十分達成しているものと評価できる。
 課題: 本体内により高い達成率を目指したい
 課題解決案: 一つ一つの実習ステップにおいて、自分が何を身に付けるために練習しているのか意味の理解をこまめに行う。ただ実習に参加するのではなく、学生自身が自分の持っていることの意味を理解できるように指導する必要がある。

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校卒業（修了）生が在学時に身につけるべき学力・能力について意見を聴取することを目的として、卒業（修了）生の就職企業・進学先大学への答礼訪問時に聞き取りをした（資料6-1-⑤-1）。

学生の評判は概ね良好であるが、コミュニケーション力、積極性、適応力等で不十分とのご指摘も頂いた。これらは正課教育だけではなく、プロジェクトや部活でも養われる素養であり、広い意味でのキャリア教育を今後とも推進する必要がある。

また卒業生からの意見については、本校では毎年6月にキャリアデーと名付けて、各学科の卒業生総数20名ほどを招待し、4年生に対して体験談を話す機会を設けている（資料6-1-⑤-2）。講演資料の中に現在の業務内容が書かれている（資料6-1-⑤-3）。それを見ると、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等を活かしていることが確認できる。この結果から判断して、期待する教育の成果・効果が十分に上がっている。

（分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関して、卒業（修了）生や就職先などの関係者から意見を聴取する取組を実施しており、その結果から判断して、本校として期待する教育の成果や効果は十分に上がっている。

資料6-1-⑤-1

訪問企業・大学の本校教育に対するご意見

	訪問者と訪問企業	応対者	ご意見	
AD	株式会社 フォルム (3月15日 竹内、比留間 訪問)	代表取締役社長 松本 有様、総務部総務課 小門 利美 様	42期卒間根山君の評価が高く、44期卒2名、45期卒1名を採用して頂いている。 ここで本校の卒業生に求められる能力は、モデル制作の中で一つの作業をやりぬく力、極める力である。比較対象は専門学校生で、5年間デザインを学んだことが、仕事を理解する上で役立っているという評価を頂いている。	
	株式会社 秀光 (3月15日 竹内、比留間訪問)	人事・総務ユニット 部長 三浦 大蔵様、ユニット 長 仁瓶 隆志 様	学校で習う事が、直接役立つことはない。基本的なことはしっかりと教えて頂ければ、後は入社後に教育する。技術的な知識より、社会に出ても、へこたれない学生を育てて欲しい、との事だった。	
	株式会社 三越環境デザイン (繁忙期につき4月以降をご希望)			
	日本フォームサービズ株式会社	採用ご担当 田津 和幸 様 (2月13日 ご来校)	年卒業した44期の増田さんの評判が大変良く、彼女個人の評価を通して本校の学生を高く評価して頂いている。45期梅田さんをはじめ年度末には猿渡さん、鈴木さんの両名も採用いただいた。ただ、比較の対象は専門学校生で、評価のポイントはやはり積極性や人間性といった部分である。	
	横浜美術大学	学部長 沓間 宏 教授 (3月13日 ご来校)	この3月、4年制になって初めて卒業生を輩出することになり、43期卒業の福嶋くんの進路報告をいただいた。また、昨年、一昨年と多くの学生が編入試験を受験し、2名ずつ編入生を送り出していることについての御礼を頂いた。高専のデザイン学科ということで、かねてからご興味をお持ちだったそうで、「きちんと教育をされていて、安心して受け入れられます」と言って頂けた。	
	武蔵野美術大学 (繁忙期につき4月以降をご希望、メールでのご意見)	工芸工業デザイン学科 ID研究室 中原 俊三郎 教	「編入学試験の受験生の力量は年々低下している中、御校の受験生はデザインレベルが高く、面接もしっかりと発言し、エデ教員はつい目を細めてしまう程、御校のデザイン教育	

			授（メールより引用）	には絶えず敬意を表しております。」 指定校推薦の件について「3年次編入での指定校枠の制度のみならず、1年次入学でも指定校推薦は実施しておらず、公募制推薦の制度で入試をしており、どの学校にも公平性を重点にした本学入試の考え方は、未だしばらくは踏襲する方向にある」との事だったが、同研究室に限っては上記の評価から「今まで通りで問題ない。」とのお墨付きを頂いた。
EE	斉藤純 平岡 (3/27)	旭ダイヤ ント工業	日下部総務副 部長他1名	一般論としてほしい人材は、コミュニケーション能力のある人材。高専生に期待する職種は製造技術（企画と製造の橋渡し）
		高和電 氣工業	飯高社長他1 名	一般論としてほしい人材は、明るく元気で、できればスポーツ経験者
	加藤 平岡 (4/5)	日本フ イルコ ン	須天人事総務 部長他1名	高専はサレジオしか採用してこなかったが、他高専からも採用しろとの声が上層部に有り。コミュニケーション力が不足。（以前採用した一部の卒業生の評判が悪い）
ME	高橋 平岡 (3/15)	リオン (卒業生 多数就 職)	平塚人事部長 他1名	サレジオ生は、人は良いが、それ以上のものがない。大学生や国立高専生に比べると、積極性や適応能力が乏しい。1つのことをコツコツやるタイプの人間は、これからの企業では不要である。変化する環境に、柔軟にかつ覚悟をもって取り組む人材がほしい。
CS				

資料6-1-⑤-2

キャリアデー卒業生講師一覧

	卒期	科名	氏名	会社名1	部署
1	39	EC		森永乳業(株)東京多摩工場	
2	39	EC		株式会社UL Japan	
3	39	EC		山崎製パン(株)	
4	42	EC		東京電機大学 工学部	電気電子工学科
5	43	EC		東海旅客鉄道(株)JR東海	
6	44	EC		東京農工大学工学部	電気電子工学科
7	36	CS		京セラコミュニケーションシステム株式会社	データセンター事業部
8	26	CS		パナソニックデバイスマテリアル販売株	
9	31	CS		NTTコミュニケーションズ	クラウドサービス部
10	45	CS		国立大学法人東京海洋大学	海洋工学部流通情報工学科
11	44	CS		NECフィールディング	
12	43	AD		株式会社 フジモデル	
13	42	AD		株式会社 シャイン	
14	43	AD		株式会社 秀光	人事・総務ユニット
15	44	AD		奈DNPメディア・アート	プリプレス制作第一本部
16	44	AD		株式会社廣済堂	情報コミュニケーション事業本部
17	44	AD		東京造形大学	
18	44	AD		千葉大学	工学部デザイン学科
19	41	AD		三越環境デザイン	
20	43	EE		メタウォーター株式会社	
21	34	EE		(株)本田技術研究所	汎用R&Dセンター
22	39	EE		板橋区役所	資源環境部 環境課 環境協働推進係
23	44	EE		キヤノンシステムアンドサポート(株)	

キャリアデー2012
講師(講演者)プロフィール

第 44 期 デザイン工 学科卒 氏名 _____

勤務先(会社名等)・学校名 〇〇大学

△△学部 デザイン学科

所属部・課、学科 インダストリアルデザイン専攻

■ 業務内容 (なるべく具体的にわかりやすくお書きください)

①授業

私の大学のカリキュラムポリシーでもある

「多様化する社会のニーズに応じていくための幅広い総合的な視点を持った専門性の探求」に基づき幅広い専攻領域(学科)の授業を履修しています。

(グラフィック・映画・写真・室内建築・メディア・ID・テキスタイル・サステナブル)

②外部活動

フリーペーパー・イベント運営(学生主体&企業主体)・企業セミナー・グループ展示・インターン

■ 当日の講演趣旨など(予定)

主に編入学の魅力・入学後の可能性についてお話したいと思います。

その他、学外活動など etc

(講演終了後希望者がいれば学校・学科の事などについて)

①なぜ編入学を希望したか

これからも「デザイン」という領域に携わるにあたりもう一度自分が求めているデザインとは何か？改めて確認する機会を求めていた事

②編入学がもたらす新たな可能性(全3コースに関係)

幅広い視野の確立から生まれたデザイン・企業との関係・他の専攻(造形内)や他美大との繋がりから得た刺激

③1年を過ごして得られた Experience

■ 学生(在校生)への一言

編入学は自分を再度見つける・変える絶好の機会です。

またデザインを学んでいる学生はサレジオ高専の学生だけではありません。

同じデザインを学んでいる立場として美大や芸術工学の人々と互いに刺激し合える環境はこれからの自分のキャリア(未来)を大きく変える可能性があります。

是非一度近くの大学(美大や芸術工学がある大学 etc)に足を運んでみて肌で実感してみてください。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

準学士課程、専攻科課程ともに、教育の集大成としての卒業研究・特別研究の成果を積極的に对外発表しており、その内容について高い外部評価を得ている。就職について、就職率（内定者数／就職希望者数）は極めて高く、就職先も製造業や技術サービス業などの本校が育成する技術者像に相応しいものとなっている。進学についても、準学士課程、専攻科課程ともに進学率（合格者数／進学希望者数）は極めて高く、進学先も各学科および専攻科の専門分野に関連した大学の学部および大学院となっている。以上のことから判断して、教育の成果や効果は十分に上がっている。

さらに、卒業（修了）生からの意見聴取においては、4年生のために毎年多くの卒業（修了）生を招いた進路ガイダンス講演会（キャリアデー）を実施しており、その中で卒業（修了）生から教育の成果や効果を聴取する取り組みを定期的に行っている。

【改善を要する点】

学校教育目標および各学科の教育目標に対する直接的な達成度調査は、ここ数年行っておらず、学科独自の調査に任せてきた。学科の中には、独自に極めて詳細な調査を行っている学科もあるが、行っていない学科もあり、統一されていない。

学校全体で統一した調査が必要であり早急に再開する必要がある。

(3) 基準6の自己評価の概要

教育の目的に沿った形で、課程に応じて、養成する人材像、学生が卒業（修了）時に身につける学力や資質・能力等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われているが、一部は不十分である。

この取り組みの結果および卒業研究・特別研究の対外的発表の成果から判断して、教育の成果や効果は十分に上がっている。また卒業（修了）後の進路状況等の実績や成果から判断しても、教育の成果や効果は十分に上がっている。

卒業（修了）生や就職先など関係者からの意見聴取の結果から高い評価を得ており、教育の成果や効果は十分に上がっていると判断できる。

しかし卒業（修了）時に学生が行う学習達成度評価については、学内で統一して実施していないため不明である。早急な改善が必要である。

基準 7

学生支援等

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

①単位取得のためのガイダンス

教科ごとの学習について、授業の目的、到達目標、評価方法、スケジュールについては各教科担当が授業初回においてシラバスを用いてガイダンスを行う。シラバス作成の指示および管理は教務主事の指示のもと教務学生課が全体の管理を行っている(資料7_1_①_1)。また、5年次の卒業研究については学科にとらわれることなく学生が希望する研究が行うことができる環境を提供するため、研究室ガイダンスを前年度の12月に実施している(資料7_1_①_2)。平成24年度の配属実績は以下の通りである。

		他科への配属人数					
		デザイン学科	電気工学科	機械電子工学科	情報工学科	専攻科教員	一般科教員
所属学科	デザイン学科		0	0	0	0	0
	電気工学科	0		2	1	3	0
	機械電子工学科	0	0		0	2	4
	情報工学科	0	0	1		1	0

<資料一覧>

資料	分類	出典	発行時期	概要
7_1_①_1	【発行書類】 教務学生課担当および教務主事宛て	教務学生課	3月	シラバス作成依頼から発行までの業務管理
7_1_①_2	【発行書類】 教員宛て	教務部	12月	学科を超えた研究室配属を目的としたガイダンスを行うための資料

②新入学生に対するガイダンス

新入学生に対しては、入学後とまどうことなく学生生活のスタートを切ることを目的として、入学式以前にガイダンスを実施している(資料7_1_①_3)。また、入学後の学習成果上げるため入学前補講を実施している(資料7_1_①_4)。入学後すぐに各学科にて、専門を学ぶためのガイダンスを実施している(資料7_1_①_5_a~bおよび7_1_①_6)。また、下級生でもすぐに利用する可能性のある図書館についてのガイダンスも図書館管理部署である総合メディアセンター主催で実施する(資料7_1_①_7)。

<資料一覧>

資料番号	分類	出典	発行時期	概要
7_1_①_3	【発行書類】入学予定者宛て	教務学生課	1月	入学準備に向けたスケジュール伝達
7_1_①_4	【発行書類】入学予定者宛て	教務学生課	12月	入学後に本校の授業に移事を目的とした補講実施の伝達
7_1_①_5_a	【発行書類】電気工学科新入生宛て	電気工学科科長	4月	学科新入生ガイダンス資料 教育理念・目的・目標について
7_1_①_5_b	【発行書類】電気工学科新入生宛て	電気工学科科長	4月	学科新入生ガイダンス資料 教育理念・学科教育目標
7_1_①_5_c	【発行書類】電気工学科新入生宛て	電気工学科科長	4月	学科新入生ガイダンス資料 カリキュラム関連図
7_1_①_6	【発行書類】機械電子工学科新入生宛て	機械電子工学科	4月	2012新学期ガイダンス(機械電子工学科)
7_1_①_7	【発行書類】新入学生宛て	総合メディアセンター	4月	新入生を対象としたガイダンスにおける配布資料

③既在校生に対する修学のためのガイダンス

在校生については、前年度末において次年度の予定についてガイダンスが行われる（資料7_1_①_8）。また、3年生および4年生については次年度において受講する自由選択科目についてのガイダンスが前年度12月に教務主事により実施される（資料7_1_①_9）。また、学科ごとにガイダンスを実施しており学習を進めるための啓蒙活動を行っている（資料7_1_①_10）。

<資料一覧>

資料番号	分類	出典	発行時期	概要
7_1_①_8	【発行書類】1～4年生宛て	教務学生課	3月	新年度始業時のガイダンスなど実施伝達
7_1_①_9	【発行書類】3、4年生宛て	教務部	12月	次年度自由選択科目の履修ガイダンス実施時配布資料
7_1_①_10	【発行書類】機械電子工学科2年生宛て	機械電子工学科	4月	2012新学期ガイダンス(機械電子工学科)

④自主学習を進める上での助言

自主学習を進める上での相談については、各授業担当者がオフィスアワーをシラバスに明記、授業当初のガイダンスにおいて説明を行うことで体制を整えている。また、放課後においても随時対応している。各学科では、啓蒙を含んだ助言を行う活動として各々で工夫をこらしている。デザイン工学科では、3年生を対象としてOBを講師としたキャリアデーを独自で実施してデザイナーとして社会で

活躍するために学生時代に学ぶべきことを早期に助言している（資料7_1_①_11～12）。また、デザインスケッチに対する助言をする機会として勉強会を実施している（資料7_1_①_13）。機械電子工学科では、座学で学んだ知識を深めるため学科プロジェクトを実施（資料7_1_①_14）、担当教員から知識・技術の両面から助言を行う体制を整えている。また、時期に合わせて学科新聞（資料7_1_①_15）を発行することで、学生を取り巻く状況を伝達している。

<資料一覧>

資料番号	分類	出典	発行時期	概要
7_1_①_11	【発行書類】 デザイン学科学 生宛て	デザイン学科	4月	学年別に学習を進める上での目標を示したメッセージ
7_1_①_12	【発行書類】 キャリアセンター 長宛て	デザイン学科	6月	1回/年開催されるキャリアセンター主催「キャリアデー」コース別に振り返りした資料
7_1_①_13	【発行書類】 デザイン学科学 生宛て	デザイン学科	4月	希望者を対象とした「デザインスケッチ勉強会」の開催通知
7_1_①_14	【発行書類】 機械電子工学科 学生宛て	機械電子工学科	4月	希望者を対象とした「学科プロジェクト」開催通知
7_1_①_15	【発行書類】 機械電子工学科 学生宛て	機械電子工学科	7月	学生生活への啓蒙を目的とした学科新聞

資料 7_1_①_1 シラバス作成依頼から発行までの業務管理

2012シラバス製本

- 3月末 エムツークリエイト深海さんと打ち合わせ
- 4/16 シラバス提出締切
シラバス公開なし(様式変更に伴いシステム停止)
学生へは最初の授業にて印刷・配布する
- 4/8~5/1 シラバス紙媒体にて確認作業学科長へ依頼
- 5/25 深海さん来校・台割引渡し
ノンプル・ページ数・目次作成依頼
- 見積もり⇒e-bookと印刷(20部)を依頼
- 6/22 表紙・目次・台割修正・引渡し(深海さん来校)
- 6/26 PDFデータ・教育課程表(CD)郵送
- 6/28 PDFデータ修正版送信(メール)
- 7/5 M2C 宇江城さんより問い合わせ有
確認データ(目次・扉)修正版・不足分PDF送信
- 7/12 初校PDFデータ(紙媒体)送付 m2→サレジオ
確認依頼事項あり
- 7/13 初校PDFデータ修正箇所確認
1 修正データ(PDF)メール添付送信
- 8/7 修正データ(PDF)紙媒体・メール添付データの確認作業 m2⇔サレジオ
- 8/10 修正原稿(紙媒体・データ)送付 m2→サレジオ
- 8/20 修正依頼(教育課程表部分)TEL サレジオ→m2
- 8/21 修正原稿確認メール(修正データ)添付 m2→サレジオ
- 8/22 修正確認 シラバス製本作業依頼メール送信

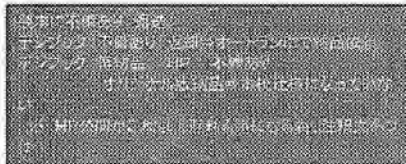
2012H24年度よりシラバス様式変更の為(旧Ver.Excel(A4_1枚)、新Ver.Excel(A4_2枚)
シラバスシステム停止し、シラバスはExcelにて管理とした

※修正箇所多数 個人確認→教務確認→学科長確認→教務確認→m2確認

指定様式を作成し、記入例等(サンプル添付)、説明会を実施したが、提出締切後に修正箇所が多数発生した為、シラバス作成が例年よりかなり遅れた原因となった。

サレジオ⇔m2 確認作業

9/10 デジブック・製本の納品 20冊



9/28 デジブック・製本の納品 20冊

配布先	製本	CD
校長	小島	1
副校長	平岡	1
事務長	木戸	1
教務主事	石田	1
教務主事補	森	1
教務主事補	内田	1
プレ主事	山本孝	1
一般科長	安藤	1
AD学科長	竹内	1
EE学科長	加藤	1
ME学科長	高橋孝	1
CS学科長	鳥川	1
専攻科長	大藤	1
専攻科	大杉	1
学生課	関口	1
学事資料室	広山	1
図書館	和田	1
キャリアセンター	林	1
予備	教務センター	2
一般(文)	権名	1
一般(理)	渡辺純	1
AD教務担当	比留間	1
EE教務担当	斉藤(純)	1
CS教務担当	小出	1
専攻科教務担当	大杉	1

資料 7_1_①_2 シラバス作成依頼から発行までの業務管理

専任教員 各位

教務部 第039号
2011年 12月 12日

教務主事

研究室紹介作成のお願い

2012年度に卒業研究生の受入れを予定している先生方は、下記の通り「研究室紹介」を作成し期日までに提出してください。お忙しい時期にお手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

記

1. 目的

2012年度に卒業研究を履修する予定の本科学生に対して、卒研生の受入れを予定している研究室とその内容を紹介することで卒業研究への円滑な導入を図る。

2. 研究室紹介の作成

教務部の所定のフォルダより2011年度版の研究室紹介原稿(MS-Word形式)を受け取り、必要箇所を加筆修正の上、提出用フォルダに保存してください。

新任の先生は、同フォルダからテンプレート(MS-Word形式)と記入例(PDF形式)を入手し、記入例にしたがってA4版1ページに収まるように作成してください。

なお、受け入れ人数については、後日調整してもらうこともあります。

原稿の受取 (運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > 研究室紹介【依頼】
原稿の提出 (運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > 研究室紹介【提出】

3. 日程

12月 12日 (月)	原稿作成依頼 (教務主事 → 学科長)
12月 19日 (月)	原稿提出締切 (担当教員 → 各科教務担当) ※ 提出のない場合、更新せず昨年度版のままか、白紙で公開します。
1月 13日 (金)	学校HPにPDF形式で公開
1月 20日 (金)	配属希望申込み提出締切 (学生 → 学科長)
1月 23日 (月)	配属希望集計結果報告 (学科長 → 教務主事) ※ 学科間調整 (教務部会)
2月 02日 (木)	研究室仮配属発表 (学科長 → 学生) ※ 未配属学生の再申請・学科間調整 (教務部会)
2月 04日 (土)	研究室配属決定 (EMC会議)
2月 06日 (月)	研究室配属発表 (学科長 → 学生)

4. 問合せ先

研究室紹介の作成に関して不明な点がございましたら、大杉先生 (ohsugi@salesio-sp.ac.jp : 内線3225) または島川先生 (simakawa@salesio-sp.ac.jp : 内線3264) までご連絡下さい。

以上

出典 教務部

資料7_1_①_3 入学準備に向けたスケジュール伝達

今後のスケジュール

★印：出席必須日

1月30日(日) 特待チャレンジ

8:50 集合
 ※学生本人のみ出席
 ※上履き、昼食不要
 ※服装自由

★ 2月11日(金) 制服・体操着・剣道用籠手の採寸日

10:00～15:00
 ※登校日ではありません。上記時間内においで下さい。
 ※上履き、昼食不要
 ※服装自由

* 商品のお渡し及びお支払方法等については各ご案内をご確認下さい。*

★ 2月19日(土) 高専の学習について、宿題提出

11:00集合
 ※学生本人のみ出席
 ※上履き、昼食不要
 ※服装自由

3月上旬 教科書購入に関するお知らせ通知

※教科書は3月下旬に業者よりご自宅へ配送予定です。

★ 3月12日(土) 登校日

※上履き不要
 ※服装自由
 ※昼食をご用意下さい

* 当日、提出書類の回収を致します。必ずお持ち下さい。*

8:45 本校集合 (8:45迄に着席して下さい)
 9:00 試験開始
 9:00～9:50 国語(一年教室)
 10:00～10:50 数学(一年教室)
 11:00～12:30 TOEIC BRIDG(一年教室) 昼食は必ずご用意下さい。
(学内の食堂もご利用できます。)
 12:30～13:00 昼食(各教室)
 13:00～14:00 入学式予行練習 (終了次第、解散)
 14:00～ 体操着・剣道籠手等の採寸、申込が出来ます。
(未購入学生のみ)

※制服販売はいたしません。
 未購入の方は1月15日(土)～3月6日(日)までに伊勢丹新宿店
 3階にてご購入下さい。

★ 4月4日(月) 入学式

場 所	ミウイ橋本内 社のホール	7・8階
時 間	12:00	開場
	13:00	開式

※厳守願います。

※ 上記のスケジュールをご確認いただき、お間違えのないようご来校下さいますようお願い致します。
 やむを得ず、当日来校出来ない場合は、お早めに本校教務学生課 (042-775-3020) 迄ご連絡下さい。

資料 7_1_①_4 入学前補講実施の伝達資料

平成 23 年 12 月 13 日

AO 入試合格者 殿
同 保護者 殿サレジオ工業高等専門学校
教務学生課・教務主事

今後の予定と「入学前教育」について

入学試験合格おめでとうございます。ご入学確定後の予定についてお知らせいたします。
本校では「入学前教育」プログラムとして、入学予定者を対象としたスクーリング授業を企画しています。(表中○印)。本校教員と一緒に授業を行うことで、サレジオ高専の授業スタイルに慣れながら、入学後の学習準備を進めることを目的としています。1月～3月の間に数学と英語 2 科目について全 4 回の授業を行います。

入学前ですので、参加は任意であり、不参加の場合も連絡は不要です。準備学習の機会を積極的に活用したいと考える皆さんの参加をお待ちしております。

今後の予定

★印:必須出校日 ○印:任意参加日

出校	日 時	予 定
○	1 月 14 日(土) 9:00～12:20	「入学前教育」プログラム① 集合時間：9:00 1 時間目 9:10～10:40 (数学 or 英語) 2 時間目 10:50～12:20 (英語 or 数学) ※筆記具持参、服装自由、昼食・上履き不要、保護者ご同伴不要
○	1 月 28 日(土) 9:00～12:20	「入学前教育」プログラム② 集合 9:00 授業 9:10～12:20 ※筆記具持参、服装自由、昼食・上履き不要、保護者ご同伴不要
★	2 月 11 日(土祝) 10:00～14:45 (15:00 終了)	制服・体育着等の採寸日 ご都合に合わせて時間内にお越し下さい。詳細は別途通知します。 ※ 服装自由、昼食・上履き不要 ※ 必要に応じて保護者の方もご同伴下さい
○	2 月 18 日(土) 9:00～12:20	「入学前教育」プログラム③ 集合 9:00 授業 9:10～12:20 ※筆記具持参、服装自由、昼食・上履き不要、保護者ご同伴不要
○	3 月 3 日(土) 9:00～12:20	「入学前教育」プログラム④ 集合 9:00 授業 9:10～12:20 ※筆記具持参、服装自由、昼食・上履き不要、保護者ご同伴不要
★	3 月 10 日(土)	新入生登校日(実力テスト等) ※詳細は別途通知します

出典 教務学生課

資料 7_1_①_5 電気工学科新入生ガイダンス資料

電気工学科 学習・教育目標図

教育目的	学校教育目標	電気工学科 学習・教育目標		
専門性	基礎力	創造力 (発想力) (実現力)	電気工学の知識 電気工学の技能 電気工学の技術 分析能力	電気工学の基礎知識を学び実験・実習を通して技能と技術を習得し、それらを具体的・実践的な課題に利用でき、問題解決活動に活用できる能力を修得する。
	実践力		問題発見能力 問題解決能力 研究能力 開発能力 評価能力	コンテスト型教育(電動ビークルコンテスト、学科ロボコン、ミニソーラーカーコンテスト)やプロジェクト型教育(プロジェクト実習)、創造設計、実験、卒業研究を通して、問題の現状把握から原因の分析・調査、研究を行い、アイデアを実現できる開発型技術者を養成する。
人間性	コミュニケーション力	人間力 (適応能力) (行動力)	チャレンジ精神 意思・思考伝達能力 発表する能力 協調する能力 リーダーシップ能力	実験・実習などで実際に起きている現象の性質を観測(計測)し、結果をまとめて報告することができる。また、コンテスト型教育やプロジェクト型教育などの活動を通して、問題を解決した成果を、文章や口頭発表で報告することができる
	人間性			自分が抱いたアイデアを第三者に伝えることが出来ると同時に、第三者の意見を取り入れながら自分の発想を修正・改善できる。また、チームワークの大切さを認識し協調性やリーダーシップを養う
国際性	国際性			技術が生活環境に与える影響について理解し、電気工学の目的や社会との関わりと責任を認識する。また、国際化した国内外の社会状況に関心を持ち生活文化や価値観の多様化を理解したうえで、自らの行動に反映することができる

学校教育目標との関連について(学生への解説)

規格大量生産方式から高付加価値生産方式へと変化する中で、「良いもの」を生産するだけでなく、生産された「もの」に対しての責任を果たすべく社会観や技術が要求される。「もの」の価値を高める能力は個別の需要(要求)に応える実践的技術と開発能力であり、設計変更や不具合に対する問題発見能力と問題を解決させる行動力を必要とする。生産拠点が海外に移転する今日では諸外国の生活文化や価値観の多様化を理解したうえで、自らの行動に反映することができる、適応能力が要求される。

電気工学科の学習・教育目標は、

- (1) 知識や技能・技術を応用して活用できる力(創造力)
- (2) 社会に貢献する力(人間力)

を養うことである。これを実現するために、以下を実践する。

- ① 講義や実験実習で基礎知識や技能・技術を修得しそれらを活用できる創造力、及び結果をまとめて文章や口頭発表で報告する能力を身につける。
- ② コンテスト型教育やプロジェクト型教育、卒業研究などで問題解決能力や研究開発能力、チャレンジ精神や協調性、リーダーシップ能力を養う。

資料 7_1_①_6 機械電子工学科新入生ガイダンス資料

④ 作文集・口述試験

機械電子工学科に入学して3年間を終えた段階での気持ちを文章にしてもらいます。
 「サレジオ高専を卒業」する際の目標を明確にすると共に、3年間の学生生活を表して貰います。
 クラスメイト達（同世代）の考えなども知ることができます。一冊の文集にして配布します。表紙のデザインは皆さんに作成して貰います。
 3年間の基礎学力の確認とコミュニケーション教育の一環として口述試験の実施を計画しています。（3年次の後半にて実施予定）

⑤ 卒業研究

高専4年間で培ってきた学力及び技術力をフルに発揮しての総仕上げである。5年生になってからあわててもだめであり、普段からWHY? HOW?の意識を持って実験・授業・家庭学習に専念することが、自主性・創造性・研究心を育てることになり、自分から積極的に取り組み、努力することにより、真の技術者として成功することになるはずである。

⑥ 学生部より

- ・遅刻はしない 遅刻は社会生活においてしてはならない
信用を失う・チャンスを失う・他の人に迷惑をかける
- ・身だしなみをしっかりすること
“学生らしい身だしなみ”で登校すること
他人から信用される身だしなみをする
- ・授業中は眠るな
- ・マナーを身に付けよう

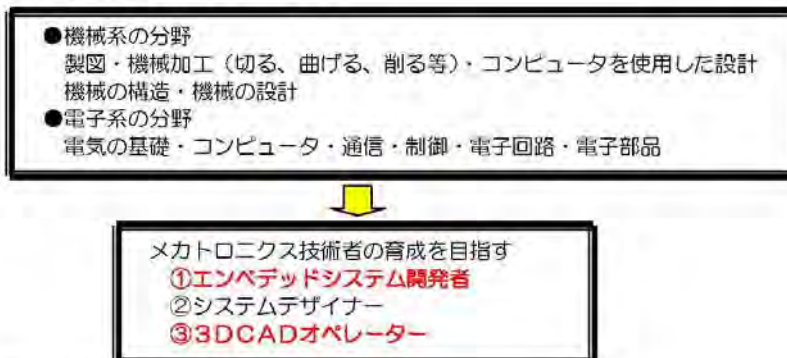
◆機械電子工学科の教育の柱

機械と電子を中心に、複合的な知識・技術を学び、社会に望まれる技術者を育成する学科です。（機械電子の複合科目として「創造演習」「機械電子工学実験」を配置している。）

- ①産業システム（メカトロニクス、組み込み制御、プログラミング）
- ②情報通信（コンピュータ、ネットワーク、携帯電話、レーダー、GPSなど）
- ③電子デバイス（半導体、金属、プラスチック、新素材など）

近年成長の著しいエレクトロニクス分野では、電子工学だけではなく機械工学の知識を身に付けた複合的な視野を持った創造的技術者が強く望まれています。機械・電子総合技術すなわちメカトロニクスを意識した技術者育成の教育を実践しています。

（1）機械電子工学科で育成する技術者像



（2）導入した機械系科目

- ①材料の選択 ⇒ 工業材料（3年2単位）
- ②機構の選択 ⇒ 機構学（4年2単位）
- ③強度計算 ⇒ 材料力学（4年2単位）









図書館利用のしおり

2012年度版

サレジオ工業高等専門学校図書館

サレジオ高専の図書館によろこそ！図書館ではみなさんの楽しい学校生活を応援できるようさまざまな本をそろえています。ぜひ借りに来てください。
このしおりでは、図書館利用のためのルールや便利な検索方法などを紹介します。

利用案内

- 
開館時間…… 月～金 午前9時～午後7時
土 午前10時～午後3時
- 
休館日 …… 日曜日、祝日、学校閉鎖期間、年末年始等
※臨時の休館日、開館時間の変更については、館内掲示、ホームページでお知らせします。
- 
貸出方法…… ①カウンターに借りたい本を持ってきてください。
②学籍番号(S～)をおしえてください。
- 
貸出冊数…… 本・雑誌あわせて10冊まで貸出しできます。
- 
貸出期間…… 本は2週間・雑誌は1週間貸出しできます。
※雑誌の最新号は貸出できません。
●赤いシールの本は原則1晩のみの貸出しです。
- 
返却 …… 本をカウンターまでお返しください。
※図書館の閉館時には入り口左側の「返却BOX」に入れてください。
- 
予約 …… 利用したい本が貸出中の場合は予約ができます。
 カウンターの図書館員に申し出るか、
 図書館ホームページのMy Libraryから操作してください。
※My Libraryについて詳しくは図書館員にきいてください。
- 
リクエスト …… 図書館においてほしい本をリクエストできます。
 カウンターにあるリクエスト用紙に記入し、
 「希望図書リクエストBOX」に入れてください。
 または、図書館員へ気軽にお伝えください。
※本が入るまで3～4週間かかります。



資料 7_1_①_8 新年度始業時のガイダンス実施伝達資料

新2年生・保護者 殿

2012年3月21日

サレジオ工業高等専門学校
教務学生課

平成24(2012)年度 学生登校日・始業式について

日頃より、本校の教育活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。
新年度の予定についてお知らせいたします。

■ 4月4日(水) 学生登校日(健康診断、教科書販売等)について

下記時間中にそれぞれの処理を済ませてください。(集合なし)
※時間に余裕を持って動いてください

	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
健康診断 場所:119講義室			13:00 ~13:45 2年・3年女子	13:45~14:45 2年男子				
教材販売 場所:1F事務室前				13:30~15:30 2MEのみ				
柔道着販売 場所:1F事務室前				13:30~15:00 2年全員				

- 健康診断内容は「内科検診・検尿・身長・体重・視力」です。(新3年・新5年・新専攻科2年は聴力検査もあり)
※ 眼鏡等使用者は必ず持参し、使用した状態で視力検査を受けてください。
※ 検尿は当日の朝に採尿し提出してください。(容器は3/21終業式配布)
- 教科書は新3・4・5年生のみ購入が必要です。(新2年生は自宅配送されます)
- 柔道着は新2年生のみ購入が必要です。
- 教材は、新2ME、新3BE、新4EE、新4ME のみ購入が必要です
- 学生証の新旧交換は新4年生のみ必要です。旧学生証を1F学生窓口へ持参してください。
※ 新4年生は新学生証がないと定期購入が出来ません。
※ 旧学生証を紛失した場合は紛失処理手数料1,000円が必要となります。

■ 4月5日(木) 新入生オリエンテーション(本科のみ)

本科新入生のための要出席日です。
上級生(新2~5年)および専攻科は、行事(クラブ紹介等)に関係する学生のみ登校してください。

■ 4月6日(金) 始業式について

式典：2012年4月6日(金) 開式 10:00 対象 新2・新3年生

会場：サレジオンホール

新2年生は 9:45 に登校して、教室に集合してください

【教室】2AD(240)、2EE(241)、2CS(242)、2ME(243)

※ 正装・整髪で出席してください

(靴は黒の皮靴、女子はリボンでスカートは紺、男子のネクタイは紺)

※ 式典終了後にホームルームを行います

出典 教務学生課

資料 7_1_①_9 次年度自由選択科目の履修ガイダンス実施時の配布資料

選択科目履修ガイダンス_2011.12.01

自由選択科目の履修について

1. 授業科目の種類

授業科目には教育課程表に定められた**必修科目**と**選択科目**があり、選択科目はさらに**選択必修科目**(課程表の一般選択科目C群)と**自由選択科目**(課程表の一般選択科目A・B群および専門選択科目D群)があります。

2. 修了要件

修了とは在籍する学年を終え、次の学年に進むことができるという意味です。本校における修了要件は、教育課程表に定められた当該学年の**全ての必修科目と選択必修科目**の単位を修得することです。

3. 卒業要件

本校を卒業するためには、準学士課程全学年の教育課程を修了し、**167単位以上**(一般科目75単位以上、専門科目82単位以上)を修得していなければなりません。

各科ごとに必修科目と選択必修科目を合計すると以下のようになります。

表1：各科の必修単位数の合計(2012年度)

学科	一般必修	一般選択必修	専門必修	合計
デザイン工学科 デザイン学科	73単位	2単位 (選択C群)	90単位	165単位
電気工学科	79単位		84単位	165単位
機械電子工学科			86単位	167単位
情報工学科			86単位	167単位

上記の通り、デザイン工学科と電気工学科は必修科目だけでは卒業要件を満たしていません。そこで、これらの学科では次の自由選択科目の単位を卒業までに修得するように要求しています。

表2：デザイン工学科・電気工学科の卒業要件達成条件(2012年度)

学科	卒業要件を満たすための条件
デザイン工学科 デザイン学科	4-5年次に開講される専門系自由選択科目(選択科目D群)の中から、卒業時までに2単位以上修得する
電気工学科	以下の①～④の自由選択科目の中から、卒業時までに2単位以上を修得する ① 3年次に開講される一般系自由選択科目(選択科目A群) ② 4-5年次に開講される一般系自由選択科目(選択科目B群) ③ 4-5年次に開講される専門系自由選択科目(選択科目D群) ④ 学科指定の自由選択科目(選択科目E群)

4. まとめ

自由選択科目の履修について、注意すべき点は以下の通りです。

○ デザイン工学科、電気工学科 … 自由選択を履修しないと卒業できません。

○ 機械電子工学科、情報工学科 … 自由選択科目を履修しなくても問題はありません。

※ 新5年生は全員、一般必修選択科目(選択C群)として「法学」か「経済学」のいずれかを履修登録します。(履修登録しないと、卒業単位が足りなくなるので卒業できなくなります！)

※ 自由選択科目の受講には、追加の受講料等がかかります。ただし、教科書代は実費が必要です。

2年機械電子工学科学生各位

20120406

2012新学舎ガイダンス（機械電子工学科）

機械電子工学科科長 高橋 幸

サレジオで学ぶ姿勢 「求められる社会人」とは？

1. 人格の尊厳
生きることを大切に！
責任を持って受け答えのできる若者
2. より貧しい人との連携
共生・共存
ボランティア活動
3. 誠実さと職業的専門を
豊かな学識、学ぶことの大切さ
4. 社会への関心
広い視野で物事を見る
自分に関心のある情報だけに偏る危険（インターネット）
5. 創造を盛んにし、文化を大切に
出来合いのものを最大活用する時代の終焉
自分から作り上げていく獨創性

サレジオが大切にしている「4つのH」

Head (勉強)、Heart (心)、Hands (実践)、Human-relation (人間関係を大切に)

サレジオの先輩たちが築いていってくれた

「さりげない優しさ」、「暖かい思いやり」をぜひ身に付けてください

機械電子工学科 【2年】

混成クラスから学科クラスになりました、

クラスメイトと新しい人間関係を築いていく必要があります。

専門性への確立の第一歩の年である。特に実験レポートの作成に力を注いでください。

復習を習慣づけないと理解できない状況に陥ることになる。

★自分の行動に責任をとらなければならない

★認定試験には真剣に取り組み必ず合格すること

(10名の学生が条件付進級者・特別条件進級者が1名である)

★資格取得に積極的に取り組むこと

LHRを使用してキャリア教育支援を実施します

学生部より

- ・遅刻はしない 学生部条件進級者が3名います(遅刻20回以上)
遅刻は社会生活においてしてはならない
信用を失う・チャンスを失う・他の人に迷惑をかける
(学科指導体制スタート)
★学生部条件を早めに解除するよう努力すること
- ・身だしなみをしっかりすること
“学生らしい身だしなみ”で登校すること
他人から信用される身だしなみをする
- ・授業中は眠るな
- ・マナーを身に付けよう

以上

資料 7_1_①_11 デザイン学科科長メッセージ

学生諸君へのメッセージ

2011. 04. 12
デザイン学科 学科長
竹内 明

<1 学年目標：基礎をしっかり身につけよう>

- ◆ 実物を見て触って感じること
パソコンを通して画像や文章を見ても、表層しか知ったことにならない。
- ◆ アイデアとデザインソースの引き出しを増やそう
たくさんの素敵なモノや事を体感して、自分の幅を広げることが大切。
- ◆ 言い訳無しで、あらゆる時間を守ること
社会に出たら、遅刻/仕事の遅れは許されがたい罪です。
- ◆ タイムリーな報告・連絡・相談 <ホウ・レン・ソウ>
上手く行っても、適宜報告。
壁にぶつかったら、ひとりで悩まずに、早めに相談。
- ◆ 優先順位を考えること
<自分よがり>や、<その場ののぎ>の気分で、大切なことを見逃さないこと。

学生諸君へのメッセージ

2012. 04. 06
デザイン学科 学科長
竹内 明

<2 学年目標：貪欲に何にでもチャレンジしよう>

- ◆ 実物を見て触って感じること
パソコンを通して画像や文章を見ても、表層しか知ったことにならない。
- ◆ アイデアとデザインソースの引き出しを増やそう
たくさんの素敵なモノや事を体感して、自分の幅を広げることが大切。
- ◆ 言い訳無しで、あらゆる時間を守ること
社会に出たら、遅刻/仕事の遅れは許されがたい罪です。
- ◆ タイムリーな報告・連絡・相談 <ホウ・レン・ソウ>
上手く行っても、適宜報告。
壁にぶつかったら、ひとりで悩まずに、早めに相談。
- ◆ 優先順位を考えること
<自分よがり>や、<その場ののぎ>の気分で、大切なことを見逃さないこと。

資料 7_1_①_12 キャリアデー報告書

キャリアセンター長 平岡 一則 殿

平成 24 年 6 月 13 日

H24 デザイン学科キャリアデー報告

報告：デザイン学科 比留間 真

標記の件について以下にご報告いたします。

記

1. 日時 平成 24 年 5 月 26 日(土) 9:40~12:20
2. 場所 教室(313、314、418、423)
3. 講師

井田 龍秀氏	4 3 期 (株) フジモデル
谷川 昂之氏	4 4 期 (株) シャイン
土方 和樹氏	4 1 期 (株) 三越環境デザイン
鈴木 洋平氏	4 3 期 (株) 秀光
橋本 百合奈氏	4 4 期 (株) DNP メディア・アート
阿部 聖奈氏	4 4 期 (株) 廣済堂
二ノ宮 傑氏	4 4 期 東京造形大学
佐藤 珠実氏	4 4 期 千葉大学

4. 実施要領

- 9:30~ 学生集合
 10:00~ 第一回目分科会 学生は希望コースごと各教室に分かれ、60 分の受講・質疑
 応答を行う。
 11:00~ 10 分間休憩・移動
 11:10~ 第二回目分科会 一回目と同様
 12:20~ 424 教室 全体集会 (講師からの最後の挨拶)・アンケート記入
 12:30 終了・解散

5. 懇談内容

- ・モデリング業の業務内容 (井田講師)
- ・入社して必要だと思ったこと、役立ったこと (谷川講師)
- ・内装工事の実務的な施工について (土方講師)
- ・展示ブースのデザイン・設営 (鈴木講師)
- ・印刷業界のこれから (橋本講師)
- ・入社してからの 1 年間 (阿部講師)
- ・大学編入学の魅力、授業内容について (二ノ宮講師、佐藤講師。)

6. 次年度課題・感想

昨年度からの改善点として、冒頭に行っていた講師紹介を省略し、学生が講師と接する時間をできるだけ確保するスケジュールとした。また、懇親会の席では、在学中を振り返り、授業内容や進路の準備について、各講師から意見を聞かせてもらった。

また、昨年度に引き続き 3 年生の希望者を募り 30 名弱の学生が参加した。後期にコース選択

資料 7_1_①_13 デザインスケッチ勉強会開催通知

デザインスケッチ勉強会

場所： 423 基礎デザインBスタジオ

日時： 月～金 放課後 ～ 19:00 施錠

会員： デザイン学科 全学年の学生

教員： 竹内 杉島



GM CENTENNIAL DESIGN
CONCEPT RACING RAY 2018

- ルール： 機材/資料の持ち帰り厳禁。
資料コピーは、自前で行うこと。
機材/資料は大切に扱うこと。
スタジオはきれいに使うこと。
スケッチ対象は問わないが、公序良俗に反するものは禁止。
特別な画材は適宜投入するが、自前を基本とする。
機材/資料/特別な画材は、419にて管理する。
活動当日の学生幹事は、機材など責任をもって管理する。
試験1週間前は活動停止。
学生の不注意によって不具合が出た場合は、即活動停止。

入会申し込み書

クラス 氏名

自分の目標/意気込み

資料 7_1_①_14 学科プロジェクト開催通知

学科プロジェクト活動の紹介

URL : (<http://www.salesio-sp.ac.jp/main/about/department/me/project/index.html>)

機械電子工学科では、2010年度より在校生の「ものづくり力」向上と「各種資格」取得を目的に学科オリジナルで学生を支援しています。

(1) 資格取得講座

在校生が在学中にスキルアップができるように下記の資格試験講座を実施しています。このような資格取得は、就職の際に有利に働くことがあります。専任教員による講座のほかにもプロの技術者を外部講師としてお招きした資格取得の実技講習を実施しております。労働安全衛生法に基づく技能講習は、学生のスキルアップだけではなく、ものづくりを行う際の安全衛生に対する啓蒙活動につながります。

表 現在実施している資格取得講座の一覧

分野	資格	備考(サポート状況)
電気 ・ 電子	第二級陸上特殊無線技士	卒業時認定 第一級にできる可能性あり
	第三級海上特殊無線技士	卒業時認定 第二級にできる可能性あり
	工事担任者試験	卒業時「電気通信技術の基礎」科目認定
	アマチュア無線技士	スクーリングで講座を実施
	デジタル技術検定	スクーリングで講座を実施
	ラジオ・音響技能検定	スクーリングで講座を実施
機械	第二種電気工事士	スクーリングで講座を実施
	CAD利用技術者試験	3DCADを授業で実施
	アーク溶接特別教育	外部講師による労働安全衛生法に基づく講習
	ガス溶接技能講習	外部講師による労働安全衛生法に基づく講習
	グラインダー特別教育	外部講師による労働安全衛生法に基づく講習
その他	有機溶剤安全衛生教育	外部講師による労働安全衛生法に基づく講習
	VEL(Value Engineering Leader)	5年の創造設計学で受験資格要件(研修)を実施
	QC検定	3年の創造演習で試験対策を実施

⇒ このほかにも、学生の希望者に応じて資格取得の支援を行います。



アーク溶接特別教育



ガス溶接技能講習



グラインダー講習

★ アーク溶接講座を受けた学生は「関東甲信越高校生溶接コンクール」に東京代表として出場しています。

2012. 6. 3

機械電子工学科「メカトロ新聞」6

SME 進捗状況

計画	27	83%
進捗	82	6%
完成	32	7%



「メカトロ新聞」は、本校のメカトロ工学科の学生が、自分たちの活動の様子や、最新の技術情報などを紹介する新聞です。今年度も、読者のみなさんに興味を持って読んでほしいと思います。また、読者のみなさんからのコメントや質問もお待ちしております。

編集長 佐藤 健太

発行所 サレジオ工業高等専門学校 機械電子工学科

座右の銘(ME教員一同)

反省しなけれは
失敗から学ぶ事はできない 高橋

知識は力なり 大杉

その備えは何か？
所か月に習志をそるちのほなりか？

新しい価値の創造のために 森

志あるところに道あり 吉野

直感と知識から 宮田

仁義礼智信 吉田

これだけ絶対にはげない
というものを一つもとう！

そして自分の自信にしよう！ 米庭

初はなれるべからず 平岡

チャレンジして失敗を恐れるよりも、
何もしないことを恐れる 稲垣

祝

3ME 吉留君

「運」と「幸運」は違うものです
「運」とは偶然なもの
「幸運」は本人の下ごしらえで
訪れるもの

Good Luck!



SS 開講講座

電気工學士・CAD

4年生対象に「キャリアデー」が
5月26日(土)に開催された

詳細は裏面に

人は「夢」みるところまでいける！

(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されている。

学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行うため活動は十分に行われている。しかし、より効果的な成果を上げるための体制作りについては今後の課題である。

○根拠理由

単位修得のためのガイダンス体制は、教務主事の指示のもと教務学生課による管理体制が整えられている。これにより学生が学習を進める上で必要な事柄が確実に伝わるように活動が行われている。また、他学科研究室の選択についても積極的に展開するなど学習の幅が広がるような工夫も見られる。また、学科ごとに学習に対するガイダンスも積極的に行われている。

相談・助言活動については、学科および各教員の裁量に任されており、現状においては積極的な活動が見られた。しかしその反面、組織的活動ではないので、その質や効果を維持し続けるための仕組みがみられない。

観点7-1-②： 自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

現状、自主的学習環境、厚生施設、コミュニケーションスペースごとに許可制、あるいは自由に利用、活用できるように整備されている。

[1] 自主的学習環境

- (1) ホームルーム：プレテックセンター等に利用許可を得ることで可能
- (2) 図書館：開館時間中は自由に利用可

[2] 厚生施設

- (1) 学生食堂：寮生も利用するので7時～18時の間利用可能
- (2) 体育施設：許可を得ることで利用可能
- (3) 学生寮：寮生の生活・学習環境

[3] コミュニケーションスペース

- (1) 2階学生ロビー：休憩時間、放課後に利用
- (2) 2階一般教育エリアスペース：休憩時間、放課後に利用
- (3) 学生食堂：週日7時～18時が利用可能
- (4) 中庭庭園：休憩時間、放課後利用可能
- (5) 校内エクステリア：基本的に利用制限なし

学科固有設備についてもルール遵守のもとで開放されている（資料7_1_②_1～3）。また、メディアセンターでは、図書館とPCルームの利用状況を把握して、購入図書に還元するなど利用者増加に努めている（資料7_1_②_4～7）。

<資料一覧>

資料番号	分類	出典	概要
7_1_②_1	【データ】	電気工学科	学科施設 MC ルームにおける自主活動の利用状況データ
7_1_②_2	【データ】	電気工学科	学科施設 PC ルームにおける自主活動の利用状況データ
7_1_②_3	【データ】	機械電子工学科	機械工作室における自主活動の利用状況データ
7_1_②_4	【データ】	メディアセンター	メディアセンター管轄の PC 教室利用状況
7_1_②_5	【データ】	メディアセンター	メディアセンターへの来場者数
7_1_②_6	【データ】	メディアセンター	メディアセンター管轄図書館蔵書数データ
7_1_②_7	【データ】	メディアセンター	メディアセンター管轄図書館の貸し出しデータ

資料 7_1_②_1 電気工学科 MC ルームの利用状況

MCルーム 放課後利用実績(2011年度)

かわさきロボット 卒研		かわさきロボット 卒研		かわさきロボット 卒研		かわさきロボット 卒研		かわさきロボット 卒研		かわさきロボット 卒研	
4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
1 金		1 日		1 水		1 金	○	1 日	○	1 木	○
2 土		2 月		2 木		2 土	○	2 火	○	2 金	○
3 日		3 火		3 金		3 日		3 水	○	3 土	○
4 月		4 水		4 土		4 月	○ ○	4 木	○	4 日	○
5 火		5 木		5 日		5 火	○ ○	5 金	○	5 月	○
6 水		6 金		6 月	○	6 水	○	6 土	○	6 火	○
7 木		7 土		7 火	○	7 木	○ ○	7 日		7 水	
8 金		8 日		8 水	○	8 金	○	8 月	○	8 木	○
9 土		9 月	○	9 木	○	9 土	○	9 火	○	9 金	○
10 日		10 火	○	10 金		10 日		10 水	○	10 土	○
11 月		11 水	○	11 土		11 月		11 木	○	11 日	
12 火		12 木	○	12 日		12 火		12 金	○	12 月	○
13 水		13 金		13 月	○ ○	13 水		13 土	○	13 火	○
14 木		14 土		14 火	○ ○	14 木		14 日		14 水	○
15 金		15 日		15 水	○	15 金		15 月	○	15 木	○
16 土		16 月	○	16 木	○ ○	16 土		16 火	○	16 金	○
17 日		17 火	○	17 金	○	17 日		17 水	○	17 土	○
18 月		18 水	○	18 土	○	18 月		18 木	○	18 日	
19 火		19 木	○	19 日		19 火		19 金	○	19 月	
20 水		20 金		20 月	○ ○	20 水		20 土	○	20 火	○
21 木		21 土		21 火	○ ○	21 木		21 日		21 水	○
22 金		22 日		22 水	○	22 金		22 月	○	22 木	○
23 土		23 月		23 木	○ ○	23 土		23 火	○	23 金	
24 日		24 火		24 金	○	24 日		24 水	○	24 土	
25 月		25 水		25 土	○	25 月	○	25 木	○	25 日	
26 火		26 木		26 日		26 火	○	26 金	○	26 月	○ ○
27 水		27 金		27 月	○ ○	27 水		27 土	○	27 火	○ ○
28 木		28 土		28 火	○ ○	28 木	○	28 日		28 水	○ ○
29 金		29 日		29 水	○	29 金	○	29 月	○	29 木	○ ○
30 土		30 月		30 木	○ ○	30 土	○	30 火	○	30 金	○
		31 火				31 日		31 水			

資料 7_1_②_2 電気工学科 PC ルームの利用状況

PCルーム 放課後利用実績(2011年度)

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月	
情報処理	卒研	情報処理	卒研	情報処理	卒研	情報処理	卒研	情報処理	卒研
1 金		1 日		1 水		1 金	○	1 日	○
2 土		2 月		2 木		2 土	○	2 火	○
3 日		3 火		3 金		3 日		3 水	○
4 月		4 水		4 土		4 月	○	4 木	○
5 火		5 木		5 日		5 火	○ ○	5 金	○
6 水		6 金		6 月	○	6 水		6 土	
7 木		7 土		7 火	○ ○	7 木	○ ○	7 日	
8 金		8 日		8 水	○	8 金	○ ○	8 月	○ ○
9 土		9 月		9 木	○ ○	9 土	○ ○	9 火	○ ○
10 日		10 火	○	10 金	○ ○	10 日		10 水	○ ○
11 月		11 水		11 土	○ ○	11 月		11 木	○ ○
12 火		12 木	○	12 日		12 火		12 金	○ ○
13 水		13 金	○	13 月	○ ○	13 水		13 土	
14 木		14 土	○	14 火	○ ○ ○	14 木		14 日	
15 金		15 日		15 水	○	15 金		15 月	○ ○
16 土		16 月		16 木	○ ○	16 土		16 火	○ ○
17 日		17 火	○	17 金	○	17 日		17 水	○ ○
18 月		18 水		18 土	○	18 月		18 木	○ ○
19 火		19 木		19 日		19 火		19 金	○ ○
20 水		20 金		20 月	○	20 水		20 土	
21 木		21 土		21 火	○ ○	21 木		21 日	
22 金	○	22 日		22 水	○	22 金		22 月	○
23 土	○	23 月		23 木	○ ○	23 土		23 火	○
24 日		24 火		24 金	○ ○	24 日		24 水	○
25 月		25 水		25 土	○ ○	25 月	○	25 木	○
26 火		26 木		26 日		26 火	○ ○	26 金	○
27 水		27 金		27 月	○	27 水	○	27 土	
28 木		28 土		28 火	○ ○ ○	28 木	○ ○	28 日	
29 金		29 日		29 水	○ ○	29 金	○	29 月	○
30 土		30 月		30 木	○ ○ ○	30 土		30 火	○
		31 火				31 日		31 水	○

資料 7_1_②_4 メディアセンター管轄 PC 利用状況

総合メディアセンター報, 第2号, 2011年11月

(4) PC 教室利用状況

2010 年度

PC教室 (123 室) 利用状況

曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考
月	3～4 限目	1 B	情報倫理	米山	
火	1～2 限目	2 A	情報処理	菅原	後期のみ
火	3～4 限目	2 A	情報処理	菅原	前期のみ
火	5～8 限目	1 D	プログラミング基礎	小出	後期のみ
木	3～4 限目	4 C S	数値計算 I	島川・大島	前期のみ
木	3～4 限目	5 C S	数値計算 II	島川・大島	後期のみ
木	5～6 限目	4 A D	自然科学概論	中田・伊藤光	後期のみ
木	7～8 限目	5 C S	DTP・組版	杉本	後期のみ
金	1～2 限目	1 C	情報倫理	米山	
金	3～4 限目	1 A	情報倫理	米山	
金	5～6 限目	1 D	情報倫理	米山	

ノートPC利用状況

曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考
月	7～8 限目	3年一般選択	有機化学	山澤	後期のみ
火	1～4 限目	2 C S	プログラミング基礎II	小出・宇部木	前期のみ
火	1～2 限目	2 C S	プログラミング基礎III	小出・氏家	後期のみ
火	5～6 限目	4 E C	電子回路II	吉田	後期のみ
火	5～6 限目	5 A D	デザインマネジメント	島津	後期のみ
水	5～6 限目	3 C S	デジタル回路設計	吉田	後期のみ
水	5～8 限目	3 M E	機械電子工学実験	米盛	後期のみ
木	3～4 限目	4 M E	アルゴリズム論	米山	後期のみ
金	1～2 限目	5 C S	マーケティング論	氏家	前期のみ
金	3～4 限目	4 E E	メカトロニクス	斎藤	

資料 7_1_②_5 メディアセンターへの来場者数

各種データ

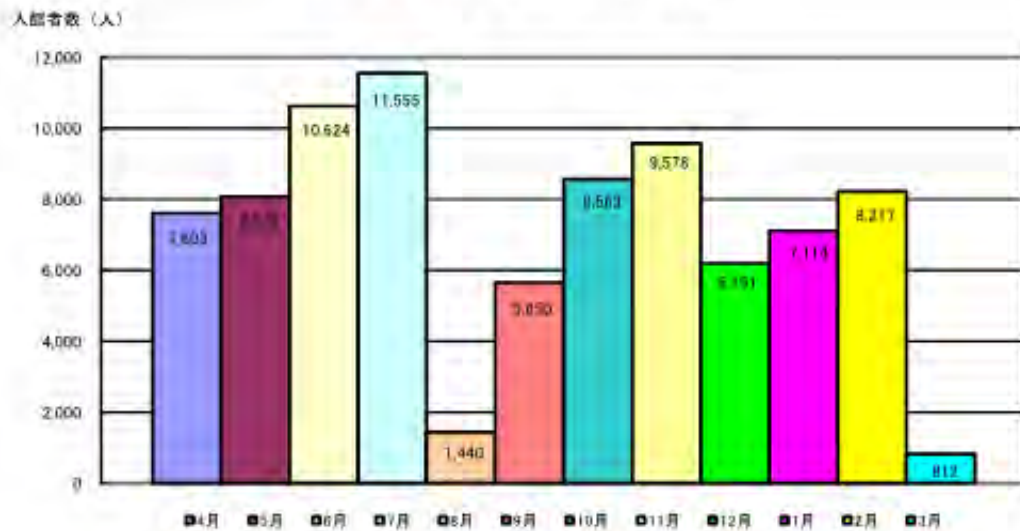
[1] 図書館・情報館関連

(1) 入館者数

2010 年度開館日数 238 日
 2010 年度入館者総数 85,422 人

月	入館者数 [人]
4月	7,603
5月	8,075
6月	10,624
7月	11,555
8月	1,440
9月	5,650
10月	8,563
11月	9,578
12月	6,191
1月	7,114
2月	8,217
3月	812
計	85,422

月別メディアセンター入館者数



資料 7_1_②_6 図書館蔵書データ

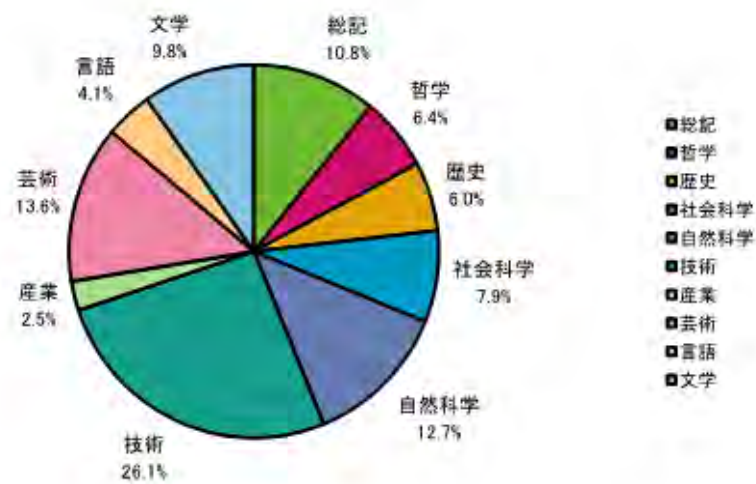
総合メディアセンター報, 第2号, 2011年11月

(2) 図書館蔵書冊数

2010年度 蔵書冊数

分野	蔵書冊数 (冊)	百分率[%]
総記	6,435	10.8
哲学	3,803	6.4
歴史	3,572	6.0
社会科学	4,725	7.9
自然科学	7,531	12.7
技術	15,491	26.1
産業	1,510	2.5
芸術	8,114	13.6
言語	2,443	4.1
文学	5,836	9.8
合計	59,464	100.0

分野別蔵書冊数



資料 7_1_②_7 図書貸し出しデータ

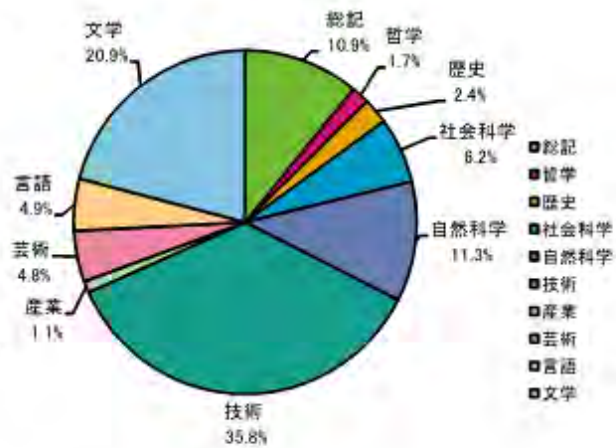
(3) 図書貸出冊数

(a) 分野別貸出冊数

2010年度

分野	貸出冊数 [冊]	百分率 [%]
総記	396	10.9
哲学	62	1.7
歴史	87	2.4
社会科学	225	6.2
自然科学	409	11.3
技術	1,301	35.8
産業	39	1.1
芸術	176	4.8
言語	178	4.9
文学	761	20.9
合計	3,634	100.0

分野別貸出冊数



(b) 月別貸出冊数

2010年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
冊数	438	322	518	525	82	210	278	319	356	329	221	36

※貸出総冊数 3,634 冊

[冊] 2010年度 月別貸出冊数



(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

キャンパス生活環境は十分に整備され、効果的に利用されている。今後は、特にコミュニケーションスペース中心として学生からの要望を取り入れて向上させることも望まれる。

○根拠理由

学科固有施設を含めた多くの施設が開放されており、学生が希望すれば利用できる状況にある。メディアセンターでは利用状況も把握しており、活動計画にも取り入れる積極性がみられる。一方、コミュニケーションスペースについての開放は行われているが、居住環境としての積極的な向上活動が積極的に行われていない。

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

キャリアセンターでは、学習支援および資格・検定受検支援を目的として、特別講座を実施(資料7.1_③_1)している。また、センターの活動についてはアンケートを採ることでニーズをとらえながら次回の計画に役立てている(資料7.1_③_2~3)。キャリアセンターではセンター長が業務定義を含めて見直しを図り体制が整えられている(資料7.1_③_4)。さらに、資格・検定へのチャレンジを促すために学科からの支援も実施し(資料7.1_③_5~6)、効果の確認を行っている(資料7.1_③_7~8)。

正規授業において学生が求める質を保証するために、教務部管轄で学生からの授業改善要望を受け入れる体制も整えられている(資料7.1_③_9~10)。実際に学生からの要望もあり、運用されている(資料7.1_③_11)。

外国留学支援体制として国際交流センターが整備されている。現在は、長期休暇期間を利用して3件の短期プログラム(オーストラリア、アイルランド、フィリピン)が実施されている。23年度はフィリピン留学について学生支援機構から補助金を受けている。

<資料一覧>

資料番号	分類	出典	発行時期	概要
7.1_③_1	【配布資料】 全学生宛て	キャリアセンター	6月	夏休み特別講義の開講科目一覧
7.1_③_2	【データ】	キャリアセンター		夏休み特別講義のアンケート結果(資格講座)
7.1_③_3	【データ】	キャリアセンター	6月	6月実施した4年生対象キャリアデーアンケート結果
7.1_③_4	【計画書】	キャリアセンター長	4月	キャリアセンターの業務定義と役割分担
7.1_③_5	【配布資料】 機械電子工学科 学生宛	機械電子工学科		資格・検定試験の受験啓蒙のための配布資料
7.1_③_6	【配布資料】 電気工学科学生	電気工学科	3月	次年度の電気工事士受験対策の案内
7.1_③_7	【データ】	電気工学科		電気工事士受験者データ
7.1_③_8	【データ】 学生掲示	数学科	随時	数学検定試験合格者リスト
7.1_③_9	【規則】	教務部		学生からの授業改善要望に係る規則
7.1_③_10	【規程】	教務部		学生からの授業改善要望に対する作業規程
7.1_③_11	【データ】	教務学生課		授業改善要望に対する対応状況
7.1_③_12	【資料】	INFO		海外留学資料

資料 7_1_③_1 夏休み特別講座の開講科目一覧

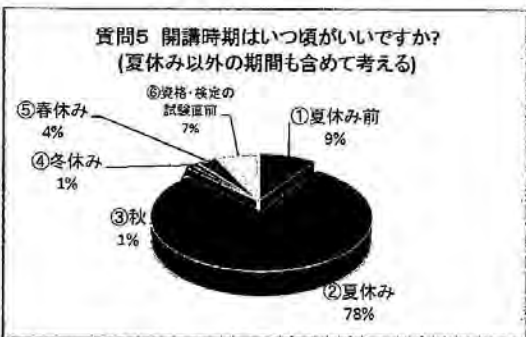
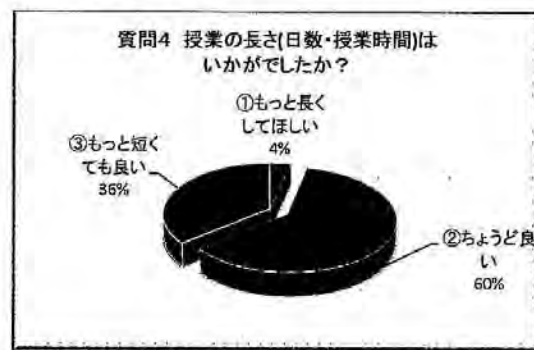
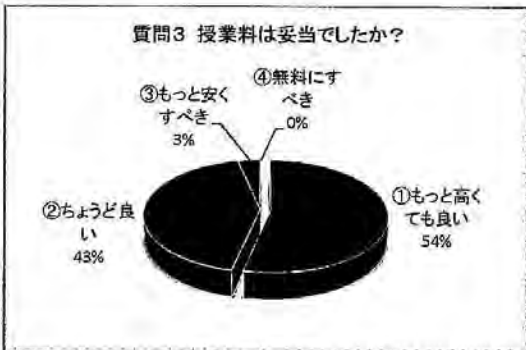
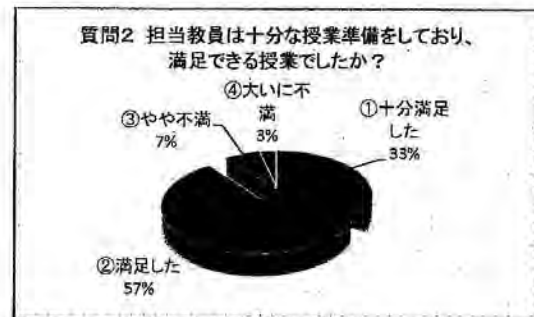
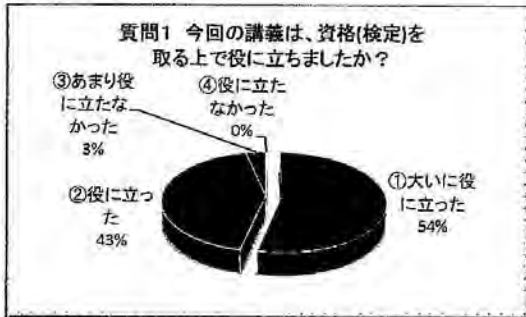
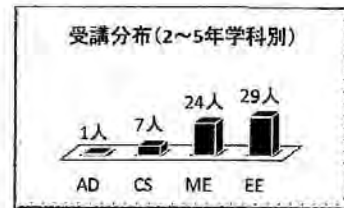
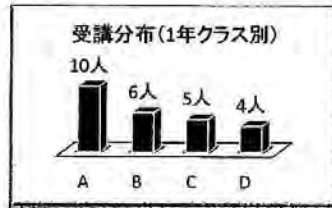
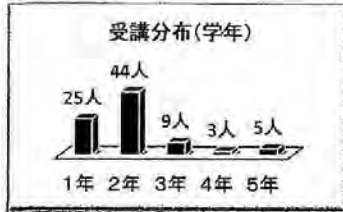
2012サマースタージング 確定版

申込 有数	講座 番号	種別	講 座 名	講師	受講対象	内 容	料 金			教室	出席地 講人数	定員	開講日	日数
							受講料	教材費等	受講料合計					
5	A	講義	日本語検定2級対策	村田 昌巳	全学生	問題演習形式による、日本語検定2級受験対策	¥1,500	¥1,500	¥3,000	232	5	20	9/11~9/15	5日間
19	B	講義	日本語検定3級対策	相川 紗洋	全学生	問題演習形式による、日本語検定3級受験対策	¥1,500	¥1,500	¥3,000	233	5	20	9/11~9/15	5日間
18	C	講義	進学補講 数学	西園 広志	3・4年大学進 学希望者	大学編入のための数学講座	¥0	¥0	¥0	310	なし	なし	9/11-12-14	3日間
46	D1	講義	数検準2級1次対策	大澤 清祐	全学生	数検準2級1次試験対策	¥1,000	¥0	¥0	240	5	30	9/11~9/14	4日間
29	D2	講義	数検準2級1次対策	佐藤 聖	全学生	数検準2級1次試験対策	¥1,000	¥0	¥1,000	241	5	30	9/11~9/14	4日間
44	E1	講義	数検準2級2次対策	安藤 昭	全学生	数検準2級2次試験対策	¥1,000	¥0	¥1,000	240	5	30	9/11~9/14	4日間
26	E2	講義	数検準2級2次対策	佐藤 聖	全学生	数検準2級2次試験対策	¥1,000	¥0	¥1,000	241	5	30	9/11~9/14	4日間
16	F	講義	数検2級1次対策	山本 幸司	全学生	数検2級1次試験対策	¥1,000	¥0	¥1,000	234	5	30	9/11~9/14	4日間
18	G	講義	数検2級2次対策	渡邊 壮	全学生	数検2級2次試験対策	¥1,000	¥0	¥1,000	234	5	30	9/11~9/14	4日間
15	H	講義	英検準2級	椎名 正明	全学生	英検準2級取得を目指すし、そのレベルの構文や表現を学び、長文を読解する。	¥5,000	¥0	¥5,000	229	5	40	9/11,14 9/29,10/6,13	5日間
16	I	講義	【外部講師】大学編入数学講座	【外部講師】 (山本 幸司 先生)	2年 全学生	外部講師による2年生の大学編入を目指す学生を対象とした数学基礎講座	¥3,000	¥0	¥3,000	240	10	26	9/3~9/7	5日間
69	J	講義	【外部講師】基礎英文法	【外部講師】 (山本 幸司 先生)	1-2年 全学生	外部講師による中級・上級を目指す学生及び大学編入を目指す学生を対象に英文法を重点的に学習する基礎力養成講座	¥3,000	¥0	¥3,000	119	10	25	9/3~9/7	5日間
87	K	講義	有機溶剤安全衛生教育(資格取得)	【外部講師】 (山本 幸司 先生)	全学生	労働安全衛生法で指定された有機溶剤(アセトン等)取り扱いのための特別教育を実施し、資格を取得する	¥8,400	¥1,600	¥10,000	317	10	なし	9/21	1日間
107	L	講義	ガス溶接技能講習(資格取得)	【外部講師】 (山本 幸司 先生)	全学生	労働安全衛生法で指定されたガス溶接作業のための技能講習を実施し、資格を取得する	¥12,000	¥610	¥12,610	317 アリーナ前	10	なし	9/25,26	2日間
30	M	講義	危険物取扱者(乙種第4類)	花山 康雄	全学生	石油類を扱うために必要な危険物取扱者乙種第4類資格試験対策	¥4,000	¥4,000	¥8,000	235	5	60	9/10~9/14	5日間
29	N	講義 試験	CAD利用技術者基礎試験	高橋 孝 朝毛 達郎	2-3年 ME学科	CAD利用技術者基礎試験:設計、製図、CADシステムの販売等に従事するものの資格試験	¥3,000	¥5,950	¥8,950	319	なし	なし	9/11~9/15	5日間
51	O	講義 講習	電気工事士1次試験対策	高橋 孝 尾野 健夫	全学生	10/8に実施される第2種電気工事士1次試験(筆記)合格を目指す【テキストを持っていない学生は、申し込みの期間中に申し込みすること】第2種電気工事士 表11(15) 筆記試験受験テキスト 平成24年度版 第2種電気工事士筆記試験 計2冊	¥3,000	¥2,410	¥5,410	317	10	なし	9/11~9/15	5日間
23	P	講義	第4種アマチュア無線技士用模擬試験	吉田 得司	1-2年 受験希望者	8/21(土)9/18に実施される第4種アマチュア無線技士の免許として模擬工学及び法規の模擬試験を1日に2回(1回30分+採点試験10分+休憩5分)で実施する。	¥0	¥0	¥0	317	5	20	8/17-9/5	2日間
15	Q	講義	デジタル技術検定	吉野 誠一	受験希望者	基礎的な論理設計及び情報処理の知識をもち、情報処理従事及び制御装置野基本原理並びに簡単な応用技術の原理を理解し、これを利用することが出来る。	¥5,000	¥1,900	¥6,900	319	5	30	8/29,30,31,9/3,4	5日間
23	R	講義	色彩検定3級対策講座	杉本 文司	全学生	文部省認定色彩検定3級試験対策	¥3,000	¥1,200	¥4,200	414	5	15	9/11~9/15	5日間
24	S	講義	基本情報技術者試験対策講座	CS学科教員	受験希望者	基本情報技術者試験の午前問題の対策講座(10/21実施)【10回開講】	¥2,920	¥7,080	¥10,000	409	1	40	8/27,28,31,9/11,12,13,14,15,19,21	10日間
13	T	講義	【外部講師】進学数学講座	【外部講師】 (山本 幸司 先生)	3-4-5年	江川講師(中央ゼミナール)による進学講座	¥6,000	¥0	¥6,000	228	5	なし	8/13午後 9/14-21午前	3日間
12	U	講義	【外部講師】進学英語講座	【外部講師】 (山本 幸司 先生)	3-4-5年	千穂和講師(中央ゼミナール)による進学講座	¥6,000	¥0	¥6,000	228	5	なし	9/13-15-20 午前	3日間

資料 7_1_③_2 夏休み特別講座のアンケート結果

2012サマースクーリング アンケート集計結果

講座名	L	ガス溶接技能講習(資格取得)	
申込者数	107名	アンケート回収	86件



意見・感想(記入そのまま)

もっとわかりやすくしてほしいです
 教えていただきありがとうございました
 長かったけど楽しかった
 ありがとうございました
 少し時間が長かったと思います
 準備不足
 楽しく役に立ちました。これらの知識を生かして家でも溶接したいです
 ガスの実習の際にやる気の無い学生は失格にすべきだ
 実習の待ち時間が少し長いなと感じました。全員が充実した実習になれば幸いです
 実習おわって3時間外でたいきはやめてくれ

資料7_1_③_3 キャリアデーアンケート結果

【別紙6】

キャリアデー2011 アンケート集計結果

アンケート回収数	4AD	4EE	4ME	4CS	計
	32名	41名	32名	46名	151名

I. 仕事・業種について(進学希望者も記入してください)

	AD		EE		ME		CS		計	
1. 考えていない	2	6%	1	2%	1	3%	4	9%	8	5%
2. 考えているがどんな仕事・業種を選んでよいかわからない	13	41%	26	63%	17	53%	21	46%	77	51%
3. 仕事・業種は決めているが企業は決めていない	15	47%	13	32%	12	38%	19	41%	59	39%
4. 企業を決めている	1	3%	1	2%	1	3%	2	4%	5	3%

II. キャリアデーの開催時期について

	AD		EE		ME		CS		計	
1. 早すぎた	0	0%	7	17%	2	6%	4	9%	13	9%
2. ちょうどよい	20	63%	28	68%	23	72%	24	52%	95	63%
3. もう少し早く実施してほしい	12	38%	5	12%	7	22%	18	39%	42	28%

III. 実施方法について

		AD		EE		ME		CS		計	
(ア) 開催時間(半日)について	1. ちょうど良い	24	75%	31	76%	23	72%	31	67%	109	72%
	2. 短い	8	25%	6	15%	6	19%	3	7%	23	15%
	3. 長い	0	0%	3	7%	3	9%	10	22%	16	11%
(イ) 講師一人当たりの時間	1. ちょうど良い	21	66%	26	63%	22	69%	32	70%	101	67%
	2. 短い	10	31%	12	29%	10	31%	2	4%	34	23%
	3. 長い	0	0%	2	5%	0	0%	10	22%	12	8%
(ウ) 講師人数について	1. ちょうど良い	26	81%	36	88%	24	75%	35	76%	121	80%
	2. 少ない	5	16%	2	5%	7	22%	4	9%	18	12%
	3. 多い	0	0%	2	5%	1	3%	5	11%	8	5%

IV. 講演について

		AD		EE		ME		CS		計	
(ア) 話の内容は理解できた	1. はい	31	97%	41	100%	32	100%	46	100%	150	99%
	2. いいえ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
(イ) 講師の体験談は参考になった	1. はい	31	97%	41	100%	31	97%	43	93%	146	97%
	2. いいえ	1	3%	0	0%	1	3%	3	7%	5	3%
(ウ) 講師のアドバイスは参考になった	1. はい	30	94%	41	100%	31	97%	44	96%	146	97%
	2. いいえ	2	6%	0	0%	1	3%	2	4%	5	3%
(エ) 講師は若い人だけでなく幅広い年齢層がよい	1. はい	22	69%	31	76%	19	59%	37	80%	109	72%
	2. いいえ	9	28%	9	22%	13	41%	9	20%	40	26%
(オ) 講師プロフィールはあったほうがよい	1. はい	24	75%	26	63%	30	94%	39	85%	119	79%
	2. いいえ	7	22%	15	37%	2	6%	7	15%	31	21%

V. 感想(複数回答可。下記以外はVI自由記述欄へ記入してください)

	AD		EE		ME		CS		計	
1. 希望が湧いてきた	19	59%	21	51%	17	53%	16	35%	73	48%
2. 迷いがなくなった	2	6%	10	24%	5	16%	9	20%	26	17%
3. かえって迷ってしまった	10	31%	5	12%	11	34%	18	39%	44	29%
4. 心境は何も変わらない	3	9%	10	24%	2	6%	10	22%	25	17%

資料 7_1_③_4 キャリアセンターの業務定義と役割分担

キャリアセンターの主な業務と役割分担

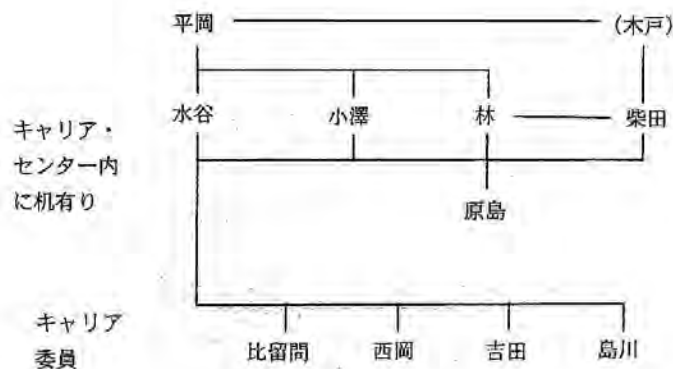
2012.4.3 平岡

<キャリアセンター・スタッフ>

- 平岡： 全体統括、他部門との折衝、スポークスマン
- 水谷： キャリア委員とりまとめ、スポークスマン、求人企業対応
キャリアデー、インターンシップ、SPI実施責任者
- 小澤： キャリア教育全般、求人企業対応、学生カウンセリング
(事務部門)
- 柴田： 林係長・契約社員 ~~の~~の業務統括、サマースクーリング実施責任者
- 林： センター内業務とりまとめ、就職関係とりまとめ
求人企業対応、学生カウンセリング
- 原島： データ入力、加工、学生窓口、企業対応補助

<学科選抜キャリア委員>

- 島川： 学生向けスポークスマン（キャリア・オリエンテーション他）
- 西岡： 進学関係統括
- 比留間： サマースクーリング
- 吉田： 資格・検定



出典 キャリアセンター

2012. 10. 25

機械電子工学科 「メカトロ新聞」 8

夢の花は咲かない
努力の種をまかなければ

「心が変わると 人生が変わる！」
 学科長 高橋 孝



私たちが人生における出会いとは、その人の人格にふさわしい出会いしか生まれません。『類は友を呼び』と申すわけです。

そして『運命は誰と出会ったかで決まる』と云うことであるわけです。

心が変わると 態度が変わる。
態度が変わると 行動が変わる。
行動が変わると 習慣が変わる。
習慣が変わると 人格が変わる。
人格が変わると 出会いが変わる。
出会いが変わると 運命が変わる。
運命が変わると 人生が変わる。

『心が変わって人生が変わる』まじは、これだけ変わらなければなりません。

心が変わると、人生が変わる！
 一度とない人生だから、必要に応じて「心を鍛える」努力をしてみても如何でしょうか。

英語弁論大会本選出場
 1ME 内藤 柚菜
 校内選考会にて選ばれ、
[Recitation Division]
 部門での関東信越地区弁論大会への出場が決定した。
健闘を祈る

祝！全国高専大会ベスト8
硬式テニス (シングル・ダブルス)
4ME 吉留君
電気工事士1次合格者
2ME 1名
3ME 6名
4ME 8名
5ME 3名 (講習会実施中)

5ME 進路決定状況

	2012.10.24付
就職	95.0%
進学	88.9%
全体	93.1%

CAD利用技術者認定試験
 26名受験し**22名が合格**
 その後の挑戦で、サマースク
ーリング受講者全員合格

見学の実施
 1ME 東京航空計器 (株)
 2ME 三菱みなどみらい技術館
 3ME コスモ計器 (株)
 4ME 森永乳業 (株)

2次試験の健闘を祈る

2012年9月15日～16日の間、浜松市で開催された「ソーラーバイクレース 2012 in 浜松」に**機械電子工学科**の有志メンバーが参加し、フリースタイル競技で**3位に入賞**しました。本年度のマシンは、昨年度のマシンよりも高速に走行することを目標に製作しました。

モータのギヤBOXは、Mini-CNC HAKUによる加工、駆動回路はPWM制御によるIGBTドライブ回路、回路基板は基板加工機による切削加工、イルミネーションはマイコンによるフルカラーLEDの制御など**学科プロジェクト**ものづくり講座で学んだ技術を活かしています。



裏も見てね 

人は「夢」みるところまでいける！

2011.03.22

電気工事士試験受験希望学生各位

サレジオ高専キャリアセンター

平成23年度電気工事士受験対策実施の案内

来年度より上期、下期の2回に分けて実施されます。本校では、行事日程等を考慮し、下期試験に的を絞った講習会を計画しました。その概要が決まりましたのでお知らせします。

筆記試験 平成23年10月1日(土)

技能試験 平成23年12月3日(土)

※受験申込期間 平成23年3月14日～4月4日(月)

(個人で申し込んでください)

【筆記対策】

サマースターリングにて指導

平成9月12日(月)～9月17日(土)

【実技対策】

筆記試験終了後の自己採点で30問以上の正解が見込まれる学生を対象に実技指導を開始します。

日程は未確定ですが下記のように計画しています。

10/15(土)、10/22(土)

11/5(土)、11/12(土)、11/19(土)

12/1(木)、12/2(金)

※講習会は有料になります

資料7_1_③_7 電気工事士受験者データ

2011年度
電気工事士受験者

3EE	下期			
	筆記試験		実技試験	
	受験	合格	受験	合格
01	○			
02	○			
03	○			
04	○	○	○	○
05	○			
06	○			
07	○	○	○	○
08	○			
09	○			
11	○	○	○	○
12	○			
13	○			
15	○			
16	○			
18	○			
19	○			
20	○			
21	○			
22	○	○	○	
23	○			
24	○			
25	○			
27	○			
28	○			
29	○	○	○	○
30	○			
32	○			
33	○			
34	○	○	○	○
35	○			
36	○	○	○	○
37	○	○	○	○
38	○			
39	○			
	34	8	8	7

4EE	合計				上期				下期			
	筆記試験		実技試験		筆記試験		実技試験		筆記試験		実技試験	
	受験	合格	受験	合格	受験	合格	受験	合格	受験	合格	受験	合格
01												
02												
03												
04	○								○			
05	○								○			
06	○								○			
07												
08	○								○			
09												
10												
11												
12												
15												
16												
17												
18	○	○	○	○	○	○	○	○				
19	○								○			
20	○	○	○	○					○	○	○	○
21	○								○			
22	○								○			
23												
24	○	○	○	○					○	○	○	○
25												
26	○	○	○		○	○	○					
27	○	○	○	○					○	○	○	○
28												
29												
30												
32	○								○			
33												
34												
35	○	○	○	○	○	○	○	○				
36												
37												
38	○								○			
39	○								○			
40												
41	○								○			
43												
44	○	○	○		○	○	○					
45												
	18	7	7	5	4	4	4	2	14	3	3	3
	52	15	15	12								

H23第1回数学検定試験合格者

2011.06.14

実施日 H23 5月14日(土)

報告者 数学科 安藤 昭

受験者総数184

2級 合格 1名 準2級合格 4名 準2級 1次のみ合格 6名 準2級 2次のみ合格 2名

3CS	38	3ME	5	3CS	3	2CS	7
		3ME	22	3CS	6	2CS	22
		2EE	33	3CS	25		
2級 1次のみ合格 2名		1CS14	1C33	3EE	18		
				3ME	6		
3ME	43			2ME	8		
1CS24	1C38						

3級の合格率	
H20	107/153
H21	89/128
H22	79/120
H23	117/148

3級合格 117

3CS	4	1EE01	1D_10	1ME01	1C_21	1CS01	1A_29	3級 1次のみ合格 5名	
1AD03	1B_01	1EE02	1B_11	1ME05	1C_23	1CS02	1C_31		
1AD04	1A_01	1EE04	1B_12	1ME06	1A_20	1CS03	1B_31	1AD22	1C_05
1AD05	1B_02	1EE05	1D_12	1ME07	1D_20	1CS05	1D_30	1AD26	1B_08
1AD06	1A_02	1EE06	1C_11	1ME08	1A_21	1CS06	1A_31	1AD32	1D_07
1AD07	1D_02	1EE07	1D_13	1ME11	1A_23	1CS07	1D_31	1ME18	1C_25
1AD08	1B_03	1EE08	1C_12	1ME12	1D_22	1CS08	1B_32	1CS04	1A_30
1AD10	1B_04	1EE09	1A_10	1ME13	1B_22	1CS09	1D_32		
1AD11	1D_04	1EE10	1B_13	1ME14	1A_24	1CS10	1D_33	3級 2次のみ合格 14名	
1AD12	1A_03	1EE13	1B_14	1ME15	1D_23	1CS11	1A_32		
1AD14	1A_04	1EE14	1C_14	1ME16	1B_23	1CS12	1C_32	1AD02	1C_01
1AD15	1C_02	1EE15	1B_15	1ME17	1C_24	1CS13	1D_34	1AD09	1D_03
1AD18	1A_05	1EE16	1D_14	1ME18	1D_24	1CS15	1D_35	1AD13	1B_05
1AD20	1B_07	1EE19	1B_16	1ME21	1B_24	1CS16	1C_34	1AD30	1C_09
1AD23	1D_05	1EE21	1A_14	1ME23	1B_25	1CS17	1D_36	1AD34	1A_08
1AD24	1C_06	1EE24	1A_15	1ME24	1C_27	1CS18	1B_33	1AD37	1A_09
1AD27	1B_09	1EE25	1C_17	1ME25	1D_25	1CS19	1A_33	1EE18	1C_15
1AD28	1D_06	1EE26	1D_16	1ME26	1B_26	1CS21	1C_36	1EE20	1A_13
1AD29	1C_08	1EE27	1D_17	1ME27	1B_27	1CS22	1C_37	1ME01	1A_19
1AD31	1A_07	1EE28	1C_18	1ME28	1D_26	1CS23	1A_34	1ME06	1D_21
1AD33	1D_08	1EE29	1C_19	1ME30	1B_28	1CS25	1B_34	1ME34	1D_27
1AD35	1D_09	1EE30	1B_17	1ME31	1A_26	1CS26	1C_39	1CS33	1D_37
1AD38	1B_10	1EE32	1C_20	1ME32	1C_29	1CS27	1A_35	1CS41	1B_39
		1EE33	1A_16	1ME33	1B_29	1CS28	1C_40	1CS45	1B_41
		1EE34	1B_19	1ME36	1A_28	1CS32	1C_41		
		1EE35	1D_18	1ME37	1D_28	1CS34	1A_36		
		1EE36	1B_20	1ME38	1B_30	1CS35	1D_38		
		1EE37	1D_19	1ME39	1C_30	1CS37	1B_38		
		1EE39	1A_18	1ME40	1D_29	1CS39	1A_38		
						1CS40	1D_39		
						1CS42	1B_40		
						1CS43	1A_39		
						1CS44	1D_40		
						1CS48	1A_41		
						1CS50	1D_41		
						1CS53	1D_42		

合格おめでとうございます
 次回は9月です。今回失敗した人は、このタイミングでしっかり復習して次回チャレンジして下さい。
 合格した人は準2級を目指して下さい！

サマースクーリングで対策講座を行いますから、ぜひ受講しましょう。

資料 7_1_③_9 学生からの授業改善要望にかかる作業規定

学生からの授業改善要望処理(試行)に関する規則

(平成 20 年 6 月 30 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、サレジオ工業高等専門学校（以下「本校」という。）における学生からの授業改善要望処理(試行)（以下「授業改善要望処理」という。）に関し必要な事項について定めるものとする。

(要望提出学生の情報保護)

第 2 条 授業改善の要望を提出した学生の固有の情報（氏名、学籍番号等）は提出窓口職員、担当インターカーおよび学校長のみが有し、当該学生の承諾なしにその他の教職員に伝えてはならない。

(インターカー)

第 3 条 インターカーは要望を提出した学生との連絡窓口となり、以下の各号の業務を行う。

- (1) 学生と面談し要望書を作成する。
- (2) 要望に対する回答を学生に伝える。
- (3) その他学生の要望に関して、学校と学生との連絡伝達。

2 インターカーは教務主事団と学生課長よりなる。

(情報の公開)

第 4 条 授業改善要望処理に関わる全ての記録および資料は、学校長の許可なく関係者以外の教職員が閲覧・複製作成など利用することはできない。

(雑則)

第 5 条 授業改善要望処理の実施に係わる細則等は別に定める。

第 6 条 本規則は平成 20 年度の試行期間(平成 20 年 6 月 30 日～平成 20 年 9 月 23 日)についてのみ適用されるものとする。

附 則

この規則は、平成 20 年 6 月 30 日から施行・適用する。

資料 7_1_③_10 学生からの授業改善要望に対する作業規程

授業改善要望

学生からの授業改善要望処理

【関連規則】

学生からの授業改善要望処理(試行)に関する規則

【関連書類】

- 授業に関する意見書[教務様式(授業改善要望-①)]
- 授業改善要望書[教務様式(授業改善要望-②)]

【手続き】

- ① 授業に関して意見がある学生は、所定様式「授業に関する意見書」(教務様式(授業改善要望-①))に必要事項を記入の上、「授業に関する意見箱」に投函する。
- ② 意見箱窓口職員は投函された「授業に関する意見書」を調べ以下のいずれかの対応をとる。
 - 無記名の場合・・・教務主事に報告した後、資料としてファイルに保管する。
 - 担当インテーカーの希望がある場合・・・「授業に関する意見書」のコピーをとり、原本は保管し、コピーを指名されたインテーカーに渡す。
 - 担当インテーカーの希望がない場合・・・「授業に関する意見書」のコピーをとり、原本は保管し、コピーを教務主事に渡す。
- ③ 「授業に関する意見書」を受け取った担当インテーカーは日時を調整して学生と面談を実施し、「授業改善要望書」(教務様式(授業改善要望-②))を作成する。その際、作成した「授業改善要望書」の内容について、誤りがないか学生本人に必ず確認をとること。
- ④ 担当インテーカーは作成した「授業改善要望書」を意見箱窓口職員に提出する。
- ⑤ 意見箱窓口職員は「授業改善要望書」のコピーをとり、原本は保管し、コピーを教務主事に渡す。
- ⑥ 教務主事は「授業改善要望書」に学生固有の情報(学籍番号、氏名等)が記載されていないか確認し、記載があれば担当インテーカーに削除を命じ、記載がなければ教育部門長(副校長(教育))に回送する。
- ⑦ 「授業改善要望書」を受けて教育部門長(副校長(教育))は、当該部署長に実態調査を命ずる。(この際、文書(所定様式なし)にて命ずること。)
- ⑧ 実態調査を命ぜられた部署長は速やかに調査を行い、その結果を実態調査報告書(所定様式なし)にまとめ、教育部門長に報告する。
- ⑨ 教育部門長は⑧の調査報告を受け、必要と判断した場合は改善を当該部署長に文書(所定様式なし)にて命ずる。また、必要であれば当該教員に直接に指示することもある。
- ⑩ 改善命令を受けた当該部署長は速やかに改善計画を立て、改善計画書(所定様式なし)を教育部門長に提出し承認を得ること。また、改善を実施した後に改善実施報告書(所定様式なし)を教育部門長に提出し承認を得る。
- ⑪ ③において対応の報告を希望した学生については、教育部門長が実態調査報告書および指示内容(命令書)のコピーを担当インテーカーに渡し、担当インテーカーを経由して発信元の学生に報告する。また、その他の部署や機関に報告が必要だと教育部門長が判断した場合は、教育部門長がそれを行う。

出典 教務部

資料 7_1_③_11 授業改善要望に対する対応状況

授業改善(意見箱)進行状況

2012/9/20 現在

(教務主事へ報告)

意見書 No.	意見書	面談終了 要望書提出	要望書回送	要望書報告	措置後の 全記録	全記録回送	処理報告	処 理
	職員 ↓ インターカー	インターカー ↓ 職員	職員 ↓ 教務主事	教務主事 ↓ 教育部門長	教育部門長 ↓ 職員	職員 ↓ 校長	インターカー ↓ 学生	
0001	2008/7/19	2008/8/1	2008/8/1	済 (2008/10/26 確認)				
0002	2009/2/17							
0003								
0004								
0005								
0006								
0007								
0008	2009/5/19	2009/5/27	2009/5/27	(不明)	2011/1/18	2011/1/19	(不明)	完了
0009	2010/2/24							
0010								
0011								
0012	2010/10/19	2011/1/17	2010/10/末	(不明)	2011/1/18	2011/1/19	(不明)	完了
0013	2010/10/22	2010/10/25	2010/1/25	(不明)	2011/1/18	2011/1/19	2011/1/21	完了
0014	2012/8/24	2012/8/30	2012/8/30	2012/8/30				

出典 教務学生課

11.2 海外ホームステイ（オーストラリア）交流

オーストラリアホームステイ交換プログラム実施要領

- 実施方法：本校と SALESIAN COLLEGE "RUPERTSWOOD"（メルボルン）及び NAGLE COLLEGE（バーンスデー）2校の姉妹校の独自のプログラムで実施する。
- 目的：国際化が進む時代にあって、人や文化の交流を通してグローバルな視野を持ち、行動できる人材の育成を目指す。本校の世界中に姉妹校を持つメリットを生かし、単なる一方通行的なものではなく、両校互いの学生交換ホームステイを実施することにより、上記の目的達成を試みるものである。
- 対象：原則として1年生と2年生。
- 参加資格：①オーストラリアの姉妹校の生徒を受け入れることを前提としてホストファミリーになることのできる家庭の本校学生であること。
②後期前半の成績で、すべての科目において学年末合格の見込みであること。即ち、不可相当（4.9点以下）の科目が無いこと。
- 実施場所：本校の姉妹校 Salesian College RUPERTSWOOD Sunbury 及び NAGLE COLLEGE Bairnsdale。



‘09 オーストラリアホームステイ報告

Wednesday, February 25th ~ Thursday, March 12th .

Nagle College, Bairnsdale & Salesian Polytechnic, Tokyo

Pre-Departure Orientation

渡航前の準備と心構えを作る目的で、マルケス先生による一週間の英会話の特別授業が実施された。単に英会話の表現だけでなく、オーストラリアと日本の家庭事情の違いやホームステイ先での振舞い方、さらには最近オーストラリアに多発しているブッシュ・ファイヤーのことについてまで、多岐にわたる内容の事前研修となった。

(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

資格・検定および外国留学のための支援体制については整備され機能している。一方、学習支援に関する学生のニーズの把握については今後も検討を進める必要がある。

○根拠理由

支援体制の整備およびその活動はキャリアセンター、国際交流センターにより機能している。一方、学習面における学習支援のニーズの把握についての仕組みが明確となっていない。

観点7-1-④： 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

特別な支援として必要な学生については、教務部が中心となって支援を整える体制としている。前例がない場合は教務部会にて対応策を検討する(資料7_1_④_1)。また、定常的に起こりえる事象について規程の運営を行う(資料7_1_④_2)。さらに、成績不振者の抽出(資料7_1_④_3)や欠課時数が多い学生に対する経過指導(資料7_1_④_4)も行っている。抽出された学生への対応は、教務部から学生所属学科へ指示がなされ面談を通じた助言などの指導の実施(資料7_1_④_5)、該当教科による特別補講(資料7_1_④_6~9)による学習支援が実施された。規程に則って特別支援を受けた学生についての学習支援も実施されている(資料7_1_④_10)。

資料番号	分類	出典	発行時期	概要
7_1_④_1	【記録】	教務部	6月	特別な支援・配慮が必要な学生に対する対応策の検討
7_1_④_2	【規程】	教務部		転学科を希望する学生を支援する規程
7_1_④_3	【データ】	教務部		成績不振者抽出データ
7_1_④_4	【データ】	教務部		欠課が多い学生に対する経過指導データ
7_1_④_5	【データ】	教務部		要支援学生に対する面談実施記録
7_1_④_6	【配布資料】1年生宛て	英語科		夏休み特別補講講座の申込書
7_1_④_7	【データ】	英語科		夏休み特別補講講座参加者データ
7_1_④_8	【データ】	英語科		夏休み特別講座参加者の感想
7_1_④_9	【記録】	電気工学科		要支援学生に対する補講実施記録
7_1_④_10	【記録】	教務部		転科した学生に対する支援報告書

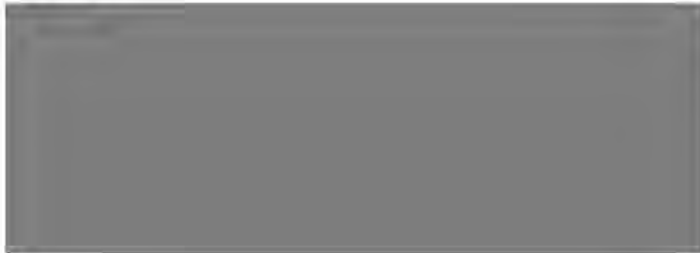
資料 7_1_④_1 特別な支援・配慮が必要な学生に対する対応策の検討

2012年度 第2回 教務部会 (12/06/18)

1. 配付資料

- アジェンダリスト
- 転学科に関する教務マニュアル (現行版)

2. 報告事案



3. 審議事案

- 体育実技に参加できない学生のための代替評価方法 (承認依頼)
 - 学生主事 → 教務主事
 - ・保健調書の記載事項にもとづく体育実技への参加が難しい学生リストの提供有り
 - ・体育科Co.に評価方法代替案の検討を依頼



資料 7_1_④_2 転学科を希望する学生を支援する規定

転学科

転学科**【関連規則】**

学則 第20条
教務内規 1901-

【関連書類】

- 転学科願[教務様式(転科-①)]
- 所見票[教務様式(転科-②)]
- 転科試験伺・転学科試験実施要項[教務様式(転科-③)]
- 転学科判定報告書・転学科試験(専門技能適性試験)結果報告書[教務様式(転科-④)]

【手続き】**(事前手続き)**

- ① 転学科希望の申し出があった場合、担任は学生本人と話しそれが保護者も同意した希望であることを確認すること(この段階で保護者を含めた面談の必要はなし)
- ② 担任は現所属学科長(ブレテック学生の場合はブレテック主任)を通して教務主事に転学科希望学生の氏名、クラス番号、現学科、転学科希望学科を報告する(この段階で情報共有は、担任・両学科長・ブレ主任(学生がブレ学生の場合)・教務主事である)
- ③ 教務主事は転学科希望学科定員の欠員を確認する
 - 希望学科に欠員が無い場合…教務主事は現所属学科長(ブレテック学生の場合はブレテック主任)を通して担任に転科は出来ない旨を連絡し、担任はその旨を転学科希望学生に連絡する
 - 希望学科に欠員がある場合…教務主事は現所属学科長(ブレテック学生の場合はブレテック主任)を通して担任に転学科手続きに入るよう指示する

(本手続き)

- ① 現所属学科長(ブレテック学生の場合はブレテック主任)は担任、教務担当と共に、転学科希望学生およびその保護者と面談をする(このとき教務担当は転学科の手続きの説明をすること)。学生本人および保護者の同意が得られた場合には、「転学科願」を作成する
- ② 現所属学科長ならびに担任は「所見票」を作成し教務主事に提出する
- ③ 教務主事は「転学科願」と「所見票」の副本を作成し、これと転学科希望学生の成績を転学科希望先学科長に回送する
- ④ 教務主事は転学科試験の実施を転学科希望先学科長に問い合わせる
- ⑤ 転学科希望先学科長は「転学科試験実施要項」を教務主事に提出する
- ⑥ 教務主事は転学科試験実施要項を現所属学科長(ブレテック学生の場合はブレテック主任)を通して担任に連絡し、担任は転学科希望学生に伝える
- ⑦ 転学科希望先学科長は転学科試験実施要項に従い転学科試験を実施し、「転学科試験(専門技能適性試験)結果報告」と「転学科判定報告書」を教務主事を通して学校長に報告する

出典 教務部

資料 7_1_④_3 成績不審者抽出データ

成績操行会歳費表

文責:情報工学科 小出 清徳夫

成績指導担当	学年	学期	前期中間			前期期末			指導	説明コメント	前期中間	前期期末	備考欄
			科目	点数	平均	科目	点数	平均					
			4	3	0.20	1	1	0.07				学生 初年度 不可達成科目数 (4科目: 1~0.5科目) 不可達成科目数 (4科目: 1~0.5科目)	
			3	2	0.20	3	2	0.13					
			0	0	0.00	0	0	0.00					
			10	7	0.70	13	9	0.69	学3	特別条件, 遅刻で欠いているがある		不可達成科目数 (4科目: 2科目-2.0, 3科目-1科目) 不可達成科目数 (4科目: 4-2科目)	
			6	5	0.50	10	7	0.47	学3	欠席の回数(1)は多い		不可達成科目数 (4科目: 4-2科目)	
			1	1	0.10	0	0	0.00					
			0	0	0.00	1	1	0.07					
			3	7	0.70	12	8	0.53	学3			不可達成科目数 (4科目: 4科目-2.0, 3科目: 2科目-1.0) 遅刻回数 (1 - 4回遅刻)	
			4	3	0.30	3	2	0.15	学3			不可達成科目数 (4科目: 1科目-0.5, 3科目: 2科目-1.0) 遅刻回数 (1 - 4回遅刻)	
			1	1	0.10	1	1	0.07					
			4	3	0.30	1	1	0.07		アーゴワーズ, 遅刻回数(1)が多い			
			1	1	0.10	0	0	0.00					
			13	10	1.00	13	14	0.93					
			3	3	0.30	2	2	0.15				不可達成科目数 (4科目: 1~0.5科目)	
			0	0	0.00	0	0	0.00					
			1	1	0.10	0	0	0.00					
			7	3	0.50	3	2	0.15				不可達成科目数 (4科目: 1~0.5科目)	
			7	5	0.50	4	5	0.35	学3			不可達成科目数 (4科目: 4科目-2.0, 3科目: 1科目-1.0) 遅刻回数 (1 - 4回遅刻)	
			0	0	0.00	0	0	0.00					
			5	4	0.40	6	4	0.27	学3	特別条件, 遅刻回数(1)が多い		不可達成科目数 (4科目: 2科目-1.0)	
			0	0	0.00	0	0	0.00					
			5	4	0.40	2	2	0.15				不可達成科目数 (4科目: 2~1.0科目)	
			4	2	0.50	2	2	0.15				特別条件, 遅刻回数(1)が多い	
			3	3	0.30	2	2	0.15				不可達成科目数 (4科目: 1~0.5科目)	
			0	0	0.00	2	1	0.07					
			4	3	0.30	6	5	0.35	学3			不可達成科目数 (4科目: 4-2科目)	
			0	0	0.00	2	1	0.07					
			0	0	0.00	0	0	0.00					
			0	0	0.00	0	0	0.00					
			2	4	0.40	1	1	0.07				不可達成科目数 (4科目: 1~0.5科目)	
			0	0	0.00	4	2	0.15					
			8	6	0.80	4	3	0.20				特別条件, 遅刻回数(1)が多い 不可達成科目数 (4科目: 2~1.0科目)	
			4	3	0.30	3	2	0.15				不可達成科目数 (4科目: 1~0.5科目)	
			0	0	0.00	0	0	0.00					
			0	0	0.00	0	0	0.00					
			1	1	0.10	1	1	0.07					
指導科目数			10			15							

資料 7_1_④_4 欠課が多い学生に対する経過指導データ

2012年7月20日現在		2012年11月14日									
成績指導確認表	教務 条件	学生 条件	欠席 週計	欠席 合計	遅刻 週計	遅刻 合計	早退 週計	早退 合計	欠課 週計	欠課 合計	備考欄
01		解除									
05											
06		解除									
09		解除									赤字曜が提出された(7/30)
10		解除									
11						7				2	
12											
13		解除		1							
14		解除				1					2012/7/14 面接 17日に母親と面談 本人と面談→本人の意識が変わった
15		解除		1							
16											
17		解除				4					
20				2		5				10	
21		解除									
22				1							
23				4							
24		解除				3				8	バイトしている可能性あり、朝起きられない
25											
26		解除				2					
27											
30		解除									
31		解除									
32				7		12				4	タイムカード指導
33		解除	解除	1		13				11	タイムカード指導
35				1							
36				2						4	
37				1							
38											
39		解除									
40		解除		9		6				14	
43											
46		解除									
47										1	
48		解除									
49											
50		解除								1	
51		解除									
53						11				4	タイムカード指導
54				6		7				13	
55		解除		2							

資料 7_1_④_5 要支援学生に対する面談実施記録

面談資料

学 年	情報工学科 年		学生氏名		担任	杉本 文司
--------	------------	--	------	--	----	-------

区分	前期中間・ 前期末 ・後期中間・学年末・その他	面談日	平成24年10月01日
担任面談	・学科(プレ)面談・中央面談・その他()	面談者	小出 由起夫(卒研担当)
面談記録	本人・保護者()・その他()		
<p>卒研の時間を利用して学生と面談した。保護者は忙しくて父母懇談会(10/6)も欠席とのことなので、学生と2者面談した。内容を保護者に伝えるように指導した。保護者に伝え、どのような話し合いをしたのか後日、報告をさせることにした。</p> <p>面談で学生に伝えたことは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不合格科目が決定したこと → 卒業認定科目となること 認定試験は有料(昨年は1科目で5000円)で合格できないと卒業が認められない ・ 夏休みに卒研活動をしに登校しなかったこと。今のペースで研究に一定の成果を出せるのか、問いかけた。 <p>ことである。10/21(日)には基本情報技術者試験の受験も控えていることを話し、どのように行動しなければならないのか、学生本人に考えさせた。結果を「反省文」として記入させ、提出してもらった。コピーを本人も持ち、今の状況をと反省を絶えず忘れず、残りの期間を全力で(勉強・研究)活動することを肝に銘じるよう指導した。</p>			
[備考]			

担任・学科よりコメントがあれば備考欄にお願いします。 作成日 平成 24年10月04日
記入後は担任を経由して学科長までご提出願います。学科長は必要に応じて各主事を通じ校長、副校長、事務長等へ本報告書の写しを回覧します。

必要に応じて写しを回覧

校長	事務長	副校長	教務主事	学生主事		学科長	担任	面談者

出典 教務部

資料 7_1_④_6 夏休み特別補講講座の申込書

サマースクーリング開講申請書

2012年（平成24年） 5月 31日

申請者 野島伸仁

講座名	1年英語フォローアップ	受講対象	1年全科
受講料	無料	材料教材費	無料
※開講日数（期間）	5日間 (9/11～9/15)	一日のコマ数	1コマ90分×5回
希望会場	119大講義室		
開講最低人数		20 定員	
内容	後期からの授業に備えて、前期学習内容を復習し、基礎固めの訓練をする。受講者は英語科が指名する。		
その他			

※実施時期は、基本的に夏休みですが、要望があれば期間外でも実施可能です。

申込期限 2012年6月15日（金）午後5時まで

提出先 柴田宛メールにて
atsuko@salesio-sp.ac.jp

資料 7_1_④_7 夏休み特別補講講座参加者データ

	氏名	Sept.11	Sept.12	Sept.13	Sept.14	Sept.15
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8		○	○	○		
9						
10						
11						
12						
13		○	○	○	△	○
14		△	△	△	△	○
15		○	○	○		○
16						
17						
18						
19		○	○	○	○	○
20						
21						
22						
23						
24						
25		○	○	○		
26						
27		○	○	○	○	○
28						
29						
30						
31						
32						○
33						
34						
35						
36		○	○	○	○	○
37		△	△	△	△	○
38						
39		△	△	△	△	○
40						
41						
42						
43			○	○	○	○
44						
45						
46						
47		○	○	○	△	○
48			○	○	○	△
49						
50						

資料 7_1_④_8 夏休み特別講座参加者の感想

5日間・・・といっても4日間しかいませんでしたが、ありがとうございました。単語の書きとりの大切さがよくわかる4日間でした。後期はせめて単位もらえるように家でも学校でもがんばりたいと思います。
赤点をとらないようにします。
I'm a student! ワードチェックがんばります。
特に無し。
苦手な英語をこくふくできるようにして赤点をなくして
ありがとうございました。
word checkがんばる。
前期はやる気がなくだらだらやっていて良い点がでなかったので、今回の補講でべんきょうになったことをいかして後期では良い点をとりたいと思う。
いろいろな文法を学べました！これからもこの授業をもとにがんばっていきたいです。
前期は単語とれなかったが、後期はがんばってとれるようにしたい。
後期なるべくパフォーマンステストでがんばりたい。
基本をしっかり学べた。後期は単語をおとさないようにする。
家での自習時間を作ってプリントとかをしっかりと終えて、合格したい。
勉強のしかたがわかったのでこれからがんばって単語テストを取っていききたいと思います。
次の英語の授業までに課題を終わらせる。
ありがとうございました。後期は単語テストをしっかり勉強します。
もっと、英文をかけるよにする。また、このような機会を作って欲しい。
単語テストで点をとれるようにする。
単語テストがんばりたいな。
後期は単語テストを満点取る。
今までは、ほとんど英語の勉強をしてこなかったがこの補講で少しは、英語がわかるようになったのでじしんが付き、これからはよりがんばろうと思いました。
この5日間のした事を後期に必ず結びつけて後期にいい成績を取りたいです。
単語練習をがんばる。
1学期は単語の勉強のやり方がぜんぜんだめだったことが今回でわかったので、2学期からは、しっかり勉強したいと思いました。
がんばります。

資料 7_1_④_9 要支援学生に対する補講実施記録

電気工学科
齊藤 純

1EE「工学基礎」「電気回路」 補習実施報告

2011年12月26日、2012年1月5日に1年次科目「工学基礎」「電気回路」の成績不振学生と希望者を対象に補習を実施した。(担当教員：齊藤純、山下幸三)

内容： 直流回路の基礎

例題について理論と解法について解説し、演習問題を解かせた。

添付：補習資料

受講学生：

3
11
15
16
18
25
26
31
36
37
39



(以上 11名)

以上

資料 7_1_④_10 転科した学生に対する支援報告書

電気工学科
斉藤 純

■■■■の転科による認定補講実施報告

2011年3月1日～4日の期間で1年次科目「CAD」「工学基礎」の認定補講を実施した。
実習と試験を実施し、下記内容を持って単位認定とする。

【CAD】

- 実習 → 基礎となる製図を実施
課題1：CADの操作方法の習得
課題2～5：第三角法による製図手法の習得
課題6：断面図の製図手法の習得
添付：課題1～6図面

【工学基礎】

- 座学 → 通常講義で修得する基本的な内容について認定試験を実施 55点合格
添付：試験問題・答案用紙
- 実習 → 無安定マルチバイブレータを製作
添付：実習指導書・製作した回路の写真

以上

(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

特別な支援を要する学生の抽出、対策の検討、対策の実施を組織的に実施する体制があり、機能している。また、この体制に従い学習支援の実施も効果的に進められている。

○根拠理由

教務主事を中心とし、各科から選出された教務担当教員と事務部・教務学生課から構成される教務部による組織により課題発見から問題の洗い出しを行い、解決案を作る体制が機能している。さらに提案された解決案は適切な部署に指示され、実施を行い結果の報告も上がっている。

観点7-1-⑤： 学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

(観点に係る状況)

課外活動については学生主事と各部署から選出された教員で組織する学生部が管理し、団体ごとに顧問教員を配置する体制である。学生部は規程の管理（資料7_1_⑤_1～3）および、活動の管理（資料7_1_⑤_4～6）を行っている。また課外活動における安全管理を目的として学内の災害情報の収集も行っている（資料7_1_⑤_7～9）。さらに、課外活動の活性化を目指した活動も実施している（資料7_1_⑤_10）。

資料番号	分類	出典	概要
7_1_⑤_1	【規程】	学生部	クラブの設置基準を示す規程
7_1_⑤_2	【規程】	INFO	学友会(学生会)の運営組織図
7_1_⑤_3	【規程】	INFO	運営組織図
7_1_⑤_4	【データ】	学生部	入部願書
7_1_⑤_5	【規程】	学生部	クラブ運用規程
7_1_⑤_6	【記録】	学生部	クラブ顧問会議記録
7_1_⑤_7	【記録】	保健室	災害報告書
7_1_⑤_8	【記録】	保健室	保健室年間利用者データ
7_1_⑤_10	【規程】	学生部	1年生特別活動についての要項

第10章 友達をつくろう

10.5 クラブ設置規程

（目的）

第1条 サレジオ高専のクラブ活動（以下クラブは部活動及び同好会をいう）は、本校の教育方針に従い、自己の技能の向上や体力の向上を図り、集団生活の中で規律や和の精神を学び、他校との交流や地域への貢献を目的とする。

（部活動）

第2条 部に対して、学校はその活動を支援するため、顧問および必要に応じて副顧問を任命し、学内の設備・施設の利用を認可する。また、保険体制の完備や、学校の代表として大会参加などの許可を行う。

（部活動の要件）

第3条 部として活動する基準について以下の各号に定める。

- (1) 部員10名以上、2学年以上の構成であること
- (2) 活動は週3日以上とする
- (3) 活動を記録し、必要な書類を提出する
- (4) 毎年1回の合宿を行うことを目標とする

（同好会活動）

第4条 同好会に対して学校はその活動を支援するため、顧問を任命し、学内の設備・施設の使用を認可する。ただし、宿泊を伴う活動は認めない。

（同好会活動の要件）

第5条 同好会として活動する基準について以下の各号に定める。

- (1) 部員5名以上、2学年以上の構成であること。
- (2) 活動は週2日以上とする。
- (3) 活動を記録し、必要な書類を提出する。

（同好会の設立）

第6条 前条の要件を満たし、同好会を設立しようとする者は、以下の各号に定める要件をすべて満たさなければならない

- (1) 顧問教員をしてくれる教員がいる。
- (2) 部員5名以上の2学年以上の構成であること。
- (3) 活動は週2日以上とする。
- (4) 活動場所が確保できる。
- (5) 他のクラブと類似の物がない
- (6) 本校学生の課外活動として適切な活動である。

（設立の手續）

第7条 同好会の設立を希望する者は、以下の各号に定める手続きをもって設立申請を行う。

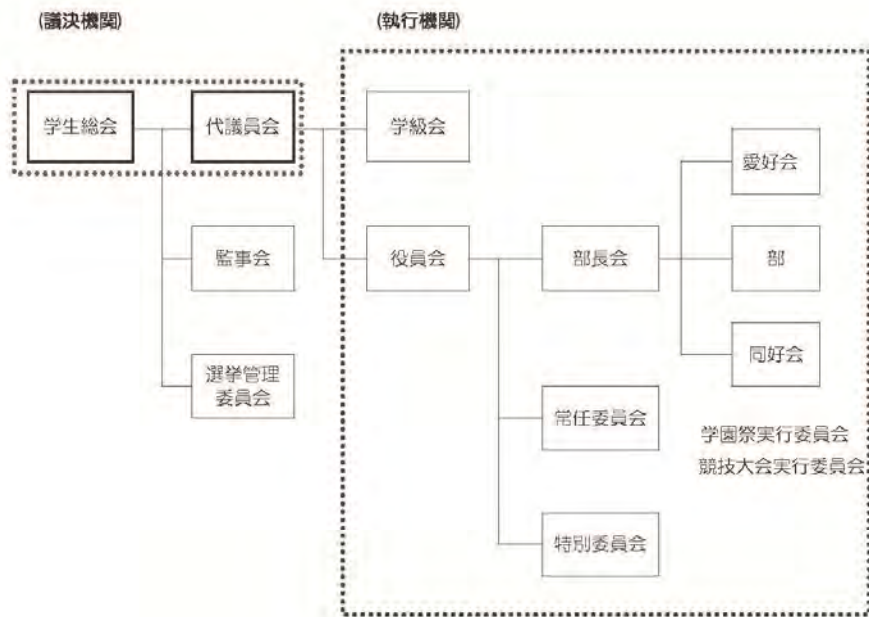
- (1) 同好会設立申請書を学友会へ提出

資料 7_1_⑤_2 学友会(学生会)の運営組織図

第 10 章 友達を作ろう

10.6 学友会

サレジオ工業高等専門学校学友会組織図



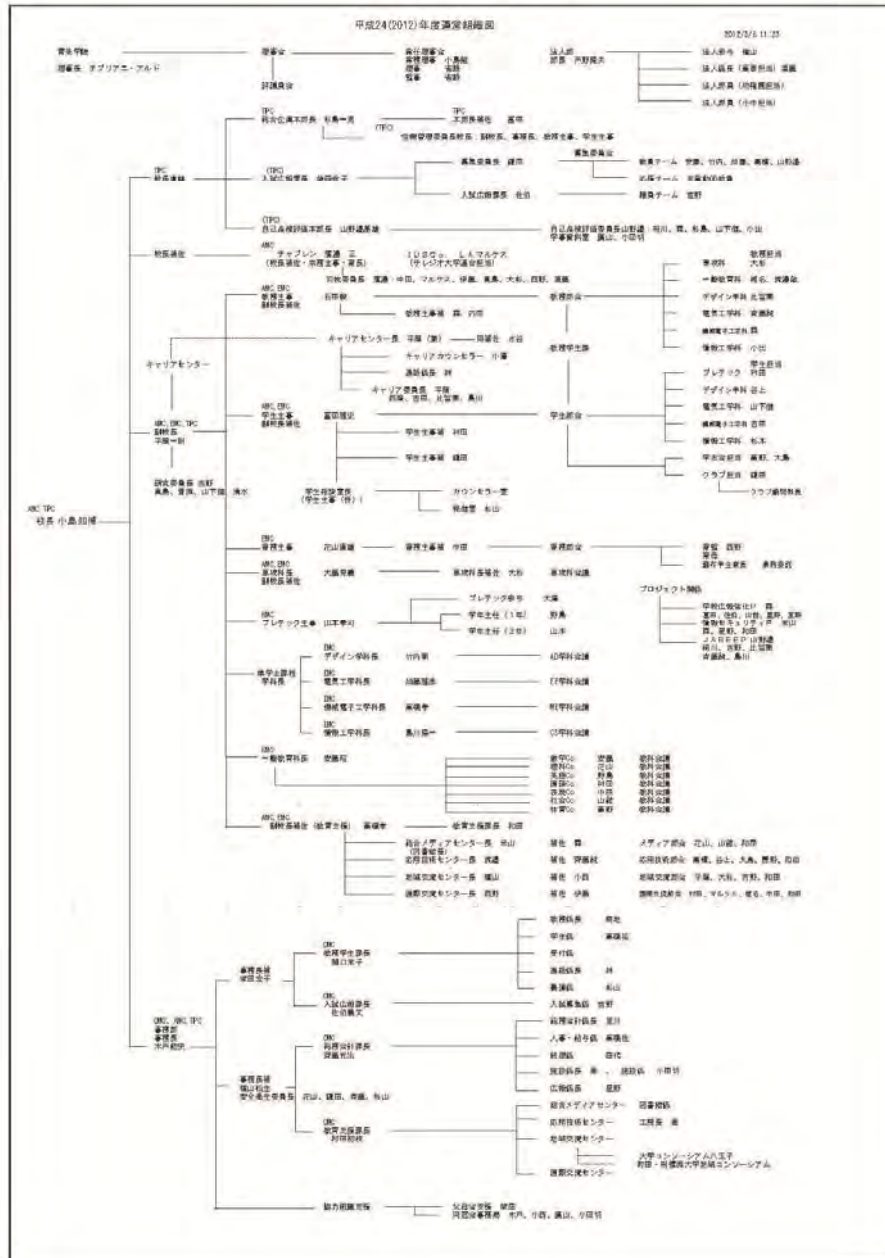
学友会規則一覧

用語	定 義
規約	会員の権利・義務に関し直接大きな影響を及ぼす事項について定めたもので、その設定・変更・廃止には総会の議決を必要とするもの。
規程	会員の権利・義務に関し直接大きな影響を及ぼさない事項について定めたもので、その設定・変更・廃止には代議員会の議決を必要とするもの。
細則	規約・規程に定められた活動等について運用手順を定めたもので、その設定・変更・廃止には役員会の承認を必要とするもの。
様式	各種申請・報告・通知等の書式を定めたもので、その設定・変更・廃止には会長の承認を必要とするもの。

資料 7_1_⑤_3 運営組織図

第3章 学校を良く知るために

3.5.2 運営組織図



入部願書

平成 24 年 10 月 31 日

サレジオ工業高等専門学校
学生主事殿

(情報工) 学科 () 年 () 組 () 番

学籍番号 10527

学生氏名

保護者名



既往症 無 活動に支障 (有 ・ 無 ・ 自己管理可)

(放送部) への入部を希望します。

担任	入部先顧問	学生主事

※最後に学生主事の承認を受けること

クラブ・同好会運営内規

(総則)

この規定は、学生規則にも基づきクラブ・同好会に関する運用細目を定める。

(年間指導計画・報告)

内規 0101 学友会・部・同好会等の指導担当者(顧問教員)は、学校の教育方針に基づき、年度初めに指導計画を立案作成し、校長の承認を得て実施する。指導計画書は4部作成し、校長・教務部・学生部に各1部を提出し、他の1部は自身で保管して指導に資する。(指導報告書についても同様)

内規 0102 指導計画は学生の自主的自立的活動の育成を主眼とし、体育部門においては練習計画・対外試合予定・学校行事への参加協力等を、文化部門、学友会・同好会にあつては研究テーマ・発表方法・学校行事等への参加計画等を出来る限り具体的に立案作成する。

(部員名簿の常備)

内規 0201 顧問教員は担当部門に所属する学生の氏名・住所・電話番号・緊急を要する場合の連絡先を記載した部員名簿を3部作成し、教務部・学生部に各1部を提出し、他の1部は自身が保管する。

(退部・転部の処理)

内規 0301 顧問教員はその部に所属する学生が退部又は転部を申し出た場合、事情を聴取し学級担任に報告すると共に連携して以後の指導に当る。処理が決定した時には所定の手続きをし、届出を学生主事に提出する。

(通常の活動指導)

内規 0401 顧問教員はクラブ活動を直接に若しくは監督下において指導する。学生のみ活動は、顧問教員との連絡(学校内)が取れる状況において認める。

内規 0402 年間指導日数はクラブ・通算120日(1週当たり3日)、同好会・100日を目標とし、少なくとも1週当たり1日以上とする。

内規 0403 休業日における学生のみ活動は許可しない。

内規 0404 活動に当っては学生の出欠を確認する。又、出席常でない学生に対してはその事情を調査し、学級担任の協力を得て適切な指導をする。

内規 0405 指導に当っては学生の健康状況を把握し、事故の未然防止に努める。

内規 0406 活動終了時には使用施設等の整理整頓・戸締り並びに使用した用具の収納について指導する。

(合宿・校外活動)

内規 0501 顧問教員は合宿等宿泊を伴う活動、或いは対外試合等の校外活動を企画する場合、あらかじめ学生主事に申請して許可を受ける。但し、合宿は原則として休業期間中とする。

内規 0502 合宿等宿泊を伴う場合、参加学生名簿・引率者・合宿期間・利用交通機関・費用・宿泊・場所・活動日程等の計画書を添えて申請する。

内規 0503 合宿活動に当っては、学生の健康管理・余暇の善用・活動内外の事故防止に留意する。

内規 0504 対外試合を企画する場合、教科学習時間等に影響がでないよう配慮する。

内規 0505 外部団体主催の大会に参加する場合、あらかじめ学生主事に申請して許可を受ける。対外試合等、校外活動の状況並びに結果は、事後速やかにクラブ担当委員に報告する。

(事故発生時の処置)

内規 0601 顧問教員は指導中に事故が生じた場合、適切な判断のもとに応急の処置をし、対応に苦慮するときは、クラブ担当委員に応援を求めらる。

内規 0602 事故に関する報告は、事故の状況・原因・とられた処置の内容・その他必要な事項を書面にて校長に提出する。事故が軽微の場合は口頭にて報告する。

内規 0603 入院治療又は通院が必要となった場合は、教務主事に報告し、事後の対応を要請する。

(副顧問の任務)

内規 0701 副顧問は顧問教員が公務及び止むを得ない事情により、クラブの監督指導に支障がある場合に代行を務めるものとする。また、出来る限り対外試合及び合宿へ同行し、顧問教員の補佐をする。

平成12年4月1日制定

平成13年4月1日改定

平成17年4月1日改定

平成19年4月1日改定

平成23年4月1日改定

資料 7_1_⑤_6 クラブ顧問会議記録

2012.1.16(月) クラブ顧問会議記録

記録
学生部・富田

日時 2011.1.16(月) 9:30～9:50
 場所 231会議室
 参加 各クラブ顧問

24(2012)年度 1年生特別活動について趣旨を説明し、課題抽出を行った。

<ポイント>

クラブへの期待

- ・挨拶
- ・礼儀
- ・団体への所属(帰属意識)
- ・コミュニケーション

<伺いたい事項>

- ・期間終了の適切な時期
- ・実施した際に各クラブで生じる恐れがある問題

<今後の予定(お願い)>

- ・1月一杯、課題を抽出期間とした。
- ・クラブ学生が中心となり実施できるように今から準備。顧問から指導頂く様に依頼。

<本日抽出された課題> 部長会・学友会と共に解決する予定

#	課題
1	クラブのキャパシティを超えないための調整が必要
2	転部についての要望に答える仕組み
3	費用の都合で、ミーティングくらいしかできない(防具など高価)
4	やる気のある学生は早期に正式登録させたい
5	期間の終わりを決める必要はないのでは
6	クラブ変更を認める期間も必要
7	4月中体験(フリー)、5月くらいに確定。強制期間は1か月くらいでいいのでは
8	同好会ではメンバーが集まっていない日もある。運営ポリシーの徹底が必要
9	プロジェクトとぶつかる日について調整が必要

※課題は以下フォルダー内に随時追記します。

¥¥files¥¥files¥¥staff¥2011年度¥(運営)学生部¥一般公開¥【クラブ】

24(2012)年度特別活動・課題抽出.xls

学生主事	事務長	事務長補佐	学生課長
(富田)	(木戸)	(柴田)	(関口)

災 害 報 告 書

受傷者	クラス 1B <input type="text"/> 番 氏名 <input type="text"/>	
日時	平成 24 年 4 月 25 日 (水) 午前 ・ 午後 6 時 35 分 ・授業時間(時限) ・休み時間 ・昼休み ・放課後 (クラブ活動)	
場所	校内 ・教室 ・実験実習室 ・廊下 ・階段 ・グラウンド ・学生食堂 ・夢工房 ・第1アリーナ ・第2アリーナ ・ルーフガーデン ・学生寮 ・その他[<input type="text"/>] 校外 [<input type="text"/>]	
負傷部位	左膝	
災害状況	バドミント部(仮入部中)練習中に他の部員とぶつかり左膝をひねった。 (他の学生は負傷なし) 強い痛みと歩行困難。	
保健室での措置	湿布を貼付	
学校の対処	医療機関名	所在地
* 公用車搬送 * 救急車要請 *他()	森井整形外科	相模原市橋本6-8-15 TEL 042-771-9008
同行者氏名	関口課長	
病院等の処置結果報告	診断： X-P撮影の結果 左膝内側靭帯部分断裂 全治 3週間ほど 処置： ギプスとテーピングで固定 松葉杖歩行 保護者へ連絡 病院へ迎えに来ている。	
	*入院 *処置後帰校 * <u>処置後帰宅</u>	

(関口課長からの報告により災害報告書を記入)

提出日 平成 24 年 4 月 26 日

報告者 医務係 杉山 りつ子 (杉)

資料 7_1_⑤_8 保健室年間利用者データ

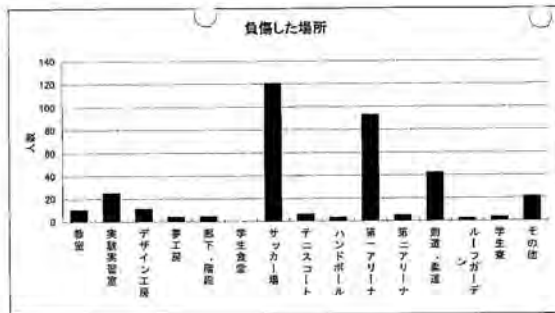
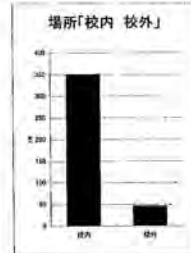
平成23年度(2011/4/1~2012/2/29) 保健室年間利用者(発生場所別)

月	校内													校外	合計			
	教室	実験実習室	デザイン工房	木工房	廊下・階段	学生食堂	サッカー場	テニスコート	ハンドボール場	アリーナ	備前アリーナ	剣道・柔道	フットボール					
4月	0	0	3	0	0	0	25	1	1	8	1	2	0	0	4	45	2	47
5月	1	7	2	0	1	0	13	0	0	8	1	4	1	0	6	44	3	47
6月	1	8	1	0	0	0	25	0	0	10	0	12	0	2	1	60	4	64
7月	0	0	1	1	0	0	10	2	0	2	2	8	0	0	0	28	5	31
夏休み	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3
9月	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	1	4
10月 競技大会	1	6	2	0	2	0	31	2	1	23	1	4	0	1	0	74	12	86
11月	5	0	1	0	0	0	6	0	0	20	0	6	0	0	0	38	1	39
12月	1	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	10	16	4	20
1月	0	0	1	0	1	0	5	0	0	7	0	5	1	0	0	21	11	32
2月	1	1	0	2	0	0	3	0	0	12	0	0	0	0	0	19	2	21
合計	10	25	11	4	4	0	120	6	3	93	5	42	2	3	21	349	45	394

月	体育	実験実習	部活動	その他	始業前	授業間休憩	夏休み	放課後	登校中	下校中	合計
4月	32	4	1	1	0	0	0	4	2	1	45
5月	28	9	2	0	0	1	0	5	1	1	48
6月	41	8	2	0	0	0	1	5	3	0	60
7月	20	0	3	1	0	0	0	3	2	0	29
夏休み	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3
9月	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
10月 競技大会	33	8	2	2	1	0	2	0	2	0	50
11月	27	1	0	0	1	0	2	6	3	0	40
12月	23	4	3	0	0	0	1	2	2	0	35
1月	14	1	0	2	0	0	4	0	5	1	27
2月	14	0	0	2	0	1	0	2	2	0	21
合計	236	35	15	8	2	2	10	27	23	3	362

体育内容	人数/年間
サッカー	75
バスケット	74
ソフトボール	28
柔道	22
ランニング	20
体力測定	9
剣道	8
バドミントン	4
バレー	4
ホッケー	3
ハンドボール	2
テニス	2
卓球	1
綱引き	2
合計	254

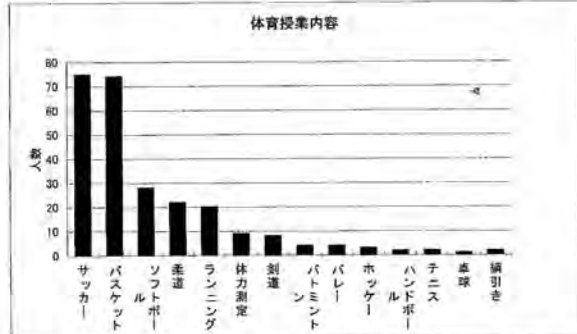
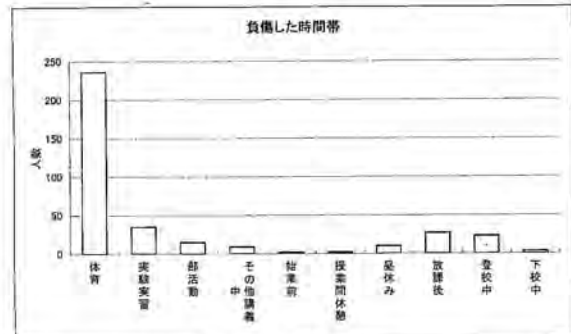
場所	校内	校外
人数	349	45



病院受診報告	22件
体育	11 (2件病院搬送)
登下校	5 (2件救急車搬送)
公民館合	2
授業中	2
野原湖キャンプ	1 (病院搬送)
文化祭	1

救急車要請	8件
内訳	
登校時事故	2
遊撃事件	1
激しい頭痛	1
腹痛	3
心臓・頭眩	1

病院搬送	3件
内訳	
足負傷	2
登校時事故	1



場所については校内では体育授業の負傷が多い。接触プレーであるサッカー、バスケット、ソフトボールの順番で多く、11名が受診治療している(報告があった人数)。負傷の程度は骨折、韧带損傷で中にはギプス固定、自宅療養が必要となったケース(2件)があった。負傷は止むえないが重症な怪我をしないように危険を回避する判断や身体機能も必要とされる。23年度から体力測定が行われ筋肉痛や疲労を訴え、ひ弱な感じの学生が多いと感じた。登下校時の事故が5件あり救急車・2件、病院搬送・1件が医療機関に搬送されている。いずれも登校時、自転車での負傷で大きな怪我になるため十分な注意が必要である。救急車要請は8件で多かった。6名は内科的症状で普段、保健室利用していない学生で急激な様相変化であった。結果、生死にかかわるものではなく当座の治療で軽快し登校が再開できている。今後も負傷者の対応がスムーズに行われ負傷状態が悪化しないように初期判断、処置を厳重に注意していかなくてはならない。

資料 7_1_⑤_9 1年生特別活動についての要項

2012(24)年度 1年生春期 特別課外活動計画案

クラブ幹部学生諸君

2012.3.5
学生主事 富田

24年度の1年生特別課外活動の計画を進めています。趣旨を理解の上、クラブ活性化に向けて協力
ねがいます。運営時の事務処理など詳細については学友会から展開するので追って対応願います。

学生として望ましい姿

善き社会人を輩出するサレジオ高専の学生として自分で考え、行動する
このような学生で満たされるには、“学校”としての“風土”と“文化”が不可欠

部活動・同好会活動の目的(INFO2011より)
本校の教育方針に従い、自己の技能の向上や体力の向上を図り、
集団生活の中で規律や和の精神を学び、他校との交流や地域への貢献を目的とする。

目的

部・同好会という組織を通じて、善きサレジオ高専生として成長する

目標

- ・目的意識の持続
- ・友達作り
- ・しつけのスタート

手段

課外活動を通じて目標を達成に向けた活動をおこなう
先輩と後輩の関係を築き、所属意識を持たせる。
課外活動を通じて“しつけ”をおこなう
(例)挨拶、時間を守る、出席する

実施計画案

- ・見学期間 4/9～4/20・・・従来通り
 - ・仮入部締切 4/20(金)
 - ・活動期間 4/30(月)～6/15(金)
 - ・活動 1回/週点呼をとる日を設定 19:00まで(19:30には帰宅)
 - ・本入部は随時(やる気のある学生)
 - ・転部は随時(2回まで)
- <流れ> 面談 顧問もしくは担任
確認・承認 主事および主事補
事務手続き 学友会および該当部長

出典 学生部

(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

支援体制および責任体制ともに整備され、機能されている。学生のニーズをとらえ、反映する機能を強化する必要がある。

○根拠理由

規程の運用、活動管理などを学生部という組織において実施しており、体制が整い機能している。また、安全管理を実施している。一方で、学生全体からのニーズを把握する努力が不足している。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

[1] 学生生活への指導・相談・助言体制

学生の生活面の支援体制については以下のようなカテゴリーで行っている。

- (1) 学級担任レベルでの対応
- (2) プレテックセンター、学科レベルでの対応
- (3) 学生相談室、保健室レベルでの支援と対応

日常は学級担任が支援しており、遅刻や欠課および欠席の増加を観察し、学生部内規に定められた数値を目安に異常を判断、速やかに学生への指導・助言がなされる。また、状況に応じて学生部が指導に加わる体制が取られている(資料7_2_①_1)。

メンタル面および身体面については両者が対になる事例も多く見られることから、保健室と学生相談室の連携を密にするため学生相談室長を置き、統合的な運用を目指している(資料7_2_①_2)。

[2] 経済面への指導・相談・助言体制

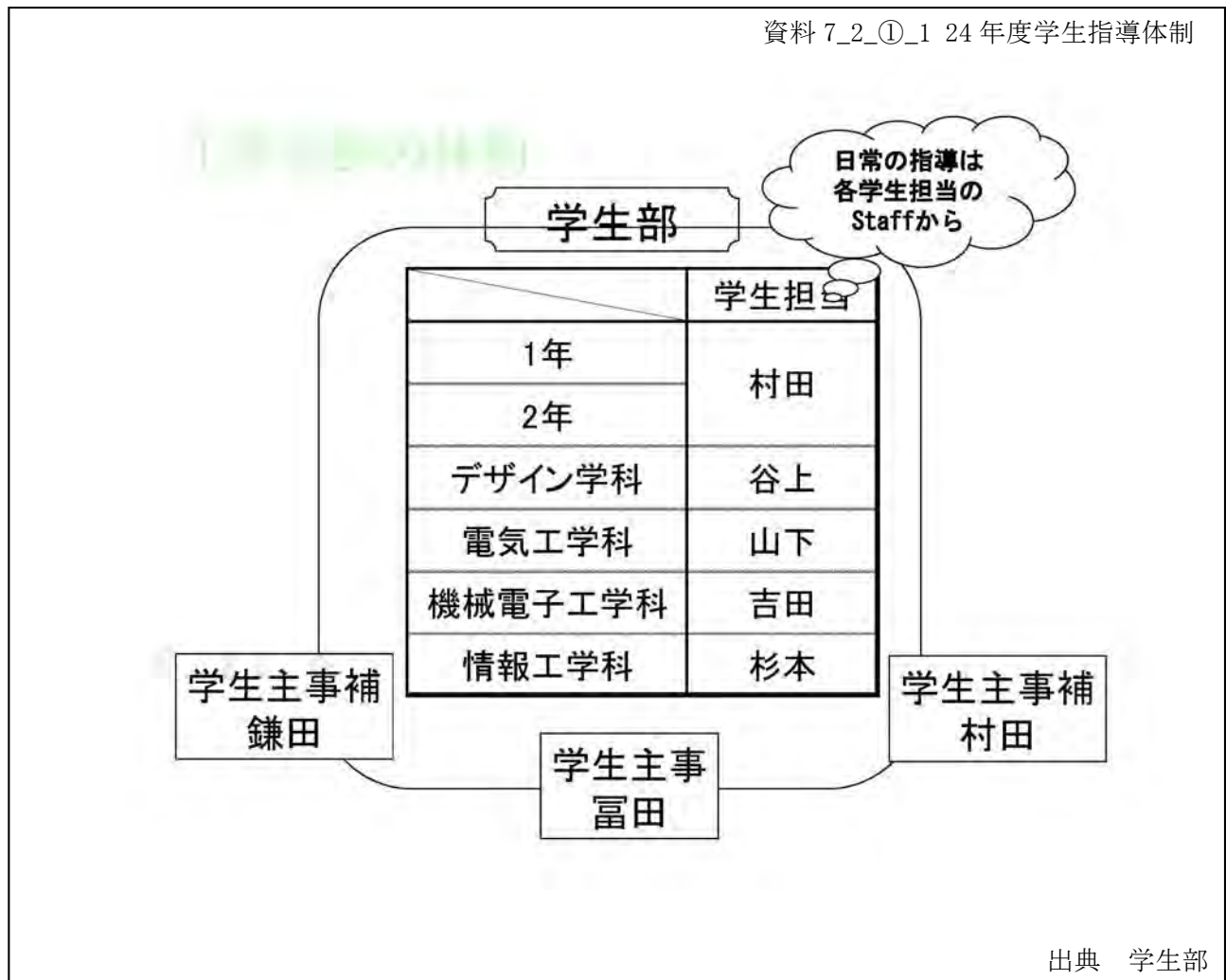
- (1) 公的奨学金による支援
- (2) 私的奨学金による支援
- (3) 自校奨学金制度による支援
- (4) 学生支援ローンの紹介
- (5) 学費延納制度の活用

以下、本年度の実績を示す。

名称	24年度実績
東京都育英資金貸与	34名
埼玉県奨学金貸与	3名
日本学生支援機構貸与	67名
延納届	12名

資料番号	分類	出典	概要
7.2_①_1	【体制】	学生部	24年度学生指導体制
7.2_①_2	【体制】	INFO	運営組織図
7.2_①_3	【制度】	INFO	学生に発行している要覧内の奨学金制度についての案内
7.2_①_4	【規程】	INFO	学生に発行している要覧内の入学金減免規程

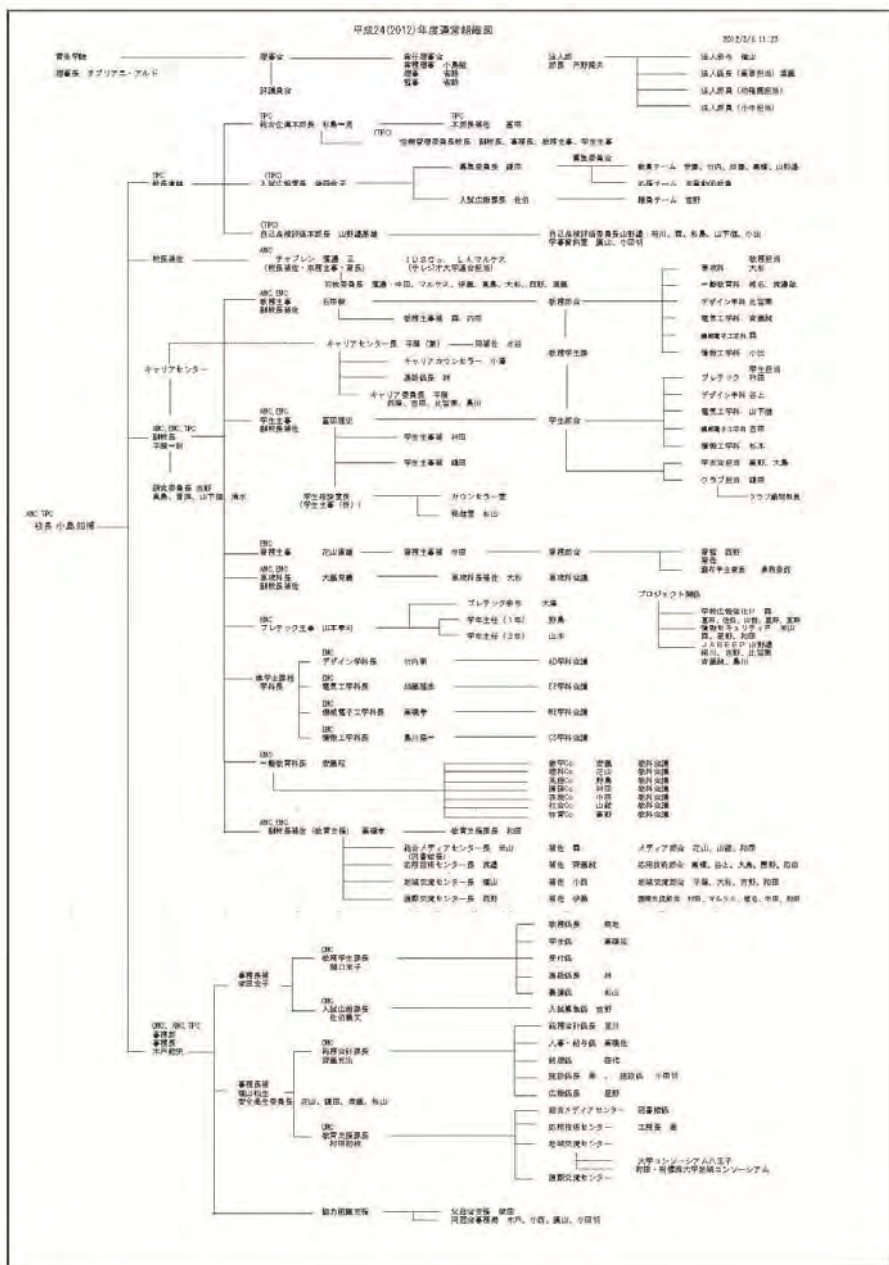
資料 7.2_①_1 24年度学生指導体制



資料 7_2_①_2 運営組織図

第3章 学校を良く知るために

3.5.2 運営組織図



資料 7_2_①_3 奨学金制度の案内

第 7 章 いろいろな手続き

7.3 奨学生制度

7.3.1 公的団体による奨学生制度

		日本学生支援機構		東京都育英資金	埼玉県高等学校等奨学金制度
		第一種奨学金（無利子）	第二種奨学金（有利子）		
申込資格		全学年対象	4・5年生対象	全学年対象	全学年対象
学力基準		(1) 年次) 中学 3 年生の成績の平均値が 35 以上の人。または在学する高専での学修成績が判明しているものに関しては学科の平均水準以上の人 (2 年次以上) 本人が属する学科において平均水準以上の人	(1) 本人が属する学科において平均水準以上と認められている人 (2) 特定分野において特に優れた資質能力を認められた人 (3) 学習意欲があり学業を修了できる見込みがあると認められる人	(1) 申込者と保護者が都内在住であること (2) 勉学意欲があり、経済的理由により修学が困難なこと	(1) 申込者の保護者が埼玉県内に在住していること (2) 品行方正であり、学習意欲があり、経済的に修学が困難であること
家計基準 (所得基準)	※ 各種奨学金は、貸与基準のひとつとして所得の上限額が設定されています。それぞれ設定が異なりますので、お申し込みの際には本校学生課へお気軽にご相談下さい。				
その他	(1) 同種の奨学金を他から借り受けることはできません (2) 4・5 年に在籍している学生は、第一種奨学金と第二種奨学金の貸与を併せて受けることができます		同種の奨学金を他から借り受けることはできません		
貸与月額		1～3 年	4・5 年	※ 額から右記を減額し、貸与額の金額を算出する ※ 貸与期間中であれば貸与月額の変更可	※ 10 万円以内から ※ 10 万円以内から
	自宅	32,000 円	53,000 円		
	自宅外通学	35,000 円	60,000 円		入学一時金 125 万円 14 万円 125 万円 23 万円 32 万円
募集時期	毎年春		毎年春	毎年春	毎年春
申し込み先	本校学生課		本校学生課	本校学生課	本校学生課
貸与期間	機構が定めた貸与始期から在学する学校の修業年限の終期まで		東京都が定めた貸与始期から在学する学校の修業年限の終期まで		埼玉県が定めた貸与始期から在学する学校の修業年限の終期まで

【各団体のホームページアドレス】

日本学生支援機構 <http://www.jasso.go.jp/>
 東京都育英資金 <http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/shigaku/ikuei/>
 埼玉県高等学校等奨学金 <http://www.pref.saitama.lg.jp/A20/BB00/jugyoryo/home.html>

資料 7_2_①_4 入学金減免規定

第 7 章 いろいろな手続き

7.4 入学金等減免規程他**7.4.1 在校生・卒業生子弟入学金減免規程**

(在校生の弟妹の入学金減免)

第1条 学則第 29 条第 4 項に基づき、本校に兄、姉が在籍している弟、妹が入学する際の入学金の減免について定める。

第2条 前条にある兄弟、姉妹とは同一の保護者から経済的負担を得ている 1 親等内のものをいう。

2 前項にかかわらず双子以上、複数の同時入学に対しては、その時点で在校生がいなくても、一人以外については適用するものとする

第3条 減免する入学金は、学則第 27 条第 3 項に定める金額とする。

第4条 この減免を受けようとする者は、所定の手続きにより審査を経てのち適用される。

(卒業生の子弟の入学金減免)

第5条 学則第 29 条第 3 項に基づき、学校法人育英学院に置かれる、あるいは過去に置かれた学校を卒業したものの子弟が入学する際の入学金の減免について定める。

第6条 学校法人育英学院に置かれる、あるいは置かれた学校とは以下の各号の学校である。

- (1) 東京育英工業学校
- (2) 帝都育英学院中学校
- (3) 帝都育英工業高等学校
- (4) 育英中学校
- (5) 育英工業高等学校
- (6) 育英高等専門学校
- (7) 育英工業高等専門学校

第7条 卒業生の子弟とは保護者である卒業生の家庭に同居し、卒業生である保護者が経済的に負担する子または孫をいう。

第8条 減免する入学金は学則第 27 条第 3 項に定める金額の半額とする。

第9条 この入学金減免を受ける子弟は当該年度の入学試験に合格した場合に限る。

第10条 この減免を受けようとする者は所定の手続きにより審査を経てのち適用される。

(AO 入試の入学金減免)

第11条 学則 29 条第 3 項にもとづき、AO 入試の合格者に対する入学金減免を定める。

第12条 この入学金減免については AO 入試要項に従って実施する。減免については以下の各号による

- (1) サレジオ系中学校出身の合格者については校長の判断により半額または全額
- (2) キリスト教系中学校、小教区主任司祭推薦の合格者について特に優れた人物か、あるいは経済的に配慮が必要と校長が判断したとき半額または全額

(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

体制は整備されており、また、機能している。

○根拠理由

学生生活については、学生部による組織的な管理責任部署がおかれ、担任を中心に細かな観察と適切なタイミングにおける指導・助言が組織的に実施されている。一方、経済面については、保護者からの相談に応じて適切な支援方法を助言し、支援を行っている。

観点7-2-②： 特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

[1] 四肢障害

在学している車いす学生への支援体制について平成17年度以降1名、平成22年度以降1名の車いす利用学生が在籍している。これについては基本的に自分で学習、実習、移動、排泄等ができることを前提として受け入れている。施設としては段差解消、エレベータ設置、学習機の改善等で対応している。ただし個別的対応となっている。

[2] 聴覚・視覚障害

直近3年間該当者がいないので対応の仕組みはない。

[3] 心身障害

学習障害、自閉症、うつ症状などの学生対応は学生相談室、保健室で個別に対応している状況である。第一義的には学級担任の対応、その後必要な部署が支援する形となっている。

(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

個別対応として支援が行われている状況である。今後は学生相談室の活動をより活発化し、能動的な支援体制を整える必要がある。

○根拠理由

現時点、特別な支援を要する学生についてはその都度個別対応している状況である。従って、対応した教職員のスキルは向上しているが、組織全体の能力向上には結びついていない。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

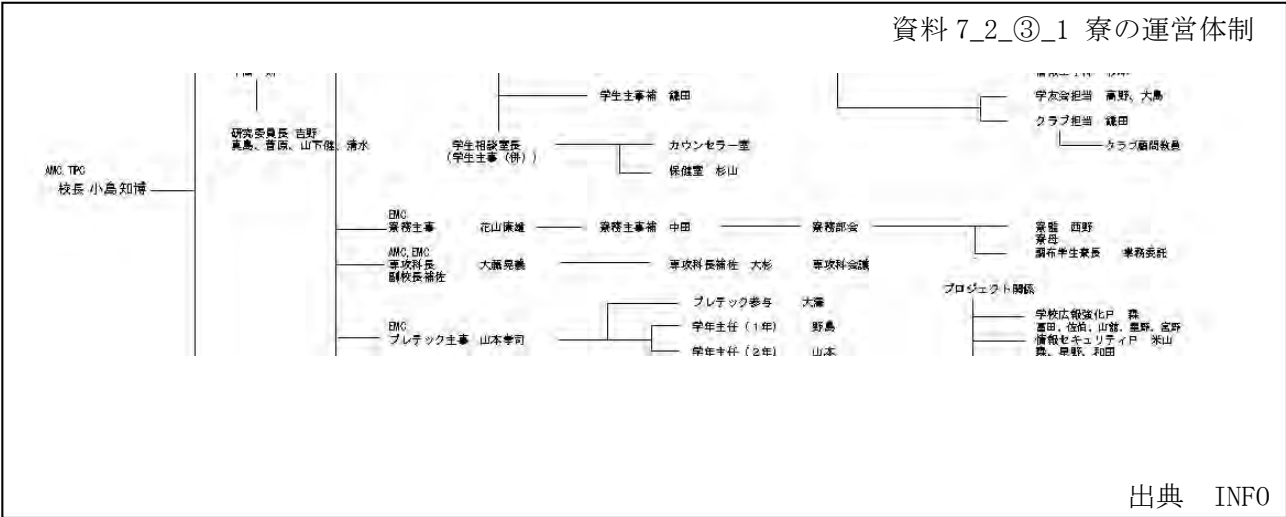
(観点に係る状況)

本校には男子学生寮(自営)、女子学生寮(借寮)がある。男子寮は学校内敷地に併設されており、およそ50名程度の学生が収容されている。女子については希望者も少なく、調布のカトリック女子修道会経営の女子寮の一部を借用している。

- [1] 多摩境サイテック学生寮
- [2] 調布女子寮

寮の運営は寮務主事を中心に行われている(資料7_2_③_1)。定期的に運営会議が行われ、生活・勉学の間としての機能向上が図られている(資料7_2_③_2)。

資料	分類	出典	概要
7_2_③_1	【資料】	INFO	寮の運営体制(組織図より)
7_2_③_2	【記録】	寮務部	寮運営会議記録



H23 年度 第1回 寮務部会議事録

H23年5月30日(月)

花山 康雄 記

寮務部会委員：小島校長、中田チャブレン、西野先生、花山

参考資料：info2011「4.3.3 学生寮規定」

避難訓練実施要領

学年歴(8月、9月)

《報告・確認事項》

1、1年寮生との面談

まだ、6名しか面談していない。今のところ問題を指摘した寮生はいない。(好き嫌いは別)

2、1A***が** (***)で3日停学(5/11(水)から5/13(金))

その後、自宅通学1週間(5/16(月)から5/21(土))

3、寮食事表のミス

6/3(金)の食事を×にしていた。

会議後ただちに横山さんと用水さんにミスの報告をし、食事を追加してもらった。

《検討事項》

1、部署目標(学生寮規定見直し・申請書類改訂)

早速、6/16の避難訓練の後、読み合わせをすることにした。

2、夏休み中の寮直スケジュール(特に9月)

科目別補講日(8/1~8/5)以外に野尻湖出発前日に担任をあてる。

SS期間に教員を配置する。(9/11(日)~9/10(金))

野尻湖から帰った時に教員が必要かどうかを1年に聞いてみる。

3、節電(15%)実現に向けての方法

- ・ 契約電力はピーク電力になるので、データを見せてもらうことにする。
 - 齋藤さんに話したところ1日の電力量はわかるがピーク値はデマンド監視装置をつけないとわからないそうです。
- ・ エレベータ停止する。
- ・ 廊下の電気を消す。
- ・ エアコンのタイマー設定を禁止させる。
- ・ 場合によっては昼間の一定時間に限りブレーカーを強制的に切る。

(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

運用上の体制が整い機能している。一方でさらなる機能向上を目指した活動が望まれる。

○根拠理由

寮生活における秩序は保たれており、運用も順調である。一方で、学生による自治の推進が進んでいない。また、機能向上に向けたデータ収集がなされていない。

観点7-2-④： 就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

体制としてキャリアセンターが整備されている(資料7_2_④_1)。キャリアセンターは学科長およびクラス担任との連携により機能している。現時点でキャリアセンターが受け持つ主な進路指導に対する機能は、進学ガイダンス・就職ガイダンス・キャリアオリエンテーション・インターシップ・SPIテストの実施・校長面接・求人票等の資料の開示・整理・保管である。これに加え、昨今の就職状況を鑑みより積極的な支援活動としてキャリア形成支援講座(資料7_2_④_3)や就職活動支援講座(資料7_2_④_4)も実施している。また、情報の共有として教職員連絡会において5年生の進路決定状況が報告されている(資料7_2_④_5)。

資料	分類	出典	概要
7_2_④_1	【計画】	キャリアセンター	キャリアセンターの業務定義と役割分担
7_2_④_2	【記録】	キャリアセンター	インターンシップ報告会記録
7_2_④_3	【配付資料】	キャリアセンター	3年生対象キャリア形成支援講座開催通知
7_2_④_4	【配付資料】	キャリアセンター	専攻科1年生・本科4年生対象就職活動支援講座開催通知
7_2_④_5	【資料】	キャリアセンター	就職状況一覧データ

資料 7_2_④_1 キャリアセンターの業務定義と役割分担

キャリアセンターの主な業務と役割分担

2012.4.3 平岡

<キャリアセンター・スタッフ>

平岡： 全体統括、他部門との折衝、スポークスマン

水谷： キャリア委員とりまとめ、スポークスマン、求人企業対応
キャリアデー、インターンシップ、SPI実施責任者

小澤： キャリア教育全般、求人企業対応、学生カウンセリング

(事務部門)

柴田： 林係長・契約社員 ~~平岡~~ の業務統括、サマースクーリング実施責任者

林： センター内業務とりまとめ、就職関係とりまとめ
求人企業対応、学生カウンセリング

原島： データ入力、加工、学生窓口、企業対応補助

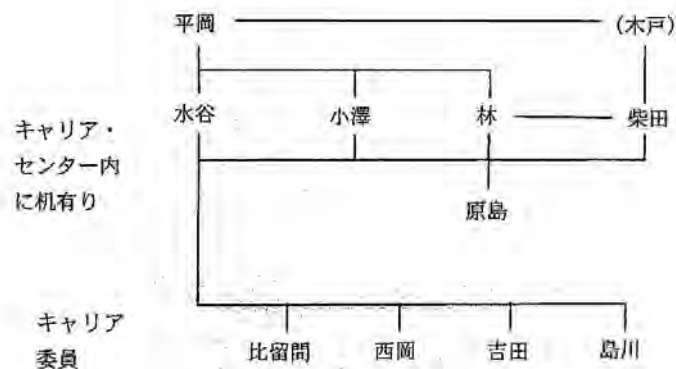
<学科選抜キャリア委員>

島川： 学生向けスポークスマン (キャリア・オリエンテーション他)

西岡： 進学関係統括

比留間： サマースクーリング

吉田： 資格・検定



出典 キャリアセンター

2011 年度インターンシップ報告会

LHR において、インターンシップに参加した4年代表学生による発表会を行った。
 なお、その際の発表形式・感想文提出の有無等については学科一任とする。

■デザイン学科

実施日：平成 23 年 10 月 17 日(月)LHR 対象：2,3,4 年生

	発表者	インターンシップ先
1	4AD01 明石 香澄	株式会社 d-room
2	4AD15 田畑 未紅	株式会社三越環境デザイン
3	4AD27 諸田 幸輔	株式会社メック・デザイン・インターナショナル
4	4AD33 和田 泰	株式会社タチエス
5	4AD34 渡部 由季	トヨタ自動車株式会社

実施日：平成 23 年 11 月 14 日(月)LHR 対象：3,4 年生

	発表者	インターンシップ先
1	4AD08 金子 慎矢	トヨタ自動車株式会社
2	4AD11 今 美都希	株式会社本田技術研究所
3	4AD25 保坂 滉志	株式会社丹青 TDC
4	4AD28 安江 夏樹	株式会社秀光
5	4AD32 米倉 一馬	帝国器材株式会社

■電気工学科

実施日：平成 23 年 11 月 14 日(月)LHR 対象：3 年生

	発表者	インターンシップ先
1	4EE11 岡本 崇義	長岡技術科学大学
2	4EE26 田中 宇康	株式会社菊池製作所
3	4EE33 船岡 共生	旭ダイヤモンド工業株式会社
4	4EE39 宮山 貴大	玉川工場
5	4EE40 最上 雄太	三井造船株式会社
6	5EE11 沖山 国雄	株式会社ナカツー(昨年度参加者)
7	6AC09 潮湖 肇夫	株式会社明電舎
8	7AC02 青木 裕太	
9	7AC03 太田 温	

資料 7_2_④_3 キャリア形成支援講座開催通知

平成24年10月1日
キャリアセンター

キャリア形成支援講座

キャリアとは、人生あるいは生き方のこと。それは一人ひとり様々です。「いい人生」を送っていくためには、節目となるタイミングで、夢（目標）を実現するために必要となる知恵と力を身に付けていくための計画作りと、それを確実に実践していく習慣を持つことが何より重要です。5年間の高専生活の折り返し点をまわり、目指すキャリアをひまえた進路選択やその実現に向けた計画について具体的に考えるときを迎えました。この講座を、あなたのキャリアについて考えるキッカケとしてください。

記

1. 対象 : 本科3年生
2. 講座内容、開催日時、開催場所 :

講座内容	開催日時/開催場所			
	3AD	3EE	3ME	3CS
第一日「進路について考える」 *進路選択とキャリア・デザイン *働くとは/進路を考える	10/15(月) 10:00-10:45 (231教室)	10/22(月) 10:00-10:45 (231教室)	10/18(木) 14:45-15:30 (231教室)	10/29(月) 10:00-10:45 (231教室)
第二日「自分について考える#1」 *職業レディネス・テストの受検	11/19(月) 10:00-10:45 (3AD教室)	11/19(月) 10:00-10:45 (3EE教室)	11/19(月) 10:00-10:45 (3ME教室)	11/19(月) 10:00-10:45 (3CS教室)
第三日「自分について考える#2」 *職業レディネス・テストの結果分析	12/10(月) 10:00-10:45 (3AD教室)	12/10(月) 10:00-10:45 (3EE教室)	12/17(月) 10:00-10:45 (3ME教室)	12/17(月) 10:00-10:45 (3CS教室)
第四日「自分について考える#3」 *自分を知る *目標を実現するためのキャリア・デザイン	1/21(月) 10:00-10:45 (231教室)	1/28(月) 10:00-10:45 (119教室)	1/24(木) 14:45-15:30 (231教室)	1/28(月) 10:00-10:45 (119教室)
第五日/第六日「職業について考える」	来年度実施			

3. 講師 : キャリアセンター 小澤 (日本生産性本部認定キャリアコンサルタント) / 林

以上

出典 キャリアセンター

資料 7_2_④_4 就職活動支援講座開催通知

平成24年10月29日
キャリアセンター

就職活動支援講座

就職活動は、自分にとっての働く意義、自分にできること、自分がやりたいことについて考え、動き、深化させていくことで、社会人として働く自分像を創りあげていく活動です。4年生は昨年度後期から開催したキャリア形成支援講座で、キャリアについて考えるときのアプローチ方法について学びましたが、今回の講座では働くときの条件等が記載された求人票の見方、企業が皆さんと早く会ってみたいと思わせる応募書類の書き方、選考の大きなポイントである面接の受け方について学びます。積極的な出席を期待します。

記

1. 対象 : 専攻科1年生、本科4年生で 進路希望が就職

2. 講座内容、開催日時 :

講座内容	開催日	開催時間	
①「求人票の見方」 就職活動プロセス、求人内容の理解	12月3日(月)	14:45 - 16:00	4NE
	12月4日(火)	13:05 - 14:20	6AC (場所:229A)
	12月6日(木)	14:45 - 16:00	4AD
	12月10日(月)	14:45 - 16:00	4EE
	12月11日(火)	14:45 - 16:00	4CS
②「応募書類の書き方#1」 基礎編 (履歴書事例検討など)	12月17日(月)	14:45 - 16:15	4EE / 4NE
③「応募書類の書き方#2」 自己PR編 (自己PR事例検討など)	1月7日(月)		
④「応募書類の書き方#3」 志望動機編 (志望動機事例検討など)	1月21日(月)		
⑤「面接の受け方とマナー」 面接の目的・流れとマナー	1月28日(月)		

3. 開催場所 : 231教室

4. 講師 : 東京しごとセンター多摩 講師陣 ②③④⑤
キャリアセンター 小澤 ①

以上

資料 7_2_④_5 就職状況一覧データ

2012年度 進路状況

2012年10月12日現在

	在籍者数	決定者数	決定率	就職			進学				その他
				就職希望	内定者数	内定率	進学希望	専攻科 合格者数	大学等 合格者数	合格率	
デザイン学科	32	15	46.9%	24	15	62.5%	8	—	0	0.0%	0
電気工学科	39	28	71.8%	28	20	71.4%	11	1	5	54.5%	0
機械電子工学科	30	26	86.7%	20	18	90.0%	9	3	5	55.6%	1
情報工学科	39	33	84.6%	25	23	92.0%	14	4	6	71.4%	0
専攻科	12	7	58.3%	7	4	57.1%	4	—	3	75.0%	1
本科のみ	140	100	71.4%	97	76	78.4%	42	8	16	57.1%	1
本科+専攻科	152	107	70.4%	104	80	76.9%	46	8	19	56.7%	2

※就職・進学の高希望の学生は就職希望にカウントしています。

	2012年度	2011年度	増減
求人会社数	558	515	41

2012年10月12日現在

(参考)2010年度:515社

電気系 3学科 内定率 (EE・ME・OS)	年度	就職希望	内定者数	内定率
	2012年度	73	61	83.6%
	2011年度	66	56	84.8%

各種無線従事者資格・・・日本無線協会主催
 アーク溶接・ガス溶接等以外の技能講習、特別教育・・・キャタピラー教習所主催
 本校では受講・受験できないものなので、詳細はME吉田まで

2011年度 進路状況

2011年10月14日現在

	在籍者数	決定者数	決定率	就職			進学				その他
				就職希望	内定者数	内定率	進学希望	専攻科 合格者数	大学等 合格者数	合格率	
デザイン学科	37	9	24.3%	27	8	29.6%	10	—	1	10.0%	
電気工学科	45	35	77.8%	28	23	82.1%	16	7	5	75.0%	1
電子工学科	27	20	74.1%	18	16	88.9%	8	3	1	50.0%	1
情報工学科	38	24	63.2%	20	17	85.0%	14	0	7	50.0%	2
専攻科	14	8	57.1%	11	6	54.5%	3	—	2	66.7%	
本科のみ	145	88	60.7%	93	64	68.8%	48	10	16	54.2%	4
本科+専攻科	159	96	60.4%	104	70	67.3%	51	10	18	51.0%	4

●内々定先企業

デザイン学科(12社): 株式会社ホールディングス(2名)、㈱ファニーワーク、㈱フジモデル、㈱秀光、㈱草玉、㈱二本ゴルフ、
 日本フォームサービス㈱(2名)、㈱廣済堂(2名)、㈱日創工業、㈱ケイ・ウノ、㈱トランシス建築プロダクツ、
 ㈱ヴァンドームヤマダ

電気工学科(20社): 東亜道路工業㈱、森永乳業㈱、東芝エレベータ㈱、㈱きんぞん、㈱HPI回送機械、㈱ニコン、ミヨシ油脂㈱、
 東芝電機サービス㈱、日立アプライアンス㈱、㈱タジマモーターコーポレーション、㈱の目ミシン工業㈱、
 日昭電気㈱、徳河フィールドエンジニアリングサービス㈱、㈱内野製作所、㈱NTTファシリティーズ、㈱エレテクノス、
 新日本電子㈱、木盛神糧㈱、カシオテクノ㈱、コマツ課機販売㈱

機械電子工学科(18社): 旭化成㈱、東海旅客鉄道㈱、㈱リコー、東洋製罐㈱、東京ガスS「コムネット」㈱、日本自動車㈱、
 ㈱NTTファシリティーズ、大和製罐㈱、東芝メカニカルシステムズ㈱、リオンサービスセンター㈱、
 協和電機化学㈱、伊藤ハム㈱、㈱エレテクノス、㈱前生精密、㈱竹内製作所、ワイルテック㈱、東海精機㈱、
 ㈱エイ・アンド・エス・システム

情報工学科(20社): NECフィールドディング㈱(2名)、東芝ITサービス㈱、㈱OEC、㈱NTTぷらら、富士通㈱、日本信号㈱、
 京セラネットワークソリューションズ㈱、㈱ネオテック、富士テクノサービス㈱、タマテクノシステム㈱、アイフォーコム㈱、
 ㈱NTT-ME(2名)、フオレックス㈱、オムロンフィールドエンジニアリング㈱、技研電子㈱、キャパシステムアドバンス㈱、
 ㈱FIXER、協和電機化学㈱、リコーシステムズ㈱(2名)、㈱三和

専攻科(4社): 旭化成㈱、㈱明電舎、東芝ブランドシステム㈱、㈱アルプス技研

(分析結果とその根拠理由)

○分析結果

進路指導を行う体制は整備され機能しており、さらなる積極的な支援活動が展開されている。

○根拠理由

キャリアセンターの業務定期と分担は明確化され、各種指導活動が確実に実施されており機能している。また、周辺の状況に応じて支援講座を開設するなど活動の幅を広げる能力も有している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- [1]センター、学科、学級担任、など現場レベルにおける学生支援に関する活動が活発である。
- [2]教務部、学生部ともに学生支援に対する意識が高く、支援についての管理運営にも積極的である。
- [3]学生相談室と保健室が有機的に働いており、支援を要する学生への個別対応
- [4]進路指導体制が明確化されており、キャリアセンターを中心として積極的な指導・支援体制が整っている。

(改善を要する点)

- [1]現場レベルにおける活動を維持向上するための仕組み整えることで、さらなる学生支援の質向上を目指すべきである。
- [2]現時点ではキャリア形成と正規授業は分離している。しかし各々において一定の結果が得られていることから、今後、教務部とキャリアセンターの連携を深めることで互いの相乗効果が見込めることから、「学生の質」、「学校の質」の向上が図れる。

(3) 基準7の自己評価の概要

自己評価として総合的には「優れている」としたい。評価理由は、現場における支援体制能力が高いレベルで機能している点、これらを統括する部署も存在して機能している点、さらに将来的にはこれらを有機的に結び付けることで機能の維持向上をはかることができる土壌が形成されていること判断するからである。

基準 8

施設・設備

基準 8 施設・設備

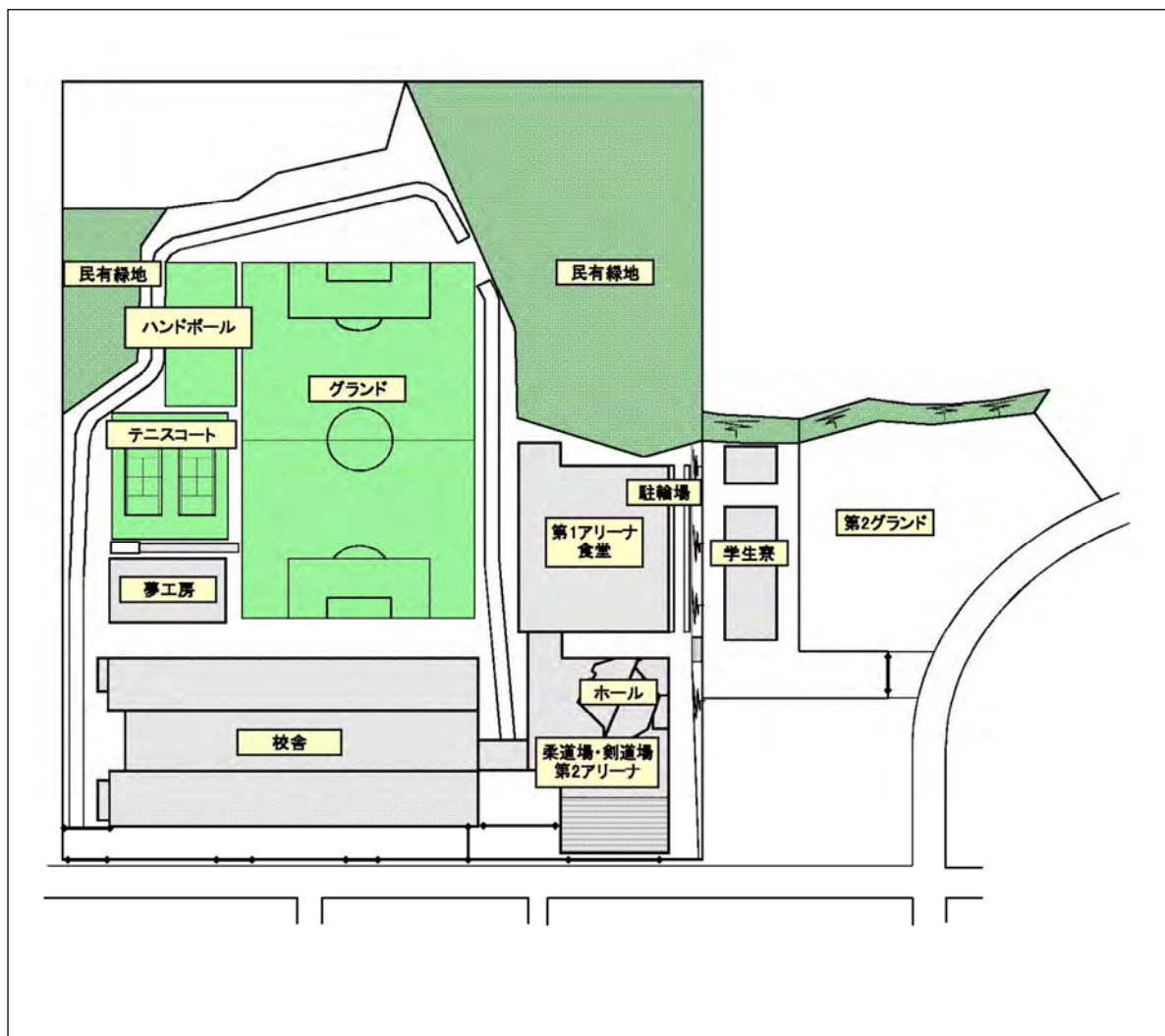
(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本高専が当地に移転開設した際の設置基準に関わる状況については平成20年度の機関別審査当時と特に変更がないが、隣接地を取得している。資料集に校地面積一覧を示す。これによれば高専設置基準の学生定員一人あたり10[m²] から定員900名を乗じて9000[m²]以上の校地を必要とするが現有校地は45463[m²]を超えている。また校舎面積の設置基準について一学科あたり1652.89[m²]として4学科構成であることから6612[m²]以上を必要とするが14079[m²]が確保されているので基準を満たしている。

資料 8-1-①-1 学校主要敷地図 (杉並キャンパスを除く 出典：Info2012)



隣接地については現在第二グラウンドとして利用しているが、今後学校法人育英学院の理事会の方針に基づき、順次利用計画が遂行される予定である。

資料 8-1-①-2 敷地面積表 (出典: 学校要覧2012)

校地面積			
総敷地面積	45463.84 m ²		
校舎棟敷地面積	24894.51 m ²	準校舎棟延面積	4200.59 m ²
校舎棟延面積	14079.47 m ²	第1アリーナ面積	1221.00 m ²
1階面積	4453.08 m ²	第2アリーナ面積	1098.00 m ²
2階面積	4063.89 m ²	学生食堂面積	607.00 m ²
3階面積	2782.56 m ²	学生施設延面積	938.94 m ²
4階面積	2779.94 m ²	その他施設面積	335.65 m ²
機能別面積		学寮面積 (土地)	2103.00 m ²
管理部門延べ面積	732.00 m ²	学寮面積 (建物)	1122.00 m ²
ブレック(1,2年)面積	1054.00 m ²	夢工房面積	596.00 m ²
デザイン工学科面積	1618.00 m ²	主要グラウンド等面積	12798.00 m ²
電気工学科面積	1309.00 m ²	人工芝グラウンド面積	6732.00 m ²
機械電子工学科面積	1086.00 m ²	テニスコート面積	1152.00 m ²
情報工学科面積	1013.00 m ²	ハンドボールコート面積	648.00 m ²
共用施設面積		民有緑地	4266.00 m ²
総合メディアセンター図書館	403.00 m ²	隣接地総面積 (現第二グラウンド)	5668.33 m ²
総合メディアセンター情報館	219.00 m ²		
大会議室231	122.00 m ²		
大講義室119	158.00 m ²	以下は参考	
サレジアンホール	422.00 m ²	育英S I T E C面積	
		育英S I T E C敷地面積	4719.19 m ²
		育英S I T E C建物面積	2158.84 m ²

バリアフリー化についてはエレベータの設置、床段差の解消、引き戸扉の設置などを考慮し、車いす対応のトイレも用意されている。

8-1-①-3 バリアフリー施設写真

教室、実験室、研究室等についても学科ごとに必要な広さと数を用意してある。共用施設に関しても総合メディアセンター(図書館、情報館)、応用技術センター(夢工房)が、学科ごとには1階では電気工学科実験室、デザイン工学科工房、電子工学科電波暗室、無響室などが配置されている。2階以上にはホームルーム教室、語学教室、学科研究室、デザインスタジオ、デッサン室が配置されている。(資料8-1-①-4)



資料 8-1-①-4 校舎棟施設 (学校要覧2012)



学生のための十分なコミュニケーションスペース、及び休息エリアを備えているのも本校の特色である。校舎棟には学生の休息のためのエリア学生ラウンジを設け、3階屋上ルーフガーデン、食堂を開放するなど、学生の学校生活に豊かなスペースを提供している。（資料 8-1-①-5）

資料 8-1-①-5 学生のための環境（出典：施設課資料）



学生食堂



屋上庭園

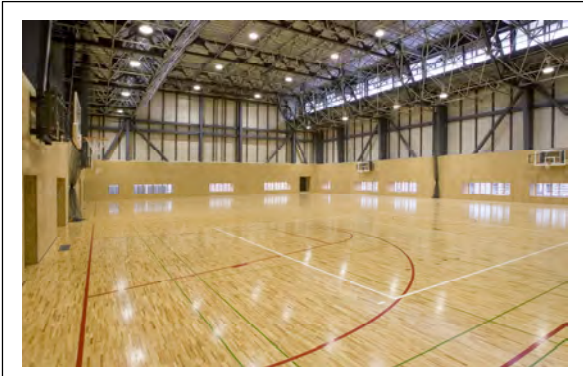


プレテックラウンジ

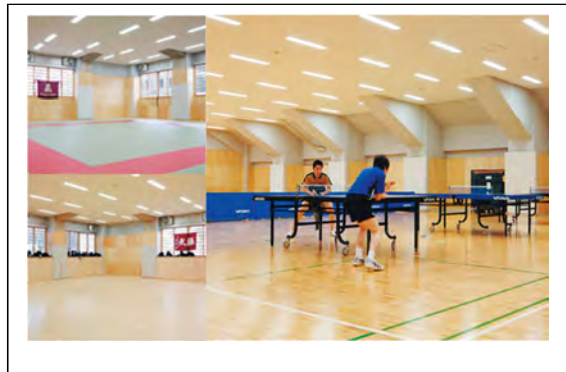
準校舎棟には、体育館（第1アリーナ・第2アリーナ）、サレジアンホールが整備されている。第1アリーナは、練習用バスケットコート2面、公式バスケットコート1面、バレーボールコート2面、バドミントンコート6面等を共用利用することが可能であり、他に体育教員室・体育会議室・温水シャワー・更衣室などが用意されている。また、学生食堂・売店・部室・同窓会室・父母会室の設備も併設されている。第2アリーナには、多目的コート（卓球、モダンダンス等）、柔道場、剣道場が整備されている。サレジアンホールは教会聖堂様式を踏襲したアンシンメントリカルな外形をもつ斬新なデザインの多目的ホールである。内部には多様な角度の面を組合わせて自然光と照明が組み合わさって個性豊かな空間を作り音響反射に工夫を凝らした構造であると共に、大型プロジェクターなどの情報設備も完備している。別棟には応用技術センター（夢工房）が整備され、ロボコンやソーラーカーなど学生のプロジェクト活動の拠点となっている。

屋外の運動施設では、全天候型人工芝のサッカーグラウンド1面（陸上トラック共用）、多目的コート（ハンドボール）1面、オムニコートのテニスコート2面が整備されている。学生寮は、町田キャンパスに併設され、部屋数39室、52人収容できる男子寮として整備している。特定校務施設として医務室、学生相談室が身体及び心の健康のケアのための施設として整備されている。

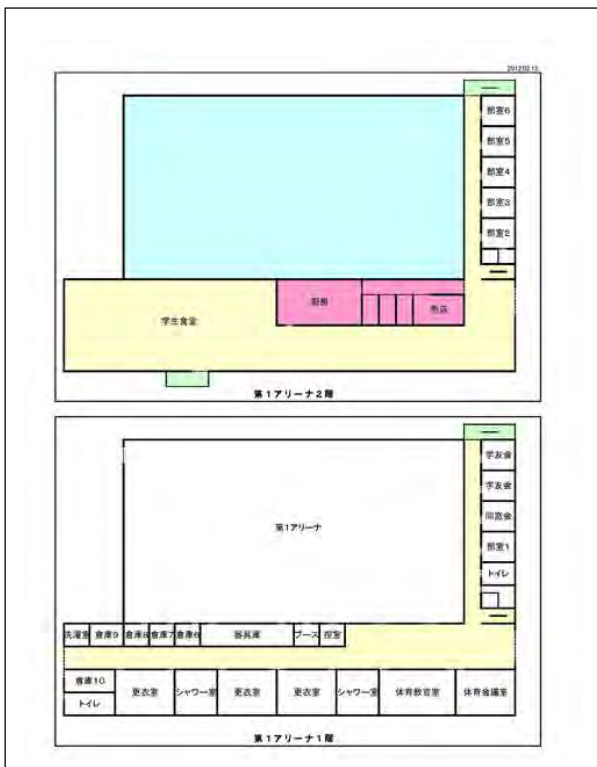
資料 8-1-①-6 準校舎棟、学寮、その他の施設写真（出典：施設課資料）



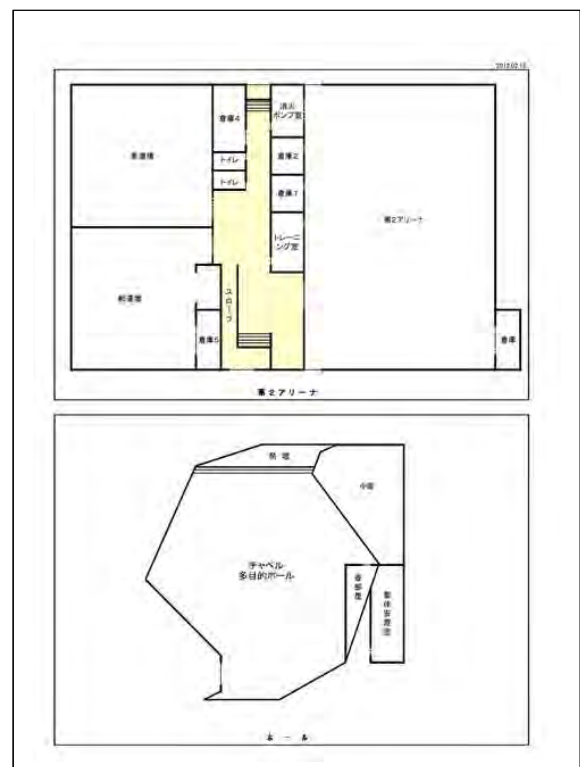
第1アリーナ室内



第二アリーナ室内



体育館（第一アリーナ）・学生食堂



第二アリーナ・サレジアンホール



学生寮（多摩境SITEC寮）



野尻湖山の家

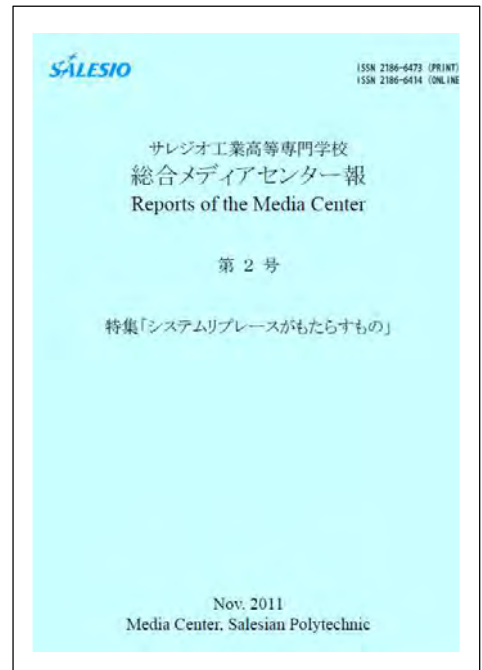
(分析結果とその根拠理由)

観点1-①より、教育目的を達成するために必要な施設、設備は高専設置基準を満たし、必要かつ十分な環境を取得、維持していると判断する。それらは学校施設・設備に関する資料より十分に示されている。

観点8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たすICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校のLAN環境は信頼性、通信速度、管理効率の3点において問題が提起され、喫緊の課題となっていた。その結果、①高信頼性の実現、②通信速度の高速化、③PC演習室環境の改善、④高管理効率の実現、⑤付加価値の実現という五つの目標を達成するために情報環境の更新を行った。(資料8-1-②-1) 特に高信頼性においては教員の関わる系統と学生の関わる系統と共用する系統の三つに分けて不用意に学生が教員資源にアクセスできない構成とした。(資料8-1-②-2) 通信速度については外部Webアクセスを100Mbpsを2回線化、基幹を1Gbit、端末1Gbit化を計った。特に学生から不満の出ている端末PCを最新規格のものに更新した。(資料8-1-②-3) 利用環境としてはユーザ認証サーバの導入(資料8-1-②-6)、Web型メールシステム(資料8-1-②-7)の導入を図り、信頼性とともにより使い勝手の向上も図った。以下に關係する資料を示す。



資料8-1-②-1 情報システムリプレースの概要

特集「システムリプレースがもたらすもの」

本校における情報システムリプレースの概要

米山 秋文¹⁾
The Outline of the Computer-System Replacement in Salesian Polytechnic
Akizumi YOSHITAKA¹⁾

概要 本校では、2010年度に情報システムの大規模な更新を行った。更新にあたり、総合メディアセンターのポリシーである「利用者の創造力の向上」のために必要なサービスを明確にし、同時に現行システムの問題を整理して、ポリシーの実現に向けて導入するシステムの仕様を決定した。その特徴は「気づき」を生かすための2段階的な情報発信機能の導入である。本稿では、我が国システム更新のために進めた問題分析からシステム決定までの概要を説明する。なお、本システムの詳細については、平成22年度全国高専教育フォーラム(原稿)で発表した²⁾。

1. はじめに

総合メディアセンターのポリシーは、「利用者の創造力の向上」である³⁾。この実現のために我々は利用者にIT環境の実現や図書館の活用など様々なサービスを提供してきた。特にIT環境は平成17年度の特転に伴いリニューアルされ、教育活動に深く関わる事となった。しかしながら、リニューアルが経たずしてIT技術の急速な発展のため、現行システムでは十分なサービスが提供できなくなっていた。そこで、現状の問題点を解決するために新システムの導入を行った。本稿ではセンターポリシーの実現に向けて行った、問題分析からシステム仕様の決定までを説明する。

本センターの目的を達成するために利用者に気づきを与えるサービスを提供することが必要であると考える。そのサービスとは以下の4点である。

- ①迅速かつ柔軟に情報を伝達する。
- ②リアルタイムの情報を提供する。
- ③気づきの場を提供する。
- ④センターを効率的に運用する。

1) 総合教育
General Education

総合メディアセンター報、第2号、2011年11月

表1 過去実施上の問題事項

問題の種類	具体的な問題点
信頼性	システム運用の信頼性 運用担当者以外での操作が困難 情報の取扱いが不明確 データのバックアップが不十分 セキュリティ対策の不徹底
通信速度	外部Webアクセスの遅延 LAN回線の帯域幅不足 サーバーの処理能力不足
管理効率	サーバーの保守作業の煩雑 データの移行作業の負担 システムの更新作業の負担

3. 新システムの概要

ここでは本校が導入したシステムの概要を示す。1)で示した総合メディアセンターのあるべき姿と2)でまとめた問題点を考慮し、これらを満たすシステムを検討したところ、次の5つのコンセプトが導かれた。

- ①高信頼性の実現
- ②高速通信の実現
- ③PC教室環境の改善
- ④高管理効率の実現
- ⑤付加価値の実現

特に「付加価値」を実現することによって「システムセンター」として本校独自の教育理念を顕現する。以下に3つのコンセプトを実現するシステム更新概要を示す。

①高信頼性の実現

a. サーバの冗長化
VMwareのFault Tolerance機能による各種サービスの冗長化を行い、ハードウェア障害時の自動回復により、サービス停止時間を最小化を行う。また、サーバーの役割化による結合を行い、電気のや設備コストの削減など資源や環境の効率化を図る。

b. データ保存の信頼性向上
専用機能ストレージシステムを採用し、ディスク誤りをRAIDで検出することによりハードウェア障害にも耐えられる高信頼性を実現する。また、ストレージサーバーのスタンバイシステム機能により、

特集「システムリフレッシュがもたらすもの」

ストレージサーバ内蔵のバックアップ装置を毎日実行することで蓄積の世代管理を行う。

ネットワークインフラの強化
 高機能コアスイッチを採用し、内部二階以上はLAN化を行う。これにより無線発生時を防止しないようとする。また、高機能コアスイッチを採用することにより、ループを防止することが可能となる。

ネットワークセキュリティの強化
 線形 VLAN を導入する。これにより、LAN 内に於いても教員と学生のネットワークを厳密に区別し、ネットワークに依存することができなくなり、高度なセキュリティとセキュリティポリシーを実現することが可能となる。

監視システムの強化
 監視システムを導入し、サーバ内蔵のネットワークに近づく監視を実施し、障害発生を早期に発見し、障害発生時の対応を行う。また、障害発生時のデータバックアップを行う。障害発生時のデータバックアップによるさらなる復旧時間の短縮を図る。

写真画像の保存
 a. データバックアップ
 写真画像および高機能コアスイッチを導入し、「LAN/WAN」として管理を行う。ネットワークに接続する 300Mbps、データ転送速度は 1,000Mbps、PC 通信速度 1,000Mbps を見込んでいる。

① PC 管理環境改善
 最新の知識型ハードウェアの導入により、PC 性能の総合的な向上を図る。

b. 最新型での PC 利用促進
 統合メディアセンターの PC 監視以外の監視

ソフトウェアのアップグレードや、電源を改修し、PC を使用した授業や活動などを支援する。

これも、この期間によって、より良い環境の構築が可能となる。

a. 高機能サーバの導入
 b. 最新の PC の導入
 最新の PC 導入運用には、PC 性能の向上は重要な課題である。最新のハードウェア・構成をソフトウェアを導入することにより、システム管理者のクライアント PC 管理時間短縮を図る。

c. 最新の PC の導入
 最新の PC 導入運用には、PC 性能の向上は重要な課題である。最新のハードウェア・構成をソフトウェアを導入することにより、システム管理者のクライアント PC 管理時間短縮を図る。

② 2 次情報の提供
 d. 2 次情報の提供
 コンピュータを介したシステム (CMS) を導入し、学生や教職員、研究開発者・編纂者等の所属に本校の前・中・後で 3 階層に分けられる構造

表 2 導入機器一覧

機名	仕様	導入台数	備考
サーバ	富士通 ES1000 CPU:Core i7-4790K メモリ:32GB ストレージ:10TB	1台	統合メディアセンター
クライアント PC	富士通 ES1000 CPU:Core i7-4790K メモリ:8GB ストレージ:1TB	100台	統合メディアセンター
ネットワークスイッチ	富士通 ES1000 CPU:Core i7-4790K メモリ:8GB ストレージ:1TB	10台	統合メディアセンター
ストレージサーバ	富士通 ES1000 CPU:Core i7-4790K メモリ:8GB ストレージ:10TB	1台	統合メディアセンター

統合メディアセンター 第2号、2011年11月

図 3 ネットワーク構成図

4. おわりに
 本校の情報システム更改に向けて現状分析から問題点の抽出、およびシステム機器やソフトウェア選定について説明した。新システムの導入では、統合メディアセンターのポリシーを踏襲し、かつ既存システムが抱える問題を解決できる、コストパフォーマンスの高いシステムが導入できたと考えている。
 導入から半年が経ち、大きなトラブルもなくシステムは安定稼働期に入っている。利用者には、より使い勝手の良いシステムが提供できている。つまり、3の①～③で挙げたコンセプトは間違いなく実現できたとと言える。しかしこれらはハードウェアの性能向上をメインとしたものであり、どう使うかはこれからの課題である。既に出された問題点の内、「情報価値の信頼性の向上」に関しては文獻のようには発表し、今後は、2次的情報提供のために本校にカスタマイズした CMS コンテンツの導入を行い、利用者による創造力を向上させる。...

文 献
 1) 山本英二、森 秀男、小池隆典、和田裕記、「サレジオ高専における情報システムの刷新」、第 30 回高専情報技術教育研究発表大会論文、巻頭 pp.272-275 (2010)
 2) 山本英二、山本英二、山本英二、「サレジオ高専の統合メディアセンターの刷新」、第 30 回高専情報技術教育研究発表大会論文、巻頭 pp.272-275 (2010)
 3) クラウド・ストレージサービス提供会社、MBA ネットワークシステム、株式会社 2009
 4) クラウド・ストレージサービス提供会社、マーケティング、株式会社 2009
 5) 高専教育、高専教育 - アズワンセンター、ロジカル社 (2009)
 6) 山本英二、森 秀男、和田裕記、「サレジオ高専の情報システムにおける情報価値の信頼性の向上」と、「サレジオ高専の統合メディアセンター」の刷新 pp.84-87 (2011)

この報告論文はセンター報（第2号・2011）に掲載されているもので、平成17年度移転時に構築された、校内情報基盤システムが平成23年に6年を経過して更新する機会を得た。その際に、どのようなコンセプトで更新に当たったかの経緯について報告されている。

資料 8-1-②-2 データサーバ（ファイル管理）の構築経緯

特集「システムリフレッシュがもたらすもの」

本校における新フォルダ管理規定の導入

山本 秋夫*

Adaptation of the New Folder Administrative Provision in the Salesian Polytechnic: Akishima YONEMAYA

概要 本校では平成 22 年度に情報システムを改修し、更新にあたり、本システムの目的である「利用者の創造力向上」のためにこのシステムの刷新を図り、改善を行った。その過程の中で情報価値の信頼性の向上は重要な課題の一つであった。本編では、その改善のために新しく導入した管理規定と運用について述べる。これによってスムーズな情報利用が可能となり、利用者の創造力向上に貢献することが期待される。

1. はじめに
 平成 22 年に更新された校内情報システムの運用において、共有ファイルサーバ上の文書が整理されていないなどの情報資産の信頼性の脆弱性の問題点が指摘された¹⁾。すなわち、
 ① 共有情報と機密情報が混在している
 ② 完成情報と作業中情報が混在している
 ③ 情報に対する責任者が不明である
 である。これらは、旧システムにおいて、フォルダの運用はユーザー（学生、教職員、非常勤教職員）のアカウント属性によるアクセス権の設定のみで行われており、明確な規定や運用ルールは定められていないことと関連している。そのためユーザーはそれぞれの領域を自由に閲覧、

書き込み、削除することが可能となっており、ファイルサーバ内にはフォルダが乱立してしまっている状態が懸念された²⁾。そこで、新システムへの公開に伴い、フォルダやファイルに対する管理規定を明確なルールに基づき設定し、改善を目指すこととした。

2. 提案するフォルダ管理ルール

2.1 新フォルダ構成
 図 1 に新フォルダシステムの構成図を示す。情報の管理は年度ごとおよび部署ごとに行い、過去の情報は、前年度はアクセス権をリードオンリーに変更し、改変を防止する。また、前年度は外部関係者にアクセスできない。既設フォルダ内には一般公開フォルダ、メンバー共有フォルダ、専用フォルダを用意する。一般公開フォルダはその管理者が登録する形式で

1. 一般公開
 General Education

図 1 新フォルダシステム構成

統合メディアセンター 第2号、2011年11月

書の保管場所であり、メンバー共有フォルダは、その部署での作業用文書または一般公開完成文書の保管場所となる。これらの文書はそれぞれ作業用フォルダと完成フォルダに格納することを目指す。専用フォルダは他の部署のメンバーが参加するプロジェクトなどの文書を保存するためのフォルダである。これら専用フォルダは部署内の情報の整理を促すため、50B~300B に容量を制限する。これにより、ファイルサーバの構造的な領域不足の問題を改善する。これらを実施するために次の役割を期待する。

2.2 ユーザの役割
 部署内での「一般公開」フォルダと「メンバー共有」フォルダのアクセス権を設定することにより、部署内メンバーとその他一般ユーザに対するセキュリティの切り分けを行う。具体的にはユーザを基盤としてアクセス権を設定する。すなわち、オーナーは情報作成・公開についてのすべての責任を持ち、メンバーは部署内の情報作成を担うこととなる。これを明確にすることにより 1の①～③の問題点を改善される。

3. 新管理規定の導入結果
 以上の管理規定は平成 23 年 9 月より運用を開始した。運用開始にあたり、運用管理の中心となるフォルダのオーナーの負担増や管理のための操作技術不足、情報資産管理に対する意識不足などの問題が懸念された。そこで、新管理規定を徹底させるために、運用開始に先立ち管理者講習会を行い、ユーザの「管理意識」と「管理技術」の向上を図った上で新管理規定の導入を行った。その結果、開始時は新規定への慣れの問題から若干の混乱が見られたが、その後大

図 2 新設メンバー共有フォルダ

図 3 部署フォルダの内訳構成

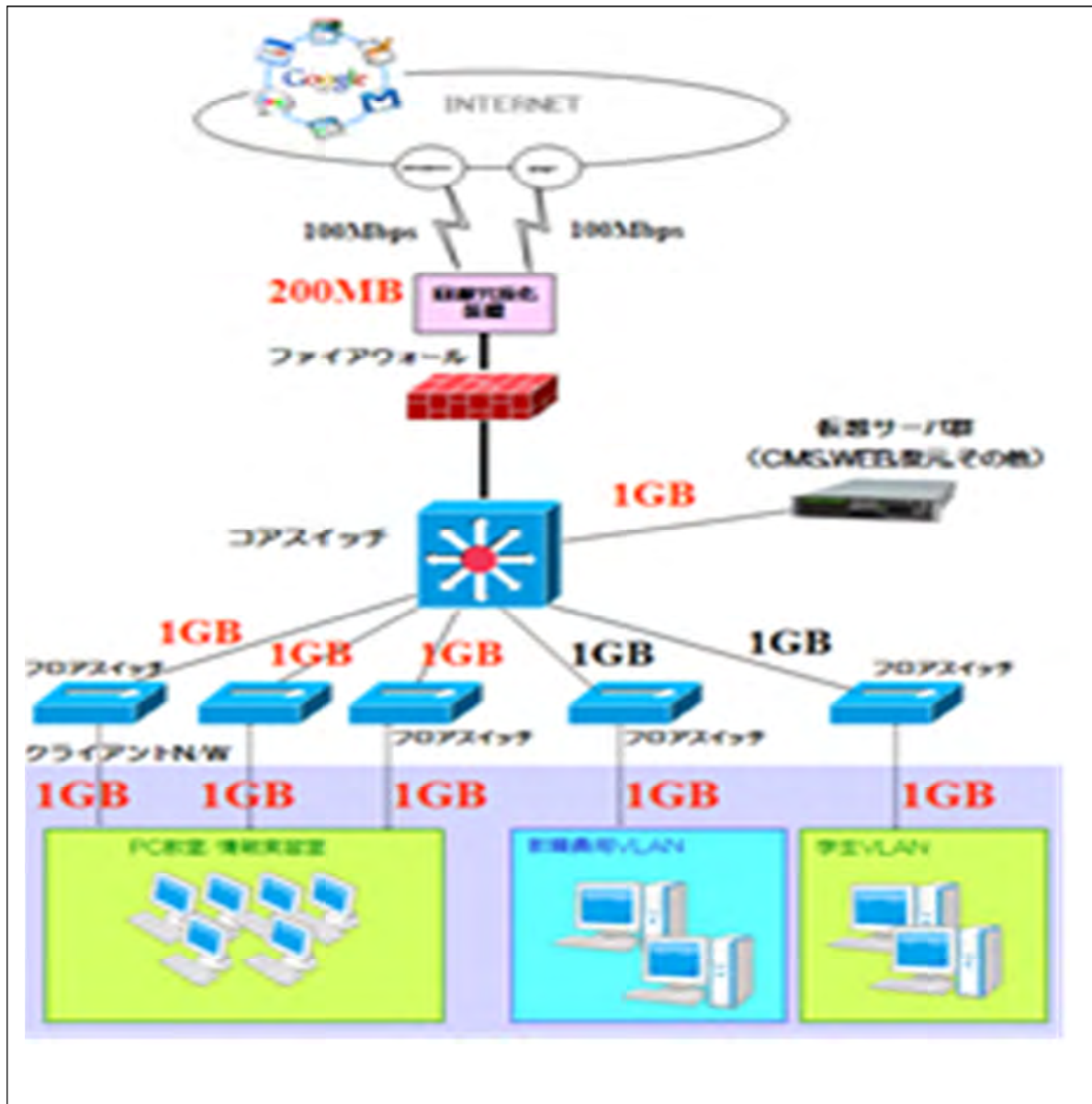
大きな問題もなくスムーズに導入が完了した。また、図 2 の教職員共有フォルダにも見られる通り、フォルダ内には部署ごとに整理しており、多くの教職員から「重要なフォルダが簡単に見つけられる」との意見をもらった。また、閲覧等の権限がないフォルダをアクセスしようとするユーザーは警告が表示される。

4. おわりに
 新フォルダの管理規定を導入することによって、より効率的で安全な情報管理方法が確立された。今後はユーザーの意識向上の向上を図り、よりスムーズな運用を目指す。本年度末には運用状態の調査を行い、より安全で効果的な情報管理の実現を目指したい。本稿の内容は 56 回 June 全国大会（広島）で報告した³⁾。

文 献
 1) 山本英二、森 秀男、小池隆典、和田裕記、「サレジオ高専における情報システムの刷新」、第 30 回高専情報技術教育研究発表大会論文、巻頭 pp.272-275 (2010)
 2) 山本英二、森 秀男、山本英二、「サレジオ高専の統合メディアセンターの刷新」、第 30 回高専情報技術教育研究発表大会論文、巻頭 pp.272-275 (2010)
 3) 山本英二、森 秀男、山本英二、「サレジオ高専の情報システムにおける情報価値の信頼性の向上」と、「サレジオ高専の統合メディアセンター」の刷新 pp.84-87 (2011)

この経緯は教職員と学生がそれぞれ利用するサーバと両方が利用するサーバが必要で、教職員だけが利用するサーバに学生がアクセスできない工夫をする必要があった。それは従来のシステムがその点において脆弱だったという経験からこの点を改善した。

資料 8-1-②-3 ネットワーク構成図



ネットワークの更新については基幹から端末まで1GB(Gbit)で統一し、校内環境は大幅に改善された。それまでは基幹100Mb、端末10-100Mbであった。さらに学外に接続される環境は100MbのBフレッツ光ベストエフォート型を2系統導入している。ベストエフォート型であるが近隣に大きなユーザが少ないところから平均で60Mb程度の通信速度が確保されている。

またICT環境の利用状況であるが、総合メディアセンターを中心に各学科所有のPC教室の台数を含めると本校には平成23年に調査した時点で600台以上のPC端末を保有している。学生実定員を800名とすれば1.3人に1台という割合である。そのうちメディアセンタが管理する全校共同利用PCはデスクトップ型とノートブック型をあわせて140台が用意されている。センターのPC教室の利用状況

を（資料 8-1-②-4）に示す。

資料 8-1-②-4 PC教室の利用状況

PC教室利用状況 2011年度					
曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考
月	3～4限目	4AD	自然科学概論	中田・伊藤光	後期のみ
火	1～2限目	1B	情報倫理	米山	
火	3～4限目	2AD	情報処理	菅原	
火	5～6限目	3ME	アルゴリズム理論	米山	
水	3～4限目	4・5年選択	Webプログラミング	小出	
水	5～6限目	4CS	技術文書作成	山野辺・内田	前期のみ
水	5～6限目	4CS	プレゼンテーション	内田・小出	後期のみ
水	7～8限目	4CS	データベースシステム	大島	後期のみ
木	3～4限目	3CS	計算機概論Ⅱ	内田	後期のみ
木	5～6限目	4AD	自然科学概論	山本孝・花山	前期のみ
木	7～8限目	5CS	統計解析学Ⅰ	佐藤豊	前期のみ
木	7～8限目	5CS	統計解析学Ⅱ	佐藤豊	後期のみ
金	1～2限目	1A	情報倫理	米山	
金	3～4限目	1C	情報倫理	米山	
金	5～6限目	1D	情報倫理	米山	

校時	月	火	水	木	金	土
1		1B			1A	開放
2		1B			1A	
3	4AD	2AD	選択	3CS	1C	
4	4AD	2AD	選択	3CS	1C	
5		3ME	4CS	4AD	1D	閉館
6		3ME	4CS	4AD	1D	
7			4CS	5CS		
8			4CS	5CS		
9 10	開放					

週あたりのコマ（90分）でいうと20コマの余地がある中で、前後期延べで13コマがふさがっている。一般学生が自由に使用できるコマ数は7-10時間目と土曜午前を含めて10コマ分は確保される。さらに

メディアセンターで管理する80台のノートPCを貸し出している授業を（資料8-1-②-5）にしめす。これらの利用度も高い。

資料8-1-②-5 ノートブック貸し出し授業

ノートPC貸出し予定表

2011年度 前期

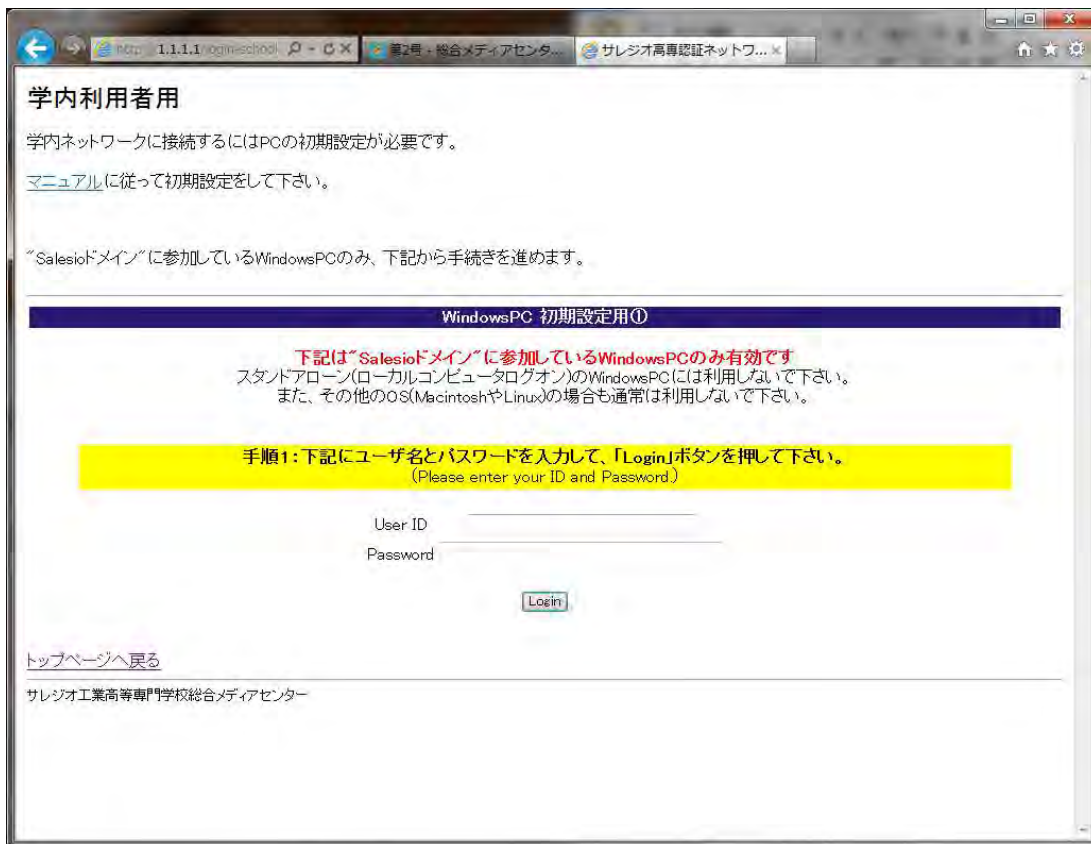
曜日		1～2校時目	3～4校時目	5～6校時目	7～8校時目
月曜日	クラス(人数)				
	授業名				有機化学 山澤
火曜日	クラス(人数)	2CS(28名)		5AD(37名)	
	授業名	プログラミング基礎Ⅲ 小出/宇都木		デザインマネジメント 島津	
水曜日	クラス(人数)	3ME(40名)	4/5年(20名)	3ME(40名)	
	授業名	創造演習 森/米盛	映像メディア概論 (選択) 杉本	機会電子工学実験 平岡/吉野/米盛	
木曜日	クラス(人数)			5CS(36名)	
	授業名			マーケティング論 氏家	
金曜日	クラス(人数)				
	授業名				

ノートPC貸出し予定表

2011年度 後期

曜日		1～2校時目	3～4校時目	5～6校時目	7～8校時目
月曜日	クラス(人数)				
	授業名				有機化学 山澤
火曜日	クラス(人数)	2CS(28名)		5AD	
	授業名	プログラミング基礎Ⅱ 小出/宇都木		デザインマネジメント 島津	
水曜日	クラス(人数)	3ME(40名)	4/5年(20名)	3ME(40名)	
	授業名	創造演習 森/米盛	映像メディア概論(選択) 杉本	機械電子工学実験 稲毛	
木曜日	クラス(人数)		4EE(49)		
	授業名		メカトロニクス 斉藤純		
金曜日	クラス(人数)		3CS	4AD	
	授業名		デジタル経路設計 吉田	プレゼンテーション 西野	

資料 8 - 1 - ② - 6 認証サーバー画面



資料 8 - 1 - ② - 7 Web型googleメール画面



(分析結果とその根拠理由)

観点1-②より、本校のICT環境は国立高専に比べても遜色のない情報環境が維持されていると判断する。すなわち、校外外のネットワーク環境の性能レベルが現況、利用者に不便を生じさせていないこと（更新前は通信速度等相当に利用効率が悪かった）、サーバー環境が教員と学生に切り分けられ、セキュリティが向上し、教員と学生が課題提示や提出に使う共用サーバもあって極めて利用しやすい環境にある。PC教室もデスクトップ型とノートブック貸し出し型の2系統があり、さらに各学科には専用のPC教室も確保されている。

システム運用は教育支援課長以下のメディアセンタースタッフと契約企業のシステム管理によってオンタイムで管理され、設備構築経費は1億程度、運用経費も300万以上に及んでいる。よってこの観点では十分基準以上である。

観点8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点到に係る状況)

図書館にあっては従前の学内電子図書館情報システム（OPAC）の更新（資料8-2-①-1）を行い、蔵書管理の効率化、即応化を図った。蔵書数は未登録の解消を進め、且つ新規図書購入、学科配置図書の登録などを計画的に実行している。

移転時開校したときの総合メディアセンター化のシームレスなメディア統合の理念を継承し、学生にとっても教職員にとっても活性化した図書館の運営を目指している。特に上級学年の卒業研究や特別研究に対応した文献検索指導（資料8-2-①-2）、初年度学年の一般教育科目「情報倫理」によるネットリテラシ教育、センター独自の文化活動、図書情報委員会（学生）の活動支援など多彩な運営を行っている。平成23年度にはセンター報（2号・前出）を冊子として刊行し、その成果を広報した。図書館の蔵書数について資料8-2-①-3、利用者状況について資料8-2-①-4に示す。

資料8-2-①-1 利用者サービス

特集「システムリフレッシュがもたらすもの」

新図書館システムにおける利用者サービスについて

和田 初枝
Public Service of the New Library System
Hirose WADA¹⁾

概要 サレジオ高等総合メディアセンター図書館では平成23年9月に図書館システムの更改を行った。更改にあたっては、サレジオ高等総合メディアセンターの特徴である「紙媒体からデジタル媒体までを一貫して対応できるセンター」が提供できるサービスを実現し、「利用者の創造力の向上」に資するシステムの導入を目指した。本稿では事例報告として、図書館システムの更改により実現した利用者サービスの特徴について説明する。

1. はじめに

サレジオ高等総合メディアセンターは平成17年の学校移転に伴い、「紙媒体からデジタル媒体までを一貫して対応できるセンター」として、旧育英高等の図書館と情報センターを統合して創設された²⁾。

以来、「利用者の創造力の向上」をポリシーとして様々なサービスを提供してきた。そして平成23年9月に行った図書館システムの更改でも、「利用者の創造力の向上」を目的として、オンラインサービス、2次的情報の発信をポイントとしてシステムを選定した。変更以降でこれらのサービスの詳細について説明する。

2. オンラインサービス

更改前の図書館システムは学内ネットワーク環境に接続するコンピュータからの利用に限られていた。そこで新システムではインターネット環境さえあれば学内はもちろん学外からもシステムを利用できるようにした。Web Opacも公開し、利用者の資料検索のニーズを

様々な場面で満たすことが可能となったのである。

さらにこれまで図書館カウンターのみで行っていたサービスを資料検索と同様に、学内外からオンラインで行えるようにした。具体的には「貸出予約」、「リクエスト」、「ILL依頼」、「レファレンス」である。上記のサービスについて、利用者はインターネット環境にアクセスできれば、時間と場所を問わずにサービスを利用できるようになったのである。そしてこれらのサービスは利用者ごとの「My Library」から利用する仕組みとなっていたため、「My Library」へのログインにはLDAP認証を使い、使用するIDとパスワードを学内システムのログイン時に使用するものと同じにした。こうしてログインの際のユーザーの負担の軽減を図り、より利用しやすい環境を構築した。

さらに旧システムのILLでは利用者が図書館に來館して紙媒体で申し込みを行い、業務側はその申し込み情報を再度ILLシステムに入力していた。しかし新システムでは利用者が入力した依頼データをそのままILL業務に利用することができる。同様にレファレンスサービスでも紙媒体に記録し、後から改めて別の電子媒体に記録していたが、オンラインレファレンスの実現により、そのままレファレンスデー

1) 和田初枝、和田「私立高専のついで」、日本高専学雑誌 Vol.16 No.4, pp.17-20 (2011)

2) 教育支援課 Educational Support Division

総合メディアセンター報、第2号、2011年11月

データベースとして利用できるようになった。つまり新システムによって利用者の利便性の向上と業務の効率アップが実現できたのである。業務側では効率アップができた分、他のサービスへの注力が可能となった。

4. 利用に関する課題

新システム稼働直後から、早速「オンライン貸出予約」が利用されるようになり、導入したシステムの機能の利用者のニーズに即したものであったことが確認できた。しかし新たな課題も明らかになっている。たとえば「オンラインILL」である。申込フォームの数が、業務側でも利用できるようにILL業務に即した書式となっているため、利用者によってはわかりにくい項目もあり、スムーズに利用できない状況が見られた。対策として、記入についての詳細なマニュアルを準備している。またオンラインレファレンスについても同様の課題があるのではないかと推測される。やはり詳細なマニュアルの作成と申し込みフォームの工夫が必要であると考えている。さらに「My Library」や「Myブックシェルフ」で得られるようになった利用者自身の情報についても、図書館カウンターで確認する利用者も多く、利用があまり進んでいない状況であると推測する。今後、詳細なマニュアルを準備するとともに講習会も行い、利用の促進を図りたいと考えている。

5. おわりに

新図書館システムが実際に稼働して、その効果が確認できた反面、新たな課題も明らかになっている。今後マニュアルの改訂や講習会の実施と併せて、新図書館システムに関するアンケートなども行い、更なる利用者サービスの向上に努めていきたい。

文 献

1) 和田初枝、和田「私立高専のついで」、日本高専学雑誌 Vol.16 No.4, pp.17-20 (2011)

2) 和田初枝、和田「私立高専のついで」、日本高専学雑誌 Vol.16 No.4, pp.17-20 (2011)

3. 2次的情報の発信

新システムにおいて、新たに可能になったサービスが2次的情報の発信である。具体的には「新着案内」、「関連新着図書表示」、「貸出ランキング」、「関連図書貸出ランキング」、「利用者レビュー」、「Myブックシェルフ」である。

まず「新着案内」、「関連新着図書表示」であるが、「新着案内」は業務システムとリアルタイムに連動し、常に最新の情報公開するとともに、「関連新着図書表示」で、表示資料と同じ分野の新着図書がリストアップされるようになった。「貸出ランキング」、「関連図書貸出ランキング」も同様最新データが公開され、表示資料と同じ分野の「貸出ランキング」が表示されるようになった。こうした機能により、ユーザーは求める情報とともに、そのニーズに関連した情報も受け取ることができるようになったのである。

次に「利用者レビュー」である。利用者は「My Library」から、利用者レビューを書くことができる。投稿されたレビューはOPACの利用者レビューに内容確認等の手続きを経て公開される。こうしたレビューを参照することにより、利用者は自分の情報ニーズに該当資料が合致するかどうかを判断したり、自分では知り得なかった新たな気づきを得ることもできるようになる。つまり「利用者レビュー」の機能によって、図書館利用者の多くの知を共有できるようになったと考える。

「Myブックシェルフ」では資料検索の検索条件や詳細画面で表示された書誌情報などを保存することにより、いつでも参照および再利用ができるようになった。こうした機能により

資料 8-2-①-2 文献検索ガイダンス

卒研担当教員各位

卒研対象文献検索オリエンテーションの実施について

2012年5月14日
メディアセンター 米山秋文

「文献検索オリエンテーション」の実施について、下記のとおりお知らせ致します。
開始時間までに、図書館にお越しください。

	5/14 (月)	5/21 (月)	5/28 (月)	6/11 (月)
13:05 ~13:50	ME 高橋研(5名) ME 森 研(6名) ME 吉田研(6名) ME 畠田研(5名)		EE 加藤研(4)	
13:50 ~14:35		CS 内田研(7名)	大藤研(3名) 中田研(1名)	
14:45 ~15:30			AD 西野研(9名)	



資料 8-2-①-3 図書館蔵書数 (平成23年度)

区分	和書	洋書	合計	電子登録済
総記	5715	475	6435	1848
哲学	3539	9	3803	1360
歴史	3530	22	3572	2532
社会科学	4760	6	4725	2031
自然科学	6996	119	7531	4333
技術	14530	189	15491	5820
産業	1293	108	1510	771
芸術	7064	529	8114	3727
言語	1722	593	2443	1581
文学	5372	3	5836	4782
合計	54521	2053	59464	28785

図書館の蔵書数については移転時に旧校地にあった図書館の蔵書台帳に齟齬があり、現在その整理に追われている。そのため、財産上の登録数と電子登録に差違があるが、これが現在追加登録作業を行っているところである。しかしながら、高専の図書館は専門書については学科研究室在地の図書もあり、学生にとってネット環境も利用することで相当に情報を入手可能である。一方、一般教養図書については関心の程度も低く、接する機会も少ない傾向がある。そこで図書館として専門書のみならず時流に合わせた一般書籍の拡充に努め、国立高専に比べても、最高の立地条件（1階エントランス）にあって、紙メディアからデジタルメディアまでシームレスに扱う理念で創られた総合メディアセンターの機能を十分に活かして、1年生から専攻科生まで常に多くの学生に利用されている。資料8-2-①-4に平成18年度から平成22年の利用者統計をします。平成23年度分は資料8-2-①-5、5bに示す。

資料 8-2-①-4

平成18年度から平成22年度までの推移

図書館利用実績

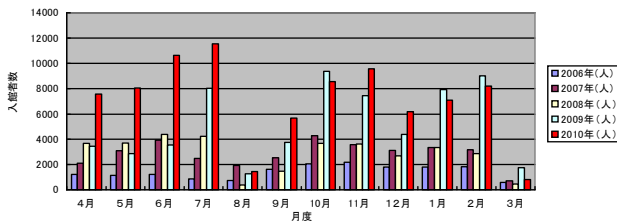
I. 利用実績

項目 \ 年度	2006	2007	2008	2009	2010
開館日数(日)	268	263	255	252	238
入館者数(人)	17076	34153	34493	62867	85422
貸出冊数(冊)	2530	3255	3733	3294	3634
学生(冊)	2193	2974	3506	2960	
教職員(冊)	337	281	227	334	

(出典:図書館統計)

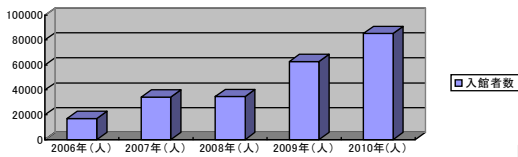
II. 月別入館者数 月別入館者数(2006年4月～2010年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2006年(人)	1235	1150	1233	844	729	1613	2065	2191	1790	1809	1839	578	17076
2007年(人)	2094	3104	3903	2468	1920	2530	4255	3570	3127	3327	3155	700	34153
2008年(人)	3659	3695	4396	4221	384	1472	3685	3621	2686	3356	2853	465	34493
2009年(人)	3458	2878	3543	8025	1278	3751	9384	7478	4372	7926	8022	1752	62867
2010年(人)	7603	8075	10624	11555	1440	5650	8563	9578	6191	7114	8217	812	85422



過去4年間の年間入館者の推移図

年度推移



III 月別貸し出し数

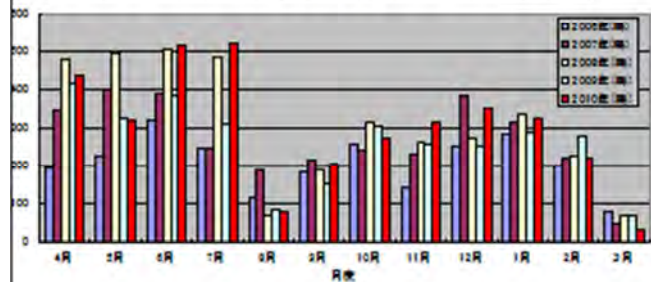
同グラフ

IV 平成18年度から平成22年度年間貸し出し冊数の推移のグラフ

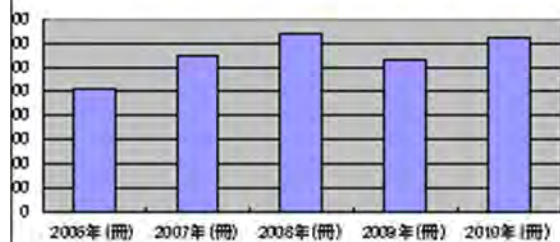
III. 月別貸出冊数

月別貸出冊数(2007年4月～2010年3月)

(冊)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2006年	129	229	224	245	115	187	281	142	227	265	204	79	2530
2007年	350	399	392	349	122	219	345	232	269	317	225	47	3255
2008年	479	495	507	408	71	194	320	287	277	339	228	71	3733
2009年	418	327	292	211	88	153	207	200	287	322	283	70	3294
2010年	428	322	516	525	82	210	279	219	258	229	221	28	3634



過去5年間の年間貸出冊数の推移 (2006年～2010年)



資料 8-2-①-5 平成23年度月別貸し出し冊数



資料 8-2-①-5b 平成23年度メディアセンター月別入場者数（図書館、情報館）



平成22年度 貸し出し冊数総計 3634冊

平成23年度 貸し出し冊数総計 3261冊

平成22年度 メディアセンター入館者 延べ85422人

平成23年度 メディアセンター入館者 延べ90559人

貸し出し冊数は減っているが入館者が増加しているのは、情報館（PC演習室）の機器が更新されて、使用勝手が良くなったためと考えられる。

(結果とその根拠理由)

観点 2-①について総合メディアセンターの開設理念に基づいてそれを満足する施設・設備・管理システム・利用サービス等、そのための人的資源に至るまで十分に確保されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ① 学内施設についてはその管理を行うためにビル管理業者を選定し、包括的、効率的な保守管理体制を維持し、守衛業務の委託など安全確保も十分に実施している。
- ② 情報環境については平成22年度に問題点を抽出しその改善を図り、教職員、学生の満足度が向上し現状は特に苦情はない。
- ③ 図書館についてはその機能をデジタル環境と連携して、学生にとって利用しやすい（一階エントランス脇）最高の立地条件のもと活発に利用されている。

(改善を要する点)

- ① 施設管理については管理経費の確保に苦慮しており、適正な保守、安全管理の維持と経費増のトレードオフに苦慮している。
- ② 情報環境についてはセキュリティの信頼度を向上することが利用の自由度を拘束するというトレードオフのバランスに苦慮している。十分なセキュリティのレベルを確保しつつ、最新の情報技術をまなぶ環境をどのように構築し、運用していくかが今後の課題である。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

施設面については設置基準を維持するために、適時の改善、更新を行い、学生の満足度も高いことから教育の目的を達成していると判断し基準 8 を満たしている。

基準 9

教育の質の向上
及び
改善のためのシステム

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①: 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育課程に関わる資料については、教務部が収集・管理している。教育科目一覧は準学士課程・専攻科課程ともに、教務部部会を通して教務主事に提出されており、毎年度配布されるINFO(学生便覧)に掲載されている(資料9-1-①-1)とともに、本校ウェブサイト上でも公開されている(資料9-1-①-2)。科目ごとの授業内容の詳細(シラバス)は、各担当教員が作成したものを学科長が確認したのち、教務主事に提出し、これらもウェブサイト上で公開されている(資料9-1-①-3)。授業の実施状況については、休講、補講、時間割変更及び校外見学等全てにわたり教務部において管理されており、これらのデータにより把握が可能である(資料9-1-①-4~6)。

各科目の成績は、準学士課程では毎定期試験ごとに成績管理システムに担当教員が成績データおよび出欠席状況を入力し、教務部が管理している(資料9-1-①-7)。専攻科においては、授業担当教員が「専攻科成績報告書」に記入し、教務部に提出している(資料9-1-①-8)。また、成績評価の根拠資料については、毎試験ごとに試験答案と試験点数の分布データの提出を義務付けており、自己点検評価本部が管理している(資料9-1-①-9)。また、平成23年度は、教務部、学生部、各学科ごとに、「自己点検評価報告書」の作成を試験的に実施し、1年間の各部署の活動状況を示す資料の収集を自己点検評価本部が行った(資料9-1-①-10~11)。この自己点検評価報告書の作成は、平成24年度から校内の全ての部署で実施予定である。

教育科目一覧(抜粋)

資料9-1-①-1

6. 学年毎の達成目標(省略)

7. [1] 一般教育 教育課程表(1-2年選択含む)

一般科目(2010年度入学以降)

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修科目	国語	7	2	2	2	1	
	表現	2	2				
	倫理	2	1		1		
	情報倫理	2	2				
	現代社会	2	2				
	歴史	2		2			
	基礎数学Ⅰ	4	4				
	基礎数学Ⅱ	3	3				
	代数幾何学	2		2			
	微分積分学	4		4			
	確率統計学	2			2		
	解析学Ⅰ(EE・ME)	4			4		
	解析学A(CS)	2			2		
	解析学B(CS)	2				2	
	化学	5	2	3			
	基礎物理Ⅰ	2		2			
	基礎物理Ⅱ	2		2			
	物理(EE・ME・CS)	2			2		
	保健体育	4	2	2			
	体育実技	6			2	2	2
	英語	16	6	6	4		
	英語演習(TOEIC対策)	2				2	
	選択英語	4				2	2
履修単位数計	※1	26	25	※2	※3	4	

選択科目	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
A群	有機化学	0~2				2		
	イタリア語Ⅰ					2		
	イタリア語Ⅱ						2	
	中国語Ⅰ					2		
	中国語Ⅱ						2	
	B群	韓国語Ⅰ	0~4				2	
		韓国語Ⅱ						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
	C群	日本語・日本文学					2	2
人間論						2	2	
法学		2					2	
経済学						2	2	
開設単位数計		34	0	0	2	14	18	
履修単位数計		2~8	0	0	0~2	0~2	2~4	
履修単位数合計		75~87	26	25	11~19	75~87	6~8	

○ 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること
 ○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず習得すること
 ※1履修単位数合計 AD73,EE・ME・CS79 ※2履修単位数合計 AD11,EE・ME17,CS15
 ※3履修単位数合計 AD・EE・ME7,CS9
 ※ 選択科目群の科目は平成22年4月現在の開講予定科目である

(出典 info2011 より抜粋)

ウェブサイトの info 画面

資料 9-1-①-2

サレジオ高専 - info 学内の方へ > 卒業生の方へ > サレジオ高専 ホーム

学内の方へ > info > 2011 Last Update: 2011-07-08

info 2011 《目次》

注意

- 各info文書はPDFで作成してあります。PDFの閲覧には Adobe Reader® が必要ですが、
- PDFを開いた後でこのページに戻る際は、ブラウザの「戻る」ボタンをご利用ください。
- 等の点線で囲まれている項目は、複数の項目から成る1つのPDF文書を参照しています。

<p>第1章 巻頭言</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.1 巻頭言 <p>第2章 サレジオ高専とは</p> <ul style="list-style-type: none"> 2.1 サレジオ会 2.2 育英学院の歴史 2.3 外部評価等 <ul style="list-style-type: none"> 2.3.1 機関別認証 2.3.2 JABEE認定 2.3.3 個人情報保護基本方針 	<p>第8章 キャリアを身につけて進路を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 8.1 キャリアセンター 8.2 就職 <ul style="list-style-type: none"> 8.2.1 就職について 8.2.2 就職活動と各種手続きについて 8.2.3 SPI試験について 8.3 進学 <ul style="list-style-type: none"> 8.3.1 進学について 8.3.2 各種手続きについて 8.3.3 進学対策講座
--	--

(出典 本校校内限定ウェブサイト)

ウェブサイトのシラバス画面

資料 9-1-①-3

サレジオ高専 - Syllabus (シラバス) 学内の方へ > 卒業生の方へ > サレジオ高専 ホーム

シラバス Last Update: 2012-10-16

Syllabus (シラバス) 一覧

[2012/10/16] **UP!** 「2012年度 Syllabus (e-book)」を追加しました。

- このコンテンツは、シラバスCDの内容をそのまま掲載しています。HP上での閲覧に問題はありません。
- e-bookが見られない時は、[こちらのPDFドキュメント\[315KB\]](#)に従ってFlashPlayerの設定を行ってください。

最新

- 2012年度 Syllabus (e-book) **NEW!** 12/10/16

バックナンバー

- 2011年度 Syllabus (e-book)
- 2010年度 Syllabus (e-book)
- 2009年度 Syllabus (e-book) ...専用ウィンドウを開きます
- 2008年度 Syllabus (e-book) ...専用ウィンドウを開きます
- 2007年度 Syllabus (e-book) ...専用ウィンドウを開きます

[このページの先頭へ](#)

© 2012 Salesian Polytechnic. All Rights Reserved.

(出典 本校公式ウェブサイト)

時間割変更届

資料 9 - 1 - ① - 4

教務主事	科長・主任

時間割変更届

(担当者変更含む)

教務主事 殿

下記の通り授業変更をお願いいたします

記

1. 事由

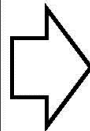
2. 変更内容 _____ 月 _____ 日 (_____)

【変更前】

クラス				
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

【変更後】

クラス				
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				



科目名
(担当者名)

上段: 科目名 下段: (担当者名)



斜線の授業はカット

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

担当者 _____ ⑩

(出典 教務部資料)

資料 9 - 1 - ① - 5

不足時間補講願

教務主事	科長	コーディネータ	事務処理

不足時間補講願

教務主事 殿

下記の通り不足時間の補講を希望します。

記

1. 科目名 _____ クラス _____

2. 不足時間数 _____ 単位時間(1 単位時間は時間割の 1 校時)

3. 希望日

○日付指定

	_____ 月 _____ 日 ()	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学
第一希望	_____ 月 _____ 日 ()	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学
	_____ 月 _____ 日 ()	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学
	_____ 月 _____ 日 ()	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学
第二希望	_____ 月 _____ 日 ()	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学
	_____ 月 _____ 日 ()	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学

○日付指定なし

1 回目	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学
2 回目	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学
3 回目	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学

○科目別補講予定日以外

第一希望	_____ 月 _____ 日 ()	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学
第二希望	_____ 月 _____ 日 ()	_____ 単位時間分	_____ 教室() ・ 見学

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

担当者 _____ 印

※ 教務提出の前に必ず学科長または一般教育科主任の了承を受けてください。

※ このフォームでは書けない場合は教務主事までご相談ください。

(出典 教務部資料)

見学許可願

資料 9 - 1 - ① - 6

見学許可願

平成 年 月 日提出

校長 小島 知博 様

校長	教務主事

_____ 学科
 学 科 長 _____ 印
 引率代表者 _____ 印

記

実 施 日	平成 年 月 日 (曜日)		
見 学 先			
見 学 内 容			
見 学 者	学科 年 (名)		
集 合 時 間		解 散 時 間	
集 合 場 所		解 散 場 所	
引率者 (○代表)			
緊急連絡先 (携帯電話等)			
交通機関			
注意事項等	*授業変更を要する場合は、授業変更届を提出すること*		

本見学が授業時間(または不足時間補講)の場合

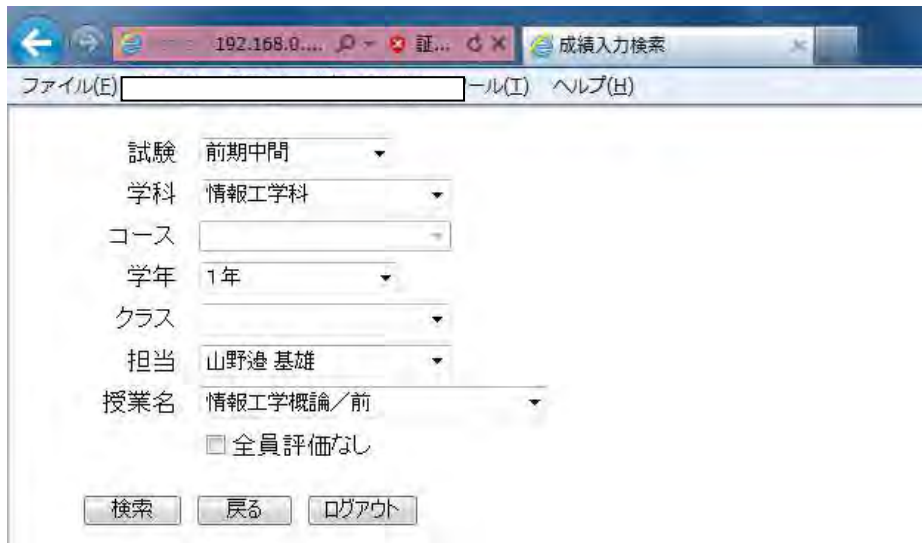
科目名 _____ 担当者 _____ 時間相当分 _____

※科目がコース別の場合はそれも対象となるコース名も記載すること

(出典 教務部資料)

成績管理システム画面

資料 9-1-①-7



(出典 本校校内限定ウェブサイト)

専攻科成績報告書

資料 9-1-①-8

専攻科 平成23年度【前期成績】

授業科目					
担当教員	印				
学籍番号	クラス番号	学生氏名	評点	欠席数	備考
<div style="border: 2px solid red; width: 100%; height: 100%;"></div>					

※ 欠席数1コマ(90分)を1回とする欠席回数をご記入下さい。
 評点は100点法で点数を記入して下さい。

100~80	優
79~70	良
69~60	可
59~0	不可

(出典 教務部資料)

認証資料の提出について(定期試験を実施する科目)

[関連規則]

[関連書類]

- ・ ¥share¥認証 PDF¥関連書類(20XX 年度開講科目)にあります
 - 認証 2011_評価資料区間表紙_様式 1
 - 認証 2011_評価資料区間表紙(再試験用)_様式 1
 - 認証 2011_評価資料区間表紙(認定試験用)_様式 1
 - 認証 2011_区間成績度数分布グラフ処理(原本)
- ・ ¥share¥教務文書¥★願届等様式¥(1) 教職員申請
 - 様式_認定試験報告
 - 様式_認定補講報告

[作業手順]

定期試験に関する認証資料

(定期試験終了後)

採点した答案用紙を PDF 化する。

- ※ **答案用紙は必ず学生に返すようにしてください。**
- ※ PDF 化したファイルは次の(成績報告後)作業が終了するまで各自で管理してください。

(成績報告後)

- 試験資料
 - 区間試験得点度数分布
- の 2 つの資料の提出をお願いいたします。

[試験資料] 次の書類全てを PDF 化し、1 つのファイルにまとめ

¥filesv¥share¥認証 PDF¥提出 0X(20XX〇〇試験)

以下にある対応する提出フォルダに提出してください。ファイル名は後述のファイルの命名ルールに従ってください。 ※ 資料の PDF 化は学事資料室で行えます。

<試験資料として提出していただく書類>

- ① 認証 20XX_区間表紙_様式 1 (必要事項を記載してください)
- ② シラバス (初回のみ)
- ③ 試験問題
- ④ 模範解答および採点基準
- ⑤ 答案用紙 (出席番号順に並べられていること)
- ⑥ 採点原票 (当該区間の評価点を算出するために利用した全てのデータが記載されたもの)
 - ※ **シラバス(評価方法欄)と採点原票で受講学生の当該区間評価点を第三者が算出できるようになっていること。**

(上記のものを番号が若いものがはじめに来るように重ねてください。)

【区間試験得点度数分布】

EXCEL ファイルに必要なデータを入力のうえ、

¥¥Files¥share¥認証 PDF¥提出 0X (20XX〇〇試験)

以下にある対応する提出フォルダに **EXCEL ファイル** を提出。ファイル名は後述のファイルの命名ルールに従ってください。

※非常勤講師の先生方は、別途ご連絡するようにメールにてご提出ください。

再試験に関する認証資料

(再試験終了後)

採点した答案用紙を PDF 化する。

(学年末成績報告後)

○ 試験資料

の資料の提出をお願いいたします。 ※区間試験得点度数分布は提出しなくても結構です

【試験資料】 次の書類全てを PDF 化し、1つのファイルにまとめ

¥¥Files¥share¥認証 PDF¥提出 05 (20XX 再試験)

フォルダに提出してください。ファイル名は後述のファイルの命名ルールに従ってください。

※ 複数回再試験を実施した場合は、1回ごとに試験資料を作成し、提出時にまとめて1つの PDF ファイルにしてください。

<試験資料として提出していただく書類>

- ① 認証 20XX_評価資料区間表紙(再試験用)_様式 1 (必要事項を記載してください)
- ② 試験問題
- ③ 模範解答および採点基準
- ④ 答案用紙 (出席番号順に並べられていること)
- ⑤ 採点原票 (再試験により修正された評価点を算出するために利用した全てのデータが記載されたもの。再試験対象か否かに関わらず、科目受講学生全員分のもの)

※ シラバス(評価方法欄)と採点原票で受講学生の当該区間評価点を第三者が算出できるようになっていること。

(上記のものを番号が若いものがはじめに来るように重ねてください。)

認定試験に関する認証資料**(認定ゼミ・試験終了後)**

採点した答案用紙を PDF 化する。

(認定結果報告後)**○ 試験資料**

の資料の提出をお願いいたします。 ※区間試験得点度数分布は提出しなくても結構です

[試験資料] 次の書類全てを PDF 化し、1つのファイルにまとめ

¥¥files¥share¥認証 PDF¥提出 06 (20XX 認定試験)

フォルダに提出してください。ファイル名は後述のファイルの命名ルールに従ってください。

- ※ 複数回認定試験を実施した場合は、1回ごとに試験資料を作成し、提出時にまとめて1つの PDF ファイルにしてください。(提出のタイミングは、認定対象者が全員合格するか、最終の認定試験が実施された後でお願いいたします。)

<試験資料として提出していただく書類>

- ① 認証 20XX_評価資料区間表紙(認定試験用)_様式 1 (必要事項を記載してください)
- ② 様式_認定補講報告 (評価無効措置対象学生がいる場合のみ)
- ③ 試験問題
- ④ 模範解答および採点基準
- ⑤ 答案用紙 (出席番号順に並べられていること)
- ⑥ 様式_認定試験報告

(上記のものを番号が若いものがはじめに来るように重ねてください。)

<ファイルの命名ルール>

[開講年度]_[クラス]_[科目名]_[試験区分].pdf or .xls

例 2011_1a_国語_a.pdf 2011_3xx_有機化学_d.pdf 2011_4ee_電気回路 4_c.pdf

[開講年度]

20XX (西暦で)

[クラス]

学科	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
混成	1a~1d	2a~2d			
選択科目			3xx	4xx	5xx
デザイン工学科	1ad	2ad	3ad	4ad	5ad
電気工学科	1ee	2ee	3ee	4ee	5ee
電子工学科	1me	2me	3me	4me	5ec
情報工学科	1cs	2cs	3cs	4cs	5cs
専攻科	6ac	7ac	専攻科は開講対象学年をクラスに		

[科目名]

シラバスにある教育課程表に記載された科目名○○Ⅰとか○○Ⅱという科目名は○○1、○○2に代えることができます。なおスキャナーのファイル名入力時にはローマ数字は使えません。

[試験区分]

学科	前期中間	前期末	後期中間	学年末(後期末)	再試験	認定試験
本科	a	b	c	d	e	f
専攻科	—	b	—	d	e	f

[備考]

本件の統括部署・・・自己点検評価本部

[履歴]

2007年05月28日 作成・配布

2007年09月04日 追加([クラス]に選択科目を追加)

2010年05月24日 提出書類を変更

2011年05月25日 追加・変更(再試験・認定試験に関する手順を追加, ファイル命名ルールを変更)

平成 23 年度自己点検評価書作成の趣意書（抜粋）

平成 23 年度サレジオ工業高等専門学校 自己点検評価報告書作成についてサレジオ工業高等専門学校
学校長 小島 知博 殿自己点検評価本部
自己点検評価委員会
本部長・委員長 山野辺基雄

本年度より、自己点検評価本部メンバーによる会合（以下、自己点検評価本部会）および自己点検評価委員会にて表題の件につきまして協議しました結果、以下のように概要がまとまりましたのでご報告するとともに、来る平成 23 年 12 月 5 日の教職員 Weekly にて教職員に展開する許可をお願いいたします。

記

1. 本校における自己点検評価報告書作成予定

平成 23 年度	本校様式<簡易版>の自己点検評価報告書
平成 24 年度	機関別認証評価様式<正規版>の自己点検書 外部評価の実施

2. 平成 23 年度実施の自己点検評価報告書

目的：高等専門学校機関別認証評価基準および日本技術者教育認定基準に留意しながら、本校の現状について概観することが可能な資料の作成。

作成依頼：チャプレン	中田先生,	教務主事	石田先生
学生主事	富田先生,	専攻科長	大藤先生
AD 科長	竹内先生,	EE 科長	加藤先生
ME 科長	高橋先生,	CS 科長	吉村先生
GE 科長	安藤先生,	プレテック主任	山本先生
キャリア C 長	平岡先生,	総合メディア C 長	米山先生
応用技術 C 長	渡邊先生,	地域交流 C 長	小西先生
国際交流室長	西野先生,		

内容：以下の通り

- 平成 23 年度実施中の業務も記載してよい。
- 自己点検評価報告書作成業務が過度の負担にならないようにするため、info に記載されている項目は各部署等に依頼する報告対象から外す。（報告書に記載する場合は info からの転載とする。）
- 2011 年度(平成 23 年度)に本校で実施する自己点検評価では、報告内容についてエビデンスの有無の確認を各部署等にってもらうことを主眼とし、報告書にエビデンスを添付することは求めない。
- 自己点検評価委員会でフォームを準備し、そのフォームに沿って作成する。（準備中）

作成期間：平成 24 年 3 月末（予定）

(出典 自己点検評価本部資料)

自己点検評価報告書作成の手引き（抜粋）

資料 9-1-①-11 その 1

自己点検評価報告書作成の手引き(学科・一般編)

1. 学科の概要

info からの転載となっています。誤字・脱字があれば修正をお願いします。大幅な修正はご遠慮ください。

2. 教育内容および方法について

学習・教育目標

info からの転載となっています。誤字・脱字があれば修正をお願いします。大幅な修正はご遠慮ください。

目標別の科目構成

info からの転載となっています。誤字・脱字があれば修正をお願いします。大幅な修正はご遠慮ください。

学年毎の達成目標（専門学科のみ）

表の中を文章で埋めてください。なお、文章は「～できる」の文型に統一してください。

各教科の達成目標（GEのみ）

- 表の中を文章で埋めてください。なお、文章は「～できる」の文型に統一してください。
- 教科において学年毎の達成目標を設定している場合は、それらを記述してください。

特徴ある学習指導法の取組

- 専門学科は本年度は多くても3つ程度としてください。GEについては多くても教科ごとに3つ程度としてください。
- ×年次科目「○○」における試み の後に大カッコで対象となる学生を記載してください。（その取組への参加を義務付けているものであれば[全学生対象]とし、義務付けていないものであれば[希望学生対象]としてください。）
- 目標は「学科（一般科目の場合は教科）学習・教育目標「○○」の達成」というように記述してください。
- 内容は特徴が分かりやすいようになるところを簡潔に記述してください。

創造性を育む教育法の取組

ここでは正規課程授業だけではなく、部署での取組（プロジェクト等）も記載して頂いて結構です。

- 専門学科は本年度は多くても3つ程度としてください。GEについては多くても教科ごとに3つ程度としてください。
- 対象学生を大カッコで記載してください。（その取組への参加を義務付けているものであれば[全学生対象]とし、義務付けていないものであれば[希望学生対象]としてください。）
- 内容は特徴が分かりやすいようになるところを簡潔に記述してください。

資料 9-1-①-11 その 2

自己点検評価報告書作成の手引き(学科・一般編)

豊かな人間性を育む取組

ここでは正規課程授業だけではなく、部署での取組（プロジェクト等）も記載して頂いて結構です。

- 専門学科は本年度は多くても3つ程度としてください。GEについては多くても教科ごとに3つ程度としてください。
- 対象学生を大カッコで記載してください。（その取組への参加を義務付けているものであれば[全学生対象]とし、義務付けていないものであれば[希望学生対象]としてください。）
- 内容は特徴が分かりやすいようになるべく簡潔に記述してください。

学生の自主的な学習を促す取組（専門学科のみ）

ここでは正規課程授業だけではなく、部署での取組（プロジェクト等）も記載して頂いて結構です。

- 本年度は多くても3つ程度としてください。
- 対象学生を大カッコで記載してください。（その取組への参加を義務付けているものであれば[全学生対象]とし、義務付けていないものであれば[希望学生対象]としてください。）
- 内容は特徴が分かりやすいようになるべく簡潔に記述してください。

学生の自己学習時間を確保するための取組（専門学科のみ）

ここでは正規課程授業だけではなく、部署での取組（プロジェクト等）も記載して頂いて結構です。

- 本年度は多くても3つ程度としてください。
- 対象学生を大カッコで記載してください。
- 内容は特徴が分かりやすいようになるべく簡潔に記述してください。

学生自身に学習達成度を点検させ、学習に反映させる取組

ここでは正規課程授業だけではなく、部署での取組（プロジェクト等）も記載して頂いて結構です。

- 専門学科は本年度は多くても3つ程度としてください。GEについては多くても教科ごとに3つ程度としてください。
- 対象学生を大カッコで記載してください。
- 内容は特徴が分かりやすいようになるべく簡潔に記述してください。

教育内容に学生のニーズ、学術動向、社会からの要請を取り入れるための取組

- 専門学科は本年度は多くても3つ程度としてください。GEについては多くても教科ごとに3つ程度としてください。
- 対象学生を大カッコで記載してください。
- 内容は特徴が分かりやすいようになるべく簡潔に記述してください。

自己点検評価報告書作成の手引き(学科・一般編)

インターンシップの位置づけ (専門学科のみ)

- 学科においてインターンシップをどのように位置づけ、そのためにどのような活動をしているかを明記してください。

3. 教育の実施体制

授業担当構成人数

- 専門学科は教育課程表の専門科目を担当している教員についての人数を記入してください。一般教育科は教育課程表の一般科目を担当している教員についての人数を教科ごとに記入してください。(例えば「技術者倫理」は現在 GE の教員が担当していますが、専門科目に属するものですので注意が必要です。)また、授業単位数には各教員(専任教員、他学科専任、etc.)についての合計(チームティーチングの場合は単位数×人数、オムニバス形式の授業では単位数/人数)を記入してください。

教員間の連携について

- 内容が分かりやすいようになると簡潔に記述してください。
- 専門科目教員間の連携については、テンプレートの 5 つの項目について記載してください。
- GE の各教科内での連携については、教科ごとに記述してください。

外部の教育資源の活用について

- 本年度は多くても 3 つ程度としてください。
- 始めの文章「本学科では教育の目的を達成するために、次のような外部の教育資源を活用している。」はそのままで願います。
- 「教育の目的」は学科(教科)の学習・教育目標だけではなく、学校全体の教育目的・目標であっても構いません。

教員への支援および教員の教育活動を活発化させるための取組について

- 本年度は多くても 3 つ程度としてください。

4. 教育の成果について

学習・教育目標から見た成果について

(専門学科)

- 各学年の達成目標や学習・教育目標と関連付けて記述してください。
- 「十分に成果が上がっている」、「おおむね成果が上がっている」、「やや成果が上がっている」、「成果が上がっているとは言い難い」のいずれかを文章中に入れてください。

資料 9 - 1 - ① - 11 その 4

自己点検評価報告書作成の手引き(学科・一般編)

(GE)

- 各教科ごとに達成目標と関連付けて記述してください。
- 最後に一般教育科として、学習・教育目標と関連付けて記述してください。
- 「十分に成果が上がっている」、「おおむね成果が上がっている」、「やや成果が上がっている」、「成果が上がっているとは言い難い」のいずれかを文章中に入れてください。
- 本年度は、「表現」と「情報倫理」についての記述はして頂かなくて結構です。

就職・進学状況から見た成果について(専門学科のみ)

- 直近 5 年程度の卒業生の就職・進学状況から分析をしてください。
- 「十分に成果が上がっている」、「おおむね成果が上がっている」、「やや成果が上がっている」、「成果が上がっているとは言い難い」のいずれかを文章中に入れてください。

教育の成果や効果を確認するための学生に対する試みについて

- 内容は分かりやすいようになると簡潔に記述してください。

外部(卒業生や進路先関係者等)から本校の学生についての意見聴取の試みについて

- 内容は分かりやすいようになると簡潔に記述してください。

5. 学生支援について

学生が自主学習をする上での支援について

- 「ガイダンス」と「相談・助言」に分けて記述してください。
- 内容は分かりやすいようになると簡潔に記述してください。

キャンパス生活環境等の整備状況および利用状況について

ここでは、学科および GE が管理している施設・設備について記述して下さい。

- 内容は分かりやすいようになると簡潔に記述してください。
- 利用状況は「よく利用されている」、「まあまあ利用されている」、「あまり利用されていない」のいずれかでお答えください。

学生の学習支援ニーズの把握のための試みについて

- 内容は分かりやすいようになると簡潔に記述してください。

資格・検定試験等に対する支援について

- 内容は分かりやすいようになると簡潔に記述してください。

自己点検評価報告書作成の手引き(学科・一般編)

特別な支援が必要な学生に対する学習支援の試みについて

- 「留学生」、「転入・転学科生」、「学習障害がある学生」、「身体的障害がある学生」および「成績不振学生」に分けて支援内容を記述してください。
- 対象となる学生がいないが、支援の仕組みは存在する場合にはその仕組みを記述してください。

6. 教育改善について

教育の質の向上、改善のための試みについて

- 内容は分かりやすいようになるところ簡潔に記述してください。

7. その他、特徴的な活動について

- ここでは、今までにあげられていないもので特徴的な活動があれば、その目的と内容を記述してください。

ご協力、ありがとうございました。

教育活動の評価体制については、サレジオ・マネジメント・システム（以下、SMSと呼ぶ。）により次のようになっている。まず、校長のもとで中期計画、単年度目標を設定し（資料9-1-①-12）、これを受け教育部門長である副校長と事務部門長である事務長がそれぞれの部門目標を設定する（資料9-1-①-13~14）。各部署長（各学科長、センター長等）は、執行及び改善の部署目標を部門長と協議しながら部門目標に沿った形で設定する。さらに、部署目標を受けて、部署構成員である一般教職員は部署長と話し合いながら、個人目標を作成し実行する（資料9-1-①-15）。当該年度業務終了後に、部署長は一般教職員との面談を通して各教職員の業務遂行状況を確認、評価し、その成果を部門長に報告する（前出資料9-1-①-15、資料9-1-①-16）。これらの教育活動の成果は活動報告会（レビュー会議）で全教職員に報告され（資料9-1-①-17）、それに基づいて次年度の教育活動を含む学校全体の目標設定に反映されている（SMSに関する資料は訪問調査時に閲覧可能）。

中期計画・平成23年度単年度目標（校長）

資料9-1-①-12 その1

平成23(2011)年4月1日

校長・小島知博

22~24年度重点目標

I.教育・研究力の向上

II.社会貢献の充実

III.経営力の強化

平成23(2011)年4月1日

校長・小島知博

23年度の具体的方策

I.教育・研究力の向上

- ◆入学前後教育の推進
- ◆キャリア教育の充実
- ◆JABEE対応の準備
- ◆プロジェクト教育の再構築
- ◆研究費の増額と科研費取得

II.社会貢献の充実

- ◆地域交流の推進
- ◆国際交流の推進
- ◆社会的責任への対応

III.経営力の強化

- ◆人財(材)の育成
- ◆財政基盤の強化
- ◆収入構造の改善

平成23(2011)年4月1日

校長・小島知博

23年度全校重点活動

- 23年度プロジェクト
 - ① 入学前後教育(新規)
 - ② プロジェクト活動の再構築(新規)
 - ③ キャリア教育(継続)
 - ④ ロボコン(継続)
 - ⑤ JABEE(継続)

- 23年度新設委員会
 - 広報委員会

- 23年度新規ワーキンググループ
 - 留学生受け入れ

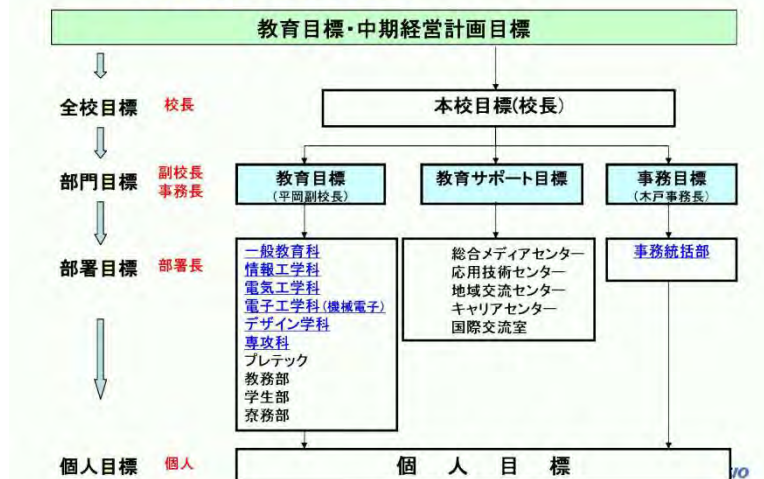


(出典 平成 2 3 年度開業式資料)

平成23年(2011年)4月25日

副校長・平岡

単年度目標の体系図



平成23年(2011年)4月25日

副校長・平岡

平成23年度 副校長（教育部門）方針と目標

技術系高等教育機関として信頼される高専教育を確立するために、学校方針を受けて次の6つの方針・目標を設定する。

<教育・研究力の向上>

①目に見える形での学生の学力・能力向上

――> 退学・留年・条件付進級減、
資格・検定・対外活動・進学先のレベルアップ

②外部評価に耐える研究活動と業績積み増し

――> 専攻科レビュー(H25)・JABEE認定(H26)・機関別
認証評価(H27)の準備、外部資金獲得

SALESIO

平成23年(2011年)4月25日

副校長・平岡

平成23年度 副校長（教育部門）方針と目標

<社会貢献の充実>

①善き人材を社会に継続的に輩出

――> 進路先確保、進路決定率向上(国公立高専並)

②教育・研究成果の社会への還元

――> 地域・国際交流、産学連携の前年比増

<経営力の強化>

①教育の信頼性向上による学生数の確保

――> 入学数増、退学者減により学生総数前年比増

②人間性を含めた教員資質の向上

――> 教育・研究・校務にバランスある活動

SALESIO

平成23年(2011年)4月25日

副校長・平岡

その他の課題

<教育>

国語教育充実(思考力向上)

キャリア教育、コミュニケーション教育

学科横断的教育(広義のデザイン教育)

進学教育(より高いレベルの大学、大学院へ)

<教員>

仕事量(持ちコマ数、校務)と報酬のバランス

目標を持つ(博士、教育士、技術士の取得)

社会人基礎力(学生のみならず教員も必要)

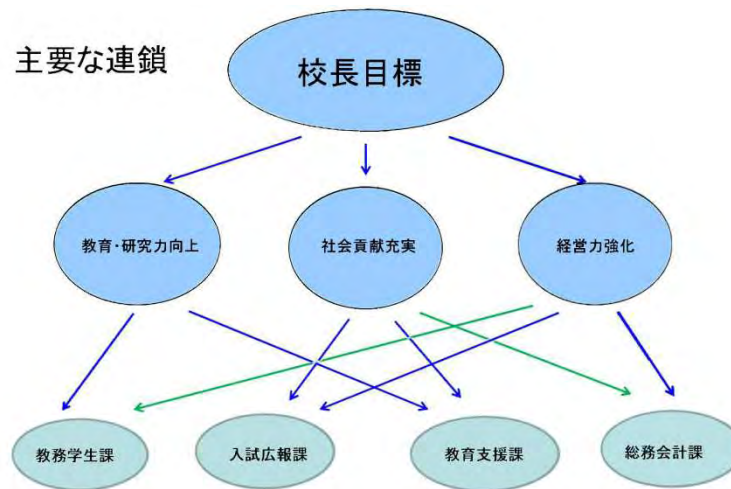
全ての施策は、学生の学力・能力向上につなげよう!

SALESIO

(出典 平成23年度開業式資料)

平成 23 年度部門目標（事務長）

資料 9 - 1 - ① - 14



平成23年度 事務部門目標

- I 教育研究力の向上 >主として
 - I-1 全校プロジェクトに対する支援>全課
 - I-2 教育研究環境の改善>教務学生
- II 社会貢献の充実
 - II-1 地域交流センターのアクション支援>教育支援
 - II-2 国際交流室のアクション支援>教育支援
 - II-3 学校広報のあり方>全課
 - II-4 入試広報を通して地域へ>入試広報
- III 経営力の強化
 - III-1 理事会への提案>事務長
 - III-2 学内外での研修>全課
 - III-3 財務会計の強化>総務会計

(出典 平成 23 年度開業式資料)

平成 23 年度個人目標記述書 (情報工学科)

部署名 : 情報工学科

部門長承認

氏名 :

23 年度 部署 活動 計画

部門目標	部署目標	目標値	活動予定 (完了日)	実績報告	達成度	難易度	ウェイト	部門長評価
<p><教育研究の質の向上></p> <p>○目に見える形での学生の学力向上</p>	<p>真の基礎学力の向上。担当教科および実験・実習において次のことを行う。</p> <p>①読み・・・基礎学力の理解度を徹底 ②書き・・・論理的文章の記述力を育成 ③実習・・・実験・実習徹底で学生が電子・情報・ネットワーク技術を身につける</p>							
<p><教育研究の質の向上></p> <p>○外部評価に耐える研究活動と業績の積み増し</p>	<p>各教員が他人頼みでなく、自ら行動して研究能力を身につける。各自学会等の発表2件以上、外部の査読論文投稿1件以上、論文採録1件、学会やプロジェクト活動等の充実1件以上</p>							
<p><社会貢献の充実></p> <p>○若き人材の社会に継続的に排出(進路先確保に力点)</p> <p>○教育研究成果の社会への還元(国際交流、対外プロジェクト活動に力を入れる)</p>	<p>①キャリア教育およびサポート体制の徹底</p> <p>②フィリピンのDTBCとの国際交流の推進、プロコン、イマジンカップ、ロボコン等の対外プロジェクト活動の推進</p>							
<p><経営力の強化></p> <p>○教育の信頼性向上による学生数の確保</p> <p>○人間性を含めた教員資質の向上</p>	<p>①24年度の情報工学科学生を23年度と同程度以上にする</p>							

(出典 平成 23 年度 SMS 資料)

平成 23 年度個人業績一覧表記入用紙

業績一覧票(2011年度分)

別表 1 業績一覧票(原票) 以下の表については平成22年度に一部配点等修正されている

通番	大分類	中分類	評価内容	内容を簡潔に(過去3年)	素点	自己評価	所属長評価	部門長評価	評点	素点	自己評価	所属長評価	部門長評価	評点
1-1	教育	授業改善	自分の授業の改善が進んだか		8					8	0	0	0	
1-2		補習指導	授業外に補習、個別指導をやったか		5					5	0	0	0	
1-3		公開講座	スクーリング等講座を担当したか		4					4	0	0	0	
1-4		卒特研指導	指導成果をあげられたか		4					4	0	0	0	
1-5		資格指導	学生の資格取得の指導をやったか		4					4	0	0	0	
1-6						25	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
2-1	指導	学生指導	学生の生活指導をやったか		3					3	0	0	0	
2-2		担任業務	担任業務が適切にできたか		6					6	0	0	0	
2-3		クラブ指導	クラブ活動が適切に指導できたか		3					3	0	0	0	
2-4		課外指導	クラブ以外の学生活動を行ったか		3					3	0	0	0	
2-5						15	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0
3-1	研究	著作・論文	著作刊行、査読付論文を出せたか		10					10	0	0	0	
3-2		研究紀要	研究紀要に投稿したか		6					6	0	0	0	
3-3		研究発表	学会等発表を行ったか		5					5	0	0	0	
3-4		制作発表	制作発表を行ったか		3					3	0	0	0	
3-5		テーマ研究	テーマ研究を行ったか		3					3	0	0	0	
3-6		外部資金	科研費、産学連携資金を取得したか		3					3	0	0	0	
3-7						30	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0
4-1	管理	校務部会	教務、学生部会にかかわったか		5					5	0	0	0	
4-2		校務委員会等	委員会等にかかわったか		4					4	0	0	0	
4-3		他の校務分掌	他の校務分掌にかかわったか		3					3	0	0	0	
4-4		試験報告	試験報告を果したか		4					4	0	0	0	
4-5		入試	入試(募集・作問)に貢献したか		4					4	0	0	0	
4-6						20	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
5-1	貢献	公的活動	公的機関の委員になった		2					2	0	0	0	
5-2		学会活動	学会の委員や運営にかかわった		2					2	0	0	0	
5-3		地域活動	地域貢献にかかわった		2					2	0	0	0	
		国際貢献	海外の関係機関との交流		2					2	0	0	0	
5-4		生涯教育	対外的生涯教育講座にかかわった		2					2	0	0	0	
5-5					10	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	重み	評価	その指針		0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0

個人は2011年度分を記述する
 所属長は所属長欄に記述する
 部門長は自己評価と所属長評価を元に評価する

個人 の入力欄です。それ以外は触らないでください
 所属長 の入力欄です。それ以外は触らないでください
 部門長 の入力欄です。それ以外は触らないでください

SABCDは半角大文字です。

重み付け
 教育 全体の25%とする
 指導 全体の15%とする
 研究 全体の30%とする
 管理 全体の20%とする
 貢献 全体の10%とする
 それぞれ重み付けを行って総合点を100点としている

(出典 平成 23 年度 SMS 資料)

平成 23 年度活動報告会開催要項

資料 9 - 1 - ① - 17

平成 23 年度
サレジオ工業高等専門学校
活動報告会開催要項

2012 年 1 月 18 日 (月)

校長

小島 知博

下記要領にて平成 23 年度サレジオ高専・活動報告会を開催いたします。よろしくご参集下さい。

記

- 日時 : 3 月 12 日 (月) 午前 10:00 ~ 12:00
- 場所 : 231 会議室
- 式次第 :

時間	項目	発表者
10:00	校長挨拶	小島(知)
10:10	部門別報告 ・教育部門報告 ・事務部門報告	副校長 事務長
10:50	入試結果報告	入試広報室長
11:00	全校プロジェクト報告 ・入学前後教育 ・キャリア教育 ・プロジェクト ・ロボコン	教務主事 平岡 平岡 渡邊
11:50	総括	校長

なお、12 : 00 より感謝状贈呈および退職者紹介をいたします。

以上

(出典 総合企画本部資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動の実態を示すデータや資料の収集は、様々な部署にて必要に応じて行われている。しかし、学校として、どの部署で、どのようなデータが、どのような目的で収集されており、そのデータがどれくらい蓄積されているのかを把握するようなシステムは存在していない。そのため、収集したデータが有効的に2次利用される機会はほとんどない。

評価の実施は、学校全体のマネジメント・システムSMSにより、教職員が所属する部署（学科等）の長と相談・確認をしながら進める体制となっている。

以上より、データ収集・蓄積及びそれらにもとづいた評価体制の一応の整備はなされていると考えられる。

観点 9-1-②： 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

(観点に係る状況)

本校における教育活動の全般的な自己点検・評価は、SMSにおける教職員の個人目標を土台として、そこから積み上がる部署目標さらには部門目標を点検・評価することで実施されている。教職員からの意見聴取はSMSに沿って、毎年度行われる所属部署長との面談の中で実施されており、評価の際に反映されている。

学生からの意見聴取は、自己点検評価本部が実施する授業アンケート(資料9-1-②-1)と年1回の頻度で学生組織である学友会と共催で実施される学生対談会(資料9-1-②-2)および教務部が行う「教育改善のための意見箱」の設置によって行われている。授業アンケートの結果は、科目ごとに集計され(資料9-1-②-3)、校長、副校長、教務主事及び各科長に渡されている。学生対談会で聴取された意見は学校運営会議(AMC会議)で検討され、これらの意見のうち、駐輪場の屋根については平成24年度に設置されるに至っている(資料9-1-②-4~6)。「教育改善のための意見箱」設置は、授業改善に限り平成20年度より実施されてきたが、平成23年度からは扱う範囲を広げている(資料9-1-②-7)。

授業アンケート実施依頼(抜粋)

資料 9-1-②-1

教員各位

自己点検評価 第0004号
平成23年7月19日

自己点検評価本部長

平成23年度前期授業アンケート実施について(依頼)

さて、本年度前期の学生授業アンケートについて下記の通り実施いたしますので、関係する方はご協力をよろしくお願いいたします。

記

(今回アンケートを実施する科目)

本科学科の中で前期に開講している全科目(専任・非常勤の担当を問わない)

※ 表現は実施しない

注 複数教員担当科目について

◇ 平成21までは担当者ごとに実施していましたが、本年度は科目として実施します。故に、授業スキルに関する項目(例えば質問Aの間3~間11)については全担当者を合わせた総合的評価となります。この点を学生にご周知ください。

(アンケートの実施方法)

- マークシート方式(自由記述はマークシート下部の事由記述欄に記述する)
- アンケートの区分
 - ① 講義・演習科目(定期試験を実施する科目)
 - ② 実験・実習科目(定期試験を実施しない科目)
 - ③ 体育実技

(アンケート実施期間)

前期学習指導期間中

(出典 自己点検評価本部文書)

平成23年度学生対談会ポスター

資料9-1-②-2

一校内対談会一

冷房

暖房

学校に対する
質問・改善要望など
ありませんか？

駐輪所

喫煙所

Assistenza

～リアルが充実する学校づくり～

12月15日 16:30～
231教室

(出典 学友会作成資料)

授業アンケート科目別集計データ

資料 9 - 1 - ② - 3

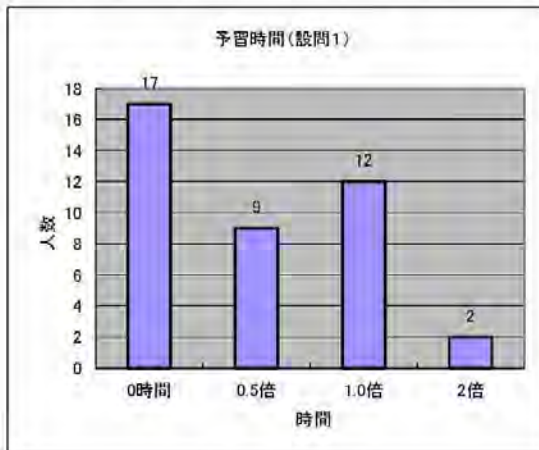
平成23年度前期授業アンケート

クラス	
在籍数	
科目名	
担当者	

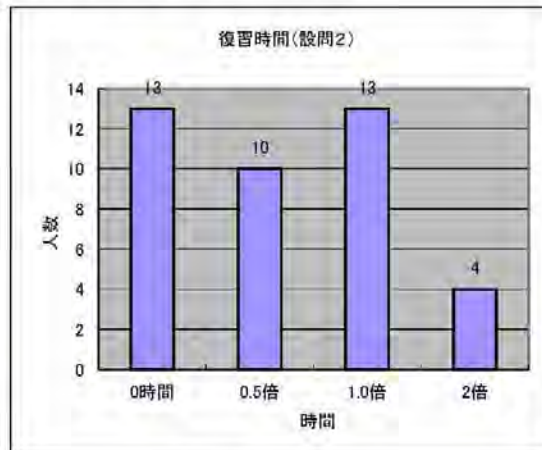
表示オプション	
自己採点値を出力する (y/n)	n
中央値を出力する (y/n)	n
比較データを出力する (y/n)	n



- 問3 教員は毎回よく授業の準備をしていましたか？(1つ選択)
- 問4 教員は、その日の授業の目的を説明していましたか？(1つ選択)
- 問5 教員の話し方は聞き取りやすかったですか？(1つ選択)
- 問6 授業の進度について、教員は学生の様子を見て調整していましたか？(1つ選択)
- 問7 教員は授業をする雰囲気を保つようにしていましたか？(例えば、授業中の私語などの注意) (1つ選択)
- 問8 教員は授業中、重要な箇所を強調して解説していましたか？(1つ選択)
- 問9 教員は時間通りに授業を始め、時間通りに授業を終えましたか？(1つ選択)
- 問10 あなたはこの授業についていけましたか？(1つ選択)
- 問11 この科目の試験問題は、講義との関連性が妥当でしたか？(1つ選択)
- 問12 教員は成績評価方法について、くわしく詳しく説明していましたか？(1つ選択)
- 問13 あなたはシラバスに書かれている到達目標は達成できたと思いますか？(1つ選択)



平均 0.51 倍



平均 0.65 倍

(出典 自己点検評価本部作成資料)

資料 9-1-②-4

学生対談会記録 (抜粋)

日 時：2010年12月17日 16:00～

場 所：229 教室

参加者：校長 小島知博，教務主事 平岡一則，学生主事 富田雅史，
自己点検評価本部長 山野辺基雄，学友会長 八木大幸(5EE)，他学生 30 名程度

1. 自己点検評価本部長より，本座談会の趣旨が説明された。
 2. 意見
 - 寮のお風呂関係の状況を改善してほしい。現状はシャワーしかなく湯船が無いので，湯船につかってリラックスすることができないのではないかと。
- 回答：寮には湯船があります。(校長)
- ※ 記録者注：学生Aは寮生ではないので，聞き伝えで発言したようである。

- 駐輪場に屋根をつけてほしい。以前にも学友会から意見書を提出していると聞いているがどうのようになっているのか？
- 回答：そのような報告は受けていない。検討したいと思う。(校長)

(出典 自己点検評価本部作成資料)

資料 9-1-②-5

資料 9-1-②-4 に対する学校運営会議 (AMC 会議) における対応

- 1.23.1.19weekly 公開の運営組織図・・・事務長
 - ・別紙 24 年度組織図(23.1.19 公開)の内レヅグ色の枠内は 1 月中に確定する。
 - ・ 24 年度人件費予測について(現時点の)総額概算はほぼ同額と予測する。
- 2.学生呼び出し方法の見直しに関する事務部ヒアリング 報告・・・関口教務学生課長
 - ・校内放送について別紙資料あり 12 月中の放送依頼内容を集計した。
 - ・すでに放送を控えていた部署もあったようである。
 - ・教務学生課としては一律に校内放送呼び出しを全面禁止にするのは業務に支障があるのでご配慮を願いたい。
- 3.メール配信手段についての検討・・・事務長
 - ・別紙資料に数種類の配信方式についてまとめた。
 - ・ 検討資料はフォルダに入れてあるので後日検討したい。
- 4.自転車置き場の屋根設置について・・・斉藤総務会計課長
 - ・現行自転車置き場に屋根を設置する方法で検討している。
 - ・ 消防署は避難経路の問題は OK
 - ・ 町田市の建築確認を取得しなければならない。(学校全体の) 確認申請のみで約 300 万
 - ・ 概算見積もりで約 1 千万円(確認申請を除く)
 - ・ 自転車を整理する置台を含め 3 社程度の見積もりを依頼する。
 - ・ 消防署の避難経路 OK の確認を取っておくこと。
 - ・ 屋根は体育館側、寮側からかける。

(出典 2011. 12. 22 学校運営会議議事録)

現在の駐輪場の様子

資料 9-1-②-6



(出典 自己点検評価本部作成資料)

意見箱設置の通知

資料 9-1-②-7

教務部 第025号
平成23年8月31日

学生諸君

教務主事

教育改善のための意見箱設置について（通知）

本校では、学校生活の中核をなす教育活動の質向上を目的とした取り組みとして、平成20年度より授業改善のための意見箱が設置されています。学生諸君が納得また安心して授業に取り組める環境を確保するために、改めて意見箱の設置に関するお知らせをいたします。意見箱設置の目的を十分に理解した上で、建設的に活用されることを希望します。

（設置の狙い）

広く教育活動の質的改善を促進するために、受講生の意見を聴取することを目的とする。よって取り扱う投稿は、授業のあり方ならびに教員の言動に関する事案を主とする。

- 【具体例】
- | | |
|--|---------------|
| <input type="checkbox"/> 授業がシラバスに記載された授業目的と合致していない | (授業計画) |
| <input type="checkbox"/> 教員が注意しないのでうるさくて授業に集中できない | (授業運営) |
| <input type="checkbox"/> 授業中に質問をしても、対応してもらえない | (授業運営) |
| <input type="checkbox"/> 成績評価の方法がシラバスで説明されているものと違う | (成績評価) |
| <input type="checkbox"/> 授業中に露骨なえこひいきをする教員がいる | (パワーハラスメント) |
| <input type="checkbox"/> 授業中に教員から暴言を浴びせられた | (パワーハラスメント) |
| <input type="checkbox"/> 教員から性的な嫌がらせを受けた | (セクシャルハラスメント) |

（設置場所）

中央教務センター前の廊下に意見箱を設置する。投稿用の書式も合わせて備える。

（手続き方法）

授業改善の提案は以下の手順で行うものとする。

1. 所定の書式（「授業に関する意見書」）に提案事項を記入する。その際、**記名を原則**とし、無記名の提案には対応しない。
2. 所定の書式に記された相談員の中から面談を希望する相手を選択する。
3. 希望した相談員から面談日時の連絡が来るので、面談の日時を調整する。
4. 相談員との面談で聴取した内容をもとに、相談員は「改善提案要望書」を作成する。なお、要望書には提案した学生の氏名は記載されない（匿名性の保持）。
5. 投稿された案件は、学生の承諾のもとにFD(教員研修)活動に利用されることがある。
6. 作成した「改善提案要望書」をもとに、調査の指示が副校長からなされる。またすべての「授業に関する意見書」および「改善提案要望書」は学校長がこれを保管する。
7. 希望する学生は、後日相談員を通じて、改善提案要望がどのように展開されたか報告を受けることができる。

以上

(出典 教務部文章)

父母からの意見聴取は、教務部が実施する授業公開（資料9-1-②-8）の際のアンケートや、クラス父母懇談会での意見聴取によって行われている。授業公開アンケートの結果は教職員集会（Weekly）において全教職員に公開されており（資料9-1-②-9）、クラス父母懇談会での意見はクラス担任を通じて集められ、学校運営会議（AMC会議）に報告され、対応が検討されている（資料9-1-②-10, 11）。

卒業・修了生および就職先等の関係者からの意見聴取は、各学科が独自に行っている状態で、集められた意見を学校全体で共有するシステムは存在していない。

外部有識者による意見聴取（外部評価）に関しては、平成17年にサレジオ高専外部評価（資料9-1-②-12）を、平成20年に機関別認証評価（資料9-1-②-13）を実施したのみで現在まで実施されていない。

授業公開のお知らせ

資料9-1-②-8

平成23年度 第1回公開授業について（お知らせ）

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。さて、すでに年間行事予定にてお知らせいたしております通り、本年度も「公開授業」について、下記のように実施いたします。

なお、公開期間中は通常の学校状態ですので、来校された方を特別にご案内する担当者はおりません。ご不便等おかけすることと思っておりますが、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

記

実施趣旨	開かれたサレジオ高専を目指すとともに、日常の教育業務を公開することで教育の改善の一助とする。
公開期間	平成23年 4月29日（金）「昭和の日」 ※ 秋季11月14日（月）～18日（金）にも実施します
公開内容	準学士課程（本科）ならびに学士課程（専攻科）の金曜日授業 授業をしている教室にご自由にお入りになり、見学することができます。
公開対象	本校に在籍する全ての学生の保護者

期間中に来校された方にはアンケートをお願いいたします。ご協力下さい。

時間割、教室配置図などはホームページにて、4月22日（金）から公開いたします。

恐れ入りますが、以下の入力の上、ホームページをご利用くださいますようお願いいたします。

ID: PW:

※ ID, PWの取り扱いには、くれぐれもご注意ください。

<ご注意願いたいこと>

- 駐車場はご用意できませんので、車での来校はご遠慮ください。
- 入口は1階です。また、来校の際は入校証をお忘れなきようお願いいたします。
- 実験・実習等見学される場合は、汚れる場合もあります。ご注意ください。
- 体育館アリーナは土足では上がりません。別途履物をご用意ください。
- 個人情報保護のため、授業風景の撮影はご遠慮ください。
- 選択科目については、事前にどの科目を履修しているのかご確認ください。

以上

（出典 教務部作成資料）

授業公開アンケート結果の公開に関する資料

資料 9 - 1 - ② - 9

教務部 第011号
平成 23年 05月 23日

■ 教務連絡

(★印はWeeklyフォルダ内にPDF資料があります。)

教務主事

【学生関連】

休学・退学・転入学
公欠・長欠関係なし
share > 教務文書 の「教務_H23学生公欠等一覧表」を参照

【教員関連】

出張状況および報告
非常勤講師向け告知share > 教務文書 の「教務_H23出張等一覧.xls」を参照
★ 教務008_欠勤時の対応と報酬減額について

【授業関連】

時間割変更連絡

share > 教務文書 > 2011年度_時間割変更連絡

授業公開アンケート

★ 110429_授業公開アンケート結果

回答者の70%は新生生の保護者
 おおむね好意的な意見、新しい学校での様子に安心したとの感想
 授業の雰囲気： 良い 72%、普通 26%、要改善 2%
 授業の内容： 満足 63%、普通 33%、不満 2%、無回答 2%

- ・ 4年になると仕方がないが、3年までは始業のあいさつでだらけさせないように躡けてほしい
- ・ 子どもたちが主体的に参加できる授業というのは難しいのでしょうか？大学の講義のようで退屈でした。
- ・ 小学校や中学校では、チャイム着席を指導されてきました。しかし始業時刻になっても教室は騒然としており、先生がいらしてスタートしたのは10分後でした。欠席や遅刻について厳しくご指導くださることは、将来社会人となったときにとても役立つものですので、ありがたいご指導と捉えておりましたが、上記の点がとても残念に思えました。

【月間予定】

5月 23日 (月)	認定報告(5月期)締切 (正午)	<教務部>
	※ 全学年対象：インターンシップ参加予定学生はこの回での条件解除が必要	
5月 28日 (土)	前期中間試験① おやじの会	<校長>
5月 30日 (月)	前期中間試験② 教務条件解除通知(5月期)	<教務部>
5月 31日 (火)	前期中間試験③	
6月 1日 (水)	前期中間試験④	
6月 2日 (木)	前期中間試験⑤ 4年研修旅行事前講習会	<学生部>
6月 3日 (金)	火曜日授業 ※ 裁量取得不可：出勤しない場合は休暇届が必要	
6月 4日 (土)	センター追試 キャリアデー	<教務部> <キャリアセンター>

(出典 2011. 5. 23 教職員集会資料より抜粋)

学校運営会議（AMC会議）における父母懇談会報告（1）

資料 9 - 1 - ② - 10

サレジオ工業高等専門学校

AMC 会議記録 AMC2010XXX

日時	平成 23 年(2011)7 月 4 日(月) 18:00~19:30	場所	校長室(201)
出席者	小島校長、平岡副校長、木戸事務長、石田教務主事、富田学生主事、中田宗務主事、大藤専攻科長、横山(書記)		
資料	1. 父母懇談会報告書抜粋 2. 緊急時アンケート集計結果 3. 非常勤教員のアカウント権限に関する審議願い 4. 非常勤教員採用手順書(案) 5. 消費電力比較 6. 事務長通達 23-6		
	1. 父母懇談会報告書まとめ・・・石田学生主事 <ul style="list-style-type: none"> ・ 別紙資料のように 6 月 25 日の父母懇談会報告書からの抜粋報告。 ・ 担当部署は石田先生記入(ここかなど?) ・ 数点問題がある報告事項がある。 		
	2. 緊急時アンケート結果・・・事務長 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生に対する個人情報調査の裏面でアンケートを取り、その結果を別紙のように集計した。 ・ この結果を今後の危機管理マニュアルの参考資料として担当部署に提供 		
	3. 非常勤講師のアカウント権限・・・石田教務主事 <ul style="list-style-type: none"> ・ emc に提出したが amc 案件ということで ご審議をお願いしたい。 ・ 別紙資料にあるように非常勤教員のアカウント権限を専任教員と同等にしたい。 ・ 新システムでの権限を同等にするのは保留し様子をしばらくみてからでもいいのでは ・ この件については一旦保留とし今回は否とする。 ・ 既存システムでの暫定処理方法を確認する。(事務長が) 		
	4. 非常勤講師の採用手順(案)・・・平岡副校長 <ul style="list-style-type: none"> ・ 別紙資料のとおり採用手順案をまとめた。 ・ (3)は現在勤務している非常勤講師に対する条項 ・ 選考委員会のメンバーに副校長を入れることに変更 ・ 副校長が結果を amc に報告し校長裁可を仰ぐ。 		
	5. 専攻科一般入試専攻について・・・大藤専攻科長 <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月 2 日(土)一般入試を行った。 ・ 電気工学科の山口君が受験 ・ 成績は英、数は 60 点、小論文は 80 点、面接は A ・ 専攻科会議より合格で承認を頂きたいとの事 ・ 合格を承認 		
	6. 消費電力比較報告・・・事務長 <ul style="list-style-type: none"> ・ 別紙資料のように消費電力比較をする。 ・ 順調に節電効果が表れている。 ・ 7 月 1 日より契約電力 612kwh となっている。 ・ 最大電力を抑えるのが目標である。 ・ 南棟と北棟で設定温度を考慮できないか? 		

(出典 2011.7.4 学校運営会議議事録より抜粋)

学校運営会議（AMC会議）における父母懇談会報告（2）

父母懇談会(6/25)報告書から抜粋

解決	クラス	質問・要望・意見等	担当部署
<input checked="" type="checkbox"/>	1A	野尻湖SCはスクール水着しかだめか	
<input checked="" type="checkbox"/>		野尻湖の気温は?	
<input checked="" type="checkbox"/>		野尻湖SC持ち物の指定Tシャツとは	
<input checked="" type="checkbox"/>		連絡網の電話番号変更要望	
<input type="checkbox"/>		2チャンネルの本校スレッドに高専についての良くない話題や、公序良俗に反する内容があるが大丈夫か?	学生部?
<input checked="" type="checkbox"/>	1B	野尻湖サマーキャンプでデジカメ持参は可なのか?	
<input checked="" type="checkbox"/>		プロジェクトに熱心に参加しているがどうしても帰宅が遅くなってしまふクラブに今から入部させたいが大丈夫か?特に学業との両立は可能か?	
<input checked="" type="checkbox"/>	1C	野尻湖キャンプの靴はスニーカーなしでトレッキングシューズでもよいか。	
<input checked="" type="checkbox"/>		アトピーがひどいため紫外線を受けないため服を着て泳いでよいか。	
<input checked="" type="checkbox"/>	1D	野尻湖SCにおける持参品について	
<input type="checkbox"/>		学生募集のセールスポイントは何か?	入試広報室
<input type="checkbox"/>		下校時の電車不通の際の対応は?	教務部 学生部
<input checked="" type="checkbox"/>		クラブとプロジェクトの両立は可?	
<input checked="" type="checkbox"/>		校長の年齢はいくつ?	
<input checked="" type="checkbox"/>		チャレンって何?	
<input checked="" type="checkbox"/>		司祭はどんなことするの?	
<input type="checkbox"/>	2AD	7月の学習指導期間とSSの時には学食は営業しているのか	事務部
<input type="checkbox"/>		各学年ごとに集合写真は撮らないのか。写真が保護者のところにこない。	学生部?
<input type="checkbox"/>	2EE	クラス父母のメーリングリストを作成したい ⇒ 対応する方向で進めたいと思います。	ブレ? メディア?
<input checked="" type="checkbox"/>		レポートの自宅学習時間の目安は?どのようにやらせればよいのか?	
<input checked="" type="checkbox"/>	2ME	各自の成績について(個別対応)	
<input checked="" type="checkbox"/>		成績不良科目についてどのように取り組ませれば良いのか?	
<input checked="" type="checkbox"/>		SSで受けたほうが良いものはどれか?	
<input type="checkbox"/>		危険物取り扱いがSSにないが、やってもらえないのか?	ME科? キャリア?
<input checked="" type="checkbox"/>		工房はEEしか利用できないと聞くがどうなのか?	
<input checked="" type="checkbox"/>		プロジェクト活動について、学生が何をやっているのが良くわからない。なぜEEだけ単位が出るのか?	
<input checked="" type="checkbox"/>	2CS	特になし	
<input checked="" type="checkbox"/>	3AD	特になし	
<input type="checkbox"/>	3EE	健康診断の結果を教えて欲しい(亀田) ⇒後日保健室で聞いてみる	事務部
<input checked="" type="checkbox"/>		緊急連絡網をいただきたい(学生からわたっていない)。	
<input checked="" type="checkbox"/>		反抗期の学生にどのように接していったらよいか	
<input checked="" type="checkbox"/>		その他勉強面での質問を頂き何れも納得いくようにアドバイスを行った	
<input checked="" type="checkbox"/>	3ME	3年次のインターンシップはあるのか? ⇒ 今年度は4年次のみ	
<input type="checkbox"/>	3CS	学生募集協力で紹介した学生とその保護者には何か特典がないのでしょうか?	入試広報室
<input type="checkbox"/>		東北地方太平洋沖地震の様な大きな地震が起きたときの学校側の対応はどうなっているのでしょうか?また、学生を強制的に帰宅困難者にするのでしょうか?	教務部 学生部
<input type="checkbox"/>		学校の放射線量を計測しているのでしょうか? 計測したのであれば結果を知らせてほしい。	事務部
<input checked="" type="checkbox"/>	4AD	今回は、授業関連や進路についてお話を聞きたいという要望がクラス役員からあったため、あらかじめ内容を準備し、ご担当の先生と一緒に参加していただき、お話をしてもらいました。 その中での質問がいくつかありましたが、その場でそれぞれのご担当の先生から回答を得ることができました。また、時間が長くなりましたが、保護者の方々からいろいろとお話を聞けてよかったですのご意見もいただきました。	
<input checked="" type="checkbox"/>	4EE	電気工士の2次の対策講座は?	
<input checked="" type="checkbox"/>		進路を考え始めるのはいつごろからがよいのか?	
<input checked="" type="checkbox"/>	4ME	研修旅行の服装について(「旅行者と一見でわかる服装とは?」)	
<input checked="" type="checkbox"/>		研修旅行の全般	
<input checked="" type="checkbox"/>	4CS	通知表の評価	
<input checked="" type="checkbox"/>		最近の進路状況	
<input checked="" type="checkbox"/>	5AD	就職・進学についてのご質問を受けた	
<input type="checkbox"/>	5EE	未提出	
<input checked="" type="checkbox"/>	5EC	問題があればどんどん注意して下さいという要望。	
<input checked="" type="checkbox"/>	5CS	特になし	

(出典 2011.7.4 学校運営会議資料)

平成17年度外部評価報告書（抜粋）

資料9-1-②-12

サレジオ工業高等専門学校

第1回 外部評価委員会 議事録

日 時	平成17年12月3日（土） 午後1時30分		
場 所	サレジオ工業高等専門学校 会議室（231号室）		
出席者	外部評価委員 (小計5名)	委員長 坂田 亮 委員 塩田 一路 委員 檜山 竹生 委員 入谷 弘 委員 金子 誠司	慶応義塾大学名誉教授 工学院大学教授 株式会社エイビット代表取締役 八王子市立長房中学校校長 元芝浦工業大学教授
	サレジオ高専 (小計13名)	田中 次生 小島 勉 木戸 能史 安藤 昭 今野 義孝 大杉 功 小西 均 高橋 孝 森 幸男 小出由起夫 小澤 潔 横山 松生 高田 英一	校長 副校長 教務主事 学生主事 寮務主事 専攻科長 デザイン工学科主任 電気工学科主任 電子工学科主任代理 情報工学科主任 事務長 事務総括部長 学事資料室担当
配布資料	① 外部評価委員会実施要項 ②学校要覧(2005) ③自己評価書(2005.10) ④ Info 2005 ⑤ Syllabus 2005 ⑥学校案内(2006)		

【議事】 司会：木戸 教務主事

1. 開会 (13:30)
2. 校長挨拶 田中校長
3. 会議出席者紹介 外部評価委員紹介 (小島副校長)
サレジオ高専側紹介 (木戸教務主事)
4. 学校概要紹介
 - ① 学校沿革説明 (校長)

設立の経緯、教育理念、校名変更に伴うシンボルマークのもつ意味合い

(出典 外部評価報告書(議事録))



(出典 本校ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

学校の構成からの意見聴取は、様々な機会を利用して行われている。特に学生からの意見聴取については、(観点に係る状況)で述べた以外にも、学級担任、科目担当者及びクラブ顧問等を通じて日常的に行われている。

学外関係者の意見の聴取に関しては、各部署が個別に行っている状況で、集められた意見を学校全体で共有できるシステムが存在していない。外部有識者による意見聴取(外部評価)に関しては、平成23年度より自己点検評価委員会にて議論を行い、平成24年より校長の諮問を受けて毎年行うことになっている。

以上より、学外関係者の意見聴取が十分であるとは言い難い。

観点9-1-③： 各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

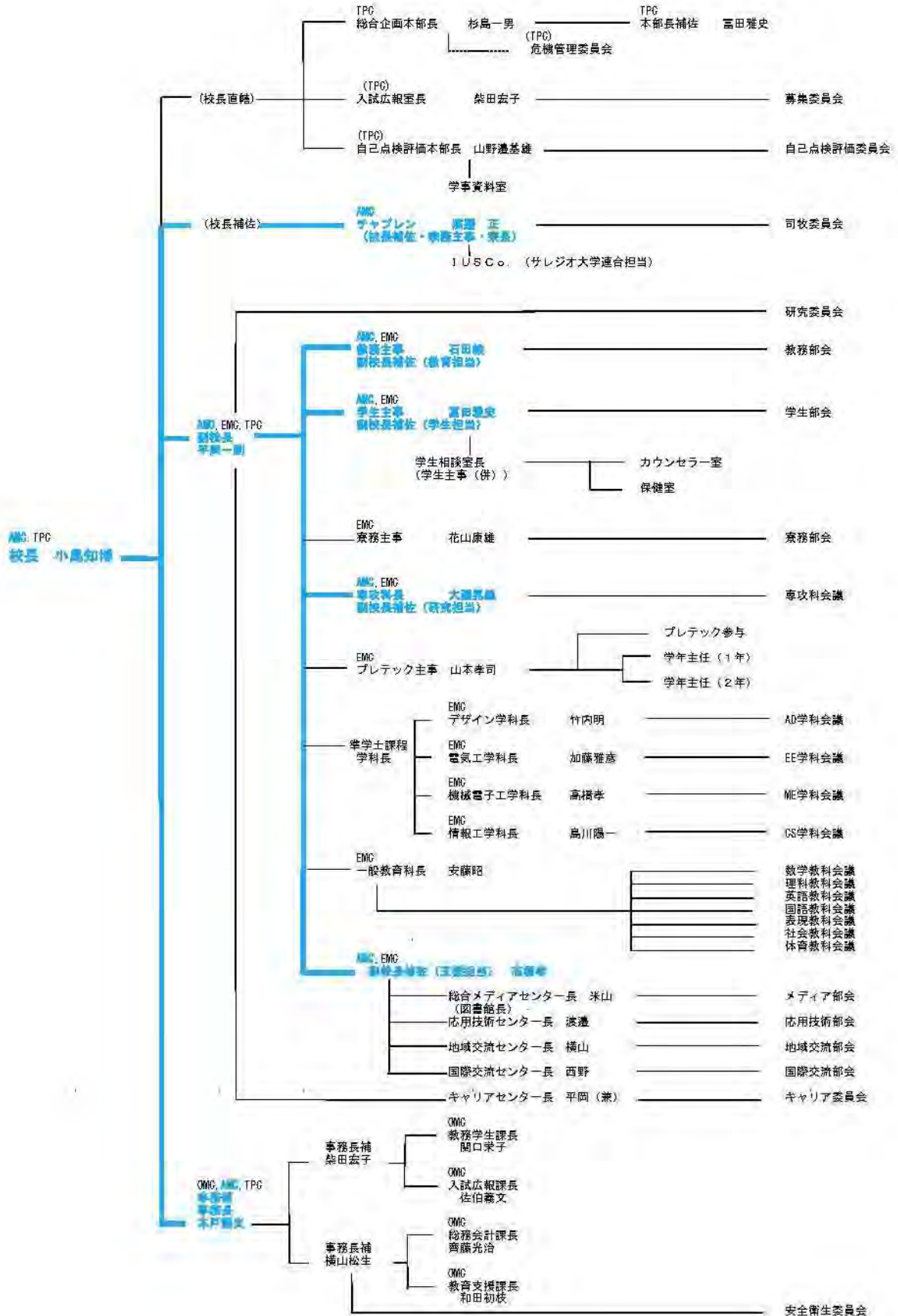
各部署が収集したデータ及び評価結果は適宜，学校運営会議（AMC会議）（資料9-1-③-1），教育運営会議（EMC会議）（資料9-1-③-2），総合企画会議（TPC会議）（資料9-1-③-3）および教職員集会（Weekly）において報告され，関係各部署に展開される体制になっている。

教育の質の向上，改善についての活動は，準学士課程各学科，一般教育科，専攻科が主体となり行われるが，これらの部署の間での調整が必要とされる場合や，部署を横断する取り組みが必要と判断される事案については，教育運営会議（EMC会議）において協議される（資料9-1-③-4）。さらに，教育支援部門（キャリアセンター，総合メディアセンター，応用技術センター，地域交流センター，国際交流センター及び学生相談室）との調整が必要とされる事案については，総合企画会議（TPC会議）において検討される（資料9-1-③-5）。また，教育運営会議（EMC会議）では調整がつかない事案に関しては，学校運営会議（AMC会議）（資料9-1-③-6）が最終調整を行う。これらの活動を通して策定された改善案のうち，教職員に対して周知させる必要があるものに関しては，教職員集会（Weekly）（資料9-1-③-7）での報告や説明会を実施している（資料9-1-③-8）。

教育課程の見直し等については，平成15年度から教育課程の検討作業が開始され，その結果を受け，平成17年度には，全校的な教育課程の見直しが行われた（資料9-1-③-9）。また，平成20年度には，電子工学科の学科名変更に伴う専門教育課程の見直しが行われ（資料9-1-③-10），電気工学科も専門教育課程の一部見直しを行った（資料9-1-③-11）。また，専攻科課程においても準学士課程の教育課程の見直しに対応して，カリキュラムの見直しが行われている（資料9-1-③-12）。

資料 9-1-③-1

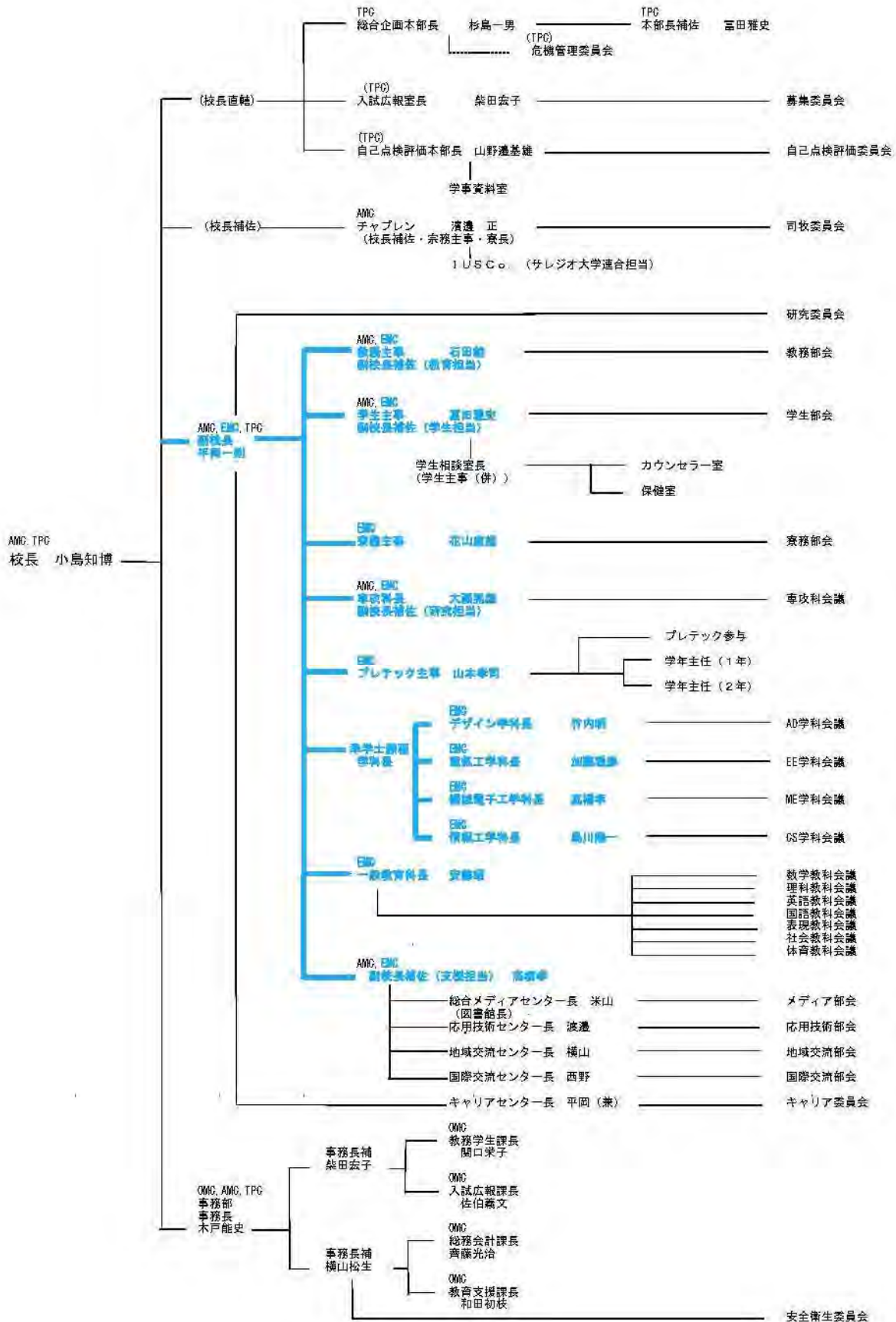
本校運営組織と学校運営会議（AMC会議）の関係



(出典 自己点検評価本部作成資料)

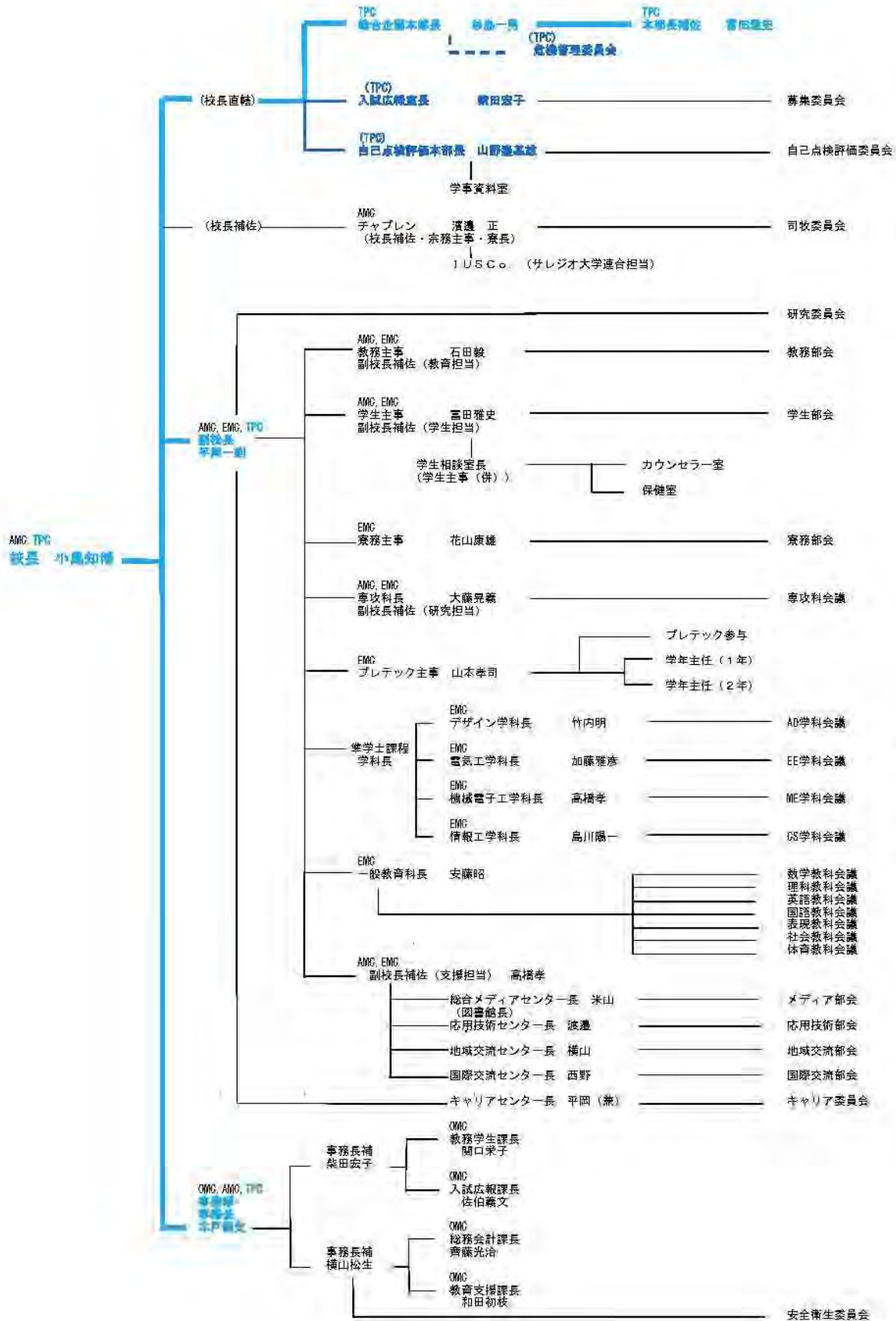
資料 9-1-③-2

本校運営組織と教育運営会議（EMC会議）の関係



(出典 自己点検評価本部作成資料)

本校運営組織と総合企画会議（TPC会議）の関係



(出典 自己点検評価本部作成資料)

教育運営会議規程

教育運営会議規程

(趣旨)

第1条 この規程はサレジオ工業高等専門学校学則第 11 条に基づき教育運営会議（以下「EMC 会議」という）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(召集と進行)

第2条 EMC 会議は副校長が召集し、会議の運営を行う。
2 EMC 会議の運営、進行については副校長補佐が行う。

(審議事項)

第3条 会議は以下の各号に定める事項を審議する。

1. 専攻科に関する事項
2. 準学士課程学科に関する事項
3. 一般教育に関する事項
4. プレテックに関する事項
5. 寮務に関する事項
6. 学校運営会議（AMC 会議）の報告
7. 所属する部署間の連絡調整
8. 他の部署会議との連絡調整
9. その他、召集者が必要とする事項

(組織)

第4条 EMC 会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 副校長
2. 副校長補佐
3. 教務主事
4. 学生主事
5. 寮務主事
6. 専攻科長
7. 各学科長
8. 一般教育科長
9. プレテック主事
10. その他、召集者が必要と認める者

(委任等)

第5条 EMC 会議は、第 4 条に掲げる者が欠けるとき、代理出席または委任を必要とする。

(議事録)

第6条 EMC 会議の記録は議事録として何らかの媒体に残すものとする。
2 議事録を作成するものは EMC 会議の召集者によって指名される。
3 議事録は公開を原則とし、召集者の判断によって必要あるとき、その全部または一部を秘匿することができる

(合議)

第7条 EMC 会議の議決は、代理出席者と委任を合わせて全員の出席の下で、3 分の 2 以上の賛成で合意とする。ただし異なる意見がある場合は議事録に残すことができる。
2 EMC 会議の議決結果をもって関連部署に展開する。また必要に応じて学校運営会議（AMC）に報告する

(細則)

第8条 その他本 EMC 会議の運営上、必要な取り決めごとは第 4 条に掲げる者の申し合わせとして議事録に残す。

附則

1. 本規程は平成 20 年 4 月 1 日より実施する。
2. 本規程は平成 24 年 4 月 1 日より改正実施する。
3. 本規程の改定は第 4 条に掲げる者の合議により行い校長に届け出る。

(出典 教育運営会議規程)

総合企画会議規程

資料 9 - 1 - ③ - 5

総合企画会議規程

(趣旨)

第1条 この規程はサレジオ工業高等専門学校部署設置規程第 42 条に基づき総合企画会議（以下「TPC 会議」という）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(召集と進行)

第2条

- 1 TPC 会議は校長が召集する
- 2 TPC 会議の運営、進行については総合企画本部長がこれにあたる。

(審議事項)

第3条 TPC 会議は以下の各号に定める事項を審議する。

1. 総合企画本部に関する事項
2. 入試広報室に関する事項
3. 自己点検評価本部に関する事項
4. 本部間で調整を要する事項
5. 教育部門、支援部門との間で調整を要する事項
6. その他校長が必要とする事項

(組織)

第4条 TPC 会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 校長
2. 副校長
3. 事務長
4. 総合企画本部長
5. 総合企画本部長補佐
6. 必要に応じて自己点検評価本部長、入試広報室長
7. その他、召集者が必要と認める者

(委任等)

第5条 TPC 会議は、第 4 条に掲げる者が欠けるとき、代理出席または委任を認める。

(議事録)

第6条

- 1 TPC 会議の記録は議事録として何らかの媒体に残すものとする。
- 2 議事録を作成するものは TPC 会議の召集者によって指名される。
- 3 議事録は公開を原則とし、召集者の判断によって必要あるとき、その全部または一部を秘匿することができる

(合議)

第7条

- 1 TPC 会議の合意は出席者全員によるものとする。
- 2 TPC 会議の召集者が必要と認めるときは審議事項について賛否を問い、その結果を TPC 会議の決議とすることができる。
- 3 前項の場合の議決のルールは第 4 条に掲げる者の申し合わせとする

(細則)

第8条 その他本 TPC 会議の運営上、必要な取り決めごとは第 4 条に掲げる者の申し合わせとして議事録に残す。

附則

1. 本規程は平成 21 年 4 月 1 日より実施する。
2. 本規程は平成 24 年 4 月 1 日より改正実施する
3. 本規程の改定は第 4 条に掲げる者の合議により行い校長に届け出る。

(出典 総合企画会議規程)

学校運営会議規程

学校運営会議規程

(趣旨)

第1条 この規程はサレジオ工業高等専門学校学則第 11 条に基づき学校運営会議（以下「AMC 会議」という）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(召集と進行)

第2条 AMC 会議は校長が召集し、会議の運営を行う。

2 AMC 会議の進行については召集者が別に指名することができる。

(審議事項)

第3条 会議は以下の各号に定める事項を校長の諮問を受けて審議する。

1. 教育に関する事項
2. 研究に関する事項
3. 学生に関する事項
4. 教員に関する事項
5. 職員に関する事項
6. 常任理事会の報告
7. 3 本部会議の報告
8. EMC 間の報告と調整
9. その他、召集者が必要とする事項

(組織)

第4条 AMC 会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 校長
2. 副校長
3. 事務長
4. チャプレン（校長補佐）
5. 教務主事（副校長補佐）
6. 学生主事（副校長補佐）
7. 専攻科長（副校長補佐）
8. 副校長補佐（支援）

(委任等)

第5条 AMC 会議は、第 4 条に掲げる者が欠けるとき、代理出席または委任を認める。

(議事録)

第6条 AMC 会議の記録は議事録として何らかの媒体に残すものとする。

- 2 議事録を作成するものは AMC 会議の召集者によって指名される。
- 3 議事録は公開を原則とし、召集者の判断によって必要あるとき、その全部または一部を秘匿することができる

(合議)

第7条 AMC 会議の合意は出席者全員によるものとする。

- 2 AMC 会議を運営する者が必要と認めるときは審議事項について賛否を問い、その結果を会議の答申することができる。

(細則)

第8条 その他本 AMC 会議の運営上、必要な取り決めごとは第 4 条に掲げる者の申し合わせとして議事録に残す。

附則

1. 本規程は平成 20 年 4 月 1 日より実施する。
2. 本規程は平成 24 年 4 月 1 日より改正実施する。
3. 本規程の改定は第 4 条に掲げる者の合議により行い校長に届け出る。

(出典 学校運営会議規程)

教職員集会 (Weekly) 規程

教職員集会 (Weekly) 規程

(趣旨)

第1条 この規程は学則第11条に基づき教職員集会(通称 Weekly といひ以下集会と称す)の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(召集と進行)

第2条 集会は校長が原則隔週初めの月曜日に召集し、集会の運営を行う。

- 2 校長は必要とするとき臨時に召集することができる。
- 3 校長は周知すべき内容によって教員または職員のための集会に替えることができる。
- 4 集会の進行については召集者が別に指名することができる。

(審議事項)

第3条 集会は以下の各号に定める事項等を報告、告知することで教職員に周知することを目的とする。

1. 校長の指針に関する事項
2. 教務主事の所管に関する事項
3. 学生主事の所管に関する事項
4. 事務長の所管に関する事項
5. その他の部署に関する事項

(組織)

第4条 集会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 専任教員
2. 専任職員
3. その他召集者が必要とする者

(連絡等)

第5条 集会に欠席した教職員は別途集会の情報を得る者とする

(議事録)

第6条 集会の記録は集会記録として何らかの媒体に残し公開を原則とする。

- 2 集会記録を作成するものは会議の召集者によって指名される。

(合議)

第7条 この集会においては合議、決議を行わない

(細則)

第8条 その他本集会の運営上、必要な事項は校長が AMC に諮問して決める。

附則

1. 本規程は平成 20 年 4 月 1 日より実施する。
2. 本規程の改正は校長が AMC に諮問して行う
3. 第 2 条の 2 については総合企画本部長がその任にあたる。
4. 第 6 条の 2 については総合企画本部長補佐がその任にあたる。

シラバス説明会資料（抜粋）

シラバス様式変更に伴う説明会資料（加筆修正版：12/01/30）自己点検本部
教務部

1. シラバス様式変更の目的

- 学科教育目標やJABEE基準との対応を記載する項目が必要である
- 単位時間ではなく実時間数での計算が求められている
- シラバスを活用した「準備学習」を促進する仕組み作りが求められている

2. 主な変更点

- 従来の「シラバスシステム」使用を一時的に中止する。
- 様式が確定するまで、MS-Excelでの作成および管理とする。
- 記入項目の一部をプルダウンによる選択入力とする。
- 新たに『授業形態の時間内訳』の項目を追加する。
- 従来の『到達目標』と『評価方法』の欄を広げ、詳細に記述できるようにする。
- 従来の『授業計画』欄を拡大し、授業計画と学習達成項目の関連を記述する。
- 従来の『コマ数』に加えて、実時間での『時間数』も合わせて記述する。

3. 作業日程

1. 1月30日(月)までに下記の場所に「シラバス雛形」を用意します。
(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【依頼】
2. 2月27日(月)までに下記の提出用フォルダにシラバス案を提出してください。
(運営)教務部 > 教務汎用フォルダ > シラバス2012【提出】
3. 複数クラスで横並び開講する場合でも、原則、クラスごとに別のファイルを作成してください。ただし、1年生の混成学級については、例外的に学年で1つのシラバスで結構です。シラバス案提出の際には、ファイル名を「クラス名_科目名_作成者.xls」としてください。
eg. 1年混成「現代社会」の場合 「1xx_現代社会_山舘.xls」
1CS専門「情報工学概論」の場合 「1cs_情報工学概論_山野辺.xls」
4年選択必修「選択英語IV」の場合 「4xx_選択英語IV_野島.xls」
4-5年・選択B群「韓国語I」の場合 「4-5xx_韓国語I_石田.xls」
4. 選択科目D群で前期/後期に同一科目を提供する場合は、1つのシラバスで結構です。ただし、内容が異なる場合には、それぞれ別々のシラバスをご用意ください。
5. 同一科目内で実技と保健、また複数種目がある「体育」は、成績評価などの方法が明確になるよう、1つのシラバスにまとめてください。
6. AD科の科目で同一科目がコース別に提供されている場合には、科目名のあとに(G), (I), (P)の記号をつけて、別科目のシラバスを作成してください。（評価方法が異なるため、実質的な選択必修と判断）
7. 学科長は、3月中に学科担当のシラバスを確認してください。修正が必要な場合には、作成者に問い合わせの上で修正を依頼してください。
8. 時間割確定後に『オフィスアワー』『教育目標との対応』欄を追記してください。

(出典 本校校内限定ウェブサイト)

教育課程見直し前後の教育課程表 (抜粋)

資料 9-1-③-9 その 1

見直し前

一般科目一覧(2004年度入学以前)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	国語	9	3	3	2	1	
	倫理	1	1				
	倫理社会	1			1		
	現代社会	2	2				
	歴史	2		2			
	基礎数学Ⅰ	3	3				
	基礎数学Ⅱ	3	3				
	代数幾何学	3		3			
	微分積分学	3		3			
	確率統計学	2			2		
	解析学	4			4		
	化学	5	2	3			
	物理	5	2	3			
	保健体育	5	3	2			
	体育	4			2	1	1
	英語	13	3	3	3	2	2
	英会話	5	2	2	1		
		0					
履修単位計		70	24	24	15	4	3

選 択 科 目	語 学 系	ドイツ語Ⅰ	4				2	
		ドイツ語Ⅱ						2
		スペイン語					2	
		英会話					2	
		韓国・朝鮮語					2	
		工業英語					2	
		日本文学					2	
		社会学系		4	法学			
	社会学					2		
	心理学					2		
	人間論					2		
	宗教学					2		
	経済学					2		
	英米文化論					2		
	開設単位計		28	0	0	0	26	24
	履修単位計		8	0	0	0	4	4
	履修単位合計		78	24	24	15	8	7

○ 選択科目 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること

見直し後

資料 9-1-③-9 その 2

電気系(EE・EC・CS)一般科目(2005年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	国語	7	2	2	2	1	
	表現	2	2				
	倫理	2	1		1		
	情報倫理	2	2				
	現代社会	2	2				
	歴史	2		2			
	基礎数学Ⅰ	4	4				
	基礎数学Ⅱ	3	3				
	代数幾何学	3		3			
	微分積分学	3		3			
	確率統計学	2			2		
	解析学Ⅰ	4			4		
	化学	5	2	3			
	基礎物理Ⅰ	2		2			
	基礎物理Ⅱ	2		2			
	物理	2			2		
	保健体育	4	2	2			
	体育実技	6			2	2	2
	英語	16	6	6	4		
	TOEIC英語	2				2	
選択英語	4				2	2	
履修単位計		79	26	25	17	7	4

選 択 科 目	A群	有機化学	0 ~ 2			2		
	B群	イタリア語Ⅰ	0 ~ 4				2	
		イタリア語Ⅱ						2
		中国語Ⅰ					2	
		中国語Ⅱ						2
		韓国語Ⅰ					2	
		韓国語Ⅱ						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本文学					2	2
		C群		法学	2			
	経済学							2
	開設単位計		30	0	0	2	12	16
	履修単位計		2 ~ 8	0	0	0 ~ 2	0 ~ 2	2 ~ 4
履修単位合計		81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8	

- 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること
○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず習得すること

※ 選択科目群の科目は平成18年4月現在の開講予定科目である

(出典 平成19年度シラバス)

電子工学科の学科名変更前後の教育課程表 (抜粋)

資料 9 - 1 - ③ - 10 その 1

見直し前

電子工学科(EC)科目一覧(2005年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	電気数学基礎	1	1					
	創造演習	9	3	2	2	2		
	創造設計学	2						2
	電気回路Ⅰ	2		2				
	電気回路Ⅱ	2			2			
	電気回路Ⅲ	2				2		
	電気磁気学Ⅰ	2			2			
	電気磁気学Ⅱ	2				2		
	電子計算機	2		2				
	アルゴリズム論	2			2			
	計算機プログラミング	2				2		
	通信工学	2			2			
	アンテナ工学	2				2		
	通信伝送工学	2						2
	電気通信法規	1						1
	電子回路Ⅰ	2			2			
	電子回路Ⅱ	2				2		
	制御工学	2						2
	電子機器学	2						2
	電子部品・材料	2			2			
	電子物性	2				2		
	半導体デバイス	2						2
	電子計測	2				2		
	信号処理	2						2
	音響工学	2						2
	工学基礎	3		3				
	電子工学実験	12			4	4	4	
	解析学Ⅱ	2					2	
	線形代数	2					2	
	物理学	2						2
技術者倫理	2						2	
卒業研究	8						8	
履修単位数計		86	7	10	18	24	27	

選択科目	D群	工業デザイン概論	0 ~ 4				1	1
		DTP概論					1	1
		信号と符号					1	1
		仮想現実					1	1
		材料基礎工学A					1	1
		材料基礎工学B					1	1
		機械要素設計A					1	1
		機械要素設計B					1	1
		情報システム					1	1
		Webプログラミング					1	1
		生物学概論					1	1
		力学					1	1
		開設単位数計		24	0	0	0	12
履修単位数計	0 ~ 4	0	0	0	0 ~ 2	0 ~ 2		
履修単位数合計	86 ~ 90	7	10	18	24 ~ 26	27 ~ 29		

一般科目履修単位数合計	81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8
専門科目履修単位数合計	86 ~ 90	7	10	18	24 ~ 26	27 ~ 29
履修単位数合計	167 ~ 177	33	35	35 ~ 37	31 ~ 35	33 ~ 37

※ 選択科目群の科目は平成20年4月現在の開講科目である。
 ※※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

見直し後

資料9-1-③-10 その2

機械電子工学(ME)科科目一覧(2008年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修科目	電気回路Ⅰ	2			2		
	電気回路Ⅱ	2				2	
	アナログ電子回路	2				2	
	デジタル電子回路	2					2
	電気磁気Ⅰ	2			2		
	電気磁気Ⅱ	2				2	
	計測工学	2					2
	制御工学	2					2
	電子計算機	2		2			
	アルゴリズム理論	2			2		
	計算機プログラミング	2				2	
	通信工学	2			2		
	アンテナ工学	2				2	
	電気通信法規	1					1
	工業材料	2			2		
	半導体デバイス	2				2	
	製図	1		1			
	機械加工	2			2		
	計算機援用設計	2			2		
	機構学	2				2	
	材料力学	2				2	
	機械デザイン	2					2
	信号処理	2					2
	音響工学	2					2
	工学基礎	3		3			
	機械電子工学実験	12			4	4	4
	創造演習	7		3	2	2	
	創造設計学	2					2
	解析学Ⅱ	2				2	
	線形代数	2				2	
物理学	2					2	
技術者倫理	2					2	
卒業研究	8					8	
履修単位計		86	7	10	18	24	27

選択科目	工業デザイン概論	0 ~ 4				1	1	
	DTP概論					1	1	
	信号と符号					1	1	
	仮想現実					1	1	
	材料基礎工学A					1	1	
	材料基礎工学B					1	1	
	機械要素設計A					1	1	
	機械要素設計B					1	1	
	情報システム					1	1	
	Webプログラミング					1	1	
	生物学概論					1	1	
	力学					1	1	
	開設単位計		24	0	0	0	12	12
	履修単位計		0 ~ 4	0	0	0	0 ~ 2	0 ~ 2
履修単位合計	86 ~ 90	7	10	18	24 ~ 26	27 ~ 29		

一般科目履修単位合計	81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8
専門科目履修単位合計	86 ~ 90	7	10	18	24 ~ 26	27 ~ 29
履修単位合計	167 ~ 177	33	35	35 ~ 37	31 ~ 35	33 ~ 37

※ 選択科目群の科目は平成20年4月現在の開講科目である。

※※ 選択科目D群の開講科目は変わることがある。

(出典 平成20年度シラバス)

電気工学科の見直し前後の教育課程表 (抜粋)

見直し前		電気工学科(EE)科目一覧(2005-2007年度入学)						
区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	電気磁気学	4		2		2		
	電気回路	8	2	2	2	2		
	電子工学	2			2			
	電子回路	2				2		
	情報処理	2			2			
	電子計算機	2				2		
	創造設計	1			1			
	ソーラーカー工学	2			2			
	メカトロニクス	2				2		
	CAD	2	2					
	電気機器	2			2			
	パワーエレクトロニクス	2				2		
	発変電工学	2				2		
	電力系統工学	2				2		
	高電圧工学	2					2	
	電気応用	2					2	
	電機設計	2					2	
	電気法規	2		2				
	計測工学	2			1		1	
	電気電子材料	2					2	
	自動制御	2					2	
	システム工学	2					2	
	通信工学概論	1					1	
	工学基礎	3	3					
	電気工学実験	12		3	3	4	2	
	応用物理	2				2		
	応用数学A	2				2		
	応用数学B	2					2	
	技術者倫理	2					2	
	卒業研究	8					8	
履修単位数計		83	7	9	15	24	28	
選択科目	E群	プロジェクト実習		1	1	1	1	1
	D群	機械工学				1		
		工業デザイン概論					1	1
		DTP概論					1	1
		信号と符号					1	1
		仮想現実					1	1
		材料基礎工学A	0 ~ 10				1	1
		材料基礎工学B					1	1
		機械要素設計A					1	1
		機械要素設計B					1	1
		情報システム					1	1
		Webプログラミング					1	1
		生物学概論					1	1
		力学					1	1
		開設単位数計		30	1	1	2	13
履修単位数計		0 ~ 10	0 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 2	0 ~ 3	0 ~ 3	
履修単位数合計		83 ~ 93	7 ~ 8	9 ~ 10	15 ~ 17	24 ~ 27	28 ~ 31	
一般科目履修単位数合計		81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8	
専門科目履修単位数合計		83 ~ 93	7 ~ 8	9 ~ 10	15 ~ 17	24 ~ 27	28 ~ 31	
履修単位数合計		## ~ ##	33 ~ 34	34 ~ 35	32 ~ 36	31 ~ 36	34 ~ 39	

○専門選択科目D群、学科選択E群および一般選択科目A・B群の中から卒業までに3単位以上修得すること

※ 選択科目群の科目は平成20年4月現在の開講科目である。

見直し後

電気工学科(EE)科目一覧(2008年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修 科目	電気磁気学 I	2		2			
	電気磁気学 II	2				2	
	電気回路 I	2	2				
	電気回路 II	2		2			
	電気回路 III	2			2		
	電気回路 IV	2				2	
	電子工学	2			2		
	電子回路	2				2	
	情報処理	2			2		
	電子計算機	2				2	
	創造設計	1			1		
	ソーラーカー工学	2			2		
	メカトロニクス	2				2	
	CAD	2	2				
	電気機器	2			2		
	パワーエレクトロニクス	2				2	
	発電工学	2				2	
	電力系統工学	2				2	
	高圧工学	2					2
	電気応用	2					2
	電機設計	2					2
	電気法規	2		2			
	計測工学 I	1			1		
	計測工学 II	1					1
	電気電子材料	2					2
	自動制御	2					2
	システム工学	2					2
	通信工学概論	1					1
	機械工学	1			1		
	工学基礎	3	3				
	電気工学実験 I	3		3			
	電気工学実験 II	3			3		
	電気工学実験 III	4				4	
	電気工学実験 IV	2					2
応用物理	2				2		
応用数学A	2				2		
応用数学B	2					2	
技術者倫理	2					2	
卒業研究	8					8	
履修単位数計		84	7	9	16	24	28

選択 科目	E群	プロジェクト実習		1	1	1	1	1	
	D群	工業デザイン概論						1	1
		DTP概論						1	1
		信号と符号						1	1
		仮想現実						1	1
		材料基礎工学A						1	1
		材料基礎工学B	0 ~ 9					1	1
		機械要素設計A						1	1
		機械要素設計B						1	1
		情報システム						1	1
		Webプログラミング						1	1
	生物学概論						1	1	
	力学						1	1	
	開設単位数計		29	1	1	1	13	13	
履修単位数計		0 ~ 9	0 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 1	0 ~ 3	0 ~ 3		
履修単位数合計		84 ~ 93	7 ~ 8	9 ~ 10	16 ~ 17	24 ~ 27	28 ~ 31		

一般科目履修単位数合計	81 ~ 87	26	25	17 ~ 19	7 ~ 9	6 ~ 8
専門科目履修単位数合計	84 ~ 93	7 ~ 8	9 ~ 10	16 ~ 17	24 ~ 27	28 ~ 31
履修単位数合計	## ~ ##	33 ~ 34	34 ~ 35	33 ~ 36	31 ~ 36	34 ~ 39

○専門選択科目D群、学科選択E群および一般選択科目A・B群の中から卒業までに2単位以上修得すること

※ 選択科目群の科目は平成20年4月現在の開講科目である。

(出典 平成 20 年度シラバス)

専攻科課程の教育課程見直し歴

	科目名 H18年度	履修 単位数	科目名 H19年度	履修 単位数	科目名 H20年度	履修 単位数
必修科目	生産システム特論(1年)	2	生産システム特論(1年)	2	生産システム特論(1年)	2
	論文講読(1年)	2	論文講読(1年)	2	論文講読Ⅰ(1年前期)	1
					論文講読Ⅱ(1年後期)	1
	専攻演習(1年)	2	専攻演習(1年)	2	専攻演習Ⅰ(1年前期)	1
					専攻演習Ⅱ(1年後期)	1
	専攻実験(1年)	2	専攻実験(1年)	2	専攻実験(1年)	2
	インターシップ(1年)	2	インターシップ(1年)	2	インターシップ(1年)	2
	英語Ⅰ(1年)	2	英語Ⅰ(1年)	2	英語Ⅰ(1年)	2
	英語Ⅱ(2年)	2	英語Ⅱ(2年)	2	英語Ⅱ(2年)	2
	特別研究(1・2年)	10	特別研究(1・2年)	10	特別研究(1・2年)	10
				技術者倫理	2	
				伝統文化特論	2	
選択科目	技術者倫理	2	技術者倫理	2	熱統計力学	2
	科学技術史	2	科学技術史	2	複素関数論	2
	スポーツマネジメント論	2	スポーツマネジメント論	2	数学特論	2
	熱統計力学	2	熱統計力学	2	量子力学	2
	複素関数論	2	複素関数論	2	材料科学	2
	数学特論	2	数学特論	2	組込技術要素特論	2
	現代物理学	2	現代物理学	2	エネルギー変換工学	2
	材料科学	2	材料科学	2	電力システム	2
	応用情報処理	2	応用情報処理	2	環境電磁工学	2
	エネルギー変換工学	2	エネルギー変換工学	2	機械工学概論	2
	電力システム	2	電力システム	2	バイオメカニクス	2
	環境電磁工学	2	環境電磁工学	2	信頼・安全性工学	2
	安全工学	2	安全工学	2	生産管理工学	2
	生産管理工学	2	生産管理工学	2	構造材料	2
	信頼性工学	2	信頼性工学	2	計測制御特論	2
	構造材料	2	構造材料	2	電気電子回路特論	2
	計測制御特論	2	計測制御特論	2	情報数学	2
	電気電子回路特論	2	電気電子回路特論	2	符号理論	2
	マルチメディア	2	マルチメディア	2	応用磁気工学	2
	データベース特論	2	データベース特論	2	半導体工学	2
	情報数学	2	情報数学	2	数理物理学	2
	離散数学	2	符号理論	2	機能材料	2
	応用磁気工学	2	応用磁気工学	2	コンピュータアーキテクチャ	2
	半導体工学	2	半導体工学	2	信号処理	2
	コンピュータアーキテクチャ	2	コンピュータアーキテクチャ	2	通信工学特論	2
	数理物理学	2	数理物理学	2	トラヒック理論	2
	機能材料	2	OR特論	2	応用通信特論	2
	信号処理	2	機能材料	2	パターン認識特論	2
	通信工学特論	2	信号処理	2	感性・環境特論	2
	システム設計特論	2	通信工学特論	2		
			トラヒック理論	2		
			応用通信特論	2		
			システム設計特論	2		

(出典 教務部作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

各種の評価結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムは整備されていると考えている。また，その結果，教育課程の見直しなど具体的な方策が講じられている。ただし，準学士課程と専攻科課程のつながりを検討するシステムが存在していない。これに対しては早急に対応する必要がある。

観点 9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

学生による授業アンケートの結果は、部署長を通じて各教員に配布されており、SMSに従って部署長との面談の際に授業改善について話し合われ、必要に応じて目標記述書に記載されている(資料 9-1-④-1)。この目標記述書は、年度末に教員が自ら行う評価と部署長の評価を経て学校に提出されるため、学校は目標記述書を通して改善状況の把握が可能である。他には個人業績一覧(資料 9-1-④-2)によっても把握が可能である。また、各学科とも学科独自の方法で組織的な改善を実施しており、デザイン学科では年間2回、全教員による授業レビューを実施している(資料 9-1-④-3)。電気工学科では、外部組織との交流及び得られた情報の教育への反映を学科として促している(資料 9-1-④-4)。機械電子工学科では、各教員が授業アンケートとは別に、達成度アンケートを実施し、教育の質の向上に役立っている(資料 9-1-④-5)。情報工学科では、教員同士による卒業研究のピアレビューを実施することにより、卒業研究の質的向上と指導の高度化を図っている(資料 9-1-④-6)。一般教育科では、教員同士がお互いの授業を見ることが出来る仕組みを取り入れ、授業方法の工夫を計っている(資料 9-1-④-7)。

各学科が実施している創意工夫された教育方法などは、平成23年度から試験的に始められた自己点検評価報告書によって把握することが可能となり(資料 9-1-④-8)、これを受けて全教職員にその内容が紹介されている(資料 9-1-④-9)。

資料 9-1-④-1

授業改善が目標記述書に記載されている例(抜粋)

23年度部署活動計画		部署名:	氏名:	部門長承認	達成度	難易度	ウェイト	部門長評価
部門目標	部署目標	目標値	活動予定(完了日)	実績報告				
目に見える形での学生の学力向上	真の基礎学力の向上。担当教科および実験・実習において次のことを行う。 ①読み…基礎学力の理解度を徹底 ②書き…論理的文章の記述力を育成 ③実習…実験・実習徹底で学生が電子・情報・ネットワーク技術を身につける	① 読み 基礎学力の向上に向けて ・線形代数(4年生)のドリルの作成 ・物理(3年生)の問題集および共通講義ノートの作成と一般教育・物理科との共有 ② 書き 論理的文章の記述力育成 ・情報工学科3～5年に対する文書作成プログラムの構築(H24年度から展開可能な形で)	H24.2.28	・線形代数(4年)の問題集(理解度確認問題) ・問題集は70%完成、共通講義ノートは完成、GE物理科との共有は未実施				
外部評価に耐える研究活動と業績の積み増し	各教員が他人頼みではなく、自ら行動して研究能力を身につける。 ・各自学会等の発表2件以上 ・外部の査読付論文投稿1件以上 ・論文採録1件 ・学会やプロジェクト活動等の充実1件以上	・教員のみ学会発表1件 ・学生と連名の発表(八王子産学等)2件 ・欧文学術雑誌(査読付)への投稿1件 ・研究紀要への投稿1件	H24.2.29	日本工学会協会年次大会口頭発表1件				
若き人材を社会に輩出(進路先確保) 教育研究成果の社会への還元(国際交流活動)	①キャリア教育およびサポート体制の充実 ②フィリピンのDBTCとの国際交流	①学科キャリア担当として従事 ・学科OB・OG座談会の開催(3回以上) ・進路資料の整理 ・キャリア業務の明確化 ②島川先生のサポート	H24.2.29	・座談会(キャリアデーと同時開催の5年生向けセミナー 1回、保護者向け進路セミナー 1回) ・OB訪問先リスト、現役学生進路活動リスト、学内LANで閲覧可能な面接問答集 ・学科内業務分担表及び業務フロー ・DBTCメンバーとの会合への参加				
経営力の強化	H24年度入学の情報工学科学生をH23年度と同程度以上にする	募集委員として従事	H24.2.29	秋季中学校訪問を実施せず				

(出典 平成23年度SMS資料)

平成 23 年度個人業績一覧表記入用紙

業績一覧票(2011年度分)

別表 1 業績一覧票(原票) 以下の表については平成22年度に一部配点等修正されている

通番	大分類	中分類	評価内容	内容を簡潔に(過去3年)	素点	自己評価	所属長評価	部門長評価	評点	素点	自己評価	所属長評価	部門長評価	評点
1-1	教育	授業改善	自分の授業の改善が進んだか		8					8	0	0	0	
1-2		科目指導	授業から科目、科目指導とマツたか		5					5	0	0	0	
1-3		公開講座	スクーリング等講座を担当したか		4					4	0	0	0	
1-4		卒特研指導	指導成果をあげられたか		4					4	0	0	0	
1-5		資格指導	学生の資格取得の指導をやったか		4					4	0	0	0	
1-6					25	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2-1	指導	学生指導	学生の生活指導をやったか		3					3	0	0	0	
2-2		担任業務	担任業務が適切にできたか		6					6	0	0	0	
2-3		クラブ指導	クラブ活動が適切に指導できたか		3					3	0	0	0	
2-4		課外指導	クラブ以外の学生活動を行ったか		3					3	0	0	0	
2-5					15	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3-1	研究	著作・論文	著作刊行、査読付論文を出せたか		10					10	0	0	0	
3-2		研究紀要	研究紀要に投稿したか		6					6	0	0	0	
3-3		研究発表	学会等発表を行ったか		5					5	0	0	0	
3-4		制作発表	制作発表を行ったか		3					3	0	0	0	
3-5		テーマ研究	テーマ研究を行ったか		3					3	0	0	0	
3-6		外部資金	科研費、産学連携資金を取得したか		3					3	0	0	0	
3-7					30	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4-1	管理	校務部会	教務、学生部会にかかわったか		5					5	0	0	0	
4-2		校務委員会等	委員会等にかかわったか		4					4	0	0	0	
4-3		他の校務分掌	他の校務分掌にかかわったか		3					3	0	0	0	
4-4		試験報告	試験報告を果したか		4					4	0	0	0	
4-5		入試	入試(募集・作問)に貢献したか		4					4	0	0	0	
4-6					20	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5-1	貢献	公的活動	公的機関の委員になった		2					2	0	0	0	
5-2		学会活動	学会の委員や運営にかかわった		2					2	0	0	0	
5-3		地域活動	地域貢献にかかわった		2					2	0	0	0	
		国際貢献	海外の関係機関との交流		2					2	0	0	0	
5-4		生涯教育	対外的生涯教育講座にかかわった		2					2	0	0	0	
5-5					10	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0

重み	評価	その指針	0	0	総点	0.0	0.0	0.0	総点	0.0
----	----	------	---	---	----	-----	-----	-----	----	-----

- 1.0 S 極めて成果を上げた
- 0.8 A 成果を上げた
- 0.6 B 従事した
- 0.4 C 協力した
- 0.0 D 関わらなかった

- 重み付け
- 教育 全体の25%とする
- 指導 全体の15%とする
- 研究 全体の30%とする
- 管理 全体の20%とする
- 貢献 全体の10%とする

それぞれ重み付けを行って総合点を100点としている

個人は2011年度分を記述する
 所属長は所属長欄に記述する
 部門長は自己評価と所属長評価を元に評価する

個人 の入力欄です。それ以外は触らないでください

所属長 の入力欄です。それ以外は触らないでください

部門長 の入力欄です。それ以外は触らないでください

SABCDは半角大文字です。

(出典 平成 23 年度 SMS 資料)

デザイン学科における授業改善の取り組み（抜粋）

資料 9 - 1 - ④ - 3

平成 23 年度 自己点検評価報告書（デザイン学科／工学科）

目的：課題作成/就職・進学用ポートフォリオまるめのため

利用状況：常に稼働している。

学生の学習支援ニーズの把握のための試みについて

該当なし

資格・検定試験等に対する支援について

デザイン学科では資格・検定試験に対する支援として、以下のことを実施している。

- カラーコーディネイター
内容：＜色彩学＞＜色彩構成＞の授業において、学生の受験を啓蒙している。
- DTP 検定
内容：選択授業「DTP 概論」受講生に対して、DTP 検定の受験を啓蒙している。

特別な支援が必要な学生に対する学習支援の試みについて

デザイン学科では次の学生に対して以下のような支援を実施している。

- 留学生
支援内容：該当するものはない。
- 3年・転学科生
支援内容：特に大きく遅れていることはなく、特別な支援を必要としていないと判断。
- 2年・転学科生
支援内容：スケッチ力が不足しているため、長期休暇中にデッサンをさせた。
- 学習障害がある学生
支援内容：該当するものはない。
- 身体的障害がある学生
支援内容：該当するものはない。
- 成績不振学生
支援内容：自宅学習が習慣化していないので、学内居残りで課題制作をさせた。

6. 教育改善について

教育の質の向上、改善のための試みについて

デザイン学科では教育の質の向上、改善のため次のような活動をしている。

- 年間 2 回、全教員による授業レビュー
実施内容：分科会形式で、学科長から提供する課題に対する論議を行い発表し、次のタームの授業にいかした。

(出典 平成 23 年度自己点検評価報告書（デザイン学科/工学科）)

電気工学科における授業改善の取り組み（抜粋）

平成 23 年度 自己点検評価報告書(電気工学科)

特別な支援が必要な学生に対する学習支援の試みについて

電気工学科では次の学生に対して以下のような支援を実施している。

- 留学生
支援内容：該当するものはない。
- 転入・転学科生
実験認定科目が未修得の場合、それらの科目についての補習を実施している（主に夏季休暇中に補講を行っている）。
- 学習障害がある学生
支援内容：特別な支援は行っていない。
- 身体的障害がある学生
支援内容：特別な支援は行っていない。
- 成績不振学生
支援内容：面接指導及び個別指導
長期休暇期間中に個別またはクラス単位で補習を実施している。また、試験前に少人数制の補講を実施している。

6. 教育改善について

教育の質の向上、改善のための試みについて

電気工学科では教育の質の向上、改善のため次のような活動をしている。

- 外部組織との交流及び得られた情報の教育への反映を促している。

7. その他、特徴的な活動について

- 展示会へ参加
目的：地域交流の一環として、種々な展示会やイベントに出展する。
内容：八王子の環境フェスティバルや町田のエコフェスタなど、地域のイベントに参加し、多くの人との交流を深め、また、多くの意見に触れることにより、コミュニケーション能力だけでなくプレゼンテーション能力なども養う。
- プロジェクト実習（選択科目）
目的：創造力、実践力、コミュニケーション力、問題解決能力の育成を行う
内容：各プロジェクトのテーマと目標を設定し、学年、学科の垣根を越えた技術的な活動を行うことで、創造力、実践力、コミュニケーション力、問題解決能力の育成を行う。

(出典 平成 23 年度自己点検評価報告書 (電気工学科))

機械電子工学科における授業改善の取り組み（抜粋）

資料 9 - 1 - ④ - 5

平成 23 年度 自己点検評価報告書(機械電子工学科)

- 身体的障害がある学生
支援内容：車椅子に見合った特注机を用意している。
支援内容：成績操行会議において授業担当教員が課題を共有し、個別に対応している。
- 成績不振学生
支援内容：成績操行会議において授業担当教員が課題を共有し、個別に対応している。

6. 教育改善について

教育の質の向上、改善のための試みについて

機械電子工学科では教育の質の向上、改善のため次のような活動をしている。

- 達成度アンケート調査
内容：達成度調査アンケートおよび授業アンケートの結果をフィードバックして教育の質向上・改善に役立てている。

7. その他、特徴的な活動について

機械電子工学科では、2010 年度より在校生の「ものづくり力」向上と「各種資格」取得を目的に学科オリジナルで学生を支援している。対象の学生は、1 年生から 5 年生である。

(1) 資格取得講座

在校生が在学中にスキルアップができるように資格試験講座を実施している。専任教員による講座のほかにもプロの技術者を外部講師としてお招きした資格取得の実技講習を開講している。労働安全衛生法に基づく技能講習は、学生のスキルアップだけでなく、ものづくりを行う際の安全衛生に対する啓蒙活動につながる。

(2) ものづくり講座

基礎（ツール）を知らなければ、ものづくりはできないという観点から、機械・電子工学に必要な実技演習を行い、ものづくり基礎力のベース UP を図っている。ものづくり講座は、前期の土曜日に実施している。そして、その成果として外部コンテスト・競技への参加、自主制作を推奨して学外との技術交流を推進している。アーク溶接特別教育講座を受けた学生は、「関東甲信越高校生溶接コンクール」に東京代表として出場している。

現在までに、【競技・コンテスト系】：①ソーラーバイクレース in 浜松、②山中湖アートイルミネーション、③TOKIWA ファンタジアイルミネーションコンテスト in 山口、④工学院大学電気で動く楽しいモノ作りコンテスト、【自主製作系】：①大型電光掲示板、②二足歩行、③カラフル音響 LED 等を製作している。

(出典 平成 23 年度自己点検評価報告書（機械電子工学科）)

情報工学科における授業改善の取り組み（抜粋）

資料 9 - 1 - ④ - 6

平成 23 年度 自己点検評価報告書(情報工学科)

- 転入・転学科生
支援内容：22年度は転入・転学科生は存在しなかったため該当する支援はない。基本的には履修していない科目で重要度の高いものについては夏休み等の長期休暇を利用して補講を行っている。
- 学習障害がある学生
支援内容：学科会議において、学生の個人情報に慎重な配慮を払いながら、随時対応処置を検討し実施している。その結果を再度議論するなど、積極的に対応している。
- 身体的障害がある学生
支援内容：該当する学生の障害の程度・能力におうじて授業上の配慮を行っている。
- 成績不振学生
支援内容：毎週月曜日に開催される学科会議において、成績不振者に対するフォローの仕方について検討している。また学生により補講処置や、研究室に来させて学習指導を行う処置を取ることもある。

6. 教育改善について

教育の質の向上、改善のための試みについて

情報工学科では教育の質の向上、改善のため次のような活動をしている。

- 卒業研究のピアレビュー
実施内容：卒業研究の質の向上のため、学生には7月と11月に2度の中間発表を行わせている。さらに卒業研究の内容の質的向上を図るため、中間発表に先立って卒研担当教員が学生の研究内容、方向性について記述した資料を事前に提出し、学科教員と研究の妥当性、および研究内容、方向性が明確か、指導が上手くいっているかについて、討論している。
これにより、学生の研究の質的向上と指導の高度化を図る。
- 基礎学力の理解度徹底
実施内容：電気電子・ハードウェア・ソフトウェア・基礎（数理）情報科目から、1科目選択し、試験・課題を洗い出した上で、学生の基礎力クリア標準を策定し、試行を行った。目標値は90%であったが、試行結果は、60%から85%となった。アプローチ自体は、良いと考えるが、達成度は不十分であり、さらに質的アップが必要である。これは継続的に効果の測定を必要とする。
- 論理的文章の記述力育成
実施内容：1年表現の授業から、一連する論理的文章の記述力育成シナリオを統一した。ただ実施した結果により成果を目に見える形にするには至っていない。
- 実験/実習レポート指導の徹底
実施内容：実験/実習レポート指導の徹底をするために、実験担当者だけでなく、担任がこれを把握し、複数教官が把握する体制を整えた。この方法でかなりの成果が上がったが、まだ不十分で、もう一步、努力が必要である。

(出典 平成 23 年度自己点検評価報告書 (情報工学科))

一般教育科における授業改善の取り組み（抜粋）

平成 23 年度 自己点検評価報告書(一般教育科)

資格・検定試験等に対する支援について

一般教育科では資格・検定試験に対する支援として、以下のことを実施している。

- 数学検定
内容：1年生全員に数学検定3級の受験と、サマースクーリングで対策講座の開設。
年3回の学内での検定試験の実施。過去問の印刷配布。
- 漢字検定・日本語検定
内容：漢字検定・日本語検定の学内での実施と、サマースクーリングでの対策講座の開設。
- TOEIC
内容：学内で TOEIC IP を年3回実施。また、低学年の学生には TOEIC Bridge を
学力試験等で実施。4年生に対しては、TOEIC 対策の選択授業を設定している。

特別な支援が必要な学生に対する学習支援の試みについて

一般教育科では次の学生に対して以下のような支援を実施している。

- 留学生
支援内容：日本語講座(国語)
- 転入・転学科生
支援内容：補習(化学)
- 学習障害がある学生
支援内容：ない。
- 身体的障害がある学生
支援内容：障害に応じて、テスト作成時の配慮(解答用紙の拡大)やテスト実施時の
パソコン使用の許可など。
- 成績不振学生
支援内容：補習授業の実施。

6. 教育改善について

教育の質の向上、改善のための試みについて

一般教育科では教育の質の向上、改善のため次のような活動をしている。

- ヒアリングの実施
実施内容：学生の授業評価に対する対応策等を、ヒアリングにおいて聞いている。
- 授業見学
実施内容：お互いの授業を見学し、意見交換する。(社会)
- ティームティーチング
実施内容：複数の教員による授業の中で、お互いの授業方法を工夫する。(英語・化学・物
理)

(出典 平成 23 年度自己点検評価報告書 (一般教育科))

自己点検評価報告書による創意工夫された教育法の報告例（抜粋）

資料 9-1-④-8

平成 23 年度 自己点検評価報告書(電気工学科)

特徴ある学習指導法の取組

- 1 年次科目「工学基礎」における試み [全学生対象]

目標：(1) 創造力, (2) 人間力 向上の達成

内容：実習テーマ「電動カートの製作」

学生達の自由な発想で設計した電動カートを学生自ら製作する。同実習は 5~6 名程度のグループワークにて行う。これにより、電気についての基礎知識を習得できるだけでなく、豊かな創造力、コミュニケーション力、実現力が育成できる。

- 3,4 年次科目「電気工学実験」における試み [全学生対象]

目標：(1) 創造力, (2) 人間力 向上の達成

内容：NEPS を利用した実験教育

10kW の実用規模の風力発電装置を用いて、より実践的な実験を行う（10 人程度のチームで実験を行う）。風力発電システムには種々な電気機器が使用されており、電気機器単体の学習では無く、総合的な学習を行うことができる。また、実験的検討に理論的な解析を付与することにより、実用規模の装置においても、理論が重要であるということを理解させることができる。

創造性を育む教育法の取組※ 多くて 3 つ程度

- 1 年次科目「工学基礎」における試み [全学生対象]

内容：実習テーマ「電動カートの製作」

学生達の自由な発想で設計した電動カートを学生自ら製作する。同実習は 5~6 名程度のグループワークにて行う。これにより、電気についての基礎知識を習得できるだけでなく、豊かな創造力、コミュニケーション力、実現力が育成できる。

- 2 年次科目「電気工学実験」における試み [全学生対象]

内容：実験テーマ「ミニチュアソーラーカーの製作と競技」

限られたエネルギー源を有効に運動エネルギーへと変換する課題として、太陽電池の発電電力によって走行する小型車両を製作し、実験グループごとに競争させる。太陽電池の基本特性を理解した上で、それをもの作りに反映させられる基礎力や車両を走行させるための試行錯誤を繰り返しながら作り上げていく実現力を育成し、競技として行うことで他者よりも良いものを作ろうと取り組ませるコンテスト型教育として実施している。

- 3 年次科目「創造設計」における試み [全学生対象]

内容：学科ロボコン

六足歩行ロボットを製作し、早歩きコンテストと格闘技選手権を実施する。全員が同じ目標に向かい、自分の意志で努力することにより総合的な人間教育に役立つと考えられる。また、指定された期日までにロボットを完成させるというスケジュール

(出典 平成 23 年度自己点検評価報告書 (電気工学科))

創意工夫された教育法の紹介（抜粋）

<スケジュール>

平成 24 年 9 月 26 日(水)

時 間	内 容
10:30	1. オープニング
10:45 ~ 12:15 (10:45 ~ 11:00)	2. 講演 本校における創造性を育む教育・特徴的な教育の事例報告(発表 10 分+質疑応答 5 分)
(11:05 ~ 11:20)	① 「AD オリジナルのサマーセミナー」 デザイン学科 比留間先生
(11:25 ~ 11:40)	② 「工学基礎「電動カートの製作」」 電気工学科 斉藤先生
(11:45 ~ 12:00)	③ 「創造性を育む教育の事例 機械電子工学科・創造演習」 機械電子工学科 富田先生
(12:05 ~ 12:20)	④ 「プロダクトマインドを育む教育」 情報工学科 清水先生
	⑤ 「「バリアフリー」な英語教育 …サレジオ高専の英語教育革命…」 一般教育科 椎名先生
休憩 12:20 ~ 13:00	
13:00 ~ 13:30	3. グループ討議 (7グループ) 午前の講演を基にこれからの教育に生かせること
13:30 ~ 14:00	4. 討議内容発表 (各グループ 3 分程度) 5. クロージング

(配布資料)

- 「AD オリジナルのサマーセミナー」
 - 「工学基礎「電動カートの製作」」
 - 「創造性を育む教育の事例 機械電子工学」
 - 「プロダクトマインドを育む教育」
 - 「「バリアフリー」な英語教育 …サレジオ
- ※ 本日の資料は ¥2012 年度¥(委員会)自
てあります。

1. 今回の FD 研修会の目的

平成27年度受審予定の機関別認証評価では高等専門学校評価基準 5(教育内容及び方法)において、「教育課程については、教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準において適切であり、社会の要請等に配慮していることが必要です。また、**教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていることが必要**」との趣旨から、「創造性を育む教育法の工夫が図られているか。」(観点5・2・③および5・6・③)が評価観点として挙げられています。また、JABEE における分野別要件(工学(融合複合・新領域))の勘案事項として「工学の基礎的な知識・技術を統合し、**創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力**」が挙げられています。

そこで、本年度の FD 研修会の目的は、各科において行われている「創造性を育む教育法」・「特徴的な教育法」の実践事例を紹介することにより、今まで各科内で共有されていた優れた試みを広く全科で共有することを目的としています。このことが、各科の今後の教育法をより優れたものにするための助けになることを願っています。

2. 研修会の流れ

(午前)

本科 4 学科+一般教育科から「創造性を育む教育法」・「特徴的な教育法」の実践事例を紹介して頂きます。発表前に自己点検評価委員会からポイントを説明いたします。

(午後)

グループに分かれて討議をしていただきます。この討議の目的は講演で聞いた優れた手法等を整理して、ご自分の科で展開するための足がかりにすることです。自由に話し合ってみてください。討議の後には各グループ 3 分程度で討議内容を発表して頂きます。また、討議の議事録(メモでも結構です)を後日ご提出ください。

(出典 平成 24 年度 FD 研修会配布資料)

(分析結果とその根拠理由)

個々の教員の改善活動は、目標記述書や個人業績一覧表から確認可能であり、学校として把握されている。ただし現在、授業改善を必ず目標記述書に記載する義務はなく、目標記述書に記載されない場合は、学校が具体的な授業改善内容を把握することは困難である。

以上より、学校として個々の教員の改善活動状況を完全に把握しているとは言い難い。

観点 9-1-⑤： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教員は授業やその他の校務分掌の他に、研究活動を行っている。これらの成果は、本校研究紀要での論文発表、著作物の刊行や国内外の各学協会における論文発表や口頭発表など、様々な方法で社会に還元されている。これらの成果は、年度ごとに業績一覧として研究委員会に報告されている(資料 9-1-⑤-1)。平成 22 年度のデータを集計すると学校全体で、著書 1 件、論文発表 43 件、口頭発表 129 件及びコンペ・展示会への出品 9 件となっている。これらの成果のうち、論文発表の 9 件(約 20%)、口頭発表の 72 件(約 56%)が卒業研究(準学士課程)と特別研究(専攻科課程)として行われているものである(資料 9-1-⑤-2, 3)。

業績一覧記入用紙

資料 9-1-⑤-1

2010年度(2010.04.01～2011.03.31)

著書・論文

	著者、タイトル、書名・雑誌名、巻・号、発行所、ページ、発行年、査読有無	*発行所は、雑誌の場合は不要
記入例	サレジオ太郎, サレジオ花子, 高等専門学校の英語教育, サレジオ工業高等専門学校研究紀要, 第36号, pp. 1-100, 2010, 査読無	
1		
2		
3		
4		

口頭発表

	著者、タイトル、大会・研究会名、主催機関、発表年
記入例	サレジオ太郎, サレジオ花子, 高等専門学校の英語教育, 第58回年次大会, 日本工学教育協会, 2010
記入例	サレジオ太郎, サレジオ花子, 高等専門学校の英語教育, 第2回大学コンソーシアム八王子学生発表会, 大学コンソーシアム八王子, 2010
1	
2	
3	
4	

特許

	産業財産権の名称、産業財産権の種類・番号、発明者、権利者、出願年月日、国内・国外、出願・取得
記入例	お手伝いロボット, 特願2010-123456, サレジオ太郎, サレジオ花子, 2010年1月3日出願, 国内, 取得
1	
2	
3	

コンペ・展示会への出品

	出品者、作品名、コンペ・展示会名、会場所在地、出品年
記入例	サレジオ太郎, 優雅なお手伝いロボット, 実用ロボット展示会, 神奈川, 2010
1	
2	
3	

(出典 研究委員会作成資料)

学生の論文発表の例（抜粋）

サレジオ工業高等専門学校研究紀要

第 37 号

目 次

<特別記事>

マレーシア高専留学プログラムでの予備教育変遷と課題・展望

ー 25 年間の高専留学プログラムでの理数科教育を例にー

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・伊藤 光雅・・・(1)

<学術研究>

ある二重ゼータ関数の解析接続について・・・・・・・・・・鎌野 健・・・(13)

ベジエ曲線の一考察・・・・・・・・・・・・・・・・山本 孝司・・・(17)

高専デザコンの指導に関する取り組み

・・・・・・・・・・菅原 由佳、杉島 一男、谷上 欣也・・・(25)

無添加 Bi₂Te₃ の高温における Te の解離・昇華に関する一検討

・・・・・・・・・・・・・・・・大杉 功、徳永 大輔、加藤 雅彦、米田 征司・・・(31)

都市水辺環境におけるユビキタスセンサネットワークの適用に関する一検討

・・・・・・・・・・・・・・・・吉田 将司・・・(35)

富山湾における沿岸センサネットワーク用ノードプイの開発と実証実験

・・・・・・・・・・・・・・・・吉田 将司、**長野 澄**、千葉 元・・・(41)

IH クッキングヒータが発する高周波騒音の解明

・・・・・・・・・・米盛 弘信、**藤原 章裕**、**平野 良幸**・・・(47)

<教育研究>

サレジオ高専機械電子工学科における

学科プロジェクトの発足とその教育効果に関する一報告

・・・・・・・・・・・・・・・・米盛 弘信、高橋 孝・・・(55)

創造実習科目でのグループリーダーを育成するための

プロジェクト活動におけるペアプログラミング導入に関する検討

・・・・・・・・・・内田 健、清水 哲也、吉村 晋・・・(61)

サレジオ工業高等専門学校研究紀要

第 38 号

目 次

<学術研究>

名詞を先行詞に取る関係詞whatの起源再考・・・・・・・・・・真島 顕子・・・(1)

アレッサンドロ・ヴァリニャーノとヴィンチェンツォ・チマッティ (I) 研究序説

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・村田 昌巳・・・(7)

不連続な係数を持つ強退化放物型方程式に対する初期値問題について

・・・・・・・・・・・・・・・・渡邊 紘・・・(13)

FeSi₂ 焼結体と銅板の接合条件の検討

・・・・・・・・・・正木 達也、加藤 雅彦、中村 恭之、大杉 功、塩田 一路、磯田 幸宏・・・(21)

はんだ接続強度の温度依存性・・・・・・・・・・**長谷川 貴洋** 平岡 一則・・・(25)

補聴器フィッティング検査のための語音聴力検査装置の開発

・・・・・・・・・・**吉永 英紀** 森 幸男、大藤 晃義・・・(31)

災害時を想定した電源を有し高齢者の動きと通信トラフィックとの相関を考慮した安否確認

・・・・・・・・・・吉野 純一、**野上 諒**、**齋藤 康人**、市村 洋・・・(37)

コモンモードチョークによるノイズ抑制と高速信号伝送の両立

・・・・・・・・・・・・・・・・斎藤 成一・・・(43)

<2010年度 教員研究活動報告>・・・・・・・・・・・・・・・・(51)

学生の口頭発表の例 (抜粋)

資料 9-1-⑤-3

一般部門	口頭発表	電気分野 2	page
タイトル	代表発表者 (所属)		
052	複合磁性微粒子を用いたスパイラルインダクタの開発の研究 若松賢人 (サレジオ工業高等専門学校 応用磁気研究室)		120
053	屋内におけるバッテリーレス駆動方式の一検討 野上諒 (サレジオ工業高等専門学校 電子通信研究室)		122
054	反応性スパッタリングによるCu ₂₀ /TiO ₂ 及びTiO ₂ /Cu ₂₀ 薄膜の光機能特性 鈴木優規他 (工学院大学 電気応用システム研究室)		124
055	太陽熱エネルギーを駆動源に用いたEVに関する研究 矢内拓他 (サレジオ工業高等専門学校 エネルギー変換研究室)		126
056	IHクッキングヒータ使用時に発生する高周波騒音の検証 平野良幸 (サレジオ工業高等専門学校 産業応用研究室)		128
057	ソーラーカーに適した太陽電池用最大電力点追尾装置の開発 太田温 (サレジオ工業高等専門学校 電気エネルギー研究室)		130
058	最適なピッチ角を有する可変翼枚数風力発電装置の提案 武藤隼人他 (サレジオ工業高等専門学校 エネルギー変換研究室)		132
059	2次元レーザセンサによるフレキシブル配線板の外観検査 野口大輔 (拓殖大学 画像センシング研究室)		134
060	エネルギー貯蔵装置としての電気冷蔵庫の基礎特性実験 (その2) 高橋晃平 (明星大学 仁田研究室)		136
061	Cuを添加したTiO ₂ 薄膜の光機能特性 佐藤彰俊 (工学院大学 電気応用システム研究室)		138
062	はんだ接続強度の温度耐性の分析 長谷川貴洋 (サレジオ工業高等専門学校 信頼性工学研究室)		140
063	小型衛星の地上局の開発 川名悠太 (東京工業高等専門学校 情報通信研究室)		142
064	超音波を利用した大気動き観測システムの開発 (ハードウェア) 神田雅泰 (東京工業高等専門学校 情報通信研究室)		144
065	マグナス波力発電装置のガイドベーンに関する検討 青木裕太他 (サレジオ工業高等専門学校 エネルギー変換研究室)		146
066	IHクッキングヒータにおける加熱コイルの冷却効果 相川和哉 (サレジオ工業高等専門学校 産業応用研究室)		148
067	種々のイオンビーム照射によるステンレス鋼の表面変化について 西勇人 (工学院大学 電気応用システム研究室)		150
068	FeSi ₂ 熱電半導体と銅板のろう材による接合 正木達也 (サレジオ工業高等専門学校 機能材料研究室)		152
069	熱電半導体Bi ₂ Te ₃ の高温における構造変化 徳永大輔 (サレジオ工業高等専門学校 電子材料研究室)		154

(出典 第2回大学コンソーシアム八王子学生発表会要旨集)

また、教員の研究には多くの教育研究が含まれており、全体に占めるその比率は、論文が約30%、口頭発表が約17%で、これらは国立高等専門学校機構が発行する論文集「高専教育」への掲載（資料9-1-⑤-4）や、日本工学教育協会主催の「工学教育研究講演会」において発表されている（資料9-1-⑤-5）。

資料9-1-⑤-4

発表論文の例

論文集「高専教育」第34号 2011.3

Don Bosco Technical College との教育・学術交流に関する検討

内田 健*1, 島川 陽一*1, 山野邊 基雄*1, 西野 隆司*2,
米山 秋文*3, 村田 昌巳*3, 小島 知博*3

A project of education and academic exchange with Don Bosco Technical College

Takeshi UCHIDA, Yoichi SHIMAKAWA, Motowo YAMANOBÉ, Ryuji NISHINO,
Akihumi YONEYAMA, Masami MURATA and Tomohiro KOJIMA

This paper reports on the development of the intercollegiate relationship between Salesian Polytechnic (SP) in Tokyo, Japan and one of its sister colleges Don Bosco Technical College (DBTC) in Mandaluyong, the Philippines. The paper first explains how the two institutions initiated the cultural exchange program, which has been a regular event since the year 2006, and how the program subsequently developed into an inter-departmental collaboration between the Department of Computer Science and Technology at SP and the Department of Computer Science at DBTC. The paper then discusses the future vision and agenda that the two institutions share for further development of the partnership: organizing short-term academic exchange programs between students and between faculties and establishing a mutual credit transfer system.

KEYWORDS: faculty exchanges, inter-departmental collaboration, international exchanges, sister colleges

1. はじめに

サレジオ工業高等専門学校とその姉妹校である Don Bosco Technical College (DBTC) - Mandaluyong¹⁾が、2006 年度より実施している文化交流事業、その文化交流から発展した学科間交流、および教員交換の計画と今後の展開について報告する。

この文化交流事業は、本校前校長鈴木勝重神父

(故人)がDBTCを訪問し、協定書に調印したことからスタートした。DBTCとの交渉の結果、秋にDBTCの学生が来日し春に本校学生がDBTCのあるフィリピンへ渡航する学生の相互訪問が実現した。2008年2月には学校長、教務主事が10名の学生を引率してDBTCを訪問した。DBTCとの会合にて教務主事の提案により“学科間交流の推進”が約束された²⁾。この時、ほぼ全ての専門科目が半期科目となっていた本校情報工学科をこの学科間交流の足がかりとすることが検討された。2009

*1 サレジオ工業高等専門学校情報工学科 (Dept. of Computer Science and Technology, Salesian Polytechnic)
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘 4-6-8 E-mail: uchida@salesio-sp.ac.jp

*2 サレジオ工業高等専門学校デザイン学科 (Dept. of Art and Design, Salesian Polytechnic)

*3 サレジオ工業高等専門学校一般教育科 (Dept. of General Education, Salesian Polytechnic)

学会発表の例

1-217	リスクをめぐって対立する当事者間のコミュニケーション「ギルベインゴールド」のケースを使って考える	三上 直之(北海道大学高等教育推進機構)
1-218	ギルベインゴールドケースにおけるリスクコミュニケーションと技術者倫理	○西條 美紀(東京工業大学留学生センター), 川本 思心(東京工業大学大学院理工学研究科)
ワークショップ:技術者倫理とコミュニケーション -「ギルベインゴールドケース」から考える-		第1室(14:15-14:45)
司会 川本 思心(東京工業大学大学院理工学研究科)		
パネリスト:札幌 順(金沢工業大学基礎教育部), 堀田 源治(有明工業高等専門学校), 三上 直之(北海道大学高等教育推進機構), 西條 美紀(東京工業大学留学生センター)		
(10)リメディアル教育(補習教育)・導入教育-I		座長 土岐 仁(秋田大学大学院工学資源学研究所) 第2室(9:00-10:45)
2-207	基礎計算力の推移と能力別クラス編成による教育「自動車の工学」での取り組み	○林 孝一, 加賀田 誠(北海道自動車短期大学)
2-208	「理数学生応援プロジェクト」合格者に対する入学前の導入教育	○平 英雄, 福田 真(熊本大学工学部), 松葉 龍一, 坂本 瑞穂(熊本大学eラーニング推進機構), 尾原 祐三(熊本大学大学院自然科学研究科)
2-209	推薦入試合格者に対する事前学習について	○福田 真(熊本大学工学部), 尾原 祐三(熊本大学大学院自然科学研究科), 平 英雄(熊本大学工学部), 松葉 龍一, 宮川 崇仁(熊本大学eラーニング推進機構)
2-210	留学生の教育背景を考慮した学部留学生への予備教育 マレーシアの日本留学プログラムを例として	伊藤 光雅(サレジオ工業高等専門学校)
2-211	北海道工業大学における数学基礎教育の遷りかわり	高村 政志(北海道工業大学高等教育支援センター)
2-212	全入時代における卒業時質保証で求められる数学力	原田 昭治(崇城大学工学部)
2-213	講演取り下げ	
(10)リメディアル教育(補習教育)・導入教育-II		座長 原田 昭治(崇城大学工学部) 第2室(13:00-15:00)
2-214	達成度自己評価レポートによる授業評価 授業の満足度・改善点について	岡本 延美(金沢工業大学基礎教育部)
2-215	学生の授業理解度を授業アンケートより考察する 学生の関心を高める授業工夫について	長谷川 勉(金沢工業大学基礎教育部)
2-216	失敗に学ぶ「ものづくり基礎実践」 初年次教育とアクティブラーニングの観点から	○土岐 仁, 田子 真, 村岡 幹夫, 佐々木 芳宏(秋田大学大学院工学資源学研究所)
2-217	理工系初年次学生のための基礎実験の取り組み 摂南大学における理工学基礎実験	○一色 美博, 山本 淳治, 伊藤 謙(摂南大学理工学部)
2-218	講演取り下げ	
2-219	入学前スタージングにおけるPC組み立て講座 情報処理教育へのQCDSSEの導入	○荒木 和彦, 田中 泉, 永見 誠二, 菅波 昌広(摂南大学学習支援センター)
2-220	リメディアル教材を利用した理工系学生のための日本語表現法 専門教育へのスムーズな移行を促す導入教育	塚越 久美子(北海道工業大学高等教育支援センター)
2-221	技術者導入教育における「総合力」型授業の試み 「技術者の仕事」に関する教育の効果	山田 裕憲(金沢工業大学基礎教育部)
(11)ものづくり教育-III		座長 奥山 澄雄(山形大学工学部) 第3室(9:00-10:45)
3-213	創造教育科目「エンジニアリングプラクティス」の導入とその効果(その3)	○池田 隆治, 西川 出, 岩田 英樹, 小川 直樹, 近藤 隆路, 羽賀 俊雄(大阪工業大学工学部)
3-214	ものづくり創造性育成のためのデザイン演習授業の課題と方法 これまでの演習授業のまとめとして	○飯田 晴彦(崇城大学芸術学部), 大淵 慶史(熊本大学工学部)
3-215	熊本大学工学部ものづくり事業5年間のまとめと今後の展望	村山 伸樹, 両角 光男(熊本大学大学院自然科学研究科), ○大淵 慶史, 飯田 晴彦(熊本大学工学部)
3-216	小さな失敗の積み重ねを経験させるものづくり教育の失敗	小池 清之(東京工業高等専門学校)
3-217	夢考房プロジェクトにおけるものづくりのスキルアップ教育	○坂本 巧, 太田 誠鉄(金沢工業大学プロジェクト教育センター), 磯崎 俊明, 吉本 隆志, 池淵 哲朗, 織田 光秋(金沢工業大学基礎教育部)
3-218	ものづくりにおける「つまずき」を生かした教育方法の検討	○中澤 剛, 松原 雅昭(群馬大学工学部), 三田 純義(群馬大学教育学部), 斎藤 勝男(群馬大学工学部)
3-219	高専におけるものづくり教育での創造工学を支援する知的財産教育	小杉 淳(釧路工業高等専門学校), ○土田 義之(苫小牧工業高等専門学校)
(11)ものづくり教育-IV		座長 小池 清之(東京工業高等専門学校) 第3室(13:00-14:45)
3-220	山形大学工学部におけるものづくり教育プロジェクト	○松葉 豪, 松嶋 雄太, 野本 弘平(山形大学工学部)
3-221	90分×15週で行うレゴマインドストームを用いたものづくり教育・グループワーク教育の実践	○奥山 澄雄, 南谷 靖史, 東山 禎夫(山形大学工学部)
3-222	ものづくりを通じた仮想会社体験による教育	○渡辺 創, 上野 孝行, 植村 眞一郎, 上沖 司(鹿児島工業高等専門学校)
3-223	ソーラーカー製作とレース参加による創造的工学教育の展開	○平 英雄, 大淵 慶史(熊本大学工学部)
3-224	熊本大学工学部における「ものづくりコンテスト」の歩みとこれからの課題	○小塚 敏之, 大淵 慶史, 村山 伸樹, 山田 文彦(熊本大学大学院自然科学研究科)
3-225	鋼橋模型の設計・製作と競技参加による創造性教育の効果	○古賀 圭一郎, 山尾 敏孝, 葛西 昭(熊本大学大学院自然科学研究科), 山本 敏三, 渡邊 将大(熊本大学工学部)
3-226	サレジオ高専におけるものづくり教育の一事例 その2 自由な発想で製作できる電動カートキットを用いたものづくり教育	○斎藤 純, 竹本 泰敏, 渡邊 聡, 山下 健一郎(サレジオ工業高等専門学校), 依田 勝(サレジオ学院中学校高等学校)
(06)工学教育の個性化・活性化-III		座長 崎山 俊雄(秋田県立大学システム科学技術学部) 第4室(9:00-10:45)
4-213	工学基礎教育の授業補充としての授業支援講座の開講 金沢工業大学の数理(工)統合 I において	○川崎 順治, 中 勉, 中江 友久, 中谷 政夫, 青木 克比古(金沢工業大学基礎教育部)
4-214	基礎教育におけるサブジェクトライブラリアンによる学習支援	○杉本 浩, 西田 進, 山口 尚, 堀 隆一, 小山 陽一(金沢工業大学基礎教育部)
4-215	教養科目としてのLCA授業の導入とその教育効果	小林 充(信州大学全学教育機構)
4-216	サレジオ高専機械電子工学科における学科プロジェクトの発足 ものづくり講座と資格講座の教育効果	○米盛 弘信, 高橋 孝(サレジオ工業高等専門学校)
4-217	工学設計科目における知的財産教育	○松石 正克, 松本 重男, 竹俣 一也, 磯崎 俊明(金沢工業大学基礎教育部), 慶 岳祥(Asia University), 芦 清波(Singapore Polytechnic)

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究活動は、卒業研究（準学士課程）や特別研究（専攻科課程）を通じて、学生の教育にかかされている。また、教育方法の研究も盛んで、教育の質の改善に寄与している。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

教育の質の向上のためのファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）は、平成17年度に教育のための第1次FDプロジェクトが立ち上げられ、授業アンケートの見直しが行われた。その後、平成19年度から新任教職員研修会が実施され（資料9-2-①-1）、また、第2次FDプロジェクトが発足し、授業アンケートの改善、および年1回、テーマを決めて全教職員を対象とした研修会の開催が検討され、平成20年度より実施されるようになった。

新任教職員研修のレビュー・シート サマリー

資料 9-2-①-1 その 1

(H19/04/06 小澤)

平成19年度・新任教職員研修会 レビュー・シート サマリー

初めての試みである新任教職員研修会を、教員6名（内1名は昨年度採用）、職員1名、合計7名の参加により開催しました。今後に向けてさらに改善すべき点はありますが、参加した新任教職員の皆さんから高い評価を頂戴しております。

当該研修会をより一層充実させるべく、さらに他研修会の参考となるよう、皆さんから提出いただいたレビュー・シート内容を、以下にサマリーします。

(*)

1	総合評価	良かった	普通	良くない	SI
		7名			100%
2	開催日程	良かった		良くない	SI
		4名		3名	57%
(良くない理由) <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の行事が午後にある先生方は、いろいろな不安を抱えて研修に参加したのではないかと思う。 ・入学式予行と日程が同日である ・できれば学生の出校日と重ならない方が良い 					
3	開催場所	良かった		良くない	SI
		7名			100%
4	コース運営	良かった		良くない	SI
		7名			100%
5. 良かった点					
<ul style="list-style-type: none"> ・他の専門の先生や事務の方と討議ができて本当に有意義でした。セミナーハウスも面白かったです。 ・いろいろな立場の人のご意見が伺えて大変参考になった。 ・高専という組織、機構、サレジオの方針を明確に提示していただけた点。 ・組織としての高専を知ることができたこと。教員側と事務側の両方の目線を知ることができたこと。たくさんの意見交換ができたこと。問題意識や個人の考えをシェアできたこと。 ・一般教科の先生方と意見交換ができ、プレテックとテック間の問題点が明らかになったこと。 ・改めて各部署長の方針を聞くことができ、また詳しい補足があり参考になりました。少人数での研修の良さが出たと思います。 ・それぞれの分野での観点から課題を共有でき、最終的に同じベクトルに向いていると感じた。コミュニケーションを図れ、互いの存在意義を確認しあった。 					
6. 改善を要する点					
<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の説明を半日聞きっぱなしは少し辛かった。 ・討議後に、全体のディスカッションがあると、もう一歩踏みこんだ議論ができて良いと思う。 					

資料 9-2-①-1 その 2

(H19/04/06 小澤)

- ・ 時間的余裕をいただきたい。
- ・ 他の学校行事と重ならないような日程でやって欲しい。
- ・ 少々話が長く感じる。自己紹介や昔話は懇親会で行い、研修会では業務に関する話に集中してはどうでしょうか。
- ・ 講師となる先生方の出入りが多く、少し落ち着きのない会となってしまった感があります。
- ・ 限られた時間内で、テーマにそった核論をまとめ分かり易く説明できなかった点

7. フリーコメント

- ・ 事務長のつなぎのコメントやまとめ、分かり易く、面白かったです。夕食やその後の会でも様々な専門の方と深く会話でき、討議できて良かったです。
- ・ 卒業生なので知っている内容が多くありましたが、再確認できました。
- ・ 校長、副校長他に対する質問（フリートーク）が欲しかったです。学科再編や学生募集等で、疑問が多くありますので・・・
- ・ 漠然としたイメージから具体的な個人レベルの課題を発見でき、新年度はスピードある正確な対応を行い、職員の一員として学校運営、サービス提供をリードする存在を目指し達成したい。貴重な、有意義な研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

8. テーマ毎のレビュー

①	サレジオ高専紹介 (3/29 13:35~14:10)	役立つ	普通	他の話	SI
		7名			100%

(コメント)

- ・ 校長先生の熱意のこもった話が聞けて良かった。アシステンツァの精神で頑張ります。
- ・ 生活するための力をつけるという教育方針がわかって良かった。
- ・ 学校の土台となるカトリック教育に関し明確に紹介していただき参考になった。
- ・ サレジオ高専の歴史的なことやドンボスコの教育について聞けて良かった。
- ・ 同感しました。
- ・ 人間同士のか関わりの大切さを感じました。
- ・ 学校・法人としての存在意義を認識できました。

②	教育部門紹介、副校長方針 (3/29 14:15~14:50)	役立つ	普通	他の話	SI
		3名	2名	2名	43%

(コメント)

- ・ 私が直接関わっていく組織構成が聞けて良かった。勉強になりました。
- ・ 学力向上、特に基礎学力向上に向けて、どのような対策をするかの話しを伺いたかった。
- ・ 教員教育に対して、もう少し具体的な話を聞きたかった。
- ・ 具体的な内容や本当に実施できるのか否か。少々疑問。
- ・ 高度な専門教育の実施について具体化が重要と思います。
- ・ 他校に対しての、本校の現状の位置づけ、危機感を知りたい。
- ・ 高専というものの組織的なことが全くわかっていなかったので、今後の展望を含め全体像が少しつかめてきたように思う。

資料 9-2-①-1 その 3

(H19/04/06 小澤)

③	教育支援部門紹介、副校長方針 (3/29 15:10~15:40)	役立つ	普通	他の話	SI
		6名	1名		86%
(コメント)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の話「専門か？一般か？」等の問いかけは、私自身のサレジオ高専での教育を考えるのに、とても有益であった。 ・ 論争の話しが興味深かった ・ 高専が必然的に抱えねばならない問題に関する話は為になった。 ・ 内容は良いと思います。実施に向けた今後への取組みに期待します。 ・ 3つの議論は高専としての命題であると思います。 					
④	「高専教員に求められるもの」 (3/29 16:30~17:30)	役立つ	普通	他の話	SI
		7名			100%
(コメント)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ あれだけの資料と伝えたいことがあれば、30分では到底無理だと思います。資料とても役立ちます。 ・ 本校に限らず高専はどうあるべきか。教員として何をすべきかを考えさせられました。 ・ 工学系高専における国語科の位置づけを考える契機になった ・ 実際に働く前に心構えができた。同時に自分のしなければならないことの重さも感じた。今までのようにただ教えるだけでなく様々な角度から学校のことを見ていくことが大切だと思った。 ・ 非常に解りやすく話していただいた。 ・ 考える姿勢の方針がはっきりしており、とても参考になりました。 ・ 普通高校、大学、高専の違いがより立体的な説明で分かり易かった。 					
⑤	「サレジオ高専が目指すもの」 (3/29 15:40~16:10)	役立つ	普通	他の話	SI
		6名	1名		86%
(コメント)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任マニュアル、担任以外のメンバーにもとても有益でした。 ・ 業務についての詳しい話しが聞けて良かった。 ・ 教員としての資質、何が重要かということが理解できた。担任として安心感を持った。 ・ 内容的には良いと思います。かなり知っている事が多くありました。 ・ 信頼関係の構築の重要性、学生相談に関しては、研修でも大きなテーマでした。 ・ 職員にも共通する事項であり、互いに協力する必要性に共感した。 					
⑥	プレテック紹介 (3/29 17:35~18:00)	役立つ	普通	他の話	SI
		4名	3名		57%
(コメント)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生アンケートの具体的な数字を見ることができ、とても良かった。 ・ プレテックでの学生との対応が分かって良かった。 ・ 担任の重要性を感じた。人としての基本を徹底させる。 ・ 学生について、満足度等が数字として見ることができて新鮮だったが、やはり課題も多いと感じた。 ・ 学生のモチベーションがダウンしない取組みを期待します。 					

資料 9-2-①-1 その 4

(H19/04/06 小澤)

- ・レビュー資料から新たな意気込みが伝わりました。
- ・新しい具体的な提案が必要。例年通りのアンケート結果にならないように問題点を完結（解決）しなければならない。

⑦	討議、発表	役立つ	普通	他の話	SI
	(3/30 9:00~11:05)	7名			100%

(コメント)

- ・非常勤歴があるが全体像がつかめず不安でしたが、他の学科の先生と真剣に討議できてとても有益でした。
- ・見えていなかった視点、気づかなかった点に気づけて有益だった。
- ・多種多様な観点からの意見を聞いたので有益であった。
- ・他の教員の考えていることを通して、学校のとらえ方に幅が持てたように思う。
- ・これが一番良かった。今後、専門教員と一般教員の意見交換会があって良いと思う。
- ・教職員の共通認識が重要であると実感しました。
- ・具体的な課題を共通認識でき自分のやるべきテーマが見えてきた。

⑧	事務長方針、人事関連事項	役立つ	普通	他の話	SI
	(3/30 11:20~11:55)	5名	2名		71%

(コメント)

- ・事務のシステムチックさを何とか教員も学ぶべきと思います。
- ・事務職員と目標、モチベーションを共有する必要に気づかされた。
- ・教職員一丸となり学校改革を目指す姿勢が見えた。
- ・CHANGE - T = CHANCE が印象的でした。
- ・方向性は良いと思います。結果を期待します。
- ・発想の整理、具体化に向け良いヒントが得られました。
- ・今後の取組みかたのヒントになった。モチベーションの高さ、スキルの高さを感じた。

⑨	事務手続き	役立つ	普通	他の話	SI
	(3/30 11:55~12:05)	5名	2名		71%

(コメント)

- ・「職員も学生と関わっていきたい」暖かい事務の雰囲気はそこからくるんですね。
- ・必要なことを端的に教えていただけ良かった。
- ・重要な点であり、確認すべきことを話していただき助かりました。
- ・一緒に学校を作っていく心強いパートナーが、たくさんいることに励まされた。
- ・会計報告等の通常ありえる内容について詳しく知りたい。

(*) Satisfaction Index: : 満足指数 [人数 (良かった、役立つ) ÷ 参加人数 (7名)]

(出典 事務部作成資料)

本校では1年を通して、各種のFD活動は適宜実施されており、教育を含めた教職員の業務の質向上にあたっている（資料9-2-①-2）。

平成23年度のFD活動一覧

資料9-2-①-2

日付	会議名	主催	FD内容	担当
2011.04.01	開業式	校長	開業ミサ(建学の精神の確認)	
			新年度方針	校長
	新任教職員研修会	校長	新任の教職員の研修	事務長
	非常勤連絡会	教務主事	非常勤講師に対する研修	教務部
2011.04.11	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
	研究紀要第37号説明会	研究委員会	研究紀要の執筆に関する説明	研究委員会
2011.04.18	課題研究費申請説明会	研究委員会	課題研究費の申請手続き説明	研究委員会
2011.04.25	教職員集会(Weekly)	校長	教育部門方針	副校長
			事務部門方針	事務長
2011.05.09	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2011.05.23	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
			授業公開アンケート報告	教務部
			中学校訪問ニューアルの説明	入試広報室
2011.06.06	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
			部署目標、個人目標の書き方	副校長
2011.06.20	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2011.07.04	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
			ネットワークの利用説明	総合メディア委員会
2011.07.25	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2011.09.02	FD研修会	自己点検評価委員会	各種研修	
2011.09.03			各種研修	
2012.09.26	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2012.10.03	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2012.10.17	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2012.11.07	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
			ドン・ボスコを知ろう	チャプレン
			2011年度SPI試験結果速報	キャリアセンター
2012.11.21	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
			パスワード変更方法	総合メディア委員会
2012.12.05	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
			自己点検評価報告書作成の概要	自己点検評価委員会
2012.12.19	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2013.01.16	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2013.01.23	シラバス様式変更に関する説明会	教務部・自己点検評価委員会	シラバスの作成説明	教務部
2013.01.30	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2013.02.13	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
2013.03.05	教職員集会(Weekly)	校長	校長訓話	校長
			学年末の学籍異動手続きについて	教務
2013.03.12	教職員レビュー	校長	平成23年の活動報告	

(出典 自己点検評価本部作成資料)

毎年4月に実施される開業式では、本校の建学の精神に触れ、1年間の組織運営についても説明がなされる（資料9-2-①-3）。年間を通して開催される教職員集会（Weekly）（資料9-2-①-4）では、始めに校長が短い訓話を行い教職員のモチベーションの向上を図っている。また他にも約40分という短い時間の中ではあるが、行事日程や締切業務の確認（資料9-2-①-5）、各部署からの報告など、教職員が業務を円滑に進められるように配慮をしている。また、教職員集会（Weekly）の内容は、校内限定ウェブサイトから全教職員が閲覧できるようになっている（資料9-2-①-6）。

平成20年度からは、年1回全教職員を対象としたFD研修会が実施され、外部より講師を招いて講演会を開催するなど、教育の質の向上を図っている（資料9-2-①-7）。

校内にて実施するFD以外にも、校外機関が実施する研修会に積極的に参加している（資料9-2-①-8）。

開業式の内容 (抜粋)

資料9-2-①-3その1

開業式

平成23(2011)年4月1日(金)

午前10時~

サレジアンホール

前の丸椅子におかけください

開式

- ❖ 本日の予定(進行 木戸事務長)
- ❖ 開業ミサ(理事長・校長・チャプレン)
- ❖ 教職員新任式(校長)
- ❖ 永年勤続表彰(事務長)
- ❖ 新年度方針(校長)
- ❖ 新年度挨拶(副校長・事務長・チャプレン)
- ❖ レビュー報告(前副校長、事務長)
- ❖ 新年度組織紹介(事務長)
- ❖ 職務辞令交付(副校長・事務長)
- ❖ 本日のこの後の予定

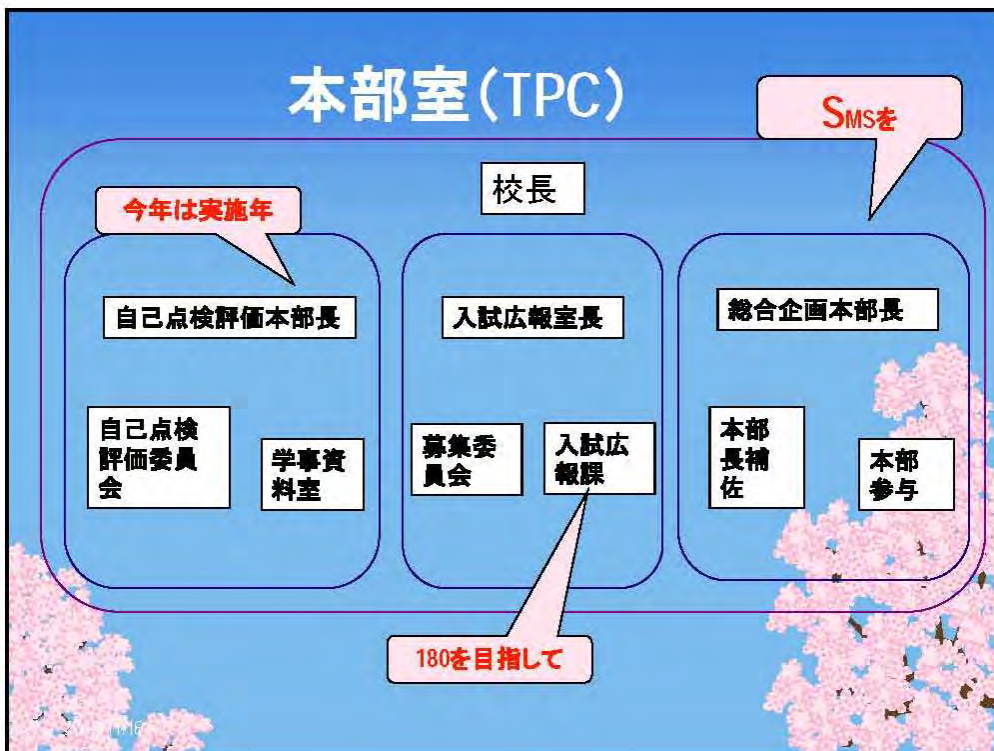
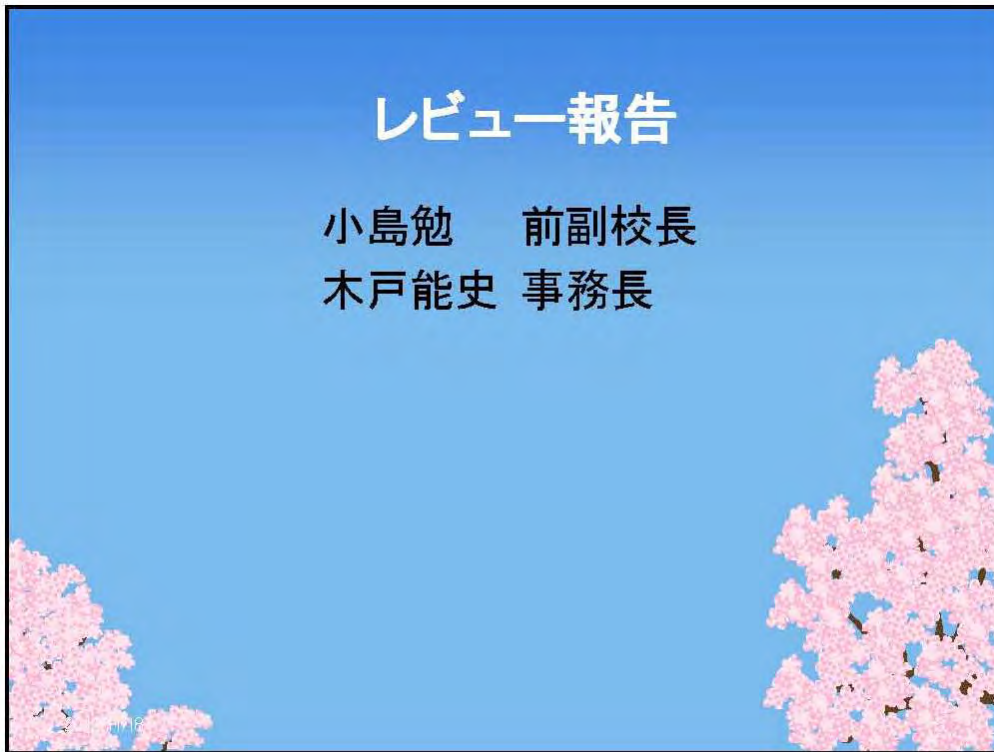
新年度開業ミサ

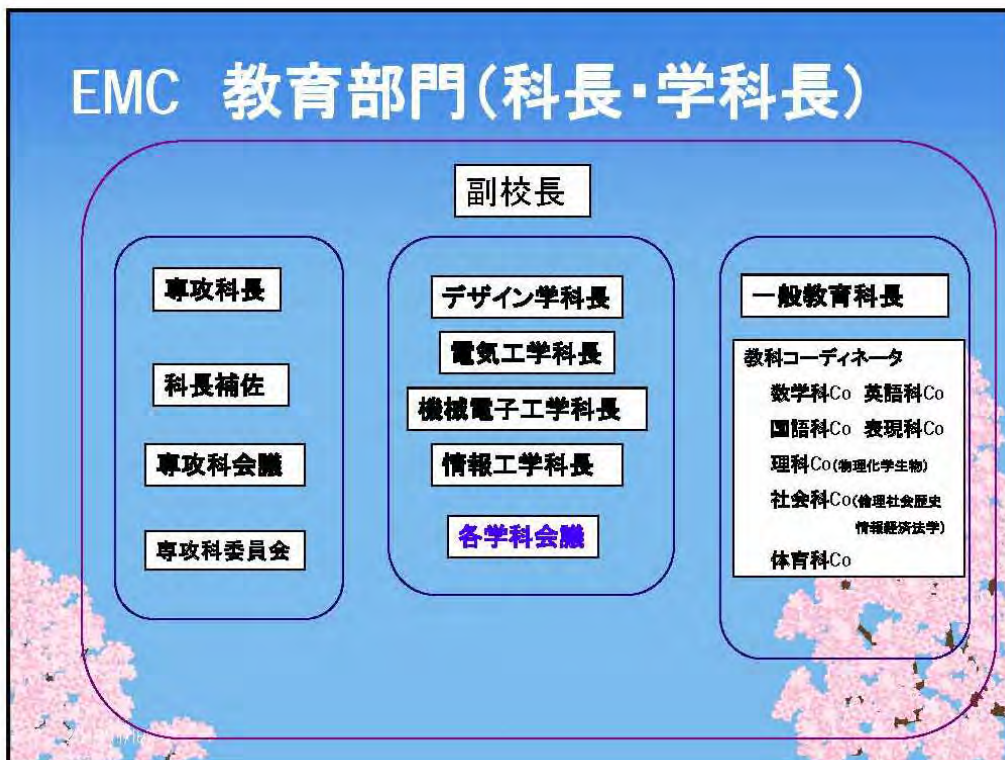
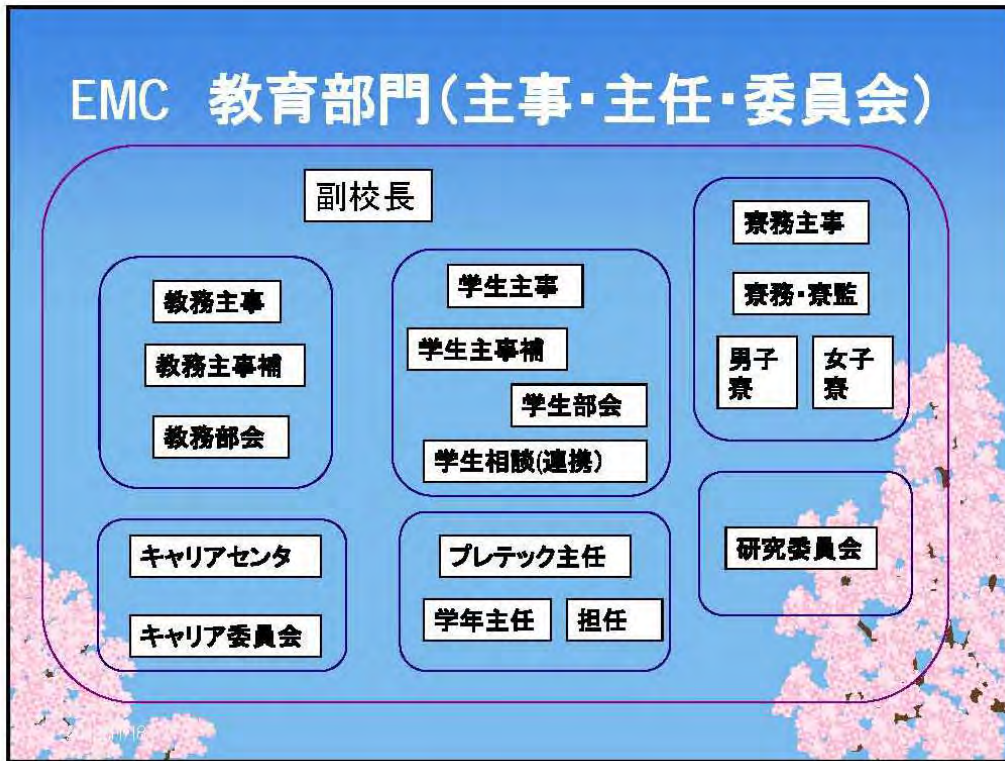
- ❖ 主式 チプリアニ理事長
- ❖ 助式 小島知博神父
- ❖ 助式 中田正一郎神父
- ❖ 進行 大杉功先生

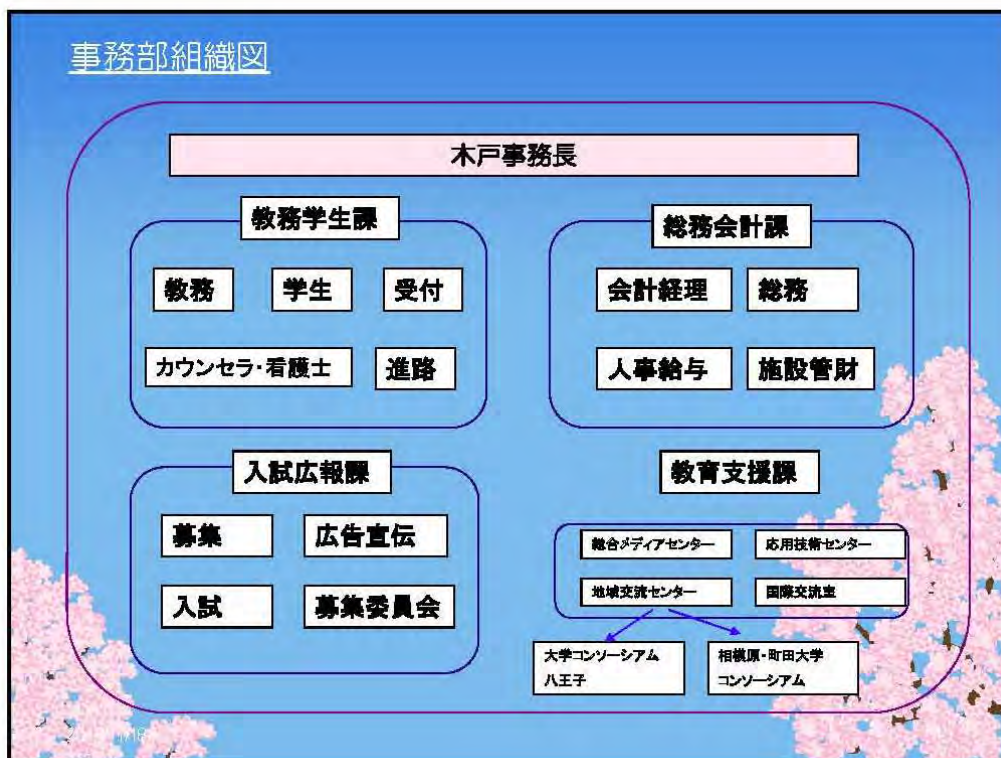
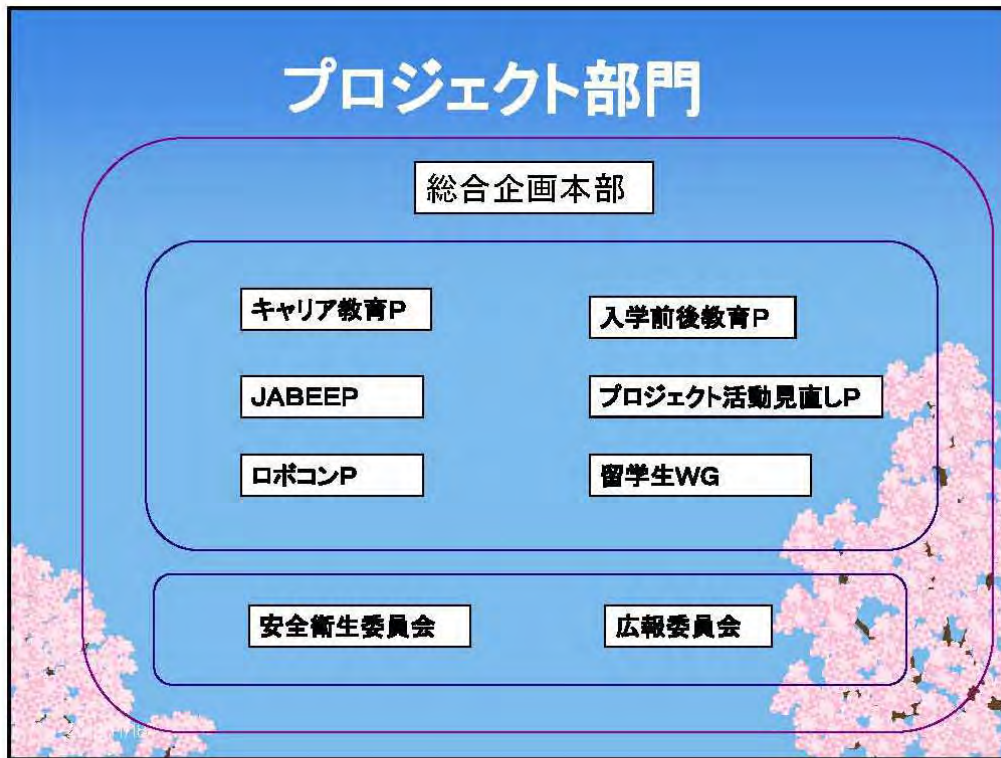
❖ 手元のミサ式次第をご覧ください
携帯、PHSをマナーモードにしてください

新年度方針および年頭挨拶

年度方針	小島知博 校長
年頭挨拶	平岡一則 副校長
同	木戸能史 事務長
同	中田正一郎チャプレン







会議一覧

主催者	議事進行	構成メンバー	書記	開催日時(予定)
理事長	校長	常務理事、副校長、チャプレン、事務長、法人部長	法人担当	月一回 15:00~17:00
校長	総合企画 本部長	副校長、事務長、本部長補佐、本部参与	本部長補	毎週水曜日 17:00~19:00
校長	自己点検評価 本部長	副校長、事務長、教務・学生・宗務主事、専攻科長	事務部	隔週月曜日 17:30~19:30
副校長	教務主事	教務・学生・寮務主事、専攻科長、学科長、一般教育科長、プレ主任	教務主事補	月初土曜日 14:00~16:00
事務長	事務長補	事務長補、教務学生課長、総務会計課長、入試広報課長、教育支援課長	事務部	随時 火曜日 10:00~11:00
教務主事	教務主事	教務主事補、教務部担当	主事補	随時
学生主事	学生主事	学生主事補、学生部担当	主事補	月一回 土曜日 11:00~12:00
宗務主事	宗務主事	司牧委員	司牧委員	随時
寮務主事	寮務主事	チャプレン、寮監、寮監補佐、寮管理		不定期
事務長	事務長	事務職員	事務部	上期・下期期首他
学生主事 教務主事	学生主事補	プレ主任、学年主任、各担任		第2月曜日 9:10~9:50

委員会等構成員一覧

入試広報室	募集委員会	鎌田	安藤、野島、佐藤、山野邊、竹内、加藤、高橋、吉村
自己点検評価本部	自己点検評価委員会	山野邊	相川、杉島、山下健、森、塩田、廣山(学事資料室)
キャリアセンター	キャリア委員会	平岡	西岡、比留間、鳥羽、吉田、島川、小澤、林
副校長所管	研究委員会	吉野	山下健、菅原、山野邊、真島、塩田
副校長所管	専攻科委員会	大藤	大杉、竹内、山澤、星野(総務)
総合企画本部	広報委員会	森	星野、佐伯、山館、富田
宗務主事所管	司牧委員会	中田	西野、須藤、大杉、マルケス、伊藤、山澤、真島
事務長所管	安全衛生委員会	横山	鎌田、花山、斉藤光、秦、星野、杉山
応用技術センター	応用技術スタッフ会議	渡邊聡	斉藤純、竹本、谷上、大島、高橋、秦、和田
総合メディアセンター	メディアスタッフ会議	米山	森、花山、山館、和田
地域交流センター	地域交流スタッフ会議	小西	横山、大杉、吉野、西野、平岡、和田
国際交流室	国際交流スタッフ会議	西野	伊藤、村田、マルケス、中田、和田
全校プロジェクト	JABEE	山野邊	大藤、比留間、齊藤純、吉野、島川、斉藤成
全校プロジェクト	入学前後教育	石田	安藤、山本、野島、杉本、大澤
全校プロジェクト	プロジェクト活動再構築	平岡	石田、渡邊聡、比留間、内田、齊藤純
全校プロジェクト	ロボコン	渡邊聡	高橋、杉島、大島
全校プロジェクト	キャリア教育	平岡	林、小澤、竹内、加藤、高橋、吉村、安藤、山本
ワーキングG	留学生受入	伊藤	山野邊、村田

行事分担

☆平成23年度 行事の責任分担表(案)			
行事	最終責任者	実行責任者	補佐
卒業式	校長	事務長	事務長補(柴田)
入学式	校長	プレ主任	事務長補(柴田)
各種式典(始業、終業)	副校長	教務主事	学生主事
父母オリエンテーション	副校長	教務主事	学生主事、事務長補(柴田)
父母懇談会	副校長	教務主事	学生主事、事務長補(柴田)
父母役員会・父母総会	副校長	父母会長	事務長補(柴田)
学園祭	校長	学生:学生主事	学友会担当
		学校:副校長	学科長、主任
競技大会	副校長	学生主事	体育科コーディネータ
マラソン大会	副校長	学生主事	体育科コーディネーター
クリスマスイベント全般	校長	宗務主事	司牧委員会・事務部
サレジオカップ	事務長	入試広報室長	募集委員会・事務部
レビュー会議	校長	副校長、事務長	総合企画本部長
定期公演	校長	チャプレン	クラブ顧問、指導コーチ
野尻湖	校長	チャプレン	プレテック主任、1年学年主任
研修旅行	副校長	学生主事	4年担任、国際交流室長
キャリアデー	副校長	キャリアセンター長	学科長、キャリアスタッフ
入学試験	校長	入試広報室長	入試広報課長、募集委員
学校説明会・体験入学	校長	入試広報室長	入試広報課長、募集委員
海外研修	校長	国際交流室長	国際交流室スタッフ
語学研修	副校長	一般教育科長	語学コーディネータ

職務辞令の交付

- ❖ 以下は本日配布します。
 - ❖ 校長>副校長>部署長>教員
 - ❖ 校長>事務長>課長>職員
 - ❖ 校長>学年主任>プレ担任
 - ❖ 校長>学科長>学科担任
- ❖ 以下は後日配布します。
 - ❖ 副校長>プロジェクト長>メンバー
 - ❖ 副校長>委員長>メンバー
 - ❖ 事務長>センター・室長>メンバー

記載ミスがありましたら再発行します

このあとの予定

- ❖ 11:30 非常勤講師連絡会(231)
学科長、教科主任と顔合わせ
教科書配布は学科センターで
- ❖ 12:00 昼食会(食堂) 非常勤の先生方も参加
- ❖ 13:00 学科会議(各学科センター)
- ❖ 13:30 一般教育会議(231)
- ❖ 14:00 一般教育科教科別会議(指示)
- ❖ 15:00 専攻科会議(204)、募集委員会(231)
- 15:00 新任教職員研修会(105)
- 16:00 プレテック1年生会議(プレセンター)

新任教職員研修会(105)

- ❖ 校長(建学の精神)
 - ❖ 副校長(統括)
 - ❖ 教務主事(教員支援)
 - ❖ 学生主事(学生支援)
 - ❖ 事務長(事務支援)
 - ❖ メディアセンター長(情報担当)
 - ❖ 懇談(質疑会話)
- 資料はinfo2011参照

教育ORT(明日の予定)

時間	会議A		会議B	
	場所	会議名	場所	会議名
10:00 ~ 10:30	231	全担任会議	105事務会議室	事務課長会議
10:30 ~ 11:00	231	クラブ顧問会議		
11:00 ~ 12:00	231	ブレテック会議		
13:00 ~ 14:00	教務センター	教務部会議	学生主事室	学生部会議
14:00 ~ 15:00	231	センター合同スタッフ会議	入学式予行(関係者)	
15:00 ~ 15:30	校長室	AMC		
15:30 ~ 16:00	231	EMC		

204へ変更
119へ変更

(出典 事務部作成資料)

教職員集会 (Weekly) メニュー



Weekly MENU

- 01 校長
- 02 副校長
- 03 事務長
- 04 教務主事
- 05 学生主事
- 06 その他

・国際交流室
・数学科

- Start from 16 years old -



(出典 総合企画本部)

教職員集会 (Weekly) の内容の例 (教務部)

資料 9 - 2 - ① - 5

教務部 第042号
平成 24年 1月 16日

■ 教務連絡 (★印はWeeklyフォルダ内にPDF資料があります。)

教務主事

【学生関連】

在籍一覧 ★教務_学籍一覧2011_V09
 公欠・長欠 (運営) 教務部 > 一般公開 > 「教務_H23学生公欠等一覧表.xls」を参照

【教員関連】

出張状況 (運営) 教務部 > 一般公開 > 「教務_H23出張等一覧.xls」を参照

【授業関連】

時間割変更 (運営) 教務部 > 一般公開 > 「2011年度_時間割変更連絡」内を参照

【月間予定】 ★教務_学年暦2011_1-3月【改訂版】 ← 学年末の学事日程を一部変更しました！

1月 16日 (月)	Weekly教職員連絡会 就活支援講座 #02 (本科4年, 専攻科1年)	<総合企画室> <キャリアセンター>
1月 20日 (金)	総合メディアセンター講演会	<総合メディアセンター>
1月 21日 (土)	プロジェクト活動報告会 学校説明会⑨ (出題解説) 専攻科後期学力入試	<応用技術センター> <入試広報室> <入試広報室・専攻科>
1月 23日 (月)	シラバス様式変更に関する説明会 就活支援講座 #03 (本科4年, 専攻科1年)	<自己点検評価本部> <キャリアセンター>
1月 28日 (土)	科目別補講日 ★教務_科目別補講_1月28日(土)【訂正版】 入学前教育プログラム②	<教務部> <入学前後教育P>
1月 29日 (日)	一般入試	<入試広報室>
1月 30日 (月)	Weekly教職員連絡会 就活支援講座 #04 (本科4年, 専攻科1年)	<総合企画室> <キャリアセンター>
1月 31日 (火)	学校創立記念日 (休業日)	
2月 3日 (金) ~ 9日 (木)	学年末試験	<教務部>

【依頼事項】

全教員>

- 学年末試験期間中の出張願書&休暇願は**1月16日(月)まで**にご提出ください。
- 欠課時数訂正が必要な方は「成績訂正届」を**1月17日(火)まで**にご提出ください。
- 1月23日(月) 9:00~9:50開催の「シラバス様式変更に関する説明会」にご出席ください。

1-4年学級担任>

- 選択科目E群「プロジェクト実習」の履修登録についての再告知をお願いします。

以上

(出典 教務部)

教職員集会 (Weekly) の閲覧画面

資料 9 - 2 - ① - 6

サレジオ高専 教職員専用ホームページ

* Last Update: 2012-06-26

※ [2012/01/18] 「2012年度ウィークリー」に2012/04/09のドキュメント、「(バックナンバー) 2011年度ウィークリー」DBに2011/12/05～2012/03/21のドキュメントをそれぞれ追加しました。

教職員ウィークリー

- ◆ ウィークリー資料をExcel文書でデータベース化しています。
- ◆ **秘密事項が含まれています**ので、情報の漏洩に十分気をつけてください。

◆ **【最新】2012年度ウィークリー** ※! 2012/06/26

- ◆ Excel文書はPC等に**「保存」**してご利用ください。(サーバの仕様により、ブラウザで直接「開く」ことはできません)
- ◆ 頻繁に更新しておりますので、ブラウザの「更新」ボタンをクリックしてご利用ください。

バックナンバー

- ◆ 2011年度ウィークリー ※! 2012/06/26
- ◆ 2010年度ウィークリー
- ◆ 2009年度ウィークリー
- ◆ 2008年度ウィークリー
- ◆ 2007年度ウィークリー
- ◆ 2006年度ウィークリー
- ◆ 2005年度ウィークリー
- ◆ 2005年度機関別認証評価資料
- ◆ 2004年度ウィークリー

ツール

助成金検索システム

- ◆ **【Access版】助成金検索システム** [19,370KB]
- ◆ **【Excel版】助成金検索システム** [165KB]

Tips

- ◆ **【Tips:001】パスワードをかけた添付ファイルをメールで送受信する方法**
- ◆ **【Tips:002】圧縮・解凍ソフトのインストールと使用方法**
- ◆ **【Tips:003】ホームページ(WEB)へのコンテンツ掲載について**
- ◆ **【Tips:004】ノートPC利用案内**

| ↑先頭へ |

© 2009-2012 Salesian Polytechnic. All Right Reserved.

(出典 本校校内限定ウェブサイト)

平成23年度 F D研修会 (抜粋)

資料 9-2-①-7

<スケジュール>

平成 23 年 9 月 1 日 (木)

時 間	内 容
10:50	1. オープニング
11:00 ~ 11:30	2. 自己点検評価本部講演 「外部・第三者評価について」
11:30 ~ 12:00	3. 特別講演 「サレジオ工業高等専門学校の危機管理体制について」 事務部参与 横山 松生 氏
昼食 12:00 ~ 13:30	
13:30 ~ 15:30	4. 特別講演 「学校におけるハラスメント」 俵法律事務所 弁護士 小川 洋一 先生
15:30 ~ 16:00	5. 講演に関する質疑応答

平成 21 年 9 月 2 日 (木)

時 間	内 容
14:50 ~ 15:00	1. オープニング
15:00 ~ 17:00	2. 自己点検評価企画 ~教育方法に関する講演~ テーマ「あなたの教育にかける思いを教えてください ーティーチング・ポートフォリオの紹介ー」 大阪府立大学工業高等専門学校 TPGP プロジェクトサブリーダー 北野 健一 先生
17:00 ~	3. クロージング

(出典 自己点検評価委員会資料)

平成23年度 教員研修出張一覧 (抜粋)

資料9-2-①-8その1

平成23年度 教員研修出席一覧

サレジオ工業高等専門学校

No	出張日	: 用務 : 出張先
1	2011/7/9	: TOIEC スピーキング/ライティングテストセミナー : ペルサール神田 (千代田区)
2	2011/7/23	: 工学 (融合複合・新領域) 関連分野審査講習会参加 : 芝浦工業大学キャンパス
3	2011/7/23	: 日本工学教育協会「工学関連分野」審査講習会への参加 : 芝浦工業大学豊洲キャンパス
4	2011/7/23	: 日本工学教育協会「工学関連分野」審査講習会への参加 : 芝浦工業大学豊洲キャンパス
5	2011/7/23	: 日本工学教育協会「工学関連分野」審査講習会 : 芝浦工業大学豊洲キャンパス (江東区)
6	2011/7/23	: 日本工学教育協会「工学関連分野」審査講習会 : 芝浦工業大学豊洲キャンパス
7	2011/7/23	: 日本工学教育協会「工学関連分野」審査講習会 : 芝浦工業大学豊洲キャンパス
8	2011/8/3~5	: サレジオ会学校連合会教員研修会への参加 : 日向学院 (宮崎)
9	2011/8/3~5	: サレジオ会学校連合会教員研修会への参加 : 日向学院 (宮崎)
10	2011/8/25~26	: 東京バリューエンジニアリング基礎講座 : (社) 日本バリュー・エンジニアリング協会 (世田谷区)
11	2011/8/29~31	: 高等専門学校新任教員研修会 参加 : 国立リビック記念青少年総合センター
12	2011/8/29~31	: 高等専門学校新任教員研修会 : 国立リビック記念青少年総合センター
13	2011/8/29~31	: 高等専門学校新任教員研修会 参加 : 国立リビック記念青少年総合センター

資料 9-2-①-8 その 2

14	2011/9/6	: 八王子商工会議所「教育関係者による地元企業の再発見」 : 富士プリント工業、アートビーム
15	2011/9/17	: TOEFL IBT 教授法ワークショップ : こどもの城 (渋谷区)
16	2011/10/12	: 日本電子株式会社 SEM・EDSセミナー : 総評会館 (千代田区)
17	2011/10/20	: 教育著作権セミナー (大学等における ICT 活用教育と著作権) : 埼玉大学総合研究棟シアター教室
18	2011/10/20	: 教育著作権セミナー (大学等における ICT 活用教育と著作権) : 埼玉大学総合研究棟シアター教室
19	2011/10/25	: 毒物劇物業務上取扱者講習会 : 国分寺市いずみホール
20	2011/12/15	: (社) 日本技術者教育認定機構主催 JABEE 関係講演会参加 : 芝浦工業大学豊洲キャンパス
21	2011/12/15	: (社) 日本技術者教育認定機構主催 JABEE 関係講演会参加 : 芝浦工業大学豊洲キャンパス
22	2011/12/16	: 学生相談インターカーセミナー参加 : 東京国際交流館プラザ平成 (江東区)

(出典 平成 23 年度事業報告書)

(分析結果とその根拠理由)

FDの取り組みを研修会だけではなく、学校業務の様々な局面で実施している。ただし、このような取り組みが教育の質の向上や授業改善にどのように寄与しているかを示すデータの収集が行われてはいない。

以上より、教育の質の向上や授業改善に結びついているかは不明である。

観点 9-2-②： 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

開業式、教職員集会 (Weekly)、教職員レビュー及び平成 20 年より実施されている校内の研修会は全教職員を対象にしたものであり、技術職員や事務部の教育支援者も参加している。また、事務部に所属する職員についても、校外で実施される研修会に積極的に参加している (資料 9-2-②-1)。

平成 23 年度 職員研修出張一覧 (抜粋)

資料 9-2-②-1 その 1

平成 23 年度 事務職員研修出席一覧

育英学院 法人本部
サレジオ工業高等専門学校

No	出張日	: 用務 : 出張先
1	2011/4/14	: 東京都育英資金 事務担当者説明会 : 津田塾大学 津田ホール
2	2011/4/25	: 私学経営研究会 4 月定例会 : 東京ガーデンパレス
3	2011/5/12	: セミナー参加「就業規則の基礎知識～採用から退職まで～」 : 東京都国分寺労政会館
4	2011/5/18	: セミナー参加「就業規則に関するトラブル事例」 : 東京都国分寺労政会館
5	2011/5/29	: かながわ民間協会西部学習塾勉強会 : 箱根 富士屋ホテル
6	2011/6/13	: 学校法人会計の仕組みと実務～学校会計入門コース : 東京ガーデンパレス

資料 9-2-②-1 その 2

7	2011/6/16	: 労働法基礎セミナー (1回目/全3回) : 東京都八王子労政会館
8	2011/6/17	: 労働法基礎セミナー (2回目/全3回) : 東京都八王子労政会館
9	2011/6/21	: 食品衛生責任者養成講習会 : 立川グランドホテル
10	2011/6/21	: 食品衛生責任者養成講習会 : 立川グランドホテル
11	2011/6/23	: 労働法基礎セミナー (3回目/全3回) : 東京都八王子労政会館
12	2011/6/29	: アイバックスゼミナール「目標創出によるマネージメント革新」 : ラジオ日本クリエート (横浜市)
13	2011/7/8	: 第2回教育 IT リニューアル専門セミナー : 東京ビックサイト (江東区)
14	2011/7/27	: 第34回 夏季私学経営者特別講座 参加 : 東京ガーデンパレス
15	2011/7/29	: 学校会計の研修会 : アルカディア市ヶ谷
16	2011/7/29	: 会計&資産 Ver.8.5 紹介セミナー : アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
17	2011/7/29	: 会計&資産 Ver.8.5 紹介セミナー : アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
18	2011/7/29	: VEリーダー認定試験 : 府中多磨ビル
19	2011/8/6	: Educational Network セミナー「発達障害」参加 :
20	2011/8/10	: 平成23年度パソコン講座【④Excel2007 応用コース】 : 専門学校お茶の水スクール・オブ・ビジネス
21	2011/8/10	: 私学経営研究会定例セミナー参加 : 東京ガーデンパレス
22	2011/8/20	: Access 2007 基礎コース : お茶の水スクール・オブ・ビジネス
23	2011/8/24	: 学校法人におけるリスクマネジメント研修会 (私学経営研究会) : 大阪ガーデンパレス
24	2011/8/29	: 「モンスターペアレント対応術」セミナー参加 : 日本教育大学院大学 (千代田区)
25	2011/8/31	: ロケ撮影受入施設担当者講習会 (第1回) : 東京都庁第一本庁舎 5回大会議場

資料 9-2-②-1 その 3

26	2011/9/7	: 日本 VE 協会主催「VE 基礎講座」 : 日本 VE 協会事務局 (世田谷区)
27	2011/9/8	: 国内最新事例で学ぶスマートフォンの効果的活用セミナー参加 : パレスホテル立川
28	2011/9/9	: 第 19 回 興学社大学 参加 : 多摩永山情報教育センター
29	2011/9/9	: 第 19 回 興学社大学 参加 : 多摩永山情報教育センター
30	2011/9/10	: 第 19 回 興学社大学 参加 : 多摩永山情報教育センター
31	2011/9/11	: 第 19 回 興学社大学 参加 : 多摩永山情報教育センター
32	2011/9/22	: 「普通救命講習」受講のため : 牛込消防署
33	2011/9/22	: 「普通救命講習」受講のため : 牛込消防署
34	2011/11/4	: 学校経営リスクマネジメント講座 :
35	2011/11/10	: 学校法人支援セミナー「私学のソーシャルメディア活用法」 :
36	2011/11/11	: 平成 23 年度省エネルギー対策に関する研修会 : 東京医科歯科大学 5 号館 (文京区)
37	2011/11/15	: 火曜日倶楽部セミナー「入試分析について」 : 東京ドームホテル
38	2011/11/16	: 最新 人事労務・就業規則ポイントセミナー : ザ・クレストホテル立川
39	2011/11/17	: 栄光ゼミナール「不況と震災で来年度の入試はどう変わるか？」 : 渋谷東急イン
40	2011/11/18	: デジタルマーケティング 2011 セミナー参加 : 東京ビッグサイト
41	2011/11/22	: 経営者セミナー : 高橋賃金システム研究所 (八王子市)
42	2011/11/24	: 学校給与 Ver. 8.5 年末調整操作セミナー : グレーブシティ セミナールーム
43	2011/11/25	: メンタルヘルスセミナー出席 : 新宿東京海上日動ビル
44	2011/11/28	: 平成 23 年度人事院勧告と私学の賃金問題セミナー : 東京ガーデンパレス

資料 9-2-②-1 その 4

45	2011/11/28	: 平成 23 年度人事院勧告と私学の賃金問題セミナー : 東京ガーデンパレス
46	2011/11/28	: 森上教育研究所「首都圏高校入試」セミナー参加 : 中央大学駿河台記念館
47	2011/11/28	: (株) ファカリス「大学教育における iPad・スマートフォン活用・・・」 : 日本教育大学院大学 (千代田区)
48	2011/12/12	: 「保護者とのトラブルへの対応」研修参加 : 私学財団会議室
49	2011/12/21	: 第 2 回 学術情報基盤オープンフォーラム : 学術総合センター (千代田区)
50	2011/12/22	: 防災教育と学生ボランティア支援セミナー (学生支援機構) : 一橋記念講堂 (千代田区)
51	2012/1/18	: 平成 23 年度「経営セミナー」 : 東京ガーデンパレス
52	2012/1/20	: 太陽 ASG 監査法人 業種別セミナー : 東京国際フォーラム
53	2012/1/20	: 監査法人セミナー (予算作成実務・決算留意事項) : 東京国際フォーラム
54	2012/1/20	: 太陽 ASG 業種別セミナー～予算作成実務・決算留意事項～ : 東京国際フォーラム
55	2012/1/21	: 多摩 AED セミナー参加 : 立川商工会議所
56	2012/3/2	: 第 11 回公的研究費の管理・監査に関する研修会 : 北とびあ さくらホール (北区)
57	2012/3/2	: 第 11 回公的研究費の管理・監査に関する研修会 : 北とびあ さくらホール (北区)
58	2012/3/7	: 平成 23 年度学校法人会計基準研修会 : 東京都庁
59	2012/3/13	: 第 48 回火曜倶楽部セミナー参加 : 東京ドームホテル(文京区)
60	2012/3/22	: 森上教育研究所「公立高校入試の結果と分析」セミナー : 中央大学駿河台記念館
61	2012/3/29	: (株) エプ・エデュケーションネットワーク「ソーシャルメディア」セミナー : 峰ビル (千代田区)

以下、複数日にわたったもの

62	2011/6/23～24	: 「VE 基礎講座」受講 (2 日間) : 社団法人 日本ハロー・エンジニアリング協会 (駒澤大学)
----	--------------	--

資料 9-2-②-1 その 5

63	2011/8/2～3	: コーチング研修 (指導・育成担当コース) : (公財) 東京都私学財団 (新宿区)
64	2011/8/25～26	: 太陽 ASG 業種別セミナー～学校法人の経営・会計・内部統制～ : ホテルフロラシオン青山
65	2011/8/31～9/2	: 就職・キャリア支援教職員研修会 (基礎コース) : 東京国際交流館 (江東区)
66	2011/8/4～5	: 太陽 ASG 主催学校会計実務者研修会 (管理者向け) : 太陽 ASG 監査法人 大阪事務所 (大阪市北区)
67	2011/9/14～15	: 平成 23 年度学校会計講座 (初級) : 東京都私学財団 (新宿区)
68	2011/9/8～9	: 平成 23 年度学校会計講座 (初級) : 東京都私学財団 (新宿区)
69	2011/9/9～10	: 興学社大学研修会 参加 : 多摩永山情報教育センター
70	2011/9/20～21	: 私学教職員のためのワークコミュニケーション研修 : ラジオ日本クリエイト 3 階会議室 (横浜市)
71	2011/10/6～7	: カトリック学校法人理事研修会 : 幼きイエス会 ニコラ・パレ修道院 (四ツ谷)

(出典 平成 23 年度事業報告書)

(分析結果とその根拠理由)

校内FDにはほとんど全ての教育支援者が参加しており、校外で実施される研修会へも積極的に参加している。このことから、教育支援者等に対して、その資質の向上を図るための取組が適切に行われていると判断できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校で実施されている「教育の質の向上及び改善のためのシステム」は、他校と比較しても極めて普通の水準程度のものであるため、該当するものはない。

(改善を要する点)

教育の質の向上及び改善のためのデータ及び資料は、様々な部署において収集されているが、それらを効率的に利用できるためのシステムを作る必要がある。

学生による授業アンケートについては、学生へのフィードバックの方法を考える必要がある。学外関係者からの意見聴取については、卒業・修了生及び企業関係者からの意見聴取の仕組みを作り、データ。資料の一元化をする必要がある。また、外部有識者からの意見聴取は、毎年度実施する必要がある。

教育の質の向上、改善のシステムは存在するが、教育課程に関して言えば、準学士課程と専攻科課程のつながりを検討するシステムが存在していない。これに対しては早急に対応する必要がある。

個々の教員の授業改善に対する取組に対して、その具体的な内容を学校が知る方法は目標記述書しかないため、教員の過度の負担にならず、その内容を知ることができる方法を考えねばならない。

ファカルティ・ディベロップメントは様々な形で行われているが、これらがどのように教育の質の向上、改善に結びついているかを示す客観的なデータの収集をする必要がある。

(3) 基準9の自己評価の概要

教育課程、シラバス及び授業アンケートなどのデータや資料の収集・保管に関しては、担当する部署が毎年実施しており、公開可能なものについてはウェブサイトなどで公開している。

学校構成員からの意見聴取は、教職員個人目標面談、学生による授業アンケート、学生対談会、授業改善のための意見箱、保護者を対象とした授業公開アンケート及び父母懇談会報告など様々な方法で行われている。卒業・修了生及び企業関係者からの意見聴取は、各部署がそれぞれ実施している。学外有識者からの意見聴取は、平成17年に外部評価として、平成20年に第3者評価として実施されている。

教育の質の向上、改善についての活動は、準学士課程各学科、一般教育科、専攻科などの部署が主体となり行われており、それらの部署の間の調整は、教育運営会議（EMC会議）、総合企画会議（TPC会議）及び学校運営会議（AMC会議）が行っている。また、その結果、教育課程の見直しなど具体的な方策が講じられている。

個々の教員の授業改善に対する取組は、授業アンケートなどをもとに行われ、その結果は目標記述書や個人業績一覧表によって報告されているが完全とは言い難い状況である。

教員は活発な研究活動を行っており、これらの一部は卒業研究（準学士課程）や特別研究（専攻科課程）で実施されている。また、教育方法などの教育研究も多く行われており、教育の質の向上、改善につながっている。

ファカルティ・ディベロップメントはFD研修会だけではなく、学校業務の様々な局面で行われており、これらのFD活動は教員だけではなく、事務職員も多く参加している。また、校外の研修へも積極的に参加している。

基準 1 0

財務

基準 10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点 10-1-①：学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校は、平成17年4月、東京都杉並区から町田市の現在地に移転し、施設、設備を一新した。不動産は、学校法人育英学院が所有しており、町田キャンパス全体を本校が占有して使用している。債務については東京都入学支度金貸付制度に伴うものであり、又長期未払金はリース取引に関する会計処理方法の変更に伴うものである。(資料10-1-①-1「貸借対照表」「資産・負債の推移」、(資料10-1-①-2「財産目録」、(資料10-1-①-3「収支計算書」、

(分析結果とその根拠理由)

大きな借入金もなく、高等学校設置基準に定められる校地、校舎、図書、設備を有しており、基準を超える充実した教育環境を学生に提供できていると認識している。

(資料10-1-①-1)
「貸借対照表」サレジオ工業高等専門学校
貸借対照表
平成24年3月31日

(単位：千円)

科目名	金額	科目名	金額
[資産の部]		[負債の部]	
固定資産	9,660,540	固定負債	518,965
有形固定資産	9,028,773	長期借入金	2,000
土地	4,507,234	退職給与引当金	474,477
建物	3,802,251	長期未払金	42,488
構築物	223,149	流動負債	113,169
教育研究用機器備品	338,321	未払金	27,071
図書	142,487	前受金	58,050
その他の有形固定資産	15,331	その他の流動負債	28,048
その他の固定資産	631,767	負債の部合計	632,134
施設修繕・施設拡充引当特定預金	452,267		
奨学金基金・運営資金引当特定資産	142,558	[基本金の部]	
その他の固定資産	36,942	第1号基本金	10,329,598
流動資産	151,820	第4号基本金	86,404
現金預金	73,551	基本金の部合計	10,416,002
その他の流動資産	78,269		
		消費収支差額	△ 1,501,663
		内部勘定 (法人勘定)	265,887
		消費収支差額の部合計	△ 1,235,776
資産の部合計	9,812,360	負債・基本金・消費収支差額の部合計	9,812,360

「資産・負債の推移」

(単位：千円)

科目	平成23年度		平成22年度		平成21年度		平成20年度		平成19年度	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
保有資金	668,375	6.8%	723,452	6.4%	772,406	7.6%	684,398	6.6%	738,036	7.0%
有形固定資産	9,028,774	92.0%	9,905,732	88.1%	9,385,923	92.0%	9,565,112	92.3%	9,728,501	91.7%
その他の資産	115,211	1.2%	619,143	5.5%	41,782	0.4%	118,661	1.1%	141,589	1.3%
資産の部合計 (A)	9,812,360	100.0%	11,248,327	100.0%	10,200,111	100.0%	10,368,171	100.0%	10,608,126	100.0%
借入金	2,200	0.0%	1,800	0.0%	1,000	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他の負債	629,934	6.4%	661,328	5.9%	655,070	6.4%	620,069	6.0%	650,345	6.1%
負債の部合計 (B)	632,134	6.4%	663,128	5.9%	656,070	6.4%	620,069	6.0%	650,345	6.1%
純資産額 (A) - (B)	9,180,226	93.6%	10,585,199	94.1%	9,544,041	93.6%	9,748,102	94.0%	9,957,781	93.9%

(出典 本校財務資料 平成23年度貸借対照表)

(資料10-1-①-2)
「財産目録」サレジオ工業高等専門学校
財産目録

平成24年3月31日現在

(単位：千円)

科 目		年度末
一 資産額		
(一) 基本財産		
1	土地(団地) 45,465 m ²	4,295,534
2	建物	
(1)	校舎 15,884 m ²	2,091,222
(2)	体育館 2,818 m ²	656,279
(3)	学生寮 1,122 m ²	117,806
(4)	その他 2,079 m ²	930,659
3	図書 43,310 冊	142,487
4	教具・校具・備品 6,352 点	353,488
基本財産合計		8,587,475
(二) 運用財産		
1	現金・預金	
(1)	現金 現金手元有高	1,041
(2)	普通預金	72,310
(3)	定期預金	200
2	積立金	594,824
3	不動産	
(1)	土地 4,749 m ²	211,699
(2)	建物 m ²	0
(3)	構築物 42 件	223,149
4	未収入金	55,985
5	長期貸付金(奨学金等)	35,049
6	短期貸付金	1,414
7	前渡金	0
8	立替金	32
9	仮払金	559
10	研修旅行費預り資産	26,646
11	その他	1,977
運用財産合計		1,224,885
資産の部合計 (基本財産+運用財産)		9,812,360
二 負債額		
1	固定負債	
(1)	長期借入金	2,000
(2)	退職給与引当金	474,477
(3)	長期未払金	42,487
固定負債合計		518,964
2	流動負債	
(1)	未払金	27,070
(2)	前受金	58,050
(3)	預り金	7,672
(4)	研修旅行費預り金	20,176
(5)	短期借入金	200
流動負債合計		113,168
負債の部合計 (固定負債+流動負債)		632,132
純財産 (資産合計-負債合計)		9,180,228

(資料10-1-①-3)
「収支計算書」サレジオ工業高等専門学校
収 支 計 算 書
平成23年4月 1日から
平成24年3月31日まで

(資金収支計算書)

(単位：千円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科目名	予算額	決算額	差異	科目名	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金	750,137	753,618	3,481	人件費支出	724,605	724,885	280
手数料	9,900	9,828	△ 72	教育研究経費支出	207,620	189,914	△ 17,706
寄付金	5,000	5,350	350	管理経費支出	101,867	103,343	1,476
補助金	199,362	199,760	398	借入金等返済支出	400	400	0
国庫補助金	188,812	188,812	0	施設関係支出	5,350	5,300	△ 50
地方公共団体補助金	10,550	10,948	398	設備関係支出	12,400	26,367	13,967
資産運用収入	9,500	9,602	102	資産運用支出	33,416	16	△ 33,400
借入金収入	800	800	0	その他の支出	38,570	41,716	3,146
事業収入	22,900	22,956	56				
雑収入	61,659	61,428	△ 231				
前受金収入	61,600	58,050	△ 3,550				
その他の収入	84,040	60,372	△ 23,668				
内部資金収入	3,860	4,128	268	内部資金支出	15,126	15,339	213
資金収入調整勘定	△ 104,525	△ 103,570	955	資金支出調整勘定	△ 15,000	△ 21,285	△ 6,285
前年度繰越支払資金	77,224	77,224	0	次年度繰越支払資金	57,103	73,551	16,448
収入の部合計	1,181,457	1,159,546	△ 21,911	支出の部合計	1,181,457	1,159,546	△ 21,911

(消費収支計算書)

(単位：千円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科目名	予算額	決算額	差異	科目名	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金	750,137	753,618	3,481	人件費	724,605	687,421	△ 37,184
手数料	9,900	9,828	△ 72	教育研究経費	401,806	401,857	51
寄付金	5,000	10,271	5,271	(うち減価償却額)		(210,282)	
補助金	199,362	199,760	398	管理経費	131,553	133,177	1,624
国庫補助金	188,812	188,812	0	(うち減価償却額)		(29,809)	
地方公共団体補助金	10,550	10,948	398	資産処分差額	0	483	483
資産運用収入	9,500	9,602	102	徴収不能額	0	0	0
資産売却差額	0	0	0	内部取引	9,900	8,746	△ 1,154
事業収入	22,900	22,956	56				
雑収入	61,659	61,428	△ 231				
帰属収入合計	1,058,458	1,067,463	9,005				
基本金組入額	△ 17,750						
消費収入の部合計	1,040,708	1,067,463	26,755	消費支出の部合計	1,267,864	1,231,684	△ 36,180
				当年度消費支出超過額	227,156	164,221	

(出典 本校財務資料 平成23年度資金および消費収支計算書)

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

資金収支的には経常的収入を確保しているが在籍学生数においては定員数未達の状況である。今後も教職員一丸となった募集活動により、入学者数の増加をはかるとともに、退学者を減少させ収入の確保に努めなければならない。また学納金未納者に対するフォローを地道に実施し、未納者数は確実に減少している。更に収入の確保の為に若干の資金運用を行い多少の収益拡大が図れた。科研費等の外部研究資金獲得活動も活性化しており、その成果もでてきている。寄附金募集も地道に継続していく計画であり、更なる収入の積上げが期待できる。(資料10-1-②-1)に「消費収入・消費支出の推移」「学生・専任教職員1人あたりの数値」を示し、(資料10-1-②-2)に「科学研究費補助金の採択状況」「その他外部研究資金の受入状況」を示す。

(資料10-1-②-1)

「消費収入・消費支出の推移」

(単位：千円)

科目	平成23年度		平成22年度		平成21年度		平成20年度		平成19年度	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
納付金	753,618	70.6%	714,748	69.9%	739,784	72.0%	759,231	68.9%	754,906	73.1%
消費補助金	199,759	18.7%	206,873	20.2%	215,100	20.9%	198,847	18.0%	203,460	19.7%
消費寄附金	10,271	1.0%	7,295	0.7%	11,156	1.1%	6,364	0.6%	16,227	1.6%
収入資産運用収入	9,602	0.9%	9,889	1.0%	3,074	0.3%	3,903	0.4%	3,526	0.3%
入その他の消費収入	94,213	8.8%	84,375	8.2%	58,180	5.7%	133,432	12.1%	54,688	5.3%
帰属収入(A)	1,067,463	100.0%	1,023,180	100.0%	1,027,294	100.0%	1,101,777	100.0%	1,032,807	100.0%
消費人件費	687,420	64.4%	668,753	65.4%	678,185	66.0%	723,474	65.7%	688,858	66.7%
消費教育研究経費	191,575	17.9%	203,858	19.9%	226,369	22.0%	264,605	24.0%	228,346	22.1%
消費教育研究経費の減価償却額	210,282	19.7%	196,939	19.2%	198,870	19.4%	198,895	18.1%	195,843	19.0%
支出管理経費	103,369	9.7%	101,284	9.9%	89,940	8.8%	73,703	6.7%	83,186	8.1%
支出管理経費の減価償却額	29,808	2.8%	32,693	3.2%	32,711	3.2%	32,680	3.0%	31,176	3.0%
その他の消費支出	484	0.0%	1,149	0.1%	0	0.0%	1,242	0.1%	15,959	1.5%
消費支出(B)	1,222,938	114.6%	1,204,676	117.7%	1,226,075	119.3%	1,294,599	117.5%	1,243,368	120.4%
消費収支差額(A)-(B)	△155,475	-14.6%	△181,496	-17.7%	△198,781	-19.3%	△192,822	-17.5%	△210,561	-20.4%

(*)平成19年度帰属収入では、資産売却差額を控除しています。

「学生・専任教職員1人あたりの数値」

科目	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
学生数(5月1日現在)	775	755	800	834	830
(内専攻科)	(28)	(15)	(7)	(19)	(22)
専任教職員数	75	79	76	80	74
(専任教員数)	55	55	53	56	(59)
(非常勤教員数)	48	48	46	41	(38)
(専任職員数)	20	24	23	24	(15)
学生1人あたり					
帰属収入(千円)	1,377	1,355	1,284	1,321	1,244
納付金(千円)	972	947	925	910	910
補助金(千円)	258	274	269	238	245
消費支出(千円)	1,578	1,596	1,533	1,552	1,498
人件費(千円)	887	886	848	867	830
教育研究経費(千円)	247	270	283	317	275
専任教職員1人あたり人件費(千円)	9,166	8,465	8,923	9,043	9,309
専任教職員1人あたり学生数	10.3	9.6	10.5	10.4	11.2

(出典 本校財務資料 平成19~23年度消費収支の推移と学生経費の推移)

(資料10-1-②-2)

「科学研究費補助金の採択状況」

区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
申請件数	11	15	14	16	25
採択件数	1	3	1	0	2
金額(千円)	11,180	6,890	1,600	0	4,900

「その他外部研究資金の受入状況」

区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
受入件数	2	3	5	6	11
金額(千円)	500	1,540	1,400	2,092	4,910

(出典 本校財務資料 平成19～23年度科研費等外部資金獲得の推移)

(分析結果とその根拠理由)

少子化、理系離れ等、とりまく環境の厳しさのなかで、移転後早7年が経過しているがその間、学科間のばらつきがあるが毎年170から180の入学者を確保している。これはまったく新しい地域環境に移転してきて移転当初からそれなりの員数確保ができていたということはこの地域での一定の評価を得たと考える。しかし、全学年ベースでは定員900の確保は未だ達成できていないが、収入増に向けた様々な取組みにより、経常的収入が継続して収入が確保できると認識している。

観点10-2-①：学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

平成20年度から、現場のコスト意識と経営への参画意識を高めることを目的として、管理部門主導の割当方式を現場からの予算要求積上げ方式による予算編成に変更することとした。予算要求提出、ヒアリング、査定、配賦という一連のプロセスを終了している。(資料10-2-①-3)に「平成24年度予算策定について」を示す。

(資料10-2-①-3)

- 平成24年度の予算案策定について。
- 平成23年度予算案策定方法と同様に策定を行う。
- I 中期経営目標の達成を目指す予算案の策定を行う。
 - II 予算策定についての基本的方針。
 - ・基本的に資金収支予算(単年度予算)で△を発生させない予算とする。
 - ・標準収入予算(範囲内)での予算配分とする。
 - ・「いくら使えるか」を基本方針とする。
 - ・下記のような予算配分とします。
 - ・全ての業務遂行においてMIP(中期経営目標)・AP(各部署の単年度行動計画)を念頭にしているはずであるが、更にその関連性を明確にする。
 - III 予算区分。
 - 【経常予算】
 - ・各部署が経常的に使用する経費。
 - ① 学料関連
 - ・従来の実験実習費 ⇒ 割当方式(当面は)
 - ・従来の機動特別予算の内訳別分 ⇒ 計画書の提出⇒ヒアリング・査定。
 - ② その他の部署(目的別)
 - ・予算要求書の作成⇒予算要求⇒ヒアリング・査定。
 - 【特別予算(MIP・APとの連携)】
 - ・経常予算外の重点課題、新規課題としての特別予算申請経費。
 - ・申請に対してヒアリング・査定を行い、その遂行状況・成果等についてヒアリングを行う。
 - 【施設維持管理予算】
 - ・学校独自の施設維持費用及び維持・管理を目的とし、年度計画等において設備、設備を築造するための事業予算。
 - ・施設等に処置。
 - 【施設新規予算】
 - ・予算申請部署が施設設備の拡張等の要望を申請した事業予算。
 - ・事業計画書提出⇒ヒアリング⇒査定。
 - IV 日程について。
 - ・学利用予算申請書提出期日 11月30日。
 - ・(申請書様式は11月7日に学科長あてにメールで送付致します)。
 - ・ヒアリング 予算申請書の提出後、予算委員会から日時を連絡いたします。

平成23年11月4日

総務会計課長 菅野 光弘
事務部長 藤山 松生

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算委員会							審議決定
会計	予算年度方針・予算方針案の作成 予算申請方式説明	予算原案作成			修正予算原案作成		
予算委員会	予算年度方針・予算方針案の決定			予算査定作業			
予算委員会			予算ヒアリング				
各部署		特別予算案の作成 経常予算案の作成	特別予算申請 経常予算申請				
予算委員会	予算編成方針等説明						

	平成24年1月25日 水曜日								平成24年1月27日 金曜日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
小島 校長																
平岡 副校長																
木戸 事務長																
竹内 デザイン学科長																
谷上 先生																
加藤 藤 電気工学科長	9:30															
高橋 橋 機械電子工学科長	10:00															
島川 川 情報工学科長補佐		11:00														
渡邊 邊 応用技術センター長		10:30														
杉島 島 総合企画室長			11:30													

(分析結果とその根拠理由)

平成20年度から予算策定を、年度事業計画に基づく重点志向で配賦していく方式に変更したことで、財務目標が明確になり、メリハリのあるオペレーションが展開できた。関係者への明示も的確に実行されていると認識している。今後は、予算要求積上げ方式を定着させていくこと、各部署からの予算要求サイクルを早めることに、より全体予算内容との整合性を進化させていくことが、ポイントと考えている。

観点 10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

収支の状況は、ここ数年支出超過になっているが、改善の第一ステップとして、23年度資金収支の黒字化を目指し達成した。さらに、支出項目の見直しも実施、管理経費削減を進め、収支バランスの改善を図った。長期的には、在籍定員確保のための施策整備を行い、健全なる収支バランス構造に転換していく。最大の支出項目である人件費については、賞与支給月数の調整等、引き続き抑制努力を継続しているが、あわせて教職員の世代交代が進むことによる改善も見込んでいる。

(分析結果とその根拠理由)

現状は厳しい収支状況ではあるが、様々な施策の展開により成果がでてきており、更なる努力を継続することで、必ずや健全な収支バランス状況になるものと確信している。

観点 10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

平成17年度以降新たに整備した施設、設備を基にして、本校の教育目的の達成に向けた資源配分を随時適切に実施している。今後も、設備充実等の教育研究活動投資がでてくるが、事業計画に基づき、事前に予算を確保し収支状況バランスをふまえた投資を実行していく。

(分析結果とその根拠理由)

過去5年間の教育研究経費に関わる推移にあるとおり、私立大学法人（医歯系を除く）ならびに私立短大法人平均との比較から見ても、限られた資金の中から適切な資源配分がなされていると認識している。（資料10-2-③-1）に「学生1人あたりの教育研究経費支出」を示す。

(資料10-2-③-1)

「学生1人あたりの教育研究費支出」

教育研究費支出内訳

(単位：千円)

教育目的別	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
1. 専門性	93,286	121,318	118,931	112,942	93,070
教育運営	44,730	58,325	50,435	49,054	45,802
専門学科教育	18,874	30,640	34,411	31,226	23,684
基礎・一般学科教育	2,542	3,560	3,347	2,132	4,086
情報教育関係	27,140	28,793	30,738	30,530	19,498
2. 国際生 人間性	21,816	22,902	19,604	22,910	21,574
国際交流	4,635	5,302	3,382	3,715	3,594
課外活動等	5,477	5,708	5,123	6,845	5,321
人間形成支援	11,704	11,892	11,099	12,350	12,659
3. その他	105,325	120,310	87,834	67,395	75,270
教育研究活動	5,664	6,656	5,886	6,216	10,960
光熱・施設維持等関係	79,442	97,240	63,182	59,178	60,592
教育機器等及び購入	-	-	-	-	-
受託事業	17,163	14,386	16,845	-	-
その他	3,056	2,028	1,921	2,001	3,718
合計	220,427	264,530	226,369	203,247	189,914

学生1人あたりの教育研究費支出

項目	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
学生数(5月1日現在)	830	834	800	755	775
教育研究経費(千円)	228,346	264,530	226,369	203,247	189,914
学生1人あたりの教育研究費支出(千円)					
サレジオ工業高等専門学校	275	317	283	269	245
私立大学法人平均(医歯系除く)	285	293	294	292	N.A
私立短大法人平均	176	178	182	185	N.A

観点 10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

平成 16 年度までは、保護者、学生、教職員を対象とする学校関係者向けの公開であったが、平成 17 年度決算分からホームページ上で一般公開している。公開内容は、財務諸表（資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表、財産目録）の要約、監事の監査報告書、事業報告書となっている。上記に加え、事務部内に閲覧用文書として財務諸表（資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録）、監査報告書（監事による監査報告書・公認会計士による監査報告書）、事業報告書、法人の概要書を備えおき、在学する者その他の利害関係者から請求があった場合は、閲覧の場を設けている。（資料 10-3-①-1）に「サレジオ高専HP掲載-事業報告」を示す。

(資料10-3-①-1)

「サレジオ高専HP掲載-事業報告」

ホーム > 学校案内 > 【資料】事業報告

【資料】事業報告

[2012/07/27] **UP** 2011（平成23）年度の事業報告を追加しました。

【目次】サレジオ高専 事業報告

- ▶ 2011（平成23）年度 **NEW** 12/07/27
- ▶ 2010（平成22）年度
- ▶ 2009（平成21）年度
- ▶ 2008（平成20）年度
- ▶ 2007（平成19）年度
- ▶ 2006（平成18）年度
- ▶ 2005（平成15）年度

2011（平成23）年度 事業報告 **NEW** 12/07/27

文書（PDF）	用紙	枚数	サイズ
H23年度 事業報告書	A4	8枚	121KB
H23年度 計算書類	A4	3枚	38KB
H23年度 財産目録	A4	1枚	138KB
H23年度 監査報告書	A4	2枚	955KB

(出典 サレジオ高専ホームページから)

(分析結果とその根拠理由)

私立学校法第 47 条の 2 において規定されている事項について、財務諸表は適切な形で公表されているものと認識している。

観点 10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

毎年度、公認会計士による会計監査を受け、財務諸表の監査証明を受けている。加えて、監事による監査を受け、会計上及びその他の法人業務執行状況に不正や不備がないかの確認を受けている。期末監査については、財務諸表にその監査報告書を添付している。

(分析結果とその根拠理由)

・本校は、文部科学大臣の定める基準に従い会計処理を行っており、私立学校振興助成法第 14 条に定められている事項について、適切に処理している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

平成 23 年度末現在において借入金は都入学支度金事業に伴う僅かな額のみであり、当面は新たな借入を行わずに学校運営を進めていけると考えている。また収支バランス改善のために、収入増加、支出減少の活動計画を立て、着実に実行している。平成 17 年度より検討をスタートした目標管理制度も本格運用の時期にはいり、今後、学校運営のあらゆる局面でその効果がでてくるものと確信している。

【改善を要する点】

収支状況の改善は、本校として喫緊の課題で前述のとおり第一段階は資金収支、第二段階は消費収支と段階を踏みながら長期的なシナリオに沿って、進めていくべきものと考えている。定員確保に向けた新入生増加、退学数減少のためには、何よりも教育内容の質向上が最も重要であり、これに教職員一丸となつての取り組み、多面的な観点からの経営改善活動を継続していく必要があると考えている。

(3) 基準 10 の自己評価の概要

中期事業計画にあるとおり、本校が勝ち抜き、生き抜いていくためには、原点である教育研究の充実を図り、建学の精神に基づくミッション（使命）、21 世紀ビジョン（将来像）に沿って、教職員一同で邁進していくことが「選ばれるサレジオ高専創り」実現の基本であると認識している。移転により、新たな基盤として校地、校舎、設備等の資産を有することで、ハード面は充実したが、学校運営プロセスの様々なしくみ、プロセスを回す人のメンタリティー等、ソフト面での更なる充実を目指すことが、今、何よりも重要であると考える。各観点の評価で述べてきたとおり、良さを伸ばし、改善すべきことは改善す

る努力は着実に進めており、その成果は将来にわたって結実してくるものと考えている。

以上のことから、学校の財務基盤の保有状況、及び収支に関する計画、実行の状況、財務公開や監査の状況、教職員一丸となった取り組み状況をもとに、総合的に判断すれば、現時点で相応である。

基準 1 1

管理運営

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到に係る状況)

学校教育法施行規則ならびにサレジオ工業高等専門学校学則に定める教務主事、学生主事及び寮務主事が置かれ、校長の命のもとに、学生の教育・研究計画の立案と遂行、学生及び寮生の厚生補導に力を注いでいる。さらに、本校では校長のもとに副校長が置かれ、学校運営、教育運営を行ってきた。

資料11-1-①-1 学則条文

また、学校管理運営のための統括会議として、学校運営会議、教育運営会議、教職員会議が定期的開催され、円滑な教育運営が行われるよう努めてきた。平成17年度より、長期的視野にたつて健全かつ合理的な学校運営を図ることを目的として総合企画室が設置され、ここを中心に平成17、18年の2年間をかけてサレジオ高専マネジメントシステムが構築された。平成21年度から総合企画本部として、職制の明確化、目標管理を試行から本格的実施へ進めた。さらに平成21、22、23年度は第2期中期計画の策定、実施を進めた

資料11-1-①-1

サレジオ工業高等専門学校 学則 (抜粋)

第8条 本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員及びその他の職員を置く。

2 校長の下に副校長を置くことができる。

第9条 本校に教務主事、学生主事、寮務主事を置く。

2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関することを掌理する。

4 寮務主事は、校長の命を受け、学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(出典 info2011 サレジオ工業高等専門学校 学則抜粋)

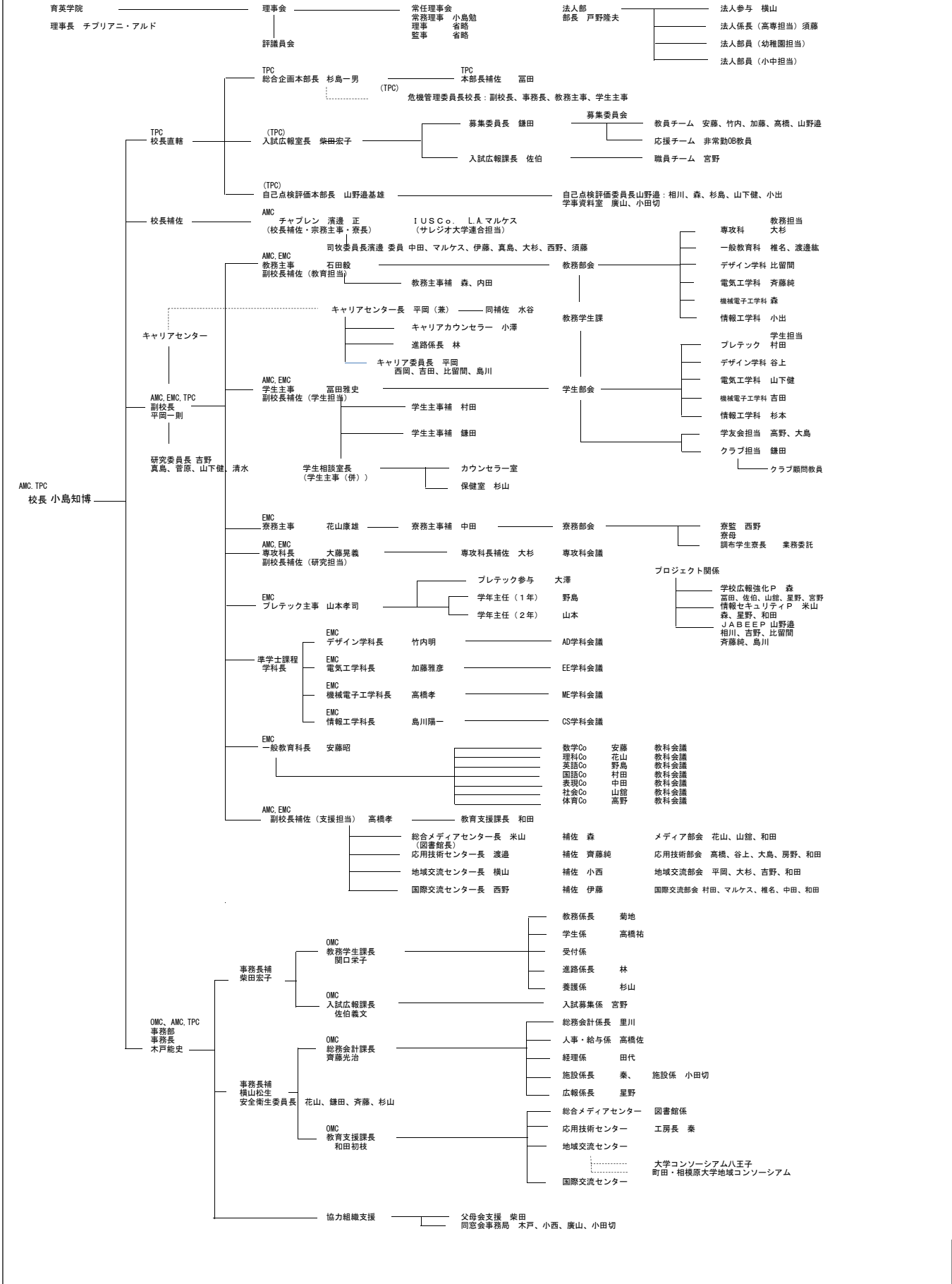
さらに学校運営組織図は(資料11-1-①-2)の通りで、職制を明確にし、指揮命令系統を明らかにしている。なお平成20年度の認証受審後の組織変更点は以下の通りである。

- (1) 事務部門を従来のサービスグループ制を4課体制として課長を置き、責任と分担を明確化した。
- (2) 入試本部長、同代行は入試広報室長に置き換え、その配下に教員を統括する募集委員長、入試広報事務業務を担当する入試広報課長をおいた。
- (3) センターにおいては教務学生課と関連するキャリアセンターを副校長の配下に置き、総合メディアセンター、応用技術センター、技術交流センターは技術のみならず文化交流も含めて地域交流センターへ、さらに国際交流室を(平成24年度には国際交流センター)加えた。
- (4) 一般教育科は文科、理科をまとめ、その下に7教科のコーディネータを配置した。
- (5) 学生相談室はチャプレンから学生主事の下に置き連携を密にした。

資料11-1-①-2 学校運営組織図(平成23年度)

平成24(2012)年度運営組織図

2012/10/23 15:10



会議体については年度当初の教職員集会で開示、説明され、かつ初回の会合を持つ。これらの経緯については平成24年度の開業式資料から引用する。

- (1) 学校運営では常任理事会、総合企画会議（TPC）、学校運営会議（AMC）があたり、常任理事会では法人の内、高専に関する案件を、総合企画会議では学校全体に及び中期計画策定を始め主要な案件を校長に諮問する。学校運営会議（AMC）では高専の通常の運営に関する案件が扱われ校長の最終決済を行うための諮問に答える。
- (2) 部門運営では教育部門と事務部門の会議体、教育運営会議（EMC）、事務管理職会議（OMC）があり、それぞれ前者は副校長、後者は事務長が主催して部門の案件を扱う。
- (3) 部署運営では教務部会、学生部会、寮務部会、事務部会、担任会議等が設置されそれぞれの部署ごとに適時開かれ、その部署に関する案件が扱われる。
- (4) 委員会については本部長、部門長、センター長などが必要に応じて設置する。当年度は自己点検評価本部、入試広報室（本部相当）、総合企画本部がそれぞれに、自己点検評価委員会、募集委員会、危機管理委員会などを設置している。
- (5) センターはセンターごとに関係する教員を学科から召集して部会を構成し、会合を開き必要な案件を扱っている。平成24年度は担当の副校長（支援）をおいてその報告をAMCに上げられるように改組した。
- (6) プロジェクトに関してはプロジェクトごとに必要な会合がもたれている。
- (7) 全教員に対する周知機関として教職員連絡会が置かれ、原則各週月曜日の冒頭に開催されている。ここで、AMCを構成する校長、副校長、事務長を始め、教務主事、学生主事、専攻科長、チャプレンなどから報告が行われる。必要に応じて部署長、委員長などから報告が加わる。

資料 1 1 - 1 - ① - 3 会議体・委員会等・学校行事分担 （出典：開業式資料）

名称		略称	主催者	議事進行	構成メンバー	書記
学校運営会議	常任理事会	jrji	理事長	校長	常務理事、副校長、校長補佐、事務長、法人部長、法人係長	法人担当
	総合企画会議	TPC	校長	総合企画本部長	副校長、事務長、本部長補佐、広報係長	本部長補
	学校運営会議	AMC	校長	事務長	副校長、事務長、校長補佐、副校長補佐	事務部
部門会議	教育運営会議	EMC	副校長	学生主事	教務・学生・寮務主事、専攻科長、学科長、一般教育科長、プレ主事	教務主事補
	事務管理職会議	OMC	事務長	事務長補	事務長補、教務学生課長、総務会計課長、入試広報課長、教育支援課長	事務部
部会	教務部会	教務	教務主事	教務主事	教務主事補、教務部担当	主事補
	学生部会	学生	学生主事	学生主事	学生主事補、学生部担当	主事補
	司牧委員会	宗務	宗務主事	宗務主事	司牧委員	司牧委員
	寮務部会	寮務	寮務主事	寮務主事補	寮長、寮監、寮母	
	事務部会	事務	事務長	事務長	事務職員(専任)	事務部
	担任会議	担任	学生主事 教務主事	学生主事補	プレ主事、学年主任、各担任	
連絡会	教職員連絡会	ウイークリー	校長	総合企画本部長	教職員全員	事務部

資料11-1-①-3a 部署が主催する委員会、センター部会等の構成

管轄	委員会	委員長	メンバー(順不同)
入試広報室	募集委員会	鎌田	安藤、竹内、加藤、高橋、山野辺
自己点検評価本部	自己点検評価委員会	山野邊	相川、杉島、山下健、森、小出
キャリアセンター	キャリア委員会	平岡	西岡、比留間、吉田、島川、センタスタッフ
副校長所管	研究委員会	吉野	真島、菅原、山下健、清水
総合企画本部	危機管理委員会	校長	副校長、事務長、教務主事、学生主事、事務スタッフ
宗務主事所管	司牧委員会	濱邊	中田、マルケス、伊藤、真島、大杉、西野、須藤
事務長所管	安全衛生委員会	横山	鎌田、花山、齊藤光、杉山、星野、秦
応用技術センター	応用技術スタッフ会議	渡邊聡	齊藤純、高橋、谷上、大島、房野、事務スタッフ
総合メディアセンター	メディアスタッフ会議	米山	森、花山、山館、事務スタッフ
地域交流センター	地域交流スタッフ会議	横山	小西、平岡、大杉、吉野、事務スタッフ
国際交流センター	国際交流スタッフ会議	西野	伊藤、村田、マルケス、椎名、中田、事務スタッフ
学校プロジェクト	学校広報強化	森	富田、佐伯、山館、星野、宮野
学校プロジェクト	情報セキュリティ	米山	森、星野、和田
学校プロジェクト	JABEE	山野邊	相川、吉野、比留間、齊藤純、島川、大杉
学校プロジェクト	入学後教育	杉本	山本、渡邊紘、野島、大澤、()、()
実行プログラム	入学前教育	石田	教務部・入試広報室(共管)
実行プログラム	プロジェクト活動再構築	渡邊聡	応用技術センタースタッフ、副校長補佐(支援)

資料11-1-①-3b 年間行事の最終、実行責任者と分担及び補佐

★平成23年度 行事の責任分担表(案)

行事	最終責任者	実行責任者	補佐
卒業式	校長	事務長	事務長補(柴田)
入学式	校長	プレ主任	事務長補(柴田)
各種式典(始業、終業)	副校長	教務主事	学生主事
父母オリエンテーション	副校長	教務主事	学生主事、事務長補(柴田)
父母懇談会	副校長	教務主事	学生主事、事務長補(柴田)
父母役員会・父母総会	副校長	父母会長	事務長補(柴田)
学園祭	校長	学生:学生主事	学生部学友会担当
		学校:副校長	学科長、プレ主事
競技大会	副校長	学生主事	体育科コーディネータ
マラソン大会	副校長	学生主事	体育科コーディネーター
クリスマスイベント全般	校長	宗務主事	司牧委員会・事務部
サレジオカップ	校長	入試広報室長	入試広報課長+学科長(共管)
レビュー会議	校長	副校長、事務長	総合企画本部長
定期公演	校長	チャプレン	クラブ顧問、指導コーチ
野尻湖	校長	チャプレン	プレテック主任、1年学年主任
研修旅行	副校長	学生主事	4年担任、国際交流室長
キャリアデー	副校長	キャリアセンター長	学科長、キャリアスタッフ
入試・募集	校長	入試広報室長	入試広報課長、募集委員
海外研修	校長	国際交流センター長	国際交流センタースタッフ
語学研修	副校長	一般教育科長	語学コーディネータ

(分析結果とその根拠理由)

観点で述べた通り、学則(資料11-1-①-1)に基づき、学校運営組織(資料11-1-①-2)がつくられ、学校運営については校長に対して全校的、総合的諮問に応える会議が本部に置かれ、執行分野における諸会議が(資料11-1-①-3)の表から主催する者、進行する者、参加構成する者、議事録作成をする者が適正に定められて運用されていることがわかる。

その結果、本校の組織は観点の通り、校長の指揮の下、副校長、事務長がそれぞれ、教育部門、事務部門を統括し、適切に学校運営がなされている。

観点11-1-1-②： 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

- (1) 管理運営の諸規定は以下の通り整備されている。その構成は学則に始まって教育方針、専攻科、研究生等に関する規則、部署設置規則・規程、学校運営会議、本部会議、教育運営会議等の規程、一般教育科、専攻科、本科等の会議規程、校務分掌上の教務、学生、寮務等の部会規程、各種委員会規程等が定められている。(資料11-1-②-1、1b)
- (2) 委員会等については平成24年度、以下の委員会が運営されている。
 - (1) 本部が設置する委員会
 1. 自己点検評価委員会・・・自己点検評価本部長のもと、機関別認証評価の準備をすすめる。自己評価書作成の手配、授業評価、外部評価、アンケート調査等の推進
 2. 学生募集委員会・・・入試広報室長(本部相当)のもと、次年度入試にかかわる学生募集の業務に従事し、学内イベント、学外イベント、中学校訪問、塾への出張説明会、その他学生募集に関する業務推進
 3. 危機管理委員会・・・総合企画本部のもと、全校的危機管理のプログラムの整備、推進を図る
 - (2) 部署長が直轄する委員会
 1. キャリア委員会・・・キャリアセンター長のもと、進学、就職、インターンシップ、資格取得等について学生を支援する業務推進
 2. 司牧委員会・・・チャプレンのもと、建学の精神に基づき、教職員、学生の宗教的ケアを推進
 3. 研究委員会・・・副校長のもと、教職員の研究活動の支援、学内外の研究資金の取得、配分の支援を行う。
 - (3) センターが設置する部会
 1. メディアセンター部会・・・総合メディアセンターのもと、図書館、情報館に関する企画・立案などの推進。
 2. 応用技術センター部会・・・応用技術センター長のもと関係学科と調整しつつ、プロジェクト教育活動の推進
 3. 地域交流センター部会・・・学校間連携、産学連携、地域産業連携、地域、近隣の組織、施設、小中学校との交流推進
 4. 国際交流センター部会・・・サレジオ高等教育機構との連携、ホームステイ交流プログラム、ヨーロッパ文化体験、海外ボランティアなどの推進

資料 1 1 - 1 - ② - 1 学校法人関連規則・規程一覧

規則・規程名	制(改)定日	施行日	備考
学校法人育英学院寄附行為	H9. 2. 12	H9. 4. 1	過去 14 回変更
育英工業高等専門学校学則		H15. 4. 1	
就業規則 学校法人育英学院教職員給与規程		H5. 4. 1	新宿労働基準監督署 収第一-80 号
学校法人育英学院役員給与規程	H2. 3. 13	H2. 4. 1	
学校法人育英学院役員退職金規程	H2. 3. 13	H2. 4. 1	
学校法人育英学院経理規程	H11. 2	H11. 4. 1	
学校法人育英学院旅費規程	S51. 4	H3. 4	
規則集 1 学則		H6. 4. 1	
規程集 2 研究費交付取扱規程		H9. 4. 1	
学校法人育英学院文書取扱規程	H2. 3. 13	H2. 4. 1	
学校法人育英学院文書保存規程	H2. 3. 13	H2. 4. 1	
学校法人育英学院公印取扱規程	H1. 11. 13	H1. 11. 13	
学校法人育英学院組織運営に関する規程	H2. 3. 13	H2. 4. 1	
育英工業高等専門学校会議規程	H2. 2	H2. 4. 1	
育英工業高等専門学校事務分掌規程	H1. 4	H1. 4. 1	
学校法人育英学院の理事長・校長・幼稚園長選任規程	H2. 3. 13	H2. 4. 1	
学校法人育英学院固定資産及び物品取扱管理規程	H11. 2	H11. 4. 1	
入学選抜規程			
育英工業高等専門学校奨学金規程	H11		
稟議書の取扱について			
学校法人育英学院育児休業及び育児短時間勤務に関する規程	H11. 3. 31	H11. 4. 1	新宿労基署 H11. 4. 15 受付
学校法人育英学院介護休業及び介護短時間勤務に関する規程	H11. 3. 31	H11. 4. 1	
資金収支計算書科目処理要領	H11. 1. 31		
消費収支計算書科目処理要領	H11. 1. 31		

資料11-1-1-②-1b 部署設置、会議運営等の規則・規程

教育方針に係わる規則	学則
	教育方針制定に関する規則
	専攻科規則
	研究生規則
設置規則・規程	部署設置規則
	部署設置規程
会議規程	学校運営会議規程
	本部会議規程
	教育運営会議規程
	教育支援会議規程
	専攻科会議規程
	デザイン学科会議規程
	電気工学科会議規程
	機械電子工学科会議規程
	情報工学科会議規程
	プレテック会議規程
	一般教育科会議規定
	教務部会会議規程
	学生部会会議規程
	寮務部会会議規程
	事務部会会議規程
委員会規程	自己点検評価委員会規程
	募集委員会会議規程
	危機管理委員会会議規程（新設）
	研究委員会会議規程
	司牧委員会会議規程（新設）
	安全衛生委員会会議規程
センター部会規程	総合メディアセンター部会会議規程
	応用技術センター部会会議規程
	地域交流センター部会会議規程
	キャリアセンター部会会議規程
	国際交流センター部会会議規程
教務学生規程	教務規則
	教務諸規程
	学生規則
利用規程	図書館利用規程
	応用技術センター（夢工房）利用規程
	山の家（野尻湖）利用規程
事務規程	学納金徴収に関する規程
	サレジオ高専奨学金規程
関連団体規程	学友会規約
	父母会会則
	同窓会会則

資料 1 1 - 1 - ② - 2 会議、委員会等規定の改訂事例 (出典：事務長フォルダ)

学校運営会議 (AMC) 規程

(趣旨)

第1条 この規程はサレジオ工業高等専門学校学則第 11 条に基づき学校運営会議 (以下「会議」という) の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(召集と進行)

第2条 会議は校長が召集し、会議の運営を行う。ただし会議の進行については召集者が別に指名することができる。

(審議事項)

第3条 会議は以下の各号に定める事項を校長の諮問を受けて審

1. 教育に関する事項
2. 研究に関する事項
3. 事務に関する事項
4. 学生に関する事項
5. 教員に関する事項
6. 職員に関する事項
7. 支援に関する事項
8. 常任理事会の報告
9. 本部会議の報告
10. 他の会議との調整
11. その他、召集者が必要とする事項

(組織)

第4条 会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

1. 校長
2. チャプレン
3. 副校長
4. 事務長
5. 教務主事・副校長補佐 (教育)
6. 学生主事・副校長補佐 (学生)
7. 専攻科長・副校長補佐 (研究)
8. 副校長補佐 (支援)
9. 事務長補 (記録)
10. その他校長が必要と認める者

(委任等)

第5条 会議は、第4条に掲げる者が欠けるときの代理出席または委任を認める。

(議事録)

第6条 会議の記録は議事録として何らかの媒体に残すものとする。

- 2 議事録を作成するものは会議の召集者によって指名される。
- 3 議事録は公開を原則とし、召集者の判断によって必要あるとき、その全部または一部を秘匿することができる

(合議)

第7条 会議の合意は出席者全員によるものとする。

- 2 会議を運営する者が必要と認めるときは審議事項について賛否を問い、その結果を会議の答申することができる。

(細則)

第8条 その他会議の運営上、必要な取り決めごとは第4条に掲げる者の申し合わせとして議事録に残す。

附則

1. 本規程は平成 20 年 4 月 1 日より施行する。
2. 本規程は平成 24 年 4 月 1 日より改正施行する
3. 本規程の改定は第4条に掲げる者の合議により行い校長に届け出る。

(出典 学内資料 規則・規程集)

資料11-1-1-②-2b 部署設置規則の改訂状況

サレジオ工業高等専門学校部署設置規則

(趣旨)

第1条 本規則は学則第7条から第11条に規定する学校内に設置する部署に関する規則である。

(範囲)

第2条 本規則でいう部署はサレジオ工業高等専門学校内に設置する組織、部署、施設を対象とする。ただし学外施設、協力組織についてはこの限りではない

(教育部署)

第3条 学則第7条、第11条、第36条により専門教育を目的として以下の各号による科、学科を置く

- (1) 専攻科
- (2) デザイン学科
- (3) 電気工学科
- (4) 機械電子工学科
- (5) 情報工学科
- (6) 一般教育科

2. 教育上の組織として以下の部署を置く

- (1) プレテック

(教育組織)

第4条 学則9条に定める主事のもと学生の教育研究に資するため以下の各号による部を置く

- (1) 教務部
- (2) 学生部
- (3) 寮務部

(本部部署)

第5条 学則11条により校長の指揮のもと学校全体の組織的運営を図るため以下の各号による本部を置く

- (1) 総合企画本部
- (2) 入試広報室(本部相当)
- (3) 自己点検評価本部

(センター)

第6条 学則第11条により全学的な学生支援を目的として以下の各号によるセンターを置く

- (1) キャリアセンター
- (2) 総合メディアセンター
- (3) 応用技術センター
- (4) 地域交流センター
- (5) 国際交流センター

2. 総合メディアセンター内には図書館および情報館を置く

3. 応用技術センター内には夢工房を置く

(学生寮)

第7条 学則54条により遠距離通学等の学生を支援する目的として以下の各号による学生寮を置く

- (1) SITEC 多摩境寮(男子寮)
- (2) 友愛の家(女子寮)

2. ただし友愛の家(女子寮)については外部に委託して設置する

(学校事務部)

第8条 学則第10条により学校運営を支援するために学校事務部を置く

2. 学校事務部内には以下の各号に示す課を置く

- (1) 教務学生課
- (2) 入試広報課
- (3) 総務会計課
- (4) 教育支援課

(外部施設)

第9条 学則第11条により新入生教育、課外活動等の校外施設として以下の保養施設を置く

- (1) 野尻湖山荘

(協力組織)

第10条 学則11条により学校運営に協力あるいは支援するために以下の各号による協力組織が置かれる

- (1) 学友会
- (2) 父母会
- (3) 同窓会

(改廃)

第10条 本規則及びそれに付随する規程に関する改廃は審議を希望する部署の長が校長に上申し、これを学校運営会議(AMC)において審議し、校長が承認することで発効する。ただし校長が必要であると判断したときは常**第11条** 任理事会の承認を得ることとする

- 付則
1. 本規則は平成19年4月1日から施行する
 2. 本規則は平成20年4月1日に改訂し、施行する
 3. 本規則は平成24年4月1日に改定し、施行する
 4. 年度中に部署の改廃があり、規則、規程の改廃が遅れた場合、遡って施行、適用する
 5. 各部署に係わる設置規程は別に定める。

資料 1 1 - 1 - ② - 2c 部署設置規程の改訂状況 (抜粋)

サレジオ工業高等専門学校部署設置規程	
第1章 専攻科設置規程	
第1条	部署設置規則(以下規則と略す)第3条第1項に定める専攻科には以下の専攻を置く (1) 生産システム工学専攻(2年制)
第2条	以下略
第2章 準学士課程学科設置規程	
第9条	規則第3条第1項に定める学科の設置要件は高等専門学校設置基準および学則による
第10条	デザイン学科にあつてはその中に以下の各号によるコースを置く (1) プロダクトコース (2) インテリアコース (3) グラフィックコース
第11条	学科の日本語名称および英名称は以下の各号の通りとする (1) デザイン工学科 Department of Art and Design、略称はADとする (2) 電気工学科 Department of Electrical Engineering、略称はEEとする (3) 機械電子工学科 Department of Mechanical and Electronics、略称はMEとする (4) 情報工学科 Department of Computer Science and Technology、略称はCSとする
第12条	以下略
第3章 一般教育科設置規程	
第17条	規則第3条第1項第6号に定める一般教育科は本科及び専攻科の一般教育科目及びその担当教員を所管する。
第18条	一般教育科にあつては部署の長として一般教育科長を置く
第19条	一般教育科長は必要に応じて科内運営に必要な職務を設けることができる 2 一般教育科にあつては以下の各号の教科を定め教科ごとにコーディネータを置く。 (1) 数学(基礎数学、代数幾何学、解析学等) (2) 理科(物理、化学) (3) 英語(英語、英語演習、外国語等) (4) 国語 (5) 表現 (6) 社会(倫理、社会、経済、法学等) (7) 体育(保健体育、体育実技等)
第20条	以下略
第4章 プレテック設置規程	
第23条	規則第3条第2項第1号に定めるプレテックは第1学年および第2学年の学級の担任及び学生を支援する部署としてこれを置く
第24条	以下略
第4章 教育組織設置規程	
第30条	規則第4条に定める各部には部署の長として学則9条により以下の各号に定める主事が置かれる (1) 教務主事(教務部) (2) 学生主事(学生部) (3) 寮務主事(寮務部)
第31条	以下略
第6章 本部設置規程	
第34条	規則第5条により設置された本部に係わる組織は本章の規程による
第35条	日本語名称および英名称は以下の通りとする (1) 総合企画本部 Total Plan Council (2) 入試広報室(本部相当) Admission Office (3) 自己点検評価本部 PDCA Office
打36条	以下略
第7章 センター設置規程	
第43条	規則第6条により設置されたセンターの組織は本章の規程による
第44条	日本語名称および英名称は以下の通りとする (1) キャリアセンター Career Center (2) 総合メディアセンター Media Center (3) 応用技術センター Project Tech Center (4) 地域交流センター Regional Liaison Center (5) 国際交流センター International Links
第45条	以下略
第8章 学生寮設置規程	
第9章 学校事務部設置規程	
第54条	規則第8条に定める学校事務部の構成について定める
第55条	学校事務部にはその長として事務長を置く
第56条	事務長は必要に応じて事務長を補佐する事務長補を置くことができる
第57条	規則第8条第2項に定める課に課長を置くことができる。必要に応じて、課長代理、課長補佐を置くことができる。
第11章 校外施設設置規程	
第12章 協力組織規程	
第63条	規則第10条に定める協力組織については以下の通りである 2. 学友会については本校に在籍する学生によって運営され、その規程は学友会がこれを定める 3. 父母会については本校に在籍する学生の父母によって運営され、その規程は父母会がこれを定める 4. 同窓会については学校法人育英学院を卒業したのものによって運営され、その規程は同窓会がこれを定める
第13章 附則	
省略	

- (3) 事務組織については平成24年度、以下のような組織運営となっている。
- (1) 事務長のもと二人の補佐（事務長補）を置き、それぞれ、教務学生課長と入試広報課長、総務会計課長と教育支援課長を指導、助言する。
 - (2) 事務長直轄の部署として自己点検評価本部を支援する学事資料室担当とプレテック部署を支援するプレテック参与を置いて、各々の部署の事務的支援を図っている。
 - (3) 教務学生課は教務主事、学生主事のもとにある教務部、学生部を支援する。教務部には教務係長を置いて教務成績業務、教員支援等を行う。学生業務では高専間の大会業務支援、書類発行サービス業務等を行う。また、副校長が指揮するキャリアセンターについても進路係長を置いて業務を行う。また学生主事が兼務する学生相談室長のもと保健室担当、カウンセラーを配置し、学生の心身の健康管理業務を行う。その他、中央事務部内で受け付け業務も行っている。
 - (4) 入試広報課は入試広報室長（本部長相当）のもと、学生募集委員会と協力しつつ、入試企画運営、入試業務、入試に関する広報業務などを取り扱う。
 - (5) 総務会計課は総務系業務として、庶務事務、学校広報、施設管理、業者調整等の業務を行い、会計系業務として学納金収受、経理出納、予算管理、教員諸手続、人事管理、給与業務など多岐にわたる業務を行う。
 - (6) 教育支援課は4つのセンター（総合メディア、応用技術、地域交流、国際交流）の所管する教員の活動を支援する。地域交流についてはセンター長に事務長補を当て、地域諸団体の渉外機能を持たせている。また総合メディアセンターは全校の情報基盤の運用、学科との調整機能を持ち、その効果的運用を図っている。現状では図書館業務と情報システム運用について教育支援課長が見ている。
 - (7) 専任の職員が本年度20名で、国公立高専における40～50名の職員数に比べて少数といわざるを得ない。また教員の業績積み上げ支援のために職員に対する業務支援の要求は増大する一方である。当面その解決策としては非常勤職員（パート）や派遣職員を充当することで補っている。現状では教務学生課4名、入試広報課1名、総務会計課2名、教育支援課4名の非常勤及び派遣の職員を配置している。その他寮母、カウンセラー、工房担当の計3名、学事資料室、学生募集支援（OB教員）3名、合計17名の体制で教育研究活動を支えている。

資料 1 1 - 1 - ② - 3 職員一覧

資料 1 1 - 1 - ② - 4 非常勤、派遣職員配置

- (8) 施設管理については外部業者に対して、守衛、清掃、空調、電気等の施設管理を委託している。

(4) 危機管理体制について

危機管理に関しては、平成23年3月の東北大地震の経験から、備蓄、帰宅不能宿泊者等の対応を検討し、平成24年4月より本格的に総合企画本部のもとに危機管理委員会を設置して問題を抽出して逐次課題解決を図っている。その経緯を時系列的に要約すると以下の通りである。

(ア) 平成23年3月11日大地震発生・・・建物等に大きな被害はなかったが、当時在籍していた教職員、学生100名余が帰宅困難になり、電話が回復するまで数時間を要した。携帯メールは可能であった。

(イ) 計画停電に伴う交通機関の混乱により通学・通勤に支障が生じたが、学生については春期休業期間に入っていて大きな影響は見られなかった

- (ウ) 卒業式の謝恩会が中止、入学式の予定会場が使用不能で学校ホール開催に変更
- (エ) 4月以降節電対策と6月以降の冷房節約
- (オ) 10月以降総合企画本部会議で危機管理問題を討議
- (カ) 平成24年4月から緊急配信メールシステムの導入
- (キ) 平成24年4月以降、危機管理委員会を立ち上げ備蓄問題を検討開始
- (ク) 平成24年6月以降、AEDの増設、避難訓練、救護訓練の策定、マニュアルの整備
- (ケ) 平成24年9月に必要な備蓄品の確保完了（400名×3日間）
- (コ) 平成24年12月に本格的避難訓練の実施

危機管理委員会では震災被害のみならず、その他の災害、教員学生の事故対応など諸案件を順次検討していく。

資料 1 1 - 1 - ② - 5 緊急時対応図

資料 1 1 - 1 - ② - 6 緊急配信実施状況

資料 1 1 - 1 - ② - 7 危機管理委員会の現況

資料11-1-1-②-3 職員一覧

事務職員一覧			
2012（平成24）年5月現在			
【部門】法人			
所 属	職 名	氏 名	主たる分掌
育英学院	理 事 長	チプリアニ・アルド	理事長
	常務理事	小 島 勉	労務・法務
	法人部長	戸 野 隆 夫	法人統括
	法人担当	須 藤 哲 史	法人業務
【部門】サレジオ高専（専任）			
所 属	職 名	氏 名	主たる分掌
統括支援	事務長	木 戸 能 史	事務部掌理
	事務長補	横 山 松 生	総務会計・教育支援
	事務長補	柴 田 宏 子	教務学生・入試広報
	参与	大 澤 晴 雄	プレテック担当
教務学生	教務学生課長	関 口 栄 子	教務学生統括
	進路係長	林 宏 輔	キャリアセンター担当
	教務係長	菊 地 クミ子	教務担当
	教務学生係員	高 橋 祐 子	学生担当
	教務学生係員	杉 山 りつ子	看護師
総務会計	総務会計課長	齊 藤 光 治	総務会計統括
	広報係長	星 野 正 登	総務担当
	総務会計係長	里 川 誠一郎	会計担当
	会計係員	田 代 賀代子	経理担当
	会計係員	高 橋 佐和子	人事担当
	施設係長（兼）	齊 藤 光 治	施設担当
	施設係員	小田切 治	施設担当
入試広報	入試広報課長	佐 伯 義 文	入試広報担当
	入試広報係員	宮 野 祐 矢	入試広報担当
	教育支援課長	和 田 初 枝	教育支援統括
	工房長	秦 和 也	工房担当
教育支援	総合メディアセンター長	米山秋文（教員）	図書館・情報館
	応用技術センター長	渡邊 聡（教員）	応用技術
	地域交流センター長	横山松生（職員）	地域連携交流
	国際交流センター長	西野隆司（教員）	国際交流
	学事資料室	廣 山 信 朗	資料調査担当
	寮監	西野隆司（教員）	学生寮管理
非常勤職員	事務部6名	図書館3名	カンセラー1名
派遣職員	情報館1名	キャリア1名	学事飼料室1名

資料 1 1 - 1 - ② - 4 非常勤、派遣職員配置

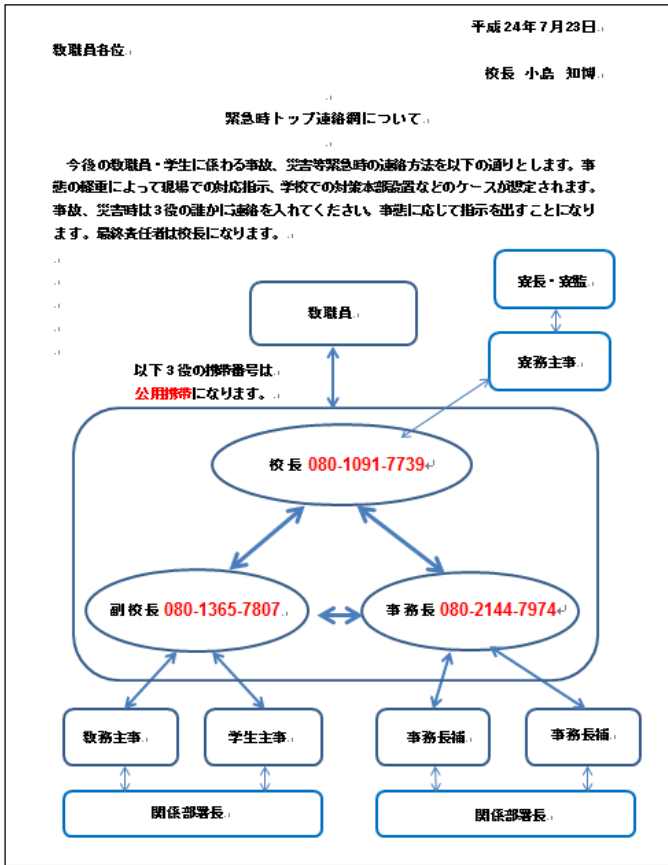
非常勤職員配置図(2012)					
統括1	統括2	部署	業務	専任職	非常勤教職員
			受付	関口	魚川P, 日下部P
		教務学生課	教務	菊地	矢須P
		関口	学生	高橋祐	
			キャリア	林	原島H(柴田直轄)、小澤T
			保健・養護	杉山	
	事務長補		学生相談	柴田	深堀P
	柴田				
			募集	宮野	
		入試広報課	募集広報	佐伯	井上P、岩岡P、川本P
		佐伯	募集広報	佐伯	中田P
事務長			総務・会計	里川	
木戸			人事	高橋佐	
		総務会計課	経理	田代	栗原P
		斉藤光	総務広報	星野	本田P
			施設	秦、小田切	
	事務長補		学寮	斉藤光	染野P
	横山				
			工房	秦	斉藤良P、鳥羽T
		教育支援課	メディア	和田	市川P、宮本H
		和田	図書館	和田	奥田P、住友P、本田P
			学事資料室	小田切(支援)	広山P
			応用技術センター	渡邊聡	島津T、織田T、藤野T、兵頭T、吉留T、岡本T、柳T
			プレテック	大澤	

氏名P：非常勤職員（パート）

氏名H：派遣職員

氏名T：非常勤講師

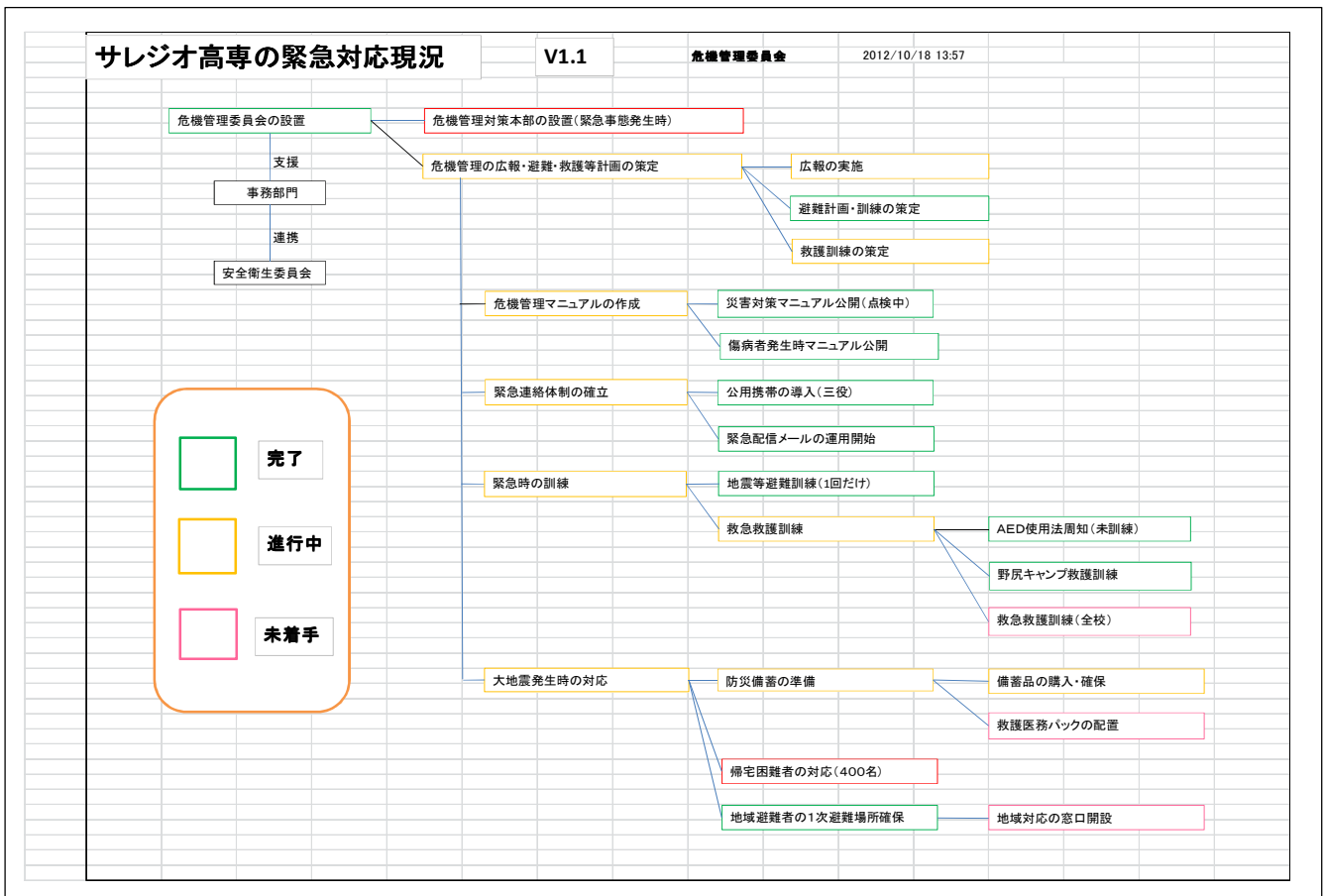
資料 1 1 - 1 - ② - 5 緊急対応図



資料 1 1 - 1 - ② - 6 緊急配信実施状況(5月)

クラス	総数	出欠付き訓練6/18			台風告知6/20				
		出席	欠席	未回答	左計	通知	電話	未確認	未着
1A	50	23	9	18	50	32	1	17	
1B	51	30	5	16	51	36	1	12	2
1C	50	31	12	7	50	37	2	11	
1D	50	34	10	5	49	39	1	9	
2AD	37	20	5	10	35	17	2	15	1
2EE	36	19	4	12	35	19	1	14	1
2ME	37	25	4	8	37	29	1	7	
2CS	48	30	6	9	45	25	4	16	
3AD	40	13	8	17	38	20	3	14	1
3EE	36	19	5	12	36	18	1	15	2
3ME	22	12	4	4	20	13	1	6	
3CS	26	15	1	7	23	14	1	8	
4AD	35	20	5	9	34	30	1	3	
4EE	32	20	7	7	34	28	0	6	
4ME	40	27	5	8	40	26	1	12	1
4CS	36	20	3	12	35	23	1	11	
5AD	32	10	10	11	31	20	1	10	
5EE	39	13	8	11	32	17	4	11	
5ME	30	11	6	10	27	15	2	10	
5CS	40	19	4	16	39	32	1	6	
専攻科	27				11	7		4	
		411	121	209	752	497	30	217	8
教員常勤	54	17	12	17	46	25	1	20	
職員常勤	22	6	9	7	22	12	1	8	1
教員非常勤	41				19	10	1	8	
職員非常勤	12				10	9		1	

資料 1 1 - 1 - ② - 7 危機管理委員会の現況報告



(分析結果とその根拠理由)

理工系の高等教育機関で私立が大学も含めて厳しい経営環境にあるのは周知である。私立高専は50年前7校からスタートして10年を経ずして3校になって今に至っている。しかも他の2校は大学法人からの財政支援を受けている。本校は唯一上位校を持たない高専として現在に至っている。専任教育職員(教員)は法定数があるが本校の場合は一般教育が18名以上、専門教育が28名以上を必要としているが現状は一般22名、専門32名の54名の教員を確保している。加えて非常勤教員は44名に達している。このように教育部門を重視した人員配置の中でそれを支える事務部門は専任、非常勤、派遣を問わずその資力の要求度は高い。

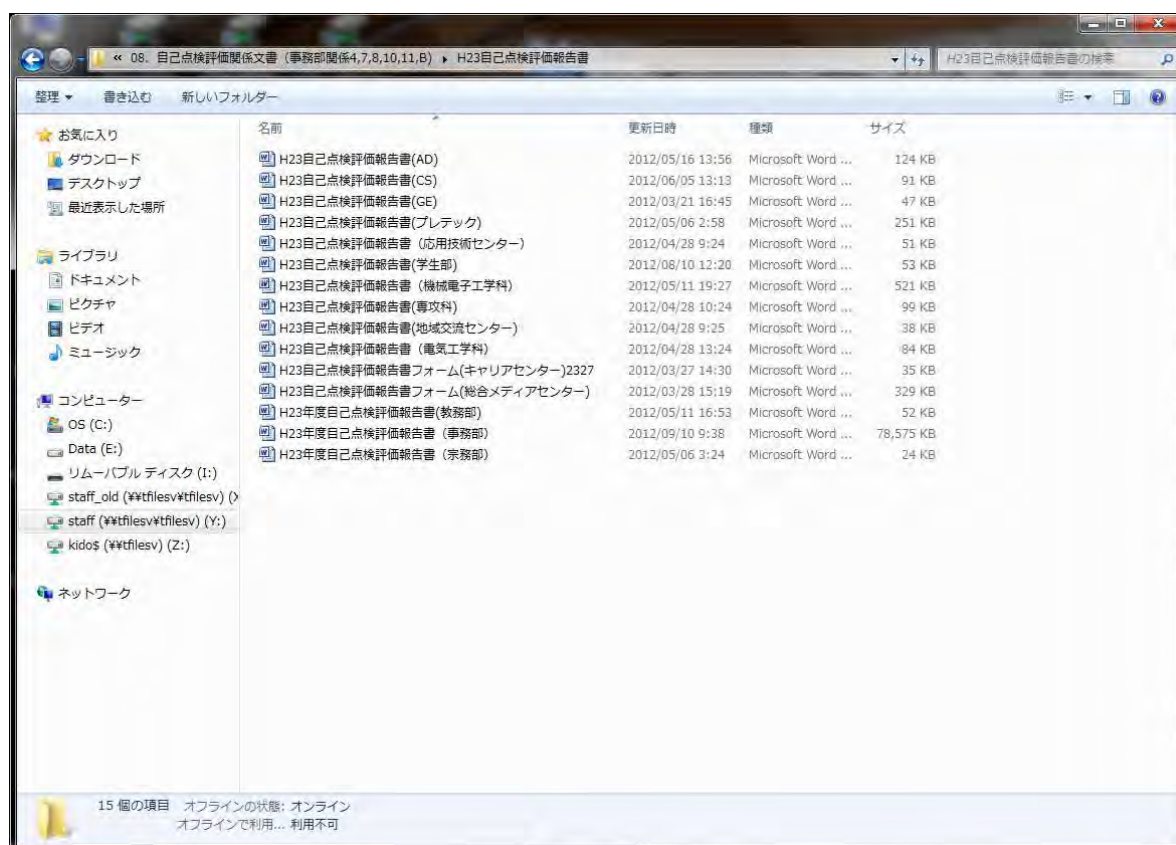
その中で教育研究活動を支える教育組織、校務組織、事務組織、支援組織など十分ではないにしても高専を運営していくために必要な組織、委員会等、事務組織、危機管理組織等は観点を満たしている。

よって観点11-1-②は満たしている。

観点11-2-①： 自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。

(観点に係る状況)

平成20年度の機関別認証評価以降、授業評価については年次ごとに実施されてきたが、全校的、総合的な自己点検評価は当年度まで実施されてこなかった。平成23年度分について実施され、その報告が以下に提出されている。しかしながらこれらを公表するに至っていない。(資料11-2-①-1)



(分析結果とその根拠理由)

これらの実施報告を見ると、自己評価書の基準、観点に準拠して記述されているものの、根拠となる証拠物について不十分である。これらについては、今回平成24年度中に実施される外部評価のために作成される自己評価書記述指針に準拠した外部評価用自己評価書で補うものとする。

よって、自己点検については現在進行中ということから観点についての判断は保留する。

観点11-2-②： 自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。

(観点に係る状況)

自己点検・評価の結果について平成24年度中に外部評価委員会を構成し、外部委員より評価を受けるスキームが既に動いている。平成24年8月10日付けで自己点検評価本部から自己評価書作成の依頼が出ている。(資料11-2-②-1)

資料 11-2-②-1 自己点検評価本部からの依頼

自己点検評価 第0002号

平成24年8月10日

副校長 平岡先生
 事務長 木戸先生
 教務主事 石田先生
 学生主事 富田先生
 専攻科長 大藤先生
 入試広報室長 柴田様

自己点検評価本部長

平成24年度自己評価書作成について(依頼)

日頃より自己点検評価業務にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。さて、本年度実施予定の外部審査に向けた、自己評価書の作成をお願いいたします。まず、下記の通り説明会を行いますのでご出席をお願いいたします。

記

執筆説明会	平成24年8月24日 13:00 409教室(1時間程度)
執筆内容	機関別認証評価における自己評価書に沿った形式 ※ 執筆フォームは ¥2012年度¥(運営)自己点検評価本部¥一般公開¥H24 自己評価書作成資料¥自己評価書フォーム にあります。
執筆担当	別紙1の通り
執筆期限(予定)	平成24年10月20日

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到に係る状況)

(分析結果とその根拠理由)

観点11-1-②： 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

(分析結果とその根拠理由)

観点11-2-①： 自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。

(観点到に係る状況)

(分析結果とその根拠理由)

観点11-2-②： 自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。

(観点到に係る状況)

(分析結果とその根拠理由)

観点11-2-③： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点到に係る状況)

(分析結果とその根拠理由)

観点11-3-①： 外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点到に係る状況)

(分析結果とその根拠理由)

観点11-3-②： 学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

(改善を要する点)

(3) 基準11の自己評価の概要

(分析結果とその根拠理由)

現在進行中につき観点が達成されているかの判断は保留

観点11-2-③： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

平成20年度の機関別評価の審査を受けて、それまでの認証評価本部を自己点検評価本部に改称し、そのもとに自己点検評価委員会を構成、さらに支援する部署として資料を整備する「学事資料室」を設置し、職員を常駐させている。ここでは授業評価のデータ処理等も請け負っている。

（分析結果とその根拠理由）

現状では授業評価に限って、学生へのガイダンス、教員への指示、公開授業とそのアンケート実施と分析、教員へのフィードバックを行い授業改善に役立てている（資料11-2-③-1）他は全校的、総合的なものに至っていない。

他に、専任教職員全体に対して平成18年度より目標管理システム（SMS:Salesio Management Sysytem）（資料11-2-③-2）を導入し、中期計画を校長方針から部門長方針、部署長目標に展開し、個人目標（資料11-2-③-3）を作成、年度末に達成報告を提出し、その結果によって賞与への加減率を算出すPDCAサイクルを実施している。

また教員については昇格への基礎資料として教育、研究、指導、校務分掌、社会貢献の5つの要素からポートフォリオ（業績一覧表）（資料11-2-③-4）を作成分析し、参考にしている。

このように、授業評価、FD, SD研修、目標管理、教員ポートフォリオなどを導入することで高専の目的達成のための改善が試みられている。

現状ではそれぞれに評価結果を反映させる仕組みができているといえるが、観点11-2-②の外部評価を受けてからの改善システムについて限定すると判断は保留することになる。

資料 1 1 - 2 - ③ - 1 授業改善に関する資料提出依頼文書

教員各位	自己点検評価 第0001号 平成24年6月11日 自己点検評価本部長
平成24年度 認証評価資料の提出について（依頼）	
日頃より認証評価関連の活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。さて、本年度の認証評価資料のご提出について、下記の通りお願いいたします。	
記	
提出物	1. 定期試験を実施した科目に関する認証資料（PDF ファイル） 2. 定期試験の試験得点度数分布グラフ（EXCEL ファイル）
提出方法	上記1, 2の両方とも電子ファイルにて提出 ※ 2のEXCEL ファイルのファイル名は認証資料ファイル名と同じにしてください。
提出場所	¥2012年度¥（運営）自己点検評価本部¥自己点検評価汎用フォルダ ¥試験資料提出用フォルダ¥2012年度¥0X.XX試験 フォルダ
提出期限	（前期中間区分）平成24年6月23日（土）
注意	・ 非常勤講師の方も本年度より提出場所フォルダにアクセスできるようになりました。
	以上

資料 1 1 - 2 - ③ - 2 Salesio Management Ssystem



- 平成19年4月 マニュアル (V1.0) 発行
- 平成22年6月 同改訂版 (V1.1) 発行
- 平成22年11月 一部図表の取り替え
- 平成20年4月 試行的導入
- 平成22年4月 管理職導入
- 平成23年4月 一般職導入



資料 1 1 - 2 - ③ - 3 目標管理の個人目標 (事例)

達成度: 0:未着手 1:着手 2:30-70% 3:100%前後 4:120%前後 5:200%
 難易度: 1:維持(従前通り以下) 2:改善(多少でも工夫改善) 3:開発(大幅組み直しや新規) 部署名: [] 氏名: []

平成 23 年度 個人活動計画

部署目標	個人目標	目標値	活動予定(完了日)	実績報告	達成度(個人)	修正達成度(部署長)	難易度(部署長)	ウェイト(部署長)	評価指標値(算出)
1-1-3.JABEE対応の準備(教務学生課・総務会計課)	1-1-3 JABEE対応後の教務システム変更による通知書・証明書等の修正箇所の確認・再修正をし、正確な成績発行・管理をする	1-1-3 詳細基準変更後の証明書の要検討箇所のSPetaへの修正依頼の作成・実行及び報告書の作成	1-1-3 5月 3月	1-1-3 5月期、教シス年度更新時に確認済 2年生のJAS変更に伴い検討箇所があったが修正済 3月学年末成績(評定)出力に対し、再度確認 <目標外業務> 成績評定基準変更に伴う成績算出統計作業(教務主事サポート業務)	1-1-3 達4	1-1-3 達4	1-1-3 難2	1-1-3 20%	0.8
1-2教育研究環境の改善(教務学生課)	1-2-2 学生部・教務部両室に伴う、学生部への事務処理の協力	1-2-2 学生部依頼の発注物作成依頼事項の3件実施	1-2-2 3月	1-2-2 学生部依頼事項 3件実施済(1件追加) 1. 教員の休日出勤に伴う休取指導の発行 2. 学生部への提出書類の受付・対応 3. クラブ活動記録の分類・保管・ファイリング 4. 学生部条件一覧(Access)にて作成通知書・確認書を発行	1-2-2 達4	1-2-2 達4	1-2-2 難2	1-2-2 10%	0.4
4-1課員の能力向上指導	4-1-1 業務進行記録の作成	4-1-1 教務事務時期別作業担当一覧表の作成	4-1-1 4月~3月	4-1-1 教務事務毎月別一覧作成	4-1 達4	4-1 達4	4-1 難4	4-1 50%	2.0
4-2非常勤職員の管理	4-2 非常勤職員の業務管理	4-2 非常勤職員の業務配分表作成	4-2 随時	4-2 学年末時点 訂正届出数 年間件数 140 内 成績訂正35件 欠課 105件 成績通知書の欠課時数表示に伴い欠課時数の訂正が多発 欠課時数の入力ミス確認の為、後期中間後全学生の成績通知書を再チェック修正した 学年末 成績訂正 2件 欠課 6件 ※成績訂正件数状況一覧作成 4-2 PCスキルに合わせ業務配分を検討(PCスキルにあわせると業務が限られる状況) 日常業務で7.7作成	4-2 達3	4-2 達4	4-2 難2	4-2 20%	0.8

資料 1 1 - 2 - ③ - 4 教員ポートフォリオ (事例)

業績一覧表(2011年度分) 2012/7/10/004

別表1 業績一覧表 (原表) (以下の表については平成23年度は、前年度と修正されている) 西野先生

通番	大分類	中分類	評価内容	内容(を数量に) (過去4年間の平均値を算出し、1/10)	満点	自己評価	所属長評価	部門長評価	評点	満点	自己評価	所属長評価	部門長評価	評点
1-1	教育	授業改善	自分の授業の改善が進んだか	継続授業、新規授業共に円滑に進んだ	8	A	B		8	8.4	4.6	0		
1-2		補習指導	授業外に補習、個別指導をやったか	工房を中心に指導を行った	5	A	A		5	4	4	0		
1-3		公開講座	スクーリング等講座を担当したか		4	D	D		4	0	0	0		
1-4		卒研指導	指導成果をあげられたか	概ね成果があったが、再審査2名を出してしまった	4	B	B		4	2.4	2.4	0		
1-5		資格指導	学生の資格取得の指導をやったか		4	D	D		4	0	0	0		
1-6					25	12.8	11.2	0.0	8.0	25.0	12.8	11.2	0.0	8.0
2-1	指導	学生指導	学生の生活指導をやったか	担任として指導した。学生部条件なし	3	S	B		3	3	1.8	0		
2-2		担任業務	担任業務が適切にできたか	学生だけでなく、保護者との信頼関係を築けた	6	S	B		6	6	3.6	0		
2-3		クラブ指導	クラブ活動が適切に指導できたか		3	D	D		3	0	0	0		
2-4		課外指導	クラブ以外の学生活動を行ったか	工房を中心に指導を行った	3	S	B		3	3	1.8	0		
2-5					15	12.0	7.2	0.0	6.4	15.0	12.0	7.2	0.0	6.4
3-1	研究	著作・論文	著作刊行、査読付論文を出せたか		10	D	D		10	0	0	0		
3-2		研究紀要	研究紀要に投稿したか		6	D	D		6	0	0	0		
3-3		研究発表	学会発表を行ったか	企業協賛外部研究会で発表を行った。	5	S	B		5	5	3	0		
3-4		制作発表	制作発表を行ったか		3	D	C		3	0	1.2	0		
3-5		テーマ研究	テーマ研究を行ったか		3	D	D		3	0	0	0		
3-6		外部資金	科研費、産学連携資金を数額したか		3	D	D		3	0	0	0		
3-7					30	5.0	4.2	0.0	3.1	30.0	5.0	4.2	0.0	3.1
4-1	管理	校務部会	教務、学生部会にかかわったか		5	D	D		5	0	0	0		
4-2		校務委員会等	委員会等にかかわったか	国際交流室(外部資金の調達を実現した)、専業委員、司教委員	4	S	A		4	4	3.2	0		
4-3		他の校務分掌	他の校務分掌にかかわったか	業務部会、野尻課	3	S	A		3	3	2.4	0		
4-4		試験報告	試験報告をまとめたか		4	B	B		4	2.4	2.4	0		
4-5		入試	入試募集・作問に貢献したか	中学校訪問、体験入学 定義経過入学者確保	4	B	A		4	2.4	3.2	0		
4-6					20	11.8	11.2	0.0	7.7	20.0	11.8	11.2	0.0	7.7
5-1	貢献	公的活動	公的機関の委員になったか		2	D	D		2	0	0	0		
5-2		学会活動	学会の委員や運営にかかわったか		2	D	D		2	0	0	0		
5-3		地域活動	地域貢献にかかわったか	八王子学園都市大学への学校窓口を担当した。	2	S	B		2	2	1.2	0		
		国際貢献	海外の関係機関との交流	マンダイン受入れ・派遣、東ティモールボランティア	2	S	B		2	2	1.2	0		
5-4		生涯教育	対外的生涯教育機関にかかわったか	八王子学園都市大学で陶芸の講師を担当し、延べ60名の特別受講生があった。	2	S	B		2	2	1.2	0		
5-5					10	6.0	3.6	0.0	3.2	10.0	6.0	3.6	0.0	3.2
	算出	評価	その評価			0	0	総点	28.3		47.6	37.4	総点	28.3

個人は2011年度分を記述する
 所属長は所属長欄に記述する
 部門長は自己評価と所属長評価を元に評価する

観点11-3-①： 外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

外部評価については平成17年度に実施され(資料11-3-①-1、1b)報告書も提出されているが、自己点検評価を通して、本校の学校教育の実態や学校運営の在り方について現状を認識し、学校内部において検討し、改善を図るため、長期にわたり客観的な視点に立って適切な助言を収集することを目的として当時の外部評価委員会を設置した。当時はこの委員会からの意見、提言を参考に教育改善、学科将来構想等の検討に取り組み、外部有識者の貴重な意見を反映した。

資料11-3-①-1 平成17年度外部評価委員会(第1回)

平成17年度実施の第1回目訪問調査時の出席者																											
日時	平成17年12月3日(土) 午後1時30分																										
場所	サレジオ工業高等専門学校 会議室(231号室)																										
出席者	<table border="1"> <tr> <td rowspan="5">外部評価委員 (敬称略) (小計5名)</td> <td>委員長 坂田 亮</td> <td>慶応義塾大学名誉教授</td> </tr> <tr> <td>委員 塩田 一路</td> <td>工学院大学教授</td> </tr> <tr> <td>委員 檜山 竹生</td> <td>株式会社エイビット代表取締役</td> </tr> <tr> <td>委員 入谷 弘</td> <td>八王子市立長房中学校校長</td> </tr> <tr> <td>委員 金子 誠司</td> <td>元芝浦工業大学教授</td> </tr> </table>	外部評価委員 (敬称略) (小計5名)	委員長 坂田 亮	慶応義塾大学名誉教授	委員 塩田 一路	工学院大学教授	委員 檜山 竹生	株式会社エイビット代表取締役	委員 入谷 弘	八王子市立長房中学校校長	委員 金子 誠司	元芝浦工業大学教授															
	外部評価委員 (敬称略) (小計5名)		委員長 坂田 亮	慶応義塾大学名誉教授																							
委員 塩田 一路			工学院大学教授																								
委員 檜山 竹生			株式会社エイビット代表取締役																								
委員 入谷 弘			八王子市立長房中学校校長																								
委員 金子 誠司		元芝浦工業大学教授																									
サレジオ高専 (小計13名)	<table border="1"> <tr> <td>田中 次生</td> <td>校長</td> </tr> <tr> <td>小島 勉</td> <td>副校長</td> </tr> <tr> <td>木戸 能史</td> <td>教務主事</td> </tr> <tr> <td>安藤 昭</td> <td>学生主事</td> </tr> <tr> <td>今野 義孝</td> <td>寮務主事</td> </tr> <tr> <td>大杉 功</td> <td>専攻科長</td> </tr> <tr> <td>小西 均</td> <td>デザイン工学科主任</td> </tr> <tr> <td>高橋 孝</td> <td>電気工学科主任</td> </tr> <tr> <td>森 幸男</td> <td>電子工学科主任代理</td> </tr> <tr> <td>小出由起夫</td> <td>情報工学科主任</td> </tr> <tr> <td>小澤 潔</td> <td>事務長</td> </tr> <tr> <td>横山 松生</td> <td>事務総括部長</td> </tr> <tr> <td>高田 英一</td> <td>学事資料室担当</td> </tr> </table>	田中 次生	校長	小島 勉	副校長	木戸 能史	教務主事	安藤 昭	学生主事	今野 義孝	寮務主事	大杉 功	専攻科長	小西 均	デザイン工学科主任	高橋 孝	電気工学科主任	森 幸男	電子工学科主任代理	小出由起夫	情報工学科主任	小澤 潔	事務長	横山 松生	事務総括部長	高田 英一	学事資料室担当
田中 次生	校長																										
小島 勉	副校長																										
木戸 能史	教務主事																										
安藤 昭	学生主事																										
今野 義孝	寮務主事																										
大杉 功	専攻科長																										
小西 均	デザイン工学科主任																										
高橋 孝	電気工学科主任																										
森 幸男	電子工学科主任代理																										
小出由起夫	情報工学科主任																										
小澤 潔	事務長																										
横山 松生	事務総括部長																										
高田 英一	学事資料室担当																										
配布資料	① 外部評価委員会実施要項 ② 学校要覧(2005) ③ 自己評価書(2005.10) ④ Info 2005 ⑤ Syllabus 2005 ⑥ 学校案内(2006)																										

観点11-3-②： 学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。
 (観点に係る状況)

(1) 大学コンソーシアムの活用

本校の位置する町田市が対象地域となるコンソーシアムが二つあり、一つは八王子市及びその隣接地域として「大学コンソーシアム八王子」、もう一つは対象行政地域にある「相模原・町田大学地域コンソーシアム」に加盟している。このコンソーシアムとの間で、相互に教育資源を提供する中で、単位互換、公開講座、地域交流イベントなどで貢献している。学生もこれらのコンソーシアムが提供する公開講座、市民大学等に参加できる。資料11-3-②-1 コンソーシアム

資料11-3-②-1 コンソーシアムと市民大学



(2) 単位互換協定

本校の専攻科生を対象に近隣大学との間で単位互換協定を結んでいる。学校種の違いから交換学生の実績は少ないが、環境は整備されている。(資料11-3-②-2 単位互換)

資料 1 1 - 3 - ② - 2 単位互換 (info2012から)

4.2.2 単位互換制度について

本校では、教育の活性化と充実、および学生に対して多様な学習機会を提供することを目的として、大学コンソーシアム八王子単位互換協定に加盟しています。これにより加盟校で開講する一部の授業を受講し、本校にはない他大学の授業や設備、新鮮な雰囲気味わうことが出来ます。残念ながら、現在のところ専攻科学生のみ参加に限られていますが、より高い知識や見聞を身につけることの出来る制度なので活用してください。詳しくは 1F 事務室教務学生課までお問い合わせください。

【出願手続きについて】

1. 出願資格 : 修了必要単位数の確保が十分であること
2. 出願期間 : 前期・通年 : 2012年4月6日(金)～4月11日(水)
後 期 : 2012年7月9日(月)～7月13日(金)
3. 受付場所 : 1F 事務室教務学生課 ※要証明写真(4cm×3cm)
4. 履修許可 : 受け入れ大学での選考後に通知します

【参考】単位互換協定校の2011年度授業期間

	協定大学・専修	前期授業期間	後期授業期間
1	多摩美術大学	4/11(月)～7/30(土)	9/5(月)～1/23(月)
2	東京工科大学	4/8(金)～7/23(土)	9/19(月)～1/18(水)
3	創価大学	4/6(水)～7/22(金)	9/12(月)～1/16(月)
4	サレジオ工業高等専門学校	4/6(水)～7/29(金)	9/21(水)～2/16(木)
5	ヤマザキ学園大学	4/11(月)～7/29(金)	10/1(土)～2/10(金)
	ヤマザキ動物看護短期大学	4/7(木)～7/29(金)	10/1(土)～2/8(水)
6	東京家政学院大学	4/8(金)～8/4(木)	9/21(水)～2/10(金)
7	東京工業高等専門学校	4/6(水)～8/10(水)	9/26(月)～2/22(水)
8	山野美容芸術短期大学	4/8(金)～8/10(水)	10/3(月)～2/13(月)
9	東京造形大学	4/11(月)～7/23(土)	9/5(月)～1/16(月)
10	東京純心女子大学	4/8(金)～7/28(木)	9/26(月)～1/30(月)
11	杏林大学	4/5(火)～7/25(月)	9/20(火)～1/23(月)
12	明星大学	4/11(月)～7/30(土)	9/12(月)～1/28(土)

- ※ 履修申請後、受け入れを許可された科目は、体面ことなく授業に参加してください。
- ※ 科目により専攻科修了必要単位として認められないものもあります。事前に確認してください。
- ※ 専攻科2年次での履修希望は、修了必要単位数の確保が十分に見込まれ、余剰単位として修得する場合のみ行ってください。

(3) 地域交流センターを中心とした教育資源の相互提供

地域交流センターを核として、産学官連携、学校間交流、教育・文化交流支援、公開講座など多彩な活動を行っている。これらの地域交流は本校が町田市の行政区域にありながら、八王子市、相模原市に隣接していて、これらの3市にまたがる交流を可能としている。

(分析結果とその根拠理由)

市域における教育資源の活用とは、当然のように相互に提供しあうgive&takeの形になる。本校が高専であることから本科の学生は週日17コマが拘束されていて、地域のリアルな利用は難しいが、土日や長期休暇中を利用することなどで、さまざまなチャンネルを活用できる環境は整備されている。

活用実績という点からは十分とはいえないが、観点を一定の水準で満たしている。

観点11-4-①： 高等専門学校における教育研究活動等の状況や、その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

(観点に係る状況)

本校の研究環境は国公立高専と比べてその環境は必ずしも十分な状況にはない。とくに個人研究費については財政上年間1000万(全校)程度しか手当ができていない。これによって校内の「課題研究」(資料11-4-①-1)すなわち教員が研究したい課題を自主的に選定し、研究委員会において承認されたものに研究費が交付されるものである。

このような状況で積極的な業績を上げたい教員の場合、外部資金の獲得があり、国からの助成である「科学研究費」(資料11-4-①-2)と企業との産学連携による「研究奨励金等」(資料11-4-①-3)がある。

また毎年度、研究紀要(資料11-4-①-4)を刊行し、平成23年度までで第38号に至っている。在職教員の資質向上により、平成24年4月現在、54名の専任教員のうち博士号取得者が21名、修士号取得者が19名に達している。(資料11-4-①-5)併せて75%に近いところまで達している。これは平成13年度に専攻科を開設して以来、高等教育機関としての質向上に努めてきた。これも国公立と比べると若干見劣りがするが、今後教員の入れ替わりによりさらに改善される見通しである。

これらの研究業績については本高専のホームページによっても公開されている。(資料11-4-①-6)ホームページの閲覧データからも本校の教育・研究活動に関心が持たれていることがわかる。(資料11-4-①-7)

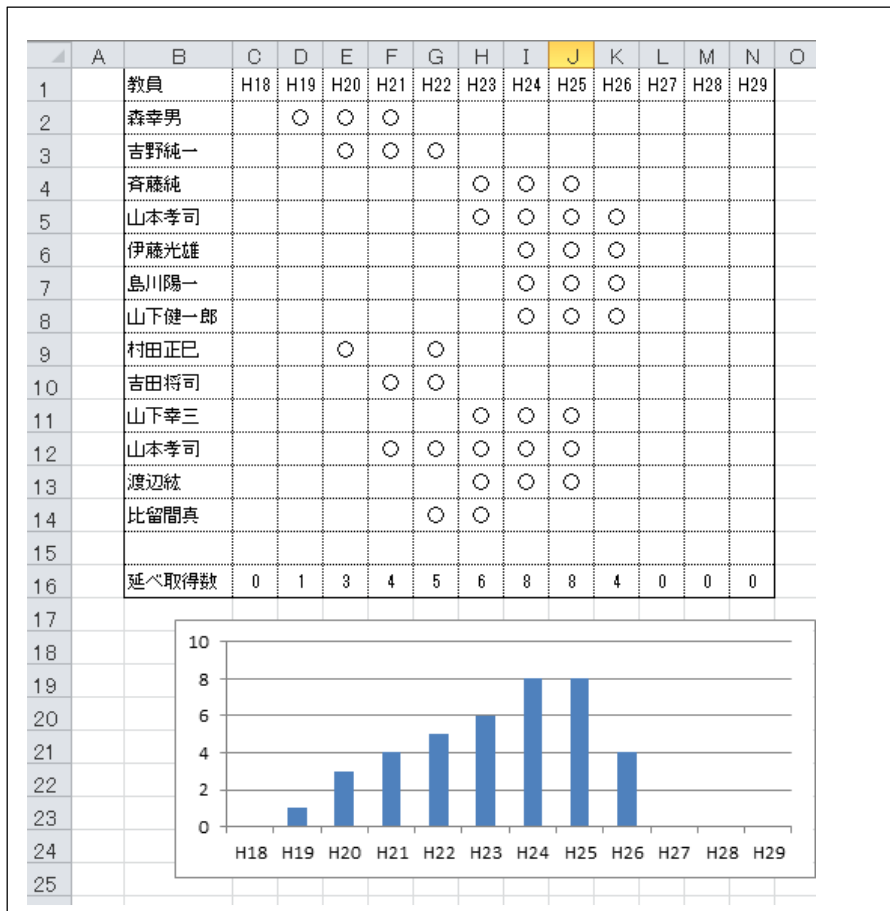
資料 1 1 - 4 - ① - 1 平成22年度課題研究費取得者一覧

平成22年度高専課題研究費採択者一覧	
氏名(敬称略)	テーマ
伊藤 光雅	リメディアル教育とイマージョンプログラム教育に基づく効率的な留学生支援体制の構築
清水 哲也	光通信量子暗号Y-00の一般化設計理論へ量子信号検出理論の応用
斉藤 成一	高速信号伝送と電磁環境との両立
竹本 泰敏	電力システムの低炭素化に向けた新エネルギー発電安定化装置の提案と検証
鎌野 健	積分で表されるゼータ関数とベルヌーイ数の関係式
吉野 純一	災害時を想定した安否確認構築と熱電変換素子によるアクティブRFIDへの電源供給方法
吉澤 伸幸	環境の配慮とコストダウンを目指した鉄微粒子開発と微小平面インダクタへの応用
山下 健一郎	電力変動補償装置を有する直流送電式洋上風力発電システム
山本 孝司	ナレッジベースを備えたeラーニングによる学習支援とその波及効果の評価・分析
大杉 功	一方向凝固法で作製した真性ビスマス・テルライドの結晶構造の温度依存性
大藤 晃義	介護予防評価への重心動揺計の応用
塩田 一路	斜め衝突による宇宙太陽光発電システム用デブリ防護パネル
島川陽一	GISを用いた交通量データ推定システムの開発
内田 健	並列計算機での計算ノード間通信の低減を可能とする分散遺伝的アルゴリズム
平岡一則	エレクトロマイグレーションによるはんだ接続点の機械的強度劣化の評価と寿命予測
米盛弘信	太陽光発電における日照量不足時の未回収エネルギー回収法
加藤雅彦	温暖化環境の廃熱を効率よく電気エネルギーに変換する鉄ケイ化物の量産化手法
平成22年度科研費採択者一覧	
吉野 純一他	災害時を想定した電源を有し高齢者の動きと通信トラヒックとの相関を考慮した安否確認
吉田 将司	都市水辺をモデルとしたユビキタスネットワーク - こどもの水難事故対策を中心として -
村田 昌巳	イタリア人宣教師と日本語 - イエズス会士ヴァリニャーノとサレジオ会士チマッティ -
阿蘇 和寿・山本 孝司	選択式問題による高専生の数学の学力保証とその教授方略に関する研究
山名 善之・比留間 真他	原寸模型実験によるA型ポルティーク木造組立住宅の実証的研究
平成22年度産学共同研究者一覧(大学コンソーシアム八王子)	
米盛 弘信	IHクッキングヒータが発生する音と電磁波の解明による人体への影響を考慮した環境改善策
平成22年度東京都私学研究助成採択者一覧(東京都私学財団)	
相川 智洋他	コミュニケーション育成科目構築における理論研究
石田 毅他	高等専門学校における第二外国語教育
内田 健他	創造実習科目でのグループリーダーを育成するための「プロジェクト活動」におけるペアプログラミング導入に関する検討

資料 1 1 - 4 - ① - 2 平成24年度科研費取得者一覧

研究費種類	研究者名	学科	テーマ	採択年	期間	2006(H18)
科 研 費						
基盤研究(B)	森 幸男			H19		3
基盤研究(C)	吉野純一			H20		3
基盤研究(C)	斉藤 純			H23		3
基盤研究(C)	山本孝司			H23		4
基盤研究(C)	伊藤光雅	一般教科	物理教育を事例とした遠隔授業による留学予備教育機関での学習支援と支援効果の分析	H24		3
基盤研究(C)	島川陽一	情報工学科	アジアにおける大気汚染物質排出量の推定のための道路交通特性を推定する方法の開発	H24		3
基盤研究(C)	山下健一郎	電気工学科	ブロック式実験発電システムを用いた再生可能エネルギーの教育法の評価と検討	H24		3
若手研究(B)	村田正巳			H20・H22		2・3
若手研究(B)	吉田将司			H21		2
基盤研究(A)首都大分担金	山下幸三			H23		3
基盤研究(C)石川高専分担金	山本孝司			H21		5
基盤研究(C)広島大分担金	渡邊 紘			H23		3
挑戦的萌芽研究東京理科大分担金	比留間真			H22		2
小計						(
申請数						
採択数						
公的研究助成						
東京都私学財団研究助成	渡邊 聡			H20		1
東京都私学財団研究助成	米盛弘信			H20		1
東京都私学財団研究助成	内田 健			H22		1
東京都私学財団研究助成	石田 毅			H22		1
東京都私学財団研究助成	相川智洋			H22		1
東京都私学財団研究助成	稲毛達朗	機械電子学科	ものづくり基礎力の向上によって能動的学生を形成する教育体制の構築	H24		1
東京都私学財団研究助成	房野俊夫	電気工学科	地熱発電用鋼管におけるスケール厚さ測定手法の検討	H24		1
東京都私学財団研究助成	真島顕子	一般教科	言語理論を応用した新英語教授法の考案と専門性をいかした教育活動の可能性の模索	H24		1
八王子助成	森 幸男			H19		1
八王子助成	河村達也			H21		1
八王子助成	森 啓騎			H21		1
八王子助成	水上拓海			H21		1
八王子助成	大藤晃義			H21		1
八王子助成	藤原章裕			H22		1
八王子助成	米盛弘信			H22		1
八王子助成	吉野純一	機械電子学科	災害時を想定した高齢者の見守りと養老共生による学習設計を考慮した安否確認	H23		1
八王子助成	赤坂郁美	電気工学科学学生	2011ワールド・グリーン・チャレンジ・ソーラー&FCカー・ラリー	H23		1
八王子助成	土屋樹生	機械電子学科学学生	山中湖アートイルミネーションコンテ	H23		1
八王子助成	藤原章裕	専攻科学生	電気エネルギーを体験しよう! 太陽光で動く乗り物はこんなにすごい!!	H23		1

資料 1 1 - 4 - ① - 2 b 過去5年間の科研費取得者数の推移



資料 1 1 - 4 - ① - 3 産学連携による研究奨励金を受けている事例

小計			
企業研究助成			
(株)ナック	小島勉・加藤雅彦	H18	1
(株)エイ・エス・ヴィ	市村洋	H18	1
JFE技研株	仁田周一	H20	1
東栄産業	塩田一路	H21・22・23・24	1
(株)PHONON	米盛弘信	H23	1
KELK	吉野純一	H23	1
日本デジタル道路地図協会	島川陽一	H23	1
小計			
受託研究			
三菱電機	齊藤成一	H23・24	1
計量計画研究所	島川陽一	H23	1
小計			
共同研究			
長岡技術科学大学	島川陽一	H23	1
長岡技術科学大学	米盛弘信	H24	1
小計			
合計			
申請数			
採択数			

資料 1 1 - 4 - ① - 4 研究紀要



資料 1 1 - 4 - ① - 5 学位取得者

平成24年度専任教職員年代構成表							
H24	1 専任教員構成				年齢は24年度末		
	2 61歳以上は再雇用		48 吉野 准教授 博士(工学)		称号教授は除外	2012/10/25 11:17	
	3 56歳から昇給停止		48 鎌田 准教授 修士(教育学)				
			48 マルクス 准教授			博士	21 38.9%
			48 西岡 講師			修士	19 35.2%
			48 伊藤 講師 博士(工学)	59 大杉 教授 博士(工学)		学士・准学士	14 25.9%
		37 山下健 准教授 博士(工学)	47 島川 准教授 博士(工学)	59 杉本 教授 修士(芸術学)		合計	54 100.0%
		37 真島 講師 博士(文学)	46 比留間 准教授 修士(工学)	59 安藤 教授			
		35 松尾 講師 文学修士	46 小島知 教授 修士(神学)	58 山本 准教授			
		36 齋藤 講師 修士(工学)	45 山野進 教授 博士(理学)	57 小出 准教授 修士(理工学)			
		36 西野 講師 修士(環境)	45 富田 准教授 修士(工学)	57 竹内 准教授			
		34 吉田 講師 博士(工学)	44 菅原 講師 修士(教育学)	57 野島 講師			
		35 高野 講師	43 内田 准教授 修士(工学)	57 冨野 准教授 博士(工学)	71 塩田 特任教授 工学博士		
		34 相川 講師 修士(教育学)	42 清達 講師	56 花山 講師	69 大藤 特任教授 工学博士		
		33 椎名 講師 修士(文学)	42 加藤 教授 博士(工学)	55 米山 准教授	67 吉村 特任教授 工学博士		
		32 谷上 講師 修士(工学)	42 大島 講師 修士(工学)	52 山館 准教授 文学修士	65 小西 特任教授		
		30 山下幸 助教 博士(工学)	42 村田 准教授 Ph.D(Japanese)	50 森 教授 工学修士	64 杉島 特任教授		
	29 渡邊敏 助教 博士(理学)	30 米盛 助教 博士(工学)	41 石田 准教授 修士(アメリカ学)	50 渡邊 准教授 工学修士	63 平岡 特任教授 博士(工学)		
	29 稲毛 助教 博士(工学)	30 清水 助教 博士(工学)	40 中田 講師	50 水谷 教授 博士(工学)	60 高橋 教授		
年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	
特任教授					6	6	
教授			3	5	1	9	
准教授		1	9	7		17	
講師		9	6	2		17	
助教	2	3				5	
助手						0	
合計	2	13	18	14	7	54	
比率	2%	29%	27%	23%	19%	100%	
	1 専任職員構成			59 佐伯 主事補			
	2 61歳以上は再雇用			58 杉山 主任			
	3 56歳から昇給停止			57 菊池 主任			
				56 齋藤 主事補	74 戸野 参与格(法人)		
				54 柴田 主事	66 木戸 参事格		
		38 星野 主任	48 和田 主事補 修士(図書館情報学)	53 里川 主任	65 大澤 参与		
	25 宮野 未格付	38 林 主任	46 田代 主任	51 秦 主任	63 横山 参与		
	25 高橋祐 未格付	37 須藤 主任格(法人)	41 関口 主事補	50 高橋佐 主任	60 小田切 主任		
年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	小計	
参与					3	3	
参事					1	1	
主事				1		1	
主事補			2	2		4	
主任		3	1	5	1	10	
未格付	2					2	
合計	2	3	3	8	5	21	
比率%	10%	14%	14%	38%	24%	100%	
					内法人	(2)	

資料 1 1 - 4 - ① - 6 高専ホームページによる研究業績の公開



(分析結果とその根拠理由)

観点1-①の学校組織は校長を長として直轄部門、教育部門、事務部門に分かれ、校長はそれぞれの部門へ権限を委譲し、教育部門は副校長のもと教務主事、学生主事、学科長等にそれぞれの校務分掌を明確にしている。

また、SMSを導入することで、職制を明確にし、校長の指揮のもと教職員の業務管理が適正に行われている。

意志決定機関についても、全校的分野にあつて校長に諮問し、校長が決裁する機関として学校運営会議(AMC)があり、教育部門、事務部門に部門会議も組織されている。

よって観点を満たしている。

観点1-②の諸規定の整備については一部改訂作業中のものもあるが、すべて整備され、常に現況に整合するように見直されている。

委員会、部会等それぞれ役割、構成員等が明記されたものを年度当初発表し、周知される。その機能についても果たされている。

危機管理にかんする体制も昨年の大地震以降、再検討され、マニュアルの見直し、備蓄体制の拡充など実行し、委員会の機能も果たされている。今後、緊急時の避難訓練、救急訓練などについて検討に入っている。

よって観点を満たしている。

観点2-①の自己点検・評価については平成20年度の機関別審査で自己評価書が公開されたあと、毎年度の実施はなされず、本年前半に平成23年度に関する自己点検評価を行った。その後、今回の外部評価のための自己評価書作成に至ったので、現在進行中という現況では公開には至っていない。

よって判断を保留した。

観点2-②の外部評価については平成17年度に実施して以降、今回まで行っていないことから判断を保留する。

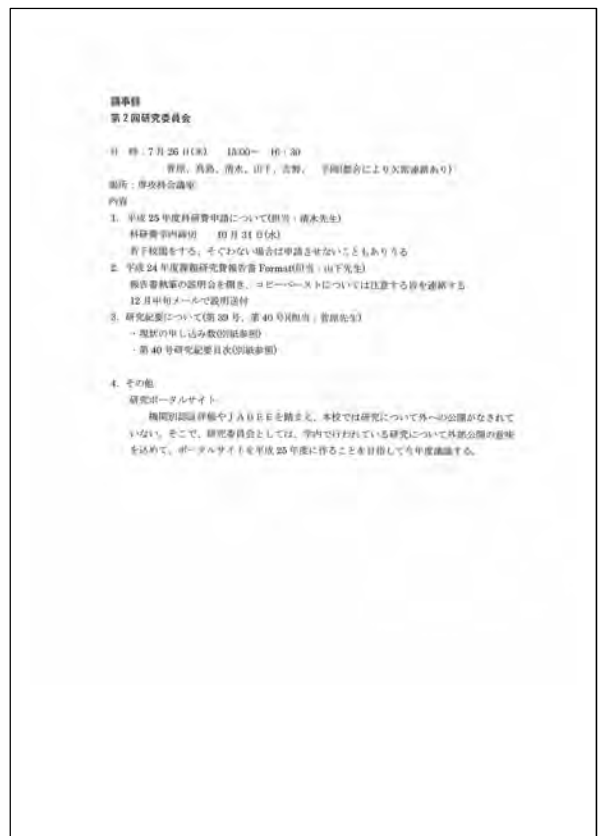
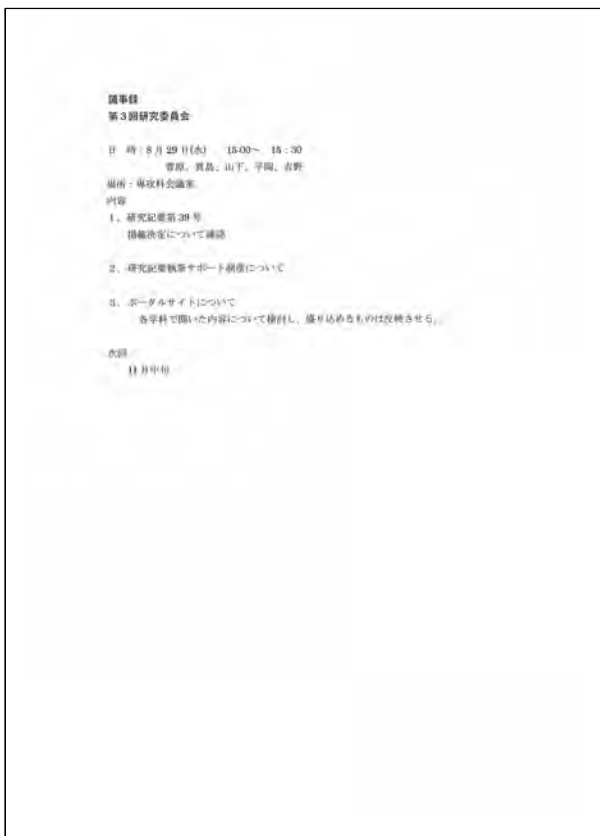
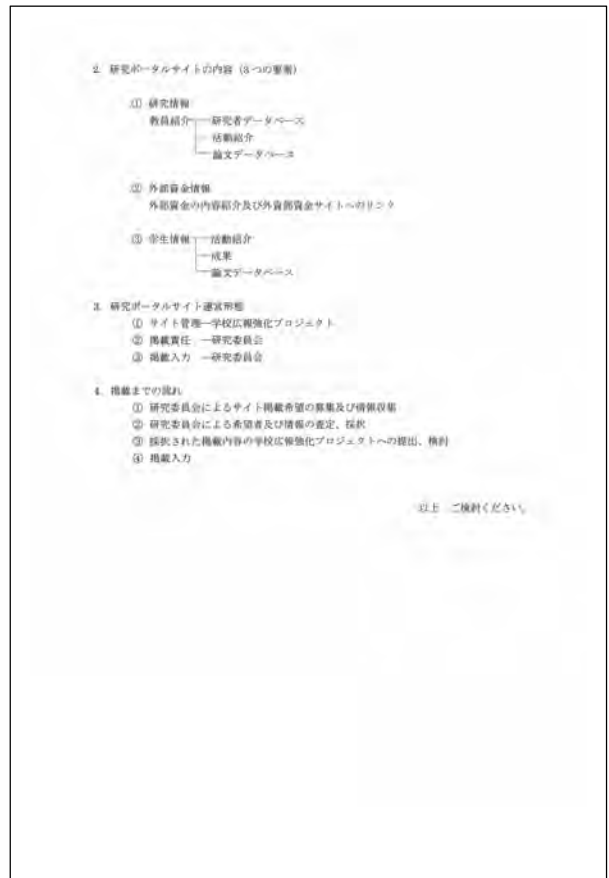
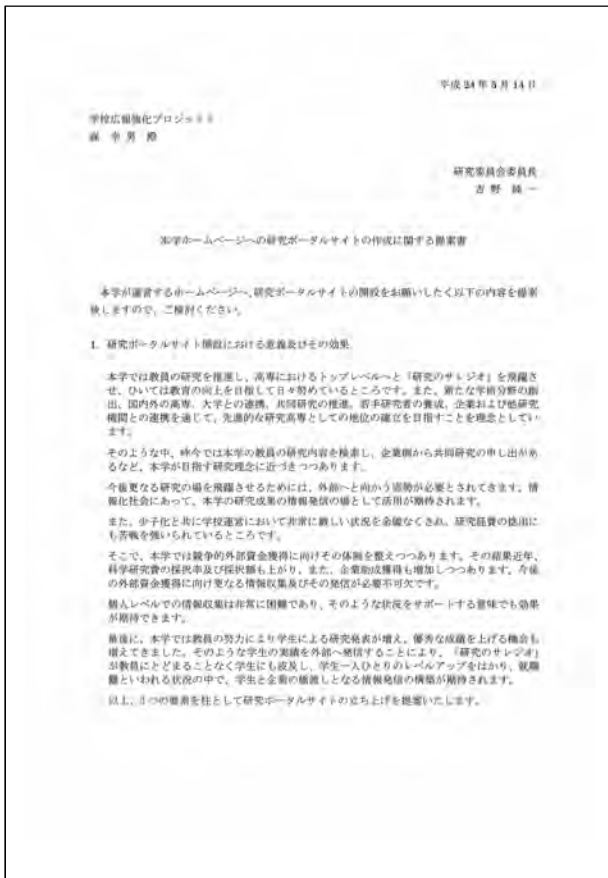
観点3-①は前回の外部評価を得て、可能な範囲で改善を行ったが、今回の外部評価の結果を受けて改善を行うことになるので、これも判断を保留する。

観点3-②の外部の教育資源については十分な環境にはあるが、教員は地域との産学官連携に実績を上げているものもいるが、学生に関しては高専の特質から必ずしも積極的ではない。

ただいろいろな機会を捉えているので今後を期待して観点を満たしている。

観点4-①の本校の教育・研究は地域社会に対して、広報物、刊行物、電子媒体(Web、メルマガ)を通して広報、告知している。教員の研究成果、業績、研究紀要等について現状では十分に公開されているというには至らない。ただし、平成24年度より、研究委員会を中心にこのことが重要課題として検討され、研究ポータルサイトを構築し、これを学校ホームページに接続する計画が進められている。これにより来年度以降、研究成果の告知、広報、周知が現実のものになる。以下に研究委員会の議事録を(資料11-4-①-7)示す。

資料11-4-①-7 研究委員会の提言と検討議事録（研究ポータルサイトの構築）



できていない。これは私学の自由さ、臨機応変の影で不得意な分野である。可及的速やかに整備すべきところにきている。

(3) 基準11の自己評価の概要

観点1の組織、規則・規程は一部に不十分な部分があるにしても合格レベルである。

観点2の自己点検評価、外部評価、その結果の公表については現在進行中である。

観点3の外部の教育資源については機会があるにもかかわらず十分とはいえない

観点4の成果の公開についてはこれからの課題である。

よって総合評価としては特に優れているとはいえない状況である。

選択的評価 A

研究活動の状況

Ⅲ 選択的評価事項 A 研究活動の状況

1 選択的評価事項 A 「研究活動の状況」に係る目的

高等専門学校の目的に照らして、必要な研究体制および支援体制が整備され、機能しており、研究の目的に沿った活動の成果が上がっていることを目的とする。

2 選択的評価事項A「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

「サレジオ工業高等専門学校研究委員会規程」(資料A-1-①-1)に基づき、サレジオ工業高等専門学校における教育研究活動の活性化を目的とし、本校に研究委員会を置いている。研究委員会は一般教育科および専門学科から各科1名選出された委員(委員長1名)からなり、教育担当副校長の直轄組織として次の事項を所掌している。

- 1 教育研究推進・・・科研費等の外部資金調達のための情報提供と申請業務(事務部)
- 2 課題研究費(学内の競争的研究費)・・・申請受付、審査・決定通知、実績管理

(資料A-1-①-2)

- 3 研究紀要・・・原稿募集・受付、校閲、印刷・配布
- 4 研究倫理・・・副校長からの依頼に基づき審議
- 5 その他、教育研究に関する事項・・・研究者一覧のとりまとめ等

(分析結果とその根拠理由)

各教員の研究を円滑に進めるための支援体制として、研究委員会が適切に組織化され機能していると判断される。

サレジオ工業高等専門学校研究委員会規程

平成 24 年 3 月 1 日

(目的)

第1条 サレジオ工業高等専門学校（以下「本校」という）における教育研究活動の活性化を目的とし、本校に研究委員会（以下「委員会」という）を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の事項を所掌する。

- 一 教育研究推進
- 二 課題研究費
- 三 研究紀要
- 四 研究倫理
- 五 その他、教育研究に関する事項

(任務)

第3条 委員会は、具体的に次の任務を行い、本校教員の研究の促進、高度化に努める。

- 一 課題研究費交付申請の審査及び交付
- 二 科学研究費受入推進
- 三 受託研究費、奨学寄附金、共同研究受入の推進
- 四 研究紀要の発行及び発行に関するすべての業務
- 五 研究推進に役立つ研修会、研究集会、シンポジウム、講演会等の開催
- 五 研究に係る倫理の審査及び管理
- 六 その他教育研究に関し、必要と認められること

(構成員)

第4条 委員会は、次の委員によって構成する。

- 一 一般教育教員 1 名
 - 二 専門学科教員各 1 名
- 2 委員会に委員長を置き、研究委員から充て、校長が任命する。委員長は委員会を主宰する。
- 3 委員会の委員長の推薦により顧問を 1 名置くことができる。顧問は、本校の専任教員から任命される。

(以下略)

課題研究費実績報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

研究課題名 非線形性を持つ移流・拡散現象を記述する偏微分方程式に対する数学解析

研究代表者 渡邊紘

研究分野：数物系科学

研究の分科・細目：数学、基礎解析学

キーワード：(B)実解析、(C)関数方程式、(D)関数解析

1. 研究計画の概要

I. 移流項に不連続な係数を持つ強退化放物型方程式に対する可解性の研究

I-1. 1次元空間における Neumann 問題、Zero-flux問題に対する弱解の適切性を証明する。

I-2. 多次元空間における初期値問題に対する弱解の空間 L^1 における適切性を証明する。

II. 結晶粒界現象を記述する数学モデル (Kobayashi-Warren-Carter モデル) に対する数学解析

II-1. 拡散項を退化させた場合に対する1次元空間における解の存在性を証明する。

2. 課題研究の進捗状況及び達成度

I. について

移流項に不連続な係数を持つ強退化放物型方程式に対する可解性の研究を行い、いくつかの結果を得ることができた。

I-1 において計画した内容は全て達成することができた。実際、1次元 Neumann 問題、Zero-flux問題に対する弱解の存在性を得ることができた。さらに、構成した弱解の一意性、連続的依存性も得ることができた。

I-2 における研究計画は次年度以降に持ち越しとなった。これは、I-1 における内容が申請者の予想を越えて深いものであったため、1次元問題に対する解析を優先したからである。実際、I-1 において構成した弱解はエントロピー解となることが示され、いくつかの付帯条件付きで様々な性質を示すことができた。しかし今後解析を進める上で、この付帯条件が本質的に必要となる可能性が高く、使用しているエントロピーそのものを改良する必要性が出てきた。これは退化放物型方程式に対する解析を大きく進展させる可能性のある

重要な問題である。この点に気がつくことのできた本年度の研究は、非常に有意義なものであった。

II. について

研究計画に沿った定式化による数学的結果は、残念ながら得られなかった。しかし解析を進める中で、弱解が存在すること、さらにその弱解がエネルギー消散性を持つことを発見した。

実際、通常より初期関数のクラスを絞ることで、弱解の存在性を証明した。さらに、構成した弱解がエネルギー消散性を持つことを有界変動関数と測度論の一般論を用いて証明した。さらに、エネルギー消散性を用いて、解の時間大域的挙動を考察した。

Kobayashi-Warren-Carter モデルは、結晶の配向度と平均偏角により記述されている。今回の結果は、時間が十分経過すると、結晶は全て同じ向きに揃うことを意味している。これは数値計算による結果や物理実験による結果と適合しているため、良い結果が得られたと考えられる。

3. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計4件)

1. 渡邊紘, 強退化放物型方程式に対する zero-flux境界値問題の可解性, 第33回発展方程式若手セミナー報告集, 査読無, pp 35-40.

2. K.Shirakawa, H.Watanabe, N.Yamazaki, Solvability for one-dimensional phase field system associated with grain boundary motion, Technical Reports of Mathematical Sciences Chiba University, Vol. 27 (2011), 査読無, No.1, pp 1-29.

3. 白川健, 渡邊紘, 山崎教昭, 結晶粒界現象に

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

活動の成果として、外部資金の獲得状況を示す(資料A-1-②-1)。平成19年度以降、獲得金額が1桁以上増えてきた。これは学校として、科研費等外部資金の獲得に積極的に取り組んだ成果である。資料A-1-②-2には、科研費の申請件数の推移を表す。同じく、平成19年度から急増している。

(分析結果とその根拠理由)

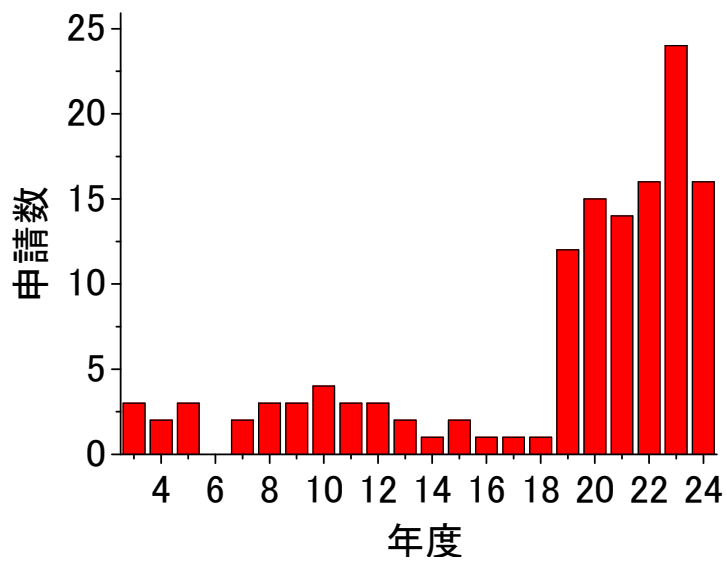
外部資金の獲得状況から見て、研究の目的に沿った活動の成果が上げられていると判断できる。

外部資金調達リスト

- 1

研究費種別	研究者名	採択年	期間	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)
科学研究費										
基礎研究(B)	森 幸男	H19	3		8,800,000	3,000,000	1,900,000			
基礎研究(C)	吉野純一	H20	3			2,100,000	800,000	700,000		
基礎研究(C)	齊藤 純	H23	3						3,800,000	300,000
基礎研究(C)	山本孝司	H23	4						1,100,000	100,000
基礎研究(C)	伊藤光雄	H24	3							1,900,000
基礎研究(C)	島川隆一	H24	3							1,900,000
基礎研究(C)	山下健一郎	H24	3							1,700,000
若手研究(B)	村中正巳	H20・H22	2・3			200,000	100,000	200,000	100,000	100,000
若手研究(B)	古田将司	H21	2				1,600,000	1,700,000		
基礎研究(A)首都大分団会	山下幸三	H23	3						1,700,000	1,500,000
基礎研究(C)石川高専分団会	山本孝司	H21	5				30,000	30,000	5,000	10,000
基礎研究(C)広島大分団会	渡邊 祐	H23	3						200,000	200,000
現職的萌芽研究東京理科大分団会	比留間 真	H22	2					134,000	50,000	
小計				0	8,800,000	5,300,000	4,430,000	2,764,000	6,855,600	7,710,000
公的研究助成										
東京都私学財団研究助成	渡邊 聡	H20	1			240,000				
東京都私学財団研究助成	米盛弘信	H20	1			300,000				
東京都私学財団研究助成	内田 健	H22	1					292,000		
東京都私学財団研究助成	石田 敏	H22	1					194,000		
東京都私学財団研究助成	相川智洋	H22	1					206,000		
東京都私学財団研究助成	相毛達朗	H24	1							300,000
東京都私学財団研究助成	河野俊夫	H24	1							120,000
東京都私学財団研究助成	真島亜子	H24	1							240,000
八王子助成	森 幸男	H19	1		200,000					
八王子助成	河村達也	H21	1				60,000			
八王子助成	森 啓嗣	H21	1				80,000			
八王子助成	水上拓海	H21	1				60,000			
八王子助成	大藤崇義	H21	1				500,000			
八王子助成	藤原崇裕	H22	1					100,000		
八王子助成	米盛弘信	H22	1				600,000			
八王子助成	吉野純一	H23	1						500,000	
八王子助成	赤坂郁美	H23	1						100,000	
八王子助成	土屋樹生	H23	1						100,000	
八王子助成	藤原崇裕	H23	1						100,000	
小計				0	200,000	540,000	700,000	1,392,000	800,000	860,000
企業研究助成										
国テック	小島勉・加藤雅彦	H18	1	200,000						
㈱エイ・エス・ヴィ	市村洋	H18	1	200,000						
JFE技研㈱	仁田 博一	H20	1			1,000,000				
東栄産業	堀田一裕	H21・22・23・24	1				700,000	700,000	700,000	700,000
㈱PHONON	米盛弘信	H23	1						10,000	
KELK	吉野純一	H23	1						200,000	
日本デジタル道路地区協会	島川隆一	H23	1						900,000	
小計				400,000	0	1,000,000	700,000	700,000	1,810,000	700,000
委託研究										
三菱電機	斉藤成一	H23・24	1						500,000	500,000
計量計画研究所	島川隆一	H23	1						1,500,000	
小計				0	0				2,000,000	500,000
共同研究										
長岡技術科学大学	島川隆一	H23	1						300,000	
長岡技術科学大学	米盛弘信	H24	1							200,000
小計				0	0				300,000	200,000
合計				400,000	8,800,000	6,840,000	5,830,000	4,855,000	11,865,600	8,770,000

資料A-1-②-2 科研費申請件数



観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

毎年、各教員が教育研究業績を申告し、それをまとめて研究紀要に掲載している(資料A-1-③-1)。このことにより、学校全体の研究活動が全教職員に具体的に周知され、関連する研究を見いだしたり新たな方向性について議論できるなど、研究の促進に役立っているものと期待される。

また目標管理制度においては、各教員は個人目標の中で研究活動の目標値を定め、年度末および年度末に部署長との面談を通して評価を受け、次年度への改善を図っている(資料A-1-③-2)。

(分析結果とその根拠理由)

研究活動等の実施状況を把握する手段、および問題点を把握して改善を図る体制は整っており、機能していると判断できる。

2010年度 教員研究活動報告

【一般教育】

小島知博

【論文】

- 1) 内田健, 島川陽一, 山野遙基雄, 西野隆司, 米山秋文, 村田昌巳, 小島知博, Don Bosco Technical College との教育・学術交流に関する検討, 高専教育, 第34号, pp. 877-882, 2011, 査読有

【口頭発表】

- 1) 吉野純一, 市村洋, 小島勉, 小島知博, サレジオ高専における教育士取得の組織的取組み, 第58回年次大会, 日本工学教育協会, 2010.

石田毅

【論文】

- 1) 真島顕子, 石田毅, 野島伸仁, 椎名正明, ルイス・A・マルケス, 高専における第二外国語保持の重要性, サレジオ工業高等専門学校研究紀要, 第36号, pp. 63-68, 2011, 査読無

山館順

【口頭発表】

- 1) 山館順, 暮末からくり節の人物誌-伊予宇和島の前原功山-, 第8回日中機械技術史学術会議, 中国河南省重慶市河南理工大学, 2010

米山秋文

【論文】

- 1) 内田健, 島川陽一, 山野遙基雄, 西野隆司, 米山秋文, 村田昌巳, 小島知博, Don Bosco Technical College との教育・学術交流に関する検討, 高専教育, 第34号, pp. 877-882, 2011, 査読有

【雑誌・記事】

- 1) 小出由起夫, 米山秋文, サレジオ高専総合メディアセンターの特徴, サレジオ工業高等専門学校総合メディアセンター報, 創刊号, pp. 5-6, 2011, 査読無

【口頭発表】

- 1) 米山秋文, 森幸男, 小出由起夫, 和田初枝, サレジオ高専における利用者の創造力向上を目指した学内情報システムの構築, 第30回高等専門学校情報処理教育研究発表会, 高等専門学校情報処理教育研究会, 2010

伊藤光雅

【論文】

- 1) 伊藤光雅, マレーシア政府による高専留学プログラムにおける留学生教育と今後の展望, 高専教育, 第34号, pp. 859-864, 2010, 査読有

【雑誌・記事】

- 1) 伊藤光雅, マレーシア高専留学プログラムにおける政府派遣留学生への予備教育, 国立高専機構平成22年度留学生・国際交流担当者教員研究集会報告書, pp. 15-21, 2010, 査読無

23年度個人活動計画

氏名： 飛

部署目標	個人目標	目標値	活動予定 (完了日)	実績報告	達成度	難易度	ウェイト	部署長評価
①学生の能力向上のための実践的な教育	NEPSの授業、研究利用を促進する。	後期の学生実験に組み込むと件に卒研のテーマとして研究する、 (実験指導書・実験報告書の作成)	2012.3.31	S、4年生の電気工学実験でNEPSを取り入れた実験を行った。内容は「実用形風力発電装置の出力特性測定試験」である。10人弱で協力して行う大実験で、学生の感想も好意的なものばかりであった。実験指導書作成済み※実験報告書に記載 実験報告書提出済み	3	3	30%	3
②教員の業績向上	(1):学会発表 (2):投稿論文の投稿	(1):3件/年以上 (2):1件/年度内	2012.3.31	国際会議ICEMS2011(北京)1本 電気学会産業応用部門大会2本 大学コンソーシアム八王子学生発表2本 電気学会全国大会1本 ジャーナルIEESEMへ掲載され投稿済み1本 ⇒3月のジャーナルに掲載された	4	3	45%	4
①地域交流の促進	展示会への参加など、地域交流に貢献する。	学外展示など2件/年	2012.3.31	八王子環境フェスティバル 町田エコフェスタ ビジネスフェア 両府フォーラム招待講演	4	2	25%	4

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

研究委員会の活動や外部資金の獲得状況から見て、高等専門学校の目的に照らして、必要な研究体制および支援体制が整備され、機能しており、研究の目的に沿った活動の成果が上がっていることが確認できる。

(改善を要する点)

研究業績の上がっている教員とそうでない教員の格差がある。研究業績の少ない教員については、研究論文を書き慣れていない、研究テーマを見つける視点が見つけられないなど、不慣れな点もあるので、共同研究などの教員間の連携を促進するしくみ作りが必要である。

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

研究活動の状況について、PDC Aサイクルの視点から自己評価した。研究を行う体制や支援する体制は研究委員会などを通して整備されており（P）、その下で各教員は研究を行っている（D）。研究成果は学校全体でまとめられて学内外に公開されており（C）、所属部署長との面談を通して翌年度に向けた改善が図られている（A）。

(4) 目的の達成状況の判断

研究活動状況PDCAサイクルにおいて、各段階において適切に運用されていることが確認でき、目的を達成していると判断できる。

選択的評価 B

正規課程の学生以外に対する
教育サービスの状況

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校では、教育サービスを通じた社会貢献や社会活動など、社会にサービスを提供することを教育目的にはしていない（資料B-1）。よって、この選択的評価事項Bの評価対象とはならない。

資料B-1

1 サレジオ工業高等専門学校の教育理念

本校はローマカトリック教会において青少年教育を目的として事業を始めた聖人ヨハネ・ボスコ（伊 1815-1889）によって創設されたサレジオ修道会が全世界に展開している 1600 余校の学校の 1 つとして 1935 年東京に創立された。1985 年、前身の育英工業学校の創立から数えて 50 周年を迎えたその際、教育理念を明確にしようとする当時のスタッフにより以下の 3 つの校是が定められた。

校是 1 「神は愛なり Loving Kindness」より

カトリック・ミッションによるキリスト教の精神に基づく教育

校是 2 「技術は人なり Human Technology」より

教養と専門を基盤とする総合的人格陶冶に基づく技術者教育

校是 3 「真理は道なり Living Truth」より

理論と実践を両輪に創造性と探究心あふれる人間教育

2 サレジオ工業高等専門学校の教育目的

－ 基本精神 －

キリスト教精神に基づく人間観を持った善き職業人を養成する

1. 専門性・・・深く専門の学芸を教授し高度の工業専門教育を行う
2. 国際性・・・国際社会で活躍できる有為な人材を養成する
3. 人間性・・・社会性豊かな、創造性に富んだ、チャレンジ精神溢れる個性に伸ばす

参考として、本校の地域貢献の取り組みを述べる。

地域貢献の目的は「地域貢献の一貫として可能な条件のもとで、学校の人的資源を提供することによって教育サービスを行う。」としている。可能な範囲と運用形態によって実践している。

地域団体と連携して実施しているものや個別に受託して行っている実践例を以下に提示する。

(1) 地域団体と連携して実施している講座

(1-1) 大学コンソーシアム八王子が行っている市民大学講座「いちよう塾」関連の講座に本校の教員が出講している事例（資料B-1）

(1-2) 相模原市・座間市市民大学が行っている市民大学講座関連の講座に本校の教員が出講している事例（資料B-2）

(1-3) 大学コンソーシアム八王子が実施している 1 日講座である「こどもいちよう塾」に本校の教員・学生が出講している事例（資料B-3, B-4）

(2) 本校の教員が相手先から受託して行う体験型授業（資料B-5, B-6）

資料B-1 続き

芸術・デザイン・資格・教養・趣味

申込期間/開講月の前々月の15日～前月の15日(定員に満たない場合は、申込期間終了後でも受付いたします。)

番号	講座名	回数	期間	曜日	時間	受講料	定員	会場	提供機関	講師
11-15	東アジアを考える	1	11/24	土	13:00~17:40	2,000円	10名	八王子セミナーハウス	公益財団法人 八王子セミナーハウス	三谷 博信
11-19	基礎からの木工(11月開講・午前コース) ～無垢の木を使用して木材工芸に挑戦～	6	11/17~1/5	土	9:30~12:30	11,000円	6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	秦 和也
11-20	基礎からの木工(11月開講・午後コース) ～小型電動工具と治具を使った箱物製作～	6	11/17~1/5	土	14:00~17:00	11,000円	6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	秦 和也
1-1	フォトショップでデジタル写真を美しくしよう【初級編】 ～パソコンでフォトレタッチを始めよう～	7	1/12~3/23	土	10:30~12:00	4,500円	20名	デジタルハリウッド大学	デジタルハリウッド大学	川元 卓央
1-2	絵画実践入門～デッサン・水彩画・細密画～ ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	10	1/16~3/20 ※3/20開	水	9:20~10:50 11:00~12:30	7,500円	各コース 15名	工学院大学	工学院大学	大竹 教人
1-3	絵画実践入門～デッサン・水彩画～ ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	10	1/16~3/20 ※3/20開	水	13:20~14:50 15:00~16:30	7,500円	各コース 15名	工学院大学	工学院大学	大竹 教人
1-4	絵画実践基礎～中級クラス～ ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	10	1/17~3/21	木	9:20~10:50 11:00~12:20	7,500円	各コース 15名	工学院大学	工学院大学	大竹 教人
1-5	絵画実践基礎 補習クラス ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	10	1/17~3/23	木	13:20~14:50 15:00~16:30	7,500円	各コース 15名	工学院大学	工学院大学	大竹 教人
2-1	狂言体験入門講座 ～狂言鑑を楽しむ(そのII)～	3	2/2~2/16	土	15:20~16:50	2,000円	20名	学園都市センター	サレジオ工業高等専門学校	野島 伸仁
2-2	基礎からの木工(2月開講・午前コース) ～無垢の木を使用して木材工芸に挑戦～	6	2/9~3/16	土	9:30~12:30	11,000円	6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	秦 和也
2-3	陶芸(2月開講コース)～「ろくろ」で作る「やきもの」～ ※2コースのうち、いずれかを選択してください。	6	2/9~3/16	土	13:00~16:00 16:30~19:30	11,000円	各コース 6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	小西 均徳
2-4	基礎からの木工(2月開講・午後コース) ～小型電動工具と治具を使った箱物製作～	6	2/9~3/16	土	14:00~17:00	11,000円	6名	サレジオ工業高等専門学校	サレジオ工業高等専門学校	秦 和也

公開講座 無料

申込み・登録などは不要です。日時・会場をお確かめの上、直接会場へお越しください。(先着順)

開講日	時間	講座名	分野	提供機関	講師	会場	定員
8日(土)	13:30~15:00	TPP交渉の展望と課題	経済	杏林大学	久野 新 総合政策学部 講師	学園都市センター イベントホール	216名
		現代医療の光と影 ～健康が義務となる社会～	教養	ヤマザキ学園大学	関 正勝 動物看護学部 動物看護学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		スマートグリッド・スマートコミュニティのめざすもの ～自然エネルギーを活用して災害に強い環境エネルギー社会～	科学	明星大学	伊藤 健二 理工学部 総合理工学科 教授・学長補佐	明星大学キャンパス 26号館 101教室	120名
9日(日)	10:20~11:50	おとぎばなしのルーツたち(浦島編) ～浦島も色々 一異境に遊んだ人々々の伝説を探る～	文学	杏林大学	草場(相模) 裕 外国語学部 元教授 永井 弥人 外国語学部 非常勤講師	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		幸福の経済学 ～「よき生」と経済的豊かさの関係について～	経済	創価大学	高木 功 経済学部 経済学科 教授	学園都市センター イベントホール	216名
		乳がんのいろいろは ～わかりやすい!検診・診断・治療～	健康	東海大学八王子病院	鈴木 育宏 乳腺・内分泌外科 准教授	学園都市センター イベントホール	216名
10日(月)	13:30~15:00	オーダーメイド医療へのアプローチ ～患者さん一人ひとりに適した薬の投与法を考える～	健康	東京薬科大学	古田 隆 薬学部 教授	学園都市センター イベントホール	216名
		乳がんの診断と治療 ～乳がんをよく知ることであなたの命を守ります～	健康	東京医科大学 八王子医療センター	林 光弘 乳腺科 科長 准教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		天草版平家物語-キリシタン資料の世界-	言語	杏林大学	玉村 祐郎 外国語学部 大学院 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
15日(土)	13:30~15:00	国際政治の歴史と展望	政治	杏林大学	藤村 直幸 総合政策学部 講師	学園都市センター イベントホール	216名
		八王子の生きもの 栄枯盛衰 ～生物多様性とは何か～	自然	八王子市総合政策部 市史編さん室	須田 孫七 東京大学 総合研究博物館 研究員	学園都市センター イベントホール	216名
		血管内カテーテル手術の最新治療 ～体に優しく動脈硬化やがんを治して寿命を延ばしましょう～	健康	東海大学八王子病院	長谷部 光泉 放射線科 教授	学園都市センター イベントホール	216名
13日(日)	10:20~11:50	動物の家畜化の歴史 ～犬は最初人と生活をともにした動物～	教養	ヤマザキ学園大学	鎌田 壽彦 動物看護学部 動物看護学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		「古事記」誕生1300年 ～神話・伝説・歴史書の中のヒロインたち～	文学	創価大学	西田 祐元 文学部 人間学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		レクチャーコンサート:オルガンと声で巡るパッパへの旅	芸術	東京純心女子大学	保多 由子 現代文化学部 芸術文化学科 特任教授 米沢(緑太) 陽子 現代文化学部 ことば文化学科 准教授	東京純心女子大学 キャンパス 5号館 5号講堂	800名
15日(月)	10:20~11:50	イヌの特性 ～現代 犬事情～	文化	ヤマザキ学園大学	福山 貴昭 動物看護学部 動物看護学科 非常勤講師	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		不思議な科学のふし ～最先端科学が拓く、時間と空間と光の速さの不思議な世界～	科学	創価大学	石井 良夫 理工学部 情報システム工学科 准教授	学園都市センター 第1セミナー室	216名
		薬を知り正しく用ふれば健康危うからず ～OTC医薬品の上手な利用法とセルフメディケーション～	健康	東京薬科大学	渡辺 隆三 薬学部 教授	学園都市センター イベントホール	216名
20日(土)	15:20~16:50	癌の本性を学ぼう ～腫瘍は体中のいろいろな種類の正常細胞から出てくる～	健康	東京薬科大学	濱田 洋文 生命科学部 教授	学園都市センター イベントホール	216名
		派遣という働き方 ～派遣で働く人、派遣を受け入れる人のための法律知識～	法律	中央大学	角田 邦重 名誉教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		「彫刻もあるまちづくり」考 パートIII ～景色の句読点を身につけて(味わって)みよう～	芸術	八王子市 市民活動推進部	大成 浩 彫刻家	八王子市役所本庁舎 7階 702会議室	30名
26日(金)	15:20~16:50	「子どもの歌」その変遷と未来への展望	教育	創価大学	足立 広美 教育学部 児童教育学科 准教授	学園都市センター 第1セミナー室	42名
		生命科学が創る環境にやさしいエネルギー ～エネルギー問題について一緒に考えませんか～	環境	東京薬科大学	渡邊 一哉 生命科学部 教授	学園都市センター イベントホール	216名
		裁判員制度による模擬裁判	法律	日本文化大学	橋本 隆治 法学部 法学科 教授	日本文化大学キャンパス 模範法廷	70名
3日(日) 祝日開催	10:20~11:50	水資源と法 ～地下水の保全と利用をめぐる～	法律	創価大学	宮崎 淳 法学部 法律学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		税を考える ～国税と地方税 相続税と贈与税	法律	租税教育推進官の街「八王子」協議会	八王子税務署 八王子都税事務所 八王子市役所 東京税理士会八王子支部	学園都市センター 第1セミナー室	56名
		頭が痛いそれってどうする? ～怖い頭痛ってなに?～	健康	東海大学八王子病院	大熊 壮尚 神経内科 准教授	学園都市センター イベントホール	216名
10日(土)	10:20~11:50	退職者のための地域デビュー ～地域活動はじめの第一歩～	ボランティア	八王子市民活動協議会	滝沼 克彰 桜美林大学 名誉教授	学園都市センター 第5セミナー室	42名
		前立腺がんに対する放射線治療 ～密着小線源療法と放射線外照射療法について～	健康	東海大学八王子病院	原野 肇友 放射線治療科 准教授	学園都市センター イベントホール	216名
		古事記1300年を活かし、神話のふるさと出雲へ ～神話から歴史へ、歴史から神話へ～	歴史	八王子市総合政策部 市史編さん室	関 和彦 八王子市市史編さん 原始古代部会長	学園都市センター イベントホール	216名
12月 15日(日)	13:30~15:00	グローバル経済から見た環境地理 ～世界地図の見方・楽しみ方～	経済	法政大学	近藤 兼夫 比較経済研究所 専任研究員	学園都市センター イベントホール	216名
		学習理論とドットレコーディング ～イヌのしつけの考え方～	科学	ヤマザキ学園大学	堀井 隆行 動物看護学部 動物看護学科 助教	学園都市センター イベントホール	216名
		幸せの国・ブータンを旅して学んだこと ～考え方を改めて、日常生活をイキイキ楽しもう～	教養	帝京大学	河野 正光 経済学部 観光経営学科 教授	南大沢文化会館 多目的室	80名
1月 12日(土)	13:30~15:00	街づくり講座「南大沢を暮らしやすい美しい街に」 ～手始めに敷地の事前確認をしよう～	文化	帝京大学	今井 昭正 国際部門 アドバイザー	南大沢文化会館 多目的室	80名
		長寿企業に学ぶ「社会と共生する企業経営」 ～社会と共生する長期的視点の経営の強さを考える～	経営	創価大学	國島 弘行 経営学部 経営学科 教授	学園都市センター 第1セミナー室	56名

お申込み・お問合せ 八王子学園都市大学 いちょう塾 事務局 TEL: 042-646-5621 FAX: 042-646-2663

〒192-0083 八王子市旭町9-1 八王子スクエアビル11階 八王子市学園都市センター内 ホームページ: <http://www.hachiojiunika.or.jp/gakuen/icho-juku/index.html>

※お手続き、お問い合わせ時間は9時～19時までです。

資料B-2

市民大学

主催 市民大学開催校・相模原市教育委員会・座間市教育委員会
運営 公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム

相	模	原
座		間

平成**24**年度 ■ 後期 ■

大学・専門学校・
公共施設で
教授や講師の
講義に学ぶ。

参加・開催校一覧

相模女子大学コース
麻布大学コース
職業能力開発総合大学校コース
和泉短期大学コース
女子美術大学コース
北里大学コース
総合電子専門学校コース
桜美林大学コース
青山学院大学コース
多摩美術大学コース
東京家政学院大学コース
東京女学館大学コース
法政大学コース
総合研究大学院大学コース
サレジオ工業高等専門学校コース
玉川大学コース
和光大学コース
相模原市総合学習センターコース
座間市生涯学習課コース



相模原・座間に在住/在勤/在学の
15才以上の方なら、
どなたでも受講できます。

※市民大学は、学校教育法上の大学ではありません。

総合研究大学院大学コース

所在地：相模原市中央区由野台3-1-1

★会場：宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所

※JR横浜線 沼野辺駅 南口下車 徒歩20分

または湘 36, 37 系統 青葉循環沼野辺駅南口行バス「市立博物館前」下車 徒歩3分

※小田急線 相模大野駅 相 02 系統 相模原駅南口行バス「宇宙科学研究所本館」下車 徒歩5分

宇宙科学の最前線

相模原市にある JAXA 宇宙科学研究所は、日本の宇宙科学の研究と、大学前教育の拠点となっています。ここでは理学と工学の広い分野をカバーする研究者がタッグを組んで研究開発を行い、小惑星探査機「はやぶさ」に代表される世界的な成果を上げてきました。講義では、ふだんあまり触ることのないこれらの宇宙科学の最先端について、天文観測、太陽系探査、宇宙工学、そして宇宙での無重力実験をテーマとして取り上げ、その中心にいる一流の研究者たちがやさしく解説します。

なお、内容は平成 23 年度に実施した同名の講座とほぼ同じです。

【受講料】 1,000円

【受講料以外の費用】 なし

【時間・場所・定員】

- 10:00~12:00
- 2階大会議場
- 定員80名

【その他】

- 科学に強い関心と知識がある方にも、科学に苦手意識がある方にも、興味を持って聴講いただける講義を目指します。画像や動画を多用し、数式は使いません。
- 事前の準備や当日持参いただくものは特にありません。
- 入場時には門衛所で受付をお済ませください。
- 講義終了後にはキャンパス内の展示室やロケットの実験展示などを自由に見学いただくことができます。(講義の受講とは関係なく、見学は自由にできます。)
- 展示室には宇宙関係の一般書を集めた文庫があり、その場で調べ物をしていただくことができます。

【講師】 ①教授 佐藤 毅彦
②准教授 西山 和孝
③教授 松原 英雄
④准教授 黒谷 明美

【開講日と内容】 (全4回)

- ① 10月 6日 (土)
地球の兄弟星を調べる惑星探査
- ② 10月 13日 (土)
小惑星探査機「はやぶさ」の旅順
- ③ 10月 20日 (土)
赤外線で見える宇宙のはて
- ④ 10月 27日 (土)
宇宙生物学への招待

サレジオ工業高等専門学校コース

所在地：町田市小山ヶ丘4-6-8

※京王相模原線 多摩境駅下車 徒歩10分

※JR横浜線・京王相模原線 橋本駅北口6番バス乗り場より【横 76】神奈中多摩車庫行バス「響きの丘」下車すぐ

Active English in the News

Extend your English skills! Increase your vocabulary! Gain more confidence in your English ability!
Teacher and students join in a series of guided discussions that will be based on recent news stories.
Class materials will be provided but students will need to bring notepaper, a pen, and maybe a dictionary.

【受講料】 1,500円

【受講料以外の費用】 なし

【時間・場所・定員】

- 18:30~20:00
- 229教室
- 定員16名

【その他】

- 先生と学生が英文ニュースについて互いに意見を示し、討論します。タイムリーな記事を取り上げるため、予定のタイトル通りにならないこともあります。
- 中級レベル (TOEIC SCORE 450~500 位) の方を対象とします。
- PC、辞書、ノートの持ち込みは可能です。
- 文法の要点は受講者が希望する程度にピックアップして解説します。

【講師】 講師 Paul McCann

【開講日と内容】 (全7回)

- ① 10月 1日 (月) Science - Emotions
- ② 10月 15日 (月) International Aid or Not?
- ③ 11月 5日 (月) Health- How to Stay Young
- ④ 11月 19日 (月) Money
- ⑤ 12月 3日 (月) World Politics
- ⑥ 12月 17日 (月) Heading into winter
- ⑦ 1月 21日 (月) What is next for Japan?

「第2回夏休み子どもいちよう塾」

「大学コンソーシアム八王子」の加盟校が、連携して小学校の教育課程の全領域をカバーしている特色を活かし、八王子地域の小学生4～6年生及びその保護者を対象に「夏休み子どもいちよう塾」を開講します。ぜひご参加ください。

講座内容や申込方法等、詳細は大学コンソーシアム八王子のホームページをご覧ください。お電話でお問合せください。

日 時 7月29日(日) 午前の部 10時30分から12時00分まで
午後の部 2時00分から 3時30分まで

※「にじみ絵を描いてみよう!」[ARTSAT:衛星芸術プロジェクト 講演会・パネル展]

は午前・午後通して実施します。

会 場 学園都市センター

参加資格 市内小学4～6年生(保護者同伴)

募集人数 各10名

応募締切 7月10日(火) 必着

参加費 500円(ARTSAT:衛星芸術プロジェクト 講演会・パネル展は無料)

お問合せ 大学コンソーシアム八王子事務局 TEL:042-646-5740 FAX:646-2663

<http://www.conso-hachioji.or.jp/>

〒192-0083 八王子市加町9-1 八王子東急スクエアビル11F

八王子市学園都市センター内

	科目	提供大学名	講座名
1	英語	東京純心女子大学	身体活動を使って英語で遊ぼう
2	国語	明星大学	朗読を楽しもう!
3	算数	東京工業高等専門学校	数の不思議
4	社会	創価大学	八王子の偉人に学ぶ
5	社会	日本文化大学	若も裁判員に挑戦しよう!
6	理科	工学院大学	オリジナルムードライトを作ろう!
7	理科	東京薬科大学	体の発達・成長をあやつるホルモン
8	理科	拓殖大学	ミニロボットを作ろう!
9	理科	サレジオ工業高等専門学校	紙ヒコーキを飛ばそう
10	図画工作	多摩美術大学	にじみ絵を描いてみよう!
11	家庭科	東京家政学院大学	好きなファッションイメージの髪飾り作り
12	その他	多摩美術大学	ARTSAT:衛星芸術プロジェクト 講演会・パネル展

小山中央写真ニュース

528号 2012年 9月 5日

そこには3匹の親子ゾウが！！

サマースクール イラストパズル教室

8月29日(水)サレジオ高専の先生と学生さんを講師にお招きして、「イラストパズル教室」を行いました。

最初に、ひとり一人に下絵が描かれた正方形の紙が2、3枚配られ、灰色で縁取りされている所は暖色で塗り、その他の場所は寒色で色を塗るように教えていただきました。下絵は花柄になっていて一つ一つの絵を見ても何になるのかさっぱりわかりませんでした。色塗りにはたくさんの種類の色鉛筆やマーカーを用意していただき、子ども達はどの色で塗ろうか楽しそうに選んでいました。色鉛筆やマーカーのきれいな塗り方もいねいに教わり、真剣に取り組んでいました。

完成した絵を一つ一つ、つなげていくとそこには『3匹の親子ゾウ』が隠れていて、みんな思わず歓声を上げていました。また、真っ白なパズルもいただき、そこには思い思いの絵を描いて、自分だけのパズルを楽しそうに完成させていました。



小山中央写真ニュース

523号 2012年 9月 1日

風を感じて走った電気自動車体験！ エネルギーの未来 サマースクール 電気自動車を体験しよう

8月28日（火）サレジオ高専の先生方に、「電気の有効利用について考えよう」というテーマで小山ヶ丘小学校と一緒に話をさせていただきました。電気とは何か、水力や火力・原子力、風力、地熱発電など電気の作られ方をスライドを使い、わかりやすく説明していただきました。日常生活で使っている家電製品を動かすために必要なエネルギーの大きさを知ったり、ガソリン自動車と電気自動車の違いを学んだりしながら、環境に負荷をかけない未来のエネルギーについてまで考えさせられるお話をさせていただきました。

その後は、電気工学科とデザイン学科の学生のみなさんが協力して作った電気自動車に一人ずつ乗せていただき、実際に運転をさせていただきました。ハンドル部分に付いたモニターにはどのくらいの電力を使用しているのか、またどの家電製品の使用時と同じ電力なのかが表示され、子ども達は運転しながら楽しそうに見ていました。

まだまだ乗り足りなかったようで、どの子も「サレジオ高専の文化祭に行って、もう一度乗りたい」と言っていました。貴重な体験ができたサマースクールになりました。

